

アップグレード&メンテナンスマニュアル - 日本語



# FUJITSU Server PRIMERGY TX2560 M2 / RX2560 M2

アップグレード&メンテナンスマニュアル

2016 年 3 月

# DIN EN ISO 9001:2008 に準拠した 認証を取得

高い品質とお客様の使いやすさが常に確保されるように、  
このマニュアルは、DIN EN ISO 9001:2008  
基準の要件に準拠した品質管理システムの規定を  
満たすように作成されました。

cognitas. Gesellschaft für Technik-Dokumentation mbH  
[www.cognitas.de](http://www.cognitas.de)

## 著作権および商標

Copyright © 2016 Fujitsu Technology Solutions GmbH.

All rights reserved.

お届けまでの日数は在庫状況によって異なります。技術的修正の権利を有します。

使用されているハードウェア名およびソフトウェア名は、各社の商標です。

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害についてでは、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

Microsoft、Windows、Windows Server、およびHyper Vは、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。

Intel、インテルおよびXeonは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。

---

## 本書をお読みになる前に

### 安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また、『安全上のご注意』および当マニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

### 電波障害対策について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

### アルミ電解コンデンサについて

本製品のプリント板ユニットやマウス、キーボードに使用しているアルミ電解コンデンサは寿命部品であり、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因になる場合があります。

目安として、通常のオフィス環境（25 °C）で使用された場合には、保守サポート期間内（5 年）には寿命に至らないものと想定していますが、高温環境下での稼働等、お客様のご使用環境によっては、より短期間で寿命に至る場合があります。寿命を超えた部品について、交換が可能な場合は、有償にて対応させていただきます。なお、上記はあくまで目安であり、保守サポート期間内に故障しないことをお約束するものではありません。

### ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的の用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

---

## **瞬時電圧低下対策について**

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA) のパソコン用コンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

## **外国為替及び外国貿易法に基づく特定技術について**

当社のドキュメントには「外国為替及び外国貿易法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

## **高調波電流規格について**

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品です。

## **日本市場のみ : SATA ハードディスク ドライブについて**

このサーバの SATA バージョンは、SATA/BC-SATA ストレージインターフェースを搭載したハードディスクドライブをサポートしています。ご使用のハードディスクドライブのタイプによって使用方法と動作条件が異なりますので、ご注意ください。

使用できるタイプのハードディスクドライブの使用方法と動作条件の詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/harddisk/>

---

## バージョン履歴

| 版番号              | アップデート理由 |
|------------------|----------|
| 1.0 / 2016 年 3 月 | 初版リリース   |
|                  |          |
|                  |          |
|                  |          |
|                  |          |
|                  |          |



---

# 目次

|            |                                   |           |
|------------|-----------------------------------|-----------|
| <b>1</b>   | <b>はじめに</b>                       | <b>27</b> |
| <b>1.1</b> | <b>表記規定</b>                       | <b>28</b> |
| <b>2</b>   | <b>始める前に</b>                      | <b>29</b> |
| <b>2.1</b> | <b>作業手順の分類</b>                    | <b>31</b> |
| 2.1.1      | お客様による交換可能部品 (CRU)                | 31        |
| 2.1.2      | ユニットのアップグレードおよび修理 (URU)           | 32        |
| 2.1.3      | フィールド交換可能ユニット (FRU)               | 33        |
| <b>2.2</b> | <b>平均作業時間</b>                     | <b>34</b> |
| <b>2.3</b> | <b>必要な工具</b>                      | <b>35</b> |
| <b>2.4</b> | <b>必要なマニュアル</b>                   | <b>38</b> |
| <b>3</b>   | <b>注意事項</b>                       | <b>41</b> |
| <b>3.1</b> | <b>安全について</b>                     | <b>41</b> |
| <b>3.2</b> | <b>CE 準拠</b>                      | <b>48</b> |
| <b>3.3</b> | <b>FCC クラス A 適合性宣言</b>            | <b>49</b> |
| <b>3.4</b> | <b>環境保護</b>                       | <b>50</b> |
| <b>4</b>   | <b>基本的なハードウェア手順</b>               | <b>53</b> |
| <b>4.1</b> | <b>診断情報の使用</b>                    | <b>53</b> |
| 4.1.1      | 故障したサーバの特定                        | 53        |
| 4.1.2      | エラークラスの判定                         | 54        |
| 4.1.2.1    | 保守ランプ                             | 54        |
| 4.1.2.2    | Customer Self Service (CSS) 表示ランプ | 54        |
| 4.1.3      | 故障した部品の特定                         | 55        |
| 4.1.3.1    | フロントのローカル診断表示ランプ                  | 55        |
| 4.1.3.2    | システムボードのローカル診断表示ランプ               | 55        |
| <b>4.2</b> | <b>サーバのシャットダウン</b>                | <b>56</b> |
| <b>4.3</b> | <b>電源コードの取り外し</b>                 | <b>57</b> |

## 目次

---

|             |                              |           |
|-------------|------------------------------|-----------|
| <b>4.4</b>  | <b>ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し</b> | <b>58</b> |
| 4.4.1       | サーバをラックから引き出す                | 59        |
| 4.4.2       | ラックからサーバを取り外す                | 60        |
| <b>4.5</b>  | <b>サーバを開ける</b>               | <b>62</b> |
| 4.5.1       | ラックサーバ (RX2560 M2)           | 62        |
| 4.5.1.1     | トップカバーの取り外し                  | 62        |
| 4.5.1.2     | ID カードの取り外し                  | 63        |
| 4.5.1.3     | ラックフロントカバーの取り外し              | 64        |
| 4.5.2       | タワーサーバ (TX2560 M2)           | 66        |
| 4.5.2.1     | サーバロックの解除                    | 66        |
| 4.5.2.2     | サイドカバーの取り外し                  | 67        |
| 4.5.2.3     | アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し  | 68        |
| 4.5.2.4     | ID カードの取り外し                  | 69        |
| 4.5.2.5     | フロントカバーの取り外し                 | 70        |
| <b>4.6</b>  | <b>サーバを閉じる</b>               | <b>71</b> |
| 4.6.1       | ラックサーバ (RX2560 M2)           | 71        |
| 4.6.1.1     | ラックの取り付けフレームの取り付け            | 71        |
| 4.6.1.2     | ID カードの取り付け                  | 72        |
| 4.6.1.3     | トップカバーの取り付け                  | 73        |
| 4.6.2       | タワーサーバ (TX2560 M2)           | 75        |
| 4.6.2.1     | フロントカバーの取り付け                 | 75        |
| 4.6.2.2     | ID カードの取り付け                  | 76        |
| 4.6.2.3     | アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け  | 77        |
| 4.6.2.4     | サイドカバーの取り付け                  | 78        |
| 4.6.2.5     | サーバのロック                      | 80        |
| <b>4.7</b>  | <b>ラックへサーバを取り付ける</b>         | <b>81</b> |
| 4.7.1       | ラックレールへのサーバの取り付け             | 81        |
| 4.7.2       | ラックにサーバを格納する                 | 83        |
| <b>4.8</b>  | <b>電源コードの接続</b>              | <b>84</b> |
| 4.8.1       | 電源コードの固定 (電源ストレインリリーフ)       | 84        |
| <b>4.9</b>  | <b>サーバの電源投入</b>              | <b>87</b> |
| <b>4.10</b> | <b>システム送風ダクトの取り扱い</b>        | <b>88</b> |
| 4.10.1      | システム送風ダクトの取り外し               | 88        |
| 4.10.2      | システム送風ダクトの取り付け               | 89        |
| <b>4.11</b> | <b>システムファンホルダーの取り扱い</b>      | <b>90</b> |
| 4.11.1      | システムファンホルダーの取り外し             | 90        |
| 4.11.2      | システムファンホルダーの取り付け             | 91        |
| <b>4.12</b> | <b>ライザーモジュールの取り扱い</b>        | <b>92</b> |

## 目次

---

|             |                                    |            |
|-------------|------------------------------------|------------|
| 4.12.1      | ライザーモジュールの取り付け                     | 92         |
| 4.12.2      | ライザーモジュールの取り外し                     | 95         |
| <b>4.13</b> | <b>アクセス可能なドライブベイの取り扱い</b>          | <b>97</b>  |
| 4.13.1      | アクセス可能なドライブのロックを開く                 | 97         |
| 4.13.1.1    | タワーサーバ (TX2560 M2)                 | 97         |
| 4.13.1.2    | ラックサーバ (RX2560 M2)                 | 98         |
| 4.13.2      | アクセス可能なドライブのロックを閉じる                | 99         |
| 4.13.2.1    | タワーサーバ (TX2560 M2)                 | 99         |
| 4.13.2.2    | ラックサーバ (RX2560 M2)                 | 100        |
| 4.13.3      | アクセス可能なドライブのフライカバー                 | 101        |
| 4.13.3.1    | アクセス可能なドライブのフライカバーの取り外し            | 101        |
| 4.13.3.2    | アクセス可能なドライブフライカバーの取り付け             | 102        |
| 4.13.4      | アクセス可能なドライブのカバー                    | 103        |
| 4.13.4.1    | アクセス可能なドライブのカバーの取り外し               | 103        |
| 4.13.4.2    | アクセス可能なドライブカバーの取り付け                | 104        |
| <b>4.14</b> | <b>フットスタンドの取り扱い</b>                | <b>105</b> |
| 4.14.1      | フットスタンドの取り付け                       | 105        |
| 4.14.2      | フットスタンドの取り外し                       | 106        |
| <b>5</b>    | <b>基本的なソフトウェア手順</b>                | <b>107</b> |
| <b>5.1</b>  | <b>保守作業の開始</b>                     | <b>107</b> |
| 5.1.1       | BitLocker 機能の中断                    | 107        |
| 5.1.2       | SVOM Boot Watchdog 機能の無効化          | 108        |
| 5.1.2.1     | Boot watchdog 設定の表示                | 108        |
| 5.1.2.2     | Boot watchdog 設定の指定                | 109        |
| 5.1.3       | バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し            | 110        |
| 5.1.4       | バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定          | 111        |
| 5.1.5       | マルチバス I/O 環境でのサーバ保守の注意事項           | 111        |
| 5.1.6       | ID ランプの点灯                          | 114        |
| <b>5.2</b>  | <b>保守作業の完了</b>                     | <b>115</b> |
| 5.2.1       | システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ | 115        |
| 5.2.1.1     | システムボード BIOS のアップデートまたはリカバリ        | 115        |
| 5.2.1.2     | iRMC のアップデートまたはリカバリ                | 115        |
| 5.2.2       | システム情報のバックアップ / 復元の確認              | 117        |
| 5.2.3       | 拡張カードのファームウェアのアップデート               | 118 Option |
| 5.2.4       | ROM Scan の有効化                      | 119 バック    |
| 5.2.5       | アップソフトウェアソリューションの再設定               | 120        |
| 5.2.6       | Boot Retry Counter のリセット           | 120        |

## 目次

---

|            |   |            |
|------------|---|------------|
| 5.2.6.1    | Boot Retry Counter の表示 . . . . .              | 121        |
| 5.2.6.2    | Boot Retry Counter のリセット . . . . .            | 121        |
| 5.2.7      | メモリモジュールまたはプロセッサの交換後のエラーステータスのリセット . . . . .  | 122        |
| 5.2.7.1    | メモリモジュール . . . . .                            | 122        |
| 5.2.7.2    | プロセッサ . . . . .                               | 124        |
| 5.2.8      | ファンテストの実施 . . . . .                           | 125        |
| 5.2.9      | SVOM Boot Watchdog 機能の有効化 . . . . .           | 127        |
| 5.2.10     | 交換した部品のシステム BIOS での有効化 . . . . .              | 127        |
| 5.2.11     | メモリモードの確認 . . . . .                           | 128        |
| 5.2.12     | システム時刻設定の確認 . . . . .                         | 129        |
| 5.2.13     | システムイベントログ (SEL) の表示と消去 . . . . .             | 129        |
| 5.2.13.1   | SEL を表示する . . . . .                           | 129        |
| 5.2.13.2   | SEL をクリアする . . . . .                          | 131        |
| 5.2.14     | Linux/VMware 環境での NIC 構成ファイルのアップデート . . . . . | 131        |
| 5.2.15     | BitLocker 機能の再開 . . . . .                     | 132        |
| 5.2.16     | RAID アレイのリビルトの実行 . . . . .                    | 133        |
| 5.2.17     | 変更された MAC/WWN アドレスの検索 . . . . .               | 134        |
| 5.2.17.1   | MAC アドレスの検索 . . . . .                         | 134        |
| 5.2.17.2   | WWN アドレスの検索 . . . . .                         | 135        |
| 5.2.18     | シャーシ ID Prom Tool の使用 . . . . .               | 136        |
| 5.2.19     | LAN チーミングの設定 . . . . .                        | 137        |
| 5.2.19.1   | LAN コントローラを交換またはアップグレードした後 . . . . .          | 137        |
| 5.2.19.2   | システムボードの交換後 . . . . .                         | 137        |
| 5.2.20     | ID ランプの消灯 . . . . .                           | 138        |
| 5.2.21     | シャーシモデルの指定 . . . . .                          | 138        |
| <b>6</b>   | <b>電源ユニット (PSU) . . . . .</b>                 | <b>141</b> |
| <b>6.1</b> | <b>基本情報 . . . . .</b>                         | <b>142</b> |
| 6.1.1      | 電源ユニットの構成 . . . . .                           | 143        |
| 6.1.2      | 組み立て規則 . . . . .                              | 143        |
| <b>6.2</b> | <b>PSU モジュールの取り付け . . . . .</b>               | <b>144</b> |
| 6.2.1      | 準備手順 . . . . .                                | 144        |
| 6.2.2      | PSU ダミーモジュールの取り外し . . . . .                   | 144        |
| 6.2.3      | PSU モジュールの取り付け . . . . .                      | 145        |
| 6.2.4      | 終了手順 . . . . .                                | 145        |
| <b>6.3</b> | <b>PSU モジュールの取り外し . . . . .</b>               | <b>146</b> |
| 6.3.1      | 準備手順 . . . . .                                | 146        |
| 6.3.2      | PSU モジュールの取り外し . . . . .                      | 147        |

## 目次

---

|            |   |            |
|------------|---|------------|
| 6.3.3      | PSU ダミーモジュールの取り付け . . . . .   | 147        |
| <b>6.4</b> | <b>PSU モジュールの交換 . . . . .</b>   | <b>148</b> |
| 6.4.1      | 準備手順 . . . . .  | 148        |
| 6.4.2      | 故障した PSU モジュールの取り外し . . . . .   | 149        |
| 6.4.3      | 新しい PSU モジュールの取り付け . . . . .  | 149        |
| 6.4.4      | 終了手順 . . . . .  | 149        |
| <b>7</b>   | <b>HDD(ハードディスクドライブ)/SSD (Solid State Drive) . . . . .</b>                     | <b>151</b> |
| <b>7.1</b> | <b>基本情報 . . . . .</b>   | <b>152</b> |
| <b>7.2</b> | <b>2.5 インチの HDD / SSD / PCIe SSD 構成 . . . . .</b>                             | <b>154</b> |
| 7.2.1      | 2.5 インチ HDD/SSD ベイの取り付け . . . . .   | 154        |
| 7.2.2      | バックプレーンの概要 . . . . .  | 154        |
| 7.2.3      | 最大 8 つの HDD/SSD モジュールでの構成<br>(バックプレーン x 1) . . . . .                          | 157        |
| 7.2.4      | 最大 8 つの HDD/SSD モジュールでの構成<br>(バックプレーン x 2) . . . . .                          | 158        |
| 7.2.5      | 最大 24 台の HDD/SSD モジュールでの構成<br>(バックプレーン x 3) . . . . .                         | 160        |
| 7.2.6      | 最大 32 台の HDD/SSD モジュールでの構成 (バックプレーン x 5)<br>162                               | 162        |
| 7.2.7      | 最大 24 台の HDD/SSD モジュールおよび最大 8 台の PCIe SSD<br>SFF (バックプレーン x 6) での構成 . . . . . | 164        |
| 7.2.8      | 2.5 インチ HDD/SSD モジュールおよび 3.5 インチ<br>HDD モジュール (バックプレーン x 3) での混在構成 . . . . .  | 167        |
| 7.2.9      | 2.5 インチ HDD/SSD モジュールおよび 3.5 インチ<br>HDD モジュール (バックプレーン x 5) での混在構成 . . . . .  | 169        |
| 7.2.10     | 2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け . . . . .   | 171        |
| 7.2.10.1   | 準備手順 . . . . .  | 171        |
| 7.2.10.2   | 2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り外し . . . . .                                       | 171        |
| 7.2.10.3   | 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け . . . . .  | 172        |
| 7.2.10.4   | 終了手順 . . . . .  | 173        |
| 7.2.11     | 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し . . . . .  | 173        |
| 7.2.11.1   | 準備手順 . . . . .  | 173        |
| 7.2.11.2   | 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し . . . . .  | 174        |
| 7.2.11.3   | 2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り付け . . . . .                                       | 175        |
| 7.2.11.4   | 終了手順 . . . . .  | 175        |
| 7.2.12     | 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの交換 . . . . .  | 176        |
| 7.2.12.1   | 準備手順 . . . . .  | 176        |
| 7.2.12.2   | 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し . . . . .  | 177        |

## 目次

---

|          |   |     |
|----------|---|-----|
| 7.2.12.3 | 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け . . . . .                                    | 177 |
| 7.2.12.4 | 終了手順 . . . . .  | 177 |
| 7.2.13   | 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンの交換 . . . . .                                    | 177 |
| 7.2.13.1 | 準備手順 . . . . .  | 177 |
| 7.2.13.2 | 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し . . . . .                                    | 178 |
| 7.2.13.3 | 2.5 インチ HDD /SSD SAS バックプレーンの取り外し . . . . .                             | 181 |
| 7.2.13.4 | 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け . . . . .                              | 183 |
| 7.2.13.5 | 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け . . . . .                                    | 185 |
| 7.2.13.6 | バックプレーン 1 へのケーブルの接続 . . . . .   | 187 |
| 7.2.13.7 | 終了手順 . . . . .  | 188 |
| 7.2.14   | SAS バックプレーンの交換（最大 32 台の HDD/SSD モジュールでの構成） . . . . .                    | 188 |
| 7.2.14.1 | 準備手順 . . . . .  | 188 |
| 7.2.14.2 | SAS バックプレーンおよび SAS エキスパンダホルダーの取り外し . . . . .                            | 189 |
| 7.2.14.3 | SAS バックプレーンの取り付け . . . . .  | 194 |
| 7.2.14.4 | 終了手順 . . . . .  | 198 |
| 7.2.15   | SAS エキスパンダホルダーの交換（最大 32 台の HDD/SSD モジュールでの構成） . . . . .                 | 198 |
| 7.2.15.1 | 準備手順 . . . . .  | 198 |
| 7.2.15.2 | SAS エキスパンダボードの取り外し . . . . .  | 199 |
| 7.2.15.3 | SAS エキスパンダボードの取り付け . . . . .  | 199 |
| 7.2.15.4 | 終了手順 . . . . .  | 200 |
| 7.2.16   | 8x から 16 x 2.5 インチ HDD / SSD 構成へのアップグレード . . . . .                      | 200 |
| 7.2.16.1 | 準備手順 . . . . .  | 200 |
| 7.2.16.2 | 8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの取り外し . . . . .                                  | 201 |
| 7.2.16.3 | 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し . . . . .                                    | 201 |
| 7.2.16.4 | 2 つ目の 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け . . . . .                        | 201 |
| 7.2.16.5 | 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け . . . . .                                    | 202 |
| 7.2.16.6 | 16 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの取り付け . . . . .                                 | 202 |
| 7.2.16.7 | エキスパンダボードの取り付け . . . . .  | 202 |
| 7.2.16.8 | 終了手順 . . . . .  | 203 |
| 7.3      | 3.5 インチ HDD 構成 . . . . .  | 204 |
| 7.3.1    | 3.5 インチ HDD ベイの取り付け . . . . .   | 204 |
| 7.3.2    | バックプレーンの概要 . . . . .  | 204 |
| 7.3.3    | 最大 4 つの HDD モジュールでの構成（バックプレーン x 1） . . . . .                            | 205 |
| 7.3.4    | 最大 8 台の HDD モジュールでの構成（バックプレーン x 2） . . . . .                            | 206 |
| 7.3.5    | 最大 12 台の HDD モジュールでの構成（バックプレーン x 3） . . . . .                           | 208 |
| 7.3.6    | 3.5 インチ HDD モジュールおよび 2.5 インチ HDD/SSD モジュール（バックプレーン x 3）での混在構成 . . . . . | 210 |

## 目次

---

|          |   |     |
|----------|---|-----|
| 7.3.7    | 3.5 インチ HDD モジュールおよび 2.5 インチ<br>PCIe SSD SFF (バックプレーン x 4) での混在構成 . . . . . | 212 |
| 7.3.8    | ホットプラグ非対応 HDD/SSD の構成 . . . . .   | 214 |
| 7.3.9    | 3.5 インチの HDD モジュールの取り付け . . . . .   | 216 |
| 7.3.9.1  | 準備手順 . . . . .  | 216 |
| 7.3.9.2  | 3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り外し . . . . .   | 216 |
| 7.3.9.3  | 3.5 インチ HDD モジュールの取り付け . . . . .  | 217 |
| 7.3.9.4  | 終了手順 . . . . .  | 218 |
| 7.3.10   | 3.5 インチ HDD モジュールの取り外し . . . . .  | 218 |
| 7.3.10.1 | 準備手順 . . . . .  | 218 |
| 7.3.10.2 | 3.5 インチ HDD モジュールの取り外し . . . . .  | 219 |
| 7.3.10.3 | 3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り付け . . . . .   | 219 |
| 7.3.10.4 | 終了手順 . . . . .  | 220 |
| 7.3.11   | 3.5 インチ HDD モジュールの交換 . . . . .  | 220 |
| 7.3.11.1 | 準備手順 . . . . .  | 221 |
| 7.3.11.2 | 3.5 インチ HDD モジュールの取り外し . . . . .  | 221 |
| 7.3.11.3 | 3.5 インチ HDD モジュールの取り付け . . . . .  | 221 |
| 7.3.11.4 | 終了手順 . . . . .  | 222 |
| 7.3.12   | 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの交換 . . . . .  | 222 |
| 7.3.12.1 | 準備手順 . . . . .  | 222 |
| 7.3.12.2 | 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し . . . . .  | 222 |
| 7.3.12.3 | 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り外し . . . . .                                      | 225 |
| 7.3.12.4 | 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け . . . . .                                      | 226 |
| 7.3.12.5 | 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け . . . . .  | 227 |
| 7.3.12.6 | SAS バックプレーン 1 へのケーブルの接続 . . . . .   | 229 |
| 7.3.12.7 | 終了手順 . . . . .  | 229 |
| 7.3.13   | 8 x 3.5 インチ HDD 構成へのアップグレード . . . . .                                       | 230 |
| 7.3.13.1 | 準備手順 . . . . .  | 230 |
| 7.3.13.2 | 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し . . . . .  | 230 |
| 7.3.13.3 | 4x 3.5 インチの HDD フロントパネルの取り外し . . . . .                                      | 231 |
| 7.3.13.4 | 2 つ目の 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け . . . . .                                | 232 |
| 7.3.13.5 | 8x 3.5 インチ HDD フロントパネルの取り付け . . . . .                                       | 233 |
| 7.3.13.6 | 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け . . . . .  | 233 |
| 7.3.13.7 | SAS バックプレーン 2 へのケーブルの接続 . . . . .   | 234 |
| 7.3.13.8 | 終了手順 . . . . .  | 234 |
| 7.4      | HDD 拡張ボックス . . . . .  | 236 |
| 7.4.1    | HDD 拡張ボックスの概要 . . . . .   | 236 |
| 7.4.1.1  | 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックス . . . . .  | 236 |
| 7.4.1.2  | 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックス . . . . .   | 236 |
| 7.4.2    | 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け . . . . .                                       | 237 |
| 7.4.2.1  | 準備手順 . . . . .  | 237 |

## 目次

---

|         |   |     |
|---------|---|-----|
| 7.4.2.2 | アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し                   | 237 |
| 7.4.2.3 | HDD/SSD バックプレーンの取り付け                      | 237 |
| 7.4.2.4 | 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け               | 238 |
| 7.4.2.5 | 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの線図                 | 240 |
| 7.4.2.6 | 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスへの HDD の取り付け        | 240 |
| 7.4.2.7 | 終了手順                                      | 241 |
| 7.4.3   | 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し               | 241 |
| 7.4.3.1 | 準備手順                                      | 241 |
| 7.4.3.2 | 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し               | 242 |
| 7.4.3.3 | アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け                   | 242 |
| 7.4.3.4 | 終了手順                                      | 243 |
| 7.4.4   | 8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスの HDD/SSD バックプレーンの交換 | 243 |
| 7.4.4.1 | 準備手順                                      | 243 |
| 7.4.4.2 | 故障した HDD/SSD バックプレーンの取り外し                 | 244 |
| 7.4.4.3 | 新しい HDD/SSD バックプレーンの取り付け                  | 245 |
| 7.4.4.4 | 終了手順                                      | 245 |
| 7.4.5   | 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け               | 246 |
| 7.4.5.1 | 準備手順                                      | 246 |
| 7.4.5.2 | アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し                   | 246 |
| 7.4.5.3 | ウルトラスリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け            | 246 |
| 7.4.5.4 | HDD バックプレーンの取り付け                          | 247 |
| 7.4.5.5 | 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け               | 247 |
| 7.4.5.6 | 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの配線                 | 249 |
| 7.4.5.7 | 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスに交換 HDD モジュールの取り付け  | 249 |
| 7.4.5.8 | 終了手順                                      | 250 |
| 7.4.6   | 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し               | 250 |
| 7.4.6.1 | 準備手順                                      | 250 |
| 7.4.6.2 | 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し               | 251 |
| 7.4.6.3 | アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け                   | 251 |
| 7.4.6.4 | 終了手順                                      | 252 |
| 7.4.7   | 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスの HDD バックプレーンの交換     | 252 |
| 7.4.7.1 | 準備手順                                      | 252 |
| 7.4.7.2 | 故障した HDD バックプレーンの取り外し                     | 253 |
| 7.4.7.3 | 新しい HDD バックプレーンの取り付け                      | 254 |
| 7.4.7.4 | 終了手順                                      | 255 |
| 7.5     | <b>2.5 インチ PCIe SSD</b>                   | 256 |
| 7.5.1   | 2.5 インチ PCIe SSD 構成の追加                    | 256 |
| 7.5.1.1 | 準備手順                                      | 256 |

## 目次

---

|         |   |     |
|---------|---|-----|
| 7.5.1.2 | PCIe SSD 拡張ボックスの取り付け . . . . .                                | 256 |
| 7.5.1.3 | PCIe スイッチの取り付け . . . . .                                      | 257 |
| 7.5.1.4 | 終了手順 . . . . .  | 260 |
| 7.5.2   | 8x 2.5 インチ PCIe SSD 拡張ボックスの PCIe SSD パック<br>プレーンの交換 . . . . . | 261 |
| 7.5.2.1 | 準備手順 . . . . .  | 261 |
| 7.5.2.2 | 故障した PCIe SSD バックプレーンの取り外し . . . . .                          | 261 |
| 7.5.2.3 | 新しい PCIe SSD バックプレーンの取り付け . . . . .                           | 263 |
| 7.5.2.4 | 終了手順 . . . . .  | 263 |
| 7.6     | ホットプラグ非対応 2.5 インチ HDD/SSD . . . . .                           | 264 |
| 7.6.1   | ホットプラグ非対応 HDD/SSD の交換 . . . . .                               | 264 |
| 7.6.1.1 | 準備手順 . . . . .  | 264 |
| 7.6.1.2 | ホットプラグ非対応ケージの取り外し . . . . .                                   | 264 |
| 7.6.1.3 | ホットプラグ非対応 HDD/SSD の取り外し . . . . .                             | 265 |
| 7.6.1.4 | ホットプラグ非対応 HDD/SSD の取り付け . . . . .                             | 266 |
| 7.6.1.5 | ホットプラグ非対応ケージの取り付け . . . . .                                   | 266 |
| 7.6.1.6 | ホットプラグ非対応 HDD/SSD へのケーブルの接続 . . . . .                         | 267 |
| 7.6.1.7 | 終了手順 . . . . .  | 268 |
| 7.6.2   | ホットプラグ非対応 HDD/SSD のアップグレード . . . . .                          | 269 |
| 7.6.2.1 | 準備手順 . . . . .  | 269 |
| 7.6.2.2 | ホットプラグ非対応 HDD/SSD のアップグレード . . . . .                          | 269 |
| 7.6.2.3 | 終了手順 . . . . .  | 270 |
| 7.7     | SAS エキスパンダボード . . . . .                                       | 271 |
| 7.7.1   | SAS エキスパンダボードの取り付け . . . . .                                  | 271 |
| 7.7.1.1 | 準備手順 . . . . .  | 271 |
| 7.7.1.2 | SAS エキスパンダボードの取り付け . . . . .                                  | 271 |
| 7.7.1.3 | エキスパンダホルダーの取り付け . . . . .                                     | 272 |
| 7.7.1.4 | ケーブルのエキスパンダボードへの接続 . . . . .                                  | 274 |
| 7.7.1.5 | 終了手順 . . . . .  | 277 |
| 7.7.2   | SAS エキスパンダボードの取り外し . . . . .                                  | 278 |
| 7.7.2.1 | 準備手順 . . . . .  | 278 |
| 7.7.2.2 | エキスパンダホルダーの取り外し . . . . .                                     | 278 |
| 7.7.2.3 | SAS エキスパンダボードの取り外し . . . . .                                  | 279 |
| 7.7.2.4 | 終了手順 . . . . .  | 279 |
| 7.7.3   | SAS エキスパンダボードの交換 . . . . .                                    | 280 |
| 7.7.3.1 | 準備手順 . . . . .  | 280 |
| 7.7.3.2 | 故障した SAS エキスパンダボードの取り外し . . . . .                             | 280 |
| 7.7.3.3 | 新しい SAS エキスパンダボード取り付け . . . . .                               | 280 |
| 7.7.3.4 | 終了手順 . . . . .  | 280 |

## 目次

---

|          |                         |            |
|----------|-------------------------|------------|
| <b>8</b> | <b>ファン</b>              | <b>281</b> |
| 8.1      | 基本情報                    | 282        |
| 8.2      | システムファンモジュールの交換         | 284        |
| 8.2.1    | 準備手順                    | 284        |
| 8.2.2    | 故障したシステムファンモジュールの取り外し   | 284        |
| 8.2.3    | 新しいシステムファンモジュールの取り付け    | 285        |
| 8.2.4    | 終了手順                    | 286        |
| <b>9</b> | <b>拡張カードとバックアップユニット</b> | <b>287</b> |
| 9.1      | 基本情報                    | 288        |
| 9.1.1    | 拡張カードの取り付け順序            | 290        |
| 9.2      | スロットブラケットの取り扱い          | 291        |
| 9.2.1    | スロットブラケットの取り付け          | 291        |
| 9.2.2    | スロットブラケットの取り外し          | 292        |
| 9.3      | 拡張カードとライザーカード           | 293        |
| 9.3.1    | 標準スロットの拡張カードの取り付け       | 293        |
| 9.3.1.1  | 準備手順                    | 293        |
| 9.3.1.2  | スロットカバーの取り外し            | 294        |
| 9.3.1.3  | 拡張カードの取り付け              | 294        |
| 9.3.1.4  | 終了手順                    | 297        |
| 9.3.2    | 標準スロットからの拡張カードの取り外し     | 298        |
| 9.3.2.1  | 準備手順                    | 298        |
| 9.3.2.2  | 拡張カードの取り外し              | 298        |
| 9.3.2.3  | スロットカバーの取り付け            | 300        |
| 9.3.2.4  | 終了手順                    | 301        |
| 9.3.3    | 標準スロットの拡張カードの交換         | 302        |
| 9.3.3.1  | 準備手順                    | 302        |
| 9.3.3.2  | 故障のある拡張カードの取り外し         | 303        |
| 9.3.3.3  | 新しい拡張カードの取り付け           | 303        |
| 9.3.3.4  | 終了手順                    | 303        |
| 9.3.4    | ライザーモジュール付きサーバのアップグレード  | 304        |
| 9.3.4.1  | 準備手順                    | 304        |
| 9.3.4.2  | ライザーモジュール付きサーバのアップグレード  | 305        |
| 9.3.4.3  | 終了手順                    | 306        |
| 9.3.5    | ライザーモジュールの拡張カードの取り付け    | 307        |
| 9.3.5.1  | 準備手順                    | 307        |
| 9.3.5.2  | スロットカバーロックの取り外し         | 307        |
| 9.3.5.3  | スロットカバーの取り外し            | 308        |

## 目次

---

|            |                                    |            |
|------------|------------------------------------|------------|
| 9.3.5.4    | ライザーモジュール 2 への拡張カードの取り付け . . . . . | 309        |
| 9.3.5.5    | スロットカバーロックの取り付け . . . . .          | 310        |
| 9.3.5.6    | 終了手順 . . . . .                     | 310        |
| 9.3.6      | ライザーモジュールからの拡張カードの取り外し . . . . .   | 311        |
| 9.3.6.1    | 準備手順 . . . . .                     | 311        |
| 9.3.6.2    | 拡張カードの取り外し . . . . .               | 311        |
| 9.3.6.3    | スロットカバーの取り付け . . . . .             | 312        |
| 9.3.6.4    | 終了手順 . . . . .                     | 312        |
| 9.3.7      | ライザーモジュールの拡張カードの交換 . . . . .       | 313        |
| 9.3.7.1    | 準備手順 . . . . .                     | 313        |
| 9.3.7.2    | 故障のある拡張カードの取り外し . . . . .          | 314        |
| 9.3.7.3    | 新しい拡張カードの取り付け . . . . .            | 314        |
| 9.3.7.4    | 終了手順 . . . . .                     | 314        |
| 9.3.8      | ライザーカードの交換 . . . . .               | 315        |
| 9.3.8.1    | 準備手順 . . . . .                     | 315        |
| 9.3.8.2    | 故障したライザーカードの取り外し . . . . .         | 316        |
| 9.3.8.3    | 新しいライザーカードの取り付け . . . . .          | 316        |
| 9.3.8.4    | 終了手順 . . . . .                     | 316        |
| <b>9.4</b> | <b>バックアップユニット . . . . .</b>        | <b>317</b> |
| 9.4.1      | 基本情報 . . . . .                     | 317        |
| 9.4.2      | FBU の取り付け . . . . .                | 318        |
| 9.4.2.1    | 準備手順 . . . . .                     | 318        |
| 9.4.2.2    | TFM の取り付け . . . . .                | 319        |
| 9.4.2.3    | FBU の準備 . . . . .                  | 321        |
| 9.4.2.4    | FBU の取り付け . . . . .                | 322        |
| 9.4.2.5    | 終了手順 . . . . .                     | 323        |
| 9.4.3      | FBU の取り外し . . . . .                | 324        |
| 9.4.3.1    | 準備手順 . . . . .                     | 324        |
| 9.4.3.2    | FBU の取り外し . . . . .                | 325        |
| 9.4.3.3    | 終了手順 . . . . .                     | 326        |
| 9.4.4      | FBU の交換 . . . . .                  | 326        |
| 9.4.4.1    | 準備手順 . . . . .                     | 326        |
| 9.4.4.2    | 故障した FBU の取り外し . . . . .           | 327        |
| 9.4.4.3    | FBU を FBU ホルダーから取り外す . . . . .     | 327        |
| 9.4.4.4    | 新しい FBU モジュールの取り付け . . . . .       | 327        |
| 9.4.4.5    | 終了手順 . . . . .                     | 328        |
| 9.4.5      | TFM の交換 . . . . .                  | 328        |
| 9.4.5.1    | 準備手順 . . . . .                     | 328        |
| 9.4.5.2    | TFM の取り外し . . . . .                | 329        |
| 9.4.5.3    | 新しい TFM の取り付け . . . . .            | 330        |
| 9.4.5.4    | 終了手順 . . . . .                     | 330        |

## 目次

---

|             |                         |            |
|-------------|-------------------------|------------|
| <b>9.5</b>  | <b>DynamicLoM モジュール</b> | <b>331</b> |
| 9.5.1       | 基本情報                    | 331        |
| 9.5.1.1     | PLAN EM 2x 1GB Tの概要     | 331        |
| 9.5.1.2     | PLAN EM 4x 1GB Tの概要     | 332        |
| 9.5.1.3     | PLAN EM 2x 10 GB SFPの概要 | 333        |
| 9.5.1.4     | PLAN EM 2x 10 GB Tの概要   | 334        |
| 9.5.2       | DynamicLoM モジュールの取り付け   | 335        |
| 9.5.2.1     | 準備手順                    | 335        |
| 9.5.2.2     | スロットカバーの取り外し            | 336        |
| 9.5.2.3     | DynamicLoM モジュールの取り付け   | 337        |
| 9.5.2.4     | 終了手順                    | 338        |
| 9.5.2.5     | ソフトウェアの構成               | 339        |
| 9.5.3       | DynamicLoM モジュールの取り外し   | 340        |
| 9.5.3.1     | 準備手順                    | 340        |
| 9.5.3.2     | DynamicLoM モジュールの取り外し   | 340        |
| 9.5.3.3     | ダミーカバーの取り付け             | 341        |
| 9.5.3.4     | 終了手順                    | 341        |
| 9.5.4       | DynamicLoM モジュールの交換     | 342        |
| 9.5.4.1     | 準備手順                    | 342        |
| 9.5.4.2     | DynamicLoM モジュールの取り外し   | 342        |
| 9.5.4.3     | DynamicLoM モジュールの取り付け   | 342        |
| 9.5.4.4     | 終了手順                    | 343        |
| 9.5.4.5     | ソフトウェアの構成               | 343        |
| <b>9.6</b>  | <b>シリアルインタフェース</b>      | <b>344</b> |
| 9.6.1       | シリアルインタフェースの取り付け        | 344        |
| 9.6.1.1     | 準備手順                    | 344        |
| 9.6.1.2     | シリアルインタフェースの取り付け        | 345        |
| 9.6.1.3     | 終了手順                    | 346        |
| 9.6.2       | シリアルインタフェースの取外し         | 347        |
| 9.6.2.1     | 準備手順                    | 347        |
| 9.6.2.2     | シリアルインタフェースの取外し         | 347        |
| 9.6.2.3     | 終了手順                    | 347        |
| 9.6.3       | シリアルインタフェースの交換          | 348        |
| 9.6.3.1     | 準備手順                    | 348        |
| 9.6.3.2     | 故障のあるシリアルインタフェースの取外し    | 348        |
| 9.6.3.3     | 新しいシリアルインタフェースの取り付け     | 348        |
| 9.6.3.4     | 終了手順                    | 348        |
| <b>10</b>   | <b>メインメモリ</b>           | <b>349</b> |
| <b>10.1</b> | <b>基本情報</b>             | <b>350</b> |

---

## 目次

---

|          |                       |     |
|----------|-----------------------|-----|
| 10.1.1   | メモリの取り付け順序            | 350 |
| 10.1.1.1 | 取り付けの規則               | 350 |
| 10.1.1.2 | インデpendent（独立）チャネルモード | 352 |
| 10.1.1.3 | ミラーチャネルおよびパフォーマンスマード  | 353 |
| 10.1.1.4 | ランクスペアリングモード          | 354 |
| 10.2     | メモリモジュールの取り付け         | 358 |
| 10.2.1   | 準備手順                  | 358 |
| 10.2.2   | メモリモジュールを取り付ける        | 359 |
| 10.2.3   | 終了手順                  | 359 |
| 10.3     | メモリモジュールの取り外し         | 360 |
| 10.3.1   | 準備手順                  | 360 |
| 10.3.2   | メモリモジュールの取り外し         | 360 |
| 10.3.3   | 終了手順                  | 361 |
| 10.4     | メモリモジュールの交換           | 362 |
| 10.4.1   | 準備手順                  | 362 |
| 10.4.2   | 故障したメモリモジュールの取り外し     | 363 |
| 10.4.3   | 新しいメモリモジュールの取り付け      | 363 |
| 10.4.4   | 終了手順                  | 363 |
| 11       | プロセッサ(CPU)            | 365 |
| 11.1     | 基本情報                  | 366 |
| 11.1.1   | サポートするプロセッサ           | 366 |
| 11.1.2   | プロセッサ位置               | 366 |
| 11.2     | プロセッサの取り付け            | 367 |
| 11.2.1   | 準備手順                  | 367 |
| 11.2.2   | システム送風ダクトの準備          | 368 |
| 11.2.3   | プロセッサの取り付け            | 370 |
| 11.2.4   | 終了手順                  | 376 |
| 11.3     | プロセッサの取り外し            | 376 |
| 11.3.1   | 準備手順                  | 376 |
| 11.3.2   | プロセッサの取り外し            | 377 |
| 11.3.3   | ソケットの保護カーバの取り付け       | 380 |
| 11.3.4   | 終了手順                  | 381 |
| 11.4     | プロセッサのアップグレードまたは交換    | 382 |
| 11.4.1   | 準備手順                  | 382 |
| 11.4.2   | プロセッサのアップグレードまたは交換    | 383 |
| 11.4.2.1 | プロセッサの取り外し            | 383 |

## 目次

---

|             |  |            |
|-------------|--|------------|
| 11.4.2.2    | プロセッサを取り付ける                                  | 383        |
| 11.4.3      | 終了手順   | 383        |
| <b>11.5</b> | <b>プロセッサヒートシンクの取り扱い</b>                      | <b>384</b> |
| 11.5.1      | 準備手順   | 384        |
| 11.5.2      | プロセッサヒートシンクの取り付け                             | 385        |
| 11.5.2.1    | ヒートシンクとプロセッサの準備                              | 385        |
| 11.5.2.2    | ヒートシンクの取り付け                                  | 386        |
| 11.5.3      | プロセッサヒートシンクの取り外し                             | 387        |
| 11.5.4      | プロセッサヒートシンクの交換                               | 388        |
| 11.5.4.1    | プロセッサヒートシンクの取り外し                             | 388        |
| 11.5.4.2    | サーマルペーストの塗布                                  | 388        |
| 11.5.4.3    | プロセッサヒートシンクの取り付け                             | 388        |
| 11.5.5      | 終了手順   | 388        |
| <b>11.6</b> | <b>サーマルペーストの塗布</b>                           | <b>389</b> |
| <b>12</b>   | <b>アクセス可能なドライブ</b>                           | <b>391</b> |
| <b>12.1</b> | <b>基本情報</b>                                  | <b>392</b> |
| <b>12.2</b> | <b>アクセス可能なドライブの取り付け</b>                      | <b>395</b> |
| 12.2.1      | 準備手順   | 395        |
| 12.2.2      | アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し                      | 395        |
| 12.2.3      | RDX および DAT72 バックアップドライブへの取り付けブ<br>ラケットの取り付け | 396        |
| 12.2.4      | アクセス可能なドライブの取り付け                             | 398        |
| 12.2.5      | 終了手順   | 401        |
| <b>12.3</b> | <b>アクセス可能なドライブの取り外し</b>                      | <b>401</b> |
| 12.3.1      | 準備手順   | 401        |
| 12.3.2      | アクセス可能なドライブの取り外し                             | 402        |
| 12.3.3      | アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け                      | 402        |
| 12.3.4      | 終了手順   | 403        |
| <b>12.4</b> | <b>アクセス可能なドライブの交換</b>                        | <b>403</b> |
| 12.4.1      | 準備手順   | 403        |
| 12.4.2      | 故障のあるアクセス可能なドライブの取り外し                        | 404        |
| 12.4.3      | 新しいアクセス可能なドライブの取り付け                          | 404        |
| 12.4.4      | 終了手順   | 404        |
| <b>12.5</b> | <b>マルチベイボックスの薄型 ODD と LSD</b>                | <b>405</b> |
| 12.5.1      | 薄型 ODD または LSD の取り付け                         | 405        |
| 12.5.1.1    | 準備手順   | 405        |

## 目次

---

|          |   |     |
|----------|---|-----|
| 12.5.1.2 | 薄型 ODD のマルチベイボックスへの取り付け . . . . .                 | 405 |
| 12.5.1.3 | LSD モジュールのマルチベイボックスへの取り付け . . . . .               | 408 |
| 12.5.1.4 | アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し . . . . .                 | 409 |
| 12.5.1.5 | マルチベイボックスの取り付け . . . . .                          | 409 |
| 12.5.1.6 | 終了手順 . . . . .                                    | 410 |
| 12.5.2   | 薄型 ODD または LSD の取り外し . . . . .                    | 411 |
| 12.5.2.1 | 準備手順 . . . . .                                    | 411 |
| 12.5.2.2 | マルチベイボックスの取り外し . . . . .                          | 411 |
| 12.5.2.3 | 薄型 ODD のマルチベイボックスからの取り外し . . . . .                | 412 |
| 12.5.2.4 | LSD モジュールのマルチベイボックスからの取り外し . . . . .              | 414 |
| 12.5.2.5 | マルチベイボックスの取り付け . . . . .                          | 415 |
| 12.5.2.6 | 終了手順 . . . . .                                    | 415 |
| 12.5.3   | 薄型 ODD または LSD の交換 . . . . .                      | 416 |
| 12.5.3.1 | 準備手順 . . . . .                                    | 416 |
| 12.5.3.2 | 故障した薄型 ODD の取り外し . . . . .                        | 416 |
| 12.5.3.3 | 故障したLSD モジュールの取り外し . . . . .                      | 416 |
| 12.5.3.4 | 新しい薄型 ODD の取り付け . . . . .                         | 417 |
| 12.5.3.5 | 新しいLSD モジュールの取り付け . . . . .                       | 417 |
| 12.5.3.6 | 終了手順 . . . . .                                    | 417 |
| 12.6     | 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスのウルトラスリム ODD . . . . .       | 418 |
| 12.6.1   | ウルトラスリム ODD の取り付け . . . . .                       | 418 |
| 12.6.1.1 | 準備手順 . . . . .                                    | 418 |
| 12.6.1.2 | ウルトラスリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け . . . . .          | 419 |
| 12.6.1.3 | 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け . . . . .             | 422 |
| 12.6.1.4 | 終了手順 . . . . .                                    | 422 |
| 12.6.2   | ウルトラスリム ODD の取り外し . . . . .                       | 423 |
| 12.6.2.1 | 準備手順 . . . . .                                    | 423 |
| 12.6.2.2 | 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し . . . . .             | 423 |
| 12.6.2.3 | ウルトラスリム ODD の拡張ボックスからの取り外し . . . . .              | 423 |
| 12.6.2.4 | 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け . . . . .             | 425 |
| 12.6.2.5 | 終了手順 . . . . .                                    | 425 |
| 12.6.3   | ウルトラスリム ODD の交換 . . . . .                         | 425 |
| 12.6.3.1 | 準備手順 . . . . .                                    | 425 |
| 12.6.3.2 | 故障したウルトラスリム ODD の取り外し . . . . .                   | 426 |
| 12.6.3.3 | 新しいウルトラスリム ODD の取り付け . . . . .                    | 426 |
| 12.6.3.4 | 終了手順 . . . . .                                    | 426 |
| 12.7     | ウルトラスリム ODD アダプタの中のウルトラスリム ODD . . . . .          | 427 |
| 12.7.1   | ウルトラスリム ODD の取り付け . . . . .                       | 427 |
| 12.7.1.1 | 準備手順 . . . . .                                    | 427 |
| 12.7.1.2 | ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタ<br>への取り付け . . . . . | 428 |

## 目次

---

|             |  |            |
|-------------|--|------------|
| 12.7.1.3    | ウルトラスリム ODD アダプタの取り付け . . . . .                    | 429        |
| 12.7.1.4    | 終了手順 . . . . .                                     | 429        |
| 12.7.2      | ウルトラスリム ODD の取り外し . . . . .                        | 430        |
| 12.7.2.1    | 準備手順 . . . . .                                     | 430        |
| 12.7.2.2    | ウルトラスリム ODD アダプタの取り外し . . . . .                    | 430        |
| 12.7.2.3    | ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタ<br>からの取り外し . . . . . | 431        |
| 12.7.2.4    | ウルトラスリム ODD アダプタの取り付け . . . . .                    | 431        |
| 12.7.2.5    | 終了手順 . . . . .                                     | 431        |
| 12.7.3      | ウルトラスリム ODD の交換 . . . . .                          | 432        |
| 12.7.3.1    | 準備手順 . . . . .                                     | 432        |
| 12.7.3.2    | 故障したウルトラスリム ODD の取り外し . . . . .                    | 432        |
| 12.7.3.3    | 新しいウルトラスリム ODD の取り付け . . . . .                     | 433        |
| 12.7.3.4    | 終了手順 . . . . .                                     | 433        |
| <b>13</b>   | <b>フロントパネルと外部コネクタ . . . . .</b>                    | <b>435</b> |
| <b>13.1</b> | <b>フロントパネルモジュールの交換 . . . . .</b>                   | <b>436</b> |
| 13.1.1      | 準備手順 . . . . .                                     | 436        |
| 13.1.2      | フロントパネルモジュールの取り外し . . . . .                        | 437        |
| 13.1.3      | フロントパネルモジュールからのケーブルの取り外し . . . . .                 | 439        |
| 13.1.4      | フロントパネルモジュールへのケーブルの接続 . . . . .                    | 439        |
| 13.1.5      | フロントパネルモジュールの取り付け . . . . .                        | 440        |
| 13.1.6      | 終了手順 . . . . .                                     | 441        |
| <b>13.2</b> | <b>前面 VGA コネクタ . . . . .</b>                       | <b>442</b> |
| 13.2.1      | 前面 VGA コネクタの取り付け . . . . .                         | 442        |
| 13.2.1.1    | 準備手順 . . . . .                                     | 442        |
| 13.2.1.2    | 前面 VGA ダミーカバーの取り外し . . . . .                       | 443        |
| 13.2.1.3    | 前面 VGA コネクタの取り付け . . . . .                         | 444        |
| 13.2.1.4    | 終了手順 . . . . .                                     | 445        |
| 13.2.2      | 前面 VGA コネクタの取り外し . . . . .                         | 446        |
| 13.2.2.1    | 準備手順 . . . . .                                     | 446        |
| 13.2.2.2    | VGA コネクタの取り外し . . . . .                            | 447        |
| 13.2.2.3    | 前面 VGA ダミーカバーの取り付け . . . . .                       | 448        |
| 13.2.2.4    | 終了手順 . . . . .                                     | 449        |
| 13.2.3      | 前面 VGA コネクタの交換 . . . . .                           | 449        |
| 13.2.3.1    | 準備手順 . . . . .                                     | 449        |
| 13.2.3.2    | 故障した前面 VGA コネクタの取り外し . . . . .                     | 450        |
| 13.2.3.3    | 新しい前面 VGA コネクタの取り付け . . . . .                      | 450        |
| 13.2.3.4    | 終了手順 . . . . .                                     | 450        |

## 目次

---

|             |                                   |            |
|-------------|-----------------------------------|------------|
| <b>14</b>   | <b>システムボードとコンポーネント</b>            | <b>451</b> |
| <b>14.1</b> | <b>基本情報</b>                       | <b>451</b> |
| <b>14.2</b> | <b>CMOS バッテリー</b>                 | <b>452</b> |
| 14.2.1      | CMOS バッテリーの交換                     | 452        |
| 14.2.1.1    | 準備手順                              | 453        |
| 14.2.1.2    | 故障した CMOS バッテリーの交換                | 453        |
| 14.2.1.3    | 終了手順                              | 454        |
| <b>14.3</b> | <b>USB Flash モジュール (UFM)</b>      | <b>454</b> |
| 14.3.1      | UFM の取り付け                         | 454        |
| 14.3.1.1    | 準備手順                              | 454        |
| 14.3.1.2    | UFM の取り付け                         | 455        |
| 14.3.1.3    | 終了手順                              | 456        |
| 14.3.1.4    | ソフトウェアの構成                         | 456        |
| 14.3.2      | UFM の取り外し                         | 457        |
| 14.3.2.1    | 準備手順                              | 457        |
| 14.3.2.2    | UFM の取り外し                         | 458        |
| 14.3.2.3    | 終了手順                              | 459        |
| 14.3.3      | UFM の交換                           | 460        |
| 14.3.3.1    | 準備手順                              | 460        |
| 14.3.3.2    | 故障した UFM の取り外し                    | 460        |
| 14.3.3.3    | 新しい UFM の取り付け                     | 461        |
| 14.3.3.4    | 終了手順                              | 462        |
| 14.3.3.5    | ソフトウェアの構成                         | 462        |
| <b>14.4</b> | <b>TPM(セキュリティチップ)</b>             | <b>463</b> |
| 14.4.1      | TPM の取り付け                         | 463        |
| 14.4.1.1    | 準備手順                              | 463        |
| 14.4.1.2    | TPM の取り付け                         | 464        |
| 14.4.1.3    | 終了手順                              | 466        |
| 14.4.2      | TPM の取り外し                         | 467        |
| 14.4.2.1    | 準備手順                              | 468        |
| 14.4.2.2    | TPM ボードの取り外し                      | 469        |
| 14.4.2.3    | 終了手順                              | 470        |
| 14.4.3      | TPM の交換                           | 471        |
| 14.4.3.1    | 準備手順                              | 471        |
| 14.4.3.2    | 故障した TPM の取り外し                    | 472        |
| 14.4.3.3    | 新しい TPM の取り付け                     | 472        |
| 14.4.3.4    | 終了手順                              | 472        |
| <b>14.5</b> | <b>SATA DOM(SATA Flash モジュール)</b> | <b>473</b> |
| 14.5.1      | SATA DOM の取り付け                    | 473        |

## 目次

---

|             |   |            |
|-------------|---|------------|
| 14.5.1.1    | 準備手順  | 473        |
| 14.5.1.2    | SATA DOM の取り付け  | 473        |
| 14.5.1.3    | 終了手順  | 474        |
| 14.5.2      | SATA DOM の取り外し  | 475        |
| 14.5.2.1    | 準備手順  | 475        |
| 14.5.2.2    | SATA DOM の取り外し  | 475        |
| 14.5.2.3    | 終了手順  | 475        |
| 14.5.3      | SATA DOM の交換  | 476        |
| 14.5.3.1    | 準備手順  | 476        |
| 14.5.3.2    | SATA DOM の交換  | 476        |
| 14.5.3.3    | 終了手順  | 476        |
| <b>14.6</b> | <b>iRMC microSD カード(ライフサイクルマネジメントライセンス&amp;モジュール)</b> | <b>477</b> |
| 14.6.1      | iRMC microSD カードの取り付け                                 | 477        |
| 14.6.1.1    | 準備手順  | 477        |
| 14.6.1.2    | iRMC microSD カードの取り付け                                 | 478        |
| 14.6.1.3    | 終了手順  | 479        |
| 14.6.2      | iRMC microSD カードの取り外し                                 | 479        |
| 14.6.2.1    | 準備手順  | 479        |
| 14.6.2.2    | iRMC microSD カードの取り外し                                 | 480        |
| 14.6.2.3    | 終了手順  | 481        |
| 14.6.3      | iRMC microSD カードの交換                                   | 481        |
| 14.6.3.1    | 準備手順  | 481        |
| 14.6.3.2    | iRMC microSD カードの交換                                   | 481        |
| 14.6.3.3    | 終了手順  | 482        |
| <b>14.7</b> | <b>システムボード</b>  | <b>483</b> |
| 14.7.1      | システムボードの交換  | 483        |
| 14.7.1.1    | 準備手順  | 485        |
| 14.7.1.2    | 故障したシステムボードの取り外し                                      | 486        |
| 14.7.1.3    | 新しいシステムボードの取り付け                                       | 489        |
| 14.7.1.4    | 終了手順  | 491        |
| <b>15</b>   | <b>タワーモデルをラックモデルに変換する</b>                             | <b>493</b> |
| <b>15.1</b> | <b>準備手順</b>   | <b>493</b> |
| <b>15.2</b> | <b>タワーモデルをラックモデルに変換する</b>                             | <b>494</b> |
| <b>15.3</b> | <b>終了手順</b>   | <b>507</b> |

## 目次

---

|           |                             |            |
|-----------|-----------------------------|------------|
| <b>16</b> | <b>ケーブル配線</b>               | <b>509</b> |
| 16.1      | 使用ケーブルのリスト                  | 510        |
| 16.2      | ケーブル図                       | 512        |
| 16.3      | イントリュージョンスイッチケーブルの交換        | 536        |
| 16.3.1    | 準備手順                        | 536        |
| 16.3.2    | イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し      | 537        |
| 16.3.3    | イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し      | 539        |
| 16.3.4    | 終了手順                        | 541        |
| 16.4      | OOB ケーブルの交換                 | 542        |
| 16.4.1    | 準備手順                        | 543        |
| 16.4.2    | OOB ケーブル の交換                | 543        |
| 16.4.3    | 終了手順                        | 545        |
| <b>17</b> | <b>付録</b>                   | <b>547</b> |
| 17.1      | 装置概観                        | 547        |
| 17.1.1    | サーバ前面                       | 547        |
| 17.1.2    | サーバ背面                       | 549        |
| 17.1.3    | サーバ内部                       | 550        |
| 17.2      | コネクタと表示ランプ                  | 551        |
| 17.2.1    | システムボードのコネクタと表示ランプ          | 551        |
| 17.2.1.1  | オンボードのコネクタ                  | 551        |
| 17.2.1.2  | オンボード表示ランプおよびコントロール         | 553        |
| 17.2.1.3  | I/O パネルコネクタ                 | 556        |
| 17.2.1.4  | I/O パネルの表示ランプ               | 557        |
| 17.2.1.5  | PSU 表示ランプ                   | 559        |
| 17.2.2    | フロントパネルのコネクタと表示ランプ          | 560        |
| 17.2.2.1  | フロントパネルのコントロールと表示ランプ        | 560        |
| 17.2.3    | アクセス可能なドライブの表示ランプ / コンポーネント | 563        |
| 17.3      | ジャンパ設定                      | 565        |
| 17.4      | 最小起動構成                      | 566        |

## 目次

---

# 1 はじめに

FUJITSU Server PRIMERGY TX2560 M2 は、最大レベルの性能、拡張性、可用性を備えた、妥協のないタワーサーバです。

FUJITSU Server PRIMERGY RX2560 M2 はラックサーバと同一のサーバです。



機能の詳細、およびサーバの設置、セットアップ、運用方法について  
は、該当するオペレーティングマニュアルを参照してください。

## 本マニュアルのコンセプト

この『アップグレード＆メンテナンスマニュアル』では、次の作業を行う手順を示しています。

- オプションのハードウェア部品を追加してサーバ構成をアップグレードする
- 既存のハードウェア部品を交換してサーバ構成をアップグレードする
- 故障したハードウェア部品を交換する

このマニュアルでは、オンラインの保守作業について説明します。各作業の割り当ては、『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルに示すリモート診断手順に従って準備することが推奨されます。[38 ページの「必要なマニュアル」](#)を参照してください。



### 注意！

このマニュアルには、さまざまな難易度の作業手順が含まれます。作業を割り当てる前に、作業に必要な技能レベルを確認してください。始める前に、[31 ページの「作業手順の分類」](#)をよくお読みください。

## 1.1 表記規定

このマニュアルでは、以下の表記規定が使用されています。

|  |   |
|--|---|
| 斜体のテキスト  | コマンドまたはメニューアイテムを示します  |
| fixed font<br>(固定幅フォント)  | システム出力を示します   |
| semi-bold fixed font<br>(セミボールド固定幅フォント)  | ユーザーが入力するテキストを示します  |
| かぎ括弧（「」）   | 章の名前や強調されている用語を示します   |
| 二重かぎ括弧（『』）   | 他のマニュアル名などを示しています   |
| ▶  | 記載されている順序で行う必要がある作業です   |
| [Abc]  | キーボードのキーを示します   |
|    | 注意！<br>この記号が付いている文章には、特に注意してください。この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、生命が危険にさらされたり、システムが破壊されたり、データが失われる可能性があります。 |
|    | 追加情報、注記、ヒントを示しています  |
|   | 難易度と必要な技能レベルに応じた作業手順の分類を示しています。 <a href="#">31 ページ の「作業手順の分類」</a> を参照してください。                      |
|  | 平均作業時間を示しています。 <a href="#">34 ページ の「平均作業時間」</a> を参照してください。  |

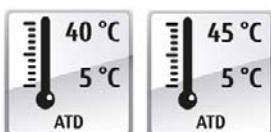
## 2 始める前に

アップグレードや保守の作業を始める前に、次の準備作業を行います。

- ▶ [41 ページ の「注意事項」](#) 章の安全についての注意事項を熟読します。
- ▶ 必要なマニュアルがすべて揃っていることを確認します。[38 ページ の「必要なマニュアル」](#) の項に示すドキュメントの概要を確認します。必要に応じて PDF ファイルを印刷します。
- ▶ [31 ページ の「作業手順の分類」](#) の項に示す作業手順の分類を確認します。
- ▶ [35 ページ の「必要な工具」](#) の項に従って、必要な工具が揃っていることを確認します。

### Advanced Thermal Design

Advanced Thermal Design オプションによって、お使いのシステムおよび構成に応じて 5 °C ~ 40 °C または 5 °C ~ 45 °C という幅広い温度範囲でシステムを動作させることができます。



このオプションはカスタムメイドのみ発注でき、銘板上の該当するロゴで示されます。



#### 注意

Advanced Thermal Design で構成されているシステムには、該当する高温の動作範囲に対応するコンポーネントのみを取り付けて使用することができます。該当する制限事項については、公式の Configuration Tool を参照してください。

### オプション部品の取り付け

お使いのサーバのオペレーティングマニュアルでは、サーバの機能を紹介し、使用できるハードウェアオプションの概要を説明しています。

Fujitsu ServerView Suite 管理ソフトウェアおよび iRMС Web フロントエンドを使用して、ハードウェア拡張の準備を行います。ServerView Suite のドキュメントは、オンラインで入手できます (<http://manuals.ts.fujitsu.com> (日本市場向け：<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>))。

次の ServerView Suite のトピックを参照してください。

- Operation
- Virtualization
- Tools for Service & Diagnostics
- Out-Of-Band Management

 ハードウェアオプションの最新情報については、次のアドレスにあるサーバのシステム構成図を参照してください。

世界市場の場合：

[http://ts.fujitsu.com/products/standard\\_servers/index.htm](http://ts.fujitsu.com/products/standard_servers/index.htm)

日本市場向け：

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/system/>

拡張キットやスペア部品の注文方法については、Fujitsu のカスタマーサービスパートナーにお問い合わせください。Fujitsu のイラスト入り部品カタログを使用して必要なスペア部品を探して、技術仕様と注文情報をご確認ください。イラスト入り部品カタログは、オンラインで

[http://manuals.ts.fujitsu.com/illustrated\\_spares](http://manuals.ts.fujitsu.com/illustrated_spares)（世界市場のみ）から入手できます。

### 故障した部品の交換

故障のため交換が必要なハードウェア部品は、サーバの前面と背面にある保守ランプ、およびフロントパネルにある Local Diagnostic LED によって示されます。サーバのコントロールと表示ランプの詳細については、サーバのオペレーティングマニュアルおよび [551 ページの「コネクタと表示ランプ」](#) の項を参照してください。

ホットプラグ対応ではない部品を交換するためにシステムの電源を切った場合、一連の PRIMERGY 診断表示ランプから、故障した部品がわかります。サーバの電源を切り、主電源から切り離した場合も、LDL 表示ボタンを使うと、故障した部品の横の表示ランプが機能します。詳細については、[53 ページの「診断情報の使用」](#) および [560 ページの「フロントパネルのコネクタと表示ランプ」](#) の各項を参照してください。

故障した部品が、CSS (Customer Self Service) コンセプトに含まれる、お客様による交換部品 (Customer Replaceable Unit) である場合、サーバの前面と背面にある CSS 表示ランプが点灯します。

『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルで説明しているように、リモート診断手順を使用して保守作業を準備することが推奨されます。

## 2.1 作業手順の分類

作業手順の難易度は、それぞれ大きく異なります。作業手順は、難易度と必要な技能レベルに応じて、3つの部品のカテゴリのうちの1つに割り当てられます。

各手順の最初に、この項に示す記号のいずれかを用いて関連する部品タイプを示します。

 詳細については、最寄りの Fujitsu のサービスセンターにお問い合わせください。

### 2.1.1 お客様による交換可能部品 (CRU)



#### お客様による交換可能部品 (CRU)

お客様による交換可能部品は Customer Self Service 対応で、動作中にホットプラグ対応部品として接続したり交換することができます。

 お客様ご自身で交換できるコンポーネントは、ご利用される国の保守サービス形態によって異なります。

日本市場の場合は以下のアドレスをご使用ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/>

ホットプラグ対応部品によって、システム可用性が向上し、高いデータ整合性とフェイルセーフパフォーマンスが保証されます。作業手順を実行するために、サーバをシャットダウンしたり、オフラインにしたりする必要はありません。

#### お客様による交換可能部品として扱われる部品

- ホットプラグ電源ユニット
- ホットプラグファンモジュール
- ホットプラグ HDD/SSD モジュール

#### お客様による交換可能部品として扱われる周辺装置

- キーボード
- マウス

### 2.1.2 ユニットのアップグレードおよび修理（URU）



#### ユニットのアップグレードおよび修理（URU）

アップグレードおよび修理部品はホットプラグ対応部品ではなく、オプションとして搭載するために別途注文したり（アップグレード部品）、また、Customer Self Service を通じてお客様にご利用いただけます（修理部品）。



日本市場の場合、お客様はアップグレードのみです。お客様の交換可能な部品については、<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy>を参照してください。



サーバ管理のエラーメッセージと、フロントパネルおよびシステムボードの診断表示ランプにより、故障したアップグレードおよび修理部品はお客様による交換可能な CSS コンポーネントとして通知されます。

アップグレードや修理の手順を行うには、サーバをシャットダウンして開きます。



#### 注意！

サーバを許可なく開けたり、研修を受けていない未許可の要員が修理しようとすると、重大な破損を引き起こしたり、破損の原因になる可能性があります。

#### アップグレード部品として扱われる部品

- プロセッサ（アップグレードキット）
- 光ディスクドライブ
- バックアップドライブ
- 拡張カード
- バッテリーバックアップユニット
- メモリモジュール
- 前面 VGA コネクタ
- iRMC microSD カード

#### 修理部品としてのみ扱われる部品

- CMOS バッテリー
- ホットプラグ非対応 HDD/SSD

### 2.1.3 フィールド交換可能ユニット (FRU)



#### フィールド交換可能ユニット (FRU)

フィールド交換可能ユニットの取り外しと取り付けには、サーバの不可欠なコンポーネントにおいて複雑な保守手順が含まれます。手順を行うには、サーバをシャットダウンして開き、分解する必要があります。



#### 注意！

フィールド交換可能ユニットに関する保守手順は、Fujitsu のサービス要員または Fujitsu のトレーニングを受けた技術担当者のみが行うことができます。不正にシステムを干渉すると保証が無効となり、メーカーの責任は免除されますので、ご注意ください。

#### フィールド交換可能ユニットとして扱われる部品

- プロセッサ（交換）
- SAS / SATA バックプレーン
- フロントパネルモジュール
- 管理モジュールおよび診断モジュール
- システムボード
- DynamicLoM モジュール
- TPM(セキュリティチップ)
- UFM(USB Flash モジュール)
- SATA DOM (SATA Flash モジュール)



詳細については、最寄りの Fujitsu のサービスセンターにお問い合わせください。

## 2.2 平均作業時間



平均作業時間：10 分

各作業手順の分類記号の横に、準備作業を含む平均作業時間を示します。

平均作業時間に含まれる手順を [34 ページ の表 1](#) に示します。

| 手順           | 含まれる  | 説明  |
|--------------|-------|---|
| サーバのシャットダウン  | 含まれない | シャットダウン時間は、ハードウェアとソフトウェアの構成によって大きく異なります。<br>保守作業の前に必要なソフトウェアの作業については、 <a href="#">107 ページ の「保守作業の開始」</a> の項を参照してください。 |
| ラックから取り出し、分解 | 含まれる  | 作業ができるように、サーバをラックから取り出します（該当する場合）   |
| 輸送           | 含まれない | サーバを作業台まで運ぶ作業（必要な場合）は、環境によって異なります。  |
| 保守作業         | 含まれる  | ソフトウェアの準備と作業後の操作を含む保守作業を行います。   |
| 輸送           | 含まれない | サーバを元の場所に戻す作業（必要な場合）は、環境によって異なります。  |
| 組み立て、ラックへの搭載 | 含まれる  | サーバを組み立て、ラックに戻します（該当する場合）。  |
| 起動           | 含まれない | 起動時間は、ハードウェアとソフトウェアの構成によって大きく異なります。   |

表 1: 平均作業時間の計算

## 2.3 必要な工具

保守作業の準備を行うときは、次の表を参考に、必要な工具が揃っていることを確認します。各手順の前に、必要な工具のリストがあります。

| ドライバ/ビット<br>インサート<br>トルク                                | ネジ  | 用途   | タイプ   |
|---|---|--|---|
| プラス<br>PH2 / (+) No. 2<br>六角、クロス<br>SW5 / PZ2<br>0.6 Nm |    | バックアップ<br>ドライブ、<br>光ディスク<br>ドライブ、<br>シャーシ                    | M3 x 4.5 mm<br>(シルバー色)<br>C26192-Y10-C67      |
| プラス<br>PH2 / (+) No. 2<br>六角、クロス<br>SW5 / PZ2<br>0.6 Nm |    | システム<br>ボード  | M3 x 6 mm<br>(シルバー色)<br>C26192-Y10-C68        |
| プラス<br>PH0 / (+) No. 0<br>0.4 Nm                        |    | 2.5 インチ<br>HDD/SSD、<br>前面 VGA<br>ボード、<br>DynamicLoM<br>モジュール | M3 x 3.5 mm<br>(シルバー色)<br>C26192-Y10-C102     |
| プラス<br>PH1 / (+) No. 1<br>0.6 Nm                        |  | 3.5 インチ<br>HDD   | UNC<br>6-32 x 5 mm<br>(黒色)<br>C26192-Y10-C200 |

表 2: 必要な工具と使用するネジの一覧

## 始める前に

| ドライバ/ビット<br>インサート<br>トルク   | ネジ  | 用途                                     | タイプ                                       |
|--|---|--|---|
| TPM ビットイン<br>サーク<br>TPM 用精密マイ<br>ナスドライバ<br>/TPM モジュール<br>の取り付け工具<br>(日本市場向け)<br>0.6 Nm |    | TPM 用ネジ<br>一方向だけ<br>回せるヘッ<br>ド<br>(黒色) | REM 3 x 15 mm<br>(黒色)<br>C26192-Y10-C176  |
| プラス<br>PH1 / (+) No. 1<br>0.06 Nm  |    | UFM 用ナイ<br>ロン製ネジ                       | M3 x 4.5 mm<br>(白)<br>A3C40109082         |
| プラス<br>PH0 / (+) No. 0<br>0.6 Nm   |    | TFM モ<br>ジュール                          | M2.5 x 4 mm<br>(シルバー色)<br>C26192-Y10-C103 |
| 六角ボルト<br>0.6 Nm  |   | 前面 VGA コ<br>ネクタ、シ<br>リアルイン<br>タフェース    | UNC #4-40<br>(シルバー色)<br>V26827-B408-V989  |
| SW5<br>0.6 Nm  |  | DynamicLoM<br>インタ<br>フェースモ<br>ジュール     | M3 x 5 mm<br>(シルバー色)<br>C26192-Y1-C65     |
| SW5<br>0.6 Nm  |  | DynamicLoM<br>インタ<br>フェースモ<br>ジュール     | M3 x 8 mm<br>(シルバー色)<br>C26192-Y1-C66     |

表 2: 必要な工具と使用するネジの一覧

| ドライバ/ビット<br>インサート<br>トルク         | ネジ  | 用途  | タイプ  |
|----------------------------------|---|---|--|
| Torx PLUS-6IP<br>0.2 Nm          |  | ウルトラス<br>リム ODD<br>ロッククラ<br>ンプ                    | M2 x 4 mm<br>(シルバー色)<br>C26192-Y10-C166      |
| SW5<br>0.4 Nm                    |  | スロットブ<br>ラケットと<br>コントロー<br>ラ、ラック<br>取り付けブ<br>ラケット | M3 x 3.5 mm<br>(シルバー / 黒)<br>C26192-Y10-C151 |
| プラス<br>PH2 / (+) No. 2<br>0.6 Nm |   | 5.25 インチ<br>のアクセス<br>可能なドラ<br>イブのダ<br>ミーモ<br>ジュール | M3 x 6 mm<br>(シルバー / 黒)<br>C26192-Y10-C111   |

表 2: 必要な工具と使用するネジの一覧

## 2.4 必要なマニュアル

保守作業中に別のマニュアルを参照する必要が生じる場合があります。保守作業の準備を行うときは、次の表を参考に、必要なマニュアルが揃っていることを確認します。



- サーバに付属のマニュアルは、いつでも参照できるように安全な場所に保管してください。
- 特に指定がない限り、すべてのマニュアルは、  
<http://manuals.ts.fujitsu.com> の「x86 Servers」からオンラインで入手できます。

日本市場の場合は以下のアドレスをご使用ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>

| ドキュメント   | 説明  |
|--|---|
| 『はじめにお読みください - FUJITSU Server PRIMERGY TX2560 M2』 リーフレット                   | 簡単な設置手順を示したポスター（オンラインで提供）   |
| 『はじめにお読みください - FUJITSU Server PRIMERGY RX2560 M2』 リーフレット                   |   |
| 『ServerView Suite クイックスタートガイド』   | オンラインまたは ServerView Suite DVD から入手できる初期サーバセットアップおよびソフトウェア構成に関する情報 |
| 『Safety Notes and Regulations』 マニュアル<br>『安全上のご注意』 日本市場向け                   | 安全に関する重要な情報について記載されています（オンラインおよび印刷版で提供）                           |
| 『FUJITSU Server PRIMERGY TX2560 M2 / RX2560 M2 オペレーティングマニュアル』              | オンラインで提供  |
| 『FUJITSU Server PRIMERGY TX2560 M2 / RX2560 M2 用 D3289 BIOS セットアップユーティリティ』 | BIOS の変更可能なオプションやパラメータに関する情報について記載されています（オンラインで提供）                |

表 3: 必要なマニュアル

| ドキュメント                                      | 説明  |
|---|---|
| システムボードとサービスラベル                             | サーバのサイドカバーまたはトップカバーの中にあるラベルに、コネクタ、表示ランプ、基本的な保守作業をまとめてあります。  |
| ソフトウェアのマニュアル                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』ユーザガイド</li> <li>- 『ServerView Operations Manager - Server Management』ユーザガイド</li> <li>- 『iRMC S4 - Integrated Remote Management Controller』ユーザガイド</li> <li>- 『ServerView embedded Lifecycle Management (eLCM)』ユーザガイド</li> </ul> |
| イラスト入り部品カタログ                                | <p>スペア部品を特定し、情報を確認できるシステム（世界市場のみ）。次の URL でオンラインで使用するか、ダウンロード（Windows OS）できます。<br/> <a href="http://manuals.ts.fujitsu.com/illustrated_spares">http://manuals.ts.fujitsu.com/illustrated_spares</a></p> <p>また、ServerView Operations Manager の CSS コンポーネントビューから使用できます。</p>  |
| 用語集   | オンラインで提供  |
| 『Warranty』マニュアル<br>『保証書』（日本市場向け）            | 保証、リサイクル、保守に関する重要な情報を示します（オンラインおよび印刷版で提供）   |
| 『Service Desk』リーフレット<br>『サポート&サービス』（日本市場向け） | リサイクルと問い合わせに関する情報について記載されています（オンラインおよび印刷版で提供）   |

表 3: 必要なマニュアル

| ドキュメント    | 説明  |
|-----------|---|
| その他のマニュアル | <p>RAID ドキュメントは、オンラインで <a href="http://manuals.ts.fujitsu.com">http://manuals.ts.fujitsu.com</a> の <i>x86 Servers - Expansion Cards - Storage Adapters</i> から利用できます。</p> <p>日本市場の場合は以下のアドレスをご使用ください。</p> <p><a href="http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/">http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/</a></p> |
| 他社のマニュアル  | <ul style="list-style-type: none"><li>- オペレーティングシステムのマニュアル、オンラインヘルプ</li><li>- 周辺装置のマニュアル</li></ul>  |

表 3: 必要なマニュアル

# 3 注意事項



## 注意！

デバイスを設置して起動する前に、次の項に記載されている安全についての注意事項に従ってください。これにより、健康被害を受けたり、デバイスが破損したり、データベースを危険にさらす可能性のある重大なエラーの発生を回避できます。

## 3.1 安全について



以下の安全上についての注意事項は、『Safety Notes and Regulations』および『安全上のご注意』マニュアルにも記載されています。

このデバイスは、IT 機器関連の安全規則に適合しています。目的の環境にサーバを設置できるかどうかについてご質問がある場合は、販売店または弊社カスタマサービス部門にお問い合わせください。

- このマニュアルに記載されている作業は、技術担当者が行うものとします。技術担当者とは、ハードウェアおよびソフトウェアを含め、サーバを設置するための知識を有している要員のことです。
- CSS 障害に関係のないデバイスの修理は、サービス要員が行うものとします。許可されていない作業をシステムに対して行った場合は、保証は無効となり、メーカーの責任は免除されますので、ご注意ください。
- このマニュアルのガイドラインを遵守しなかったり、不適切な修理を行うと、ユーザーが危険（感電、エネルギーハザード、火災）にさらされたり、装置が破損する可能性があります。
- サーバで内部オプションの取り付け、取り外しを行う前に、サーバ、すべての周辺装置、および接続されているその他すべてのデバイスの電源を切ってください。感電や破損の恐れがあるため、電源コードをすべてコンセントから抜いてください。

### 作業を始める前に

- サーバを設置する際、および操作する前に、お使いのサーバの環境条件についての指示を守ってください。
- サーバを低温環境から移動した場合は、サーバの内部 / 外部の両方で結露が発生することがあります。

## 注意事項

---

サーバが室温に順応し、完全に乾燥した状態になってから、作業を始めてください。この要件が満たされないと、サーバが破損する場合があります。

- サーバを輸送する際は、衝撃からサーバを保護するように梱包してください。

## インストールと操作

- このサーバは、周辺温度 35 °C では操作しないでください。Advanced Thermal Design 搭載のサーバでは、環境温度 40 °C または 45 °C まで対応します。
- IEC309 コネクタ付き工業用電源回路網から電力を供給する設置にこの装置が組み込まれている場合は、電源ユニットのフューズ保護が、A 型コネクタの非工業用電源回路網の要件に準拠している必要があります。
- 電源ユニットの主電源電圧は、100 V ~ 240 V の範囲内で自動調整されます。ローカルの主電源電圧がこの範囲内であることを確認してください。
- このサーバは、適切に接地された電源コンセント、または、接地されたラックの内部配電システム（電源コードは試験を受けて承認済み）以外には接続しないでください。
- サーバが、サーバ近くに適切に接地された電源コンセントに接続されていることを確認してください。
- サーバの電源ソケットと、接地された電源コンセントに簡単に近づけることを確認してください。
- 電源ボタンまたは電源スイッチ（ある場合）では、サーバを主電源から切り離すことはできません。修理または保守を行う場合は、サーバを主電源ユニットから完全に切断し、適切に接地された電源コンセントから電源プラグをすべて抜いてください。
- サーバとその周辺装置は、必ず同じ電源回路に接続してください。これを守らないと、停電時にサーバが動作していても、周辺装置（メモリサブシステムなど）が機能しなくなった場合などに、データを失う危険性があります。
- Ethernet ケーブルは EN 50173 および EN 50174-1/2 規格、または ISO/IEC 11801 規格にそれぞれ従う必要があります。最低要件は、10/100 Mbit/s Ethernet ではカテゴリ 5 のシールドケーブル、Gigabit Ethernet ではカテゴリ 5e のケーブルを使用します。

- 潜在的危険性を発生させず（誰もつまずかないことを確認）、ケーブルが破損することのないようにケーブルを配線します。サーバの接続時には、このマニュアルのサーバの接続についての指示を参照してください。
- 荒天時には、データ伝送路の接続または切断は行わないでください（落雷の危険性があります）。
- 宝飾品やペーパークリップなどの物や液体がサーバ内部に入る可能性がないことを確認します（感電やショートの危険性があります）。
- 緊急時（たとえば、ケース、コントロール、ケーブルの破損や、液体や異物の侵入）には、システム管理者または弊社カスタマサービス部門に連絡してください。怪我の危険がない場合のみ、システムを主電源ユニットから切断してください。
- ケースが完全に組み立てられ、取り付けスロットの背面カバーが取り付けられている（感電、冷却、防火、干渉抑制）場合のみ、(IEC 60950-1 および EN 60950-1 に従って) システムの正しい動作が保証されます。
- 安全性と電磁環境適合性を規定する要件および規則を満たし、電話機に関するシステム拡張機器のみ、取り付けることができます。それ以外の拡張機器を取り付けると、システムが破損したり、安全規定に違反する場合があります。インストールに適合するシステム拡張機器についての情報は、弊社カスタマサービスセンターまたは販売店で入手できます。
- 警告ラベル（稲妻マークなど）が付いているコンポーネントを開けたり、取り外したり、交換する作業は、認可された資格を持つ要員以外は行わないでください。例外：CSS コンポーネントは交換できます。
- システム拡張機器の取り付けや交換中にサーバが破損した場合は、保証は無効となります。
- モニタのオペレーティングマニュアルに規定されている解像度とリフレッシュレートのみ設定してください。これを守らなかった場合は、モニタが破損する可能性があります。何かわからないことがございましたら、販売店または弊社カスタマサービスセンターにお問い合わせください。
- サーバで内部オプションの取り付け、取り外しを行う前に、サーバ、すべての周辺装置、および接続されているその他すべてのデバイスの電源を切ってください。また、電源コードをすべてコンセントから抜いてください。ケーブルを抜かなかった場合、感電や破損の恐れがあります。
- 内部のケーブルやデバイスを傷つけたり、加工したりしないでください。従わない場合、デバイスの故障、発火、感電の原因となる恐れがあります。また、保証は無効となり、メーカーの責任は免除されます。

## 注意事項

---

- サーバ内のデバイスはシャットダウン後もしばらくは高温の状態が続きます。シャットダウンして少し時間をおいてから、内部オプションを取り付けまたは取り外します。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。確実に保護するために、この種類のモジュールへの作業を行う時に手首にアースバンドを装着している場合は、それをシステムの塗装されていない導電性の金属面に接続してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。金具部分またはボードのふちを持つようにしてください。
- 内部オプションの取り付け時および以前のデバイス / 場所からの取り外し時に外したネジを取り付けます。別の種類のネジを使用すると、装置が壊れる可能性があります。
- このマニュアルに示す取り付けは、予告なしに可能なオプションに変更される場合があります。

## バッテリー

- バッテリーの交換を正しく行わないと、破裂の危険性があります。バッテリーの交換では、まったく同じバッテリーか、またはメーカーが推奨する型のバッテリー以外は使用しないでください。
- バッテリーはゴミ箱に捨てないでください。
- バッテリーは、特別廃棄物についての自治体の規制に従って、廃棄する必要があります。
- バッテリーを挿入する向きに注意してください。
- このデバイスに使用されるバッテリーは、誤った取り扱いによって火災または化学熱傷の原因となることがあります。バッテリーの分解、100°C (212°F) に達する加熱、焼却は行わないでください。
- 汚染物質が含まれているバッテリーには、すべてマーク（ゴミ箱の絵に×印）が付いています。また、以下のような汚染物質として分類されている重金属の化学記号も記載されます。

Cd カドミウム

Hg 水銀

Pb 鉛

## 光ディスクドライブおよびメディアの使い方

光ディスクドライブを使用する場合は、以下の指示に従ってください。



## 注意！

- データの損失や装置の破損を防止するために、完全な状態にある CD/DVD/BD のみを使用してください。
- 破損、亀裂、損傷などがないかどうか、それぞれの CD/DVD/BD を確認してから、ドライブに挿入してください。

他にラベルを貼ると、CD/DVD/BD の機械的特性が変わり、バランスが悪くなり、振動が発生する場合があるため、注意してください。

破損してバランスが悪くなった CD/DVD/BD は、ドライブの速度が高速になったときに割れる（データ損失）可能性があります。

特定の状況下で、CD/DVD/BD の鋭い破片が光ディスクドライブのカバーに穴を開け（装置の破損）、デバイスから飛び出す可能性があります（特に顔や首などの衣服で覆われていない身体部分に怪我をする危険性があります）。

- 高湿度、およびほこりが多い場所での使用は避けてください。感電およびサーバ故障は、水などの液体、またはペーパークリップなどの金属製品がドライブ内に混入することで発生する場合があります。
- 衝撃と振動も防止してください。
- 指定された CD/DVD/BD 以外の物体を挿入しないでください。
- CD/DVD/BD トレイを引っ張る、強く押すなど、乱暴に取り扱わないでください。
- 光ディスクドライブを分解しないでください。
- 使用前に、柔らかい乾いた布で CD/DVD/BD トレイをクリーニングしてください。
- 予防策として、長期間ドライブを使用しない場合は、ディスクを光ディスクドライブから取り出します。塵埃などの異物が光ディスクドライブに入り込まないように、光ディスクトレイを閉じておきます。
- ディスク表面に触れないように、CD/DVD/BD は端を持ってください。

## 注意事項

- CD/DVD/BD の表面に、指紋、皮脂、塵埃などが付着しないようにしてください。汚れた場合は、柔らかい乾いた布で中心から端に向かってクリーニングしてください。ベンジン、シンナー、水、レコードスプレイ、帯電防止剤、シリコン含浸クロスは使用しないでください。
- CD/DVD/BD の表面を破損しないよう注意してください。
- CD/DVD/BD は熱源に近づけないでください。
- CD/DVD/BD を曲げたり、上に重い物を載せたりしないでください。
- ラベル（印刷）面にボールペンや鉛筆で書き込まないでください。
- CD/DVD/BD を低温の場所から高温の場所に移動すると、CD/DVD/BD の表面に結露が生じてデータ読み取りエラーの原因となる場合があります。この場合、CD/DVD/BD を柔らかい乾いた布で拭き取って、自然乾燥させます。ヘアドライヤーなどの器具を使って CD/DVD/BD を乾燥させないでください。
- 塵埃、破損、変形から保護するには、使用しないときは常に CD/DVD/BD をケースに保管してください。
- CD/DVD/BD を高温の場所に保管しないでください。長時間直射日光の当たる場所、または発熱器具のそばに保管しないでください。

**i** 以下の指示を守ることにより、光ディスクドライブや CD/DVD/BD ドライブの損傷だけではなく、ディスクの早期磨耗も防止できます。

- ディスクをドライブに挿入するのは必要なときだけにして、使い終わったら取り出す。
- 適切なスリーブにディスクを保管する。
- ディスクが高温や直射日光にさらされないようにする。

## レーザについて

光ディスクドライブは、IEC 60825-1 レーザクラス 1 に準拠しています。



### 注意！

光ディスクドライブドライブには、特定の状況下でレーザクラス 1 よりも強力なレーザ光線を発する発光ダイオード（LED）が含まれています。この光線を直接見るのは危険です。

光ディスクドライブのケーシングの部品は絶対に取り外さないでください！

## 静電気に非常に弱いデバイスが搭載されたモジュール

静電気に非常に弱いデバイスが搭載されたモジュールは、以下のステッカーで識別されます。



図 1: ESD ラベル

ESD が搭載されているコンポーネントを取り扱う際は、必ず以下を守ってください。

- システムの電源を切り、電源コンセントから電源プラグを抜いてから、ESD が搭載されているコンポーネントの取り付けや取り外しを行ってください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。確実に保護するために、この種類のモジュールへの作業を行う場合は手首にアースバンドを装着し、それをシステムの塗装されていない導電性の金属面に接続してください。
- 使用するすべてのデバイスやツールは、静電気フリーにする。
- 自分とシステムユニットを接続する適切な接地ケーブル（アース）を手首に巻く。
- ESD が搭載されたコンポーネントを持つ場合は、必ず端の部分または緑色の部分（タッチポイント）を握る。
- ESD のコネクタや導電路に絶対に触らない。
- すべてのコンポーネントを静電気フリーなパッドに配置する。



ESD コンポーネントの取り扱い方法の詳細は、関連する欧州規格および国際規格（EN 61340-5-1、ANSI/ESD S20.20）を参照してください。

## サーバの輸送

- サーバを輸送する際は、必ず元の梱包材に入れるか、あるいは、衝撃からサーバを保護するように梱包してください。  
日本市場では、梱包箱の再利用については適用されません。

## 注意事項

---

- 設置場所に着くまで、梱包箱を開梱しないでください。
- サーバを持ち上げたり運んだりする場合は、他の人に手伝ってもらってください。PRIMERGY TX2560 M2 / RX2560 M2 はサイズも重量も大きいため、持ち運びには最低 two 人必要です。
- 絶対に、フロントパネルのハンドルをつかんで持ち上げたり、運んだりしないでください。

### ラックへのサーバの設置についての注意

- サーバの質量とサイズを考慮して、安全上の理由からサーバへのラックの設置は 2 名以上で行ってください。  
(日本市場の場合は『安全上のご注意』を参照してください)
- 絶対に、フロントパネルのハンドルをつかんでサーバをラックに設置しないでください。
- ケーブルの接続および取り外しの際は、該当するラックのテクニカルマニュアルの「注意事項」の章に記載されている指示に従ってください。対応するラックのテクニカルマニュアルが付属します。
- ラックを設置する際は、傾きを防止するための保護機構が正しく取り付けられているか確認してください。
- 安全上の理由から、設置や保守作業の際、ラックから複数のユニットを同時に取り外さないでください。
- 複数のユニットを同時に取り外すと、ラックが転倒する危険があります。
- ラックは認定技術者（電気技術者）が電源ユニットに接続する必要があります。
- IEC309 タイプコネクタ付き工業用電源回路網から電力を供給する設置にこのサーバが組み込まれている場合は、電源ユニットのフューズ保護が、A 型コネクタの非工業用電源回路網の要件に準拠している必要があります。

## 3.2 CE 準拠



システムは、「電磁環境適合性」に関する 2004/108/EC および「低電圧指令」に関する 2006/95/EC の EC 指令、および欧州議会及び理事会指令 2011/65/EU の要件に適合しています。このことは、CE マーク (CE = Communauté Européenne) で示されます。

### 3.3 FCC クラス A 適合性宣言

デバイスに FCC 宣言の表示がある場合は、本書に別段の規定がない限り、以下の宣言は本書に記載される製品に適用されます。その他の製品に関する宣言は、付属のドキュメントに記載されます。

#### 注：

この機器は、FCC 規則の Part 15 で規定されている「クラス A」デジタル装置の条件に準拠していることが、試験を通じて検証されていて、デジタル装置についてのカナダ干渉発生機器標準 ICES-003 のすべての要件を満たしています。これらの条件は、この機器を住宅地域に設置する場合に、有害な干渉に対して保護するための妥当な手段です。この機器は無線周波エネルギーを生成および使用し、また放射することもあるため、取扱説明書に従って正しく設置および使用しないと、無線通信に悪影響を与える恐れがあります。ただし、特定の設置条件で干渉が発生しないという保証はありません。この機器が、無線やテレビの受信に対して有害な干渉の原因となる場合（これは機器の電源をオン／オフすることによって確認することができます）、以下の方法のいずれか 1 つ以上を使用して、干渉をなくすことを推奨します。

- 受信アンテナの方向を変えるか設置場所を変える。
- この機器と受信機器との距離を離す。
- 受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこの機器を接続する。
- 販売代理店、またはラジオやテレビに詳しい経験豊富な技術者に相談する。

この機器を許可なく改造したり、Fujitsu が指定する以外の接続ケーブルや機器の代替使用または接続を行った場合は、これによって生じたラジオまたはテレビの干渉について、Fujitsu は、一切の責任を負わないものとします。このような許可のない改造、代替使用、接続によって生じた干渉は、ユーザーの責任で修正するものとします。

この機器をいかなるオプション周辺装置やホストデバイスに接続する場合も、遮蔽 I/O ケーブルの使用が必要です。遮蔽 I/O ケーブルを使用しないと、FCC および ICES 規則に違反する場合があります。

#### 警告：

この製品はクラス A 製品です。この製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合にはユーザーが適切な対策を取る必要のあることがあります。

### 3.4 環境保護

#### 環境に優しい製品の設計と開発

この製品は、「環境に優しい製品の設計と開発」のための Fujitsu の基準に従って設計された製品です。つまり、耐久性、資材の選択とラベリング、排出物、梱包材、廃棄とリサイクルの容易さなどの鍵となる要因が配慮されています。

これによって資源が節約され、環境への負荷が軽減されます。詳細は以下に記載されています。

- [http://ts.fujitsu.com/products/standard\\_servers/index.html](http://ts.fujitsu.com/products/standard_servers/index.html) (世界市場)
- <http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/concept/> (日本市場向け)

#### エネルギーの節約について

常に電源を入れておく必要のないデバイスは、必要になるまで電源を切ることはもとより、長期間使用しない場合や、作業の完了後も電源を切る必要があります。

#### 梱包材について

この梱包材に関する情報は、日本市場には適用されません。

梱包材は捨てないでください。システムを輸送するために、梱包材が後日必要になる場合があります。装置を輸送する際は、できれば元の梱包材に入れてください。

#### 消耗品の取り扱いについて

プリンタの消耗品やバッテリーを廃棄する際は、該当する国の規制に従ってください。

EU ガイドラインに基づき、分別されていない一般廃棄物と一緒にバッテリーを廃棄することはできません。バッテリーは、メーカー、販売店、委任代理店が無料で回収し、リサイクルや廃棄を行っています。

汚染物質が含まれているバッテリーには、すべてマーク（ゴミ箱の絵に × 印）が付いています。また、以下のような重金属の化学記号も記載されます。この記号が付いているバッテリーは、汚染物質を含むバッテリーとして分類されます。

Cd カドミウム

Hg 水銀

Pb 鉛

## プラスチックのケース部分に貼られたラベル

プラスチック部分には、お客様独自のラベルをできる限り貼らないでください。リサイクルが困難になります。

## 返却、リサイクルおよび廃棄

返却、リサイクル、廃棄を行う場合は、各自治体の規制に従ってください。



一般廃棄物と一緒にデバイスを廃棄することはできません。このデバイスには、歐州指令 2002/96/EC の電気・電子機器廃棄物指令 (WEEE) に従ってラベルが貼られています。

この指令によって、使用済み機器の返却およびリサイクルの枠組みが設定され、EU 全土で有効です。使用済みデバイスを返却する際は、利用可能な返却および収集方式をご使用ください。詳細は以下に記載されています

<http://ts.fujitsu.com/recycling>。

ヨーロッパでのデバイスおよび消耗品の返却とリサイクルに関する詳細は、『Returning used devices』マニュアルにも記載しています。このマニュアルは、最寄の Fujitsu の支店、または Paderborn のリサイクルセンター (Recycling Center) で入手できます。

Fujitsu Technology Solutions  
Recycling Center  
D-33106 Paderborn

電話 +49 5251 525 1410  
ファックス +49 5251 525 32 1410

## **注意事項**

---

---

# 4 基本的なハードウェア手順

## 4.1 診断情報の使用

Fujitsu ServerView Suite 管理ソフトウェアを使用して、ハードウェア部品のアップグレードまたは交換を計画してください。次の ServerView Suite のトピックを参照してください。

- Operation
- Maintenance

『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルで説明しているように、リモート診断手順を使用して保守作業を準備することが推奨されます。

サービスコンセプト、および拡張キットまたはスペア部品の入手方法については、Fujitsuのカスタマーサービスパートナーにお問い合わせください。 Fujitsuのイラスト入り部品カタログを使用して必要なスペア部品を探して、技術仕様と注文情報をご確認ください。部品カタログは、オンラインで [http://manuals.ts.fujitsu.com/illustrated\\_spares](http://manuals.ts.fujitsu.com/illustrated_spares)（世界市場のみ）から入手できます。

次の診断手順を実行して、故障したサーバと部品を特定します。

### 4.1.1 故障したサーバの特定

データセンター環境で作業している場合、サーバの前面および背面コネクタパネルにある ID ランプ (551 ページの「コネクタと表示ランプ」の項を参照) を使用すると、簡単に識別できます。

- ▶ フロントパネルの ID ボタンを押して、iRMC Web フロントエンドまたは ServerView Operation Manager ユーザインターフェースを使用してシステム ID ランプ LED をオンにします。

詳細は、『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルおよび『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。
- ▶ ServerView Operations Manager を使用して ID ランプのオン / オフを切り替える場合は、「シングルシステムビュー」を選択して「識別灯」ボタンを押します。
- ▶ 保守作業が正常に完了したら、必ず ID ランプをオフにしてください。

### 4.1.2 エラー クラスの判定

Local Service Concept (LSC) で、故障したサーバ部品を特定できます。故障イベントは、2つのエラー クラスのうちの1つに割り当てられます。

- **保守イベント**：保守担当者が解決する必要があります
- **Customer Self Service (CSS)** エラー イベント：運用担当者が解決することができます

保守ランプと CSS LED ([551 ページ の「コネクタと表示ランプ」](#) の項を参照) は、故障した部品がお客様による交換可能部品か、または保守担当者を派遣して部品を交換する必要があるかを示します。

 このランプは、スタンバイモード中、または停電によるサーバ再起動の後にも点灯します。

#### 4.1.2.1 保守ランプ

- ▶ サーバのフロントパネルまたはコネクタパネルの保守ランプ ([551 ページ の「コネクタと表示ランプ」](#) の項を参照) を確認してください。
- ▶ 詳細な診断を行うには、次の手順に従います。
  - ハードウェアエラー：  
[129 ページ の「SEL を表示する」](#) の項に記載されているように、システムイベントログ (SEL) をチェックします。
  - ソフトウェア / エージェント関連のエラー：  
ServerView System Monitor をチェックします。これは、ServerView Agent がインストールされている Windows または Linux ベースのサーバで使用できます。



詳細は、『ServerView System Monitor』ユーザガイドを参照してください。

#### 4.1.2.2 Customer Self Service (CSS) 表示ランプ

- ▶ サーバのフロントパネルまたはコネクタパネルの CSS 表示ランプ ([551 ページ の「コネクタと表示ランプ」](#) の項を参照) を確認してください。

### 4.1.3 故障した部品の特定

CSS 表示ランプまたは状態表示ランプでエラー クラスを判定した後、フロントパネルとシステムボードのローカル診断表示ランプで故障した部品を特定できます。

- i** 詳細は、『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルを参照してください。

#### 4.1.3.1 フロントのローカル診断表示ランプ

- ▶ サーバのフロントパネルまたはコネクタパネルの CSS 表示ランプ（[553 ページ の「オンボード表示ランプおよびコントロール」](#) の項を参照）を確認してください。

- i** ローカル診断表示ランプの他に、CSS LED または保守ランプは、故障した部品がお客様による交換可能部品か現場で交換可能な部品であるかを示します（[54 ページ の「エラー クラスの判定」](#) の項を参照）。

#### 4.1.3.2 システムボードのローカル診断表示ランプ

##### LDL 表示ボタンの使用

- ▶ サーバをシャットダウンして電源を切ります。
- ▶ システムから AC 電源コードを抜きます。

- i** LDL 表示ボタンの機能を使用するには、電源コードを抜いておく必要があります。
- ▶ [88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」](#) の項に記載されているように、送風ダクトを取り外します。
  - ▶ LDL 表示ボタンを押して、故障した部品を強調表示します。

### コンポーネント LED

- ▶ システムボードおよびサーバ背面のコンポーネント LED を確認します（[551 ページ の「コネクタと表示ランプ」](#)の項を参照）。

**i** ローカル診断表示ランプの他に、CSS LED または保守ランプは、故障した部品がお客様による交換可能部品か現場で交換可能な部品であるかを示します（[54 ページ の「エラークラスの判定」](#)の項を参照）。ホットプラグ対応ではない装置を交換するためにはシステムの電源が切れている場合、PRIMERGY 診断表示ランプのシステムを使用して、故障したコンポーネントを特定できます。

## 4.2 サーバのシャットダウン



### 注意！

安全上の注意事項に関する詳細は、[41 ページ の「注意事項」](#)の章を参照してください。

**i** この手順は、ホットプラグ対応ではない部品のアップグレードまたは交換の際にのみ必要です。

- ▶ システム管理者に、サーバをシャットダウンしてオフラインにすることを連絡します。
  - ▶ すべてのアプリケーションを終了します。
  - ▶ アップグレードまたは保守の各作業の準備手順に記載される、必要な手順を行います。
  - ▶ サーバをシャットダウンします。
- i** システムで ACPI 準拠の OS が実行されている場合は、電源ボタンを押すと、正常なシャットダウンが実行されます。
- ▶ [53 ページ の「故障したサーバの特定」](#)の項に記載されているように、サーバの前面および背面コネクタパネルにある ID ランプをオンにします。

## 4.3 電源コードの取り外し



図 2: PSU ケーブルブラケットを開く

- ▶ リリースタブを押し下げ（1）、PSU ケーブルブラケットのループを外します（2）。

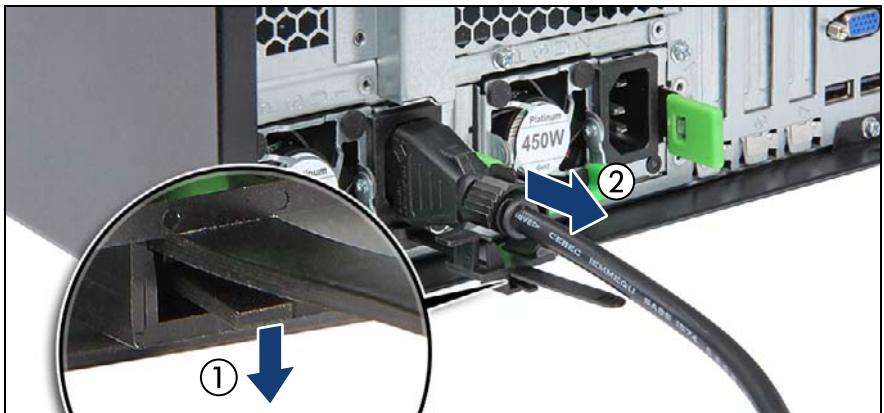


図 3: PSU ケーブルブラケットから電源コードを取り外す (A)

- ▶ PSU ケーブルブラケットのロックレバーを押し下げ（1）、コードグリップからループを引き出します（2）。

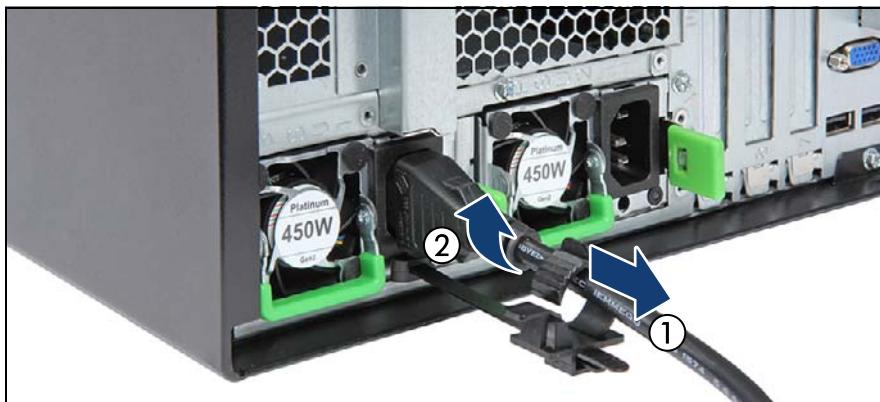


図 4: PSU ケーブルブラケットから電源コードを取り外す (B)

- ▶ 図のように、PSU ケーブルブラケットのループをさらに後方に引き出します (1)。
- ▶ 電源コードを PSU ケーブルブラケット (2) から取り外して、システムから抜きます。

## 4.4 ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し



### 注意！

- ラックを設置するときは、ラックが傾かないように傾き防止プレートを使用してください。傾き防止プレートがない状態でサーバをラックから取り出そうとすると、ラックが倒れる可能性があります。
- サーバを引き出したり、戻したりするときは、指や衣服をはさまないように注意してください。はざまれると怪我することがあります。
- 安全上の注意事項に関する詳細は、[41 ページ の「注意事項」の章](#)を参照してください。

#### 4.4.1 サーバをラックから引き出す

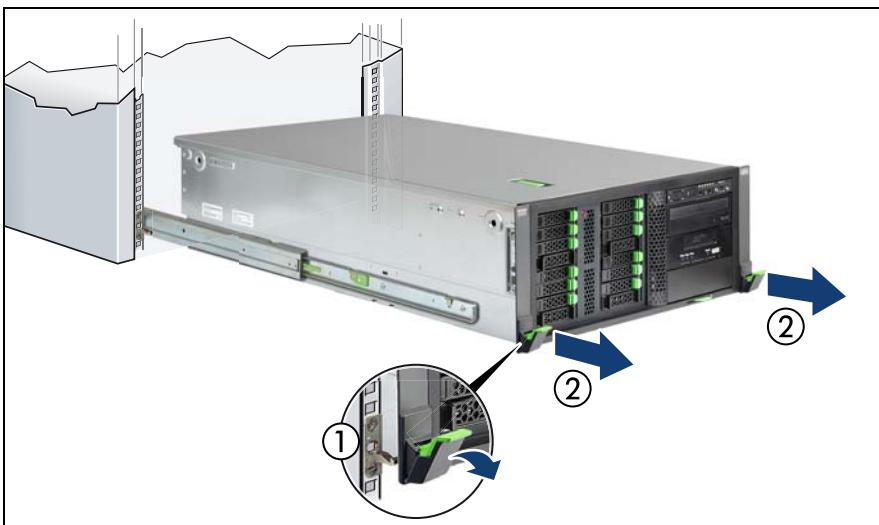


図 5: サーバをラックから引き出す

- ▶ 残りの外部ケーブルをすべて背面コネクタパネルと拡張カードから取り外します（[551 ページ の「コネクタと表示ランプ」の項を参照](#)）。
- ▶ ケーブル配線アーム（CMA キット）を使用していない場合、サーバをラックから引き出すときに、背面のケーブルが引っ張られたり、破損しないだけの十分な長さがあることを確認してください。
- ▶ ラック取り付けフレームの 2 本のクイックリリースレバーを倒し（1）、所定の位置に固定されるまでサーバをラックから引き出します（2）。



##### 注意！

引き出したサーバの上に物を置いたり、サーバの上で作業を行ったりしないでください。また、絶対にサーバには寄りかからないでください。

### 4.4.2 ラックからサーバを取り外す



多くの場合、保守作業はサーバをラックから引き出している状態で実行できます。ただし、作業およびセキュリティのガイドラインによつては、保守のためにサーバをラックキャビネットから完全に取り外すこともできます。



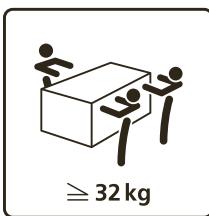
#### 注意！

サーバを持ち上げる場合は2人以上で行ってください。  
(日本市場の場合は『安全上のご注意』を参照してください)



#### 32 kg 未満の構成の場合：

サーバをラックキャビネットから取り出すには、最低2人必要です。



#### 55 kg 未満の構成の場合：

サーバをラックキャビネットから取り出すには、最低3人必要です。



#### 55 kg 以上の構成の場合：

サーバをラックキャビネットから取り出すには、最低4人必要です。

また、次の場合にはリフターが必要です。

- サーバの重量が50 kgを超える場合
- サーバの重量が21 kgを超え、25 U以上の高さに取り付けられている場合

リフターを使用する場合、この手順は保守担当者が実施する必要があります。

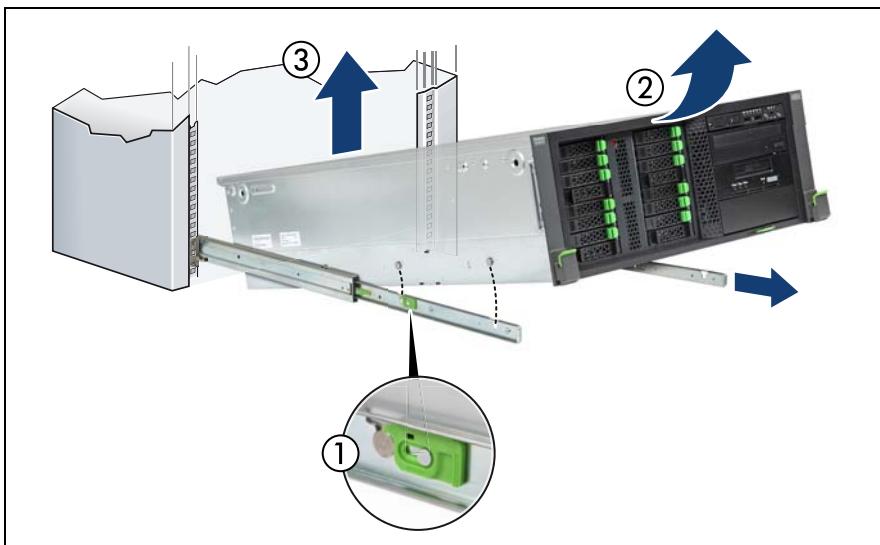


図 6: ラックからのサーバの取り外し

- ▶ 両側のレールのレバーを解除します（1）。
- ▶ 前面および中央のラック取り付けボルトがラックレールの取り付け位置から外れるように、図のようすにサーバの前面を持ち上げます（2）。
- ▶ サーバを背面取り付け位置（3）から持ち上げ、平らな面の上に置きます。

## 4.5 サーバを開ける



### 注意！

- カバーの取り外し、取り付けを行う前に、サーバおよびすべての周辺装置の電源を切ってください。また、感電や破損の恐れがあるため、電源コードを全てコンセントから抜いてください。
- 適用される EMC 要件（電磁環境適合性の要件）に準拠し、冷却要件を満たすため、トップカバーおよびサイドカバーが取り付けられていない状態でサーバを起動しないでください。
- 安全上の注意事項に関する詳細は、[41 ページ の「注意事項」の章](#)を参照してください。
- **TX2560 M2 のみ該当**：フロントカバーを持ってサーバを持ち上げないでください。HDD ベイカバーフックが破損する危険性があります。

### 4.5.1 ラックサーバ (RX2560 M2)

#### 4.5.1.1 トップカバーの取り外し

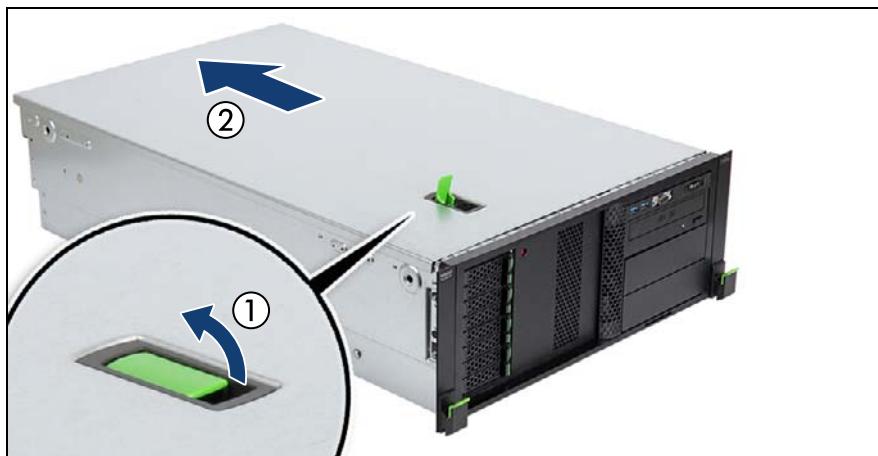


図 7: トップカバーの取り外し (ラックサーバ)

- ▶ レバーを開きます (1)。これによって、トップカバーがスライドして (2) ロック機構が外れます。

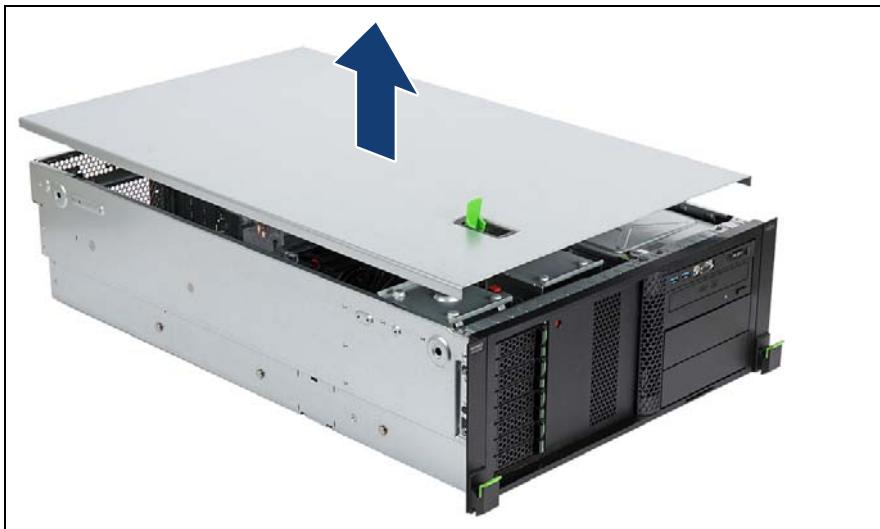


図 8: トップカバーの取り外し（ラックサーバ）

- ▶ トップカバーを取り外します。

#### 4.5.1.2 ID カードの取り外し



図 9: ID カードの取り外し（ラックサーバ）

- ▶ ID カードをサーバから取り出します。

**i** ID カードを取り出すときに、予想以上に力が必要な場合があります。ただし、過度に力を加えないでください。

### 4.5.1.3 ラックフロントカバーの取り外し



ラックフロントカバーは、プラスチック製フレームと、2つのラック取り付け用ブラケットで構成されます。詳細は、[505 ページ の「ラックフロントカバーの組み立て」](#)の項を参照してください。

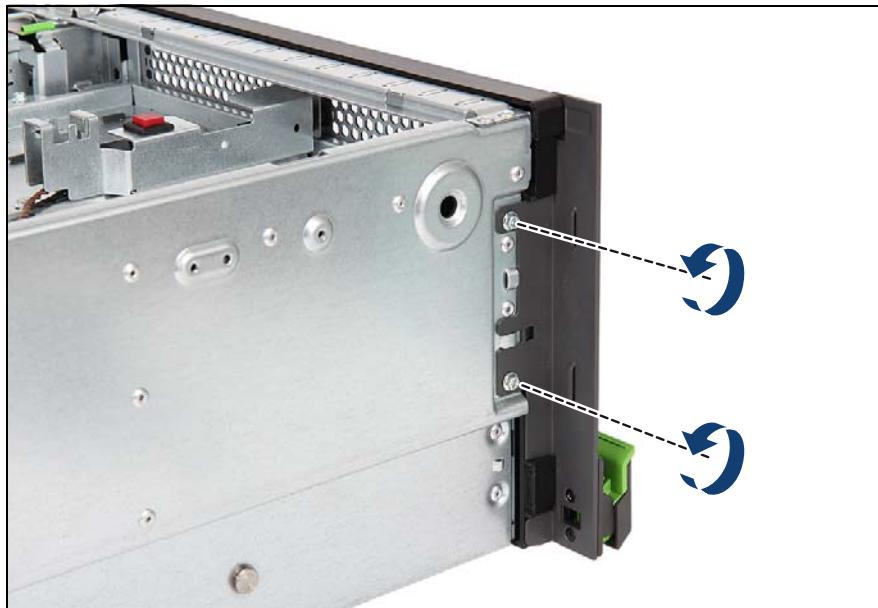


図 10: ラックフロントカバーの取り外し (A)

- ▶ ラックフロントカバーの片方の側のブラケットから 2 本のネジを取り外します。



図 11: ラックフロントカバーの取り外し (B)

- ▶ ロッキングラッチを押し下げて、ラックフロントカバーを少し開きます。

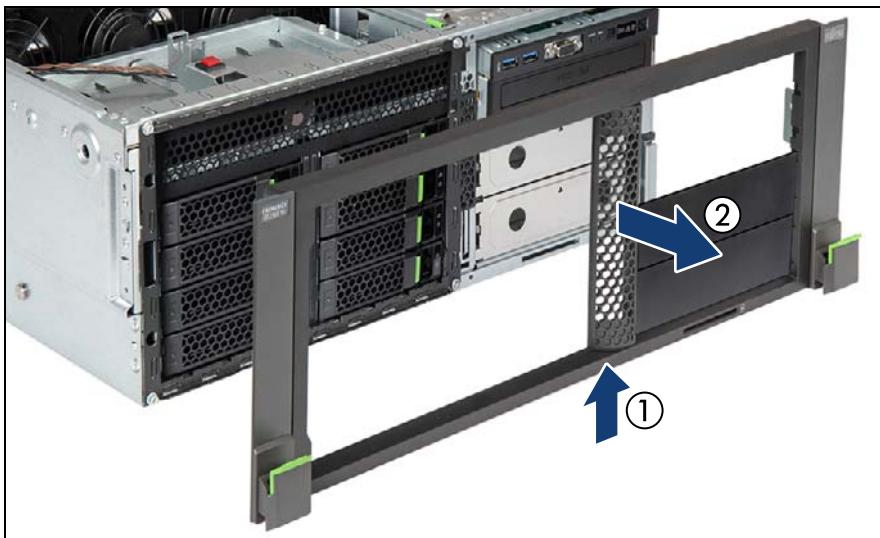


図 12: ラックフロントカバーの取り外し (C)

- ▶ プラスチック製フレームを押し上げて、下部のロッキングラッチを外します (1)。
- ▶ ラックフロントカバーを外し、前面に取り外します (2)。

### 4.5.2 タワーサーバ (TX2560 M2)

#### 4.5.2.1 サーバロックの解除

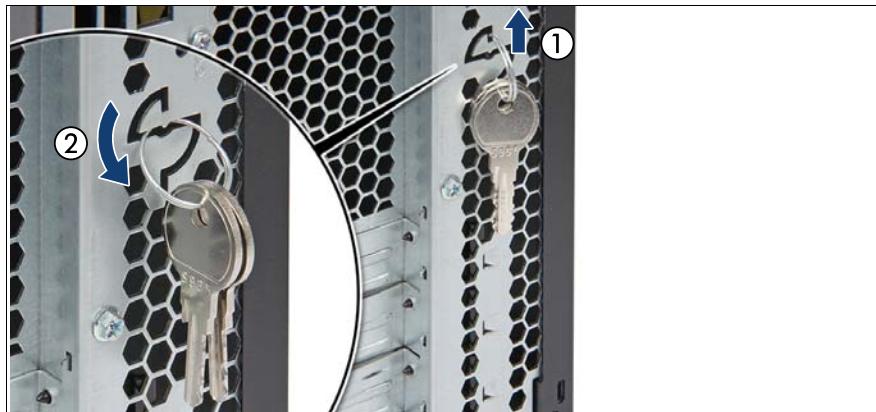


図 13: キーの取り外し

- ▶ キーリングを持ち上げて外します (1)。
- ▶ キーリングを反時計まわりに 90° 回転させます (2)。
- ▶ キーを付けたままキーリングをサーバ背面から取り外します。

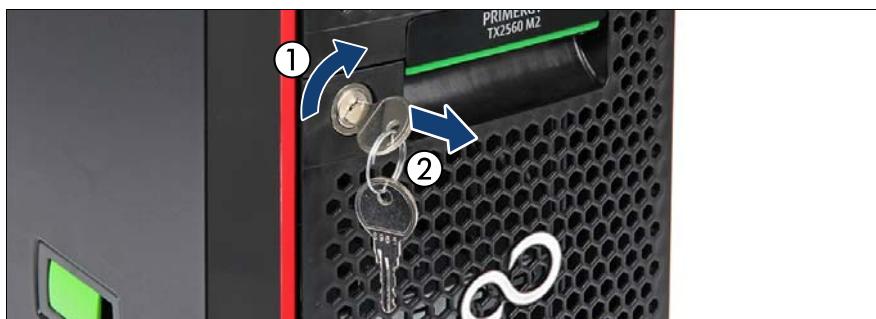


図 14: サーバロックの解除

- ▶ キーをサーバ前面の鍵穴に差し込みます。
- ▶ キーを時計回りに回転させ、フロントカバーとサイドカバーのロックを解除します (1)。
- ▶ サーバ前面からキーを抜き (2)、後で使えるように保管しておきます。

#### 4.5.2.2 サイドカバーの取り外し



図 15: サイドカバーの取り外し（タワーサーバ）

- ▶ レバーを開きます (1)。これによって、サイドカバーがスライドしてロック機構が外れます。
- ▶ サイドカバーを取り外します (2)。

### 4.5.2.3 アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し



図 16: アクセス可能なドライブベイカバーの取り外し

- ▶ ロックレバーを押し上げて (1)、アクセス可能なドライブベイカバーを開きます (2)。
- ▶ アクセス可能なドライブベイカバーをフロントカバーから取り外します。



図 17: HDD ベイカバーの取り外し

- ▶ HDD ベイカバーの上端のハンドルを引き出します。
- ▶ HDD ベイカバーをフロントカバーから開いて取り外します。

## アクセス可能なドライブベイカバーの保管



図 18: アクセス可能なドライブベイカバーの保管

- ▶ 図のように、アクセス可能なドライブベイカバーを HDD ベイカバーへ置きます。

### 4.5.2.4 ID カードの取り外し



図 19: ID カードの取り外し（タワーサーバ）

- ▶ ID カードをサーバから取り出します。



ID カードを取り出すときに、予想以上に力が必要な場合があります。ただし、過度に力を加えないでください。

### 4.5.2.5 フロントカバーの取り外し

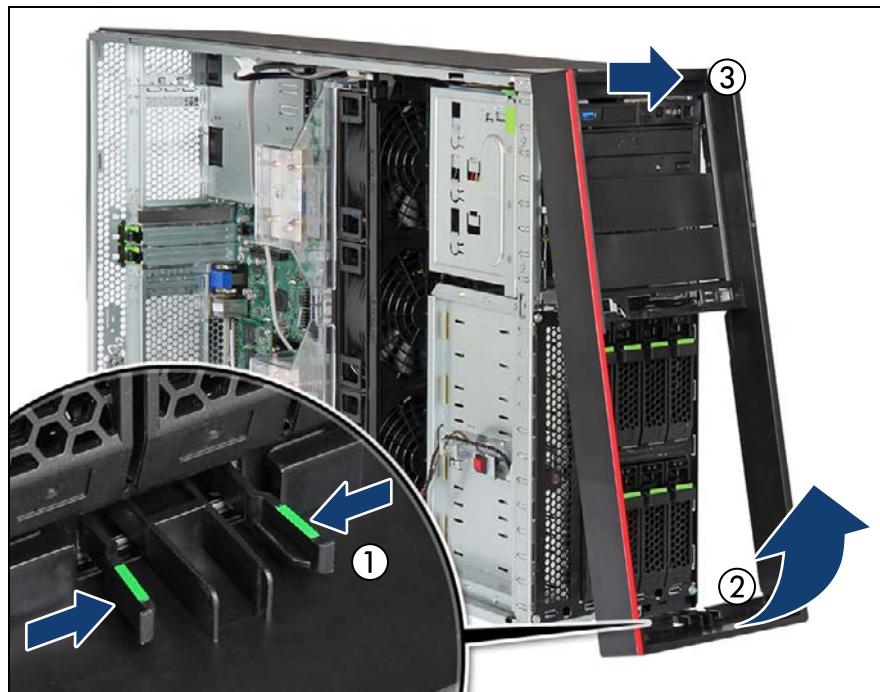


図 20: フロントカバーの取り外し（タワーサーバ）

- ▶ ロッキングラッチをつまんで少し引き出しながら、フロントカバーを取り外します（1、拡大された部分を参照）。
- ▶ フロントカバーの下端をゆっくりと開きます（2）。
- ▶ フロントカバーのロックを解除して取り外します（3）。

## 4.6 サーバを閉じる



### 注意！

- カバーを取り付ける前に、不要な部品や道具がサーバ内に残っていないことを確認してください。
- 適用される EMC 要件（電磁環境適合性の要件）に準拠し、冷却要件を満たすため、トップカバーおよびサイドカバーが取り付けられていない状態でサーバを起動しないでください。
- 安全上の注意事項に関する詳細は、41 ページの「注意事項」の章を参照してください。

### 4.6.1 ラックサーバ (RX2560 M2)

#### 4.6.1.1 ラックの取り付けフレームの取り付け



図 21: ラックの取り付けフレームの取り付け (A)

- ▶ サーバ前面にラックの取り付けフレームを取り付けます。
- ▶ 図の拡大された部分のように、ラック取り付け用ブラケットが、シャーシの両側に正しくはめ込まれていることを確認します。

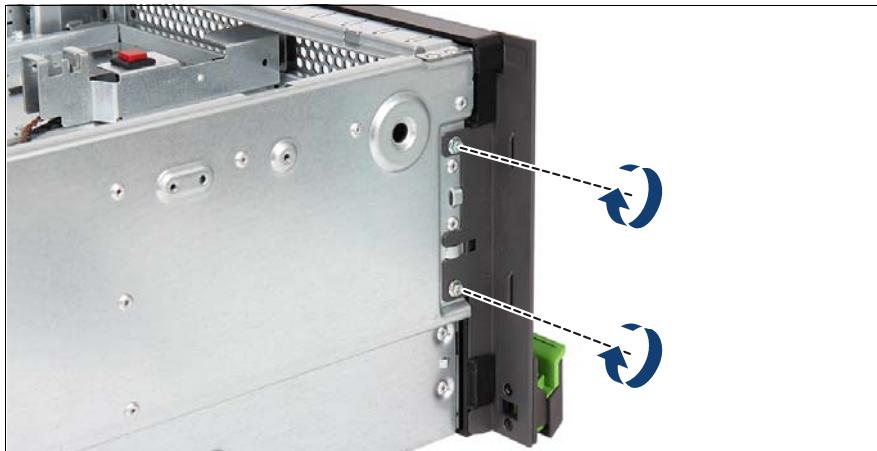


図 22: ラックの取り付けフレームの取り付け (B)

- ▶ ラック取り付け用ブラケットが、シャーシの両側に正しくはめ込まれていることを確認します。
- ▶ ラックフロントカバーを 2 本の M3 × 4.5 mm ネジで両側に固定します。

### 4.6.1.2 ID カードの取り付け

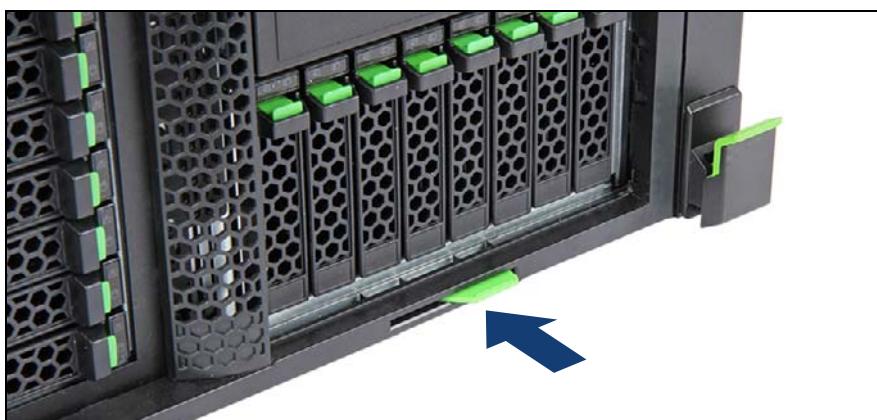


図 23: ID カードの取り付け (ラックサーバ)

- ▶ 図のように、ID カードをスロットに差し込み、所定の位置にはまるまでスライドさせます。

#### 4.6.1.3 トップカバーの取り付け

**i** 最大 32x 2.5 インチ HDD/SSD モジュールを搭載する構成のサーバに関する注記：

この構成では、ロックレバーがもっと中央にあります。このトップカバーは他の構成では使用できません。

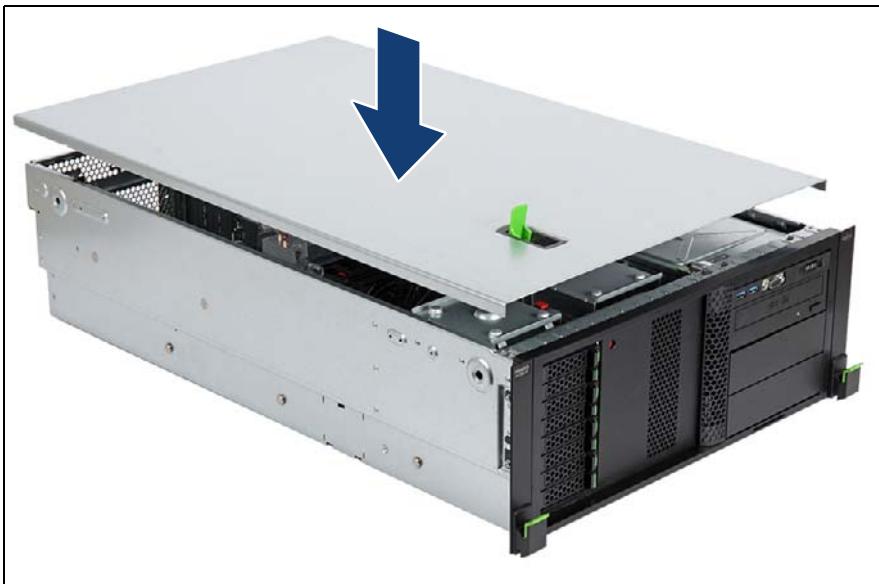


図 24: トップカバーの取り付け（ラックサーバ）(A)

- ▶ 上面カバーのロックレバーを開きます。
- ▶ トップカバーを 2cm ずらしてシャーシにかぶせます。

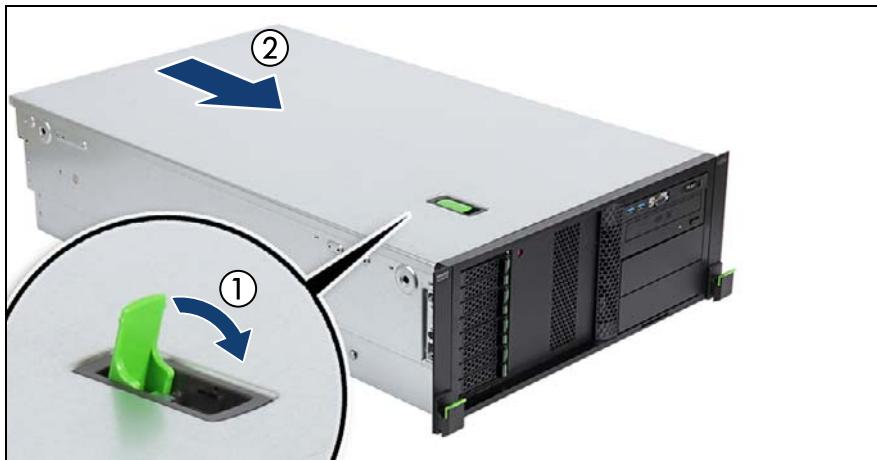


図 25: トップカバーの取り付け（ラックサーバ）(B)

- ▶ トップカバーのロックレバーを閉じます（1）。これによって、トップカバーがスライドしてロック機構（2）がロックされます。

## 4.6.2 タワーサーバ (TX2560 M2)

### 4.6.2.1 フロントカバーの取り付け



図 26: フロントカバーの取り付け（タワーサーバ）(A)

- ▶ フロントカバー上端にある 2 つのタブをシャーシの留め具に掛けます。



図 27: フロントカバーの取り付け（タワーサーバ）(B)

- ▶ フロントカバーの下端にあるロックギングラッチがはまるまで (2)、フロントカバーを倒します (1)。

### 4.6.2.2 ID カードの取り付け



図 28: ID カードの取り付け (タワーサーバ)

- ▶ 図のように、ID カードをスロットに差し込み (1)、所定の位置にはまるまでスライドさせます (2)。

#### 4.6.2.3 アクセス可能なドライブとHDDベイカバーの取り付け



図29: HDDベイカバーの取り付け

- ▶ 図のように、HDDベイカバーをフロントカバーに差し込みます（1）。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、HDDベイカバーを押し込みます（2）。



図30: アクセス可能なドライブベイカバーの取り付け

- ▶ 図のように、アクセス可能なドライブベイカバーをフロントカバーに差し込みます（1）。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、アクセス可能なドライブベイカバーを押し込みます（2）。

### 4.6.2.4 サイドカバーの取り付け



最大 32x 2.5 インチ HDD/SSD モジュールを搭載する構成のサーバに関する注記：

この構成では、ロックレバーがもっと中央にあります。このトップカバーは他の構成では使用できません。



図 31: サイドカバーの取り付け（タワーサーバ）(A)

- ▶ サイドカバーのロックレバーを回転させて開きます。
- ▶ サイドカバーを 2cm ずらしてシャーシにかぶせます。



図 32: サイドカバーの取り付け（タワーサーバ）(B)

- ▶ サイドカバーのロックレバーを閉じます（1）。これによって、トップカバーがスライドしてロック機構（2）がロックされます。



キーロックは「ロック解除」の位置になります。

### 4.6.2.5 サーバのロック



図 33: サーバのロック

- ▶ セキュリティ要件で必要な場合は、次の手順でサーバをロックしてください。
  - ▶ キーをサーバ前面の鍵穴に差し込みます（1）。
  - ▶ キーを反時計回りに回転させ、フロントカバーとサイドカバーをロックします（2）。
  - ▶ キーをサーバ前面から取り出します。

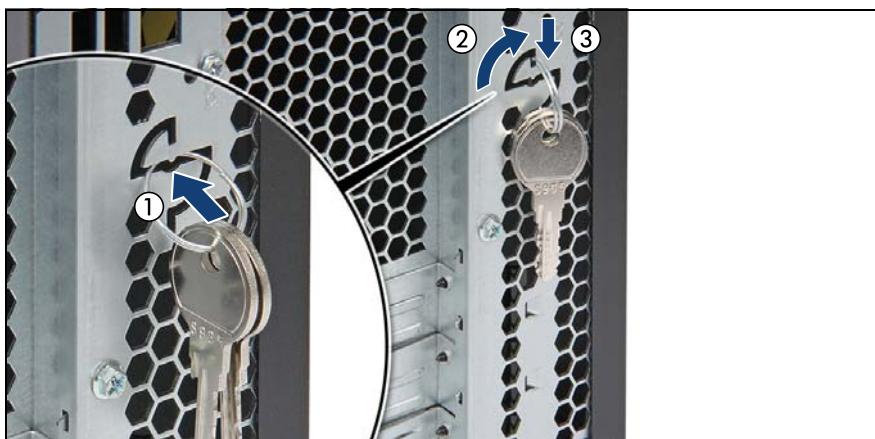


図 34: キーリングの保管

- ▶ キーリングをサーバ背面のスロットに差し込みます（1）。
- ▶ 図のように、キーリングがラッチ留めされるまで（3）。90° 時計回りに回転させます（2）。

## 4.7 ラックへサーバを取り付ける

### 4.7.1 ラックレールへのサーバの取り付け



#### 注意！

サーバを持ち上げる場合は 2 人以上で行ってください。（日本市場の場合は『安全上のご注意』を参照してください）



#### 32 kg 未満の構成の場合：

サーバをラックキャビネットへ取り付けるには、最低 2 人必要です。



#### 55 kg 未満の構成の場合：

サーバをラックキャビネットへ取り付けるには、最低 3 人必要です。



#### 55 kg 以上の構成の場合：

サーバをラックキャビネットへ取り付けるには、最低 4 人必要です。

また、次の場合にはリフターが必要です。

- サーバの重量が 50 kg を超える場合
- サーバの重量が 21 kg を超え、25 U 以上の高さに取り付けられる場合

リフターを使用する場合、この取り付け手順は保守担当者が実施する必要があります。

## 基本的なハードウェア手順

- i** その他のラックレールキットの詳細については、ラックキャビネットのマニュアルを参照してください。
- ▶ 必要に応じて、『Rack Mounting Kit - RMK-F2 Drop-In』の取り付け手順に記載されているように、ラック取り付けブラケットとラックシステムをラックに取り付けます。
- i** ラック取り付けキットに、印刷されたポスターが付属しています。

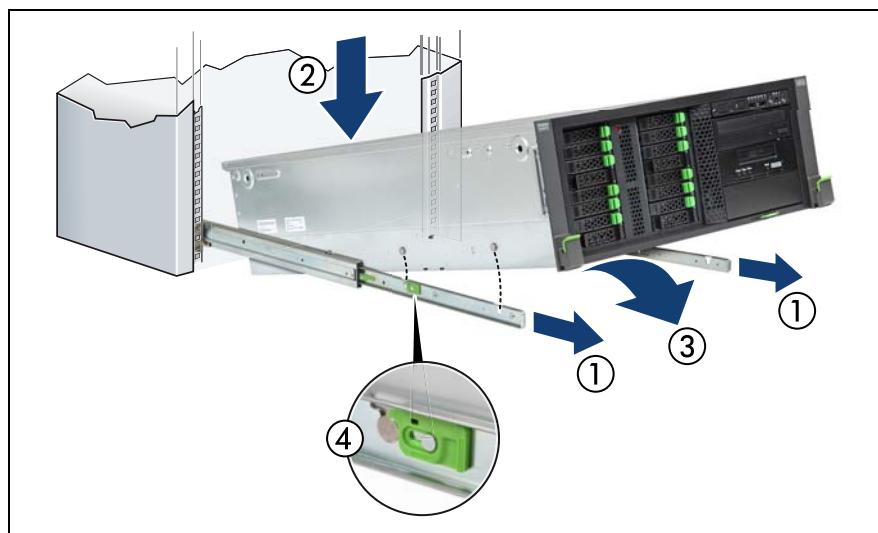


図 35: ラックレールへのサーバの取り付け

- ▶ ラックレールを、ロックされるまで完全に引き出します（1）。
- ▶ 少し斜めにして、サーバをラックレールの背面取り付け位置まで下げます（2）。
- ▶ サーバを倒します（3）。6本の取り付けボルトがすべて、ラックレールの取り付け位置にしっかりと固定され、レバーがロックされていることを確認します（4）。

#### 4.7.2 ラックにサーバを格納する

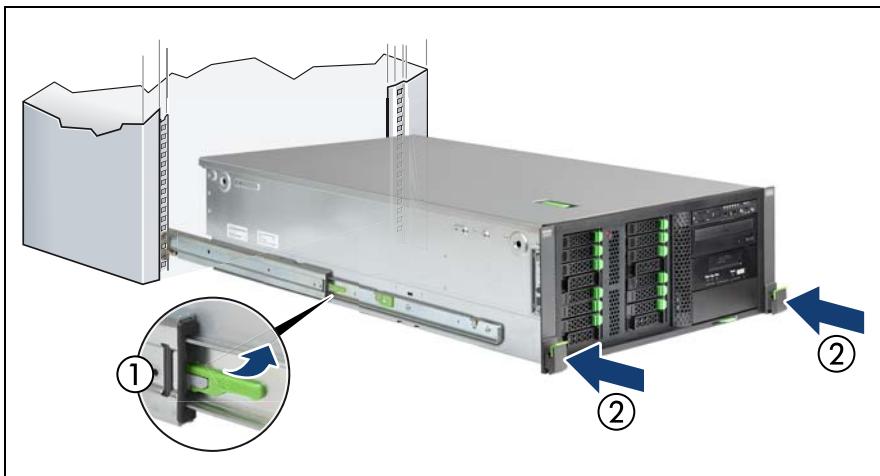


図 36: ラックにサーバを格納する

- ▶ 両方のラックレールでロックングラッチを持ち上げます（1）。
- ▶ ラック取り付けフレームのクイックリリースレバーが所定の位置に固定されるまで、サーバをラックの中に最後までスライドさせます（2）。
- ▶ サーバ背面への電源コード以外のすべてのケーブルを再び接続します。



ケーブル配線アーム（CMA キット）を使用していない場合、サーバをラックから引き出すときに、背面のケーブルが引っ張られたり、破損しないだけの十分な長さがあることを確認してください。

リリースタイを使用して、緩んだケーブルが通気を邪魔しないようにします。

電源コードの接続および取り付けについては、[84 ページ の「電源コードの接続」](#)の項を参照してください。

### 4.8 電源コードの接続



#### 注意！

このサーバは、100 V ~ 240 V の範囲内の主電源電圧をサポートします。所在地の主電源電圧が定格電圧範囲に対応する場合のみ、サーバが動作します。

- ▶ 電源コードを電源ユニットに接続します。
- ▶ 主電源プラグを屋内電源の接地された電源コンセント、またはラックの電源タップに接続します（『PRIMECENTER Rack System』組み立てガイドも参照）。



サーバの電源がオンになるまで約 60 秒かかります。

#### 4.8.1 電源コードの固定（電源ストレインリリーフ）

##### PSU ケーブルブラケットの取り付け

PSU ケーブルブラケットが電源モジュールにまだ取り付けられていない場合は、次の手順に従います。

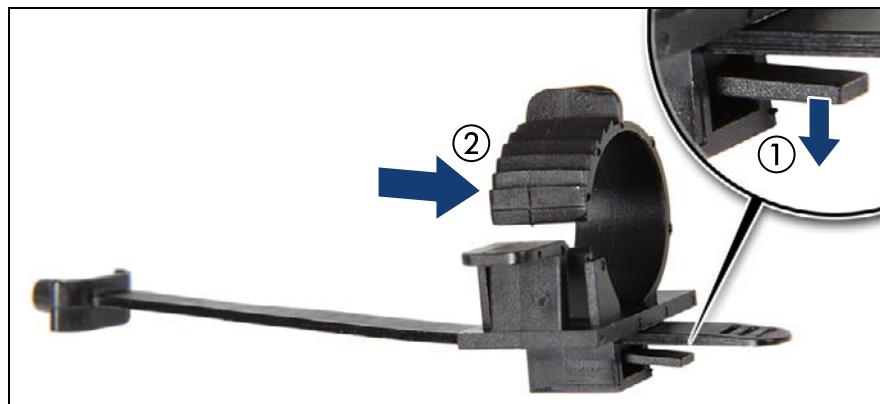


図 37: PSU ケーブルブラケットの準備

- ▶ PSU ケーブルブラケットのロックレバーを押し下げて（1）、PSU ケーブルブラケットの固定場所から最後までループを引き出します（2）。



図 38: PSU ケーブルブラケットの取り付け

- ▶ 電源モジュールの取り付け穴を見つけます。
- ▶ PSU ケーブルブラケットを電源モジュールの取り付け穴に取り付けます。  
**i** PSU ケーブルブラケットは、一度取り付けると PSU モジュールから取り外せなくなります。

#### PSU ケーブルブラケットへの電源コードの固定

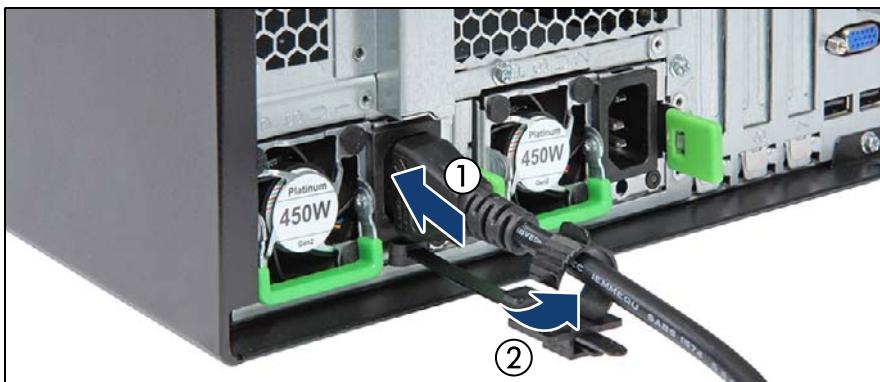


図 39: 電源コードの固定 (A)

- ▶ 電源コードを電源ユニットに接続します (1)。
- ▶ (2) のように、電源コードを PSU ケーブルブラケットに通します。

## 基本的なハードウェア手順

- ▶ PSU モジュールの PSU 表示ランプが緑色で点灯していることを確認してください。

**i** PSU の動作状態の詳細は、[559 ページ の「PSU 表示ランプ」](#) の項を参照してください。



図 40: 電源コードの固定

- ▶ PSU ケーブルブラケットのループをコードグリップの上でスライドさせます (1)。PSU ケーブルブラケットのループがコードグリップに正しくはめ込まれていることを確認します。
- ▶ 図のようにコードグリップの周りのループを閉じ (2)、電源コードを固定します。
- ▶ 同様の手順で残りのすべての電源コードを固定します。

## 4.9 サーバの電源投入



### 注意！

- サーバの電源電源投入前に、トップカバーおよびサイドカバーが閉まっていることを確認してください。適用される EMC 要件（電磁環境適合性の要件）に準拠し、冷却要件を満たすため、トップカバーおよびサイドカバーが取り付けられていない状態でサーバを起動しないでください。
  - サーバを主電源に接続した後、サーバがスタンバイモードに切り替わるまで約 60 秒かかります。
  - [41 ページ の「注意事項」の章](#)の安全についての注意事項に従ってください。
- ▶ すべての周辺装置ケーブルをサーバの背面コネクタパネルに接続します。
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#)の項に記載されているように、電源コードを接続して固定します。
- ▶ 電源コードをすべてコンセントに接続します。
- i** 完全な位相冗長性を実現するため、2 台目の電源ユニットをその他の電源からの別の AC 電源に接続してください。1 つの AC 電源が故障しても、サーバは稼働を継続します。
- ▶ 電源ボタンを押してサーバを起動します。
- ▶ 電源表示ランプが緑色に点灯していることを確認します。



詳細は、[560 ページ の「フロントパネルのコントロールと表示ランプ」](#)の項を参照してください。

## 4.10 システム送風ダクトの取り扱い

### 4.10.1 システム送風ダクトの取り外し

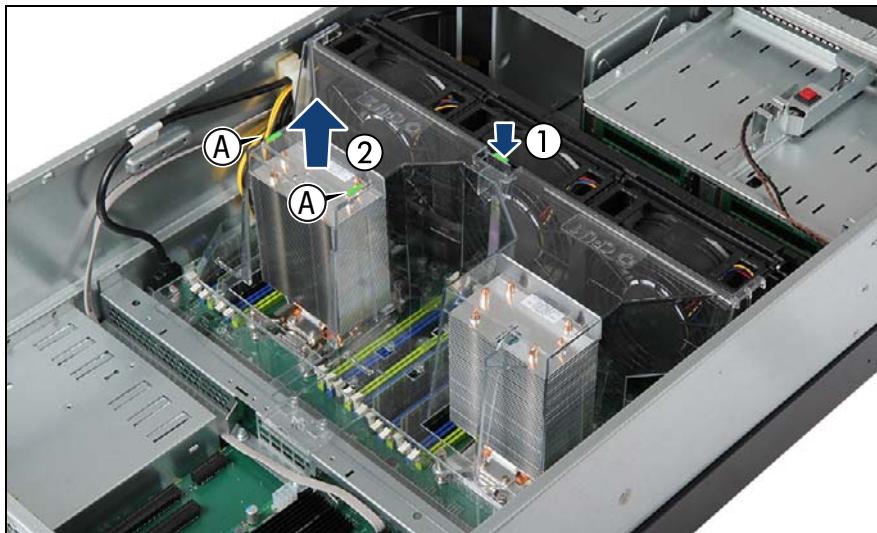


図 41: システム送風ダクトの取り外し

- ▶ システム送風ダクトを少し持ち上げながら、ロッキングタブを押します (1)。
- ▶ システム送風ダクトをシャーシから取り外します (2)。緑色のタッチポイント (A) を使用してシステム送風ダクトをつかみます。

#### 4.10.2 システム送風ダクトの取り付け

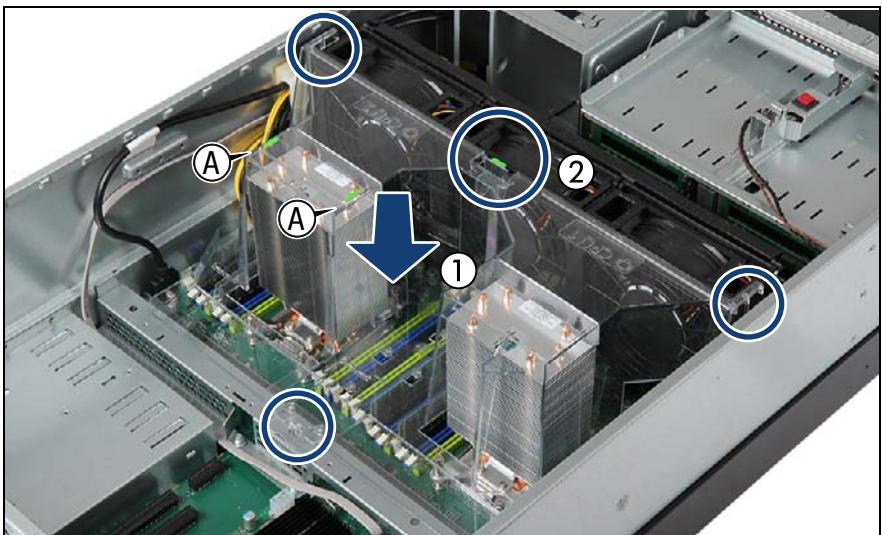


図 42: システム送風ダクトの取り付け

- ▶ ロッキングタブ（2）がはまるまで、システム送風ダクトをシャーシに慎重に押し下げます（1）。緑色のタッチポイント（A）を使用してシステム送風ダクトをつかみます。システムファンホルダーの穴とクロスバー中心の穴に注意します。

## 4.11 システムファンホルダーの取り扱い

### 4.11.1 システムファンホルダーの取り外し

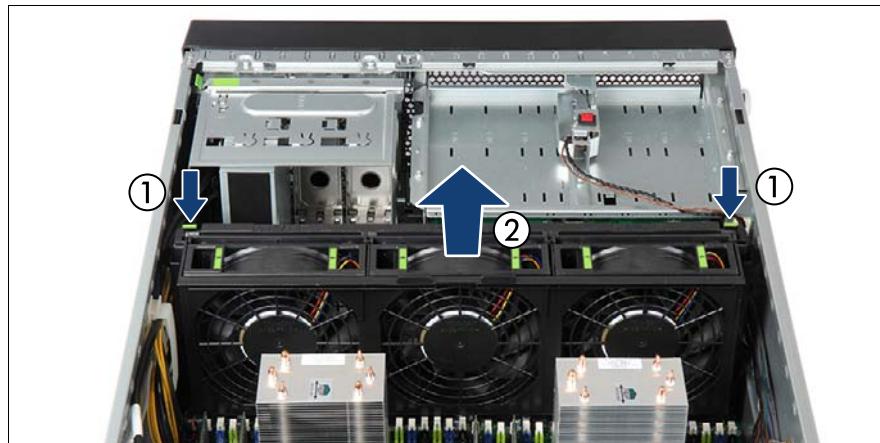


図 43: システムファンホルダーの取り外し

- ▶ システムファンホルダーを少し持ち上げながら、2つのロッキングタブを押します（1）。
- ▶ システムファンホルダーをシャーシから取り外します（2）。

#### 4.11.2 システムファンホルダーの取り付け

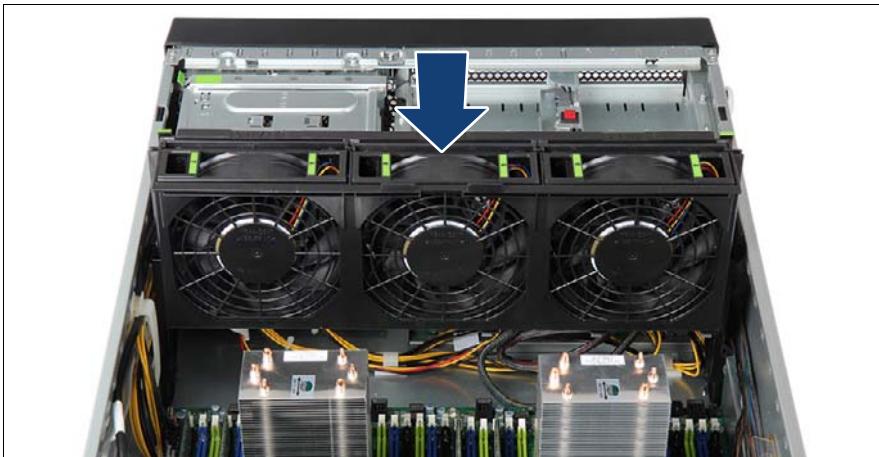


図 44: システムファンホルダーの取り付け (A)

- ▶ システムファンホルダーを 2 つのガイドに挿入します。  
システムファンホルダーでケーブルを傷つけないようにしてください。

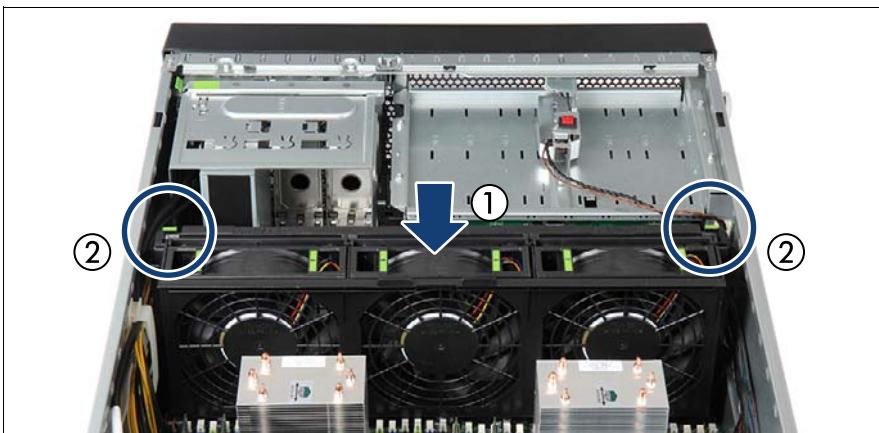


図 45: システムファンホルダーの取り付け (B)

- ▶ 2 つのロッキングタブ (2) がはまるまで、ファンホルダーをシャーシに慎重に押し下げます (1)。

## 4.12 ライザーモジュールの取り扱い

### 4.12.1 ライザーモジュールの取り付け

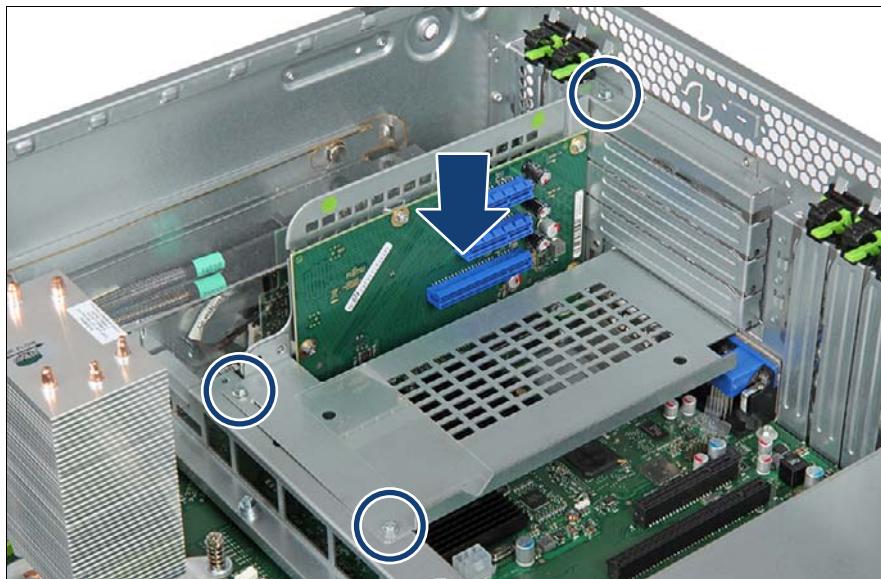


図 46: ライザーモジュールの取り付け - ライザーモジュールの例 1

- ▶ ライザーモジュールを挿入します。
- ▶ ライザーカードが PCIe ソケットに完全にはまるまで、ライザーモジュールをそっと押し込みます。
- ▶ ライザーモジュールを 3 本のネジ（丸で囲んだ部分）でシャーシの内側に固定します。



しっかりとネジをしめてください。

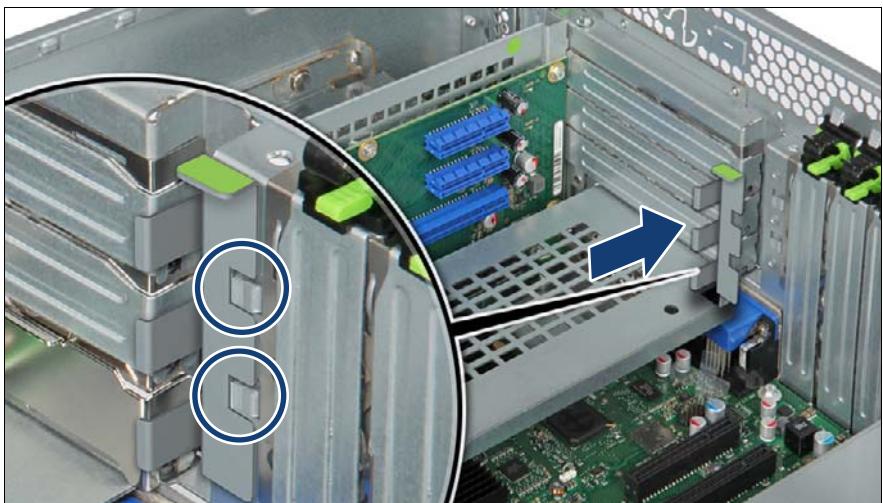


図 47: スロットカバーロックの取り付け - パ

- ▶ スロットカバーロックを 3 つのスロットカバーの横の隙間に挿入します。内側にあるガイ（丸で囲んだ部分）はスロットカバーロックの切れ込みに正しく取り付けられているかどうか確認します。

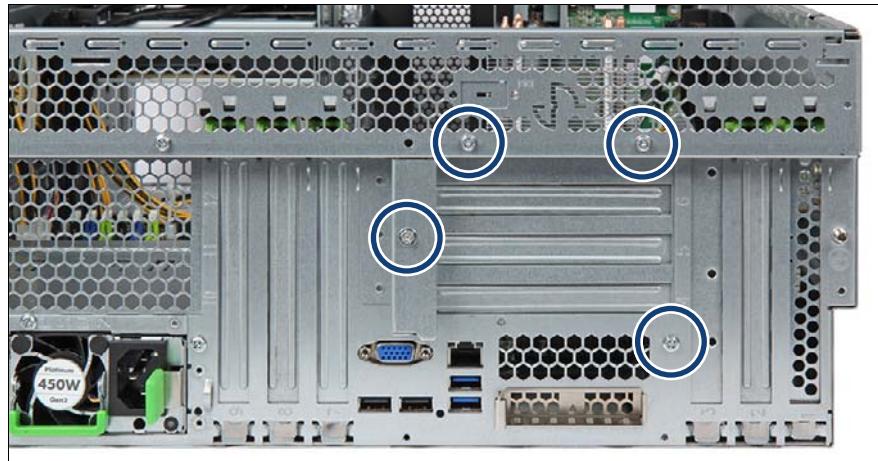


図 48: ライザーモジュールの取り付け - ライザーモジュールの例 1

- ▶ ライザーモジュールを 4 本のネジ（丸で囲んだ部分）で背面に固定します。



ネジを締める際は、あまり力をいれずに締めてください。

スロットカバーロックのネジを締めるときに、ネジを無理に締めないでください。スロットカバーロックが外れることがあります。

#### 4.12.2 ライザーモジュールの取り外し

- ▶ 背面の 4 本のネジを取り外します（図 48 の丸で囲んだ部分を参照）。

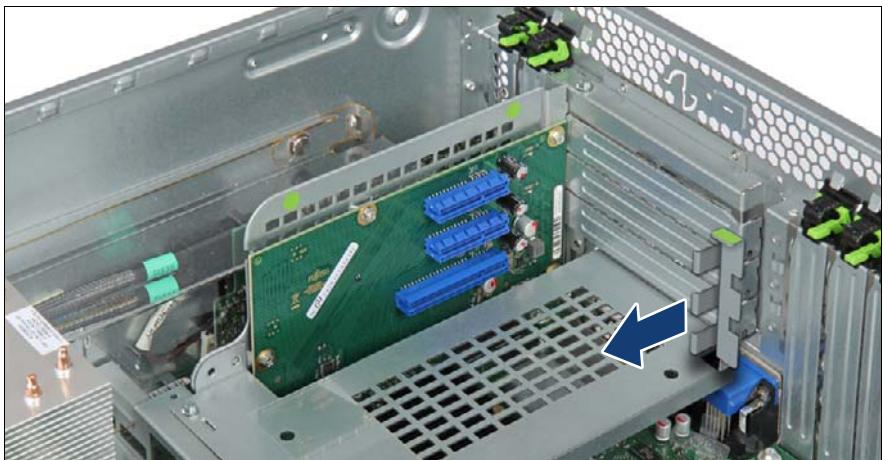


図 49: スロットカバーロックの取り外し - バージョン 2

- ▶ スロットカバーロックを取り外します。

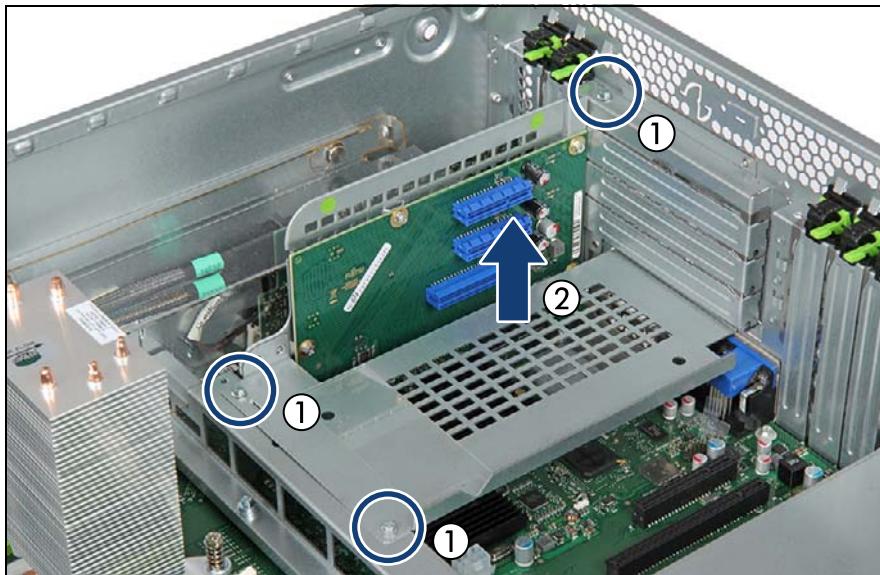


図 50: ライザーモジュールの取り外し - ライザーモジュールの例 1

- ▶ シャーシの内側の 3 本のネジを取り外します（1、丸で囲んだ部分）。
- ▶ ライザーモジュールを慎重に取り外します（2）。

## 4.13 アクセス可能なドライブベイの取り扱い

### 4.13.1 アクセス可能なドライブのロックを開く

#### 4.13.1.1 タワーサーバ (TX2560 M2)

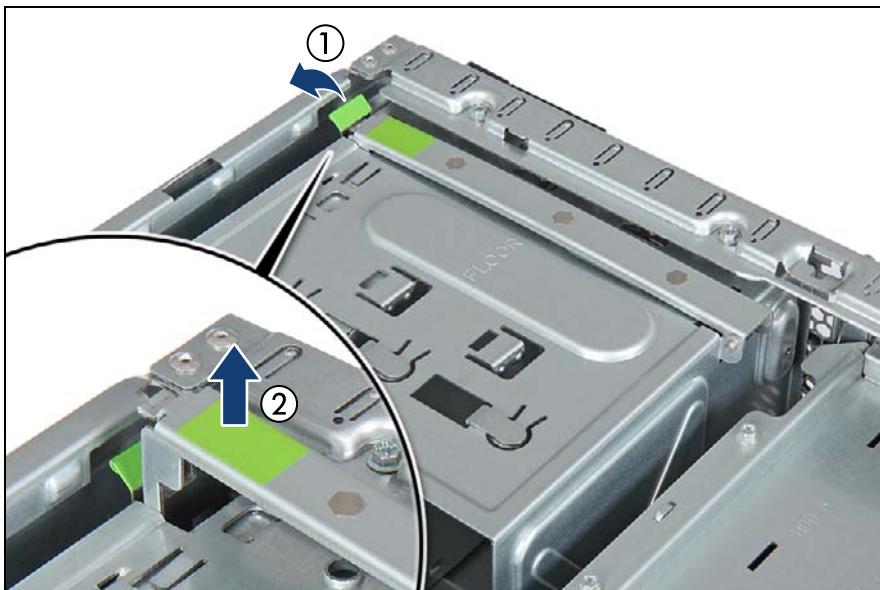


図 51: アクセス可能なドライブのロックを開く（タワーサーバ）

- ▶ ロッキングラッチを押して、アクセス可能なドライブのロックを外します（1）。
- ▶ アクセス可能なドライブのロッキングバーを持ち上げます（2）。

### 4.13.1.2 ラックサーバ (RX2560 M2)

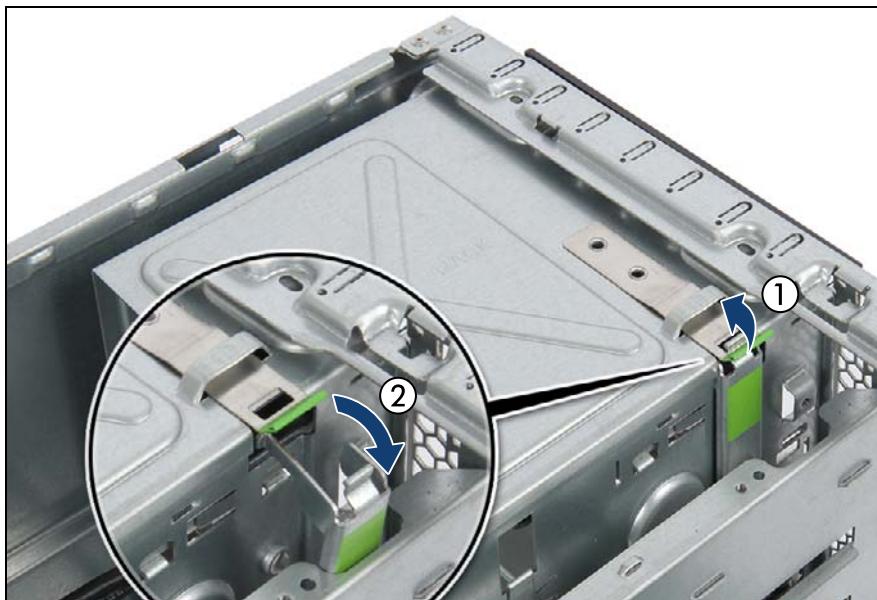


図 52: アクセス可能なドライブのロックを開く（ラックサーバ）

- ▶ ロッキングラッチを引き上げて、アクセス可能なドライブのロックを外します（1）。
- ▶ アクセス可能なドライブのロックを開きます（2）。

## 4.13.2 アクセス可能なドライブのロックを閉じる

### 4.13.2.1 タワーサーバ (TX2560 M2)

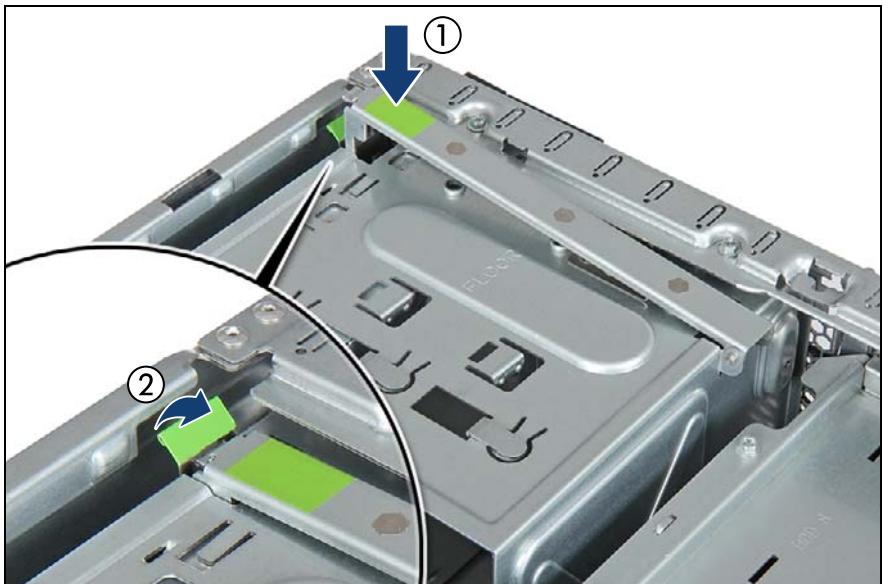


図 53: アクセス可能なドライブのロックを閉じる（タワーサーバ）

- ▶ ロッキングバー（1）を閉じてロックします（2）。

### 4.13.2.2 ラックサーバ (RX2560 M2)

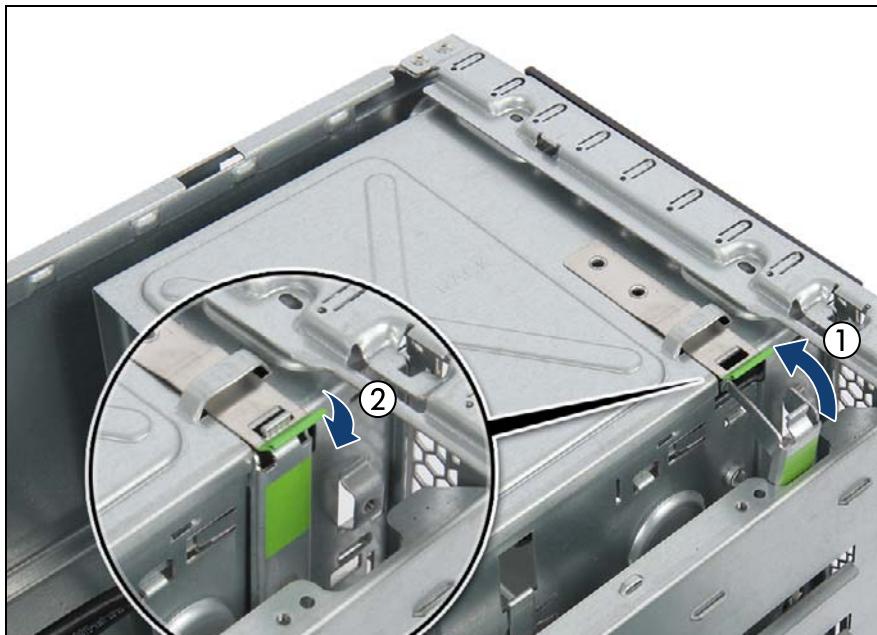


図 54: アクセス可能なドライブのロックを閉じる（ラックサーバ）

- ▶ 所定の位置にはまるまで、ロック（1）を押し込みます（2）（拡大された部分を参照）。

### 4.13.3 アクセス可能なドライブのフィラーカバー

#### 4.13.3.1 アクセス可能なドライブのフィラーカバーの取り外し



図 55: アクセス可能なドライブのフィラーカバーの取り外し

- ▶ 2つのツマミでアクセス可能なドライブフィラーカバーを持ち、目的の取り付けベイから引き出します。



#### 注意！

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していないドライブベイにフィラーカバーを必ず装着してください。

### 4.13.3.2 アクセス可能なドライブフィラーカバーの取り付け

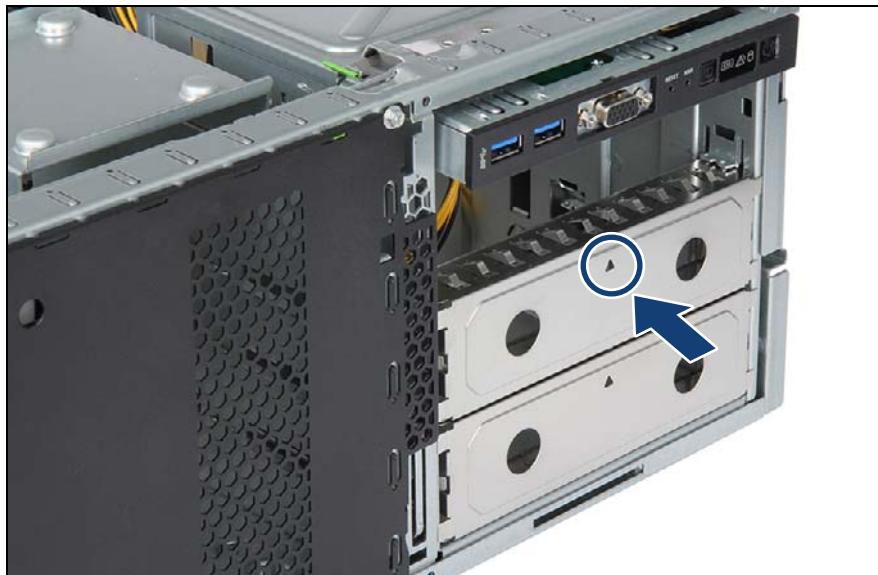


図 56: アクセス可能なドライブフィラーカバーの取り付け

- ▶ アクセス可能なドライブフィラーカバーを 2 つの指穴で持ち、矢印の形に開けられた穴を上に向けて、空いているインストールベイに挿入します（丸で囲んだ部分）。



#### 注意！

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していないドライブベイにフィラーカバーを必ず装着してください。

#### 4.13.4 アクセス可能なドライブのカバー

##### 4.13.4.1 アクセス可能なドライブのカバーの取り外し



図 57: アクセス可能なドライブのカバーの取り外し

**i** アクセス可能なドライブカバーの取り外しについては、タワーサーバの例で説明されています。ラックフロントカバーの場合、手順は同じです。

- ▶ フロントカバーを裏返します。
- ▶ ドライブカバーの両側の突起を押します。
- ▶ アクセス可能なドライブのカバーを持ち上げて (1) 取り外します (2)。

### 4.13.4.2 アクセス可能なドライブカバーの取り付け



図 58: アクセス可能なドライブカバーの取り付け



アクセス可能なドライブカバーの取り付けについては、タワーサーバの例で説明されています。ラックフロントカバーの場合、手順は同じです。

- ▶ アクセス可能なドライブフィラーカバーが空いている各ドライブベイに取り付けられていることを確認します。
- ▶ フロントカバーを裏返します。
- ▶ アクセス可能なドライブカバーの片方の端にある 2 つの突起を、フロントカバーの右内側の端に結合します（1）。
- ▶ 所定の位置にはまるまで、アクセス可能なドライブカバーを倒します（2）。

## 4.14 フットスタンドの取り扱い

### 4.14.1 フットスタンドの取り付け



図 59: フットスタンドの取り付け (A)

- ▶ フットスタンドをサーバ背面の下端に取り付けます。

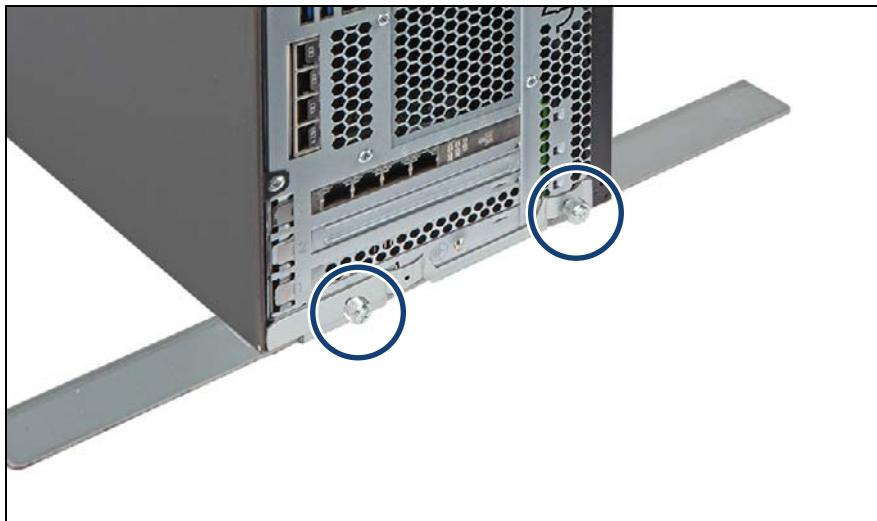


図 60: フットスタンドの取り付け (B)

- ▶ フットスタンドをサーバ背面に 2 本のつまみネジで固定します。

### 4.14.2 フットスタンドの取り外し

- ▶ フットスタンドの 2 本のつまみネジを緩めます (図 60 を参照)。
- ▶ フットスタンドをサーバ背面から取り外します。

# 5 基本的なソフトウェア手順

## 5.1 保守作業の開始

### 5.1.1 BitLocker 機能の中断

BitLocker ドライブ暗号化は、内容を暗号化して、情報にアクセスする際にはユーザーに資格情報の認証を要求して、OS とデータドライブを保護します。オペレーティングシステムドライブでは、BitLocker は互換性のある Trusted Platform Module (TPM) を使用してコンピュータの起動プロセスが元の状態から変更されているかどうかを検出します。

 互換性のある TPM を使用せずに BitLocker を使用する方法の追加情報については、<http://technet.microsoft.com/library/cc731549.aspx> の「Windows BitLocker ドライブ暗号化」のページを参照してください。

BitLocker ドライブ暗号化の中断は、Windows がインストールされているドライブを暗号化せずに BitLocker 保護を解除する、一時的な手段です。BitLocker は、サーバのハードウェア構成や起動ファイルを変更する前に中断にしてください。保守手順が完了したら、再び BitLocker を再開にします。



#### 注意！

- BitLocker 機能を有効にしてシステム構成（ハードウェアまたはファームウェア設定）を変更すると、システムにアクセスできなくなる場合があります。システムがリカバリモードになり、通常動作に戻るには 48 行のリカバリパスワードが必要になります。  
サーバの保守を行う前に、BitLocker ドライブ暗号化を中断してください。
  - 中断にした場合、BitLocker は Trusted Platform Module (TPM) ではなくブレーンテキストのキーを使用して暗号化されたファイルを読み取ります。BitLocker を再度有効にするまで、このドライブの情報は安全ではないことに注意してください。
- ▶ システム管理者に連絡して、「コントロールパネル」の「BitLocker ドライブ暗号化」を使用して、システムボリュームの BitLocker 保護を中断します。
-  これにより、BitLocker が保守のために中断されます。ボリュームは復号化されず、キーは破棄されません。

### Windows Server 2008

- ▶ 「スタート」ボタンをクリックして、「コントロールパネル」から「セキュリティ」を選択し、「BitLocker ドライブ暗号化」をクリックして、BitLocker ドライブ暗号化を開きます。
- ▶ システムボリュームを選択して「BitLocker をオフにする」をクリックします。
- ▶ 「BitLocker ドライブ暗号化」ダイアログで「BitLocker を無効します」をクリックします。

### Windows Server 2008 R2 以降

- ▶ 「スタート」ボタンをクリックして、「コントロールパネル」から「システムとセキュリティ」を選択し、「BitLocker ドライブ暗号化」をクリックして、BitLocker ドライブ暗号化を開きます。
- ▶ システムボリュームを選択して「保護の中断」をクリックします。
- ▶ 「はい」をクリックして、BitLocker の中断中にデータが保護されないことを確定します。

**i** BitLocker セットアップウィザードからアクセスできる機能を指定するには、BitLocker グループポリシーの設定を変更する必要がある場合があります。

BitLocker ドライブ暗号化を中断にする方法については、Microsoft TechNet ライブラリ (<http://technet.microsoft.com/library/cc731549.aspx>) を参照してください。

Fujitsu Web ページで詳細情報をご確認ください（日本語版もあります）。

## 5.1.2 SVOM Boot Watchdog 機能の無効化

ServerView Operations Manager boot watchdog は、あらかじめ設定した時間内にサーバが起動するかどうかを判定します。Watchdog タイマーが切れるとき、システムは自動的にリブートします。

### 5.1.2.1 Boot watchdog 設定の表示

#### BIOS での Boot watchdog 設定の表示

- ▶ BIOS に移行します。

- ▶ 「Server Mgmt」メニューを選択します。
  - ▶ 「Boot Watchdog」に、現在の watchdog ステータス、タイムアウト間隔、watchdog がタイムアウトしたときにトリガされるアクションについての詳細情報が表示されます。
- i** BIOS の詳細は、対応する『BIOS セットアップユーティリティ』リファレンスマニュアルを参照してください。

### iRMC Web フロントエンドでの Boot watchdog 設定の表示

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
  - ▶ 「サーバ管理情報」メニューを選択します。
  - ▶ 「ウォッチドッグ設定」に、現在の watchdog ステータス、タイムアウト間隔、watchdog がタイムアウトしたときにトリガされるアクションについての詳細情報が表示されます。
- i** iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

### ServerView Operations Manager での Boot watchdog 設定の表示

- ▶ ServerView Operations Manager の「シングルシステムビュー」で、「ステータス表示／設定」メニューから「メンテナンス」を選択します。
  - ▶ 「ASR&R」で「ウォッチドッグ設定」タブを選択して、現在の watchdog ステータス、タイムアウト間隔、watchdog がタイムアウトしたときにトリガされるアクションについての詳細情報を表示します。
- i** 詳細については、『ServerView Operations Manager - Server Management』ユーザガイドを参照してください。

#### 5.1.2.2 Boot watchdog 設定の指定

ファームウェアをアップグレードするためにシステムをリムーバブルブートメディアから起動する場合は、保守作業を開始する前に Boot Watchdog を無効にしておく必要があります。それ以外の場合は、フラッシュプロセスが完了する前に Boot Watchdog でシステムがリブートされることがあります。



##### 注意！

ファームウェアアップグレードプロセスが正常に完了しなかった場合、サーバにアクセスできなくなったり、ハードウェアが破損または破壊されたりする場合があります。

タイマー設定は BIOS 内で、または ServerView iRMC Web フロントエンドを使用して設定できます。

### BIOS での Boot watchdog 設定の指定

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「Server Mgmt」メニューを選択します。
- ▶ 「Boot Watchdog」で「Action」設定を「Continue」に設定します。
- ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。

 BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

### iRMC Web フロントエンドを使用した Boot watchdog 設定の指定

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「サーバ管理情報」メニューを選択します。
- ▶ 「ウォッチドッグ設定」で「Boot ウォッチドッグ」ドロップダウンリストから「継続稼働」を選択します。
- ▶ 「適用」をクリックして変更内容を適用します。

 iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

### 5.1.3 バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し

- ▶ システム管理者に連絡して、ドライブをサーバから取り外す前に、バックアップドライブまたは光ディスクドライブに残っているすべてのバックアップメディアまたは光メディアを取り出してください。
- ▶ バックアップメディアを通常の方法で取り出せず、ドライブを修理のために返送したり廃棄したりする前にカートリッジを取り外す必要がある場合は、手動でテープを取り出す必要があります。

「強制」テープ取り出しの詳細は、以下の https アドレスから取得できる Fujitsu サービスパートナー向けの「Tape Facts」ガイドを参照してください。

<https://partners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/Pages/TapeFacts.aspx>

日本市場の場合、テープを強制排出する必要がある場合には、サポート部門に相談して下さい。

**i** Fujitsu では、手動のテープ取り出し手順から生じるテープドライブおよびデータカートリッジ / テープへの破損、またはデータ損失について責任を負いません。

#### 5.1.4 バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定

**i** この作業は、日本市場にのみ適用されます。

バックアップソフトウェアソリューションによっては、保守作業を開始する前に、バックアップソフトウェアリストからバックアップドライブを無効または削除する必要があります。

これは、次のバックアップソフトウェアソリューションの場合です。

- Netvault for Windows
- ARCServe
- BackupExec

**i** 手順は、バックアップソリューションによって異なる場合があります。詳細は、別途提供される専用のマニュアルを参照してください。

該当するバックアップソフトウェアソリューションの詳細情報および関連ドキュメントを Fujitsu Web ページから取得できます。

#### 5.1.5 マルチパス I/O 環境でのサーバ保守の注意事項

マルチパス I/O 環境でサーバを ServerView Suite DVD からオフラインで起動して、ServerView Update DVD を使用してオフライン BIOS / フームウェアアップデートを実行したり、PrimeCollect を使用して診断データを収集したりする場合、システム構成が破損してシステムが起動できなくなる危険性があります。

**i** これはマルチパスドライバに関する Windows PE の既知の制約です。

##### Update Manager Express の使用

- ▶ オフライン BIOS / フームウェアアップデートを実施する場合、事前に ServerView Update DVD または USB メモリを用意してください。

- ▶ 最新の ServerView Update DVD イメージを、Fujitsu からダウンロードします。

世界市場向け

<http://ftp.ts.fujitsu.com/images/serverview>

日本市場向け :

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/svsvdvd/dvd/>

- ▶ イメージを DVD に書き込みます。
- ▶ 起動可能な USB メモリを作成するには、『Local System Update for PRIMERGY Servers』ユーザガイドに記載されている手順に従います。
- ▶ オフライン環境で ServerView Update DVD または USB メモリを使用する前に、サーバを適切にシャットダウンして、すべての外部 I/O 接続（LAN、FC や SAS ケーブルなど）をシステムから切断してください。マウス、キーボード、ビデオケーブル、AC 電源コードのみを接続したままにしてください。



タスクの完了後に、すべての外部 I/O 接続を元の位置に再び接続できるように、それらが一意に識別できるようにしておきます。

Update DVD または USB メモリから Update Manager Express を起動するには、次の手順に従います。

- ▶ 『Local System Update for PRIMERGY Servers』ユーザガイドに記載されている手順に従って、Update DVD または USB メモリを準備します。
- ▶ 準備した Update DVD または USB メモリからサーバをブートします。

**DVD :** ▶ サーバの電源を入れます。

- ▶ サーバの電源を入れた直後に、Update DVD を DVD ドライブに挿入してトレイを開じます。

**USB :** ▶ USB メモリをサーバに接続します。

- ▶ サーバの電源を入れます。

DVD または USB メモリからサーバがブートしない場合は、次の手順に従います。

- ▶ 前面のリセットボタンを押すか、サーバの電源を一度切断して数秒後に再び投入して、サーバをリブートします。
- ▶ サーバが起動したら、[F12] を押してブートメニューを表示します。
- ▶ **↑** および **↓** カーソルキーを使用してブートデバイスに DVD ドライブまたは USB メモリを選択し、[ENTER] を押します。

サーバが Update DVD または USB メモリからブートします。

- ▶ ブートプロセスが完了した後、使用する GUI 言語を選択します。  
Update Manager Express のメインウィンドウが表示されます。
  - ▶ 保守作業を終了します。
- i** 詳細は、『Local System Update for PRIMERGY Servers』ユーザガイド を参照してください。

### PrimeCollect の使用

PrimeCollect を起動するには、次の手順に従います。

- ▶ オフライン環境で PrimeCollect を使用する前に、サーバを適切にシャットダウンして、すべての外部 I/O 接続 (LAN、FC や SAS ケーブルなど) をシステムから取り外してください。マウス、キーボード、ビデオケーブル、AC 電源コードのみを接続したままにしてください。
- i** タスクの完了後に、すべての外部 I/O 接続を元の位置に再び接続できるように、それらが一意に識別できるようにしておきます。
- ▶ サーバの電源を入れます。
- ▶ サーバの電源を入れた直後に、DVD ドライブに ServerView Suite DVD を挿入し、ドライブトレイを閉じます。

DVD からサーバがブートしない場合は、次の手順に従います。

- ▶ 前面のリセットボタンを押すか、サーバの電源を一度切断して数秒後に再び投入して、サーバをリブートします。
  - ▶ サーバが起動したら、[F12] を押してブートメニューを表示します。
  - ▶ **[↑]** および **[↓]** カーソルキーを使用してブートデバイスに DVD ドライブを選択し、[ENTER] を押します。
- サーバが ServerView Suite DVD からブートします。
- ▶ ブートプロセスが完了した後、使用する GUI 言語を選択します。
  - ▶ 最初の Installation Manager スタートアップウィンドウで、「*Installation Manager mode*」セクションから「*PrimeCollect*」を選択します。
  - ▶ 「次へ」をクリックして続行します。
  - ▶ 保守作業を終了します。

**i** 詳細は、『PrimeCollect』ユーザガイドを参照してください。

### 手順の完了

- ▶ アップデート手順または診断手順が完了した後、サーバをシャットダウンしてすべての外部 I/O 接続を再接続して、システムを通常動作に戻します。
- ▶ 必要に応じて、マルチパス環境内の残りのすべてのサーバに対してこの手順を実行します。

### 5.1.6 ID ランプの点灯

サーバルーム等で作業している場合、サーバの前面および背面コネクタパネルにある ID ランプを使用すると、簡単に識別できます。

- i** 詳細は、[53 ページ の「故障したサーバの特定」](#)の項または『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルを参照してください。

#### フロントパネルの ID ボタンを使用する

- ▶ フロントパネルの ID ボタンを押して、ID ランプをオンに切り替えます。
- i** 詳細は、[560 ページ の「フロントパネルのコントロールと表示ランプ」](#)の項を参照してください。

#### iRMC Web フロントエンドの使用

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「システムの概要」で「Identify LED On」をクリックして ID ランプをオンにします。

#### ServerView Operations Manager を使用する

- ▶ ServerView Operations Manager の「シングルシステムビュー」で、タイルバーの「識別灯」ボタンを押して、ID ランプをオンにします。

## 5.2 保守作業の完了

### 5.2.1 システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ

**i** 日本市場では、別途指定する手順に従ってください。

システムボード、メモリ、または CPU を交換したら、BIOS と iRMC を最新バージョンにアップグレードする必要があります。最新バージョンの BIOS と iRMC は、Fujitsu サポートインターネットページから取得できます。

<http://ts.fujitsu.com/support/> (世界市場)

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/> (日本市場向け)

**i** Fujitsu は、BIOS アップデートによって生じるサーバへの破損またはデータ損失について責任を負いません。

#### 5.2.1.1 システムボード BIOS のアップデートまたはリカバリ

##### BIOS のフラッシュ手順

- ▶ サーバの『BIOS セットアップユーティリティ』リファレンスマニュアルに記載されているように、BIOS フラッシュ手順を行います。

##### BIOS リカバリ手順

- ▶ サーバの『BIOS セットアップユーティリティ』リファレンスマニュアルに記載されているように、BIOS リカバリ手順を行います。

#### 5.2.1.2 iRMC のアップデートまたはリカバリ

##### iRMC のフラッシュ手順

- ▶ 起動可能な iRMC フームウェアアップデートイメージを格納した USB メモリを準備します。
- ▶ iRMC フームウェアが格納された USB メモリを USB ポートに接続します。
- ▶ サーバを再起動します。システムが POST プロセスを開始します。

## 基本的なソフトウェア手順

---

- ▶ POST 中に F12 を押して、USB スティックをブートデバイスとして選択します。システムが USB メモリを検出します。
- ▶ アップデートツールメニューから以下のオプションのいずれかを選択して、iRMC のアップデートプロセスを開始してください。

### Normal

既存のシステムボードをアップデートする場合は、このオプションを選択します。

### Initial

iRMC のアップデート手順を行う前にシステムボードを交換した場合は、このオプションを選択します。このオプションにより、iRMC フームウェアおよびブートローダなどの、すべての関連するフラッシュ手順が連続して行われます。



#### 注意！

iRMC アップグレードプロセスが開始したら、中断しないでください。プロセスが中断されると、iRMC BIOS が完全に破損します。

- フラッシュ後に iRMC が機能しない場合、システムを主電源から切断して再度接続します。

- ▶ フラッシュプロセスが完了したら、USB メモリを抜いてサーバを再起動します。

## iRMC リカバリ手順

- ▶ 起動可能な iRMC フームウェアアップデートイメージを格納した USB メモリを準備します。
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」の項に記載されているように、サーバがシャットダウンされ、主電源から切断されていることを確認します。
- ▶ iRMC フームウェアが格納された USB メモリを USB ポートに接続します。
- ▶ フロントパネルの ID ボタンを押しながら、サーバを主電源に接続します。必要に応じてこの作業は 2 人で行ってください。
- ▶ 保守ランプと ID ランプが点滅し、サーバが iRMC リカバリ状態になっていることを示します。
- ▶ 電源ボタンを押します。システムが POST プロセスを開始します。
- ▶ POST 中に F12 を押して、USB スティックをブートデバイスとして選択します。システムが USB メモリを検出します。

- ▶ アップデートツールメニューから *Recovery\_L* オプションを選択して、iRMC アップデートプロセスを開始します。

**注意！**

iRMC アップグレードプロセスが開始したら、中断しないでください。プロセスが中止されると、iRMC BIOS が完全に破損します。



**i** フラッシュ後に iRMC が機能しない場合、システムを主電源から切断して再度接続します。

- ▶ 電源ボタンを押して、サーバをシャットダウンします。
- ▶ サーバを主電源から切断して、iRMC リカバリ状態を終了します。

## 5.2.2 システム情報のバックアップ / 復元の確認

システムボードの交換時にデフォルト以外の設定が損失しないように、重要なシステム構成データのバックアップコピーがシステムボード NVRAM からシャーシ ID EEPROM に自動的に保存されます。システムボードを交換した後、バックアップデータはシャーシ ID ボードから新しいシステムボードに復元されます。

バックアップまたは復元プロセスが正常に実行されたかどうかを確認するため、ServerView Operations Manager を使用してシステムイベントログ (SEL) をチェックします（[129 ページの「システムイベントログ \(SEL\) の表示と消去」](#) の項も参照）。

### システムボードの交換後

- ▶ [129 ページの「システムイベントログ \(SEL\) の表示と消去」](#) の項に記載されているように SEL ログファイルをチェックして、シャーシ ID EEPROM のバックアップデータがシステムボードに復元されているかどうかを確認します。

Chassis IDPROM: BMC FW Restore successful

### シャーシ ID EEPROM の交換後

- ▶ [129 ページの「システムイベントログ \(SEL\) の表示と消去」](#) の項に記載されているように SEL ログファイルをチェックして、システムボード設定のバックアップコピーがシャーシ ID EEPROM に転送されているかどうかを確認します。

Chassis IDPROM: BMC FW Backup successful

### 5.2.3 拡張カードのファームウェアのアップデート

拡張カードを交換したら、ファームウェアを最新バージョンにアップグレードする必要があります。最新バージョンの拡張カードのファームウェアは、Fujitsu サポート Web ページから取得できます。

<http://ts.fujitsu.com/support/> (世界市場)

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/> (日本市場向け)

弊社は、ファームウェアアップデートによって生じるサーバへの破損またはデータ損失について責任を負いません。  
日本市場では、別途指定する手順に従ってください。

### ServerView Update Manager の使用

ServerView Update Manager または Update Manager Express (UME) を使用して拡張カードをアップデートする方法については、次のマニュアルを参照してください。

- ServerView Update Manager:  
『ServerView Update Management』ユーザガイド
- ServerView Update Manager Express:  
『Local System Update for PRIMERGY Servers』ユーザガイド

### フラッシュツールの使用

最新のファームウェアファイルは、Windows または DOS ツールの ASP (Autonomous Support Package) として Fujitsu サポート Web ページからダウンロードできます：

<http://ts.fujitsu.com/support/> (世界市場)

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/> (日本市場向け)

- ▶ 「Drivers & Downloads」を選択します。
- ▶ 「Select Product」ドロップダウンリストからご利用の PRIMERGY サーバを選択するか、シリアル番号または ID 番号を検索フィールドに入力します。
- ▶ オペレーティングシステムとバージョンを選択します。
- ▶ 目的のコンポーネントタイプ (SAS RAID など) を選択します。
- ▶ デバイスリストからご利用のコントローラを選択し、一連の使用可能なドライバおよびファームウェアを展開します。
- ▶ 目的のファイルを選択して「Download」をクリックし、その後指示に従ってください。

## 5.2.4 Option ROM Scan の有効化

取り付けまたは交換した拡張カードを設定するには、カードの Option ROM をシステムボード BIOS で有効にする必要があります。リブート時にカードのファームウェアがシステム BIOS によって呼び出され、入力や設定を行えます。

Option ROM は常時有効にする（頻繁にセットアップが必要な可能性のあるブートコントローラの場合）ことも、1回の設定のために一次的に有効にすることもできます。コントローラの Option ROM を常時有効にする場合は、システムボードの BIOS で一度に 2 個の Option ROM しか有効にできないことに注意してください。

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「Advanced」メニューから「*Option ROM Configuration*」を選択します。
- ▶ 目的の PCI スロットを指定して、「*Launch Slot # OpROM*」を「Enabled」に設定します。
- ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。



システムボード BIOS で同時に 2 つまで Option ROM を有効にできます。

BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

有効にした拡張カードがブートシーケンスの POST 段階中に初期化されると、拡張カードのファームウェアに移行するためのキーの組み合わせが一時的に表示されます。

- ▶ 表示されたキーの組み合わせを押します。
- ▶ 拡張カードのファームウェアオプションを必要に応じて変更します。
- ▶ 変更を保存してファームウェアを終了します。



拡張カードの Option ROM をシステムボード BIOS で無効にできます。  
例外：拡張カードがブートデバイスを制御する場合、カードの Option ROM は有効のままにしておく必要があります。

### 5.2.5 バックアップソフトウェアソリューションの再設定



この作業は、日本市場にのみ適用されます。

#### バックアップドライブの無効化

バックアップソフトウェアソリューションによっては、保守作業が完了してから、バックアップソフトウェアドライブリストからバックアップドライブを無効化または削除し、バックアップジョブを再設定する必要があります。

これは、次のバックアップソフトウェアソリューションの場合です。

- NetVault for Windows
- ARCServe
- BackupExec



手順は、バックアップソリューションによって異なる場合があります。  
詳細は、別途提供される専用のマニュアルを参照してください。

Fujitsu サービスパートナーは、該当するバックアップソフトウェアソリューションの詳細情報および関連ドキュメントを Fujitsu Extranet ページから取得できます。

#### バックアップドライブの再有効化

111 ページの「[バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定](#)」の項に記載されているように、バックアップドライブが無効になっている場合、またはバックアップソフトウェアドライブリストから削除されている場合は、保守作業を完了するために再度有効にする必要があります。

- ▶ バックアップドライブを再度有効にして、バックアップソフトウェア設定と cronjob を変更します。



Fujitsu サービスパートナーは、該当するバックアップソフトウェアソリューションの詳細情報および関連ドキュメントを Fujitsu Extranet ページから取得できます。

### 5.2.6 Boot Retry Counter のリセット

Boot Retry Counter は、POST watchdog がシステムリブートを実行するたびに、あらかじめ設定された値から減少していきます。値が「0」になると、システムはシャットダウンし、電源が切れます。

### 5.2.6.1 Boot Retry Counter の表示

現在の Boot Retry Counter のステータスは BIOS で確認できます。

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「Server Mgmt」メニューを選択します。
- ▶ 「Boot Retry Counter」に、現在残っているブート試行回数が表示されます。この値は、ブート試行の失敗や、重大なシステムエラーによるシステムリブートごとに減少します。
- ▶ BIOS を終了します。

### 5.2.6.2 Boot Retry Counter のリセット

サービスタスクの終了時には、Boot Retry Counter を元の値にリセットしてください。

**i お客様が元の Boot Retry 値を把握していない場合は、以下のことについてください：**

システムが起動して、正常なブート試行の後 6 時間以内にエラーが発生しない場合、Boot Retry Counter は自動的にデフォルト値にリセットされます。指定されたブート試行回数は、この時間が経過した後にのみ決定されることに留意してください。

お客様が元の Boot Retry 値を知っている場合は、次の手順に従って、Boot Retry Counter をリセットまたは設定してください。

#### BIOS での Boot Retry Counter のリセット

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「Server Mgmt」メニューを選択します。
- ▶ 「Boot Retry Counter」で、「+」または「-」キーを押して最大ブート試行回数を指定します（0 ~ 7）。
- ▶ BIOS を終了します。

#### ServerView Operations Manager を使用した Boot Retry Counter のリセット

- ▶ ServerView Operations Manager の「管理者設定」ビューで、「サーバ設定」を選択します。

- ▶ SVOM で複数のサーバが設定されている場合は、ターゲットサーバを選択し、「次へ」をクリックします。
- ▶ 「サーバ設定」メニューインから、「再起動オプション」を選択します。
- ▶ 「再起動リトライ」の「デフォルトの再起動リトライ回数」フィールドで、最大起動試行回数（0～7）を指定します。

### iRMC Web フロントエンドを使用したブートリトライカウンタのリセット

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「サーバ管理情報」メニューを選択します。
- ▶ 「ASR&R オプション」で、以下の Boot Retry Counter の設定を行うことができます。
  - ▶ 「リトライカウンタ最大値」で、OS をブートする最大試行回数を指定します（0～7）。
  - ▶ 「リトライカウンタ」に、現在残っているブート試行回数が表示されます。Boot Retry Counter をリセットするには、この値を上で指定したブート試行回数で上書きします。
- ▶ 「適用」をクリックして変更内容を適用します。

 iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

## 5.2.7 メモリモジュールまたはプロセッサの交換後のエラーステータスのリセット

### 5.2.7.1 メモリモジュール

メモリエラーの場合、ServerView Operations Manager によって故障したメモリモジュールが報告されることがあります。

 注意事項

故障したモジュールを交換した後、エラーカウンターが自動的にリセットされているか確認してください。メモリスロットが故障しているようにまだ示される場合は、以下のいずれかを使用してエラーカウンターを手動でリセットしてください。

## iRMC Web フロントエンドの使用

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「System Information」メニューを選択します。
- ▶ 「System Components」で、影響を受けるメモリモジュールの横にあるチェックボックスを選択します。
- ▶ ドロップダウンリストから「Reset Error Counter」を選択します。
- ▶ 「適用」をクリックして変更内容を適用します。

## ServerView Maintenance Tools の使用 (Windowsのみ)

- ▶ ServerView Maintenance Tool の起動
  - Windows Server 2008 R2 以前：  
「スタート」>「(すべての) プログラム」>「Fujitsu」>  
「ServerView Suite」>「Agents」>「Maintenance Tools」
  - Windows Server 2012 以降：  
「スタート」>「アプリ」>「Fujitsu」>「Maintenance Tools」
- ▶ メモリステータスタブを選択します。
- ▶ 故障発生予測ステータスが表示されるメモリモジュールを選択します。
- ▶ 「Reset Status」をクリックします。
 

**i** 「Reset Status」ボタンは、選択したメモリモジュールにエラーがある場合のみ使用できます。
- ▶ すべての故障発生予測 / 故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。

## コマンドラインの使用 (Linux/VMwareのみ)

ServerView Agents for Linux に含まれる `meclear` ユーティリティを使用して、メモリカウンターをリセットできます。

**i** `meclear` (Memory Module Error Counter Reset Utility) を使用して、メモリモジュールの交換後などに、メモリモジュールについて収集されたエラーカウンターをリセットできます。

詳細については、`meclear` マニュアルページを参照してください。

- ▶ ルートとしてログインします。
- ▶ 次のコマンドを入力して [ENTER] を押します。

/usr/sbin/meclear

- ▶ ステータスが「OK」または「Not available」以外のメモリモジュールの番号を選択します。
- ▶ すべてのメモリモジュールに「OK」ステータスが表示されるようになるまで上記手順を繰り返します。
- ▶ すべての故障発生予測 / 故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。

### 5.2.7.2 プロセッサ

重大なエラーの場合、ServerView Operations Manager によって故障したプロセッサが報告されることがあります。



#### 注意事項

故障した CPU の交換後に、以下のいずれかの方法を使用してエラーカウンターを手動でリセットしてください。

#### ServerView Maintenance Tools の使用 (Windowsのみ)

- ▶ ServerView Maintenance Tool の起動
  - Windows Server 2008 R2 以前：  
「スタート」>「(すべての) プログラム」>「Fujitsu」>  
「ServerView Suite」>「Agents」>「Maintenance Tools」
  - Windows Server 2012 以降：  
「スタート」>「アプリ」>「Fujitsu」>「Maintenance Tools」
- ▶ CPU ステータスタブを選択します。
- ▶ 故障発生予測ステータスが表示される CPU を選択します。
- ▶ 「Reset Status」をクリックします。
- ▶ すべての故障発生予測 / 故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。

#### コマンドラインの使用 (Linuxのみ)

次の手順の従って、特定のプロセッサのエラーカウンターをリセットします。

- ▶ ルートとしてログインします。
- ▶ 次のコマンドを入力して [ENTER] を押します。

- ラックサーバ、またはタワーサーバの場合 (RX および TX サーバ) :  
/usr/sbin/eecdcp -c oc=0609 oi=<CPU#>
- ブレードサーバ、またはスケールアウトサーバの場合 (BX および CX サーバ) :  
/usr/sbin/eecdcp -c oc=0609 oi=<CPU#> cab=<cabinet nr>  
キャビネット番号を識別できるように、次のコマンドを入力して  
**[ENTER]** を押します :  
/usr/sbin/eecdcp -c oc=E204



<CPU#> の入力値は、CPU1 の場合は「0」、CPU2 の場合は「1」です。

- ▶ 上記の方法でエラーステータスをリセットできない場合は、以下の手順ですべてのプロセッサのエラーカウンターをリセットしてください。
  - ▶ ルートとしてログインします。
  - ▶ 次のコマンドを入力して **[ENTER]** を押します。
    1. /etc/init.d/srvmagt stop  
/etc/init.d/srvmagt\_scs stop  
/etc/init.d/eecd stop  
/etc/init.d/eecd\_mods\_src stop
    2. cd /etc/srvmagt
    3. rm -f cehist.bin
    4. /etc/init.d/eecd\_mods\_src start  
/etc/init.d/eecd start  
/etc/init.d/srvmagt start  
/etc/init.d/srvmagt\_scs start
- ▶ すべての故障発生予測 / 故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。

## 5.2.8 ファンテストの実施



### 故障したファンの交換についての注意事項

故障したシステムファン及びファンが故障した電源ユニットを交換した後、次のファンテストまでファンエラー表示ランプが点灯し続けます。デフォルトでは、ファンテストは 24 時間おきに自動的に開始されます。ファン交換後の初回ファンテスト実行後にファンエラー表示ランプは消灯します。

ファン交換後にファンテストを手動で開始させる場合は、以下の方法により実行します。

### iRMC Web インターフェースによるファンテストの実行

- ▶ iRMC Web インターフェースへログインします。
- ▶ メニューから「センサ」—「ファン」を選択します。
- ▶ 交換したファンをシステムファングループで選択し、「ファン回転数テスト開始ボタン」を選択します。

### ServerView Operations Manager によるファンテストの実行

- ▶ ServerView Operations Manager を起動し、ログインします。
- ▶ 「管理者設定」で「サーバの設定」を選択します。
- ▶ 「サーバリスト」タブの階層ツリーで、設定するサーバを選択します。
- ▶ ウィンドウの右側で選択したサーバの詳細を指定し、「次へ」をクリックして入力を確認します。  
ウィンドウの左側で「設定」タブがアクティブになります。
- ▶ 「設定」タブのナビゲーションエリアで、「その他の設定」を選択します。
- ▶ 「ファンテスト時刻」を現時刻から数分後に設定します。(元の設定時刻を控えておくこと)
- ▶ 「ページ保存」をクリックします。  
ファンテストは指定した時刻に実行されます。
- ▶ ファンテスト実行後、設定時刻を元の時刻に戻して、「ページ保存」をクリックします。



詳細については、『ServerView Operations Manager』ユーザーガイドを参照してください。

### シャーシ ID Prom Tool によるファンテストの実行（日本市場の保守作業の場合）



日本市場の保守エンジニアによる作業では、別途指定する手順に従ってください。

## 5.2.9 SVOM Boot Watchdog 機能の有効化

ServerView Operations Manager boot watchdog 機能がファームウェアアップデートのために無効にされている場合（[108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」](#)の項を参照）、保守作業を完了するには有効にする必要があります。

タイマー設定は BIOS 内で、または ServerView iRMC Web フロントエンドを使用して設定できます。

### BIOS での Boot watchdog 設定の指定

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「*Server Mgmt*」メニューを選択します。
- ▶ 「*Boot Watchdog*」で「*Action*」設定を「*Reset*」に設定します。
- ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。



BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

### iRMC Web フロントエンドを使用した Boot watchdog 設定の指定

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「*サーバ管理情報*」メニューを選択します。
- ▶ 「*ウォッチドッグ設定*」で、Boot ウォッチドッグ の横のチェックボックスが選択されているかを確認します。ドロップダウンリストから「*リセット*」を選択し、目的のタイムアウト遅延を指定します。
- ▶ 「*適用*」をクリックして変更内容を適用します。



iRMC 設定の詳細については、『*Integrated Remote Management Controller*』ユーザガイドを参照してください。

## 5.2.10 交換した部品のシステム BIOS での有効化

プロセッサ、拡張カード、またはメモリモジュールが故障した場合、故障した部品はシステム BIOS で「*Disabled*」または「*Failed*」に設定されます。サーバは、システム構成内の残りの故障していないハードウェア部品のみでリブートします。故障した部品を交換した後、システムボード BIOS で有効に戻す必要があります。

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「Advanced」メニューを選択します。
- ▶ 該当する部品のステータスメニューを選択します。
  - プロセッサ : *CPU Status*
  -  このオプションは、マルチプロセッサシステムでのみ使用できます。
  - メモリ : *Memory Status*
  - 拡張カード : *PCI Status*
- ▶ 交換した部品を「Enable」にリセットします。
- ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。

 BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

### 5.2.11 メモリモードの確認

メモリモジュールが故障した場合、サーバはリブートし、故障したモジュールは無効になります。この結果、同一メモリモジュールのペアが使用できなくなり、現行の動作モード（ミラーチャネルモードなど）が使用できなくなることがあります。この場合、動作モードは自動的にインデpendentチャネルモードに戻ります。

 サーバで使用できるメモリ動作モードの詳細は、[350 ページの「メモリの取り付け順序」](#) の項を参照してください。

故障したモジュールを交換した後、メモリ動作モードは自動的に元の状態にリセットされます。動作モードが正しいことを確認することを推奨します。

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「Advanced」メニューを選択します。
- ▶ 「Memory Status」で、「Failed」になっているメモリモジュールがないことを確認します。
- ▶ 変更を保存して（該当する場合）、BIOS を終了します。

 BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

## 5.2.12 システム時刻設定の確認



この作業は、Linux/VMware 環境にのみ適用されます。

システムボードを交換した後、システム時刻が自動的に設定されます。デフォルトで、RTC（Real Time Clock：リアルタイムクロック）標準時間がローカル時刻として設定されています。

Linux OS を使用し、ハードウェアクロックが OS で UTC（Universal Time, Coordinated：協定世界時）に設定されている場合、BMC ローカル時刻が正しくマッピングされないことがあります。

- ▶ システムボードを交換した後、RTC または UTC 標準時間がシステム時刻として使用されているか、システム管理者に問い合わせてください。



システム時刻（RTC）が UTC に設定されている場合、SEL（システムイベントログ）タイムスタンプがローカル時刻と異なる場合があります。

- ▶ BIOS に移行します。
- ▶ 「Main」メニューを選択します。
- ▶ 「System Time」と「System Date」で正しい時刻と日付を指定します。



デフォルトでは、BIOS に設定されるシステム時刻は RTC（Real Time Clock）ローカル時刻です。IT インフラが普遍的に受け入れた時間標準に依存している場合は、代わりに「System Time」を UTC（Universal Time, Coordinated：協定世界時）に設定します。GMT（Greenwich Mean Time：グリニッジ標準時）は、UTC に相当すると考えることができます。

- ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。



BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

## 5.2.13 システムイベントログ（SEL）の表示と消去

### 5.2.13.1 SEL を表示する

システムイベントログ（SEL）は、ServerView Operations Manager または ServerView iRMC Web フロントエンドを使用して表示できます。

### SEL を ServerView Operations Manager で表示する

- ▶ ServerView Operations Manager の「シングルシステムビュー」で、「ステータス表示／設定」メニューから「メンテナンス」を選択します。
- ▶ 「メンテナンス」で「システムイベントログ」を選択します。
- ▶ 表示するメッセージタイプを選択します。
  - 重大イベント
  - 重度のイベント
  - 軽度のイベント
  - 情報イベント



#### SVOM ドライバモニタに関する注意事項

「ドライバモニタ」ビューには、監視対象のコンポーネントの概要と、管理対象サーバのシステムイベントログに記録された関連するイベントが表示されます。

「監視コンポーネント」には、監視対象コンポーネントの一覧が表示されます。コンポーネントに「警告」または「エラー」ステータスが表示される場合は、それを選択して「承認」をクリックします。これにより、サーバ側のイベントを確認します。事前にサーバにログオンしておくる必要がある場合があります。これで、コンポーネントのステータスは「ok」に設定されます。新しいステータスを確認するには、「ドライバモニタ」ビューを「更新」でリフレッシュします。



ServerView Operations Manager を使用して SEL を表示およびソートする方法については、『ServerView Operations Manager - Server Management』ユーザーガイドを参照してください。

### SEL iRMC Web フロントエンドを使用して SEL を表示する

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「イベントログ」を選択して「iRMC S4 ログの表示」サブメニューを選択します。
- ▶ 「iRMC S4 イベントログ内容」に SEL が表示されます。リストをフィルタリングするには、目的のイベントタイプの横のチェックボックスを選択して「Apply」を押し、変更内容を適用します。



iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

### 5.2.13.2 SEL をクリアする

システムイベントログ（SEL）をクリアするには、ServerView iRMC Web フロントエンドを使用します。

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「イベントログ」を選択して「iRMC S4 ログの表示」サブメニューを選択します。
- ▶ 「iRMC S4 イベントログ情報」で「イベントログのクリア」をクリックして SEL をクリアします。



iRMC 設定の詳細については、『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

### 5.2.14 Linux/VMware 環境での NIC 構成ファイルのアップデーター

ネットワークデバイス名 (*eth<x>*) の変更によるエラーを防止するため、ネットワークインターフェースカードの MAC アドレス（ハードウェアアドレス）を Linux OS の対応する NIC 構成ファイルに保存することを推奨します。

Linux OS を実行するサーバで、ネットワークコントローラまたはオンボード LAN コントローラを搭載したシステムボードを交換すると、MAC アドレスは変更されますが、定義ファイル内で自動的には更新されません。

通信の問題を防止するため、対応する *ifcfg-eth<x>* 定義ファイルに保存されている変更した MAC アドレスを更新する必要があります。

MAC アドレスを更新するには、次の手順に従います。



使用している Linux OS またはクライアントシステム上の定義ファイルに応じて、手順は異なることがあります。次の情報を参考として使用してください。システム管理者に定義ファイルを変更するよう依頼してください。

- ▶ ネットワークコントローラまたはシステムボードを交換した後、[87 ページの「サーバの電源投入」](#) の項に記載されているようにサーバの電源を入れて起動します。

*kudzu* (Red Hat Linux 向けのハードウェア構成ツール) がブート時に起動して、システム上の新規または変更されたハードウェアを検出します。



クライアント環境によっては、*kudzu* はブート時に起動しません。

## 基本的なソフトウェア手順

---

- ▶ 「Keep Configuration」を選択して「Ignore」を選択し、ブートプロセスを完了します。
- ▶ *vi* テキストエディタを使用して、*ifcfg-eth<x>* ファイルの HWADDR セクションで MAC アドレスを指定します。  
**i** MAC アドレスは、システムボードまたはネットワークコントローラに貼付されているタイプラベルに記載されています。

例:

ネットワークコントローラ 1 の定義ファイルを変更するには、次のコマンドを入力します。

```
# vi /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth1
```

*vi* で、新しい MAC アドレスを次のように指定します。

```
HWADDR=xx:xx:xx:xx:xx:xx
```

- ▶ 定義ファイルを保存して閉じます。
  - ▶ 変更を反映させるには、次のコマンドを入力してネットワークをリブートする必要があります。  

```
# service network restart
```
- 
- i**
- システムボードまたはネットワークコントローラに複数の LAN ポートがある場合、残りの
- ifcfg-eth<x>*
- 定義ファイルをそれぞれ更新する必要があります。

- ▶ NIC 構成ファイルを更新して、新しいカードシーケンスと MAC アドレスを反映させます。

### 5.2.15 BitLocker 機能の再開

BitLocker ドライブ暗号化が保守のために中断にされている場合（[107 ページの「BitLocker 機能の中断」](#)）、サービスタスクを完了するには有効に戻す必要があります。

- i** 部品交換の前に BitLocker ドライブ暗号化が中断にされている場合は、保守作業の後にサーバをリブートするときにリカバリキーの入力を求められません。

ただし、BitLocker 機能が中断にされていない場合、Windows はリカバリモードになり、ブートを続行するためにリカバリキーの入力を要求します。

- ▶ この場合、システム管理者に問い合わせて、OS をブートするため  
にリカバリキーを入力します。
- ▶ システム管理者に連絡して、「コントロールパネル」の「BitLocker ドライ  
ブ暗号化」を使用して、中断にされているシステムボリュームの  
BitLocker 保護を有効します。

#### Windows Server 2008

- ▶ 「スタート」ボタンをクリックして、「コントロールパネル」から「セ  
キュリティ」を選択し、「BitLocker ドライブ暗号化」をクリックして、  
BitLocker ドライブ暗号化を開きます。
- ▶ システムボリュームを選択して「BitLocker をオンにする」をクリック  
します。

#### Windows Server 2008 R2 以降

- ▶ 「スタート」ボタンをクリックして、「コントロールパネル」から「シ  
ステムとセキュリティ」を選択し、「BitLocker ドライブ暗号化」をク  
リックして、BitLocker ドライブ暗号化を開きます。
- ▶ システムボリュームを選択して「保護の再開」をクリックします。



BitLocker ドライブ暗号化を再開にする方法については、Microsoft TechNet ライブラリ (<http://technet.microsoft.com/library/cc731549.aspx>) を参照してください。

Fujitsu Web ページで詳細情報をご確認ください（日本語版もあります）。

### 5.2.16 RAID アレイのリビルドの実行

RAID アレイに組み込まれているハードディスクドライブを交換した後、  
RAID リビルドがバックグラウンドプロセスで完全に自動実行されます。

- ▶ RAID アレイのリビルドが正常に開始したことを確認します。プログレス  
バーで最低 1%進捗したことまで待機します。
- ▶ お客様には、リビルドが完了するまでの残り時間が、表示される概算時間  
に基づいて通知されます。

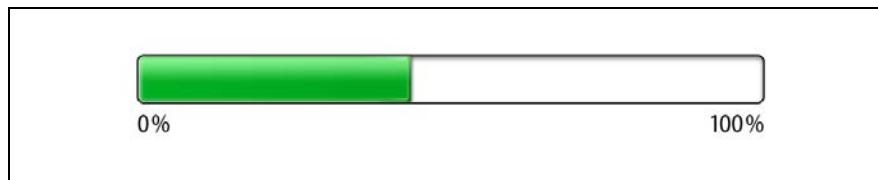


図 61: プログレスバー（RAID アレイのリビルド）



### 注意！

システムはこれで動作するようになりますが、RAID アレイのリビルドが完了するまでデータ冗長性は利用できなくなります。ハードディスクドライブの容量によって、全体的な処理に数時間かかる可能性があります。場合によっては数日かかります。



リビルド中は、わずかにパフォーマンスに影響が出ることがあります。

### 5.2.17 変更された MAC/WWN アドレスの検索

ネットワークコントローラを交換すると、MAC（Media Access Control）アドレスと WWN（World Wide Name）アドレスをが変更されます。



下記の手順以外にも、MAC/WWN アドレスを、ネットワークコントローラまたはシステムボードに貼付されているタイプラベルで確認することができます。

#### 5.2.17.1 MAC アドレスの検索

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「System Information」メニューを選択します。
- ▶ 「Network Inventory」に、MAC アドレスなどの、管理対象の PRIMERGY サーバの各ネットワークコントローラに関する情報が表示されます。



この情報は、iRMC S4 以降にのみ該当します。

Command Line Protocol (CLP) をサポートするネットワークコントローラのみ表示されます。

- ▶ 変更された MAC アドレスをお客様に伝えてください。

### 5.2.17.2 WWN アドレスの検索

#### Emulex FC/FCoE アダプタ

- ▶ [119 ページ の「Option ROM Scan の有効化」](#) の項に記載されているように、システムボードの BIOS でネットワークコントローラの Option ROM を有効にします。
- ▶ サーバを再起動します。
- ▶ ブート中に、Emulex BIOS ユーティリティオプションが表示されたらすぐに、**[ALT]+[E]** または **[CTRL]+[E]** を押します。
- ▶ 「*Emulex Adapters in the System*」に、使用可能な Emulex アダプタとその WWN がすべて表示されます。
- ▶ 新しい 16 枠の WWN アドレスをメモします。
- ▶ 「**[Esc]**」を押して Emulex BIOS ユーティリティを終了します。
- ▶ 変更された WWN アドレスをお客様に伝えてください。

#### QLogic FC アダプタ

- ▶ [119 ページ の「Option ROM Scan の有効化」](#) の項に記載されているように、システムボードの BIOS でネットワークコントローラの Option ROM を有効にします。
- ▶ サーバを再起動します。
- ▶ ブート中に、QLogic BIOS ユーティリティオプションが表示されたらすぐに、**[ALT]+[Q]** または **[CTRL]+[Q]** を押します。
- ▶ 「*Select Host Adapter*」で、矢印キー **↑/↓** を使用して目的の FC/FCoE アダプタを選択して「**[Enter]**」を押します。
- ▶ 「*Fast!UTIL Options*」メニューから「*Configuration Settings*」を選択して「**[Enter]**」を押します。
- ▶ 「*Configuration Settings*」メニューから「*Adapter Settings*」を選択して「**[Enter]**」を押します。
- ▶ 「*Adapter Port Name*」に表示される新しい 16 枠の WWN アドレスをメモします。
- ▶ **[Esc]** を押してメインメニューに戻り、QLogic BIOS ユーティリティを終了します。
- ▶ 変更された WWN アドレスをお客様に伝えてください。

### 5.2.18 シャーシ ID Prom Tool の使用

専用シャーシ ID ボードまたはサーバのフロントパネルボードにあるシャーシ ID EPROM には、サーバ名やモデル、サーバ本体のタイプ、シリアル番号などの、システム情報が格納されています。

システムを ServerView マネジメント環境に取り込んで ServerView Installation Manager を使用してサーバをインストールできるようにするには、システムデータが完全で正確である必要があります。

シャーシ ID EPROM を交換した後、システム情報を シャーシ ID Prom ツールを使用して入力する必要があります。保守担当者は、ツールと詳細な手順を Fujitsu Technology Solutions 公開から入手できます。

<https://partners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/>

- ▶ ページのメインエリアから PRIMERGY システムを選択します。
- ▶ カテゴリーの選択から、「Software & Tools Documentation」を選択します。
- ▶ ファイルをダウンロードする際に、「Tools」エリアで「Tools: Chassis-IDProm Tool」をクリックします (tool-chassis-Idprom-Tool.zip)。



日本市場では、別途指定する手順に従ってください。

#### Advanced Thermal Design (ATD) の注意事項



サーバに Advanced Thermal Design (ATD) のオプションは使用できて、有効にされた場合、同様のシャーシ ID Prom Tool の情報を設定してください。



ATD オプションは出荷時のデフォルトとしてメーカーのみが発注できます。レーティングプレート上の ATD ロゴをチェックして、サーバの ATD の可能を特定します。

Advanced Thermal Design (ATD) の詳細は、サーバのオペレーティングマニュアルを参照してください。



#### 注意！

ATD フラグの設定しかできないことに注意してください。シャーシ ID Prom Tool を使用して ATD フラグのリセットはできません。

## 5.2.19 LAN チーミングの設定

ServerView Operations Manager を使用して、既存の LAN チームの詳細情報を取得します。

- ▶ ServerView Operations Manager の「シングルシステムビュー」で、「ステータス表示／設定」メニューから「システムステータス」を選択します。
- ▶ 「ネットワークインターフェース」で「作成した LAN チーム」を選択します。
- ▶ 「ネットワークインターフェース (概要)」の概要に、設定されたすべての LAN チームとそのコンポーネントが表示されます。詳細を表示する LAN チームを選択します。
  - LAN チームプロパティ: 選択した LAN チームのプロパティ
  - LAN チーム統計: 選択した LAN チームで利用できる統計



詳細については、『ServerView Operations Manager - Server Management』ユーザーガイドを参照してください。

### 5.2.19.1 LAN コントローラを交換またはアップグレードした後

交換した LAN コントローラを再利用するには、次の点に注意してください。

- ▶ 交換した LAN コントローラが LAN チーミング構成の一部として使用されていたかどうかをお客様と確認します。
- ▶ LAN チーミングがアクティブな場合、LAN ドライバユーティリティを使用して LAN コントローラを交換した後、構成を復元する必要があります。お客様の要件に従って、コントローラがプライマリまたはセカンダリとして割り当てられていることを確認します。



詳細は、該当する LAN ドライバのマニュアルを参照してください。

### 5.2.19.2 システムボードの交換後

- ▶ 交換したオンボード LAN コントローラが LAN チーミング構成の一部として使用されていたかどうかをお客様と確認します。
- ▶ LAN チーミングがアクティブな場合、LAN ドライバユーティリティを使用してシステムボードを交換した後、構成を復元する必要があります。



詳細は、該当する LAN ドライバのマニュアルを参照してください。

### 5.2.20 ID ランプの消灯

フロントパネルの ID ボタンを押すか、iRMC Web フロントエンドまたは ServerView Operations Manager を使用して、保守作業が正常に完了した後に ID ランプをオフにします。



詳細は、[53 ページの「故障したサーバの特定」](#)の項、または『ServerView Suite Local Service Concept - LSC』マニュアルおよび『Integrated Remote Management Controller』ユーザガイドを参照してください。

#### フロントパネルの ID ボタンを使用する

- ▶ フロントパネルの ID ボタンを押して、ID ランプをオフにします。

#### iRMC Web フロントエンドの使用

- ▶ ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- ▶ 「システムの概要」で「Identify LED Off」をクリックして ID ランプをオフにします。

#### ServerView Operations Manager を使用する

- ▶ ServerView Operations Manager の「シングルシステムビュー」で、タイトルバーの「識別灯」ボタンを押して、ID ランプをオフにします。

### 5.2.21 シャーシモデルの指定

シャーシの変更後に、サーバを ServerView マネジメントのユーザインターフェースにラックとして正しく表示するには、シャーシモデルの設定をアップデートする必要があります。

これは、ServerView Installation Manager または Maintenance Tool を使用して行います。

#### ServerView Installation Manager の使用

- ▶ システムを ServerView Suite DVD からブートします。ServerView Installation Manager が起動します。
- ▶ 使用するユーザインターフェースの言語を選択します。

- ▶ 「Status backup media」で「No status backup」を選択し、「Continue」をクリックします。
- ▶ 「Maintenance」を選択します。
- ▶ 「Server Configuration Manager」を選択します。
- ▶ ラックモデルのボックスにチェックし、「Save」をクリックして設定を保存します。

### ServerView Maintenance Tool の使用

ServerView エージェントがインストールされた Windows ベースのサーバの場合、次の手順に従います。

- ▶ 「Start」をクリックして「All Programs」をポイントし、「Fujitsu」-「ServerView Suite」-「Agents」-「Maintenance Tools」の順にポイントします。
- ▶ 「Maintenance Tools」メニューぺインで「Chassis Model Configuration」タブをクリックします。
- ▶ 「Convert to」で「Rack Model」ボタンをクリックします。
- ▶ 「Exit」をクリックして「Maintenance Tools」メニューぺインを閉じます。



ServerView エージェントのインストールの詳細については、『ServerView Operations Manager - Installation ServerView Agents for Windows』ユーザガイドを参照してください。



---

# 6 電源ユニット(PSU)

## 安全上の注意事項



### 注意！

- PSUを分解しないでください。そのようにすると、感電の危険性があります。
- PSUの周囲は、シャットダウン後も高温のままです。サーバのシャットダウン後、高温のコンポーネントが冷却されるのを待ってからPSUの取り外しを行ってください。
- PSUを取り付ける際には、PSUのコネクタが破損してたり曲がっていないことを確認してください。
- PSUが取り外しににくい場合、無理に引き出さないでください。
- PSUは重いため、取り扱いには注意してください。誤って落とした場合、怪我の恐れがあります。
- 安全上の注意事項に関する詳細は、[41 ページの「注意事項」の章](#)を参照してください。

### 6.1 基本情報

基本構成では、サーバには電源ユニットが 1 つ搭載されます。電源ユニットのほか、オプションで 2 台目の電源ユニットを取り付けて、冗長電源ユニットとして機能させることができます。1 台の電源ユニットが故障しても、冗長構成の 2 台目の電源ユニットにより、動作が停止せず、続行されます。また、故障が発生した電源ユニットは、動作中に交換できます（ホットプラグ）。

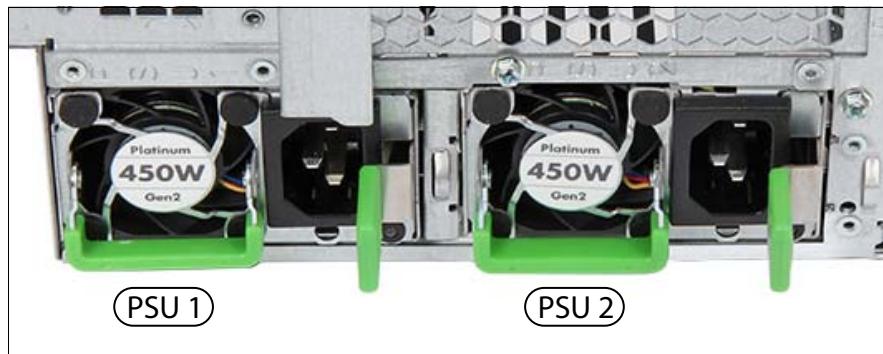


図 62: PSU ベイ



電源ユニットのコネクタがシステムボードに用意されているため、システムボードに電源を直接接続されます。

## 6.1.1 電源ユニットの構成

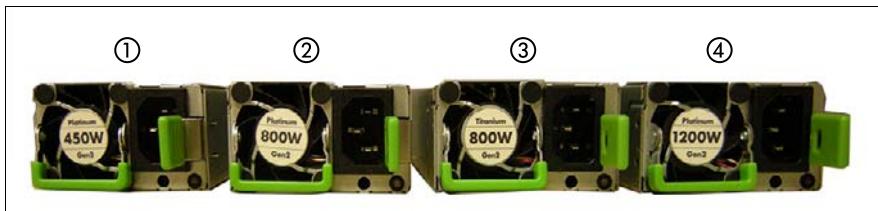


図 63: 電源ユニットのタイプ

| 位置 | PSU モジュールのタイプ                 | 主電源の電圧範囲                         | 電力クラス |
|----|-------------------------------|----------------------------------|-------|
| 1  | PSU モジュール (450 W) (Platinum)  | 100 V ~ 240 V                    | 1     |
| 2  | PSU モジュール (800 W) (Platinum)  | 100 V ~ 240 V                    | 2     |
| 3  | PSU モジュール (800 W) (Titanium)  | 200 V ~ 240 V                    |       |
| 4  | PSU モジュール (1200 W) (Platinum) | 100 V ~ 120 V /<br>200 V ~ 240 V | 3     |



### 注意！

PSU モジュールは、どのような主電源の入力電圧でも特定の範囲に自動的に調節されます。所在地の主電源電圧が定格電圧範囲に対応する場合のみ、サーバが動作します。提供される PSU モジュールタイプは、異なる主電源の電圧範囲にサポートすることに注意してください。



各種すべての電源ユニットについて、取り付け、取り外し、交換の手順は同じです。

## 6.1.2 組み立て規則

- 異なる定格出力 (450 W, 800 W および 1200 W) のホットプラグ PSU モジュールを混在させて組み立てることはサポートしていません。
- 異なる 800W ホットプラグ PSU モジュール (Platinum および Titanium) を混在させて組み立てることはサポートしていません。
- PSU ベイ 1 には、必ず PSU モジュールを接続する必要があります。
- 該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない PSU ベイにダミーモジュールを必ず装着してください。

### 6.2 PSU モジュールの取り付け



お客様による交換可能部品  
(CRU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要

#### 6.2.1 準備手順

必要ありません。

#### 6.2.2 PSU ダミーモジュールの取り外し

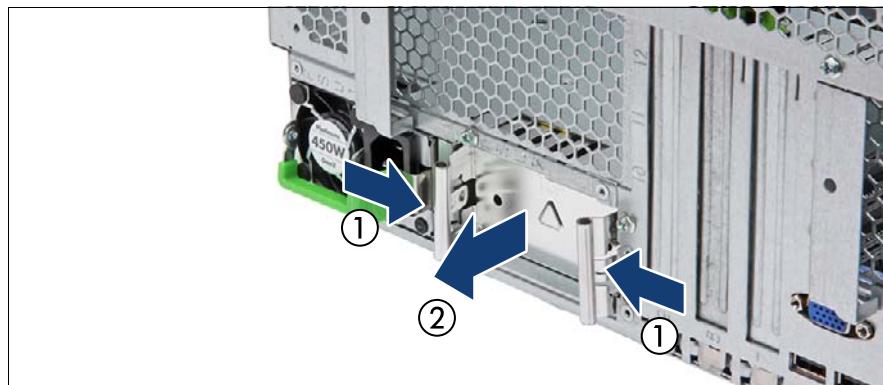


図 64: PSU ダミーモジュールの取り外し

- ▶ PSU ダミーモジュールの両方のロッキングラッチを押し（1）、ダミーモジュールをスロットからゆっくり取り外します。
- ▶ ダミーモジュールをスロットから取り外します（2）。



注意！

ダミーカバーは今後使うかもしれないで、保管しておいてください。電源モジュールを取り外して、すぐに新しい電源モジュールに交換しない場合、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、PSU ダミーカバーをスロットに取り付けてください。

### 6.2.3 PSU モジュールの取り付け

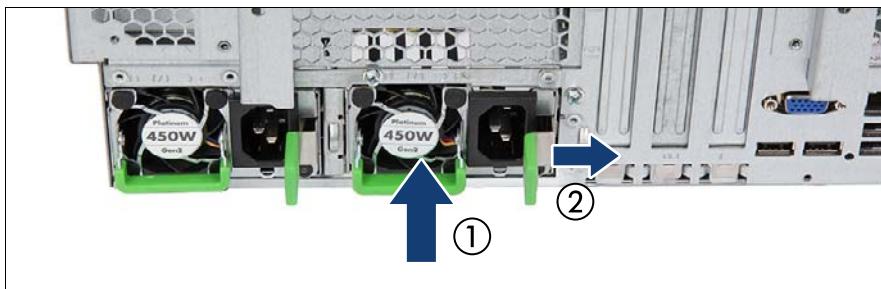


図 65: PSU モジュールの取り付け

- ▶ PSU モジュールを、ロッキングラッチが所定の位置にカチッと固定されるまで (2)、スロットに押し込みます (1)。



**注意！**  
PSU モジュールが輸送中にシャーシから飛び出さないように、  
PSU モジュールがスロットにしっかりと入り、固定されたことを  
確認します。

- ▶ 必要に応じて、PSU モジュールのハンドルを倒します。

### 6.2.4 終了手順

- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」

### 6.3 PSU モジュールの取り外し



お客様による交換可能部品  
(CRU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要



#### CMA (Cable Management Arm) を使用するサーバの注意事項

- 取り付けた CMA は PSU モジュールをロックしているので、PSU モジュールの取り外しや取り付けを行うには追加の手順が必要です。
- ▶ CMA スッパのロックを解除します。
  - ▶ CMA スッパを取り付けられているクロスバーと一緒に取り外します。
  - ▶ 右手で CMA スッパ、クロスバー、および CMA アームケーブルを支えます。
  - ▶ PSU モジュールを取り外し、PSU ダミーモジュールを空いているベイへ取り付けます。
  - ▶ アセンブリー式（CMA スッパ、クロスバー、および CMA アーム）を再びレールに取り付けます。

#### 6.3.1 準備手順

- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」の項に記載されているように、AC 電源コードをケーブルプラケットから取り外し、取り外される PSU モジュールから取り外します。



#### 注意！

連続稼働を保証するために、次の指示を守ってください。

- ▶ PSU モジュールを取り外す前に、残りの PSU モジュールで、十分な電力供給がシステム構成に行われることを確認してください。
- ▶ 電源ユニットを取り外す前に、1つ目と2つ目のスロットの電源モジュールがまだ動作していることを確認してください。

### 6.3.2 PSU モジュールの取り外し

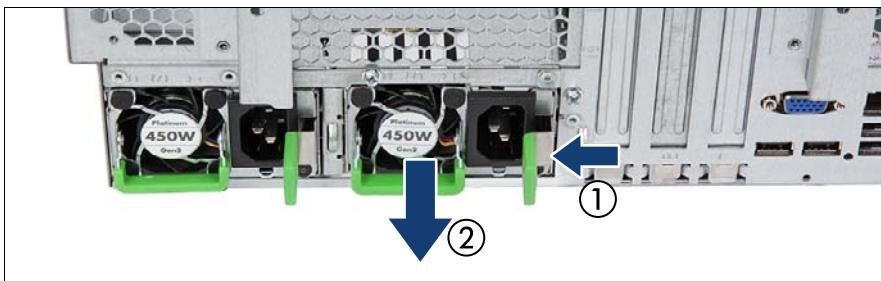


図 66: PSU モジュールの取り外し

- ▶ PSU モジュールのハンドルを持ち上げます。
- ▶ 緑色のロッキングラッチを押します (1)。
- ▶ 緑色のロッキングラッチを押した状態で、スロットから PSU モジュールを引き出します (2)。

### 6.3.3 PSU ダミーモジュールの取り付け



図 67: PSU ダミーモジュールの取り付け

- ▶ 矢印マークを上に向けて（丸で囲んだ部分）、ダミーカバーを空いているベイに挿入します。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、ダミーカバーをベイに押し込みます。



#### 注意!

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない PSU ベイにダミーモジュールを必ず装着してください。

### 6.4 PSU モジュールの交換



お客様による交換可能部品  
(CRU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要



#### 注意！

- PSU モジュールを非冗長 PSU 構成で交換する場合、サーバの電源を先に切っておく必要があります。
- 故障のある PSU モジュールを、同じタイプの新しい PSU モジュールと交換します。



#### CMA (Cable Management Arm) を使用するサーバの注意事項

取り付けた CMA は PSU モジュールをブロックしているので、PSU モジュールの取り外しや取り付けを行うには追加の手順が必要です。

- ▶ CMA スッパのロックを解除します。
- ▶ CMA スッパを取り付けられているクロスバーと一緒に取り外します。
- ▶ 右手で CMA スッパ、クロスバー、および CMA アームケーブルを支えます。
- ▶ PSU モジュールを取り外して、新しい PSU モジュールを慎重に取り付けます。
- ▶ アセンブリー式（CMA スッパ、クロスバー、および CMA アーム）を再びレールに取り付けます。

#### 6.4.1 準備手順

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 故障している電源ユニットを確認します。

図 428 の表示ランプ (1) がオレンジ色に点灯していれば、電源ユニットは故障しています。詳細は、559 ページの「PSU 表示ランプ」の項を参照してください。

- ▶ PSU モジュールを非冗長構成で交換する場合のみ、次の手順を行います。  
[56 ページ の「サーバのシャットダウン」](#)
- ▶ [57 ページ の「電源コードの取り外し」](#) の項に記載されているように、AC 電源コードをケーブルブラケットから取り外し、交換される PSU モジュールから取り外します。

#### 6.4.2 故障した PSU モジュールの取り外し

- ▶ [147 ページ の「PSU モジュールの取り外し」](#) の項に記載されているように、PSU モジュールを取り外します。

#### 6.4.3 新しい PSU モジュールの取り付け

- ▶ [145 ページ の「PSU モジュールの取り付け」](#) の項に記載されているように、PSU モジュールの取り付け。

#### 6.4.4 終了手順

- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#) の項に記載されているように、電源コードを新しい PSU モジュールに再び接続し、リリースタイで固定します。
- ▶ PSU モジュールを非冗長構成で交換する場合のみ、次の手順を行います。  
[87 ページ の「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [125 ページ の「ファンテストの実施」](#)



---

# 7 HDD(ハードディスクドライブ)/SSD (Solid State Drive)

## 安全上の注意事項



### 注意!

- サービス技術者以外は、HDD トレイからディスクドライブを取り外さないでください。
- 交換の後に元の場所に戻せるように、HDD / SSD モジュールすべてに明確なマークを付ける必要があります。そうしないと、データが損失することがあります。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。金具部分またはボードのふちを持つようにしてください。
- ハードディスクドライブを取り外す前に、ディスクが完全に回転を停止するまで約 30 秒待機してください。
- ハードディスクドライブの起動時に、少しの間共鳴音が聞こえる場合があります。これは故障ではありません。
- OS に応じてディスクドライブの Write Cache 設定を設定できます。Write Cache が有効になっている場合に停電が発生すると、キャッシュされたデータが損失することがあります。
- ハードディスクドライブまたは Solid State Drive を廃棄、輸送、返却する場合は、お客様自身のセキュリティのため、ドライブのデータを消去してください。
- ディスクドライブを乱暴に取り扱うと、保存されているデータが破損することがあります。予期しない問題に対処するには、重要なデータを常にバックアップします。データを別のハードディスクドライブにバックアップする際、ファイルまたはパーティション単位でバックアップを作成してください。
- デバイスの取り扱いは、衝撃や振動の影響を受けない場所で行ってください。
- 極端な高温または低温の場所、または温度変化の激しい場所では使用しないでください。
- ハードディスクドライブまたは Solid State Drive は分解しないでください。

- 安全上の注意事項に関する詳細は、[41 ページ の「注意事項」の章](#)を参照してください。

**i** SAS RAID コントローラについては、[287 ページ の「拡張カードとバックアップユニット」](#)の章を参照してください。

### 7.1 基本情報

最高パフォーマンスには次の取り付け順序を推奨します：

- 必ず Solid State Drive (SSD) を取り付けてから、ハードディスクドライブを取り付けます。
- 容量の異なるハードディスクドライブおよび Solid State Drive は、容量の大きい順に取り付けます。
- 回転速度の異なるハードディスクドライブは、回転速度の速い順に取り付けます。
- バステクノロジが異なるハードディスクドライブ (SAS または SATA) を取り付ける場合は、まず SAS ドライブを取り付けてから、SATA ドライブを取り付けます。
- 取り付け順序の概要のまとめは、[154 ページ の「2.5 インチの HDD / SSD / PCle SSD 構成」](#) 項および [204 ページ の「3.5 インチ HDD 構成」](#) 項を参照してください。
- 使用していない HDD/SSD ベイにダミーモジュールを取り付けます。



以降の項では、RX2560 M2 の図を示しています。

横向きにした TX2560 M2 との違いは、アクセス可能なドライブケージが時計回りに 90 度回転していることだけです。



図 68: RX2560 M2 の例



図 69: 横向きの TX2560 M2 の例

## 7.2 2.5 インチの HDD / SSD / PCIe SSD 構成

### 7.2.1 2.5 インチ HDD/SSD ベイの取り付け

最高パフォーマンスには次の取り付け順序を推奨します。

- 必ず Solid State Drive (SSD) を取り付けてから、ハードディスクドライブを取り付けます。
- HDD/SSD モジュールを 1 台しか取り付けない場合は、HDD/SSD モジュールを 1 の位置に取り付けます。空きベイにはダミーモジュールを取り付けます。

### 7.2.2 バックプレーンの概要



図 70: バックプレーン x 3 の例

|   |  |
|---|--|
| 1 | HDD ケージ 1 の SAS バックプレーン 1                    |
| 2 | オプションの HDD ケージ 2 の SAS バックプレーン 2             |
| 3 | オプションの 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスの SAS バックプレーン 3 |

**i** この番号は、160 ページの「最大 24 台の HDD/SSD モジュールでの構成 (バックプレーン x 3)」に基づいています。

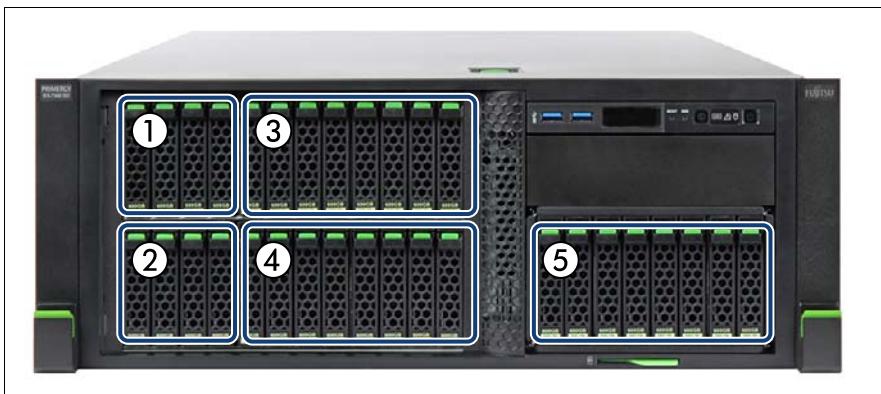


図 71: バックプレーン x 5 の例

|   |  |
|---|--|
| 1 | HDD ケージ 1 の SAS バックプレーン 1                    |
| 2 | HDD ケージ 2 の SAS バックプレーン 1                    |
| 3 | HDD ケージ 3 の SAS バックプレーン 1                    |
| 4 | HDD ケージ 4 の SAS バックプレーン 1                    |
| 5 | オプションの 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスの SAS バックプレーン 1 |



この番号は、162 ページの「最大 32 台の HDD/SSD モジュールでの構成（バックプレーン x 5）」に基づいています。

## HDD(ハードディスクドライブ)/SSD (Solid State Drive)

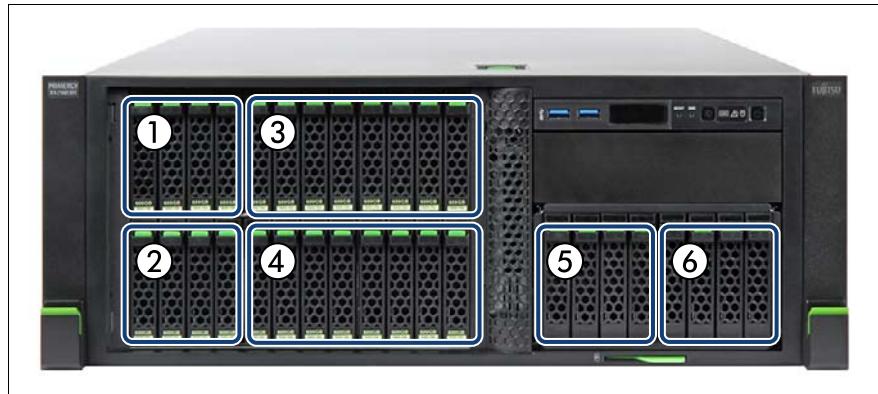


図 72: バックプレーン x 6 の例

|   |  |
|---|--|
| 1 | HDD ケージ 1 の SAS バックプレーン 1                        |
| 2 | HDD ケージ 2 の SAS バックプレーン 1                        |
| 3 | HDD ケージ 3 の SAS バックプレーン 1                        |
| 4 | HDD ケージ 4 の SAS バックプレーン 1                        |
| 5 | オプションの 8x2.5 インチ PCIe SSD 拡張ボックスの PCIe バックプレーン 1 |
| 6 | オプションの 8x2.5 インチ PCIe SSD 拡張ボックスの PCIe バックプレーン 2 |

**i** この番号は、164 ページの「最大 24 台の HDD/SSD モジュールおよび最大 8 台の PCIe SSD SFF（バックプレーン x 6）での構成」に基づいています。

### 7.2.3 最大 8 つの HDD/SSD モジュールでの構成 (バックプレーン x 1)

取り付け順序



図 73: 最大 8x 2.5 インチ HDD/SSD の取り付け順序

HDD/SSD の命名体系



図 74: 最大 8x 2.5 インチ HDD/SSD の命名体系



ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

### SAS コントローラ 1 つの場合

| 位置 | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名（エンクロージャ番号 : ポート番号） |
|----|----------|---|
| ①  | 0        | ベンダー製品 (0)                                      |
| ②  | 1        | ベンダー製品 (1)                                      |
| ③  | 2        | ベンダー製品 (2)                                      |
| ④  | 3        | ベンダー製品 (3)                                      |
| ⑤  | 4        | ベンダー製品 (4)                                      |
| ⑥  | 5        | ベンダー製品 (5)                                      |
| ⑦  | 6        | ベンダー製品 (6)                                      |
| ⑧  | 7        | ベンダー製品 (7)                                      |

### 7.2.4 最大 8 つの HDD/SSD モジュールでの構成（バックプレーン x 2）

#### 取り付け順序



図 75: 最大 16x 2.5 インチ HDD/SSD の取り付け順序

## HDD/SSD の命名体系



図 76: 最大 16x 2.5 インチ HDD/SSD の命名体系

**i** ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

## SAS エキスパンダーボードと SAS コントローラ 1 つの場合

| 位置 | 論理 ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名（エンクロージャ番号 : ポート番号） |
|----|-----------|---|
| ①  | 0         | ベンダー製品 (0)                                      |
| ②  | 1         | ベンダー製品 (1)                                      |
| ③  | 2         | ベンダー製品 (2)                                      |
| ④  | 3         | ベンダー製品 (3)                                      |
| ⑤  | 4         | ベンダー製品 (4)                                      |
| ⑥  | 5         | ベンダー製品 (5)                                      |
| ⑦  | 6         | ベンダー製品 (6)                                      |
| ⑧  | 7         | ベンダー製品 (7)                                      |
| ⑨  | 8         | ベンダー製品 (8)                                      |
| ⑩  | 9         | ベンダー製品 (9)                                      |
| ⑪  | 10        | ベンダー製品 (10)                                     |
| ⑫  | 11        | ベンダー製品 (11)                                     |
| ⑬  | 12        | ベンダー製品 (12)                                     |
| ⑭  | 13        | ベンダー製品 (13)                                     |
| ⑮  | 14        | ベンダー製品 (14)                                     |
| ⑯  | 15        | ベンダー製品 (15)                                     |

## 7.2.5 最大 24 台の HDD/SSD モジュールでの構成 (バックプレーン x 3)

### 取り付け順序

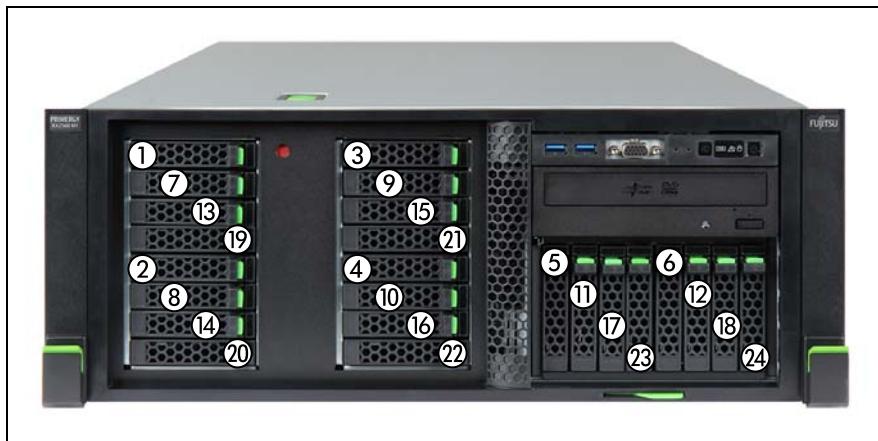


図 77: 最大 24x 2.5 インチ HDD/SSD の取り付け順序

### HDD/SSD の命名体系



図 78: 最大 24x 2.5 インチ HDD/SSD の命名体系

**i** ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

### SAS エキスパンダボードと SAS コントローラ 1 つの場合

| 位置   | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名（エンクロージャ番号 : ポート番号） |
|------|----------|---|
| [1]  | 0        | ベンダー製品 (1:0)                                    |
| [2]  | 1        | ベンダー製品 (1:1)                                    |
| [3]  | 2        | ベンダー製品 (1:2)                                    |
| [4]  | 3        | ベンダー製品 (1:3)                                    |
| [5]  | 4        | ベンダー製品 (1:4)                                    |
| [6]  | 5        | ベンダー製品 (1:5)                                    |
| [7]  | 6        | ベンダー製品 (1:6)                                    |
| [8]  | 7        | ベンダー製品 (1:7)                                    |
| [9]  | 8        | ベンダー製品 (1:8)                                    |
| [10] | 9        | ベンダー製品 (1:9)                                    |
| [11] | 10       | ベンダー製品 (1:10)                                   |
| [12] | 11       | ベンダー製品 (1:11)                                   |
| [13] | 12       | ベンダー製品 (1:12)                                   |
| [14] | 13       | ベンダー製品 (1:13)                                   |
| [15] | 14       | ベンダー製品 (1:14)                                   |
| [16] | 15       | ベンダー製品 (1:15)                                   |
| [17] | 16       | ベンダー製品 (1:16)                                   |
| [18] | 17       | ベンダー製品 (1:17)                                   |
| [19] | 18       | ベンダー製品 (1:18)                                   |
| [20] | 19       | ベンダー製品 (1:19)                                   |
| [21] | 20       | ベンダー製品 (1:20)                                   |
| [22] | 21       | ベンダー製品 (1:21)                                   |
| [23] | 22       | ベンダー製品 (1:22)                                   |
| [24] | 23       | ベンダー製品 (1:23)                                   |

## 7.2.6 最大 32 台の HDD/SSD モジュールでの構成 (バックプレーン x 5)

### 取り付け順序



図 79: 最大 32x 2.5 インチ HDD/SSD の取り付け順序

### HDD/SSD の命名体系



図 80: 最大 32x 2.5 インチ HDD/SSD の命名体系

**i** ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

### SAS エキスパンダボードと SAS コントローラ 1 つの場合

| 位置   | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名（エンクロージャ番号 : ポート番号） |
|------|----------|---|
| [1]  | 0        | ベンダー製品 (1:0)                                    |
| [2]  | 1        | ベンダー製品 (1:1)                                    |
| [3]  | 2        | ベンダー製品 (1:2)                                    |
| [4]  | 3        | ベンダー製品 (1:3)                                    |
| [5]  | 4        | ベンダー製品 (1:4)                                    |
| [6]  | 5        | ベンダー製品 (1:5)                                    |
| [7]  | 6        | ベンダー製品 (1:6)                                    |
| [8]  | 7        | ベンダー製品 (1:7)                                    |
| [9]  | 8        | ベンダー製品 (1:8)                                    |
| [10] | 9        | ベンダー製品 (1:9)                                    |
| [11] | 10       | ベンダー製品 (1:10)                                   |
| [12] | 11       | ベンダー製品 (1:11)                                   |
| [13] | 12       | ベンダー製品 (1:12)                                   |
| [14] | 13       | ベンダー製品 (1:13)                                   |
| [15] | 14       | ベンダー製品 (1:14)                                   |
| [16] | 15       | ベンダー製品 (1:15)                                   |
| [17] | 16       | ベンダー製品 (1:16)                                   |
| [18] | 17       | ベンダー製品 (1:17)                                   |
| [19] | 18       | ベンダー製品 (1:18)                                   |
| [20] | 19       | ベンダー製品 (1:19)                                   |
| [21] | 20       | ベンダー製品 (1:20)                                   |
| [22] | 21       | ベンダー製品 (1:21)                                   |
| [23] | 22       | ベンダー製品 (1:22)                                   |
| [24] | 23       | ベンダー製品 (1:23)                                   |
| [25] | 24       | ベンダー製品 (1:24)                                   |
| [26] | 25       | ベンダー製品 (1:25)                                   |
| [27] | 26       | ベンダー製品 (1:26)                                   |
| [28] | 27       | ベンダー製品 (1:27)                                   |

| 位置   | 論理 ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名（エンクロー ジャ番号：ポート番号） |
|------|-----------|--|
| [29] | 28        | ベンダー製品 (1:28)                                  |
| [30] | 29        | ベンダー製品 (1:29)                                  |
| [31] | 30        | ベンダー製品 (1:30)                                  |
| [32] | 31        | ベンダー製品 (1:31)                                  |

### 7.2.7 最大 24 台の HDD/SSD モジュールおよび最大 8 台の PCIe SSD SFF (バックプレーン x 6) での構成

#### 取り付け順序

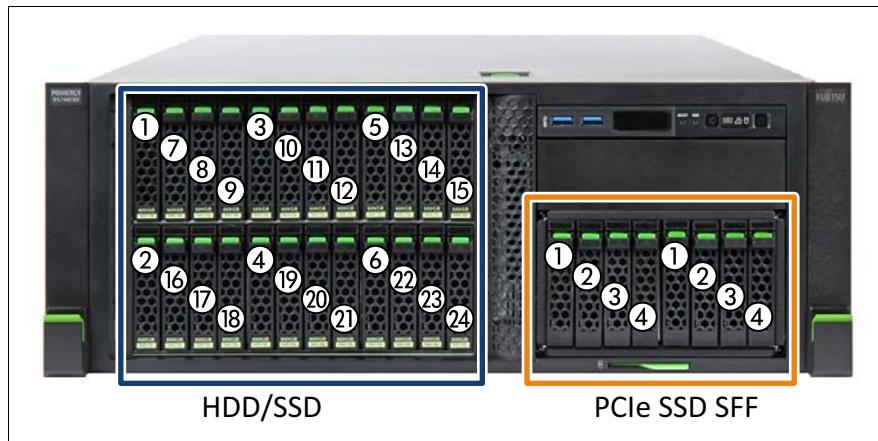


図 81: 最大 24 台の HDD/SSD モジュールおよび最大 8 台の PCIe SSD SFF の取り付け順序

## HDD/SSD の命名体系

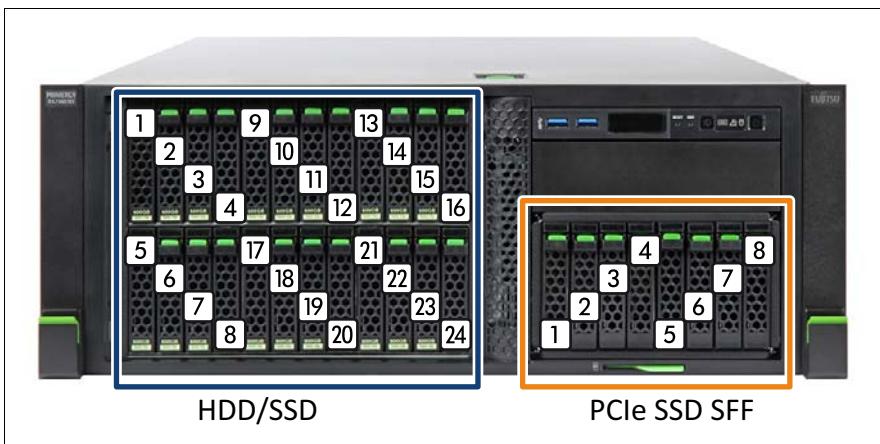


図 82: 最大 24 台の HDD/SSD モジュールおよび最大 8 台の PCIe SSD SFF の命名体系

**i** ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

## SAS エキスパンダーボードと SAS コントローラ 1 つの場合

| 位置 | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号) |
|----|----------|--|
| ①  | 0        | ベンダー製品 (1:0)                                     |
| ②  | 1        | ベンダー製品 (1:1)                                     |
| ③  | 2        | ベンダー製品 (1:2)                                     |
| ④  | 3        | ベンダー製品 (1:3)                                     |
| ⑤  | 4        | ベンダー製品 (1:4)                                     |
| ⑥  | 5        | ベンダー製品 (1:5)                                     |
| ⑦  | 6        | ベンダー製品 (1:6)                                     |
| ⑧  | 7        | ベンダー製品 (1:7)                                     |
| ⑨  | 8        | ベンダー製品 (1:8)                                     |
| ⑩  | 9        | ベンダー製品 (1:9)                                     |
| ⑪  | 10       | ベンダー製品 (1:10)                                    |
| ⑫  | 11       | ベンダー製品 (1:11)                                    |
| ⑬  | 12       | ベンダー製品 (1:12)                                    |

| 位置   | 論理 ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号) |
|------|-----------|--|
| [14] | 13        | ベンダー製品 (1:13)                                    |
| [15] | 14        | ベンダー製品 (1:14)                                    |
| [16] | 15        | ベンダー製品 (1:15)                                    |
| [17] | 16        | ベンダー製品 (1:16)                                    |
| [18] | 17        | ベンダー製品 (1:17)                                    |
| [19] | 18        | ベンダー製品 (1:18)                                    |
| [20] | 19        | ベンダー製品 (1:19)                                    |
| [21] | 20        | ベンダー製品 (1:20)                                    |
| [22] | 21        | ベンダー製品 (1:21)                                    |
| [23] | 22        | ベンダー製品 (1:22)                                    |
| [24] | 23        | ベンダー製品 (1:23)                                    |

### PCIe スイッチが 2 つの場合

| 位置  | 論理 ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号)          |
|-----|-----------|---|
| [1] | 24        | SSD PCIe3 Main (1) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| [2] | 25        | SSD PCIe3 Main (2) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| [3] | 26        | SSD PCIe3 Main (3) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| [4] | 27        | SSD PCIe3 Main (4) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| [5] | 28        | SSD PCIe3 Main (5) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| [6] | 29        | SSD PCIe3 Main (6) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| [7] | 30        | SSD PCIe3 Main (7) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| [8] | 31        | SSD PCIe3 Main (8) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |

## 7.2.8 2.5 インチ HDD/SSD モジュールおよび 3.5 インチ HDD モジュール (バックプレーン x 3 ) での混在構成

取り付け順序



図 83: 最大 16x 2.5 インチ HDD/SSD および最大 4x 3.5 インチ HDD の取り付け順序

HDD/SSD の命名体系

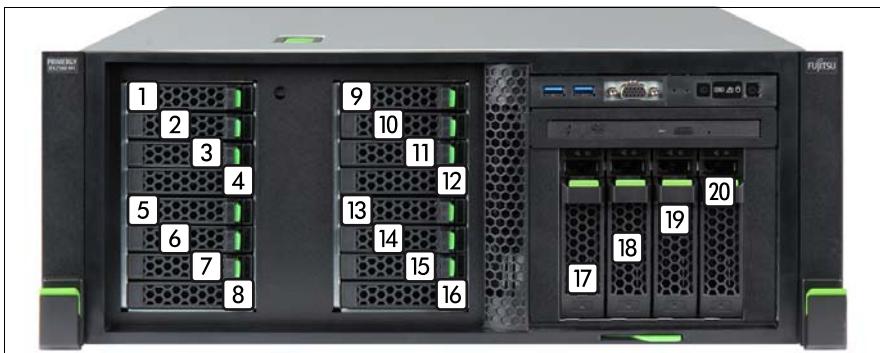


図 84: 最大 16x 2.5 インチ HDD/SSD および最大 4x 3.5 インチ HDD の命名体系



ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

### SAS エキスパンダボードと SAS コントローラ 1 つの場合

| 位置 | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名（エンクロージャ番号 : ポート番号） |
|----|----------|---|
| ①  | 0        | ベンダー製品 (1:0)                                    |
| ②  | 1        | ベンダー製品 (1:1)                                    |
| ③  | 2        | ベンダー製品 (1:2)                                    |
| ④  | 3        | ベンダー製品 (1:3)                                    |
| ⑤  | 4        | ベンダー製品 (1:4)                                    |
| ⑥  | 5        | ベンダー製品 (1:5)                                    |
| ⑦  | 6        | ベンダー製品 (1:6)                                    |
| ⑧  | 7        | ベンダー製品 (1:7)                                    |
| ⑨  | 8        | ベンダー製品 (1:8)                                    |
| ⑩  | 9        | ベンダー製品 (1:9)                                    |
| ⑪  | 10       | ベンダー製品 (1:10)                                   |
| ⑫  | 11       | ベンダー製品 (1:11)                                   |
| ⑬  | 12       | ベンダー製品 (1:12)                                   |
| ⑭  | 13       | ベンダー製品 (1:13)                                   |
| ⑮  | 14       | ベンダー製品 (1:14)                                   |
| ⑯  | 15       | ベンダー製品 (1:15)                                   |
| ⑰  | 16       | ベンダー製品 (1:16)                                   |
| ⑱  | 17       | ベンダー製品 (1:17)                                   |
| ⑲  | 18       | ベンダー製品 (1:18)                                   |
| ⑳  | 19       | ベンダー製品 (1:19)                                   |

## 7.2.9 2.5 インチ HDD/SSD モジュールおよび 3.5 インチ HDD モジュール（バックプレーン x 5）での混在構成

取り付け順序

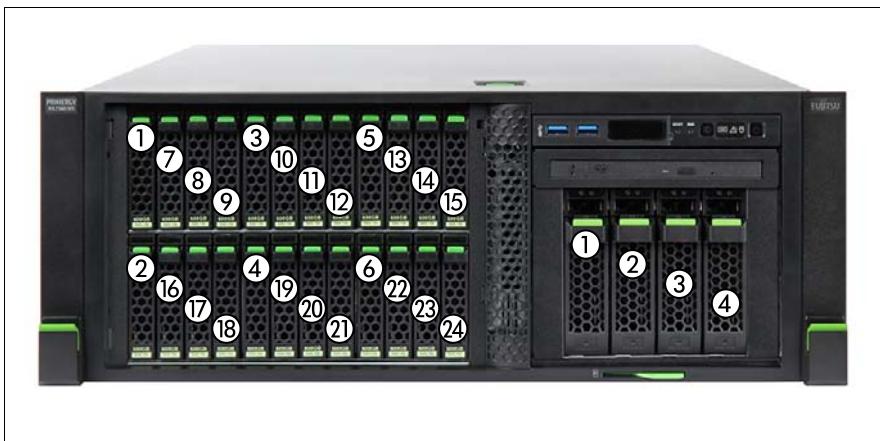


図 85: 最大 24x 2.5 インチ HDD/SSD および最大 4x 3.5 インチ HDD の取り付け順序

HDD/SSD の命名体系



図 86: 最大 24x 2.5 インチ HDD/SSD および最大 4x 3.5 インチ HDD の命名体系



ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

### SAS エキスパンダボードと SAS コントローラ 1 つの場合

| 位置 | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名（エンクロージャ番号 : ポート番号） |
|----|----------|---|
| ①  | 0        | ベンダー製品 (1:0)                                    |
| ②  | 1        | ベンダー製品 (1:1)                                    |
| ③  | 2        | ベンダー製品 (1:2)                                    |
| ④  | 3        | ベンダー製品 (1:3)                                    |
| ⑤  | 4        | ベンダー製品 (1:4)                                    |
| ⑥  | 5        | ベンダー製品 (1:5)                                    |
| ⑦  | 6        | ベンダー製品 (1:6)                                    |
| ⑧  | 7        | ベンダー製品 (1:7)                                    |
| ⑨  | 8        | ベンダー製品 (1:8)                                    |
| ⑩  | 9        | ベンダー製品 (1:9)                                    |
| ⑪  | 10       | ベンダー製品 (1:10)                                   |
| ⑫  | 11       | ベンダー製品 (1:11)                                   |
| ⑬  | 12       | ベンダー製品 (1:12)                                   |
| ⑭  | 13       | ベンダー製品 (1:13)                                   |
| ⑮  | 14       | ベンダー製品 (1:14)                                   |
| ⑯  | 15       | ベンダー製品 (1:15)                                   |
| ⑰  | 16       | ベンダー製品 (1:16)                                   |
| ⑱  | 17       | ベンダー製品 (1:17)                                   |
| ⑲  | 18       | ベンダー製品 (1:18)                                   |
| ⑳  | 19       | ベンダー製品 (1:19)                                   |
| ㉑  | 20       | ベンダー製品 (1:20)                                   |
| ㉒  | 21       | ベンダー製品 (1:21)                                   |
| ㉓  | 22       | ベンダー製品 (1:22)                                   |
| ㉔  | 23       | ベンダー製品 (1:23)                                   |
| ㉕  | 24       | ベンダー製品 (1:24)                                   |
| ㉖  | 25       | ベンダー製品 (1:25)                                   |
| ㉗  | 26       | ベンダー製品 (1:26)                                   |
| ㉘  | 27       | ベンダー製品 (1:27)                                   |

## 7.2.10 2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け



PCIe SSD SFF は、2.5 インチ HDD/SSD モジュールと同じフレームに取り付けられます。そのため、このセクションは PCIe SSD SFF を使用する場合にも有効かつ適切です。



お客様による交換可能部品  
(CRU)



平均作業時間：5 分

**工具：** 工具不要

### 7.2.10.1 準備手順

- タワーサーバで作業をする場合は、[68 ページ の「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」](#)の項に記載されているように、HDD ベイカバーを開きます。
- [154 ページ の「2.5 インチの HDD / SSD / PCIe SSD 構成」](#)の項に記載されているように、正しいドライブベイを特定します。

### 7.2.10.2 2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り外し

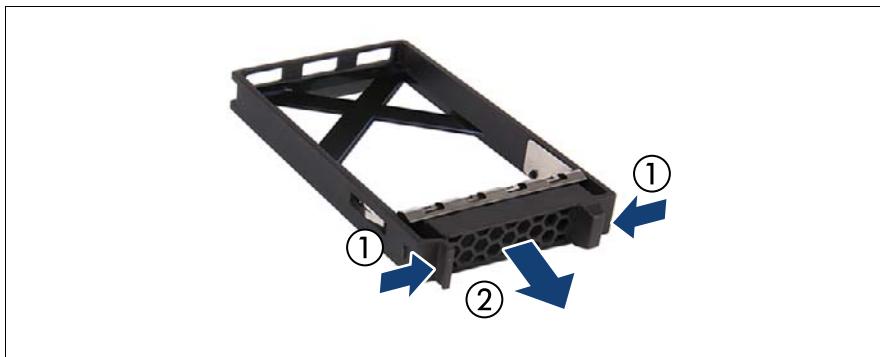


図 87: 2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り外し

- 両方のタブを同時に押して (1)、ダミーモジュールをベイから引き出します (2)。



### 注意！

ダミーモジュールは今後使うかもしれないのに、保管しておいてください。

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない HDD/SSD ベイにダミーモジュールを必ず装着してください。

### 7.2.10.3 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け

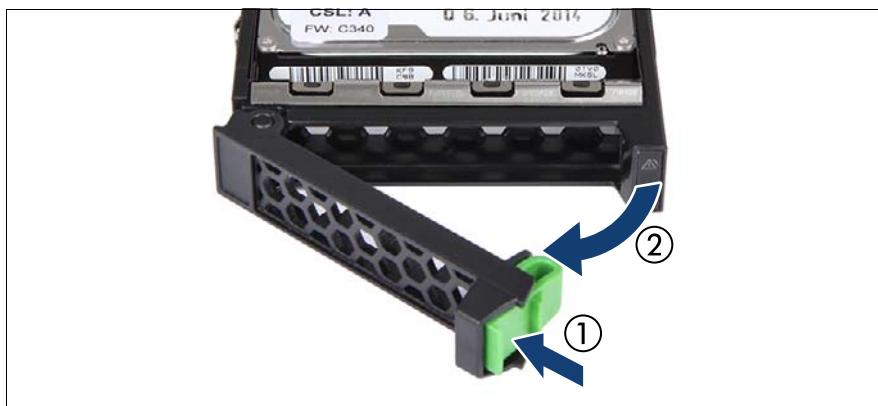


図 88: 2.5 インチ HDD/SSD モジュールのロックレバーを開く

- ▶ 緑色のロッキングラッチをはさんで (1)、ロックレバーを開きます (2)。



図 89: 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け

- ▶ ドライブベイに HDD/SSD モジュールを挿入し、慎重に最後まで押し込みます (1)。
- ▶ ロックレバーを閉じて、ハードディスクドライブを所定の位置に固定します (2)。

### 7.2.10.4 終了手順

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、77 ページの「[アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け](#)」の項に記載されているように、HDD ベイカバーを閉じます。
- ▶ RAIDマニュアル参照し、RAID構築する。

### 7.2.11 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し



PCIe SSD SFF は、2.5 インチ HDD/SSD モジュールと同じフレームに取り付けられます。そのため、このセクションは PCIe SSD SFF を使用する場合にも有効かつ適切です。

準備手順と終了手順は HDD / SSD モジュールにのみ必要で、PCIe SSD SFF には不要です。PCIe SSD SFF は RAID アレイでは使用されません。



お客様による交換可能部品  
(CRU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要

### 7.2.11.1 準備手順

- ▶ 取り外す HDD/SSD モジュールが RAID アレイに組み込まれている場合は、次の手順に従います。

| RAID レベル | 手順   |
|----------|--|
| RAID 0   | <p>故障した場合は、RAID 0 アレイに組み込まれている HDD モジュールのみ取り外します。</p> <p> <b>注意！</b></p> <p>動作可能な HDD モジュールを取り外すと、データが失われます。</p> |

| RAID レベル | 手順   |
|----------|--|
| RAID 5   | <p>HDD モジュールを RAID 1 または RAID 5 アレイから取り外してもデータは失われません。</p> <p>ただし、取り外したドライブは、すぐに同じか、または同等以上の容量の HDD モジュールに交換する必要があります。</p> <p><b>i</b> <a href="#">133 ページ の「RAID アレイのリビルトの実行」</a> の項に記載されているように、HDD モジュールの交換後、バックグラウンドプロセスとして、RAID のリビルトが行われます。</p> |

RAID アレイの一部である動作可能な HDD モジュールを永久的にサーバから取り外すには、まず ServerView RAID Manager を使用してアレイを削除する必要があります。



### 注意！

バックアップなしでアレイを削除すると、アレイのすべての HDD/SSD のすべてのデータが失われる場合があります。RAIDアレイを削除する前に、必ずデータのバックアップを行ってください。

詳細は、『ServerView Suite RAID Management』ユーザガイドを参照してください。

- タワーサーバで作業をする場合は、[68 ページ の「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」](#) の項に記載されているように、HDD ベイカバーを開きます。

#### 7.2.11.2 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し

- 緑色のロッキングラッチをはさんで、ロックレバーを開きます ([172 ページ の図 88](#) を参照)。
- HDD/SSD モジュールを 2 ~ 3 cm 引き出します。
- ハードディスクドライブが完全に回転を停止するまで、約 30 秒待機してください。



これは、Solid State Drive を取り外す場合には必要ありません。



この時間は、HDD モジュールが取り外されたことと、ハードディスクドライブが停止したことを RAID コントローラが認識するためには必要です。

- ▶ HDD/SSD モジュールをベイから完全に引き出します。

### 7.2.11.3 2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り付け



#### 注意！

取り外した HDD/SSD モジュールをすぐに交換しない場合は、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない HDD/SSD ベイにダミーモジュールを必ず装着してください。



図 90: 2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り付け

- ▶ ダミーモジュールを、固定するまで空きベイに押し込みます。

### 7.2.11.4 終了手順

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、77 ページの「[アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け](#)」の項に記載されているように、HDD ベイカバーを閉じます。

### 7.2.12 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの交換



PCIe SSD SFF は、2.5 インチ HDD/SSD モジュールと同じフレームに取り付けられます。そのため、このセクションは PCIe SSD SFF を使用する場合にも有効かつ適切です。



お客様による交換可能部品  
(CRU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要



#### 注意！

- ドライブへのアクセスがない場合のみ、動作中に HDD/SSD モジュールを取り外してください。対応するオペレーティングマニュアルに記載されているように、HDD/SSD モジュールの表示ランプを確認します。
- ドライブが RAID コントローラで動作し、RAID レベル 0、1、1E、10、5、50、6 または 60 で動作しているディスクアレイに属しているかどうかわからない場合には、いかなる状態であっても、絶対にシステムの動作中に HDD / SSD モジュールを取り外さないでください。  
動作中の HDD/SSD モジュールの交換は、対応する RAID 設定を行った場合のみ可能です。
- 取り外し後に元の場所に戻せるように、HDD/SSD モジュール（ドライブ）すべてに明確なマークを付ける必要があります。この作業を行わないと既存のデータが失われることがあります。

#### 7.2.12.1 準備手順

- ▶ [53 ページ の「故障したサーバの特定」](#)
- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、[68 ページ の「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」](#) の項に記載されているように、HDD ベイカバーを開きます。
- ▶ [55 ページ の「故障した部品の特定」](#)

故障していない HDD/SSD モジュールの取り外しにのみ適用される事項：

- ▶ 故障していない HDD/SSD モジュールを取り外す場合は、まず、RAID 設定ソフトウェアを使用してドライブを「オフライン」に設定する必要があります。

### 7.2.12.2 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し

- ▶ [174 ページ の「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」](#) の項に記載されているように、交換する HDD / SSD モジュールをサーバから取り外します。

### 7.2.12.3 2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け

- ▶ [172 ページ の「2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け」](#) の項に記載されているように、空いているドライブベイに新しい HDD / SSD モジュールを取り付けます。

### 7.2.12.4 終了手順

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、[77 ページ の「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け」](#) の項に記載されているように、HDD ベイカバーを閉じます。
- ▶ [133 ページ の「RAID アレイのリビルドの実行」](#)

## 7.2.13 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンの交換



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間：15 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 7.2.13.1 準備手順

- ▶ [53 ページ の「故障したサーバの特定」](#)
- ▶ [56 ページ の「サーバのシャットダウン」](#)
- ▶ [57 ページ の「電源コードの取り外し」](#)

- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」](#)
- ▶ [62 ページの「サーバを開ける」](#)
- ▶ [174 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」](#) の項に記載  
されているように、すべての HDD/SSD モジュールを取り外します。
- ▶ [88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」](#)
- ▶ [90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」](#)
- ▶ すべてのケーブルを故障した SAS バックプレーンから取り外します。

### 7.2.13.2 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し

**i** 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを交換するために、2.5 インチ  
HDD フロントパネルを取り外す必要はありません。図では、フロント  
パネルは、図示の目的のためのみに取り外されています。

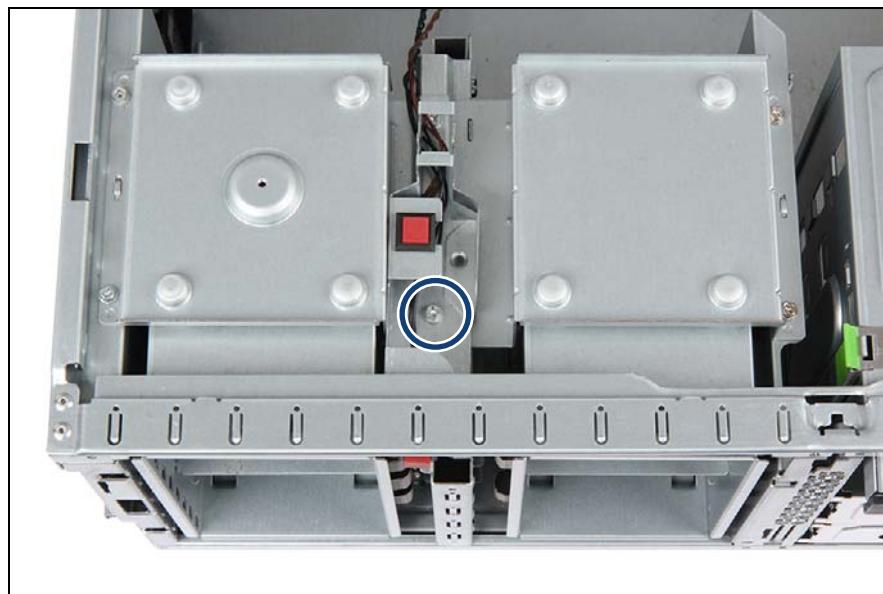


図 91: イントリュージョンスイッチホルダーの取り外し (A)

- ▶ 図のように、イントリュージョンスイッチホルダーから 1 本のネジを取り外します。

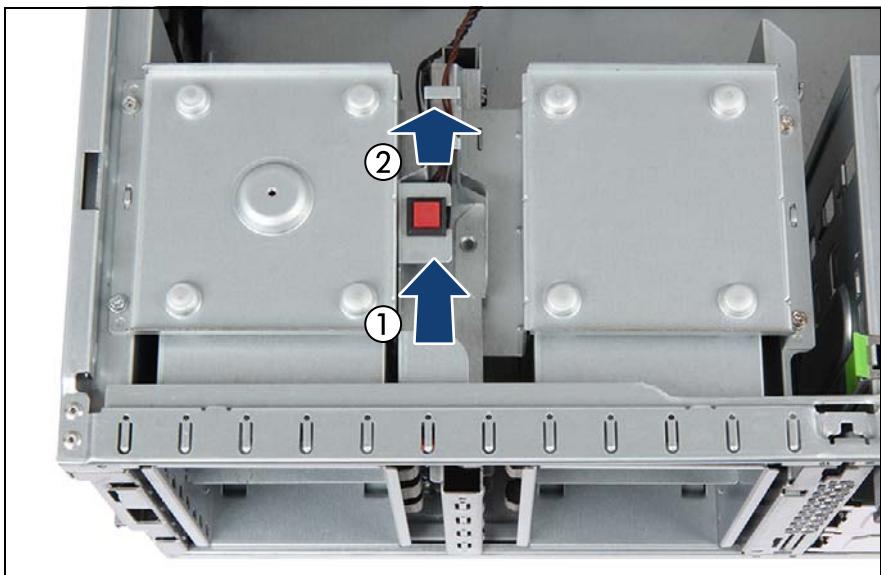


図 92: イントリュージョンスイッチホルダーの取り外し (B)

- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーが HDD ベイのトップカバーから外れるまで、後ろにスライドさせます (1)。
- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーを取り外して (2)、保管しておきます。
- ▶ イントリュージョンスイッチケーブルをシステムボードに接続しているままにしておきます。

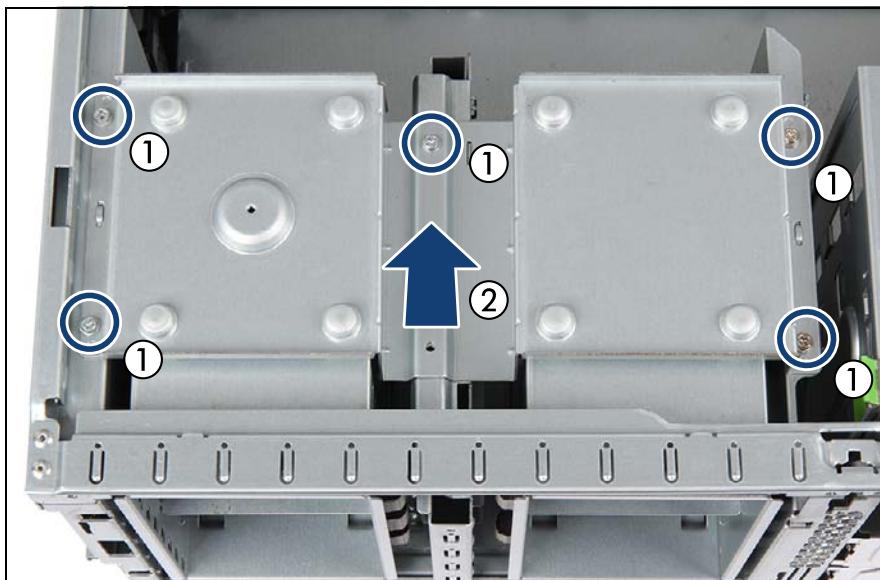


図 93: 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し

- ▶ 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーから 5 本のネジを取り外します (1)。
- ▶ 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーをシャーシから取り外します (2)。

### 7.2.13.3 2.5 インチ HDD /SSD SAS バックプレーンの取り外し



2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを交換するために、2.5 インチ HDD/SSD フロントパネルを取り外す必要はありません。図では、フロントパネルは、図示の目的のためのみに取り外されています。

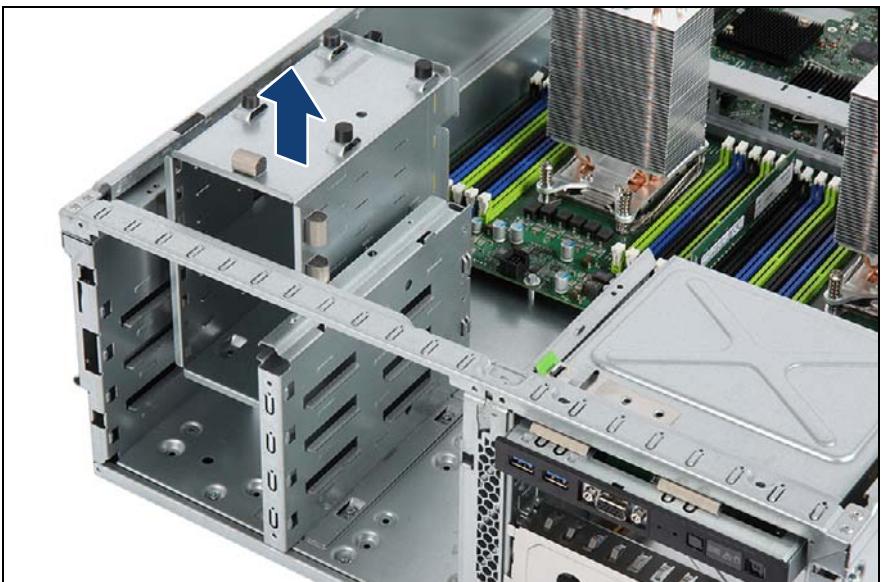


図 94: 2.5 インチ HDD ケージの取り外し

- ▶ 故障した HDD バックプレーンを含む 2.5 インチ HDD ケージを、HDD ベイから持ち上げます。

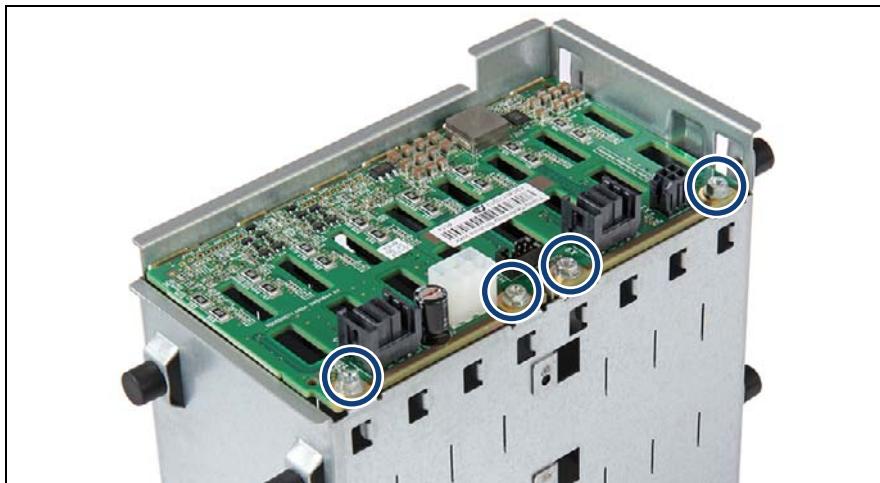


図 95: 故障した 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り外し (A)

- ▶ 故障した 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンの 4 本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。

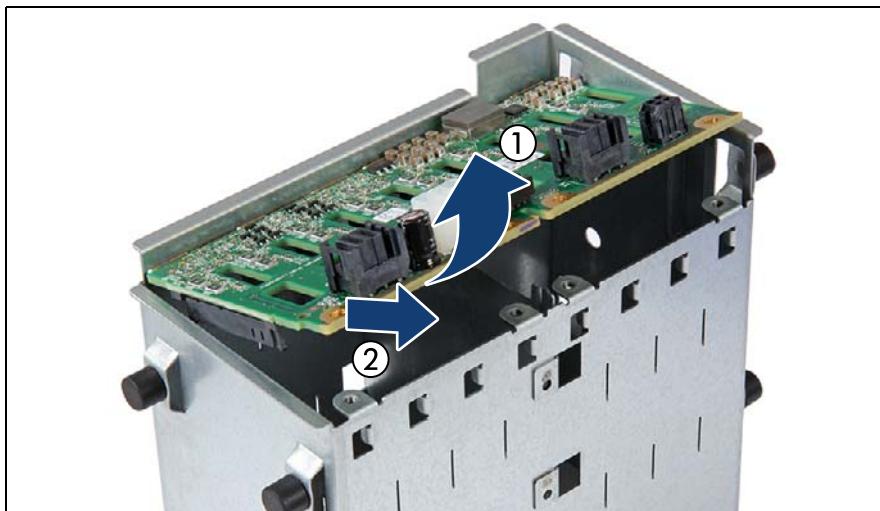


図 96: 故障した 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り外し (B)

- ▶ 故障した 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを起こし (1)、やや傾けながら HDD ケージの穴から外します (2)。

#### 7.2.13.4 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け

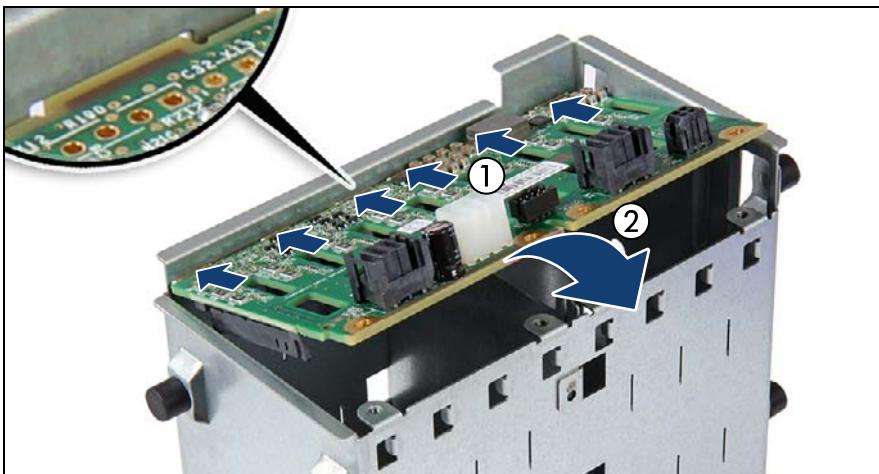


図 97: 新しい 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け (A)

- ▶ 新しい 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを、やや傾けながら HDD ケージの 6 つの穴に合わせます (1)。
- ▶ 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを倒します (2)。

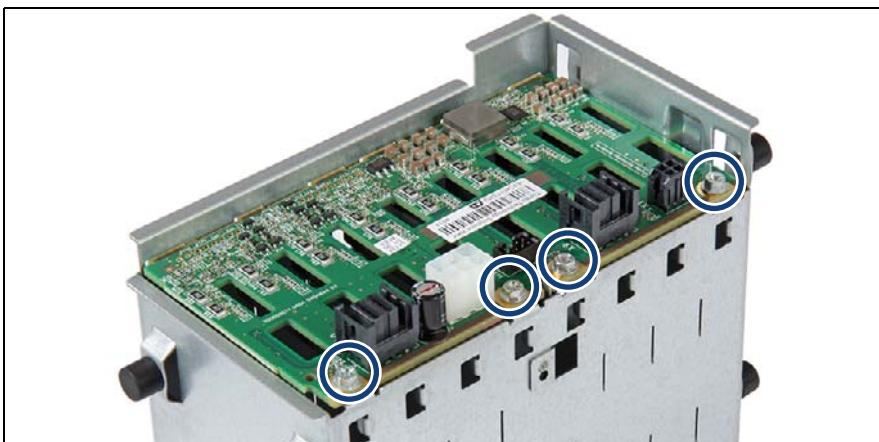


図 98: 新しい 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け (B)

- ▶ 4 本の M3 x 4.5 mm ネジで、2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを HDD ケージに固定します (丸で囲んだ部分)。



2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを交換するために、2.5 インチ HDD フロントパネルを取り外す必要はありません。図では、フロントパネルは、図示の目的のためのみに取り外されています。

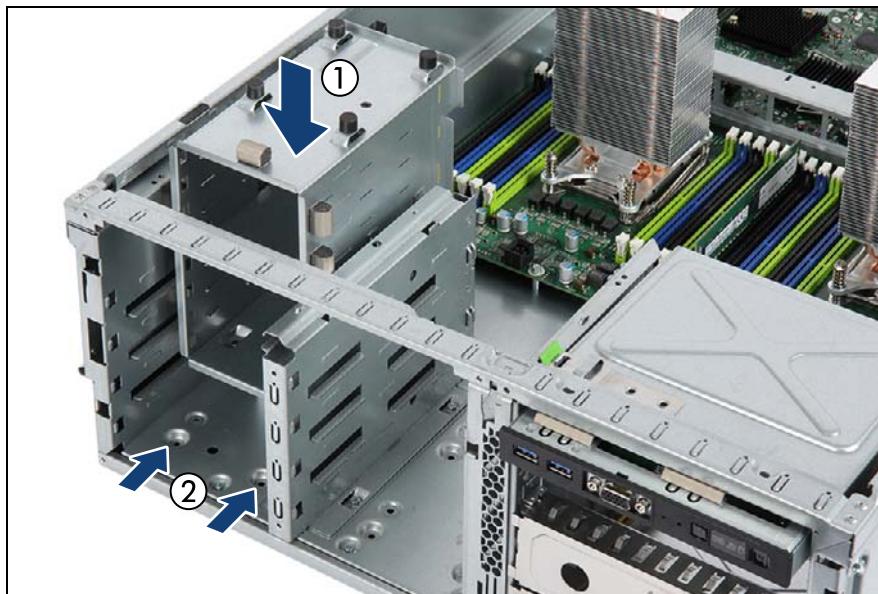


図 99: 2.5 インチ HDD ケージの取り付け

- ▶ 図のように、HDD 取り付けベイへ、2.5 インチ HDD ケージを降ろします (1)。
- ▶ ケージの下部の 4 本のゴム製ボルトが、シャーシフロアの対応する凹みに正しくはめ込まれていることを確認します (2)。

### 7.2.13.5 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け

**i** 2.5 インチ HDD SAS バックプレーンを交換するために、2.5 インチ HDD フロントパネルを取り外す必要はありません。図では、フロントパネルは、図示の目的のみに取り外されています。

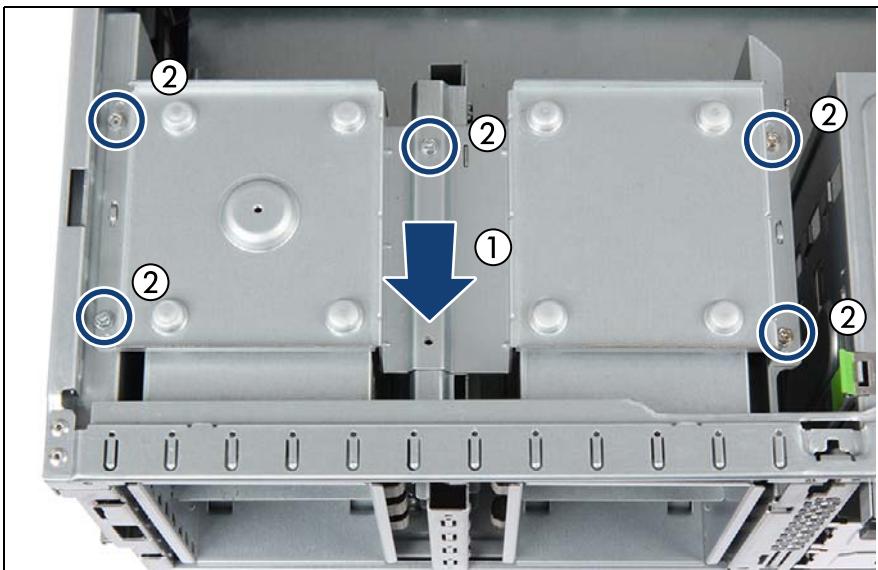


図 100: 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け

- ▶ 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーを HDD 取り付けベイに降ろします (1)。
- ▶ ケージの上部の 4 本のゴム製ボルトが、HDD ベイのトップカバーの対応する凹みに正しくはめ込まれていることを確認します。
- ▶ M3 x 4.5 mm のネジ 5 本で、HDD ベイのトップカバーをシャーシに固定します (2)。

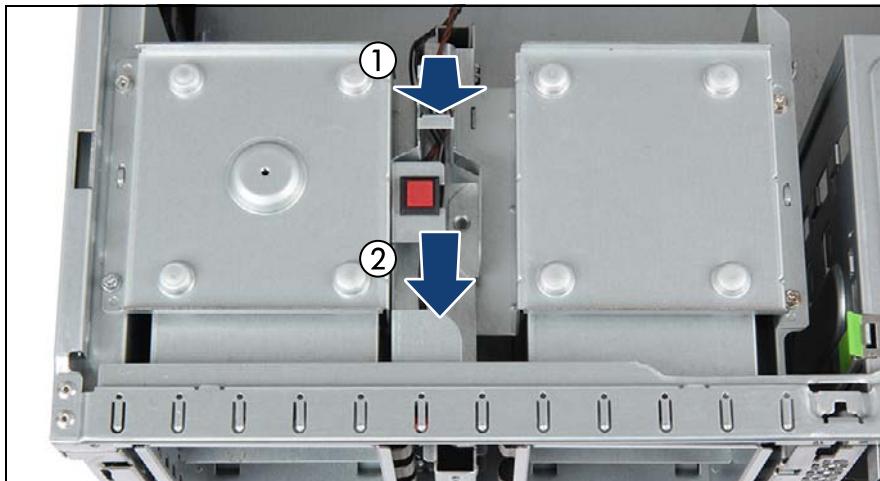


図 101: イントリュージョンスイッチホルダーの取り付け (A)

- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーを HDD ベイのトップカバーへ置きます (1)。
- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーを、最後までシャーシ前面の縁の下にスライドさせます (2)。

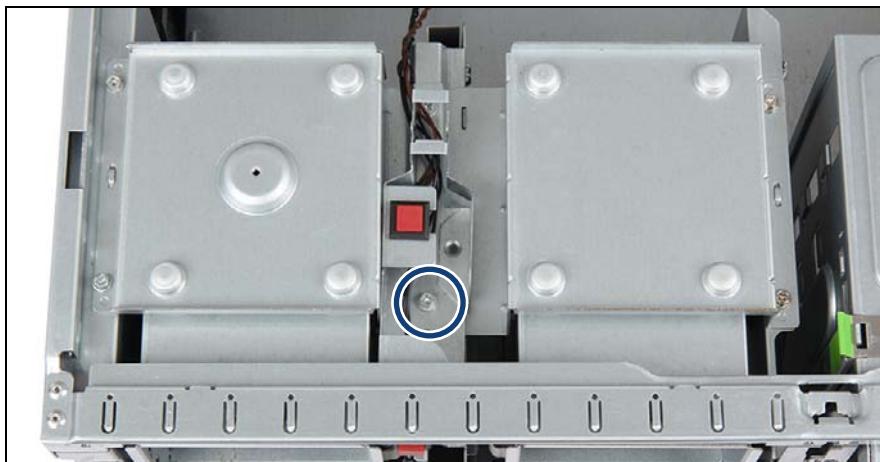


図 102: イントリュージョンスイッチホルダーの取り付け (B)

- ▶ M3 x 4.5 mm ネジ 1 本で、イントリュージョンスイッチホルダーを HDD ベイのトップカバーに固定します。

### 7.2.13.6 バックプレーン 1 へのケーブルの接続

#### エキスパンダボードのない構成



図 103: ケーブルのバックプレーン 1 への接続

- ▶ バックプレーン 1 への 2 本の SAS ケーブルを接続します。
  - (1) SAS コントローラコネクタ MLC1
  - (2) SAS コントローラコネクタ MLC2
- ▶ バックプレーン 1 に電源ケーブルを接続します。
  - 電源ケーブル (3)
  - 必要に応じて ODD 電源ケーブル (4)
- ▶ 必要に応じて、OOB ケーブルを接続します(配線 [532 ページ](#) の図 401 または [532 ページ](#) の図 402 を参照)。

#### エキスパンダボード付きの構成

- ▶ エキスパンダボードを使用した配線については、[274 ページ](#) の「ケーブルのエキスパンダボードへの接続」の項を参照してください。
- i** ケーブル接続の概要のまとめは、[512 ページ](#) の「ケーブル図」の項を参照してください。

### 7.2.13.7 終了手順

- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 172 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け」の項に記載されているように、すべての取り外した HDD/SSD モジュールを取り付けます。
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
81 ページの「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」 ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

### 7.2.14 SAS バックプレーンの交換（最大 32 台の HDD/SSD モジュールでの構成）



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間：15 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 7.2.14.1 準備手順

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 173 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」の項に記載されているように、すべての HDD/SSD モジュールを取り外します。
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

### 7.2.14.2 SAS バックプレーンおよび SAS エキスパンダホルダーの取り外し

**i** SAS ケーブルは非常に頑丈です。次のステップのために、SAS エキスパンダホルダーを取り外してアクセスし易くします。

#### SAS エキスパンダホルダーの取り外し

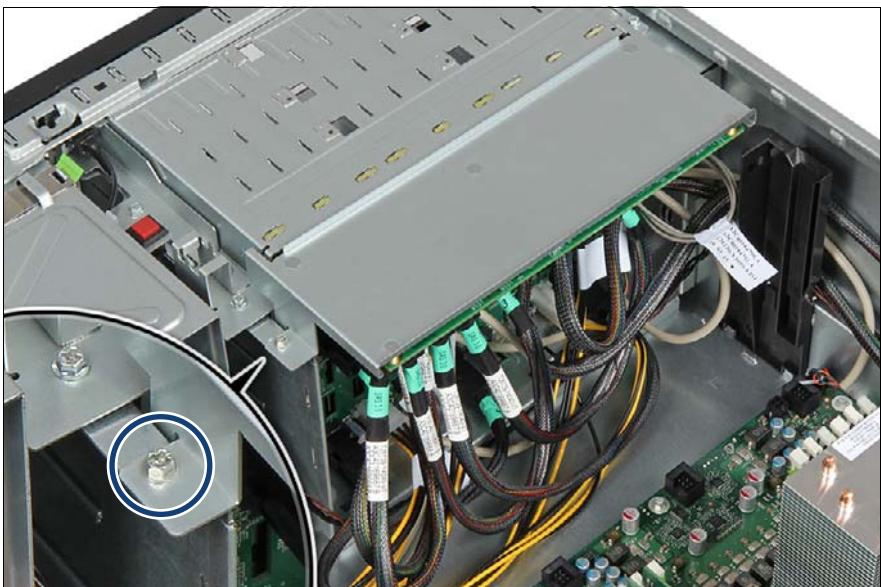


図 104: SAS エキスパンダホルダーの取り外し (A)

- ▶ ネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。

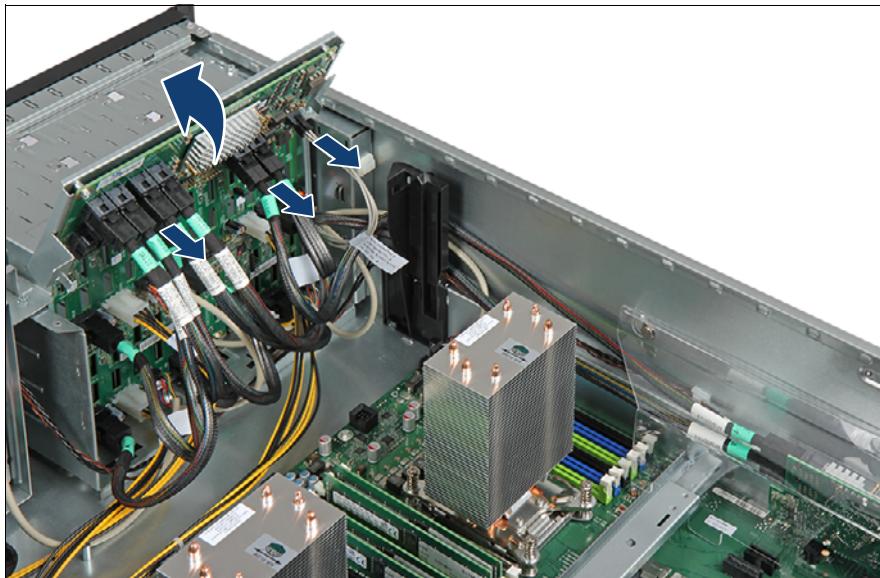


図 105: SAS エキスパンダホルダーの取り外し (B)

- ▶ SAS エキスパンダホルダーを慎重に持ち上げます。
- ▶ すべてのケーブルを SAS エキスパンダボードから取り外します。

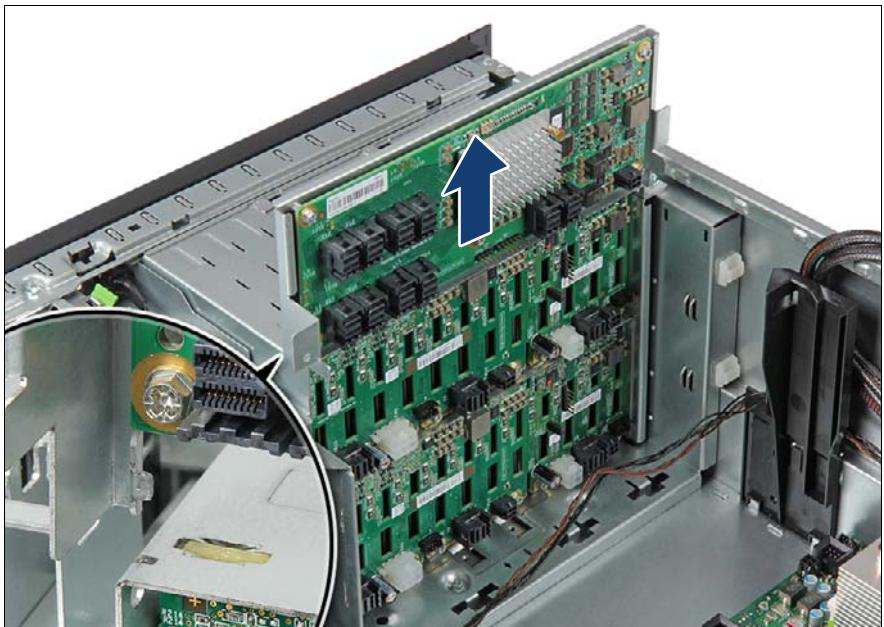


図 106: SAS エキスパンダホルダーの取り外し (C)

- ▶ SAS エキスパンダホルダーを HDD ケージに対して直角にします。
- ▶ SAS エキスパンダホルダーを上方に取り出します。

### SAS バックプレーンの取り外し

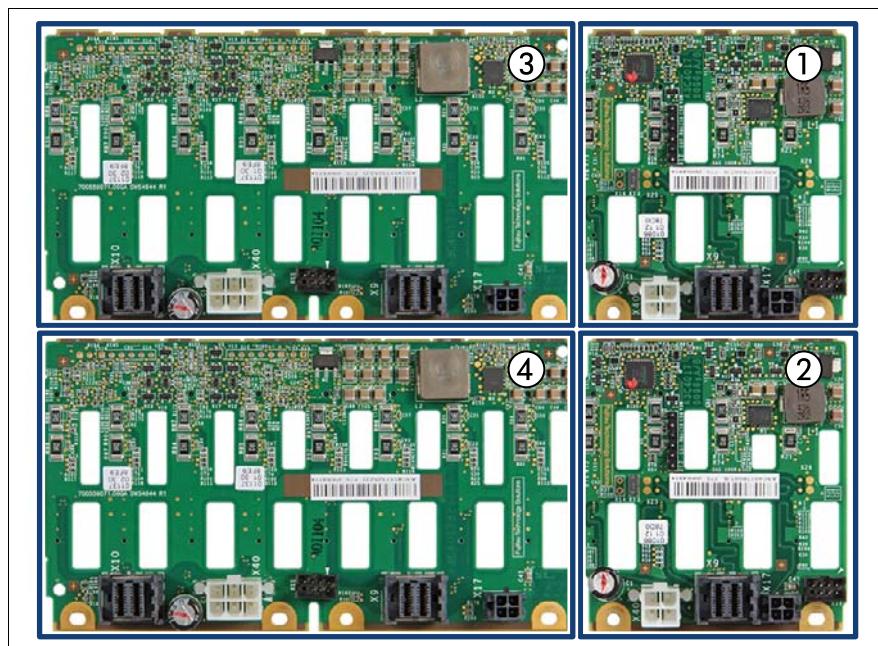


図 107: SAS バックプレーンの番号付け

| 位置 | コンポーネント       |
|----|---------------|
| 1  | SAS バックプレーン 1 |
| 2  | SAS バックプレーン 2 |
| 3  | SAS バックプレーン 3 |
| 4  | SAS バックプレーン 4 |

- ▶ すべてのケーブルを対応する SAS バックプレーンから取り外します。

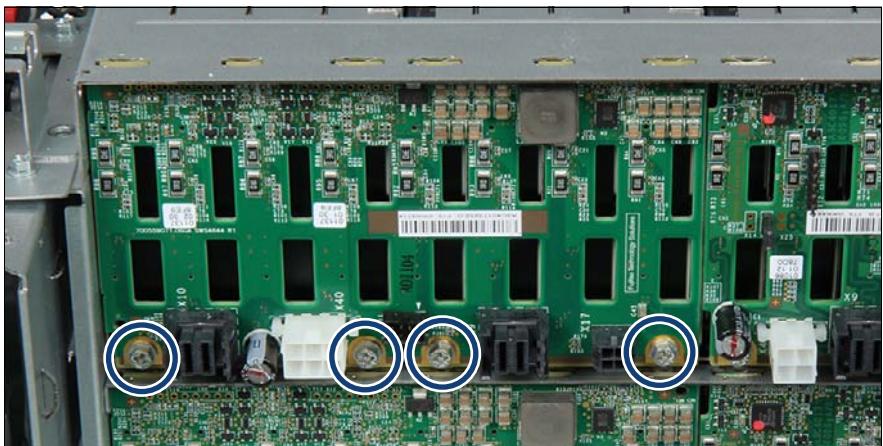


図 108: SAS バックプレーンの取り外し - SAS バックプレーン 3 の例 (A)

- ▶ 4 本のネジ (SAS バックプレーン 3 および 4) または 2 本のネジ (SAS バックプレーン 1 および 2) を取り外します。

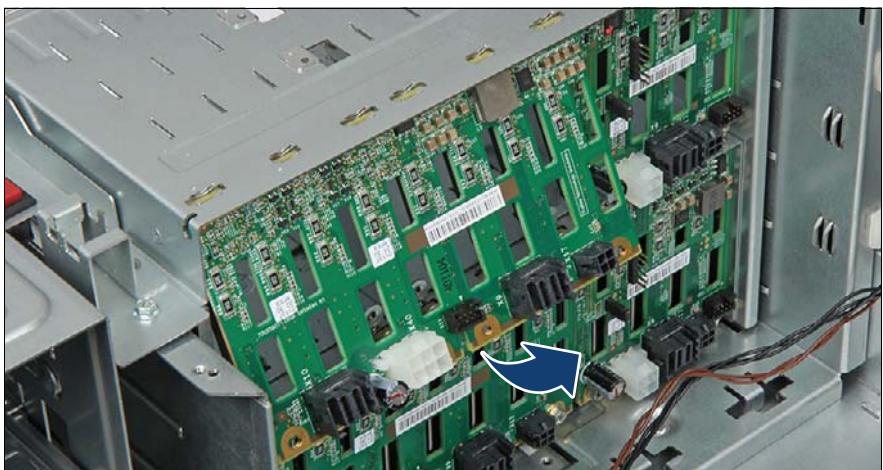


図 109: SAS バックプレーンの取り外し - SAS バックプレーン 3 の例 (B)

- ▶ SAS バックプレーンをやや傾けながら取り出します。

### 7.2.14.3 SAS バックプレーンの取り付け

#### SAS バックプレーンの取り付け

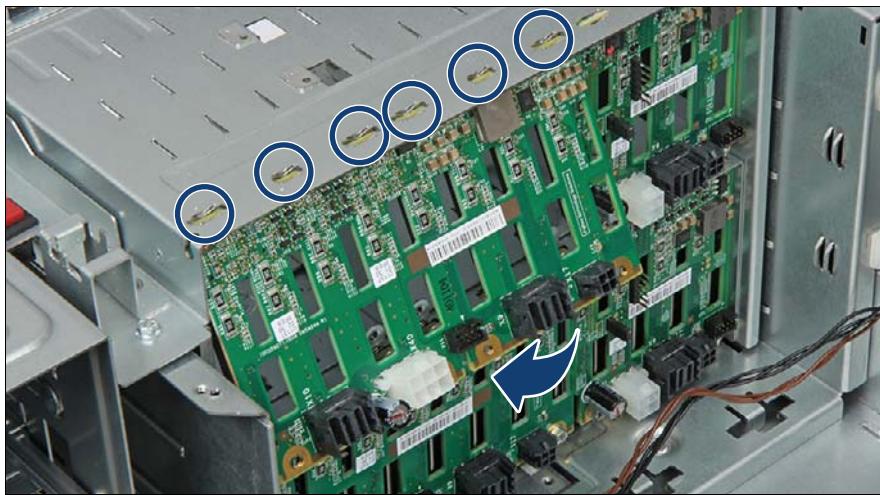


図 110: SAS バックプレーンの取り付け - SAS バックプレーン 3 の例

- ▶ 新しい SAS バックプレーンを、やや傾けながら HDD ケージの対応する凹み（丸で囲んだ部分）に合わせます。
- ▶ SAS バックプレーンを倒します。
- ▶ SAS バックプレーンを 4 本または 2 本のネジで固定します（図 108 を参照）。

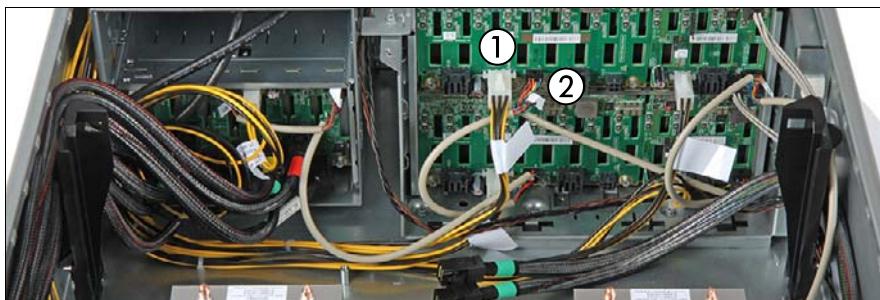


図 111: 電源ケーブルおよび OOB ケーブルの接続 - SAS バックプレーン 3 の例

- ▶ 電源ケーブルを SAS バックプレーンに接続します（1）。

- ▶ 必要に応じて、OOB ケーブルを SAS バックプレーンに接続します (2)。



詳細は、配線図 517 ページの「電源ケーブル配線 : 24 x / 32 x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40176099」および 532 ページの「オプション : 6 台の HDD バックプレーンおよび PSAS HBA 用 OOB」を参照してください。



SAS ケーブルの接続 :

SAS ケーブルは、SAS エキスパンダホルダーを取り付けた後に接続します。

### SAS エキスパンダホルダーの取り付け

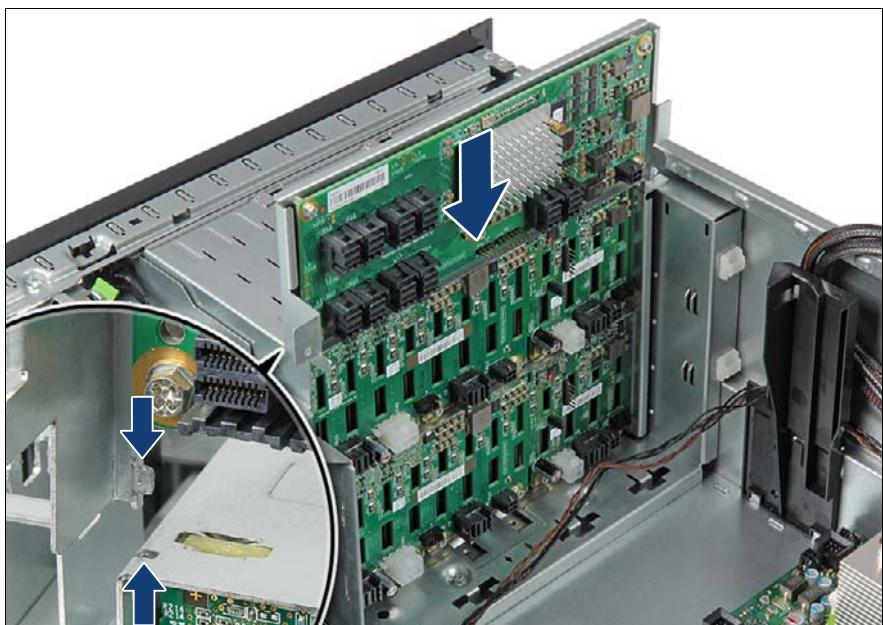


図 112: SAS エキスパンダホルダーの取り付け (A)

- ▶ SAS エキスパンダホルダーを、図のように HDD ケージに対して直角にします。
- ▶ SAS 拡張ボードが下の SAS バックプレーンと同一平面上になっているかどうか確認します。
- ▶ ホルダーの両側の 2 つのラッチが HDD ケージのスロットにはめ込まれるように (拡大された部分を参照)、SAS エキスパンダホルダーを HDD ケージに降ろします。

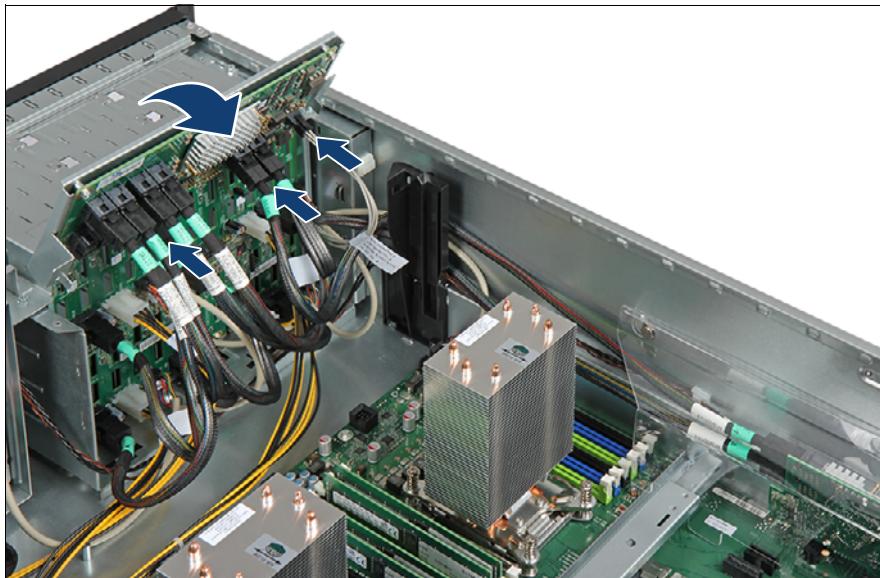


図 113: SAS エキスパンダーホルダーの取り付け (B)

- ▶ すべてのケーブルを SAS 拡張ボードおよび SAS バックプレーンに接続します。

- SAS ケーブル:

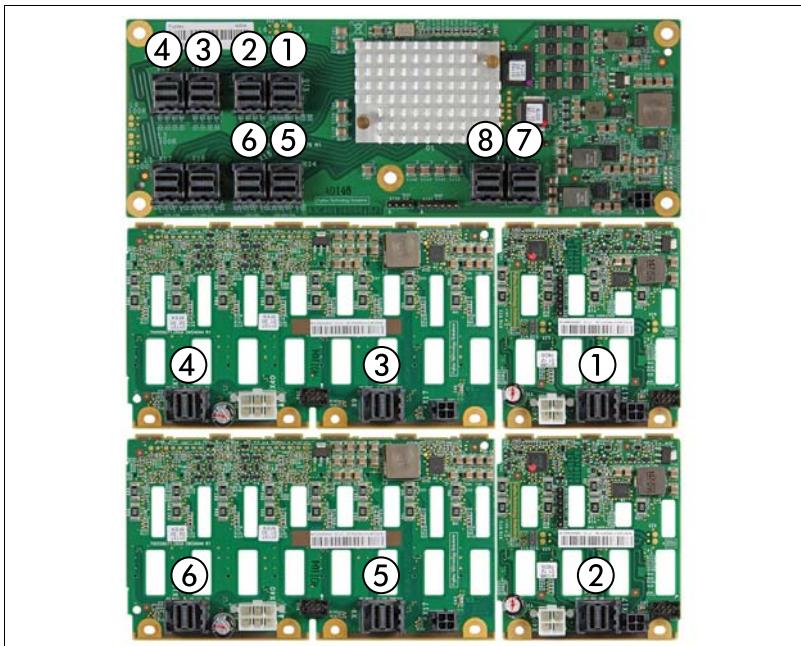


図 114: SAS ケーブルの接続 - エクスパンダボードおよびバックプレーン

- (1) SAS バックプレーン 1 のコネクタ X9 からコネクタ X10
- (2) SAS バックプレーン 2 のコネクタ X9 からコネクタ X11
- (3) SAS バックプレーン 3 のコネクタ X9 からコネクタ X12
- (4) SAS バックプレーン 3 のコネクタ X10 からコネクタ X13
- (5) SAS バックプレーン 4 のコネクタ X9 からコネクタ X14
- (6) SAS バックプレーン 4 のコネクタ X10 からコネクタ X15
- (7) SAS コントローラのコネクタ MLC 2 からコネクタ X2
- (8) SAS コントローラのコネクタ MLC 1 からコネクタ X1

- 電源ケーブル、SAS バックプレーン 1 のコネクタ X17 からコネクタ X3



詳細は、配線図 524 ページの「SAS ケーブル配線 : 32 x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40176099」を参照してください。

- ▶ SAS エクスパンダホルダーを慎重に降ろします。
- ▶ SAS エクスパンダホルダーをネジで固定します（図 104 を参照）。

### 7.2.14.4 終了手順

- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 172 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け」の項に記載されているように、すべての取り外した HDD/SSD モジュールを取り付けます。
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
81 ページの「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

### 7.2.15 SAS エキスパンダホルダーの交換 (最大 32 台の HDD/SSD モジュールでの構成)



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間 : 15 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 7.2.15.1 準備手順

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

### 7.2.15.2 SAS エキスパンダボードの取り外し

- ▶ 189 ページ の「SAS エキスパンダホルダーの取り外し」の項に記載されているように、SAS エキスパンダホルダーを取り外します。



図 115: SAS 拡張ボードのネジの取り外し

- ▶ 5 本のネジ（丸で囲んだ部分）を取り外します。
- ▶ SAS 拡張ボードを SAS エキスパンダホルダーから取り外します。

### 7.2.15.3 SAS エキスパンダボードの取り付け

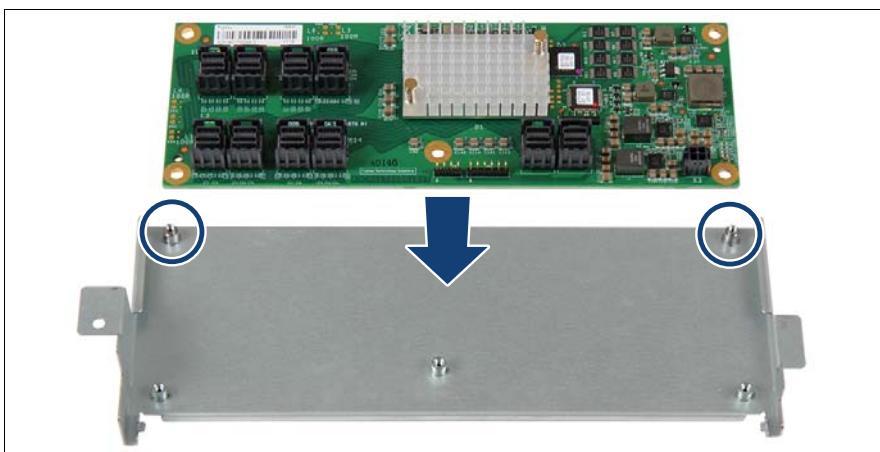


図 116: SAS エキスパンダボードの取り付け

- ▶ SAS 拡張ボードを SAS エキスパンダホルダーに置きます。
- ▶ SAS エキスパンダボードが両方のセンタリングボルトに正しく固定されているかどうか確認します（丸で囲んだ部分）。

- ▶ SAS 拡張ボードを SAS エキスパンダホルダーに 5 本のネジで固定します (図 115 を参照)。

### 7.2.15.4 終了手順

- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
81 ページの「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

## 7.2.16 8x から 16x 2.5 インチ HDD / SSD 構成へのアップグレード



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 20 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 7.2.16.1 準備手順

- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 173 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」の項に記載  
されているように、すべての HDD/SSD モジュールを取り外します。
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

### 7.2.16.2 8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの取り外し

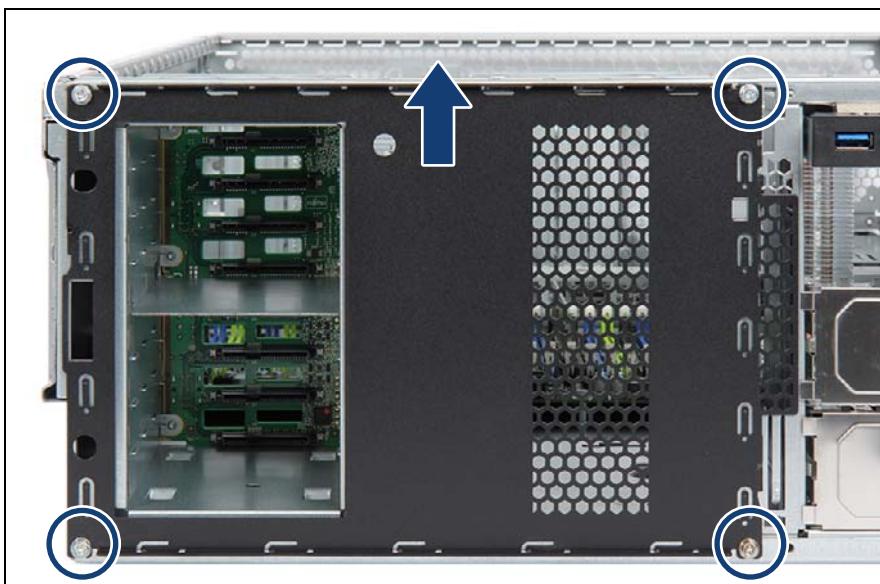


図 117: 8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの取り外し

- ▶ 8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルから 4 本のネジを取り外します。
- ▶ シャーシから外れるまで、8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルを引き上げます。
- ▶ 8 x 2.5 インチ HDD フロントパネルを取り外します。

### 7.2.16.3 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し

- ▶ [178 ページ の「2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し](#) の項に記載されているように、2.5 インチ HDD ベイカバーを取り外します。

### 7.2.16.4 2 つ目の 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け

- ▶ [183 ページ の「2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンの取り付け](#) の項に記載されているように、2 つ目の 2.5 インチ HDD/SSD SAS バックプレーンと 2 つ目の HDD ケージを、取り付けます。

### 7.2.16.5 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け

- ▶ 185 ページの「2.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け」の項に記載されるように 2.5 インチ HDD ベイのトップカバーを取り付けます。

### 7.2.16.6 16 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの取り付け

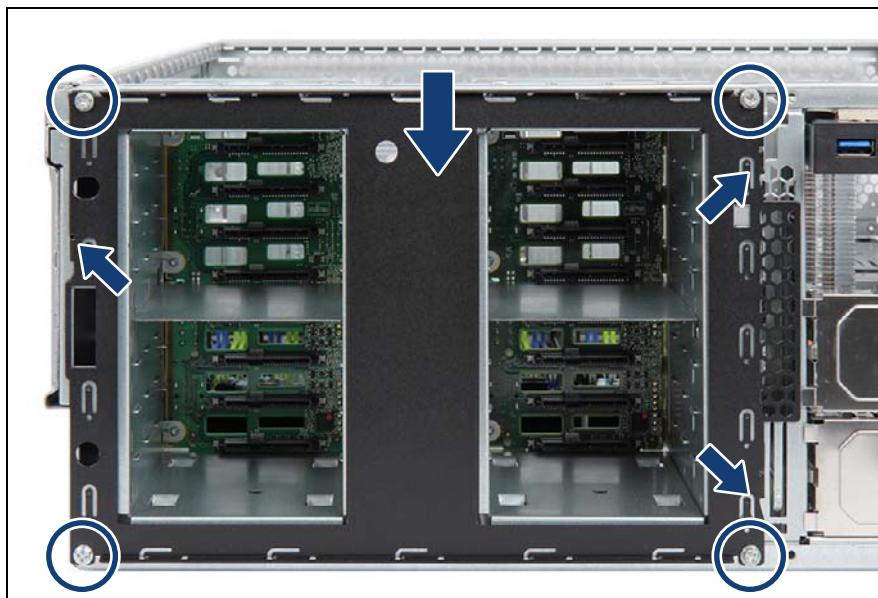


図 118: 16 x 2.5 インチ HDD フロントパネルの固定

- ▶ 2.5 インチ HDD フロントパネルの 3 つのフックを、サーバ前面のスロットに合わせます（小さな矢印の部分）。
- ▶ 上端がシャーシに合うまで、HDD フロントパネルをしっかりと押し下げます（矢印を参照）。
- ▶ 4 本の M3 x 4.5 mm ネジで、HDD フロントパネルをサーバ前面に固定します（丸で囲んだ部分）。

### 7.2.16.7 エキスパンダーボードの取り付け

- ▶ 271 ページの「SAS エキスパンダーボードの取り付け」の項に記載されているように、エキスパンダーボードを取り付けます。

### 7.2.16.8 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」。
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」。
- ▶ 172 ページ の「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け」および  
175 ページ の「2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り付け」の項  
に記載されているように、HDD/SSD モジュールまたは HDD/SSD ダミー
  -  HDD の取り付け順序の詳細は、[154 ページ の「2.5 インチの HDD / SSD / PCIe SSD 構成」](#) の項を参照してください。
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[81 ページ の「ラックへサーバを取り付ける」](#)
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」。
- ▶ BitLocker 機能を使用していて、保守作業を開始する前に無効にした場合  
は、BitLocker を再度有効にします。[132 ページ の「BitLocker 機能の再開」](#)
- ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」

### 7.3 3.5 インチ HDD 構成

#### 7.3.1 3.5 インチ HDD ベイの取り付け

最高パフォーマンスには次の取り付け順序を推奨します。

- HDD モジュールを 1 台しか取り付けない場合、HDD モジュールを（前から見て）空きベイに取り付け、ダミーモジュールを右のベイに取り付けます。
- 容量の異なるモジュールを取り付ける場合は、容量の大きいモジュールを先に取り付けます。
- 回転速度が異なるモジュールを取り付ける場合は、回転速度が速いモジュールを先に取り付けます。

#### 7.3.2 バックプレーンの概要

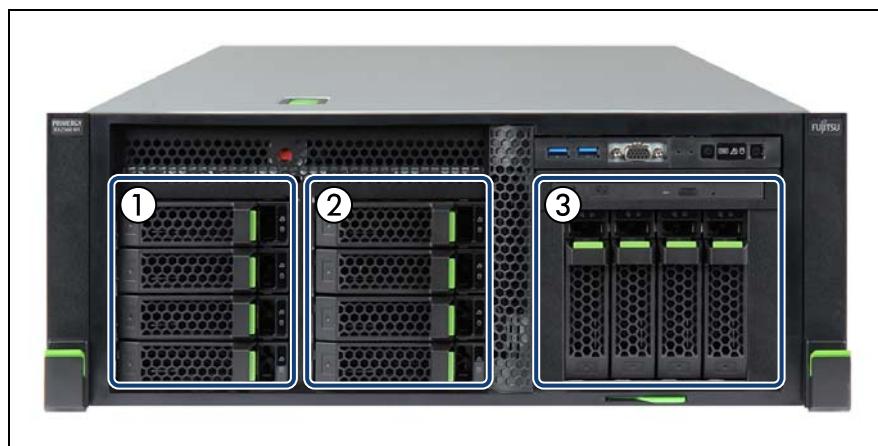


図 119: 3.5 インチ HDD SAS バックプレーン

|   |  |
|---|--|
| 1 | HDD ケージ 1 の SAS バックプレーン 1                    |
| 2 | HDD ケージ 2 の SAS バックプレーン 2                    |
| 3 | オプションの 4 x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスの SAS バックプレーン 3 |

### 7.3.3 最大 4 つの HDD モジュールでの構成 (バックプレーン x 1)

取り付け順序



図 120: 最大 4x 3.5 インチ HDD の取り付け順序

HDD の命名体系



図 121: 最大 4x 3.5 インチ HDD の命名体系



ServerView RAID Manager にリストされる HDD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

### SAS コントローラ 1 つの場合

| 位置 | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名（エンクロージャ番号 : ポート番号） |
|----|----------|---|
| ①  | 0        | ベンダー製品 (0)                                      |
| ②  | 1        | ベンダー製品 (1)                                      |
| ③  | 2        | ベンダー製品 (2)                                      |
| ④  | 3        | ベンダー製品 (3)                                      |

### 7.3.4 最大 8 台の HDD モジュールでの構成（バックプレーン x 2）

#### 取り付け順序



図 122: 最大 8x 3.5 インチ HDD の取り付け順序

## HDD の命名体系



図 123: 最大 8x 3.5 インチ HDD の命名体系

**i** ServerView RAID Manager にリストされる HDD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

### SAS コントローラ 1 つの場合

| 位置 | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号) |
|----|----------|--|
| ①  | 0        | ベンダー製品 (0)                                       |
| ②  | 1        | ベンダー製品 (1)                                       |
| ③  | 2        | ベンダー製品 (2)                                       |
| ④  | 3        | ベンダー製品 (3)                                       |
| ⑤  | 4        | ベンダー製品 (4)                                       |
| ⑥  | 5        | ベンダー製品 (5)                                       |
| ⑦  | 6        | ベンダー製品 (6)                                       |
| ⑧  | 7        | ベンダー製品 (7)                                       |

### 7.3.5 最大 12 台の HDD モジュールでの構成 (バックブ レーン x 3)

#### 取り付け順序

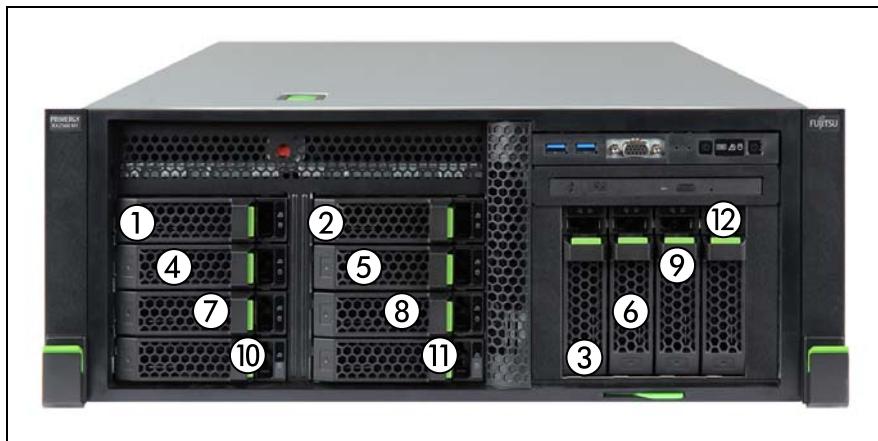


図 124: 最大 12x 3.5 インチ HDD の取り付け順序

#### HDD の命名体系

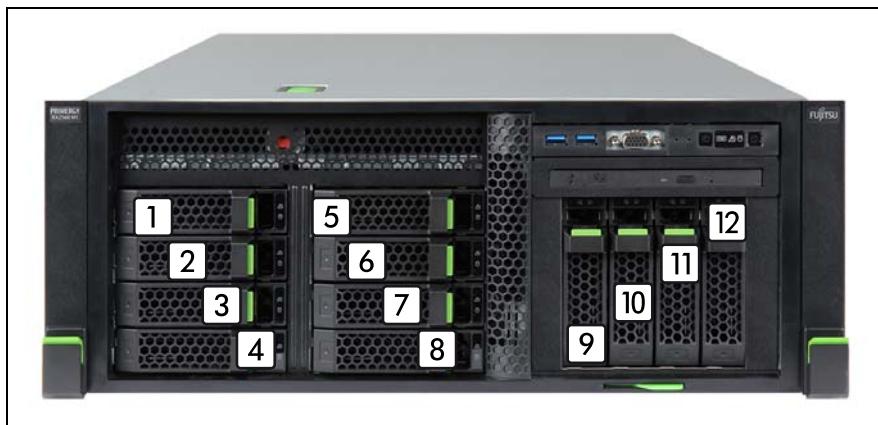


図 125: 8x 3.5 インチ HDD の命名体系



ServerView RAID Manager にリストされる HDD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

### SAS エキスパンダボードと SAS コントローラ 1 つの場合

| 位置   | 論理 ドライブ 番号 | ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号) |
|------|------------|--|
| [1]  | 0          | ベンダー製品 (1:0)                                     |
| [2]  | 1          | ベンダー製品 (1:1)                                     |
| [3]  | 2          | ベンダー製品 (1:2)                                     |
| [4]  | 3          | ベンダー製品 (1:3)                                     |
| [5]  | 4          | ベンダー製品 (1:4)                                     |
| [6]  | 5          | ベンダー製品 (1:5)                                     |
| [7]  | 6          | ベンダー製品 (1:6)                                     |
| [8]  | 7          | ベンダー製品 (1:7)                                     |
| [9]  | 8          | ベンダー製品 (1:8)                                     |
| [10] | 9          | ベンダー製品 (1:9)                                     |
| [11] | 10         | ベンダー製品 (1:10)                                    |
| [12] | 11         | ベンダー製品 (1:11)                                    |

### 7.3.6 3.5 インチ HDD モジュールおよび 2.5 インチ HDD/SSD モジュール (バックプレーン x 3 ) での混在構成



日本市場の場合は、この構成はご利用になれません。

#### 取り付け順序

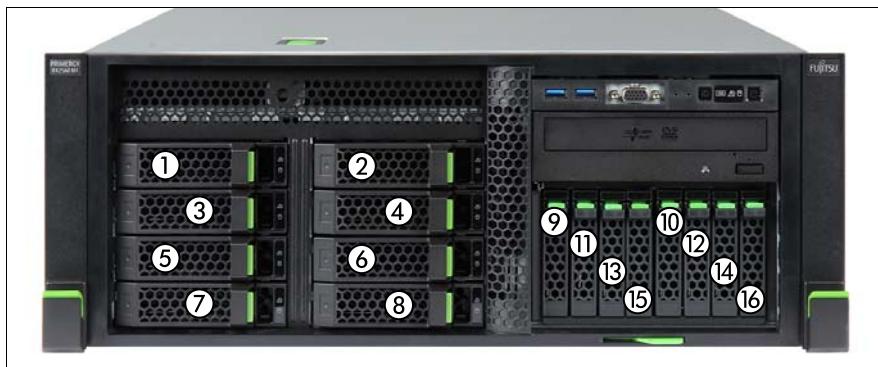


図 126: 最大 8x 3.5 インチ HDD および最大 8x 2.5 インチ HDD/SSD の取り付け順序

#### HDD/SSD の命名体系

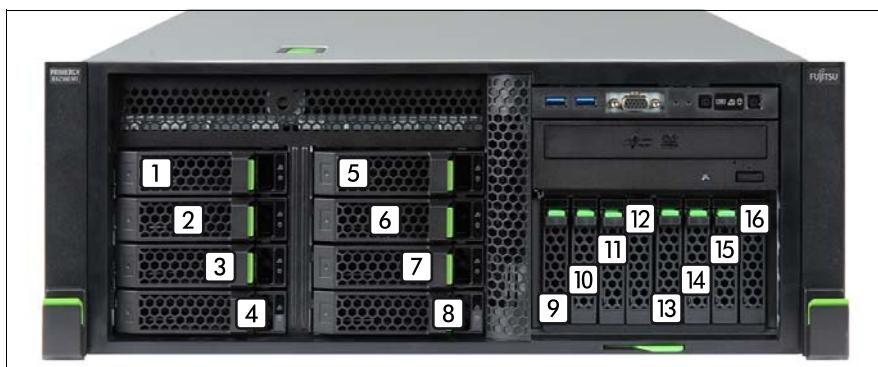


図 127: 最大 8x 3.5 インチ HDD および最大 8x 2.5 インチ HDD/SSD の命名体系



ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

### SAS エキスパンダボードと RAID コントローラ 1 つの場合

| 位置 | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名（エンクロージャ番号 : ポート番号） |
|----|----------|---|
| ①  | 0        | ベンダー製品 (1:0)                                    |
| ②  | 1        | ベンダー製品 (1:1)                                    |
| ③  | 2        | ベンダー製品 (1:2)                                    |
| ④  | 3        | ベンダー製品 (1:3)                                    |
| ⑤  | 4        | ベンダー製品 (1:4)                                    |
| ⑥  | 5        | ベンダー製品 (1:5)                                    |
| ⑦  | 6        | ベンダー製品 (1:6)                                    |
| ⑧  | 7        | ベンダー製品 (1:7)                                    |
| ⑨  | 8        | ベンダー製品 (1:8)                                    |
| ⑩  | 9        | ベンダー製品 (1:9)                                    |
| ⑪  | 10       | ベンダー製品 (1:10)                                   |
| ⑫  | 11       | ベンダー製品 (1:11)                                   |
| ⑬  | 12       | ベンダー製品 (1:12)                                   |
| ⑭  | 13       | ベンダー製品 (1:13)                                   |
| ⑮  | 14       | ベンダー製品 (1:14)                                   |
| ⑯  | 15       | ベンダー製品 (1:15)                                   |

### 7.3.7 3.5 インチ HDD モジュールおよび 2.5 インチ PCIe SSD SFF (バックプレーン x 4 ) での混在構成

#### 取り付け順序

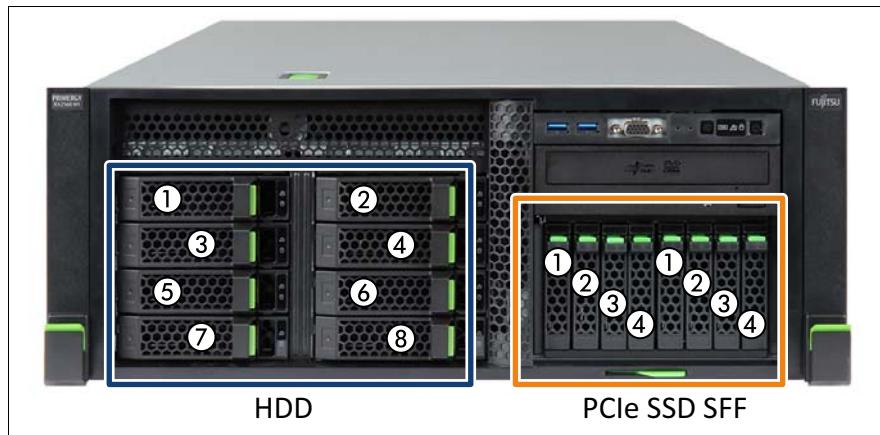


図 128: 最大 8x 3.5 インチ HDD および最大 8x 2.5 インチ PCIe SSD SFF の取り付け順序

#### HDD/SSD の命名体系

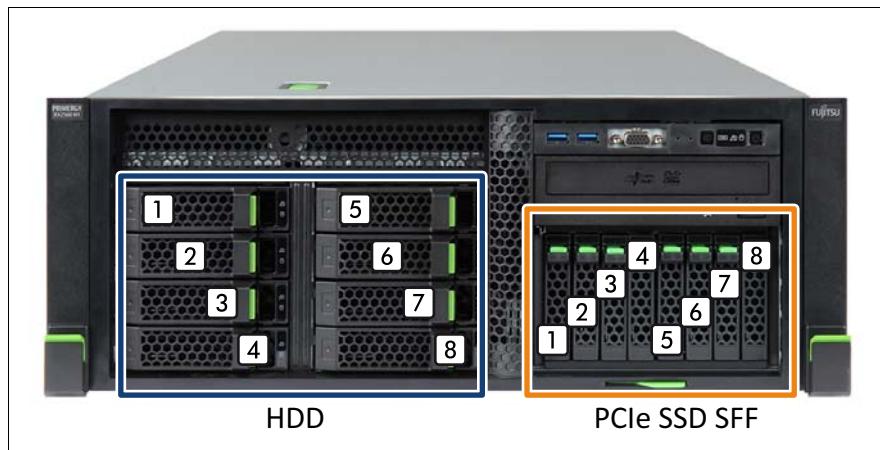


図 129: 最大 8x 3.5 インチ HDD および最大 8x 2.5 インチ PCIe SSD SFF の命名体系

**i** ServerView RAID Manager にリストされる HDD/SSD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

### SAS エキスパンダボードと SAS コントローラ 1 つの場合

| 位置 | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号) |
|----|----------|--|
| ①  | 0        | ベンダー製品 (1:0)                                     |
| ②  | 1        | ベンダー製品 (1:1)                                     |
| ③  | 2        | ベンダー製品 (1:2)                                     |
| ④  | 3        | ベンダー製品 (1:3)                                     |
| ⑤  | 4        | ベンダー製品 (1:4)                                     |
| ⑥  | 5        | ベンダー製品 (1:5)                                     |
| ⑦  | 6        | ベンダー製品 (1:6)                                     |
| ⑧  | 7        | ベンダー製品 (1:7)                                     |

### PCIe スイッチが 2 つの場合

| 位置 | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名 (エンクロージャ番号 : ポート番号)          |
|----|----------|---|
| ①  | 8        | SSD PCIe3 Main (1) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| ②  | 9        | SSD PCIe3 Main (2) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| ③  | 10       | SSD PCIe3 Main (3) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| ④  | 11       | SSD PCIe3 Main (4) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| ⑤  | 12       | SSD PCIe3 Main (5) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| ⑥  | 13       | SSD PCIe3 Main (6) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| ⑦  | 14       | SSD PCIe3 Main (7) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |
| ⑧  | 15       | SSD PCIe3 Main (8) :<br>SSD PCIe3 容量 Main 2.5" H-P EP (0) |

### 7.3.8 ホットプラグ非対応 HDD/SSD の構成

#### 取り付け順序



図 130: ホットプラグ非対応 HDD/SSD および最大 12x 3.5 インチ HDD の取り付け順序

#### HDD の命名体系



図 131: ホットプラグ非対応 HDD/SSD および最大 12x 3.5 インチ HDD の命名体系

**i** ServerView RAID Manager にリストされる HDD の番号は、HDD の取り付け順序とは異なります。

### SAS エキスパンダボードと SAS コントローラ 1 つの場合

(ケーブル 522 ページの「SAS ケーブル配線 : 2x 2.5 インチホットプラグ非対応 HDD/SSD/12x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 エキスパンダボード A3C40181407」に基づく)

| 位置   | 論理ドライブ番号 | ServerView RAID Manager の表示名（エンクロージャ番号 : ポート番号） |
|------|----------|---|
| [1]  | 0        | ベンダー製品 (1:0)                                    |
| [2]  | 1        | ベンダー製品 (1:1)                                    |
| [3]  | 2        | ベンダー製品 (1:4)                                    |
| [4]  | 3        | ベンダー製品 (1:5)                                    |
| [5]  | 4        | ベンダー製品 (1:6)                                    |
| [6]  | 5        | ベンダー製品 (1:7)                                    |
| [7]  | 6        | ベンダー製品 (1:8)                                    |
| [8]  | 7        | ベンダー製品 (1:9)                                    |
| [9]  | 8        | ベンダー製品 (1:10)                                   |
| [10] | 9        | ベンダー製品 (1:11)                                   |
| [11] | 10       | ベンダー製品 (1:12)                                   |
| [12] | 11       | ベンダー製品 (1:13)                                   |
| [13] | 12       | ベンダー製品 (1:14)                                   |
| [14] | 13       | ベンダー製品 (1:15)                                   |

### 7.3.9 3.5 インチの HDD モジュールの取り付け



お客様による交換可能部品  
(CRU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要

#### 7.3.9.1 準備手順

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、[68 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」](#)の項に記載されているように、HDD ベイカバーを開きます。
- ▶ [204 ページの「3.5 インチ HDD 構成」](#)の項に記載されているように、正しいドライブベイを特定します。

#### 7.3.9.2 3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り外し

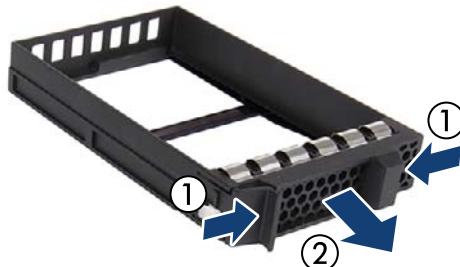


図 132: 3.5 インチダミーモジュールの取り外し

- ▶ 両方のタブを同時に押して (1)、ダミーモジュールをベイから引き出します (2)。



注意！

ダミーモジュールは今後使うかもしれないで、保管しておいてください。

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない HDD ベイにダミーモジュールを必ず装着してください。

### 7.3.9.3 3.5 インチ HDD モジュールの取り付け

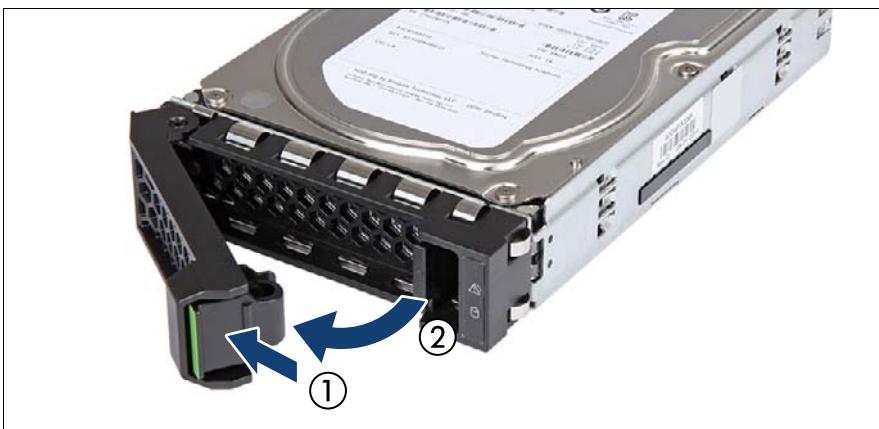


図 133: 3.5 インチ HDD モジュールのロックレバーを開く

- ▶ 緑色のロッキングラッチをはさんで (1)、ロックレバーを開きます (2)。



図 134: 3.5 インチ HDD モジュールの取り付け

- ▶ ドライブベイに HDD モジュールを挿入し、慎重に最後まで押し込みます (1)。
- ▶ ロックレバーを閉じて、ハードディスク ドライブを所定の位置に固定します (2)。

### 7.3.9.4 終了手順

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、[77 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け」](#)の項に記載されているように、HDD ベイカバーを閉じます。
- ▶ RAIDマニュアル参照し、RAID構築する。

### 7.3.10 3.5 インチ HDD モジュールの取り外し

 お客様による交換可能部品  
(CRU)  平均作業時間：5 分

工具： 工具不要

#### 7.3.10.1 準備手順

- ▶ 取り外す HDD モジュールが RAID アレイに組み込まれている場合は、次の手順に従います。

| RAID レベル | 手順  |
|----------|---|
| RAID 0   | <p>故障した場合は、RAID 0 アレイに組み込まれている HDD モジュールのみ取り外します。</p> <p> <b>注意！</b></p> <p>動作可能な HDD モジュールを取り外すと、データが失われます。</p>  |
| RAID 5   | <p>HDD モジュールを RAID 1 または RAID 5 アレイから取り外してもデータは失われません。</p> <p>ただし、取り外したドライブは、すぐに同じか、または同等以上の容量の HDD モジュールに交換する必要があります。</p> <p> <a href="#">133 ページの「RAID アレイのリビルドの実行」</a>の項に記載されているように、HDD モジュールの交換後、バックグラウンドプロセスとして、RAID のリビルドが行われます。</p> |

RAID アレイの一部である動作可能な HDD モジュールを永久的にサーバから取り外すには、まず ServerView RAID Manager を使用してアレイを削除する必要があります。



### 注意！

アレイのすべての HDD のすべてのデータが失われます。RAID アレイを削除する前に、必ずデータのバックアップを行ってください。

詳細は、『ServerView Suite RAID Management』ユーザガイドを参照してください。

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、[68 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」](#)の項に記載されているように、HDD ベイカバーを開きます。

### 7.3.10.2 3.5 インチ HDD モジュールの取り外し

- ▶ 緑色のロッキングラッチをはさんで、ロックレバーを開きます ([217 ページの図 133](#))。
- ▶ HDD モジュールを 2 ~ 3 cm 引き出します。
- ▶ ハードディスクドライブが完全に回転を停止するまで、約 30 秒待機してください。



この時間は、HDD モジュールが取り外されたことと、ハードディスクドライブが停止したことを RAID コントローラが認識するために必要です。

- ▶ HDD モジュールをベイから完全に引き出します。

### 7.3.10.3 3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り付け



### 注意！

取り外した HDD モジュールをすぐに交換しない場合は、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない HDD ベイにダミーモジュールを必ず装着してください。



図 135: 3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り付け

- ▶ ダミーモジュールを、固定するまで空きベイに押し込みます。

### 7.3.10.4 終了手順

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、[77 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け」](#)の項に記載されているように、HDD ベイカバーを閉じます。

### 7.3.11 3.5 インチ HDD モジュールの交換



お客様による交換可能部品  
(CRU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要



注意！

- 現在ドライブへのアクセスがない場合のみ、動作中に HDD モジュールを取り外してください。対応するオペレーティングマニュアルに記載されているように、HDD モジュールの表示ランプを確認します。

- ドライブが RAID コントローラで動作し、RAID レベル 0、1、1E、10、5、50、6 または 60 で動作しているディスクアレイに属しているかどうかわからない場合には、いかなる状態であっても、絶対にシステムの動作中に HDD モジュールを取り外さないでください。  
動作中の HDD モジュールの交換は、対応する RAID 設定を行った場合のみ可能です。
- 取り外し後に元の場所に戻せるように、HDD モジュール（ドライブ）すべてに明確なマークを付ける必要があります。この作業を行わないと既存のデータが失われることがあります。

### 7.3.11.1 準備手順

- ▶ [53 ページ の「故障したサーバの特定」](#)
- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、[68 ページ の「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り外し」](#) の項に記載されているように、HDD ベイカバーを開きます。
- ▶ [55 ページ の「故障した部品の特定」](#)

**故障していない HDD モジュールの取り外しにのみ適用される事項：**

- ▶ 故障していない HDD モジュールを取り外す場合は、まず、RAID 設定ソフトウェアを使用してドライブを「オフライン」に設定する必要があります。
- i** 詳細は、『ServerView Suite RAID Management』ユーザガイドを参照してください。

### 7.3.11.2 3.5 インチ HDD モジュールの取り外し

- ▶ [219 ページ の「3.5 インチ HDD モジュールの取り外し」](#) の項に記載されているように、交換する HDD をサーバから取り外します。

### 7.3.11.3 3.5 インチ HDD モジュールの取り付け

- ▶ [216 ページ の「3.5 インチの HDD モジュールの取り付け」](#) の項に記載されているように、新しい HDD モジュールを取り付けます。

### 7.3.11.4 終了手順

- ▶ タワーサーバで作業をする場合は、77 ページの「アクセス可能なドライブと HDD ベイカバーの取り付け」の項に記載されているように、HDD ベイカバーを閉じます。
- ▶ 133 ページの「RAID アレイのリビルドの実行」。

### 7.3.12 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの交換



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間：15 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 7.3.12.1 準備手順

- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 218 ページの「3.5 インチ HDD モジュールの取り外し」の項に記載されているように、すべての HDD モジュールを取り外します。
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」
- ▶ すべてのケーブルを故障した SAS バックプレーンから取り外します。

### 7.3.12.2 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し



3.5 インチ HDD SAS バックプレーンを交換するために、3.5 インチ HDD フロントパネルを取り外す必要はありません。図では、フロントパネルは、図示の目的のためのみに取り外されています。

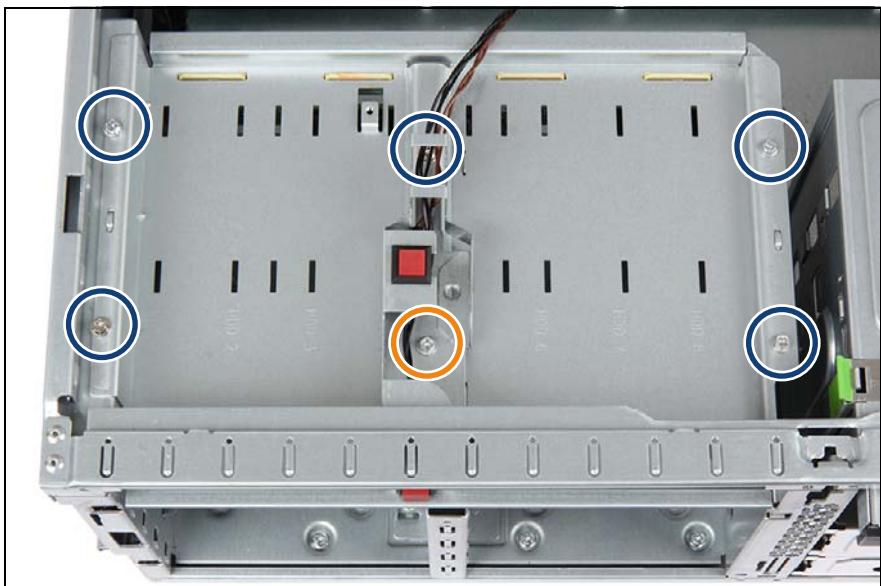


図 136: 3.5 インチ HDD ベイトップカバーの取り外し (A)

- ▶ 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーから 5 本のネジを取り外します（青色の丸で囲んだ部分）。
- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーから 1 本のネジを取り外します（オレンジ色の丸で囲んだ部分）。

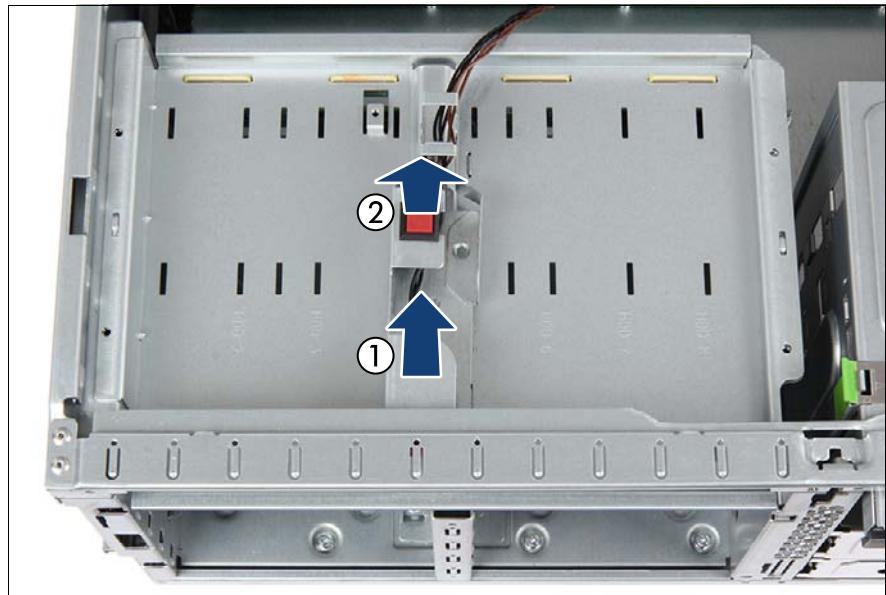


図 137: 3.5 インチ HDD ベイトップカバーの取り外し (B)

- ▶ イントリュージョンスイッチホールダーが HDD ベイのトップカバーから外れるまで、後ろにスライドさせます (1)。
- ▶ イントリュージョンスイッチホールダーを取り外して (2)、保管しておきます。
- ▶ イントリュージョンスイッチケーブルをシステムボードに接続しているままにしておきます。

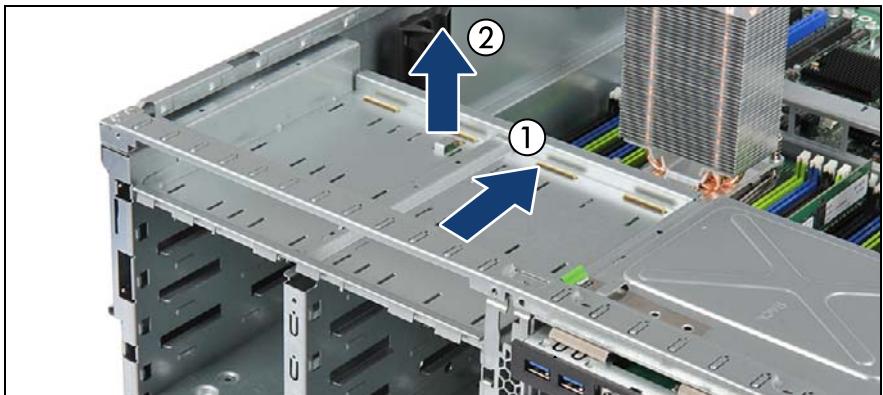


図 138: 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し (C)

- ▶ 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーをゆっくりと持ち上げて、下図のように SAS バックプレーンから取り外します (1)。
- ▶ 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーをシャーシから取り外します (2)。

#### 7.3.12.3 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り外し

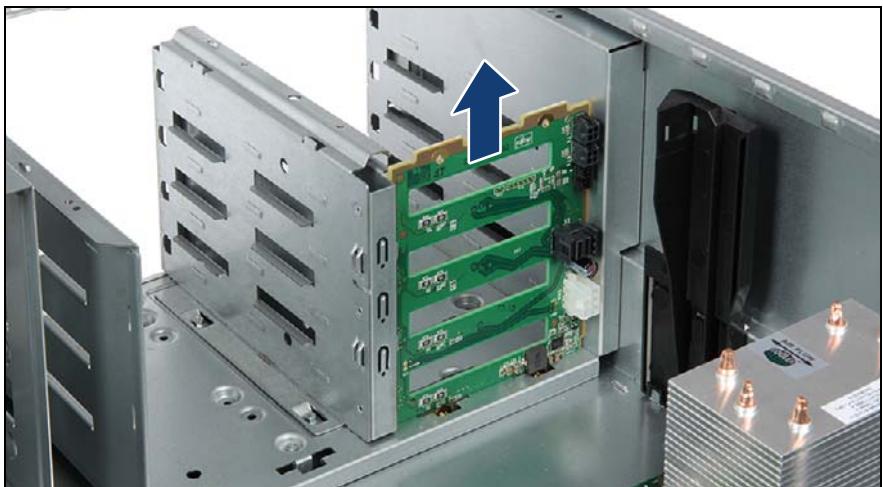


図 139: 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り外し

- ▶ SAS バックプレーンを垂直に引き上げて、HDD ベイから取り外します。

### 7.3.12.4 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け

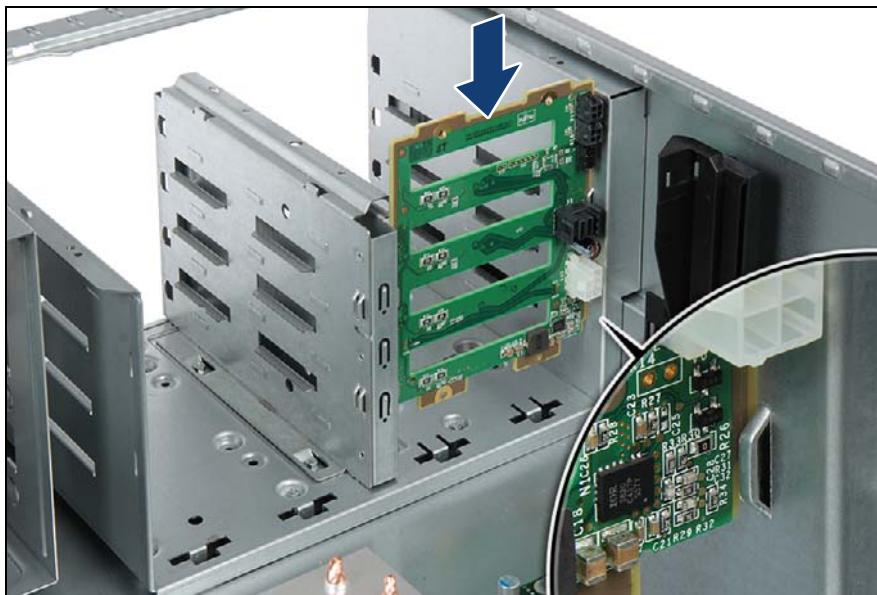


図 140: 新しい 4 × 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け (A)

- ▶ HDD バックプレーンを SAS ベイの外側にあるガイドにはめ込み（拡大された部分を参照）、下側の縁に降ろします。

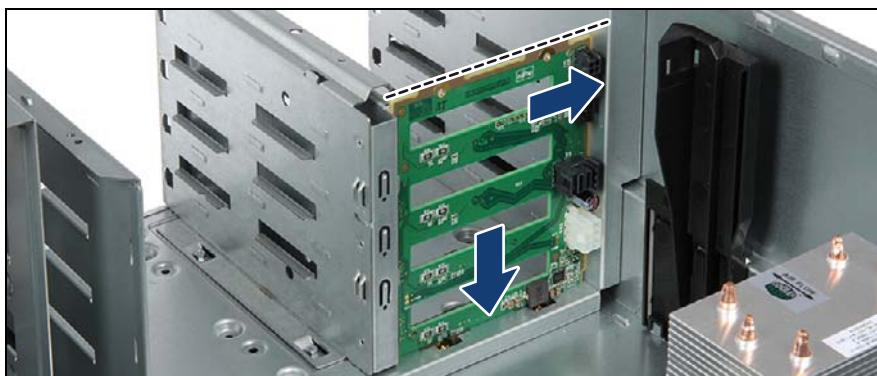


図 141: 新しい 4 × 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンの取り付け (B)

- ▶ 4 × 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンが、下側の縁およびサイドのガイドに正しくはめ込まれていることを確認します（矢印を参照）。

- ▶ SAS バックプレーンの上端が HDD ベイの仕切りに合っていることを確認します（点線を参照）。

### 7.3.12.5 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け

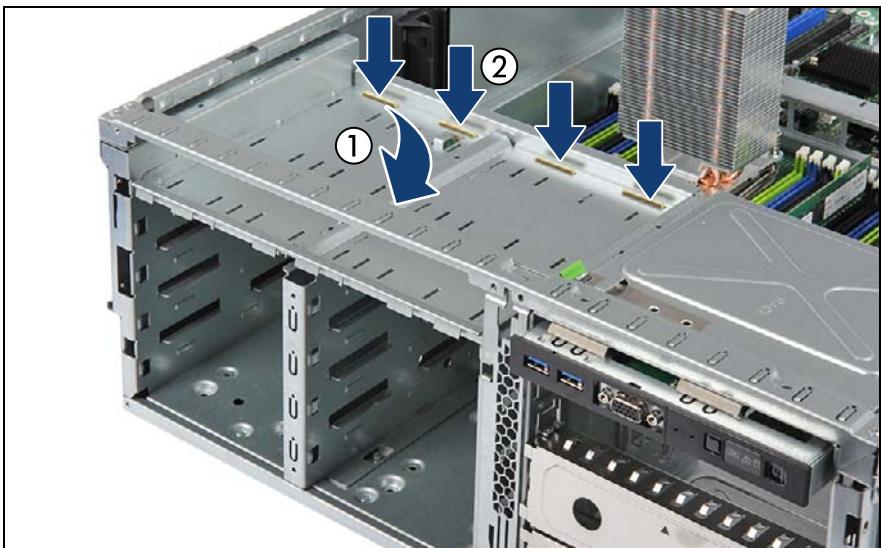


図 142: 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け (A)

- ▶ 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーを HDD ベイに降ろします (1)。
- ▶ 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーを 4x 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンのラッチの上に置きます (2)。



#### 注意！

4x 3.5 インチ HDD SAS バックプレーンのラッチが、HDD ベイのトップカバーの開口部に正しく固定されていることを確認します。

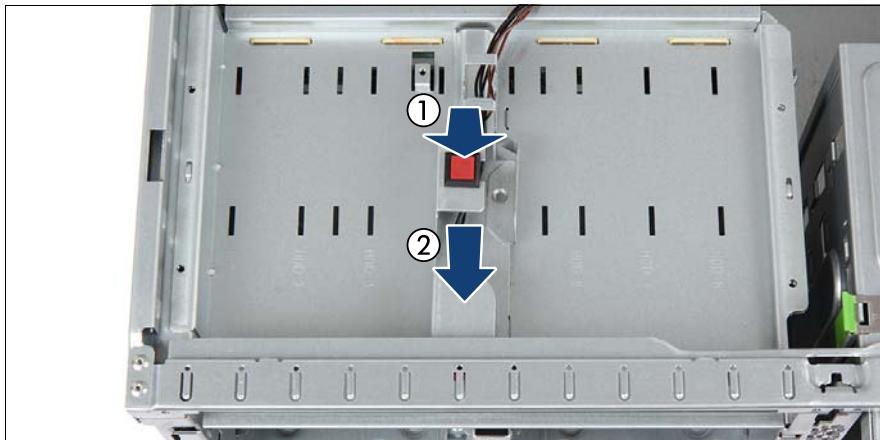


図 143: 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け (B)

- ▶ イントリュージョンスイッチホールダーを HDD ベイのトップカバーへ置きます (1)。
- ▶ イントリュージョンスイッチホールダーを、最後までシャーシ前面の縁の下にスライドさせます (2)。

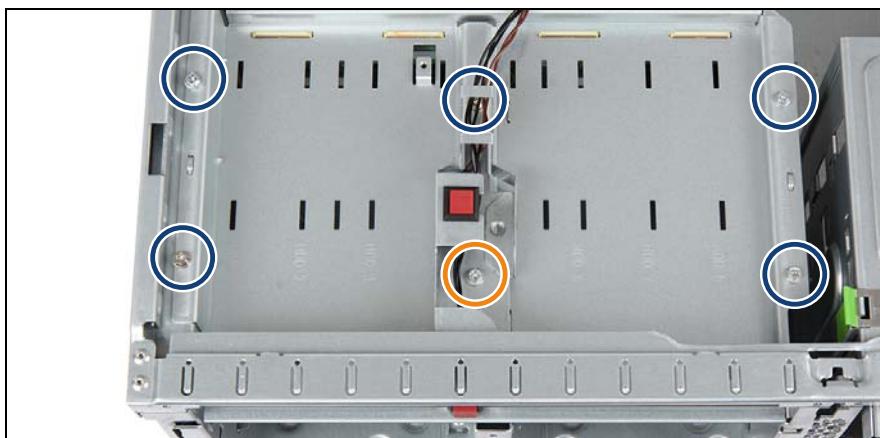


図 144: 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け (C)

- ▶ M3 x 4.5 mm のネジ 5 本で、HDD ベイのトップカバーをシャーシに固定します (青色の丸で囲んだ部分)。
- ▶ M3 x 4.5 mm ネジ 1 本で、イントリュージョンスイッチホールダーを HDD ベイのトップカバーに固定します (オレンジ色の丸で囲んだ部分)。

### 7.3.12.6 SAS バックプレーン 1 へのケーブルの接続

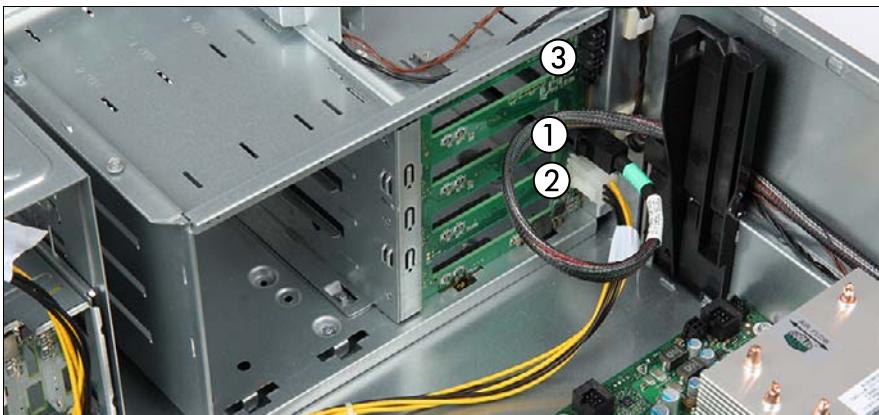


図 145: SAS バックプレーン 1 へのケーブルの接続

- ▶ バックプレーンへの SAS ケーブルを接続します。
    - (1) SAS コントローラコネクタ MLC1 からバックプレーンコネクタ X9 へ
  - ▶ バックプレーンに電源ケーブルを接続します。
    - (2) システムボードコネクタ PWR 12V 1 からバックプレーンコネクタ X40 への電源ケーブル
    - (3) 必要に応じて、その他のアクセス可能なドライブへの電源ケーブル（電源コネクタ X17 または X18）
  - ▶ 必要に応じて、OOB ケーブルを接続します（配線 532 ページ の図 401 または 532 ページ の図 402 を参照）。
- i** ケーブル接続の概要のまとめは、512 ページ の「ケーブル図」の項を参照してください。

### 7.3.12.7 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 217 ページ の「3.5 インチ HDD モジュールの取り付け」の項に記載されているように、すべての取り外した HDD モジュールを取り付けます。
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」

- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
81 ページの「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

### 7.3.13 8 x 3.5 インチ HDD 構成へのアップグレード



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 20 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

#### 7.3.13.1 準備手順

- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 218 ページの「3.5 インチ HDD モジュールの取り外し」の項に記載され  
ているように、すべての HDD モジュールを取り外します。
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

#### 7.3.13.2 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し

- ▶ 222 ページの「3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り外し」の項に  
記載されているように、3.5 インチ HDD ベイトップカバーを取り外しま  
す。

### 7.3.13.3 4x 3.5 インチの HDD フロントパネルの取り外し



図 146: 4x 3.5 インチの HDD フロントパネルの取り外し

- ▶ 4x 3.5 インチ HDD フロントパネルから 4 本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ シャーシから外れるまで、4x 3.5 インチ HDD フロントパネルを引き上げます（矢印を参照）。
- ▶ 4x 3.5 インチの HDD フロントパネルを取り外します。

### 7.3.13.4 2つ目の3.5インチHDD SAS バックプレーンの取り付け

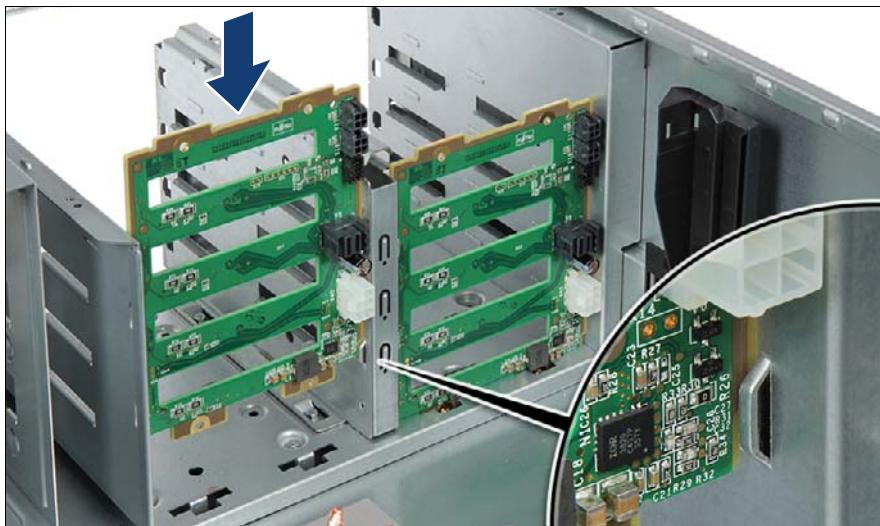


図 147: 2つ目の3.5インチHDD SAS バックプレーンの取り付け (A)

- ▶ HDD バックプレーンを SAS ベイの外側にあるガイドにはめ込み（拡大された部分を参照）、下側の縁に降ろします。

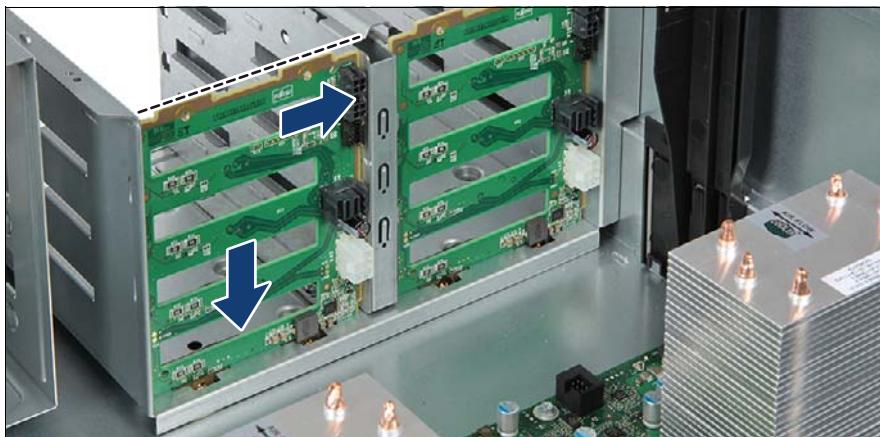


図 148: 2つ目の3.5インチHDD SAS バックプレーンの取り付け (B)

- ▶ SAS バックプレーンが、下側の縁およびサイドのガイドに正しくはめ込まれていることを確認します（矢印を参照）。

- ▶ SAS バックプレーンの上端が HDD ベイの仕切りに合っていることを確認します（点線を参照）。

### 7.3.13.5 8x 3.5 インチ HDD フロントパネルの取り付け

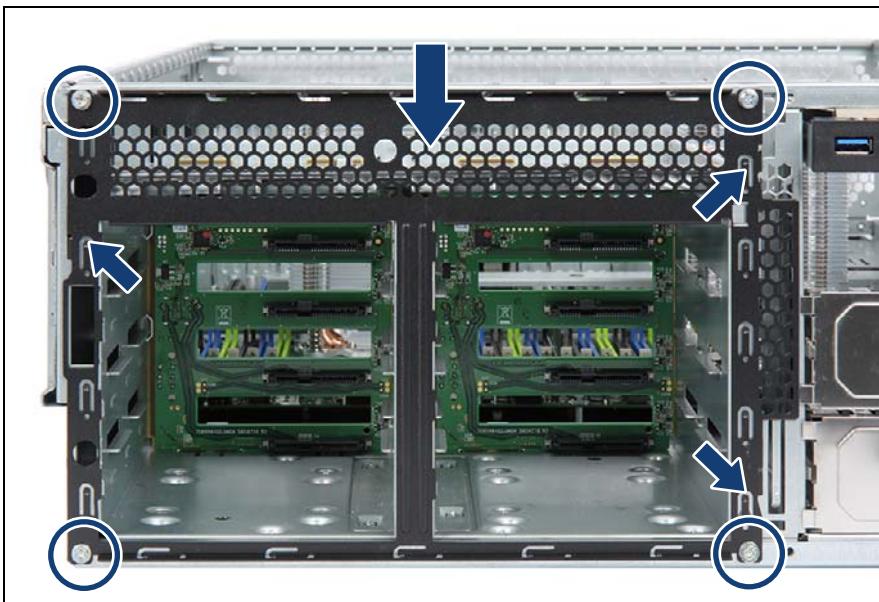


図 149: 8x 3.5 インチ HDD フロントパネルの固定

- ▶ HDD フロントパネルの 3 つのフックを、サーバ前面のスロットに合わせます（小さな矢印を参照）。
- ▶ 上端がシャーシに合うまで、HDD フロントパネルをしっかりと押し下げます（矢印を参照）。
- ▶ 4 本の M3 x 4.5 mm ネジで、HDD フロントパネルをサーバ前面に固定します（丸で囲んだ部分）。

### 7.3.13.6 3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け

- ▶ [227 ページ の「3.5 インチ HDD ベイのトップカバーの取り付け」](#) の項に記載されるように HDD ベイのトップカバーを取り付けます。

### 7.3.13.7 SAS バックプレーン 2 へのケーブルの接続

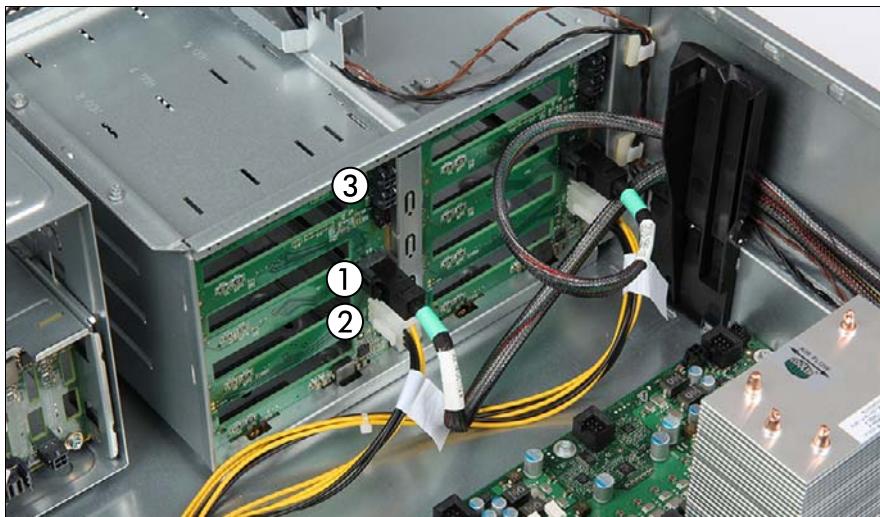


図 150: SAS バックプレーン 2 へのケーブルの接続

- ▶ バックプレーン 2 への SAS ケーブルを接続します。
    - (1) SAS コントローラコネクタ MLC2 からバックプレーン 2 コネクタ X9 へ
  - ▶ バックプレーン 2 に電源ケーブルを接続します。
    - (2) システムボードコネクタ PWR 12V 2 からバックプレーンコネクタ X40 への電源ケーブル
    - (3) 必要に応じて、その他のアクセス可能なドライブへの電源ケーブル (電源コネクタ X17 または X18)
  - ▶ 必要に応じて、OOB ケーブルを接続します(配線 532 ページ の図 401 または 532 ページ の図 402 を参照)。
- i** ケーブル接続の概要のまとめは、[512 ページ の「ケーブル図」](#) の項を参照してください。

### 7.3.13.8 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」

- ▶ 217 ページの「3.5 インチ HDD モジュールの取り付け」および 219 ページの「3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、HDD モジュールまたは HDD ダミーモジュールを、すべての HDD スロットに取り付けます。

 HDD の取り付け順序の詳細は、204 ページの「3.5 インチ HDD 構成」の項を参照してください。
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 81 ページの「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ BitLocker 機能を使用していて、保守作業を開始する前に無効にした場合は、BitLocker を再度有効にします。132 ページの「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

## 7.4 HDD 拡張ボックス

### 7.4.1 HDD 拡張ボックスの概要

#### 7.4.1.1 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックス



図 151: 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックス

**i** 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスは、アクセス可能なドライブベイ 2 と 3 に取り付けます。 [「12.1 基本情報」参照](#)

#### 7.4.1.2 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックス



図 152: 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックス

**i** 4 x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスは、アクセス可能なドライブベイ 1、2、3 に取り付けます。 [「12.1 基本情報」参照](#)

## 7.4.2 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：10 分

**工具：**マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため）

### 7.4.2.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページ の「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

### 7.4.2.2 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し

- ▶ 101 ページ の「アクセス可能なドライブのフィラーカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブフィラーカバーを必要なベイから取り外します。
- ▶ 103 ページ の「アクセス可能なドライブのカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブカバーを取り外します。

### 7.4.2.3 HDD/SSD バックプレーンの取り付け

- ▶ 必要に応じて、245 ページ の「新しい HDD/SSD バックプレーンの取り付け」の項に記載されているように、HDD/SSD バックプレーンを 8x 2.5 HDD 拡張ボックスに取り付けます。

### 7.4.2.4 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け



図 153: 取り付けブラケットを曲げる

- ▶ ドライバを使用して、中央の取り付けベイ（ベイ 2）の 4 つの取り付けブラケットを内側に曲げます（拡大された部分を参照）。
- ▶ ドライブケージの両側の下部にある 2 つの取り付けブラケットを曲げます。
- ▶ 97 ページの「[アクセス可能なドライブのロックを開く](#)」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。



図 154: 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け

- ▶ 8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けベイ 2 と 3 に差し込み、フロントパネルに揃うまでゆっくり押し込みます。
- ▶ [99 ページ の「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」](#) の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

### 7.4.2.5 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの線図

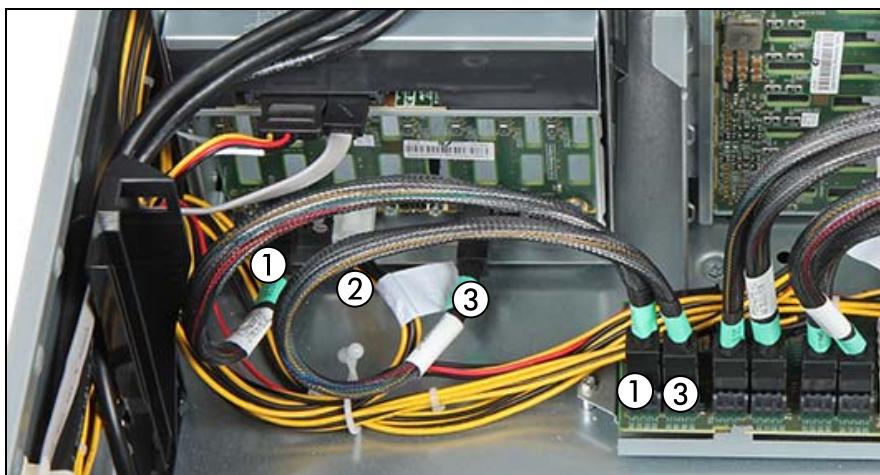


図 155: 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの接続

- ▶ SAS ケーブル C11 をバックプレーンコネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X14 に接続します (1)。
- ▶ 電源ケーブル C6 をバックプレーンコネクタ X40 からシステムボードコネクタ PWR 12V3 に接続します (2)。
- ▶ SAS ケーブル C11 をバックプレーンコネクタ X10 からエキスパンダボードコネクタ X15 に接続します (3)。
- ▶ 必要に応じて、OOB ケーブル を接続します(配線 532 ページ の図 402 を参照)。

**i** ケーブル接続の概要のまとめは、[512 ページ の「ケーブル図」](#) の項を参照してください。

### 7.4.2.6 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスへの HDD の取り付け

- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ [172 ページ の「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り付け」](#) および [175 ページ の「2.5 インチ HDD/SSD ダミーモジュールの取り付け」](#) の項に記載されているように、HDD モジュールまたは HDD ダミーモジュールを、追加の HDD スロットに取り付けます。



HDD の取り付け順序の詳細は、[154 ページ の「2.5 インチの HDD / SSD / PCIe SSD 構成」](#) の項を参照してください。

### 7.4.2.7 終了手順

- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
81 ページの「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ BitLocker 機能を使用していて、保守作業を開始する前に無効にした場合は、BitLocker を再度有効にします。[132 ページの「BitLocker 機能の再開」](#)
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

### 7.4.3 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：10 分

工具： 工具不要

#### 7.4.3.1 準備手順

- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ 173 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」の項に記載されているように、すべての HDD モジュールを HDD 拡張ボックスから取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」](#)
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

### 7.4.3.2 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し

- ▶ 8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスバックプレーンから、すべてのケーブルを取り外します。
- ▶ 97 ページの「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。



図 156: 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し

- ▶ 8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスを取り付けベイからゆっくりと引き出します。
- ▶ 99 ページの「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

### 7.4.3.3 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け

- ▶ 101 ページの「アクセス可能なドライブのフィラーカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブフィラーカバーを空のドライブベイに取り付けます。
- ▶ 103 ページの「アクセス可能なドライブのカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブカバーをフロントカバーに取り付けます。

### 7.4.3.4 終了手順

- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
81 ページの「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

### 7.4.4 8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスの HDD/SSD パック プレーンの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 :10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 7.4.4.1 準備手順

- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ 173 ページの「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」の項に記載  
されているように、すべての HDD モジュールを HDD 拡張ボックスから  
取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

### 7.4.4.2 故障した HDD/SSD バックプレーンの取り外し

- ▶ 241 ページの「8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し」の項に記載されているように、8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスのロックを解除して、取り付けベイから引き出します。

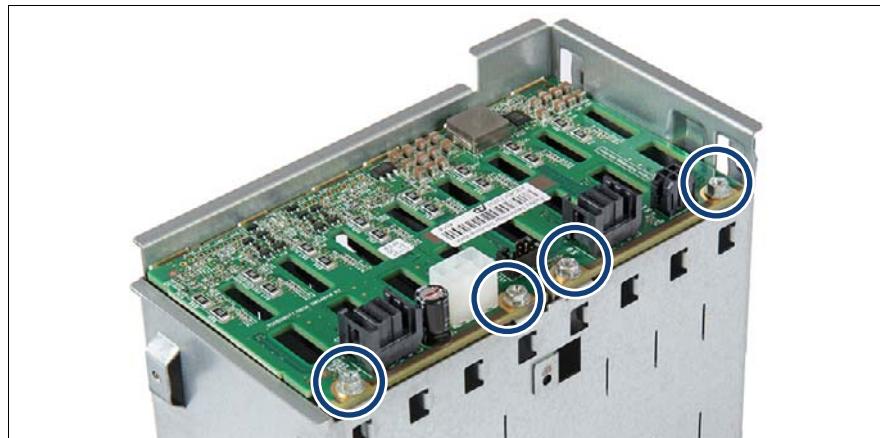


図 157: HDD/SSD バックプレーンの取り外し (A)

- ▶ 4 本のネジを取り外します (丸で囲んだ部分)。

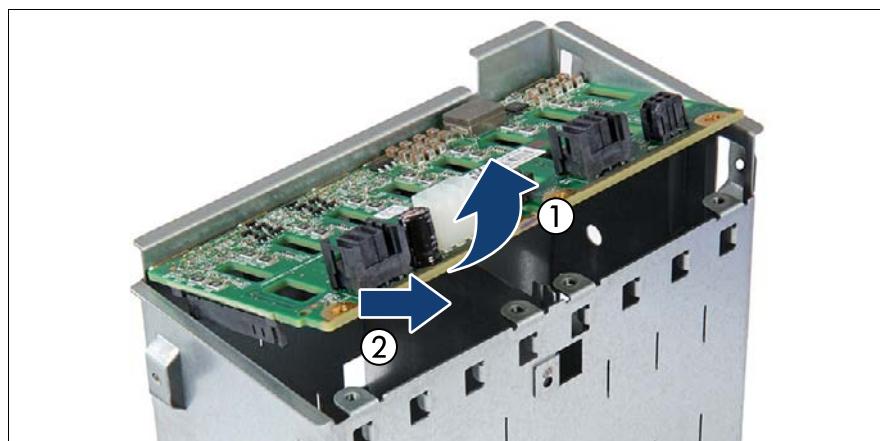


図 158: HDD/SSD バックプレーンの取り外し (B)

- ▶ HDD/SSD バックプレーンを持ち上げ (1)、やや傾けながら HDD 拡張ボックスの凹みから外します (2)。

### 7.4.4.3 新しい HDD/SSD バックプレーンの取り付け

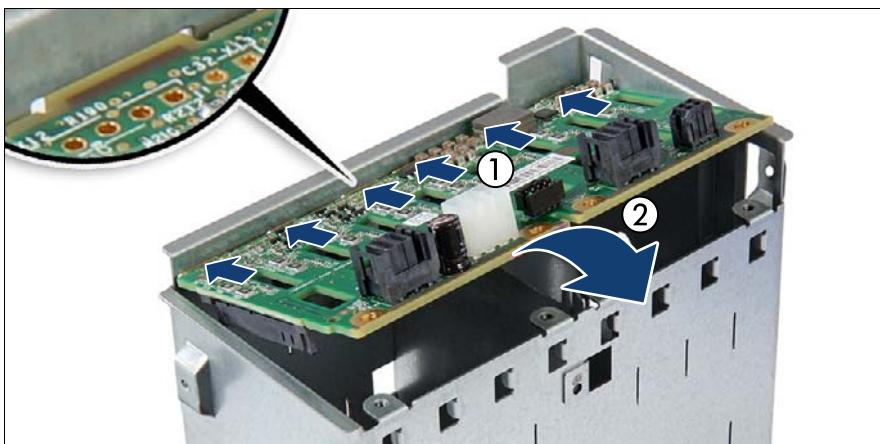


図 159: HDD/SSD バックプレーンの取り付け

- ▶ HDD/SSD バックプレーンを、やや傾けながら HDD 拡張ボックスの 6 つの凹みに合わせます (1)。
- ▶ HDD/SSD バックプレーンを倒します (2)。
- ▶ HDD/SSD バックプレーンを 4 本のネジで固定します (図 157 を参照)。
- ▶ [237 ページ の「8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け」](#) の項に記載されているように、8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けます。

### 7.4.4.4 終了手順

- ▶ [91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」](#)
- ▶ [89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」](#)
- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ [171 ページ の「2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け」](#) の項に記載されているように、すべてのハードディスク ドライブを HDD 拡張ボックスの元のスロットに再び取り付けます。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [81 ページ の「ラックへサーバを取り付ける」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#)
- ▶ [87 ページ の「サーバの電源投入」](#)

## 7.4.5 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

**工具:** マイナスドライバ (アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため)

### 7.4.5.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページ の「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

### 7.4.5.2 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し

- ▶ 101 ページ の「アクセス可能なドライブのフィラーカバー」の項に記載  
されているように、アクセス可能なドライブフィラーカバーを必要なペイ  
から取り外します。
- ▶ 103 ページ の「アクセス可能なドライブのカバー」の項に記載されてい  
るように、アクセス可能なドライブカバーを取り外します。

### 7.4.5.3 ウルトラスリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け

- ▶ 必要に応じて、418 ページ の「ウルトラスリム ODD の取り付け」の項に  
記載されているように、ウルトラスリム ODD を新しい 4x 3.5 インチ  
HDD 拡張ボックスに取り付けます。

### 7.4.5.4 HDD バックプレーンの取り付け

- ▶ 必要に応じて、254 ページ の「新しい HDD バックプレーンの取り付け」の項に記載されているように、HDD バックプレーンを 4x 3.5 HDD 拡張ボックスに取り付けます。

### 7.4.5.5 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け



図 160: 取り付けブラケットを曲げる

- ▶ ドライバを使用して、上部と中央の取り付けベイ（ベイ 1 とベイ 2）の取り付けブラケットを内側に曲げます（拡大された部分を参照）。
- ▶ ドライブケージの両側の下部にある 4 つの取り付けブラケットを曲げます。
- ▶ 97 ページ の「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。



図 161: 4x 3.5 HDD 拡張ボックスの取り付け

- ▶ 必要に応じて、ウルトラスリム ODD のケーブルをベイを通して配線します。
- ▶ 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けベイ 1 ~ 3 に差し込み、フロントパネルに揃うまでゆっくり押し込みます。
- ▶ 99 ページの「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

#### 7.4.5.6 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの配線

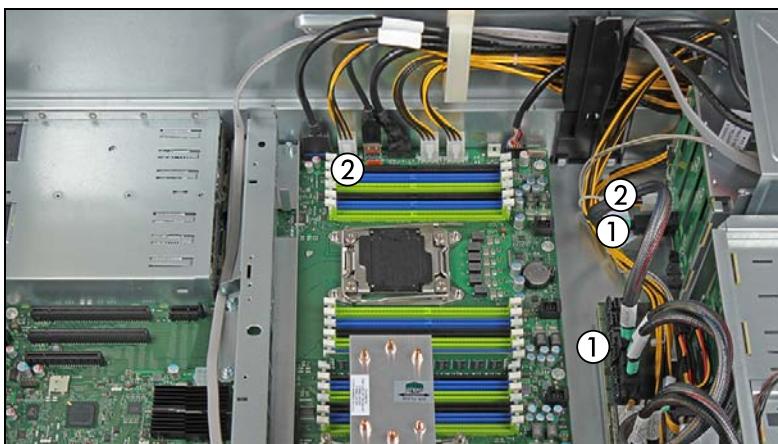


図 162: 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスの接続にケーブルの接続

- ▶ SAS ケーブル C11 をバックプレーンコネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X12 に接続します (1)。
- ▶ 電源ケーブル C6 をバックプレーンコネクタ X40 からシステムボードコネクタ PWR 12V3 に接続します (2)。
- ▶ 必要に応じて、ウルトラスリム ODD の電源ケーブルと SATA ケーブルをシステムボードに接続します ([418 ページの「ウルトラスリム ODD の取り付け](#) の項を参照)。
- ▶ 必要に応じて、OOB ケーブルを接続します ([配線 532 ページの図 402](#) を参照)。



ケーブル接続の概要のまとめは、[512 ページの「ケーブル図」](#)の項を参照してください。

#### 7.4.5.7 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスに交換 HDD モジュールの取り付け

- ▶ [217 ページの「3.5 インチ HDD モジュールの取り付け」](#) および [219 ページの「3.5 インチ HDD ダミーモジュールの取り付け」](#) の項に記載されているように、HDD モジュールまたは HDD ダミーモジュールを、追加の HDD スロットに取り付けます。



HDD の取り付け順序の詳細は、[204 ページの「3.5 インチ HDD 構成」](#) の項を参照してください。

### 7.4.5.8 終了手順

- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
81 ページの「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ BitLocker 機能を使用していて、保守作業を開始する前に無効にした場合は、BitLocker を再度有効にします。132 ページの「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

### 7.4.6 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具 : 工具不要

### 7.4.6.1 準備手順

- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ 218 ページの「3.5 インチ HDD モジュールの取り外し」の項に記載されているように、すべての HDD モジュールを HDD 拡張ボックスから取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

### 7.4.6.2 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し

- ▶ 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスバックプレーンから、すべてのケーブルを取り外します。
- ▶ 該当する場合は、すべてのケーブルを薄型 ODD から取り外します。
- ▶ [97 ページ の「アクセス可能なドライブのロックを開く」](#) の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。



図 163: HDD 拡張ボックスの取り外し

- ▶ 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスを取り付けベイからゆっくりと引き出します。
- ▶ [99 ページ の「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」](#) の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

### 7.4.6.3 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け

- ▶ [102 ページ の「アクセス可能なドライブフィラーカバーの取り付け」](#) の項に記載されているように、アクセス可能なドライブフィラーカバーを空のドライブベイに取り付けます。
- ▶ [104 ページ の「アクセス可能なドライブカバーの取り付け」](#) の項に記載されているように、アクセス可能なドライブカバーをフロントカバーに取り付けます。

### 7.4.6.4 終了手順

- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
81 ページの「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

### 7.4.7 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスの HDD バックプ レーンの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 7.4.7.1 準備手順

- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ 218 ページの「3.5 インチ HDD モジュールの取り外し」の項に記載され  
ているように、すべての HDD モジュールを HDD 拡張ボックスから取  
り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

#### 7.4.7.2 故障した HDD バックプレーンの取り外し

- ▶ 250 ページ の「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し」の項に記載されているように、4 x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスのロックを解除して、取り付けベイから引き出します。

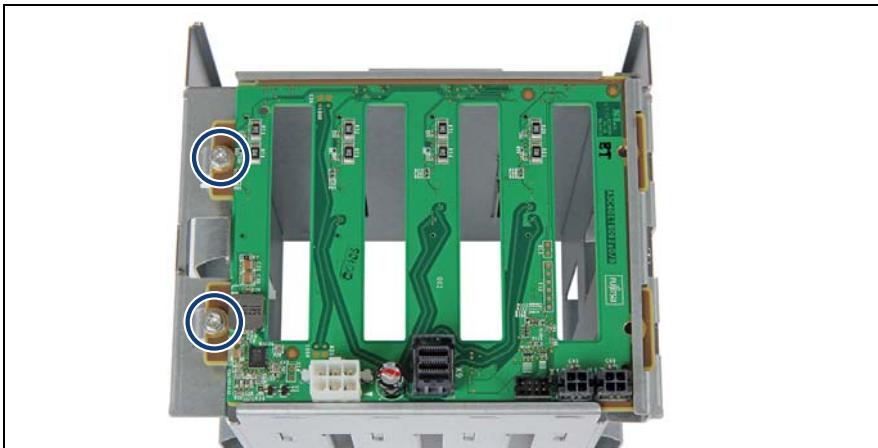


図 164: HDD バックプレーンの取り外し (A)

- ▶ 2 本のネジ（丸で囲んだ部分）を取り外します。

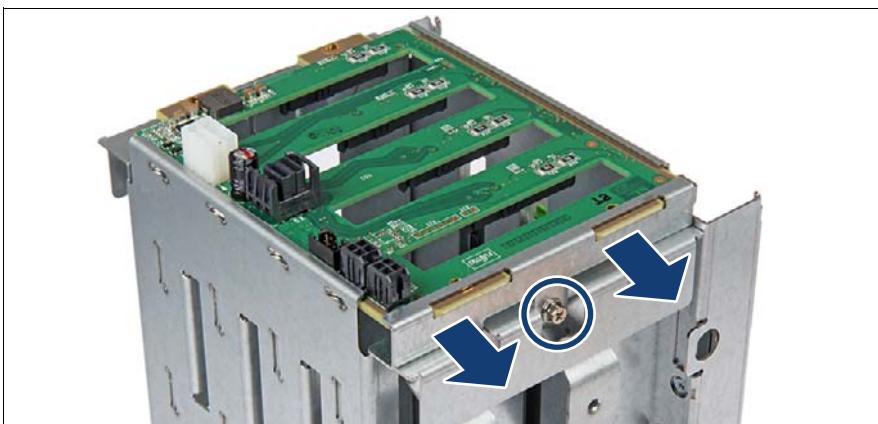


図 165: HDD バックプレーンの取り外し (B)

- ▶ ネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ ブラケットを取り外します。

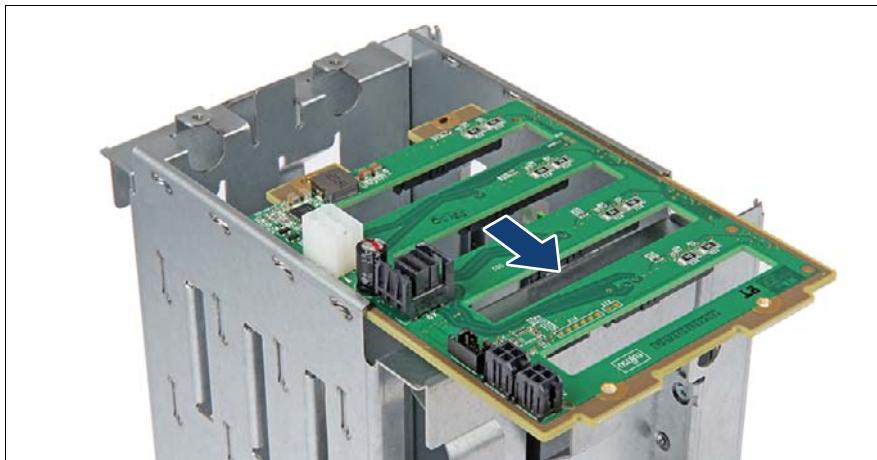


図 166: HDD バックプレーンの取り外し (C)

- ▶ 矢印の方向に HDD バックプレーンを押し出します。

#### 7.4.7.3 新しい HDD バックプレーンの取り付け

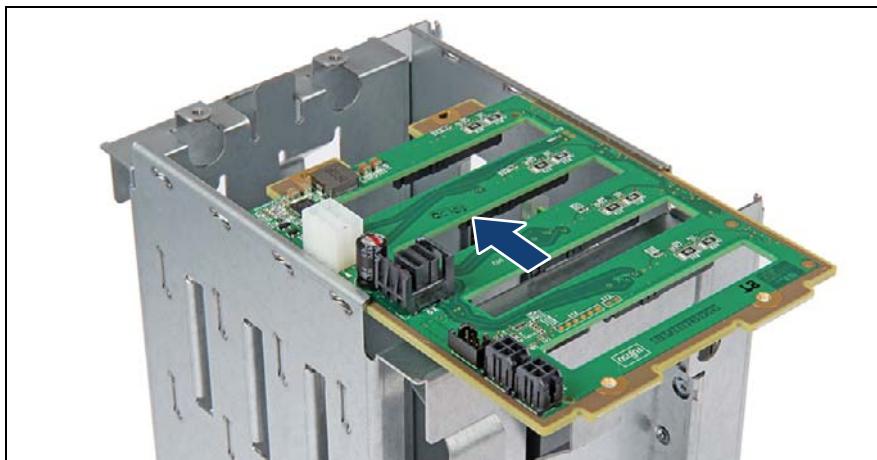


図 167: HDD バックプレーンの取り付け (A)

- ▶ HDD バックプレーンをガイドに合わせます。
- ▶ 矢印の方向に HDD バックプレーンを押します。

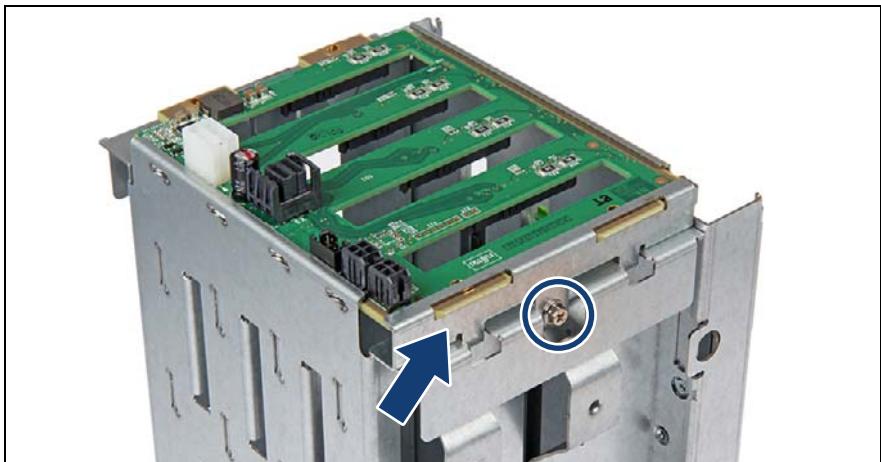


図 168: HDD バックプレーンの取り付け (B)

- ▶ ブラケットを配置して（矢印を参照）、1 本のネジで固定します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ HDD バックプレーンを 2 本のネジで固定します（図 164 を参照）。
- ▶ [246 ページ の「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け」](#) の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けます。

### 7.4.7.4 終了手順

- ▶ [91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」](#)
- ▶ [89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」](#)
- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ [216 ページ の「3.5 インチの HDD モジュールの取り付け」](#) の項に記載されているように、すべてのハードディスクドライブを HDD 拡張ボックスの元のスロットに再び取り付けます。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[81 ページ の「ラックへサーバを取り付ける」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#) ▶ [87 ページ の「サーバの電源投入」](#)

## 7.5 2.5 インチ PCIe SSD

### 7.5.1 2.5 インチ PCIe SSD 構成の追加



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

**工具 :** マイナスドライバ (アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため)

#### 7.5.1.1 準備手順

- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

#### 7.5.1.2 PCIe SDD 拡張ボックスの取り付け

- ▶ 237 ページの「8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け」の項に記載されているように、8x 2.5 インチ PCIe SSD 拡張ボックスを取り付けます。



PCIe SSD 拡張ボックスのケージは 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスと同じですが、2 台の HDD バックプレーンの代わりに 2 台の PCIe SSD バックプレーンがあります。

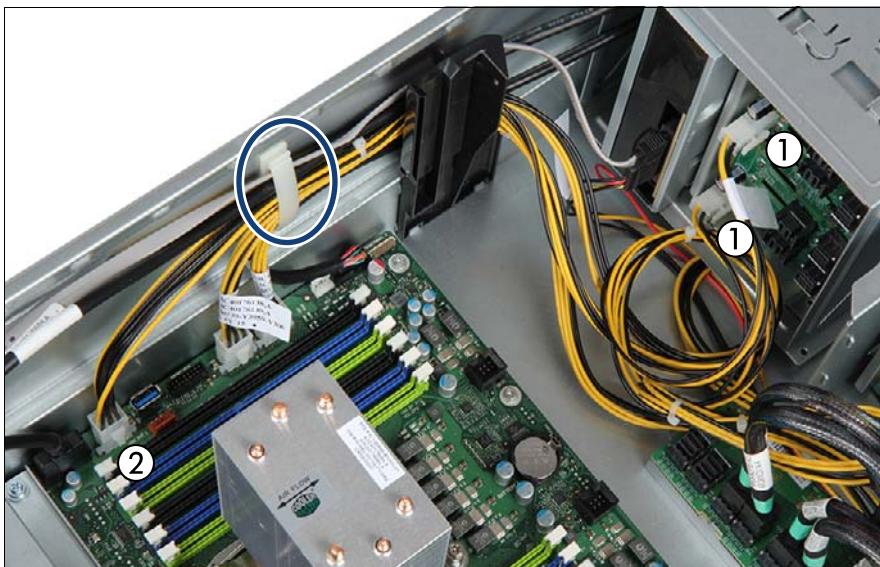


図 169: PCIe SSD 拡張ボックスへの電源ケーブルの接続

- ▶ 電源ケーブルを PCIe SSD バックプレーン (1) とシステムボード (2) の両方に接続します (配線図 [518 ページ](#) の「電源ケーブル配線: 8x 2.5 インチ PCIe SSD SFF」を参照)。電源ケーブルをケーブルクランプに固定します (丸で囲んだ部分)。
- ▶ [171 ページ](#) の「2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け」の項に記載されているように、2.5 インチ PCIe SSD SFF を PCIe SSD 拡張ボックスに取り付けます。



PCIe SSD SFF は、2.5 インチ HDD/SSD モジュールと同じフレームに取り付けられます。

#### 7.5.1.3 PCIe スイッチの取り付け

- ▶ 該当する場合は、[291 ページ](#) の「スロットブラケットの取り扱い」の項に記載されているように、必要なスロットブラケットを拡張カードに取り付けます。



図 170: PCIe スイッチへの PCIe ケーブルの接続

- ▶ ケーブル C27 を 1 つ目の PCIe スイッチに接続します。色分けされた PCIe ケーブルの位置を確認します。  
**i** ケーブル C27 は、色分けされた PCIe ケーブルで構成されます。

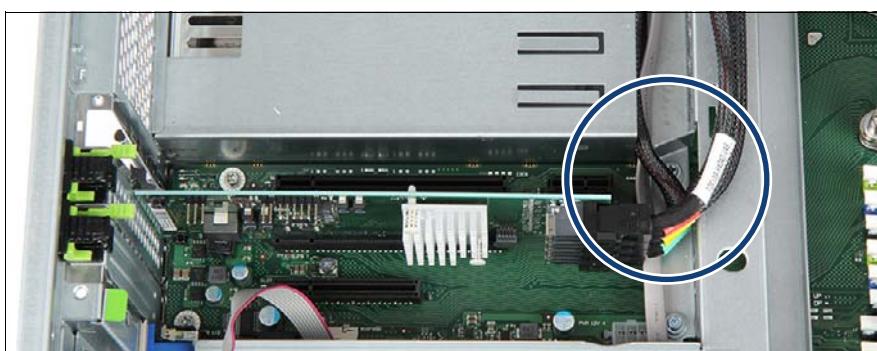


図 171: PCIe スイッチへの PCIe ケーブルの接続

- ▶ 293 ページ の「標準スロットの拡張カードの取り付け」の項に記載されているように、1 つ目の PCIe スイッチを PCIe スロット 8 に取り付けます。図に示されるように、緑で色分けされた PCIe ケーブルを配線します（丸で囲んだ部分）。

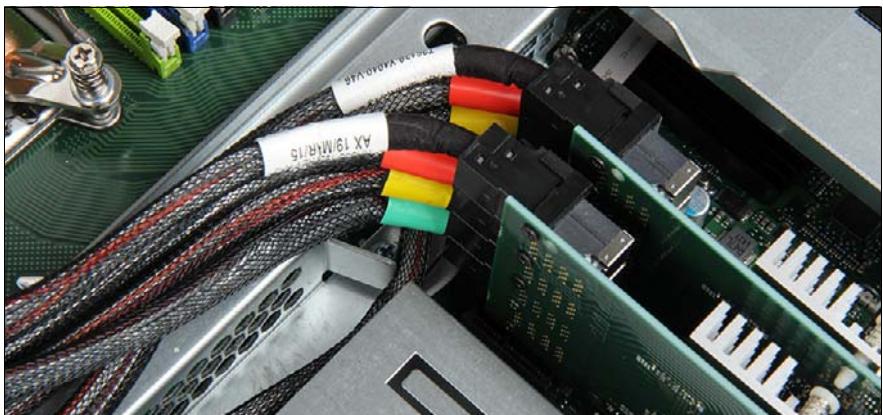


図 172: 2つ目の PCIe スイッチの取り付け

- 同じ手順で、2つ目の PCIe スイッチを PCIe スロット 9 に取り付けます。

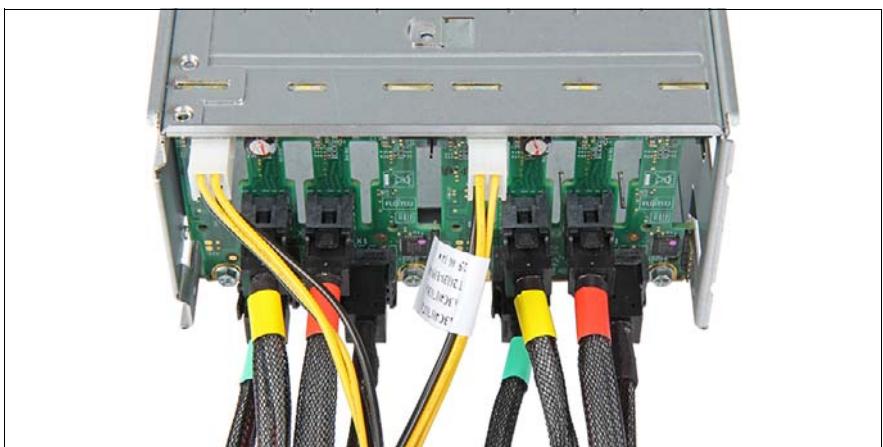


図 173: PCIe SSD バックプレーンへの PCIe ケーブルの接続

- PCIe ケーブルを PCIe SSD バックプレーンに接続します。色を確認します（配線図 528 ページの「PCIe ケーブル配線 : 8x 3.5 インチ HDD、4x/8x 2.5 インチ PCIe SSD」または 529 ページの「PCIe ケーブル配線 : 16x 2.5 インチ HDD、4x/8x 2.5 インチ PCIe SSD および SAS 3.0 エクスパンダーボード A3C40181407」を参照）。

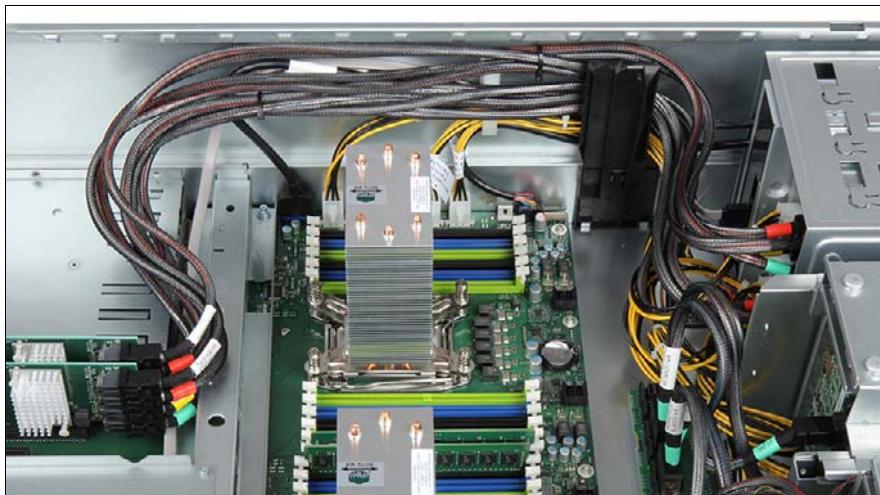


図 174: PCIe ケーブルの配線

- ▶ 図に示すように、PCIe ケーブルを配線します。
- ▶ 必要に応じて、OOB ケーブル を接続します(配線 533 ページ の図 403 を参照)。

### 7.5.1.4 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
81 ページ の「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 132 ページ の「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」

## 7.5.2 8x 2.5 インチ PCIe SSD 拡張ボックスの PCIe SSD バックプレーンの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具: プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 7.5.2.1 準備手順

- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ 173 ページ の「2.5 インチ HDD/SSD モジュールの取り外し」の項に記載されているように、2.5 インチ PCIe SSD SFF を PCIe SSD 拡張ボックスから取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページ の「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

### 7.5.2.2 故障した PCIe SSD バックプレーンの取り外し

- ▶ 241 ページ の「8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し」の項に記載されているように、8 x 2.5 インチ PCIe SSD 拡張ボックスのロックを解除して、取り付けベイから引き出します。
- 
- PCIe SSD 拡張ボックスのケージは 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックスと同じですが、2 台の HDD バックプレーンの代わりに 2 台の PCIe SSD バックプレーンがあります。



図 175: PCIe SSD バックプレーンの取り外し (A)

- ▶ 2 本のネジ（丸で囲んだ部分）を取り外します。

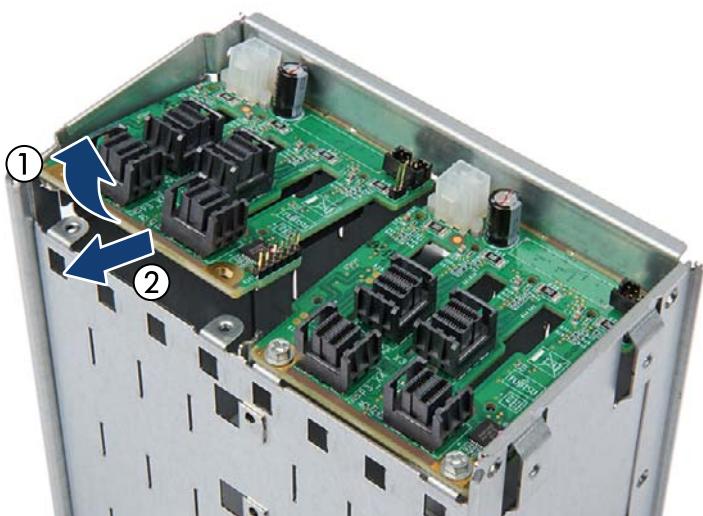


図 176: PCIe SSD バックプレーンの取り外し (B)

- ▶ PCIe SSD バックプレーンを持ち上げ (1)、やや傾けながら PCIe SSD 拡張ボックスの凹みから外します (2)。

### 7.5.2.3 新しい PCIe SSD バックプレーンの取り付け

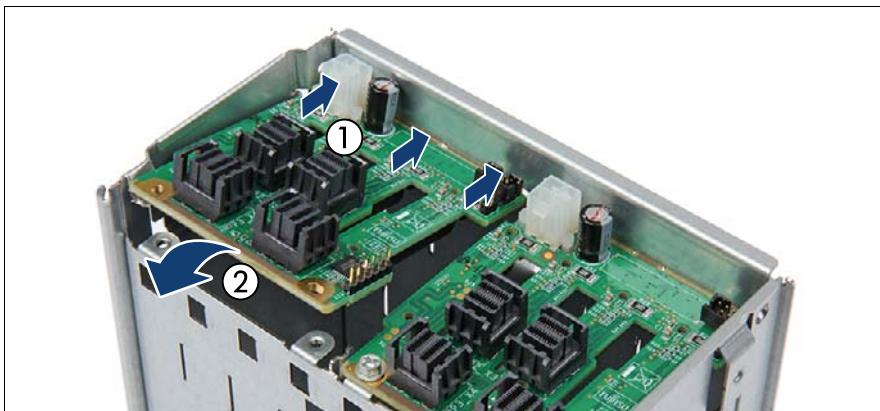


図 177: PCIe SSD バックプレーンの取り付け

- ▶ PCIe SSD バックプレーンを、やや傾けながら PCIe SSD 拡張ボックスの 3 つの凹みに合わせます (1)。
- ▶ PCIe SSD バックプレーンを倒します (2)。
- ▶ PCIe SSD バックプレーンを 2 本のネジで固定します (図 175 を参照)。
- ▶ 237 ページ の「8x 2.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け」の項に記載されているように、8x 2.5 インチ PCIe SSD 拡張ボックスを取り付けます。

### 7.5.2.4 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ 171 ページ の「2.5 インチの HDD/SSD モジュールの取り付け」の項に記載されているように、2.5 インチ PCIe SSD SFF を PCIe SSD 拡張ボックスの元のスロットに再び取り付けます。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
81 ページ の「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」

## 7.6 ホットプラグ非対応 2.5 インチ HDD/SSD

### 7.6.1 ホットプラグ非対応 HDD/SSD の交換



お客様による交換可能部品  
(CRU)



平均作業時間：10 分

- |     |  |
|-----|--|
| 工具： | - プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ<br>- プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ |
|-----|--|

#### 7.6.1.1 準備手順

- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
  - ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
  - ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
  - ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページの「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
  - ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- i** 214 ページの「ホットプラグ非対応 HDD/SSD の構成」を参照し、故障した HDD/SSD の物理位置を確認してください。

#### 7.6.1.2 ホットプラグ非対応ケージの取り外し

- ▶ ホットプラグ非対応 HDD/SSD 1 からケーブルを取り外します。
- ▶ 必要に応じて、ホットプラグ非対応 HDD/SSD 2 からケーブルを取り外します。

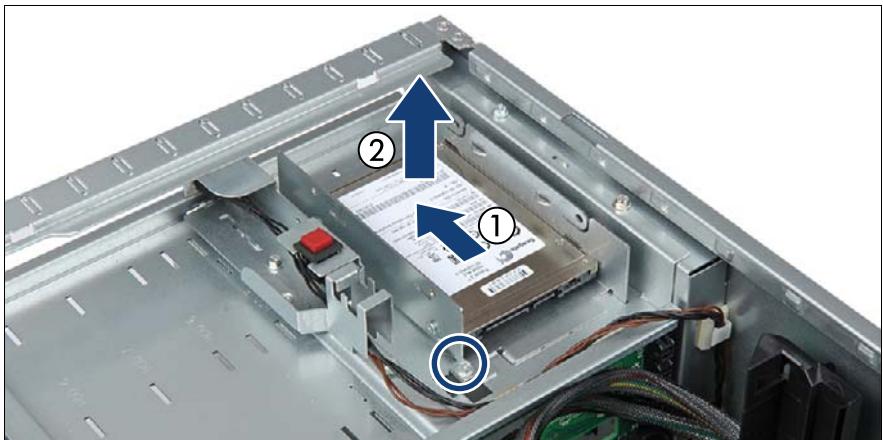


図 178: ホットプラグ非対応ケージの取り外し

- ▶ 1本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ 矢印の方向にホットプラグ非対応ケージを押します（1）。
- ▶ ホットプラグ非対応ケージをトップカバーから取り外します（2）。

#### 7.6.1.3 ホットプラグ非対応 HDD/SSD の取り外し

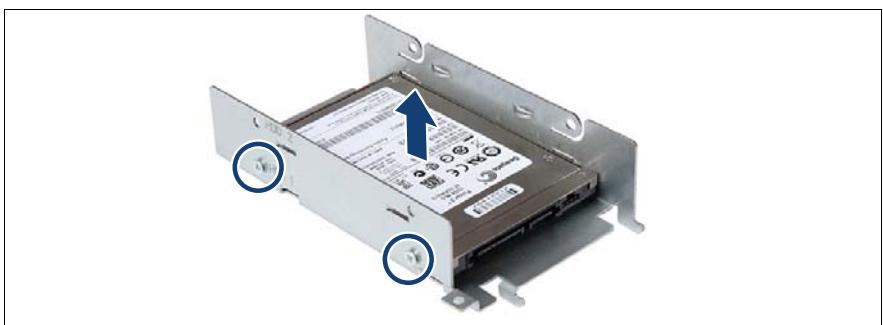


図 179: ホットプラグ非対応 HDD/SSD 1 の取り外し

- ▶ 4本のネジを取り外します（両側に 2 本ずつ、丸で囲んだ部分は片方）。
- ▶ ホットプラグ非対応 HDD/SSD 1 をホットプラグ非対応ケージから取り外します。
- ▶ 必要に応じて、ホットプラグ非対応 HDD/SSD 2 を同様にして取り外します。

### 7.6.1.4 ホットプラグ非対応 HDD/SSD の取り付け

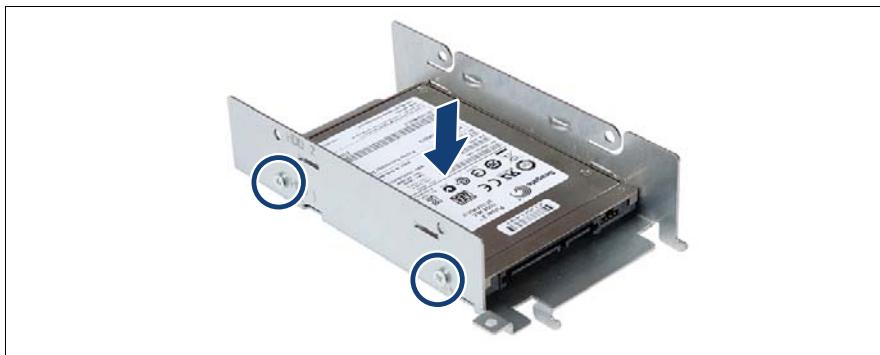


図 180: ホットプラグ非対応 HDD/SSD の取り付け

- ▶ ホットプラグ非対応 HDD/SSD 1 をホットプラグ非対応ケージに置きます。
- ▶ ホットプラグ非対応 HDD/SSD 1 を 4 本の M3 x 3.5 mm ネジで固定します（両側に 2 本ずつ、丸で囲んだ部分は片方）。
- ▶ 必要に応じて、ホットプラグ非対応 HDD/SSD 2 を同様にして取り付けます。

### 7.6.1.5 ホットプラグ非対応ケージの取り付け

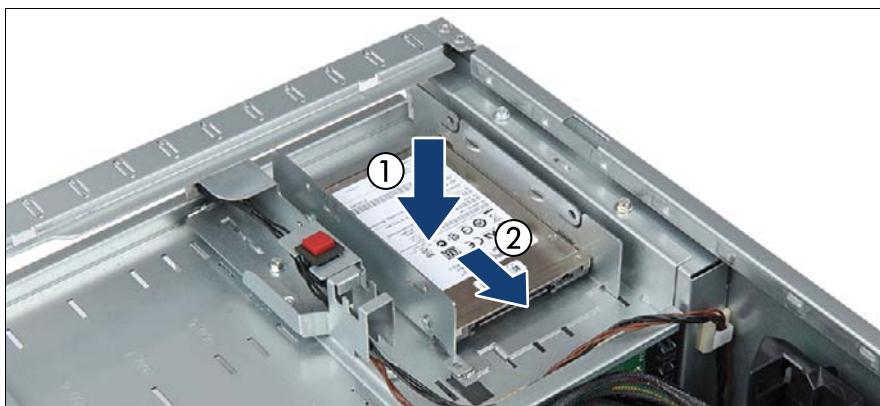


図 181: ホットプラグ非対応ケージの取り付け (A)

- ▶ ホットプラグ非対応ケージをトップカバーに置きます (1)。

- ▶ 矢印の方向にホットプラグ非対応ケージを押します (2)。

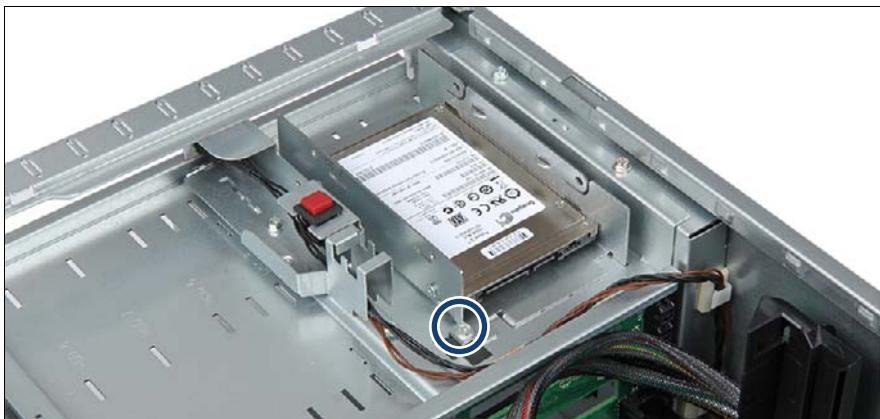


図 182: ホットプラグ非対応ケージの取り付け (B)

- ▶ ホットプラグ非対応ケージを 1 本の M3 × 4.5 mm ネジで固定します (丸で囲んだ部分)。

### 7.6.1.6 ホットプラグ非対応 HDD/SSD へのケーブルの接続

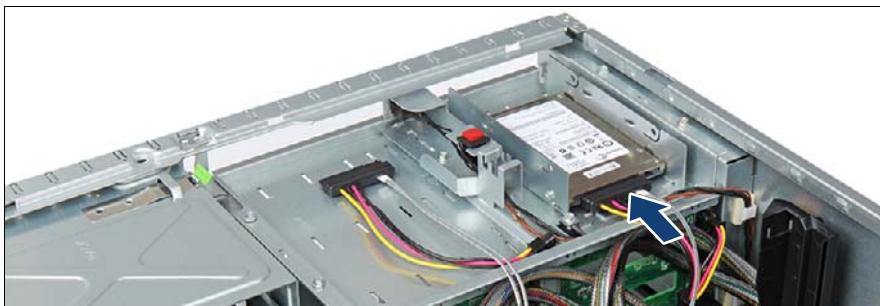


図 183: ホットプラグ非対応 HDD/SSD 1 へのケーブルの接続

- ▶ ケーブル C35 (P2) を、図のようにホットプラグではない HDD/SSD 1 に接続します。

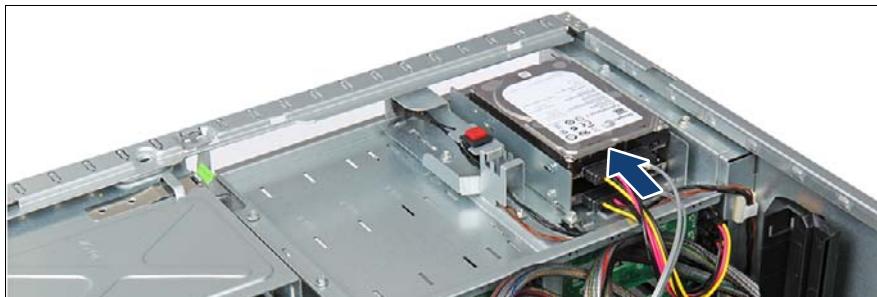


図 184: ホットプラグ非対応 HDD/SSD 2 へのケーブルの接続

- ▶ 必要に応じて、ケーブル C35 (P3) を、図のようにホットプラグではない HDD/SSD 2 に接続します。

### 7.6.1.7 終了手順

- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 81 ページ の「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ BitLocker 機能を使用していて、保守作業を開始する前に無効にした場合は、BitLocker を再度有効にします。132 ページ の「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」

## 7.6.2 ホットプラグ非対応 HDD/SSD のアップグレード



お客様による交換可能部品  
(CRU)



平均作業時間：10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 7.6.2.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページ の「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」

### 7.6.2.2 ホットプラグ非対応 HDD/SSD のアップグレード

- ▶ 266 ページ の「ホットプラグ非対応 HDD/SSD の取り付け」の項に記載されているように、ホットプラグ非対応 HDD/SSD 1 を取り付けます。
- ▶ 該当する場合は、266 ページ の「ホットプラグ非対応 HDD/SSD の取り付け」の項に記載されているように、ホットプラグ非対応 HDD/SSD 2 を取り付けます。
- ▶ 266 ページ の「ホットプラグ非対応ケージの取り付け」の項に記載されているように、ホットプラグ非対応ケージを取り付けます。

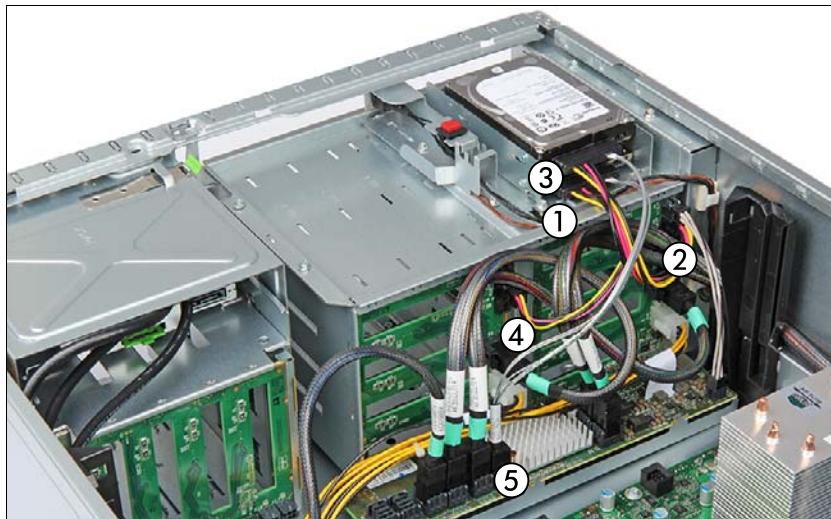


図 185: ホットプラグ非対応 HDD/SSD へのケーブルの接続

- ▶ ケーブル C35 を接続します。
  - (1) データ / 電源コネクタ (P2) からホットプラグではない HDD/SSD 1 へ
  - (2) 電源コネクタからバックプレーン 1 コネクタ X18 へ
  - (3) 必要に応じて、データ / 電源コネクタ (P3) からホットプラグではない HDD/SSD 2 へ
  - (4) 必要に応じて、電源コネクタからバックプレーン 2 コネクタ X18 へ
  - (5) データコネクタからエキスパンダボードコネクタ X10 へ

**i** ケーブル接続の概要のまとめは、512 ページの「ケーブル図」の項を参照してください。

### 7.6.2.3 終了手順

- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 81 ページの「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

## 7.7 SAS エキスパンダボード

### 7.7.1 SAS エキスパンダボードの取り付け



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



ハードウェア : 10 分

工具 : プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

#### 7.7.1.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページ の「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

#### 7.7.1.2 SAS エキスパンダボードの取り付け

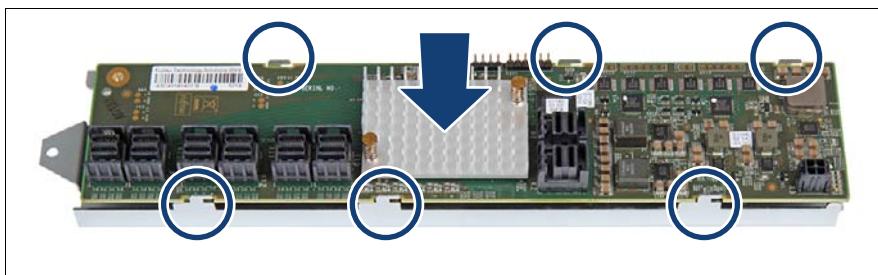


図 186: SAS エキスパンダボードの配置

- ▶ SAS エキスパンダボードをエキスパンダホルダーに固定します。穴とフックに注意してください（丸で囲んだ部分）。



図 187: SAS エキスパンダボードの取り付け

- ▶ 矢印の方向に SAS エキスパンダボードを押してください。
- ▶ SAS エキスパンダボードをネジ M3 x 4.5 mm で固定します（丸で囲んだ部分）。

### 7.7.1.3 エキスパンダホルダーの取り付け

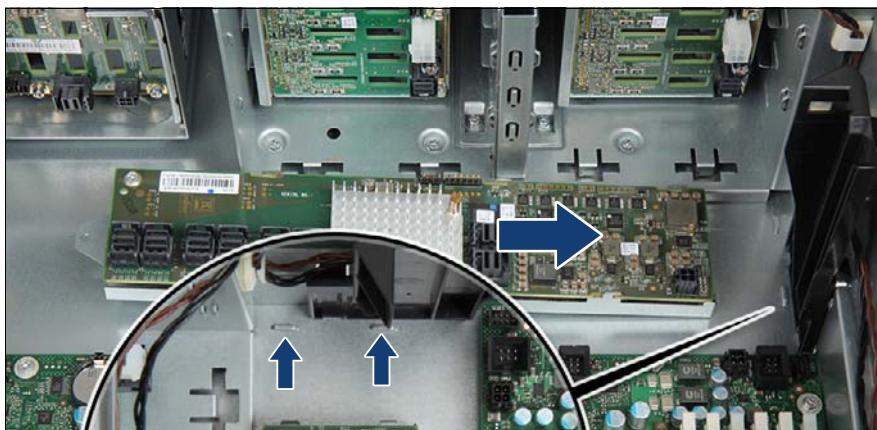


図 188: エキスパンダホルダーの取り付け (A)

- ▶ エキスパンダホルダーをシャーシに取り付けます。
- ▶ エキスパンダホルダーを、矢印の方向に 2 つのフックで止まるところまで押します（拡大された部分を参照）。



図 189: エキスパンダホルダーの取り付け

- ▶ エキスパンダホルダーをネジ M3 x 4.5 mm で固定します（丸で囲んだ部分）。

### 7.7.1.4 ケーブルのエキスパンダボードへの接続

#### 2.5 インチ HDD/SSD 構成

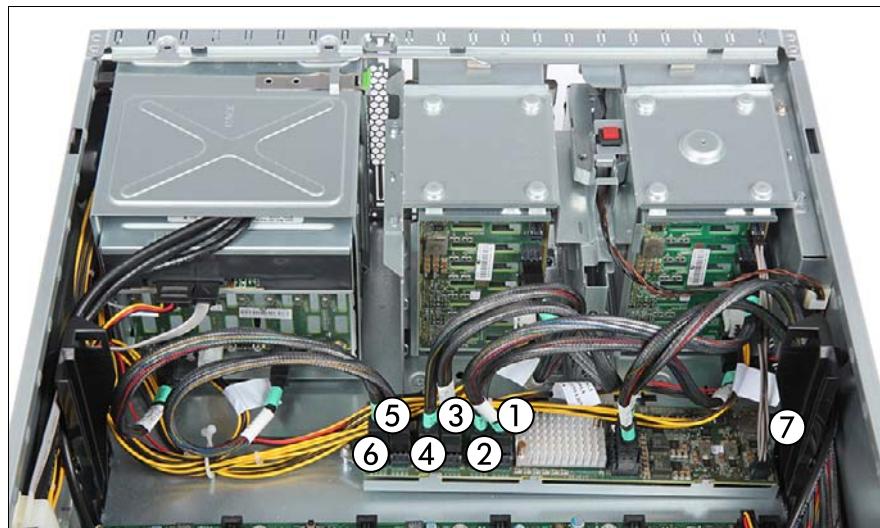


図 190: ケーブルのエキスパンダボードへの接続

- ▶ SAS ケーブルをエキスパンダボードへ接続します。
  - (1) バックプレーン 1 のコネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X10 に接続
  - (2) バックプレーン 1 のコネクタ X10 からエキスパンダボードコネクタ X11 に接続
  - (3) バックプレーン 2 のコネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X12 に接続
  - (4) バックプレーン 2 のコネクタ X10 からエキスパンダボードコネクタ X13 に接続
  - (5) バックプレーン 3 のコネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X14 に接続
  - (6) バックプレーン 3 のコネクタ X10 からエキスパンダボードコネクタ X15 に接続
  - (7) バックプレーン 1 のコネクタ X17 からエキスパンダボードコネクタ X3 に接続

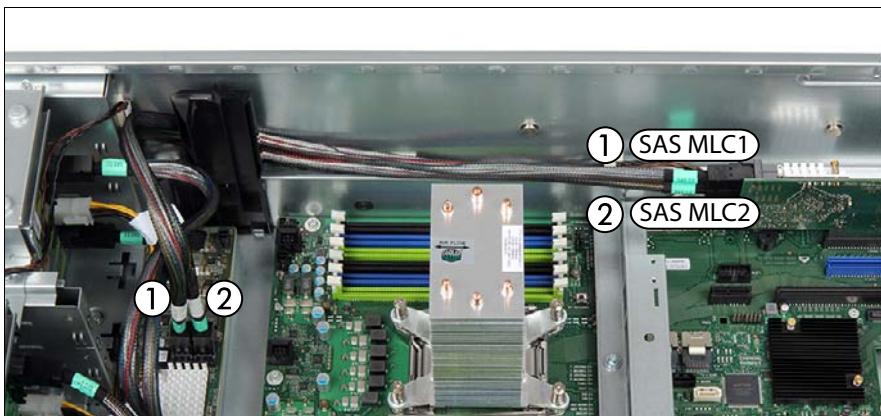


図 191: ケーブルのエキスパンダボードからコントローラへの接続

- ▶ 2本のSASケーブルをSASエキスパンダボードに接続します。
  - (1) SASコントローラコネクタMLC1からSASエキスパンダボードX1へ
  - (2) SASコントローラコネクタMLC2からSASエキスパンダボードX2へ



ケーブル接続の概要のまとめは、[512ページの「ケーブル図」](#)の項を参照してください。

### 3.5 インチ HDD/SSD 構成

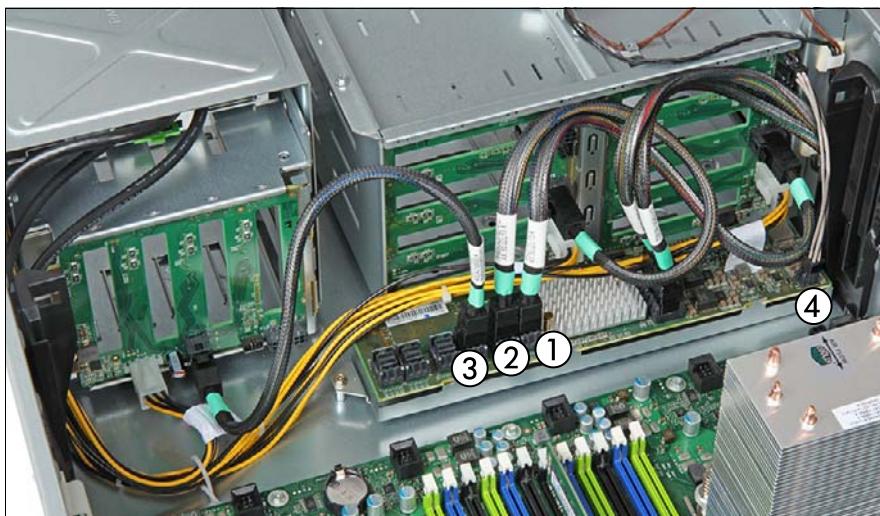


図 192: ケーブルのエキスパンダボードへの接続

- ▶ SAS ケーブルをエキスパンダボードへ接続します。
  - (1) バックプレーン 1 のコネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X10 に接続
  - (2) バックプレーン 2 のコネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X11 に接続
  - (3) 必要に応じて、バックプレーン 3 のコネクタ X9 からエキスパンダボードコネクタ X14 に接続
- ▶ (4) 必要に応じて、電源ケーブルをバックプレーン 1 のコネクタ X17 からエキスパンダボードコネクタ X3 に接続

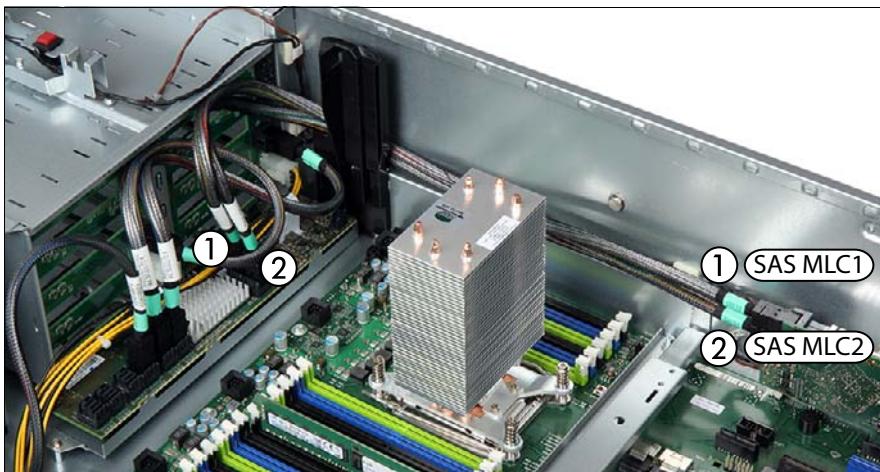


図 193: ケーブルのエキスパンダボードからコントローラへの接続

- ▶ 2本のSASケーブルをSASエキスパンダボードに接続します。
  - (1) SASコントローラコネクタMLC1からSASエキスパンダボードX1へ
  - (2) SASコントローラコネクタMLC2からSASエキスパンダボードX2へ

**i** ケーブル接続の概要のまとめは、512ページの「ケーブル図」の項を参照してください。

#### 7.7.1.5 終了手順

- ▶ 91ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は81ページの「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84ページの「電源コードの接続」
- ▶ 132ページの「BitLocker機能の再開」
- ▶ 87ページの「サーバの電源投入」

## 7.7.2 SAS エキスパンダボードの取り外し



フィールド交換可能ユニット  
(FRU) ハードウェア : 10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 7.7.2.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページ の「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

### 7.7.2.2 エキスパンダホルダーの取り外し

- ▶ すべてのケーブルを SAS エキスパンダボードから取り外します。



図 194: エキスパンダホルダーの取り外し

- ▶ ネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ エキスパンダホルダーをシャーシから取り外します。

### 7.7.2.3 SAS エキスパンダボードの取り外し

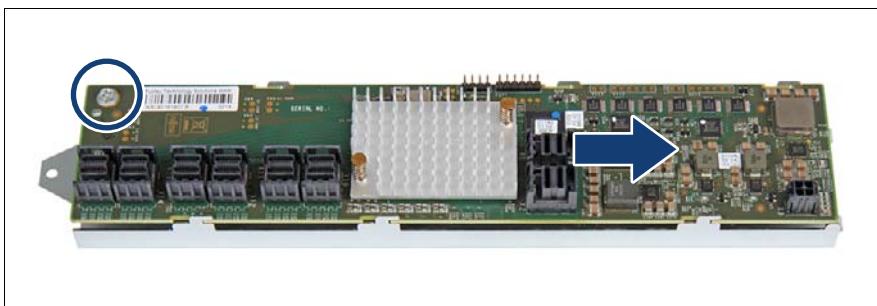


図 195: SAS エキスパンダボードの取り外し

- ▶ 1本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ 矢印の方向に SAS エキスパンダボードを押してください。
- ▶ SAS エキスパンダボードをエキスパンダホルダーから取り外します。

### 7.7.2.4 終了手順

- ▶ [91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」](#)
- ▶ [89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」](#)
- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[81 ページ の「ラックへサーバを取り付ける」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#)
- ▶ [132 ページ の「BitLocker 機能の再開」](#)

### 7.7.3 SAS エキスパンダボードの交換



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間：10 分

工具： 工具不要

#### 7.7.3.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
58 ページ の「ラックからのサーバの引き出しおよび取り外し」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

#### 7.7.3.2 故障した SAS エキスパンダボードの取り外し

- ▶ 278 ページ の「SAS エキスパンダボードの取り外し」。

#### 7.7.3.3 新しい SAS エキスパンダボード取り付け

- ▶ 271 ページ の「SAS エキスパンダボードの取り付け」。

#### 7.7.3.4 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
81 ページ の「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」

---

## 8 ファン

### 安全上の注意事項



#### 注意！

- 内部のケーブルやデバイスを傷つけたり、加工したりしないでください。傷つけたり、加工したりすると、部品を傷め、火災、感電の原因となります。
- サーバ内のデバイスおよびコンポーネントは、シャットダウン後もしばらくは高温の状態が続きます。サーバのシャットダウン後、高温になっているコンポーネントが冷却されるのを待ってから内部オプションの取り付けや取り外しを行ってください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス(ESD)を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、スロットブラケットまたはふちを持つようにしてください。
- この章に示す方法以外でデバイスを取り付けたり、解体したりすると、保証が無効になります。
- 詳細は、[41 ページ の「注意事項」の章](#)を参照してください。

## 8.1 基本情報

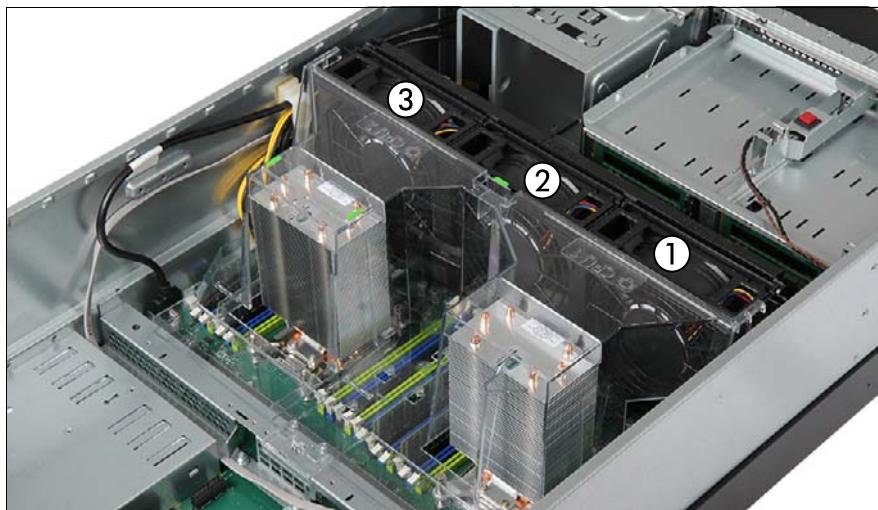


図 196: ファンの番号

| 位置 | コンポーネント   |
|----|-----------|
| 1  | システムファン 1 |
| 2  | システムファン 2 |
| 3  | システムファン 3 |



図 197: システムファンモジュール

- サーバには 3 つのホットプラグ可能なシステムファンモジュールが搭載されています。
  - システム送風ダクトにより、CPU ヒートシンクとメモリスロットへ直接エアフローが確保されます。
- i** PSU モジュールの追加のファンは電源ユニットに不可欠な部品なので、個別に交換できません。

## 8.2 システムファンモジュールの交換



お客様による交換可能部品  
(CRU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要

### 8.2.1 準備手順

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 交換用ファンモジュールを準備する
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 55 ページの「故障した部品の特定」

### 8.2.2 故障したシステムファンモジュールの取り外し



図 198: システムファンモジュールの取り外し

- ▶ 引き上げる時、故障のあるファンモジュールの 2 つの緑色のロッキングタブをつまみます。
- ▶ ファンモジュールをシステムファンホルダーのベイから持ち上げます。

### 8.2.3 新しいシステムファンモジュールの取り付け

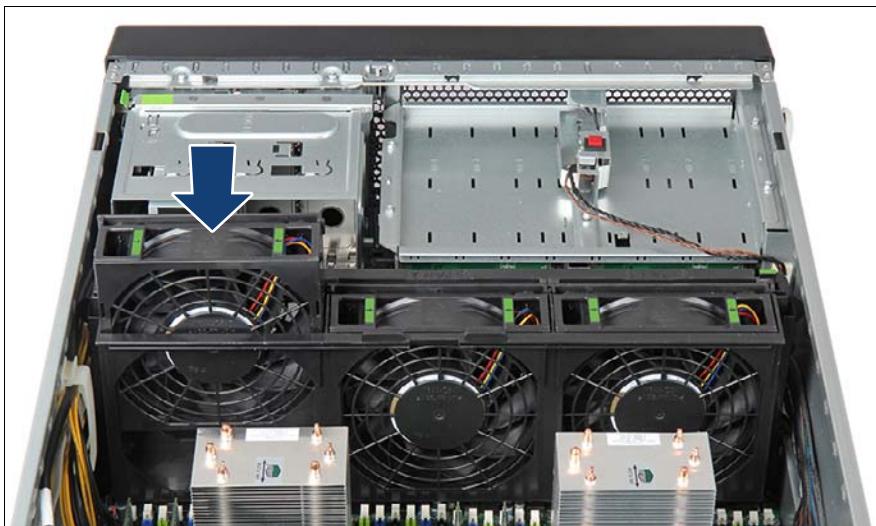


図 199: システムファンモジュールの取り付け

- ▶ ラベルの矢印の方向をサーバの背面へ向けて、図のように、システムファンモジュールをシステムファンホルダーのベイへ合わせます。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、システムファンモジュールをゆっくり押し下げます。
- ▶ システムファンモジュールのコネクタが、システムボードのファンコネクタに正しくはめ込まれていることを確認します。
- ▶ 新しいシステムファンモジュールが回転することを確認します。



#### 注意：

システムファンモジュールが故障すると、残りのファンがフルスピードで動作を開始します。故障のあるファンを交換した後、すべてのファンはフルスピードで数分間動作した後、遅い速度にリセットされます。

- ▶ 手順を終了する前に、全てのシステムファンモジュールが通常の動作速度にリセットされていることを確認します。

#### 8.2.4 終了手順

- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 125 ページ の「ファンテストの実施」
- ▶ 全てのシステムファンモジュールが通常の動作速度にリセットされていることを確認します。

---

## 9 拡張カードとバックアップユニット

### 安全上の注意事項



#### 注意！

- 内部のケーブルやデバイスを傷つけたり、加工したりしないでください。傷つけたり、加工したりすると、部品を傷め、火災、感電の原因となります。
- サーバ内のデバイスおよびコンポーネントは、シャットダウン後もしばらくは高温の状態が続きます。サーバのシャットダウン後、高温になっているコンポーネントが冷却されるのを待ってから内部オプションの取り付けや取り外しを行ってください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス(ESD)を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、金属部分またはふちを持つようにしてください。
- この章に示す方法以外でデバイスを取り付けたり、解体したりすると、保証が無効になります。
- 詳細は、[41 ページ の「注意事項」](#) の章を参照してください。

### 9.1 基本情報

システムボードには、拡張カードを取り付けるための 6 つの PCIe Gen 3 スロットと、DynamicLoM モジュールを取り付けるための 1 つのスロットがあります。

オプションとして、スロット 3 とスロット 9 をライザーモジュールに装備できます。この場合、スロット 3 とスロット 9 にはライザーカードが搭載されます。各ライザーモジュールには、3 つの PCIe Gen 3 スロットがあります。

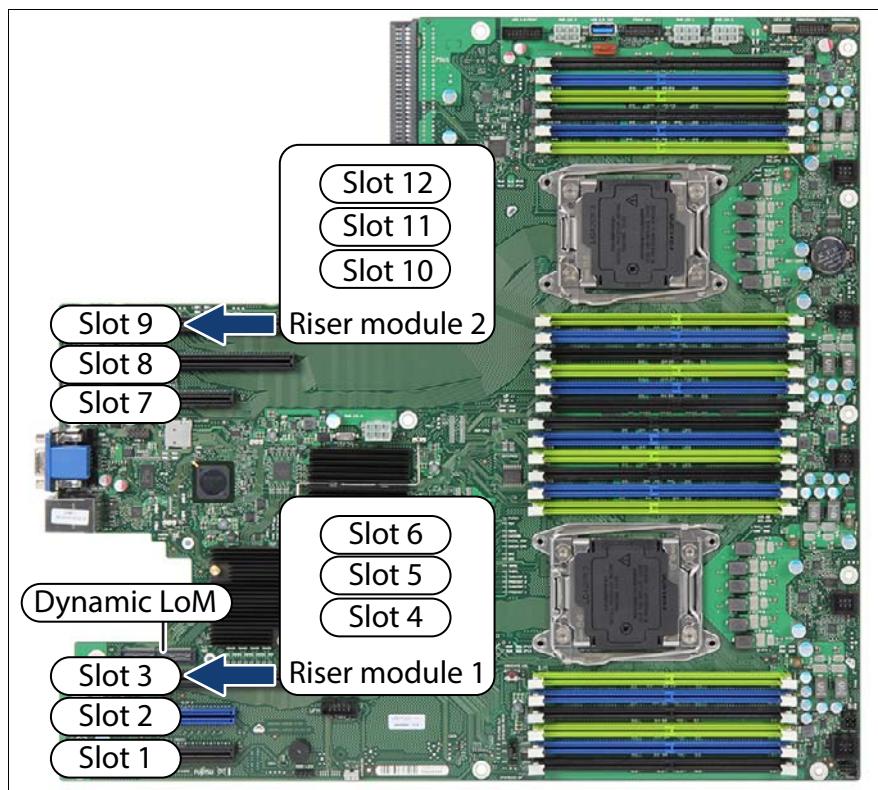


図 200: システムボードの PCI スロットの外観

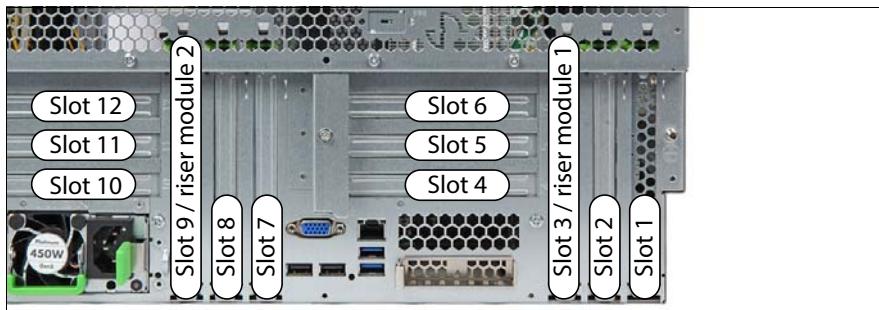


図 201: 背面の PCI スロットの外観

| PCI スロット | タイプ        | CPU | タイプ            | 長さ / 高さ ***    | 機能                           |
|----------|------------|-----|----------------|----------------|------------------------------|
| 1        | PCIe Gen 3 | 1   | x8 (ソケット x8)   | 最大 167 mm / FH | RAID コントローラの推奨スロット (システムブート) |
| 2        | PCIe Gen 3 | 1   | x8 (ソケット x8)   | 最大 167 mm / FH | 2 つ目の RAID コントローラ            |
| 3**      | PCIe Gen 3 | 1   | x16 (ソケット x16) | 最大 167 mm / FH | ライザーモジュール 1 のスロット (オプション)    |
| 4*       | PCIe Gen 3 | 1   | x8 (ソケット x8)   | 最大 252 mm / FH |                              |
| 5*       | PCIe Gen 3 | 1   | x4 (ソケット x4)   | 最大 252 mm / FH |                              |
| 6*       | PCIe Gen 3 | 1   | x4 (ソケット x4)   | 最大 252 mm / FH |                              |
| 7        | PCIe Gen 3 | 2   | x8 (ソケット x8)   | 最大 167 mm / FH |                              |
| 8        | PCIe Gen 3 | 2   | x16 (ソケット x16) | 最大 167 mm / FH |                              |
| 9**      | PCIe Gen 3 | 2   | x16 (ソケット x16) | 最大 167 mm / FH | ライザーモジュール 2 のスロット (オプション)    |
| 10*      | PCIe Gen 3 | 2   | x8 (ソケット x8)   | 最大 252 mm / FH |                              |
| 11*      | PCIe Gen 3 | 2   | x4 (ソケット x4)   | 最大 252 mm / FH |                              |
| 12*      | PCIe Gen 3 | 2   | x4 (ソケット x4)   | 最大 252 mm / FH |                              |

\* スロット 4、5、6、10、11、12 はライザーカード搭載の場合のみ使用できます。

\*\* スロット 3 と 9 にはライザーモジュールを搭載できます。この場合、これらのスロットにはライザーカードが取り付けられます。

\*\*\* FH: フルハイ

### 9.1.1 拡張カードの取り付け順序

| Expansion card |                     |   |        | Slot number priority |        |        |          |          |          |             |        |        |        |          |          |          |
|----------------|---------------------|---|--------|----------------------|--------|--------|----------|----------|----------|-------------|--------|--------|--------|----------|----------|----------|
|                |                     |   |        | with 1 CPU           |        |        |          |          |          | with 2 CPUs |        |        |        |          |          |          |
| Card Order     | Type                | Model                                       | Max. # | Slot 1               | Slot 2 | Slot 3 | Slot 3+1 | Slot 3+2 | Slot 3+3 | Slot X2     | Slot 7 | Slot 8 | Slot 9 | Slot 9+1 | Slot 9+2 | Slot 9+3 |
| 1              | Dynamic LOM Adapter | D3245 Dual Port 1 Gb                        | 1      |                      |        |        |          |          |          | 1           |        |        |        |          |          |          |
| 2              |                     | D3255 Quad Port 1 Gb                        | 1      |                      |        |        |          |          |          | 1           |        |        |        |          |          |          |
| 3              |                     | D3265 Dual Port 10 Gb (SFP)                 | 1      |                      |        |        |          |          |          | 1           |        |        |        |          |          |          |
| 4              |                     | D3275 Dual Port 10 Gb                       | 1      |                      |        |        |          |          |          | 1           |        |        |        |          |          |          |
| 1              | Riser Cards         | D3284 PCI Riser Card                        | 2      |                      |        | 1      |          |          |          |             |        |        | 2      |          |          |          |
| 1              | PCIe Switch         | D3262 PCIe Switch                           | 2      |                      |        | 3      |          |          |          |             |        | 2      | 1      |          |          |          |
| 1              | Graphics Cards      | Nvidia NVS 315 1 GB                         | 1      |                      | 1      | 3      |          | 5        | 4        |             | 2      |        |        |          |          |          |
| 1              | SAS RAID            | PRAID EP400i (D3216-A)                      | 2      | 1                    | 2      |        |          |          |          |             | 3      | 4      |        |          |          |          |
| 2              |                     | PRAID EP420i (D3216-B)                      | 2      | 1                    | 2      |        |          |          |          |             | 3      | 4      |        |          |          |          |
| 3              |                     | PRAID EP420e                                | 1      | 1                    | 2      | 6      | 7        |          |          |             | 3      | 4      | 5      | 8        |          |          |
| 4              |                     | PRAID CP400i                                | 1      | 1                    |        |        |          |          |          |             | 2      |        |        |          |          |          |
| 1              | SAS HBA             | PSAS CP400i                                 | 1      | 1                    | 2      |        |          |          |          |             | 3      | 4      |        |          |          |          |
| 1              | PCIe SSD            | PACC EP PX600 1.3 TB                        | 4      | 8                    | 1      | 2      | 5        |          |          |             | 3      | 4      | 6      | 7        |          |          |
| 2              |                     | PACC EP PX600 2.6 TB                        | 4      | 8                    | 1      | 2      | 5        |          |          |             | 3      | 4      | 6      | 7        |          |          |
| 3              |                     | PACC EP PX600 5.2 TB                        | 4      | 8                    | 1      | 2      | 5        |          |          |             | 3      | 4      | 6      | 7        |          |          |
| 1              | Infini-band         | IB HCA 56 Gb Single Port FDR                | 2      | 1                    | 2      | 3      | 7        |          |          |             | 4      | 5      | 6      | 8        |          |          |
| 2              |                     | IB HCA 56 Gb Dual Port FDR                  | 2      | 1                    | 2      | 3      | 7        |          |          |             | 4      | 5      | 6      | 8        |          |          |
| 1              | SAS (Backup)        | PSAS CP400i                                 | 1      |                      | 1      | 2      | 5        | 6        | 7        |             | 3      | 4      | 8      | 9        | 10       |          |
| 2              |                     | PSAS CP400e                                 | 1      |                      | 1      | 2      | 5        | 6        | 7        |             | 3      | 4      | 8      | 9        | 10       |          |
| 1              | Fibre Channel       | LPe 16000 16 Gb FC Single Port, PCIe 3.0 x8 | 8      | 1                    | 2      | 3      | 7        | 9        | 10       |             | 4      | 5      | 6      | 8        | 11       |          |
| 2              |                     | LPe 16002 16 Gb FC Dual Port, PCIe 3.0 x8   | 8      | 1                    | 2      | 3      | 7        | 9        | 10       |             | 4      | 5      | 6      | 8        | 11       |          |
| 3              |                     | LPe 12002 8 Gb FC Dual Port, PCIe 2.0 x4    | 8      | 1                    | 2      | 3      | 7        | 9        | 10       |             | 4      | 5      | 6      | 8        | 11       |          |
| 4              |                     | LPe 1250 8 Gb FC Dual Port, PCIe 2.0 x4     | 8      | 1                    | 2      | 3      | 7        | 9        | 10       |             | 4      | 5      | 6      | 8        | 11       |          |
| 5              |                     | QLE 2560 8 Gb FC Single Port, PCIe x8       | 8      | 1                    | 2      | 3      | 7        | 9        | 10       |             | 4      | 5      | 6      | 8        | 11       |          |
| 6              |                     | QLE 2562 8 Gb FC Dual Port, PCIe x8         | 8      | 1                    | 2      | 3      | 7        | 9        | 10       |             | 4      | 5      | 6      | 8        | 11       |          |
| 7              |                     | QLE 2570 16 Gb FC Single Port, PCIe x8      | 8      | 1                    | 2      | 3      | 7        | 9        | 10       |             | 4      | 5      | 6      | 8        | 11       |          |
| 8              |                     | QLE 2672 16 Gb FC Single Port, PCIe x8      | 8      | 1                    | 2      | 3      | 7        | 9        | 10       |             | 4      | 5      | 6      | 8        | 11       |          |
| 1              | CNA                 | OCe 14102 2x 10 Gb FCoE, PCIe 3.0 x8        | 6      | 1                    | 2      | 3      | 7        | 9        | 10       |             | 4      | 5      | 6      | 8        | 11       |          |
| 1              | Ethernet Adapter    | Fujitsu D2755 Dual Port 10 Gb SFP+          | 6      |                      | 1      | 2      | 6        | 7        | 8        |             | 3      | 4      | 5      | 9        | 10       |          |
| 2              |                     | Intel X540-T2 Dual Port 10 Gb               | 6      |                      | 1      | 2      | 6        | 7        | 8        |             | 3      | 4      | 5      | 9        | 10       |          |
| 3              |                     | PLAN CP 1350-T4 Quad Port 1 Gbit            | 6      |                      | 1      | 2      | 6        | 7        | 8        |             | 3      | 4      | 5      | 9        | 10       |          |
| 4              |                     | PLAN CP Intel 1350-T2 Dual Port 1 Gbit      | 6      |                      | 1      | 2      | 6        | 7        | 8        |             | 3      | 4      | 5      | 9        | 10       |          |
| 5              |                     | PLAN EP OCe 14102 Dual Port 10 Gb           | 6      |                      | 1      | 2      | 6        | 7        | 8        |             | 3      | 4      | 5      | 9        | 10       |          |



このリストは、新しいコントローラの場合は異なる可能性があります。

サポートされている拡張カードの最新情報については、次のアドレスにあるサーバのシステム構成図を参照してください。

世界市場の場合：

[http://ts.fujitsu.com/products/standard\\_servers/index.htm](http://ts.fujitsu.com/products/standard_servers/index.htm)

日本市場向け：

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/system/>

## 9.2 スロットブラケットの取り扱い



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：5 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 9.2.1 スロットブラケットの取り付け

#### 標準拡張カードの例



注意！

冷却要件を満たすため、穴あきフルハイトスロットブラケットを使用してください。



図 202: PCI スロットブラケットの取り付け (A)

- ▶ スロットブラケットの取り付けタブにコントローラをセットします。

## 拡張カードとバックアップユニット

- ▶ プラグシェルがスロットブラケットのコネクタパネルの切り込みにはめ込まれるまで、スロットブラケットをコントローラに向かってゆっくりとします。

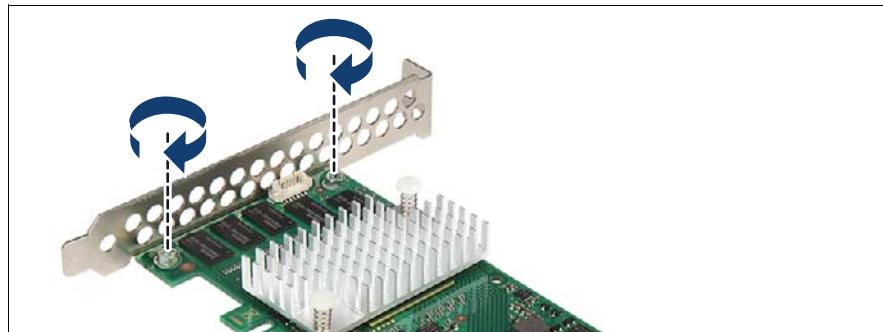


図 203: PCI スロットブラケットの取り付け (B)

- ▶ M3 x 3.5 mm のネジ 2 本で、スロットブラケットをコントローラに固定します。

### 9.2.2 スロットブラケットの取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 5 分

**工具:** プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

#### スロットブラケットの取り外し

- ▶ 2 本のネジを取り外します。
- ▶ スロットブラケットの取り付けタブからコントローラを取り外します。

## 9.3 拡張カードとライザーカード

### 9.3.1 標準スロットの拡張カードの取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

#### 9.3.1.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」

### 9.3.1.2 スロットカバーの取り外し

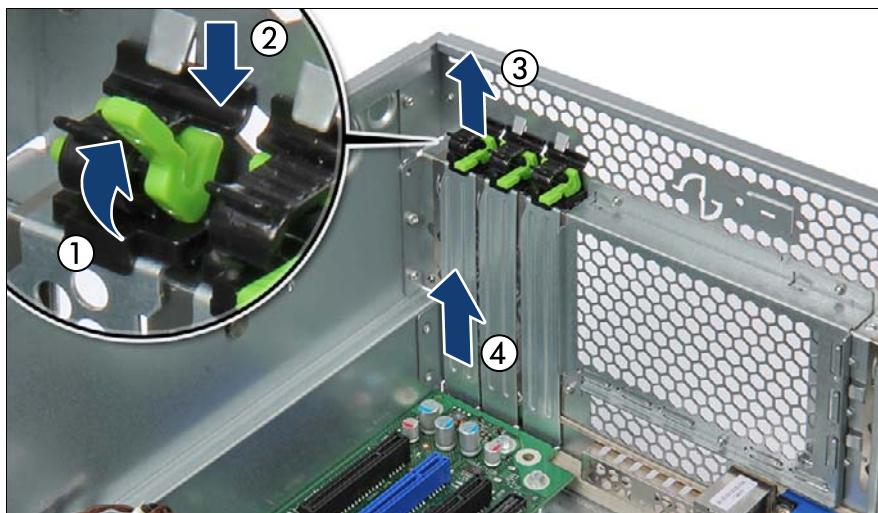


図 204: スロットカバーの取り外し - PCI スロットの例 1

- ▶ スロットカバーのクランプのロックハンドルを持ち上げます（1、拡大された部分を参照）。
- ▶ スロットカバーのクランプを押し下げて外します（2、拡大された部分を参照）。
- ▶ スロットカバーのクランプを取り外します（3）。
- ▶ スロットカバーを取り外す（4）。



#### 注意！

スロットカバーは今後使うかもしれないで、保管しておいてください。

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない PCI スロットの開口部にスロットブラケットを必ず装着してください。

### 9.3.1.3 拡張カードの取り付け

- ▶ 拡張カードを保護パッケージから取り出します。



コントローラの設定に関する詳しい説明は、付属のドキュメントを参考してください。

- ▶ 該当する場合は、[291 ページの「スロットブラケットの取り扱い」](#)の項に記載されているように、必要なスロットブラケットを拡張カードに取り付けます。



図 205: 拡張カードの取り付け - PCI スロット 1 の例 (A)

- ▶ 拡張カードを目的の PCI スロットに慎重に挿入し、スロットに完全にはめ込まれるまでしっかりと押し込みます。



スロットの選択は、[288 ページの「基本情報」](#)の項を参照してください。

## 拡張カードとバックアップユニット

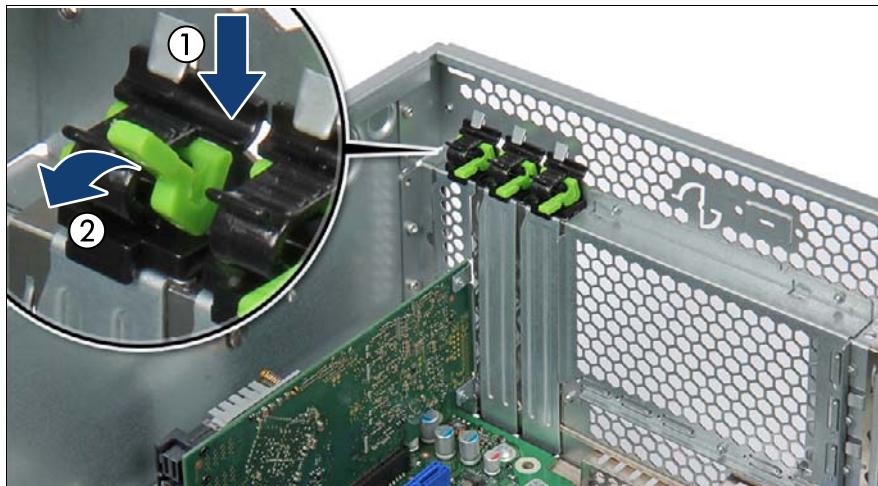


図 206: 拡張カードの取り付け - PCI スロット 1 の例 (B)

- ▶ PCI スロットカバーのクランプをクリップで留めます (1)。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、PCI スロットカバーのクランプのロックハンドルを倒します (2)。

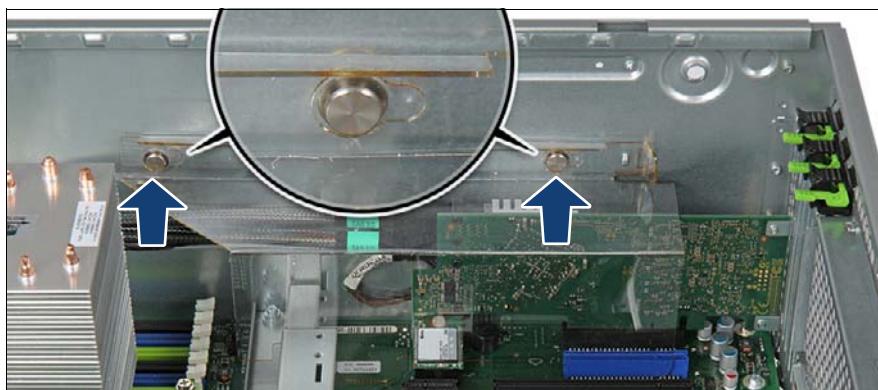


図 207: 送風ダクトの取り付け - PCI スロット 1 (A)

- ▶ PCI スロット 1 のみ : シャーシフロアの 2 個の肩付ネジのキャップが、送風ダクトの鍵穴スロットの幅の広い方の終点に固定されるように、送風ダクトをシャーシに挿入します。

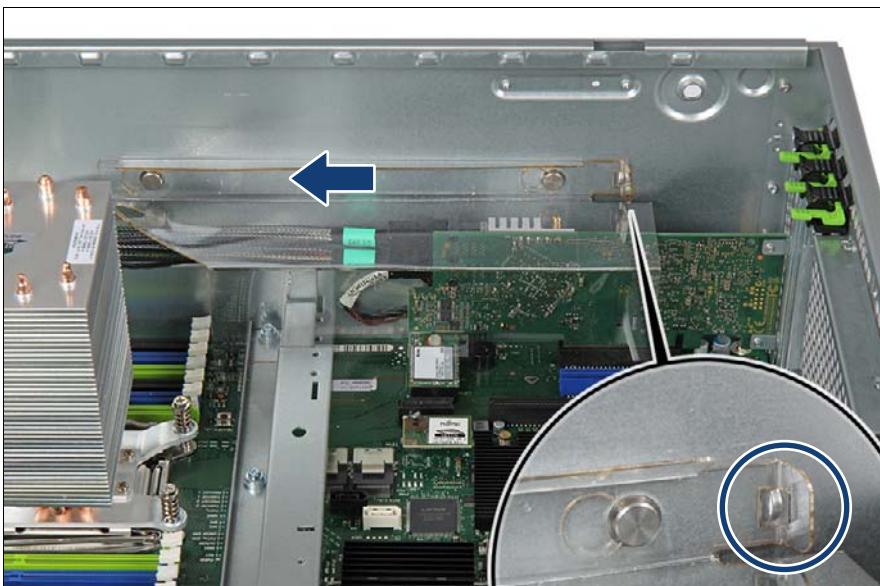


図 208: 送風ダクトの取り付け - PCI スロット 1 (B)

- ▶ PCI スロット 1 のみ : 送風ダクトを矢印の方向に止まるまでスライドさせます。シャーシフロアの肩付ネジのキャップが、送風ダクト鍵穴スロットの幅の狭い方の終点に固定されます。  
送風ダクトのロックハンドルがカチッとはまっていることを確認します（拡大された丸で囲んだ部分）。
- ▶ 該当する場合は、内部ケーブルを拡張カードに接続します。
  - i ケーブル接続の概要のまとめは、[512 ページ の「ケーブル図」](#) の項を参照してください。
- ▶ 該当する場合は、[318 ページ の「FBU の取り付け」](#) の項に記載されているように、FBU を拡張カードに接続します。

#### 9.3.1.4 終了手順

- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[83 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ すべての外部ケーブルを交換される拡張カードに再び接続します。

## **拡張カードとバックアップユニット**

- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87ページ「サーバの電源投入」
- ▶ 118 ページの「拡張カードのファームウェアのアップデート」
- ▶ 119 ページの「Option ROM Scan の有効化」
- ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 該当する場合は、137 ページの「LAN コントローラを交換またはアップグレードした後」。

### **9.3.2 標準スロットからの拡張カードの取り外し**



**ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)**



**平均作業時間：5 分**

**工具：** 工具不要

#### **9.3.2.1 準備手順**

- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ 取り外す拡張カードから外部ケーブルをすべて取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」

#### **9.3.2.2 拡張カードの取り外し**

- ▶ 該当する場合は、内部ケーブルを拡張カードから取り外してください。

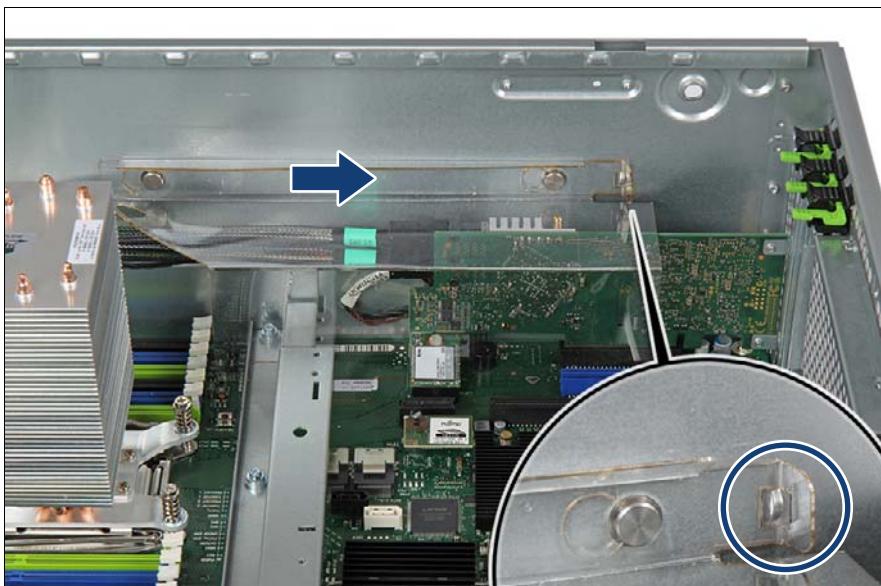


図 209: 送風ダクトの取り外し - PCI スロット 1 (A)

- ▶ PCI スロット 1 のみ : 送風ダクトを矢印の方向にスライドさせながら、送風ダクトのロックハンドルを持ち上げます（拡大された丸で囲んだ部分）。

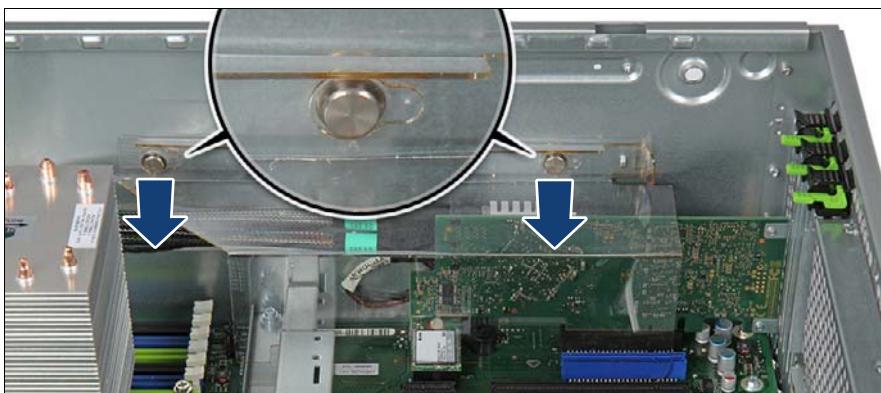


図 210: 送風ダクトの取り外し - PCI スロット 1 (B)

- ▶ PCI スロット 1 のみ : 送風ダクトを取り外します。

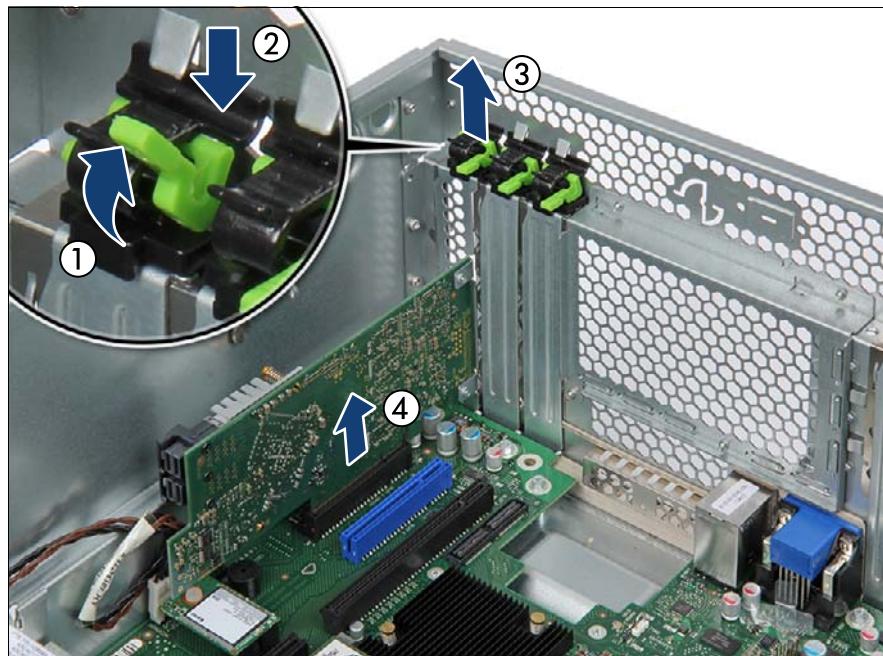


図 211: 拡張カードの取り外し - PCI スロット 1 の例

- ▶ スロットカバーのクランプのロックハンドルを持ち上げます（1、拡大された部分を参照）。
- ▶ スロットカバーのクランプを押し下げて外します（2、拡大された部分を参照）。
- ▶ スロットカバーのクランプを取り外します（3）。
- ▶ 拡張カードを垂直にそっと持ち上げ、スロットから取り外します（4）。

### 9.3.2.3 スロットカバーの取り付け



#### 注意！

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない PCI スロットの開口部にスロットカバーを必ず装着してください。

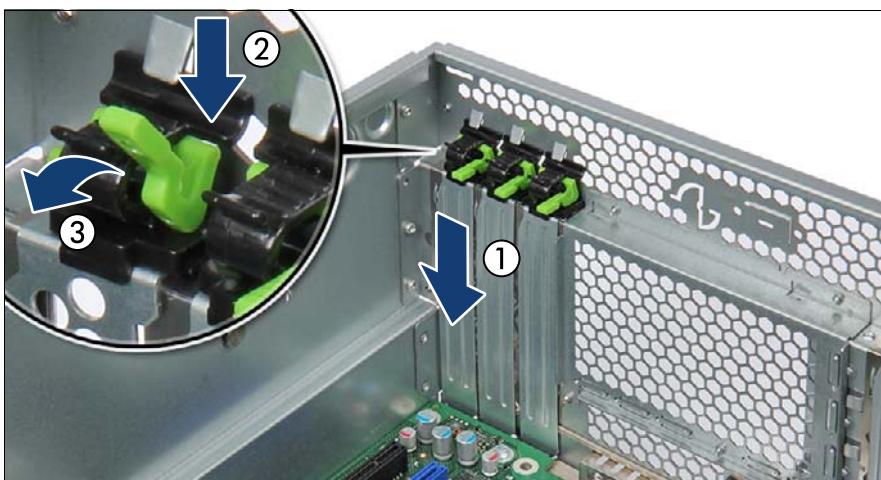


図 212: スロットカバーの取り付け - PCI スロットの例 1

- ▶ 使用されていない PCI スロットの開口部に PCI スロットカバーを挿入します (1)。
- ▶ PCI スロットカバーのクランプをクリップで留めます (2)。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで、PCI スロットカバーのクランプのロックハンドルを倒します (3)。

#### 9.3.2.4 終了手順

- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ [ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#) ▶  
[132 ページ の「BitLocker 機能の再開」](#)

### 9.3.3 標準スロットの拡張カードの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

#### ネットワーク設定のリカバリに関する注記



ネットワークコントローラまたはシステムボードを交換すると、オペレーティングシステムのネットワーク構成設定は失われ、デフォルト値に置き換えられます。これは全ての静的 IP アドレスと LAN チーミング設定に適用されます。

コントローラやシステムボードを交換する前に、現在のネットワーク設定を書き留めておきます。

#### 9.3.3.1 準備手順

- ▶ 該当する場合、302 ページの「ネットワーク設定のリカバリに関する注記」
- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ 交換する拡張カードから外部ケーブルをすべて取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 55 ページの「故障した部品の特定」

### 9.3.3.2 故障のある拡張カードの取り外し

- ▶ 298 ページ の「標準スロットからの拡張カードの取り外し」の項に記載されているように、拡張カードを取り外します。
- ▶ 故障のある拡張カードのスロットブラケットを再利用する場合 292 ページ の「スロットブラケットの取り外し」

### 9.3.3.3 新しい拡張カードの取り付け

- ▶ 該当する場合、291 ページ の「スロットブラケットの取り付け」
- ▶ 293 ページ の「標準スロットの拡張カードの取り付け」の項に記載されているように、拡張カードを取り付けます。

### 9.3.3.4 終了手順

- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ すべての外部ケーブルを交換される拡張カードに再び接続します。
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 127 ページ の「交換した部品のシステム BIOS での有効化」
- ▶ 118 ページ の「拡張カードのファームウェアのアップデート」
- ▶ 134 ページ の「変更された MAC/WWN アドレスの検索」
- ▶ 131 ページ の「Linux/VMware 環境での NIC 構成ファイルのアップデート」
- ▶ 127 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページ の「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 該当する場合は、交換したコントローラ（拡張カードまたはオンボード）の元の構成に従って、オペレーティングシステムのネットワーク設定を再構成します。



ネットワーク設定の構成は、お客様が行います。詳細は、302 ページ の「ネットワーク設定のリカバリに関する注記」の項を参照してください。

- ▶ 該当する場合、137 ページ の「LAN コントローラを交換またはアップグレードした後」

### 9.3.4 ライザーモジュール付きサーバのアップグレード



ライザーモジュール 1 とライザーモジュール 2 は同一です。組み立てたライザーモジュールの取り付け位置は異なります（図 201 を参照）。拡張カードの取り付け、取り外し、交換方法は同じです。



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

#### 9.3.4.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」

### 9.3.4.2 ライザーモジュール付きサーバのアップグレード

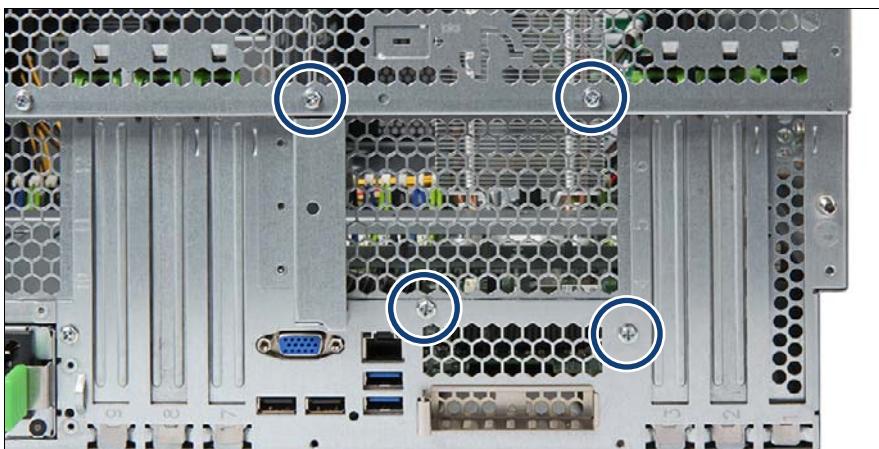


図 213: 背面通気プレートの取り外し - ライザーモジュール 1 の例

- ▶ 4 本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ 背面通気プレートを取り外します。



#### 注意！

背面通気プレートは今後使うかもしれないで、保管しておいてください。

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない取り付け場所には背面通気プレートを必ず装着してください。

- ▶ [294 ページ の「スロットカバーの取り外し」](#) の項に記載されているように PCI スロットカバー 3 を取り外します。

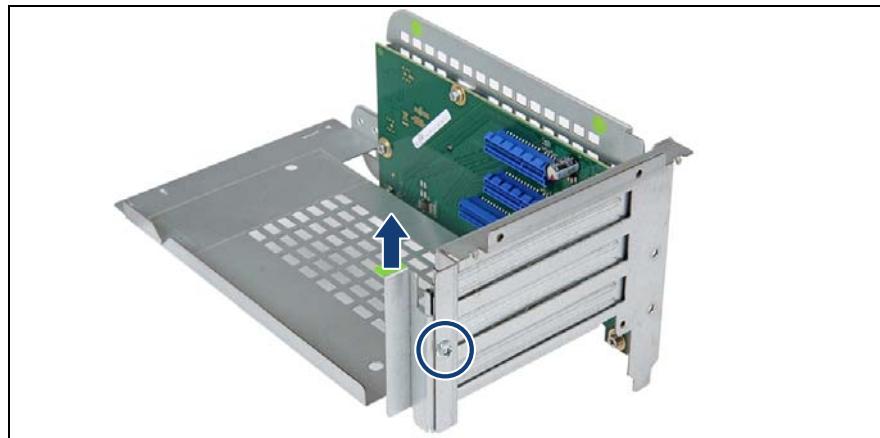


図 214: スロットカバーロックのホルダーからの取り外し

- ▶ ネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ スロットカバーロックを取り外します。
- ▶ 307 ページの「ライザーモジュールの拡張カードの取り付け」の項に記載されているように、ライザーモジュールに最大 3 枚の拡張カードを取り付けます。

### 9.3.4.3 終了手順

- ▶ 92 ページの「ライザーモジュールの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ すべての外部ケーブルを取り付けた拡張カードに再び接続します。
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 118 ページの「拡張カードのファームウェアのアップデート」
- ▶ 119 ページの「Option ROM Scan の有効化」
- ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 該当する場合は、137 ページの「LAN コントローラを交換またはアップグレードした後」。

### 9.3.5 ライザーモジュールの拡張カードの取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

#### 9.3.5.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[59 ページ の「サーバをラックから引き出す」](#)
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [62 ページ の「サーバを開ける」](#)

#### 9.3.5.2 スロットカバーロックの取り外し



図 215: スロットカバーロックの取り外し (A)

- ▶ 必要に応じて、背面のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。



図 216: スロットカバーロックの取り外し (B)

- ▶ スロットカバーロックを取り外します。

### 9.3.5.3 スロットカバーの取り外し



図 217: スロットカバーの取り外し

- ▶ スロットカバーを取り外します。



**注意！**

スロットカバーは今後使うかもしれないのに、保管しておいてください。

該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、使用していない PCI スロットの開口部にスロットカバーを必ず装着してください。

### 9.3.5.4 ライザーモジュール 2 への拡張カードの取り付け

- ▶ 拡張カードを保護パッケージから取り出します。
- ▶ **i** コントローラの設定に関する詳しい説明は、付属のドキュメントを参照してください。
- ▶ 該当する場合は、[291 ページ の「スロットブラケットの取り扱い」](#) の項に記載されているように、必要なスロットブラケットを拡張カードに取り付けます。

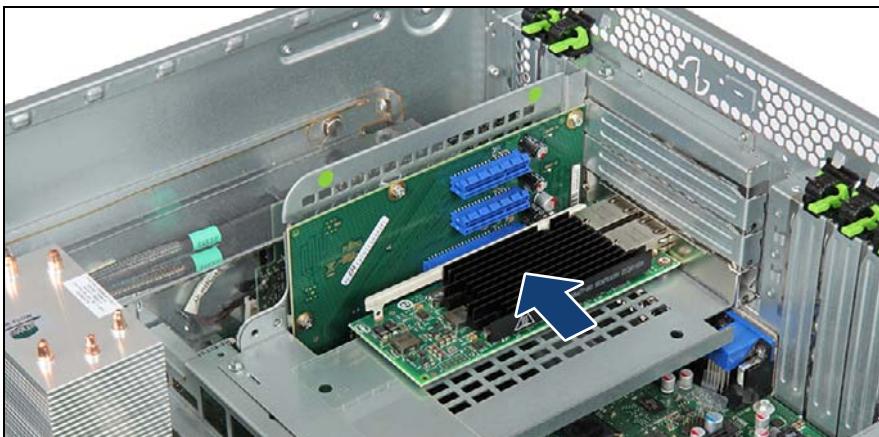


図 218: ライザーモジュール 2 への PCIe 拡張カードの取り付け

- ▶ PCIe 拡張カードを目的の PCI スロットに慎重に挿入し、スロットに完全にはめ込まれるまでしっかりと押し込みます。

### 9.3.5.5 スロットカバーロックの取り付け



図 219: スロットカバーロックの取り付け - パ

- ▶ スロットカバーロックを 3 つのスロットカバーの横の隙間に挿入します。内側にあるガイ（丸で囲んだ部分）はスロットカバーロックの切れ込みに正しく取り付けられているかどうか確認します。
- ▶ 必要に応じて、スロットカバーロックをネジで背面に固定します（図 215 を参照）。

### 9.3.5.6 終了手順

- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ すべての外部ケーブルを交換される拡張カードに再び接続します。
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 118 ページの「拡張カードのファームウェアのアップデート」
- ▶ 119 ページの「Option ROM Scan の有効化」
- ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 該当する場合は、137 ページの「LAN コントローラを交換またはアップグレードした後」。

### 9.3.6 ライザーモジュールからの拡張カードの取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：5 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

#### 9.3.6.1 準備手順

- ▶ [107 ページ の「BitLocker 機能の中断」](#)
- ▶ [56 ページ の「サーバのシャットダウン」](#)
- ▶ [57 ページ の「電源コードの取り外し」](#)
- ▶ 取り外す拡張カードから外部ケーブルをすべて取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [59 ページ の「サーバをラックから引き出す」](#)
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [62 ページ の「サーバを開ける」](#)

#### 9.3.6.2 拡張カードの取り外し

- ▶ [307 ページ の「スロットカバーロックの取り外し」](#) の項に記載されているように、スロットカバーロックを取り外します。

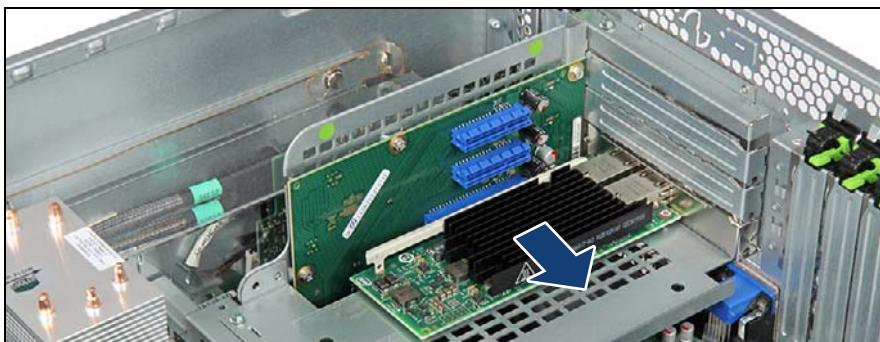


図 220: ライザーモジュールからの拡張カードの取り外し

- ▶ スロットから拡張カードを慎重に取り外します。

### 9.3.6.3 スロットカバーの取り付け

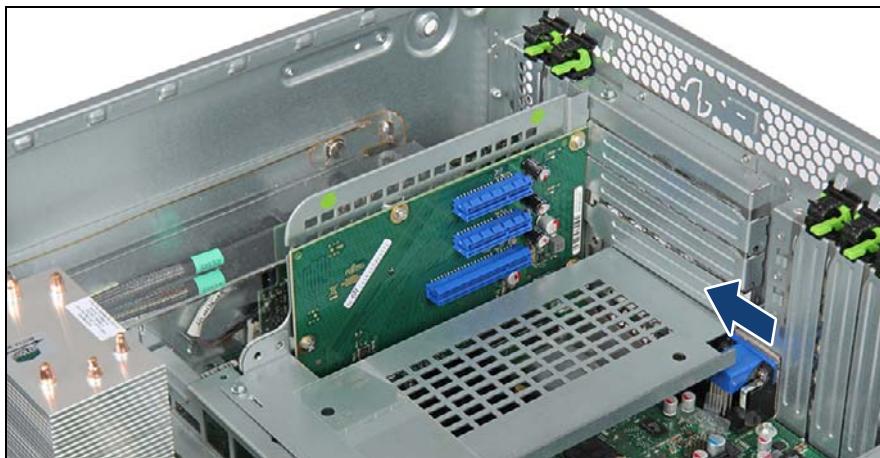


図 221: PCI スロットカバーの取り付け

- ▶ スロットカバーを挿入します。
- ▶ [310 ページ の「スロットカバーロックの取り付け」](#) の項に記載されているように、スロットカバーロックを取り付けます。

### 9.3.6.4 終了手順

- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[83 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#)
- ▶ [132 ページ の「BitLocker 機能の再開」](#)

### 9.3.7 ライザーモジュールの拡張カードの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

**工具:** プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

#### ネットワーク設定のリカバリに関する注記



ネットワークコントローラまたはシステムボードを交換すると、オペレーティングシステムのネットワーク構成設定は失われ、デフォルト値に置き換えられます。これは全ての静的 IP アドレスと LAN チーミング設定に適用されます。

コントローラやシステムボードを交換する前に、現在のネットワーク設定を書き留めておきます。

#### 9.3.7.1 準備手順

- ▶ 該当する場合、302 ページの「ネットワーク設定のリカバリに関する注記」
- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ 交換する拡張カードから外部ケーブルをすべて取り外します。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 55 ページの「故障した部品の特定」

### 9.3.7.2 故障のある拡張カードの取り外し

- ▶ 311 ページの「ライザーモジュールからの拡張カードの取り外し」の項に記載されているように、拡張カードを取り外します。
- ▶ 故障している拡張カードのスロットブラケットを再利用する場合は、292 ページの「スロットブラケットの取り外し」の項を参考にして、ボードからスロットブラケットを取り外します。

### 9.3.7.3 新しい拡張カードの取り付け

- ▶ 該当する場合は、291 ページの「スロットブラケットの取り付け」の項に記載されているように、新しい拡張カードのスロットブラケットを取り付けます。
- ▶ 307 ページの「ライザーモジュールの拡張カードの取り付け」の項に記載されているように、拡張カードを取り付けます。

### 9.3.7.4 終了手順

- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ すべての外部ケーブルを交換される拡張カードに再び接続します。
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 127 ページの「交換した部品のシステム BIOS での有効化」
- ▶ 134 ページの「変更された MAC/WWN アドレスの検索」
- ▶ 131 ページの「Linux/VMware 環境での NIC 構成ファイルのアップデート」
- ▶ 118 ページの「拡張カードのファームウェアのアップデート」
- ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 該当する場合は、交換したコントローラ（拡張カードまたはオンボード）の元の構成に従って、オペレーティングシステムのネットワーク設定を再構成します。



ネットワーク設定の構成は、お客様が行います。詳細は、[302 ページ](#)の「ネットワーク設定のリカバリに関する注記」の項を参照してください。

- ▶ 該当する場合、[137 ページ](#)の「LAN コントローラを交換またはアップグレードした後」

### 9.3.8 ライザーカードの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



ハードウェア : 5 分  
ソフトウェア : 5 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

#### 9.3.8.1 準備手順

- ▶ [107 ページ](#)の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ [108 ページ](#)の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ [53 ページ](#)の「故障したサーバの特定」
- ▶ [56 ページ](#)の「サーバのシャットダウン」
- ▶ [57 ページ](#)の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[59 ページ](#)の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [62 ページ](#)の「サーバを開ける」
- ▶ [55 ページ](#)の「故障した部品の特定」
- ▶ [95 ページ](#)の「ライザーモジュールの取り外し」の項に記載されているように、対応するライザーモジュールを取り外します。
- ▶ [311 ページ](#)の「ライザーモジュールからの拡張カードの取り外し」の項に記載されているように、ライザーモジュールに取り付けられたすべての拡張カードを取り外します。

### 9.3.8.2 故障したライザーカードの取り外し

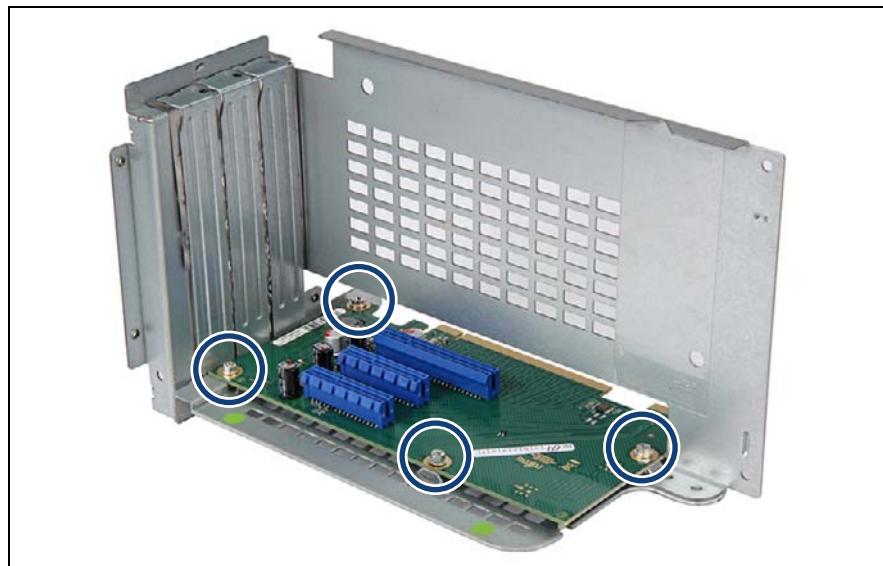


図 222: ライザーカードの取り外し

- ▶ 4 本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ ライザーカードをライザーカードホルダーから取り出します。

### 9.3.8.3 新しいライザーカードの取り付け

- ▶ ライザーカードをライザーカードホルダーに取り付けます。
- ▶ ライザーカードを 4 本のネジで固定します（図 222 の丸で囲んだ部分）。

### 9.3.8.4 終了手順

- ▶ 307 ページの「ライザーモジュールの拡張カードの取り付け」の項に記載されているように、すべての拡張カードをライザーモジュールに取り付けます。
- ▶ 92 ページの「ライザーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、対応するライザーモジュールを取り付けます。
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」

- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 127 ページの「交換した部品のシステム BIOS での有効化」
- ▶ 該当する場合118 ページの「拡張カードのファームウェアのアップデート」
- ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」

## 9.4 バックアップユニット

### 9.4.1 基本情報

フラッシュバックアップユニット (FBU) は、停電時に備えて、接続されている SAS RAID コントローラのメモリ内容をバックアップします。サーバは最大 2 台のバックアップユニットに対応します。

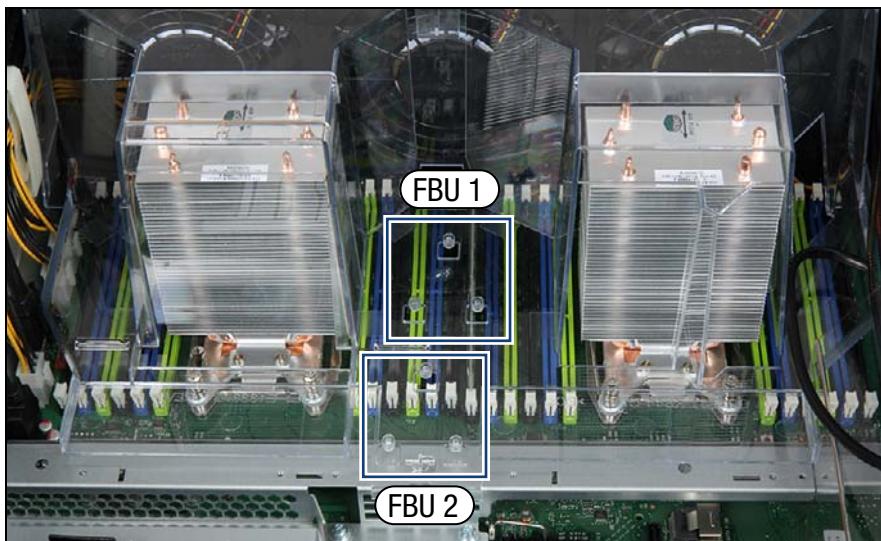


図 223: FBU の取り付け位置

### 9.4.2 FBU の取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具： プラス PH1 / (+) No. 1 ドライバ



#### 注意！

安全上の注意事項に関する詳細は、41 ページの「注意事項」の章を参照してください。

#### 9.4.2.1 準備手順

- ▶ 108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ SAS RAID コントローラからの SAS ケーブルを取り外します。
- ▶ 298 ページの「標準スロットからの拡張カードの取り外し」の項に記載  
されているように、SAS RAID コントローラをスロットから取り外しま  
す。

### 9.4.2.2 TFM の取り付け

#### 各種 TFM に関する注意

RAID コントローラによって、異なる TFM キットを利用できます。

| RAID コントローラ                           | TFM キット                  |
|---------------------------------------|--------------------------|
| D3216 PRAID EP400i (S26361-D3216-Axx) | TFM 4G (LSZ:03-25444-05) |
| D3216 PRAID EP420i (S26361-D3216-Bxx) | TFM 8G (LSZ:03-25444-01) |

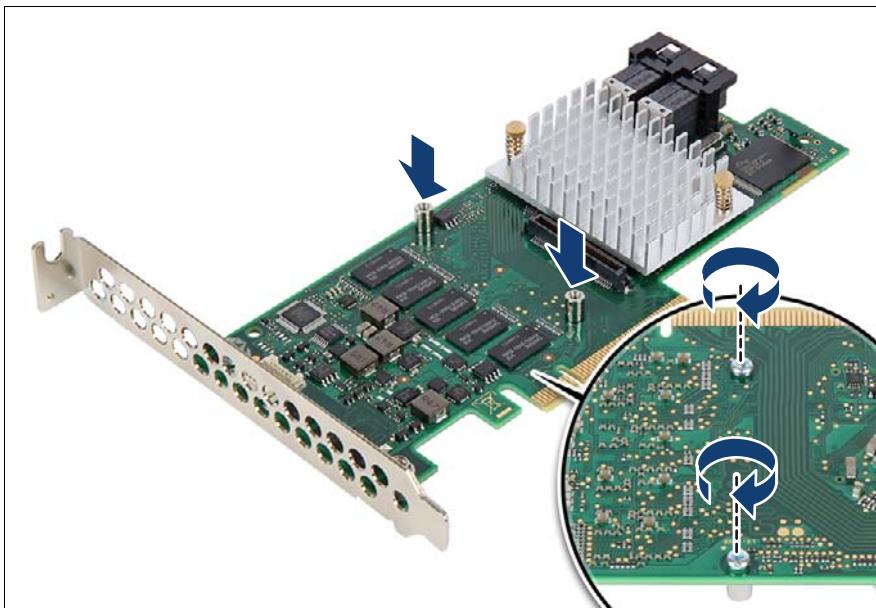


図 224: TFM の取り付け (A)

- ▶ 2 本のスペーサーボルトを SAS RAID コントローラに合わせ、TFM キットのネジでそれぞれ固定します。

## 拡張カードとバックアップユニット

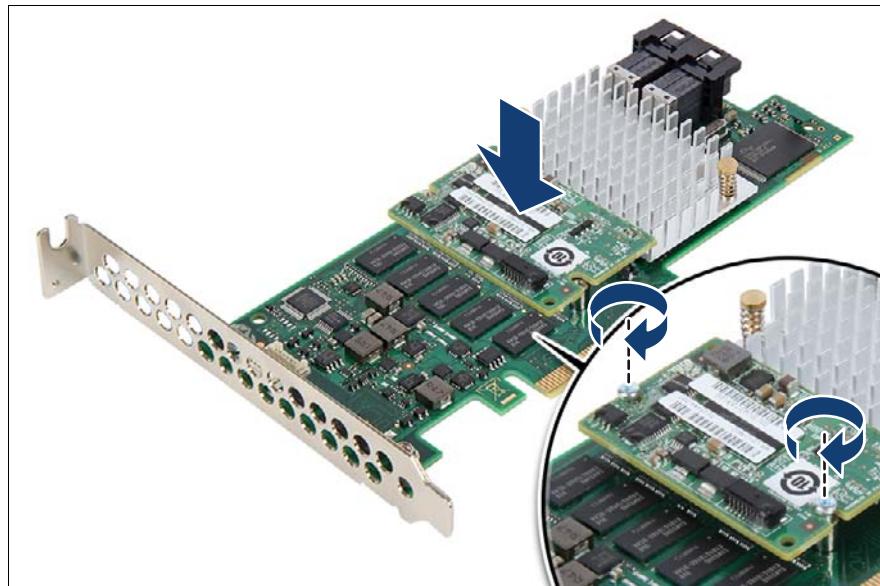


図 225: TFM の取り付け (B)

- ▶ TFM を RAID コントローラに取り付けます。
- ▶ TFM キットの 2 本のネジで、TFM をスペーサーボルトに固定します。



図 226: TFM の取り付け (C)

- ▶ TFM へ FBU アダプタケーブルを接続します。
- ▶ 293 ページの「標準スロットの拡張カードの取り付け」の項に記載されているように、SAS RAID コントローラを取り付けます。
- ▶ SAS ケーブルを SAS RAID コントローラ上の元のコネクタに接続します。

## 9.4.2.3 FBU の準備

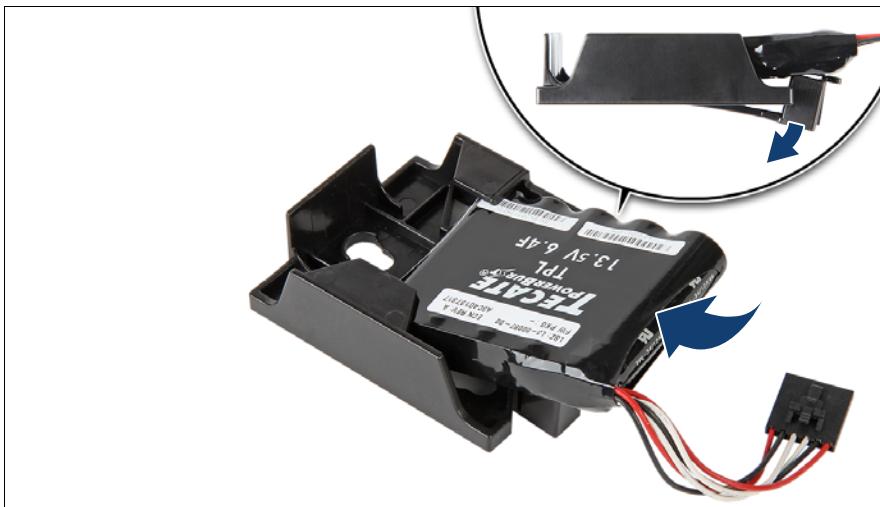


図 227: FBU ホルダーへの FBU の取り付け (A)

- ▶ FBU をやや傾けながら FBU のホルダーの両側の保持ブラケットの下に合わせます。
- ▶ 所定の位置に固定されるまで FBU ユニットを押し込みます。

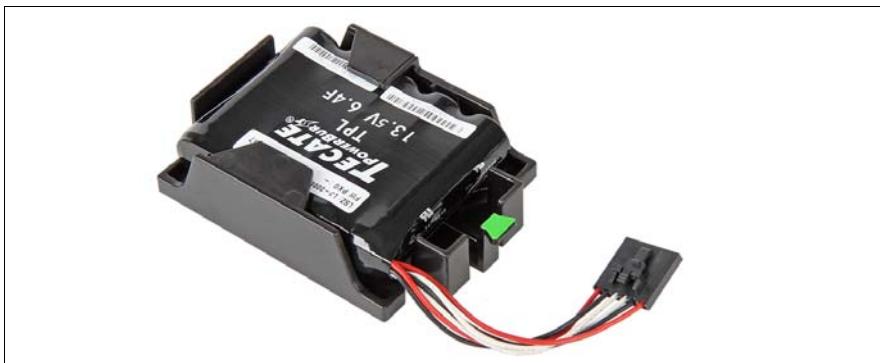


図 228: FBU を FBU ホルダーへの取り付け (B)

- ▶ FBU が FBU ホルダーに図のように正しく取り付けられていることを確認します。

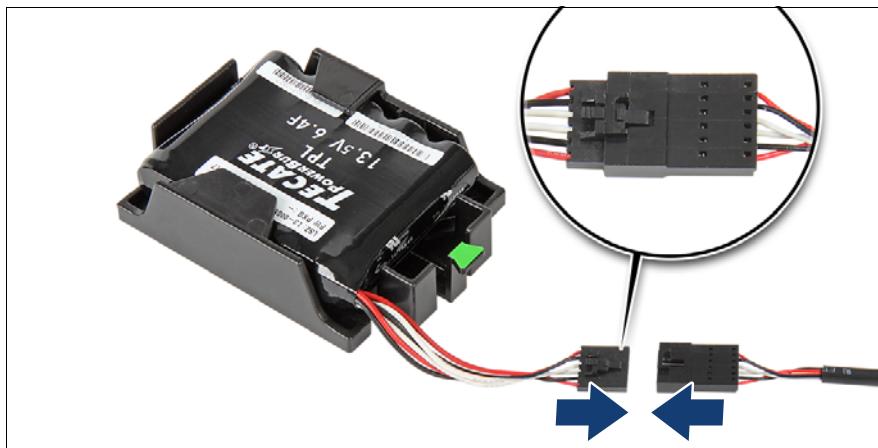


図 229: FBU への FBU アダプタケーブルの接続

- ▶ FBU モジュールのケーブルの端を FBU アダプタケーブルに接続します。

### 9.4.2.4 FBU の取り付け

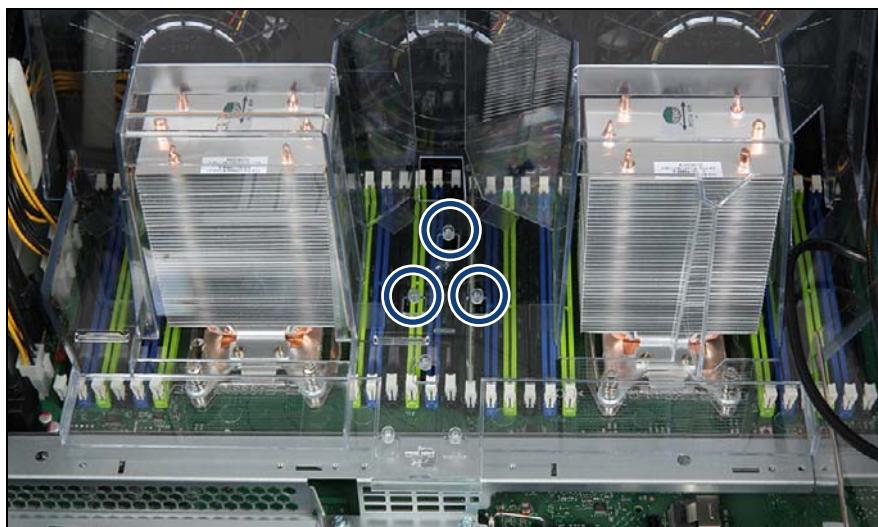


図 230: 肩付ネジのキャップの位置 - FBU1 の例

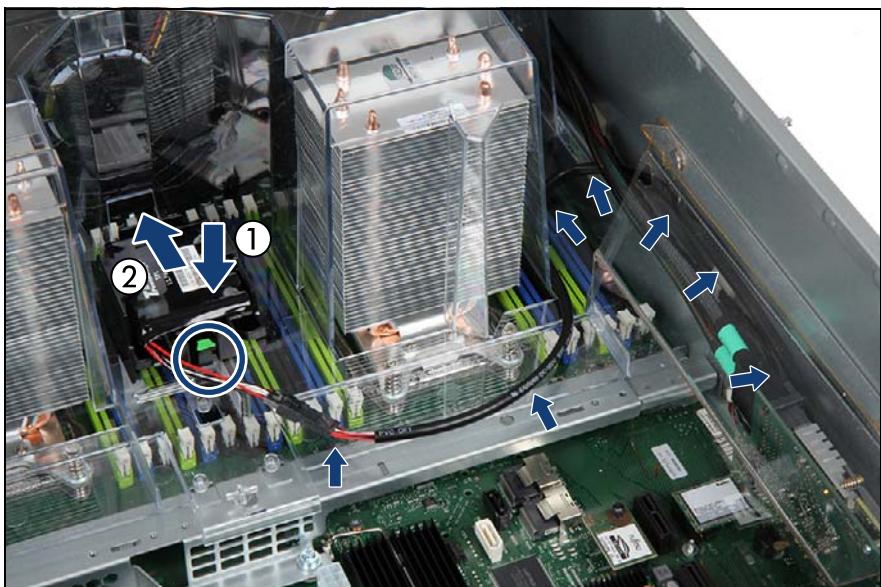


図 231: FBU と FBU ホルダーの取り付け - FBU 1 の例

- ▶ システム送風ダクトの肩付ネジのキャップの 3 つのフックが、FBU ホルダーの鍵穴スロットの幅の広い方の終点に固定されるように、FBU ホルダーをシステム送風ダクトに挿入します（1）。
- ▶ FBU ホルダーを矢印の方向に最後までスライドさせます（2）。
- ▶ システム送風ダクトの肩付ネジのキャップが、FBU ホルダーの鍵穴スロットの幅の狭い方の終点に固定されます。
- ▶ FBU ホルダーのロックハンドルがカチッとはまっていることを確認します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ 図のように、FBU ケーブルを配線します（矢印を参照）。

#### 9.4.2.5 終了手順

- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[83 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#)

- ▶ 該当する場合は、118 ページ の「拡張カードのファームウェアのアップデート」の項に記載されているように、FBU に接続されている RAID コントローラのファームウェアをアップデートします。
- ▶ 127 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」

### 9.4.3 FBU の取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 5 分

工具： 工具不要



#### 注意！

バッテリーバックアップユニットはゴミ箱に捨てないでください。  
バッテリーは、特別廃棄物についての自治体の規制に従って、廃棄する必要があります。

安全上の注意事項に関する詳細は、50 ページ の「環境保護」の項を参照してください。

#### 9.4.3.1 準備手順

- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」

### 9.4.3.2 FBU の取り外し

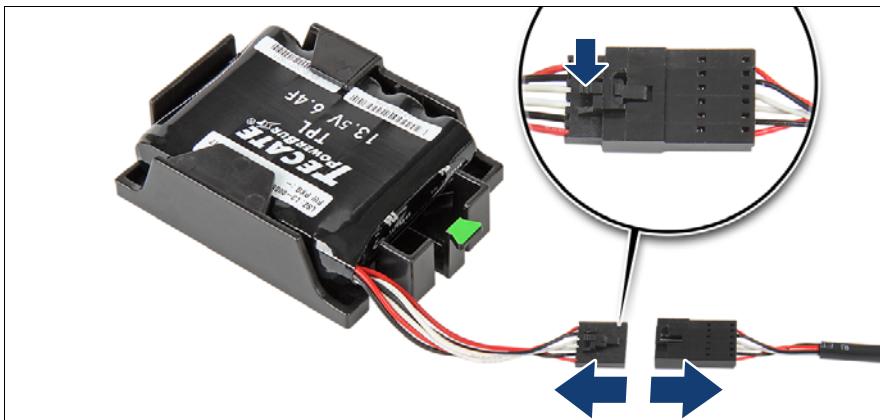


図 232: FBU ケーブルからの FBU アダプタケーブルの取り外し

- ▶ FPU ケーブルのロッキングラッチを押して（拡大された部分を参照）、FBU アダプタケーブルを取り外します。

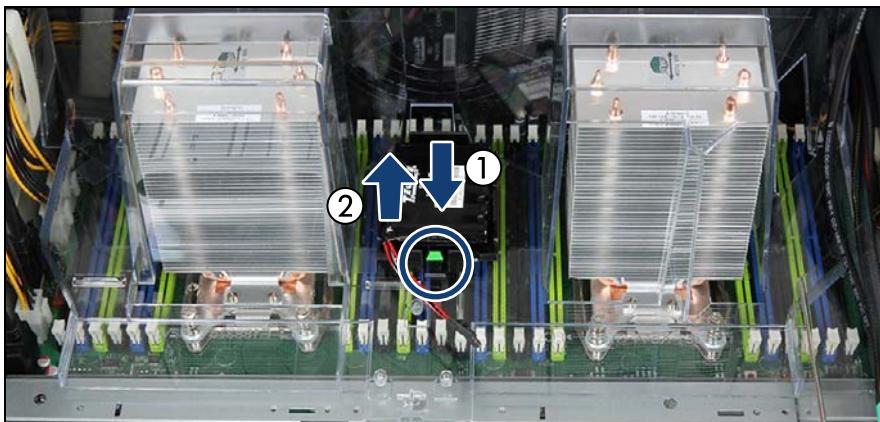


図 233: システム送風ダクトからの FBU ホルダーの取り外し

- ▶ FBU ホルダーを矢印の方向に最後までスライドさせながら（1）、FBU ホルダーのロックハンドルを持ち上げます（丸で囲んだ部分）。
- i** その後、システム送風ダクトの肩付ネジのキャップが、FBU ホルダーの鍵穴スロットの幅の広い方の終点に固定されます。
- ▶ システム送風ダクトから FBU ホルダーを持ち上げます（2）。

## 拡張カードとバックアップユニット

- ▶ FBU アダプタケーブルを取り外す場合は、次の手順に従います。
  - ▶ 298 ページの「標準スロットからの拡張カードの取り外し」の項に記載されているように、SAS RAID コントローラを取り外します。
  - ▶ TFM から FBU アダプタケーブルを取り外します。
  - ▶ 293 ページの「標準スロットの拡張カードの取り付け」の項に記載されているように、SAS RAID コントローラを取り付けます。

### 9.4.3.3 終了手順

- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」

### 9.4.4 FBU の交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具 : 工具不要



#### 注意！

バッテリーバックアップユニットはゴミ箱に捨てないでください。  
バッテリーは、特別廃棄物についての自治体の規制に従って、廃棄する必要があります。

安全上の注意事項に関する詳細は、50 ページの「環境保護」の項を参照してください。

#### 9.4.4.1 準備手順

- ▶ 108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」

- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[59 ページ の「サーバをラックから引き出す」](#)
- ▶ [62 ページ の「サーバを開ける」](#)
- ▶ [55 ページ の「故障した部品の特定」](#)

#### 9.4.4.2 故障した FBU の取り外し

- ▶ [324 ページ の「FBU の取り外し」](#) の項に記載されているように、FBU と  
FBU ホルダーを取り外します。

#### 9.4.4.3 FBU を FBU ホルダーから取り外す

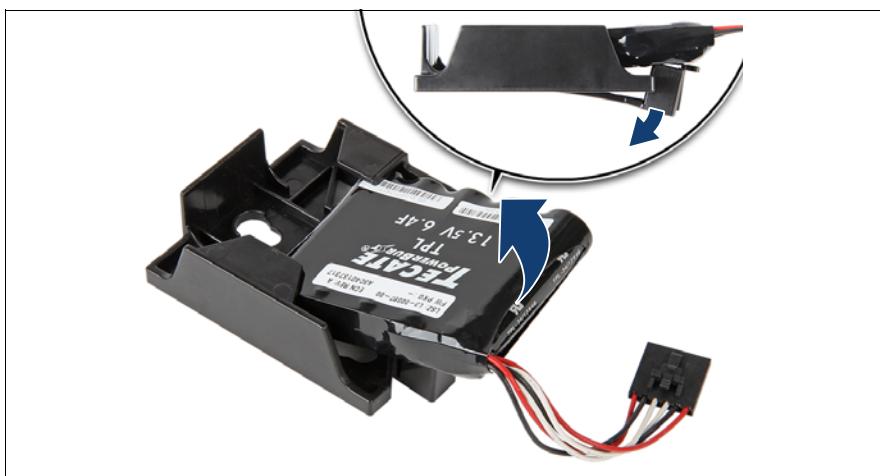


図 234: FBU を FBU ホルダーから取り外す

- ▶ FBU をやや傾けながら FBU ホルダーの保持ブラケットの下からスライド  
させて取り外します。

#### 9.4.4.4 新しい FBU モジュールの取り付け

- ▶ [321 ページ の「FBU の準備」](#) の項に記載されているように、FBU を FBU  
ホルダーに取り付けます。
- ▶ [322 ページ の「FBU の取り付け」](#) の項に記載されているように、FBU と  
ホルダーを取り付けます。
- ▶ FBU ケーブルへ FBU アダプタケーブルを接続します。

### 9.4.4.5 終了手順

- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
  - ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページの「ラックにサーバを格納する」
  - ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
  - ▶ 該当する場合は、118 ページの「拡張カードのファームウェアのアップデート」の項に記載されているように、FBU に接続されている RAID コントローラのファームウェアをアップデートします。
  - ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
-  FBU の再キャリブレーションは自動的に開始され、2 ~ 3 分内に終了します。

### 9.4.5 TFM の交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具： プラス PH1 / (+) No. 1 ドライバ



#### 注意！

安全上の注意事項に関する詳細は、41 ページの「注意事項」の章を参照してください。

### 9.4.5.1 準備手順

- ▶ 108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」

- ▶ SAS RAID コントローラからの SAS ケーブルを取り外します。
- ▶ 298 ページの「標準スロットからの拡張カードの取り外し」の項に記載されているように、SAS RAID コントローラをスロットから取り外します。

#### 9.4.5.2 TFM の取り外し

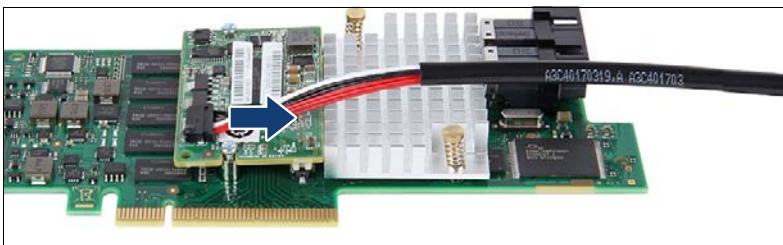


図 235: TFM からの FBU アダプタケーブルの取り外し

- ▶ TFM から FBU アダプタケーブルを取り外します。

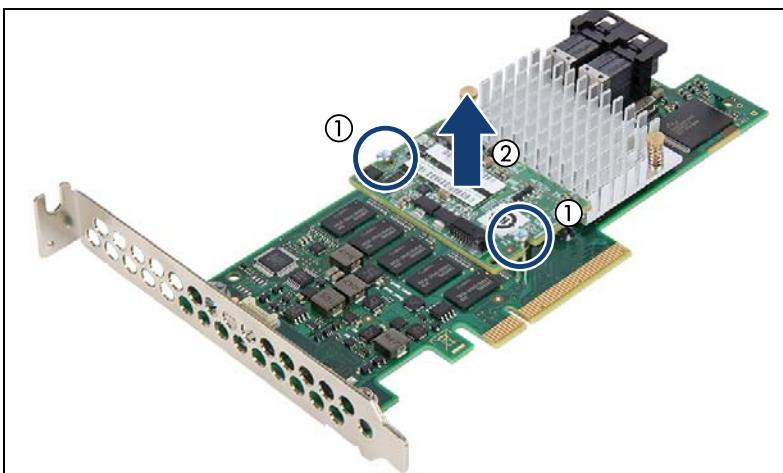


図 236: TFM の取り外し

- ▶ 2 本のネジを取り外します (1)。
- ▶ TFM を取り出します (2)。



TFM を交換する場合の注意 :

2 本のスペーサーボルトは RAID コントローラに取り付けたままにできます。

### 9.4.5.3 新しい TFM の取り付け

- ▶ [319 ページの「TFM の取り付け」](#) の項に記載されているように、TFM を既存の TFM スペーサーボルトに取り付けます。

### 9.4.5.4 終了手順

- ▶ [293 ページの「標準スロットの拡張カードの取り付け」](#) の項に記載されているように、SAS RAID コントローラを取り付けます。
- ▶ SAS ケーブルを SAS RAID コントローラ上の元のコネクタに接続します。
- ▶ [71 ページの「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[83 ページの「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [84 ページの「電源コードの接続」](#)
- ▶ 該当する場合、[118 ページの「拡張カードのファームウェアのアップデート」](#)
- ▶ [127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」](#)

## 9.5 DynamicLoM モジュール

### 9.5.1 基本情報

| DynamicLoM<br>モジュール  | 部品番号                                     | ボルト<br>長 | 部品番号          | 固定用のネジ<br>M3 x 3.5 mm |
|----------------------|--|----------|---------------|-----------------------|
| 1Gb x2 ポート           | S26361-D3245-A100                        | 5 mm     | C26192-Y1-C65 | C26192-Y10-C102       |
| 1Gb x ポート            | S26361-D3255-A100                        | 5 mm     | C26192-Y1-C65 | C26192-Y10-C102       |
| 10Gb x2 ポート<br>(SFP) | S26361-D3265-A100                        | 8 mm     | C26192-Y1-C66 | C26192-Y10-C102       |
| 10Gb x2 ポート          | S26361-D3275-A100 /<br>S26361-D3285-A100 | 8 mm     | C26192-Y1-C66 | C26192-Y10-C102       |



ネットワークコントローラを交換すると、OS 上のネットワーク構成情報は失われデフォルト値に戻ります。これは全ての静的 IP アドレスと LAN チーミング設定に適用されます。

#### 9.5.1.1 PLAN EM 2x 1GB Tの概要



図 237: DynamicLoM モジュール D3245

## 拡張カードとバックアップユニット

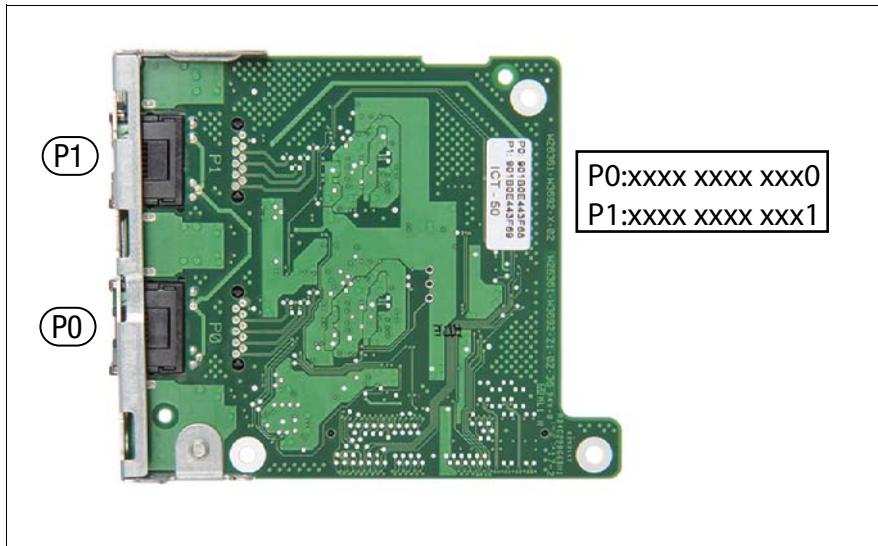


図 238: D3245 用の MAC ラベル

### 9.5.1.2 PLAN EM 4x 1GB Tの概要

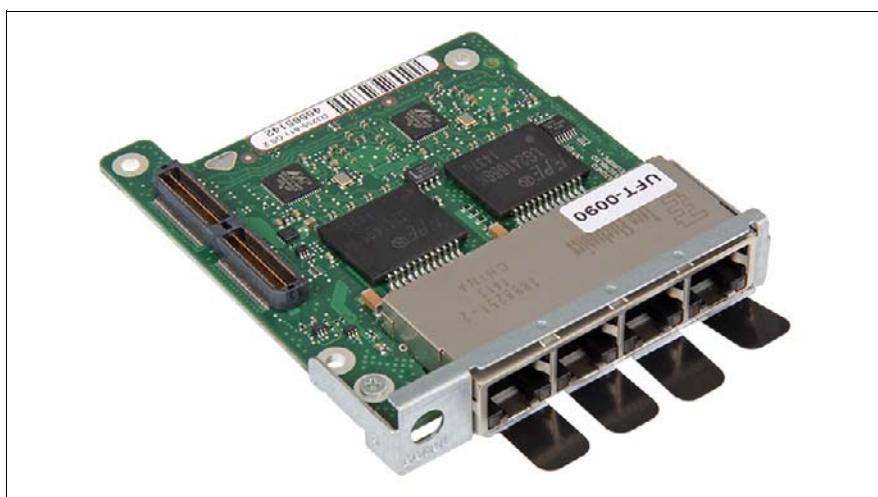


図 239: DynamicLoM モジュール D3255

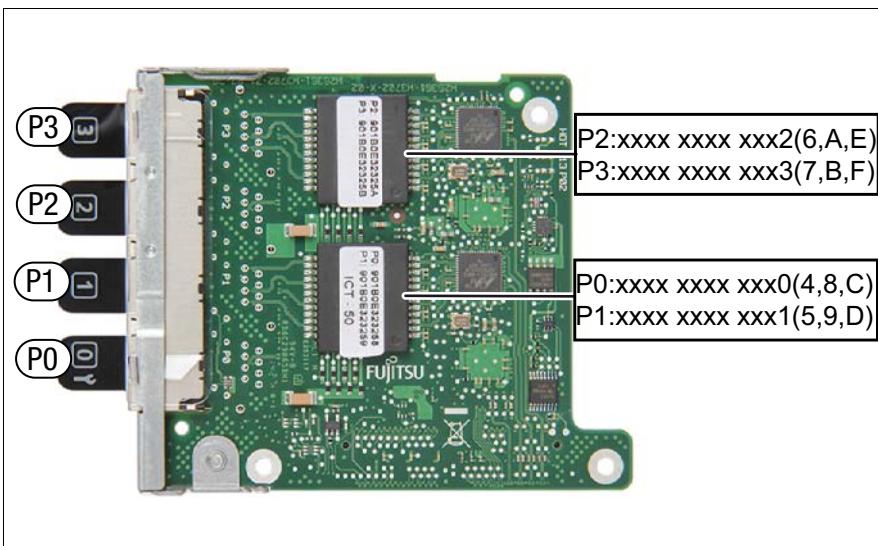


図 240: D3255 用の MAC ラベル

#### 9.5.1.3 PLAN EM 2x 10 GB SFP の概要

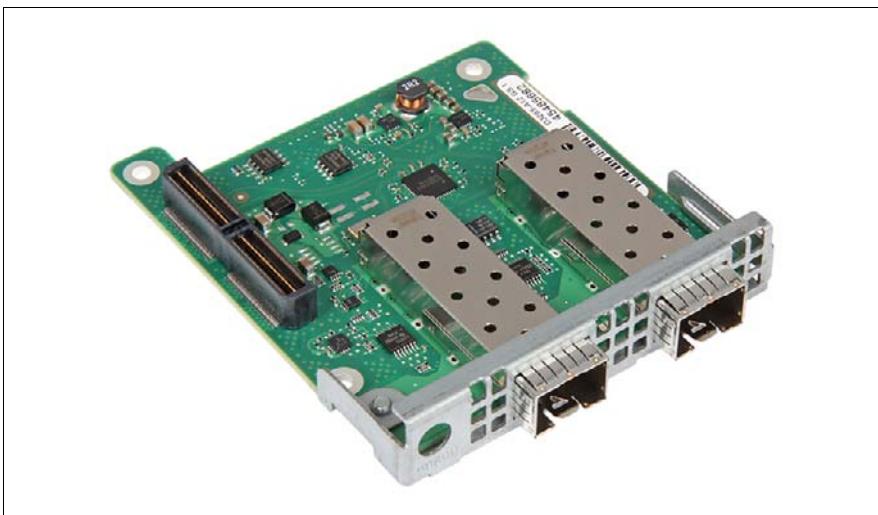


図 241: DynamicLoM モジュール D3265

## 拡張カードとバックアップユニット

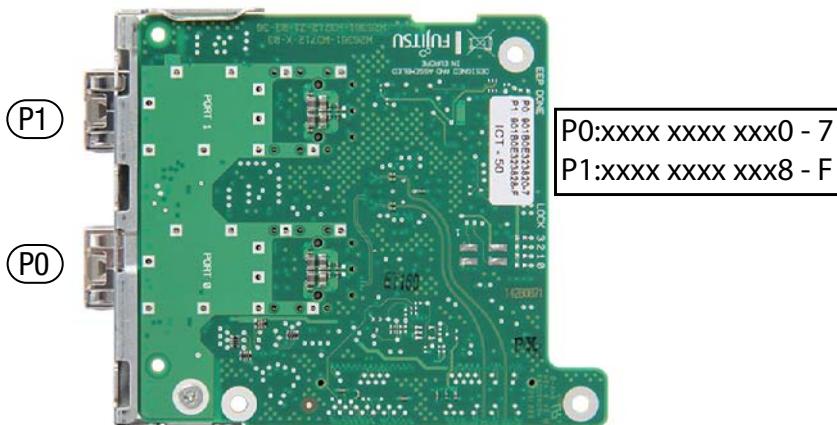


図 242: MAC ラベル D3265

### 9.5.1.4 PLAN EM 2x 10 GB Tの概要



図 243: DynamicLoM モジュール D3275（代替 D3285）

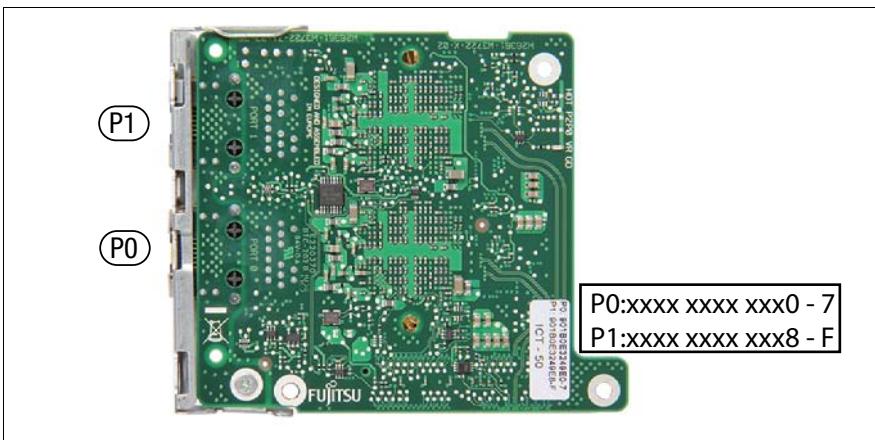


図 244: MAC ラベル D3275 (代替 D3285)

## 9.5.2 DynamicLoM モジュールの取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



ハードウェア : 5 分

|             |  |
|-------------|--|
| <b>工具 :</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>- プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ</li> <li>- 六角ドライバー 5 mm</li> <li>- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ (システムボードネジ)</li> </ul> |
|-------------|--|

### 9.5.2.1 準備手順

- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、95 ページ の「ライザーモジュールの取り外し」の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り外します。

### 9.5.2.2 スロットカバーの取り外し

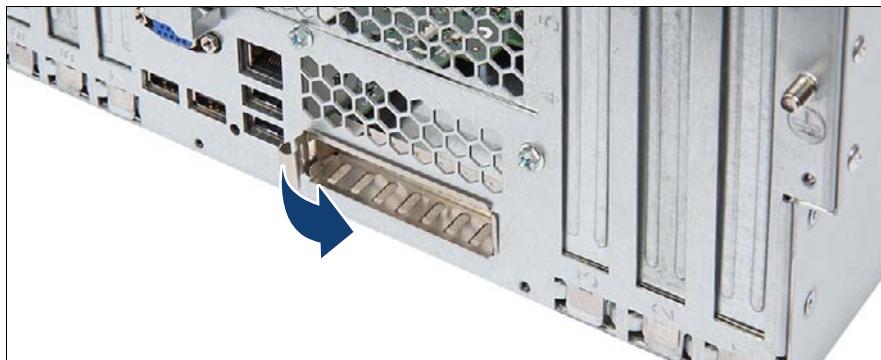


図 245: ダミーカバーの取り外し

- ▶ ハンドルを持ってダミーカバーを取り外します。



図 246: システムボードネジの取り外し

- ▶ システムボードネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。

### 9.5.2.3 DynamicLoM モジュールの取り付け

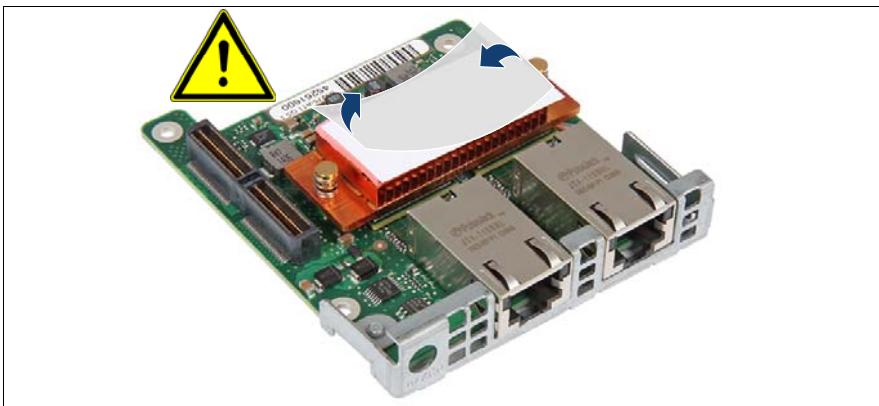


図 247: 保護ホイルの取り外し

- ▶ DynamicLoM モジュール D3275/D3285 のみ : 保護ホイルを取り外します。



図 248: 3 本のボルトの取り付け

- ▶ 3 本のボルトを取り付けます（丸で囲んだ部分）。DynamicLoM モジュールの高さに応じて、異なるボルトを使用します ([331 ページの「基本情報」の項を参照](#))。



図 249: DynamicLoM モジュールの取り付け

- ▶ DynamicLoM モジュールを、底面を上にして取り付けます。コネクタが背面に正しく配置されているか確認します。
- ▶ DynamicLoM モジュールを 3 本の M3 x 3.5 mm ネジ（丸で囲んだ部分）でボルトに固定します。

### 9.5.2.4 終了手順

- ▶ 該当する場合は、92 ページ の「ライザーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り付けます。
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」
- ▶ 134 ページ の「変更された MAC/WWN アドレスの検索」
- ▶ 131 ページ の「Linux/VMware 環境での NIC 構成ファイルのアップデート」
- ▶ 137 ページ の「LAN チーミングの設定」
- ▶ 127 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」

### 9.5.2.5 ソフトウェアの構成

システムに DynamicLoM モジュールが取り付けられていなかった場合は、次の手順に進んでください。

- ▶ BIOS Configuration Utility を起動します。
  - ▶ POST フェーズ中に [F2] キーを押します。
  - ▶ 「Advanced」メニューを選択します。
  - ▶ 「Onboard Devices Configuration」を選択します。  
Onboard CNA Enabled  
Onboard CNA Oeprom Enabled
  - ▶ 「Save & Exit」メニューで、必要なパラメータを選択して [Enter] キーを押します。
- ▶ Emulex PXESelect Utility を起動します。ネットワーク設定はお客様が行います。
  - ▶ POST フェーズ中に [Ctrl] + [P] キーを押します。
  - ▶ [F6] キーを押して続行します。
  - ▶ すべてのポートに対して、必要なすべての構成エントリを入力します。
  - ▶ [ESC] キーを 2 回押して「Port Selection Menu」に戻ります。
  - ▶ [F7] キーを押して設定を保存します。
  - ▶ [Y] キーを押してユーティリティメニューを終了します。
- ▶ VIOM (ServerView Virtual-IO Manager) がインストールされていない場合は、オペレーティングシステムに新しい MAC アドレスを設定します。  
VIOM がインストールされている場合は、MAC アドレスの設定は不要です。VIOM によって仮想化されます。
- ▶ SAN (Storage Area Network) に接続する D3245 の場合のみ：
  - ▶ WWPN (World Wide Port Name) アドレスが変更されているため、SAN ゾーニングを更新します。

### 9.5.3 DynamicLoM モジュールの取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



ハードウェア : 5 分

- 工具 :**
- プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ
  - 六角ドライバー 5 mm
  - プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ (システムボードネジ)

#### 9.5.3.1 準備手順

- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は : サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、95 ページ の「ライザーモジュールの取り外し」の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り外します。

#### 9.5.3.2 DynamicLoM モジュールの取り外し



図 250: DynamicLoM モジュールの取り外し

- ▶ 3 本のネジ（丸で囲んだ部分）を取り外します。

- ▶ DynamicLoM モジュールを取り外します
- ▶ 新しい DynamicLoM モジュールを取り付けない場合は、次のいずれかを行います。
  - ▶ 3 本のボルトを取り外します（図 248 を参照）。
  - ▶ システムボードネジを固定します（図 246 を参照）。

### 9.5.3.3 ダミーカバーの取り付け



図 251: ダミーカバーの取り付け

- ▶ ダミーカバーの挿入ハンドルの位置を確認します。

### 9.5.3.4 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[92 ページ の「ライザーモジュールの取り付け」](#) の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り付けます。
- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [83 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#)
- ▶ [87 ページ の「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [127 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」](#)

### 9.5.4 DynamicLoM モジュールの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



ハードウェア : 10 分

- |      |   |
|------|---|
| 工具 : | <ul style="list-style-type: none"><li>プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ</li><li>六角ドライバー 5 mm</li></ul> |
|------|---|

**i** 別のタイプの DynamicLoM モジュールに交換した場合、またはシステムボードを交換した場合、WWN アドレスと MAC アドレスが変更されます。これらの作業を開始する前に、この点をお客様に通知してください。これらの作業を実行した後、変更された WWN アドレスと MAC アドレスをお客様に連絡してください。

#### 9.5.4.1 準備手順

- ▶ 108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[59 ページの「サーバをラックから引き出す」](#)
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、[95 ページの「ライザーモジュールの取り外し](#) の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り外します。

#### 9.5.4.2 DynamicLoM モジュールの取り外し

- ▶ [340 ページの「DynamicLoM モジュールの取り外し」](#)

#### 9.5.4.3 DynamicLoM モジュールの取り付け

- ▶ [337 ページの「DynamicLoM モジュールの取り付け」](#)

#### 9.5.4.4 終了手順

- ▶ 該当する場合は、92 ページの「ライザーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り付けます。
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 134 ページの「変更された MAC/WWN アドレスの検索」
- ▶ 131 ページの「Linux/VMware 環境での NIC 構成ファイルのアップデート」
- ▶ 137 ページの「LAN チーミングの設定」
- ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」

#### 9.5.4.5 ソフトウェアの構成

##### 同じタイプの DynamicLoM モジュールに交換する

同一タイプの Dynamic LoM モジュールを交換した場合、ネットワーク設定はシステムボードに保持されているため、ネットワークの設定は不要です。変更された WWN と MAC アドレスをお客様に伝えてください。

##### 別のタイプの DynamicLoM モジュールに交換する、またはシステムボードを交換する

DynamicLoM モジュールのタイプが変更された場合（例えば、2 ポートモジュールを 4 ポートモジュールに変更した場合）、またはシステムボードを交換した場合は、初めて取り付ける場合と同様にソフトウェア構成を行います（339 ページの「ソフトウェアの構成」の項を参照）。

## 9.6 シリアルインタフェース

### 9.6.1 シリアルインタフェースの取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



ハードウェア : 5 分

**工具 :**

- マイナスドライバ
- ナットドライバ 5 mm



キットに付属のスロットブラケットは、このサーバでは使用しません。

#### 9.6.1.1 準備手順

- ▶ 108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」

### 9.6.1.2 シリアルインタフェースの取り付け



図 252: 金属製プレートの取り外し

- ▶ 必要に応じて、金属製プレートを取り外します。

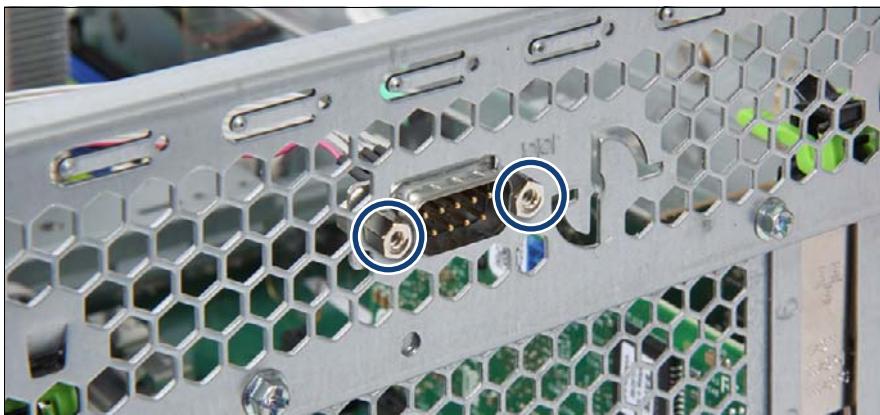


図 253: シリアルインタフェースの取り付け

- ▶ 内側からシリアルインタフェースを差し込んで、2 本の UNC 4-40 六角ボルトで固定します（丸で囲んだ部分）。

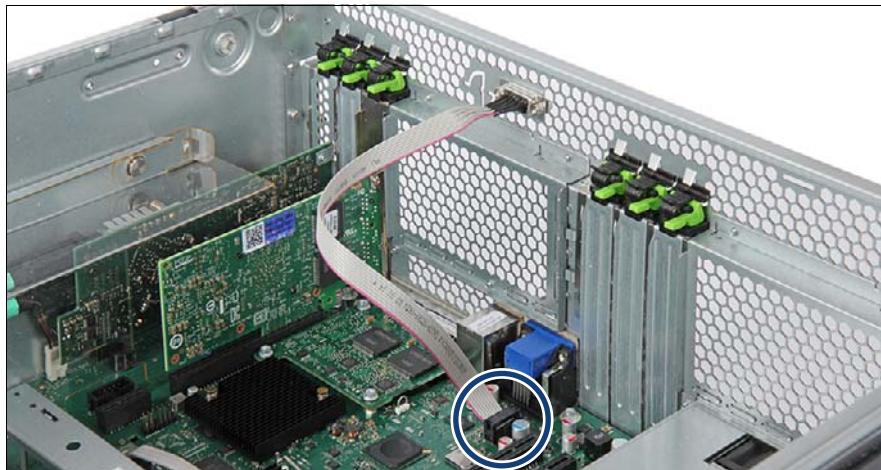


図 254: シリアルインタフェースケーブルの接続

- ▶ システムボードコネクタ COM 1 にシリアルインタフェースケーブルを接続します。

### 9.6.1.3 終了手順

- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」

## 9.6.2 シリアルインタフェースの取外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



ハードウェア : 5 分

**工具：** ナットドライバ 5 mm

### 9.6.2.1 準備手順

- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」

### 9.6.2.2 シリアルインタフェースの取外し

- ▶ 2 本のボルト（図 253 を参照）を取り外して、シリアルインタフェースを取り外します。
- ▶ 四角形の開口部が開いたままになります。
- ▶ システムボードコネクタ "COM 1" からシリアルインタフェースケーブルを取り外します（図 254 を参照）。

### 9.6.2.3 終了手順

- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」
- ▶ 127 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」

### 9.6.3 シリアルインタフェースの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



ハードウェア: 5 分

工具: ナットドライバ 5 mm

#### 9.6.3.1 準備手順

- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」

#### 9.6.3.2 故障のあるシリアルインタフェースの取外し

- ▶ 347 ページ の「シリアルインタフェースの取外し」の項に記載されているように、シリアルインタフェースを取り外します。

#### 9.6.3.3 新しいシリアルインタフェースの取り付け

- ▶ 345 ページ の「シリアルインタフェースの取り付け」の項に記載されているように、シリアルインタフェースを取り付けます。

#### 9.6.3.4 終了手順

- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」
- ▶ 127 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」

---

# 10 メインメモリ

## 安全上の注意事項



### 注意！

- サポートしていない他メーカーのメモリモジュールは取り付けないでください。サポートしているメモリモジュールの詳細は、[350 ページ の「基本情報」](#)の項を参照してください。
- メモリモジュールは、シャットダウン後もしばらくは高温の状態が続きます。火傷しないように、コンポーネントが冷却されるのを待ってからメモリモジュールの取り付けや取り外しを行ってください。
- メモリモジュールの挿入と取り外しを繰り返さないでください。そのようにすると、故障が発生する可能性があります。
- メモリモジュールコネクタの固定クリップを押すと、取り付けられているメモリモジュールがイジェクトされます。破損を防止するために、力を入れすぎないように注意してメモリモジュールをイジェクトします。
- 詳細は、[41 ページ の「注意事項」](#)の章を参照してください。

### 10.1 基本情報

- システムボードには、24のメモリスロットがあります（各CPUに12つのスロット）。
- 1CPU構成では、12のメモリスロットのみ使用可能です。
- システムには、1つのプロセッサあたりに最低1つのメモリモジュールを取り付ける必要があります。
- サポートする容量：8 GB、16 GB、32 GB または 64 GB
- 最大 RAM 容量：1536 GB (1 CPU あたり 768 GB)
- サポートするメモリモジュールのタイプ：

| タイプ       | Ranking <sup>1</sup>            |    |    | Error Correction |
|-----------|---------------------------------|----|----|------------------|
|           | SR                              | DR | QR |                  |
| DDR4-1866 | RDIMMs<br>(Registered DIMMs)    | ○  | ○  | ○                |
| DDR4-2133 |                                 |    |    | ECC または<br>非 ECC |
| DDR4-2400 | LRDIMMs<br>(Load-Reduced DIMMs) |    |    | ○                |

<sup>1</sup> SR : Single-Rank、DR : Dual-Rank、QR : Quad-Rank

### 10.1.1 メモリの取り付け順序

#### 10.1.1.1 取り付けの規則

- メモリスロット 1/ チャネル A (DIMM1A) から取り付けます。
- 2プロセッサ構成の場合、次に、メモリスロット 1/ チャネル E (DIMM 1E) を取り付けます。
- すべてのチャネルでメモリスロット 1に取り付けてから、メモリスロット 2に取り付けます。スロット 2に取り付けてから、スロット 3に取り付けます（すべてのCPUに該当）。
- ランクの異なるメモリモジュールを使用する場合、必ず番号の大きいランク DIMM から取り付けます（スロット 1から開始）。
- 容量の異なるメモリモジュールを使用する場合：
  - 容量の大きいモジュールから取り付けます。
  - モジュールはチャネル内で容量の多い順に取り付けます。

- 速度の異なるメモリモジュールが使用されている場合は、最低のクロック速度がすべてのDIMMに適用されます。モードに関係なく、すべてのDIMMはDIMMのSPD Dataおよび選択された最高速度によって許容される周波数のうち、低い方の最高周波数で動作します。
- RDIMM、LRDIMMを混在させることはできません。
- ECCと非ECC DIMMを混在させることはできません。
- 同じCPU上で、1つのチャネルにクアッドランクDIMMが搭載された場合、別のチャネルに3つのDIMM(3DPC)を搭載することはできません。

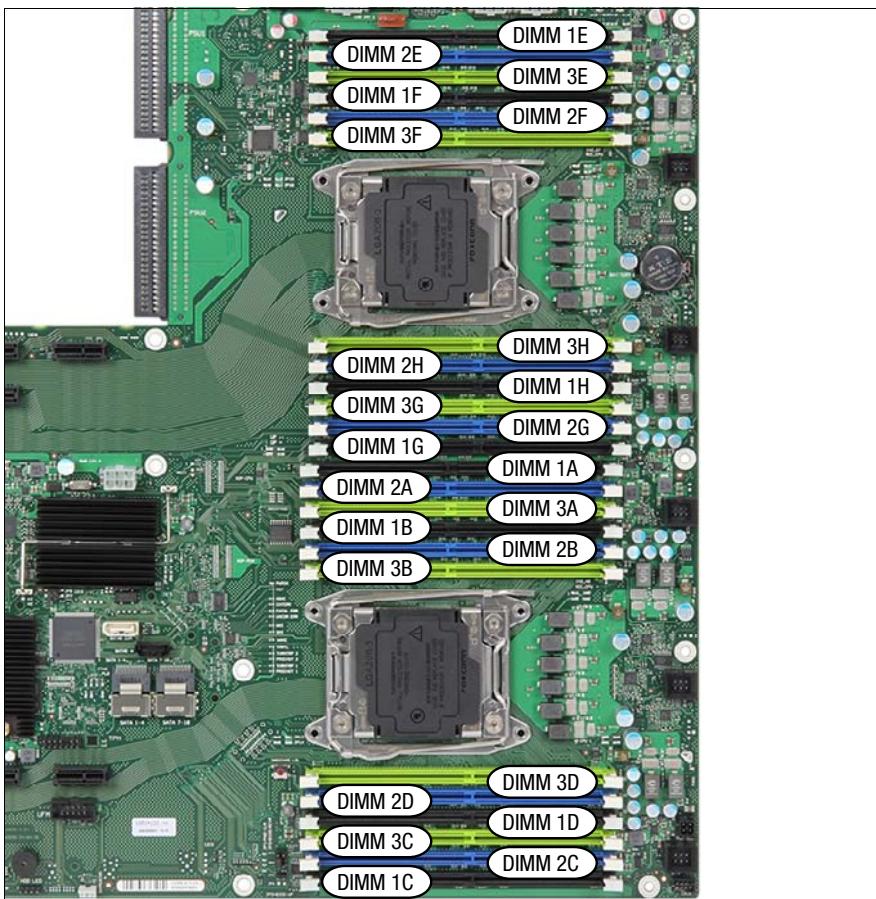


図 255: メモリの概観

### 10.1.1.2 インデペンデント（独立）チャネルモード

| CPU              | CPU 1 |    |    |    |    |    |    |    |    | CPU2 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|------------------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|                  | A     |    |    | B  |    |    | D  |    |    | C    |    |    | E  |    |    | F  |    |    | H  |    |    | G  |    |    |
| channel          | 1A    | 2A | 3A | 1B | 2B | 3B | 1D | 2D | 3D | 1C   | 2C | 3C | 1E | 2E | 3E | 1F | 2F | 3F | 1H | 2H | 3H | 1G | 2G | 3G |
| 1 CPU populated  |       |    |    |    |    |    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 1                | 1     |    |    |    |    |    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 2                | 1     |    |    |    |    |    |    |    |    |      |    |    | 2  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 3                | 1     |    |    | 3  |    |    |    |    |    |      |    | 2  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 4                | 1     |    |    | 3  |    |    |    | 4  |    |      | 2  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 5                | 1     | 5  |    | 3  |    |    |    | 4  |    |      | 2  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 6                | 1     | 5  |    | 3  |    |    | 4  |    |    | 2    | 6  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 7                | 1     | 5  |    | 3  | 7  |    | 4  |    |    | 2    | 6  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 8                | 1     | 5  |    | 3  | 7  |    | 4  | 8  |    | 2    | 6  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 9                | 1     | 5  | 9  | 3  | 7  |    | 4  | 8  |    | 2    | 6  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 10               | 1     | 5  | 9  | 3  | 7  |    | 4  | 8  |    | 2    | 6  | 10 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 11               | 1     | 5  | 9  | 3  | 7  | 11 | 4  | 8  |    | 2    | 6  | 10 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 12               | 1     | 5  | 9  | 3  | 7  | 11 | 4  | 8  | 12 | 2    | 6  | 10 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 2 CPUs populated |       |    |    |    |    |    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 2                | 1     |    |    |    |    |    |    |    |    |      |    |    | 2  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 3                | 1     |    |    |    |    |    |    |    |    | 3    |    |    | 2  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 4                | 1     |    |    |    | 5  |    |    |    |    | 3    |    |    | 2  |    |    |    |    |    |    | 4  |    |    |    |    |
| 5                | 1     |    |    |    | 5  |    |    |    |    | 3    |    |    | 2  |    |    |    |    |    |    | 4  |    |    |    |    |
| 6                | 1     |    |    | 5  |    |    |    |    |    | 3    |    |    | 2  | 6  |    |    |    |    |    | 4  |    |    |    |    |
| 7                | 1     |    |    | 5  |    |    | 7  |    |    | 3    |    |    | 2  | 6  |    |    |    |    | 4  |    |    |    |    |    |
| 8                | 1     |    |    | 5  |    |    | 7  |    |    | 3    |    |    | 2  | 6  |    |    |    | 8  |    | 4  |    |    |    |    |
| 9                | 1     | 9  |    | 5  |    |    | 7  |    |    | 3    |    |    | 2  | 6  |    |    |    | 8  |    | 4  |    |    |    |    |
| 10               | 1     | 9  |    | 5  |    |    | 7  |    |    | 3    |    |    | 2  | 10 | 6  |    |    | 8  |    | 4  |    |    |    |    |
| 11               | 1     | 9  |    | 5  |    |    | 7  |    |    | 3    | 11 |    | 2  | 10 | 6  |    |    | 8  |    | 4  |    |    |    |    |
| 12               | 1     | 9  |    | 5  |    |    | 7  |    |    | 3    | 11 |    | 2  | 10 | 6  |    |    | 8  |    | 4  | 12 |    |    |    |
| 13               | 1     | 9  |    | 5  | 13 |    | 7  |    |    | 3    | 11 |    | 2  | 10 | 6  |    |    | 8  |    | 4  | 12 |    |    |    |
| 14               | 1     | 9  |    | 5  | 13 |    | 7  |    |    | 3    | 11 |    | 2  | 10 | 6  | 14 |    | 8  |    | 4  | 12 |    |    |    |
| 15               | 1     | 9  |    | 5  | 13 |    | 7  | 15 |    | 3    | 11 |    | 2  | 10 | 6  | 14 |    | 8  |    | 4  | 12 |    |    |    |
| 16               | 1     | 9  |    | 5  | 13 |    | 7  | 15 |    | 3    | 11 |    | 2  | 10 | 6  | 14 |    | 8  | 16 | 4  | 12 |    |    |    |
| 17               | 1     | 9  | 17 | 5  | 13 |    | 7  | 15 |    | 3    | 11 |    | 2  | 10 | 6  | 14 |    | 8  | 16 | 4  | 12 |    |    |    |
| 18               | 1     | 9  | 17 | 5  | 13 |    | 7  | 15 |    | 3    | 11 | 19 | 2  | 10 | 18 | 6  | 14 | 8  | 16 | 4  | 12 |    |    |    |
| 19               | 1     | 9  | 17 | 5  | 13 |    | 7  | 15 |    | 3    | 11 | 19 | 2  | 10 | 18 | 6  | 14 | 8  | 16 | 4  | 12 |    |    |    |
| 20               | 1     | 9  | 17 | 5  | 13 |    | 7  | 15 |    | 3    | 11 | 19 | 2  | 10 | 18 | 6  | 14 | 8  | 16 | 4  | 12 | 20 |    |    |
| 21               | 1     | 9  | 17 | 5  | 13 | 21 | 7  | 15 |    | 3    | 11 | 19 | 2  | 10 | 18 | 6  | 14 | 8  | 16 | 4  | 12 | 20 |    |    |
| 22               | 1     | 9  | 17 | 5  | 13 | 21 | 7  | 15 |    | 3    | 11 | 19 | 2  | 10 | 18 | 6  | 14 | 22 | 8  | 16 | 4  | 12 | 20 |    |
| 23               | 1     | 9  | 17 | 5  | 13 | 21 | 7  | 15 | 23 | 3    | 11 | 19 | 2  | 10 | 18 | 6  | 14 | 22 | 8  | 16 | 4  | 12 | 20 |    |
| 24               | 1     | 9  | 17 | 5  | 13 | 21 | 7  | 15 | 23 | 3    | 11 | 19 | 2  | 10 | 18 | 6  | 14 | 22 | 8  | 16 | 24 | 4  | 12 | 20 |

### 10.1.1.3 ミラーチャネルおよびパフォーマンスマード

| CPU              | CPU 1           |    |    |    |    |    |    |    |    | CPU2 |    |    |    |    |    |    |    |    | G  |    |    |    |    |    |
|------------------|-----------------|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| channel          | A               |    |    | B  |    |    | D  |    |    | C    |    |    | E  |    |    | F  |    |    | H  |    |    |    |    |    |
| DIMM             | 1A              | 2A | 3A | 1B | 2B | 3B | 1D | 2D | 3D | 1C   | 2C | 3C | 1E | 2E | 3E | 1F | 2F | 3F | 1H | 2H | 3H | 1G | 2G | 3G |
| #                | 1 CPU populated |    |    |    |    |    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 4                | 1               | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1    | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  |    |    |
| 8                | 1               | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1    | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  |    |    |
| 12               | 1               | 1  | 2  | 3  | 1  | 1  | 2  | 3  | 1  | 1    | 2  | 3  | 1  | 1  | 2  | 3  | 1  | 1  | 2  | 3  | 1  | 1  |    |    |
| 1 CPU populated  |                 |    |    |    |    |    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 8                | 1               | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1    | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  | 1  | 2  | 1  |    |    |
| 12               | 1               | 1  | 3  | 1  | 1  | 3  | 1  | 1  | 3  | 1    | 1  | 3  | 1  | 1  | 3  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  |    |    |
| 16               | 1               | 1  | 3  | 1  | 1  | 3  | 1  | 1  | 3  | 1    | 1  | 3  | 1  | 1  | 3  | 2  | 4  | 2  | 4  | 2  | 4  | 2  |    |    |
| 20               | 1               | 1  | 3  | 5  | 1  | 1  | 3  | 9  | 1  | 1    | 3  | 5  | 1  | 1  | 3  | 5  | 2  | 4  | 2  | 4  | 2  | 4  |    |    |
| 24               | 1               | 1  | 3  | 5  | 1  | 1  | 3  | 9  | 1  | 1    | 3  | 5  | 1  | 1  | 3  | 5  | 2  | 4  | 6  | 2  | 4  | 6  |    |    |
| 2 CPUs populated |                 |    |    |    |    |    |    |    |    |      |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |

#### ミラーチャネルおよびパフォーマンスマードの注意事項

- メモリモジュールは、必ず4の倍数個取り付けてください。
- 同じ番号は、同じモジュール（容量、ランク）です。

## メインメモリ

### 10.1.1.4 ランクスペアリングモード

#### シングル / デュアルランク RDIMM

| CPU  | CPU 1 |    |    |    |    |    |    |    | CPU 2 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|--|-------|----|----|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| Channel  | A     |    | B  |    | D  |    | C  |    | E     |    | F  |    | H  |    | G  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| DIMM   | 1A    | 2A | 3A | 1B | 2B | 3B | 1D | 2D | 3D    | 1C | 2C | 3C | 1E | 2E | 3E | 1F | 2F | 3F | 1H | 2H | 3H | 1G | 2G | 3G |
| # DIMMs  |       |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 2  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 3  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 4  | 1     | 1  |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 5  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 6  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 7  | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 8  | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 9  | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 10   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1     |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 11   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 12   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |
| # DIMMs  |       |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| Dual CPU configuration (if all modules are of the same capacity) |       |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 4  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 5  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 6  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 7  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 8  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 9  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 10   | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |    |
| 11   | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |
| 12   | 1     | 1  | 1  |    |    |    |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |
| 13   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 14   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 15   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 16   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 17   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 18   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |       |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 19   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 20   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 21   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 22   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 23   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 24   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    |    |

| CPU  | CPU 1 |    |    |    |    |    | CPU | CPU 2 |    |    |    |    |      |    |  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
|--|-------|----|----|----|----|----|-----|-------|----|----|----|----|------|----|--|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| Ch.  | A     |    | B  |    | D  |    | C   | Ch.   | E  |    | F  |    | H    | G  |  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
| DIMM   | 1A    | 2A | 3A | 1B | 2B | 3B | 1D  | 2D    | 3D | 1C | 2C | 3C | DIMM | 1E | 2E   | 3E | 1F | 2F | 3F | 1H | 2H | 3H | 1G | 2G | 3G |   |
| # Dual CPU configuration<br>(if modules are of different capacities) |       |    |    |    |    |    |     |       |    |    |    |    |      |    | # Dual CPU configuration<br>(if modules are of different capacities) |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
| 2  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |     |       |    | 1  | 1  |    |      |    | 2  | 2  | 2  |    |    |    |    |    |    |    |    |   |
| 3  | 1     | 1  | 1  | 1  |    |    |     |       |    |    |    |    |      |    | 3  | 2  | 2  | 2  |    |    |    |    |    |    |    |   |
| 4  | 1     | 1  | 1  |    |    |    |     |       |    | 1  | 1  |    |      |    | 4  | 2  | 2  |    |    |    |    |    |    | 2  | 2  |   |
| 5  | 1     | 1  | 1  | 1  |    |    |     |       |    | 1  | 1  |    |      |    | 5  | 2  | 2  | 2  |    |    |    |    |    | 2  | 2  |   |
| 6  | 1     | 1  | 1  | 1  |    |    |     |       |    | 1  | 1  | 1  | 6    |    | 6  | 2  | 2  | 2  |    |    |    |    |    | 2  | 2  | 2 |
| 7  | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |     |       |    | 1  | 1  |    |      |    | 7  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  |    |    |    | 2  | 2  |   |
| 8  | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |     |       |    | 1  | 1  | 1  | 8    |    | 8  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  |    |    |    | 2  | 2  | 2 |
| 9  | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1   |       |    | 1  | 1  | 1  | 9    |    | 9  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  |    |    | 2  | 2  | 2 |
| 10   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 10   |    | 10   | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2 |
| 11   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 11   |    | 11   | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2 |
| 12   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1   | 1     | 1  | 1  | 1  | 1  | 12   |    | 12   | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 2 |



取り付け規則の詳細は、[357 ページ の「ランクスペアリングモードの注意事項」](#)の項を参照してください。

## クアッドランク RDIMM

| CPU     | CPU 1  |    |    |    |    |    |    |    | CPU 2 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|---------|--|----|----|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| Channel | A  |    | B  |    | D  |    | C  |    | E     |    | F  |    | H  |    | G  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| DIMM    | 1A   | 2A | 3A | 1B | 2B | 3B | 1D | 2D | 3D    | 1C | 2C | 3C | 1E | 2E | 3E | 1F | 2F | 3F | 1H | 2H | 3H | 1G | 2G | 3G |
| # DIMMs | Mono CPU configuration   |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 1       | 1  |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 2       | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 3       | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 4       | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 5       | 1  | 1  |    |    | 1  |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 6       | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 7       | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    | 1  |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 8       | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 9       | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 10      | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 11      | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 12      | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| # DIMMs | Dual CPU configuration (if all modules are of the same capacity) |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 2       | 1  |    |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 3       | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    | 1  |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 4       | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |    |
| 5       | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |
| 6       | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |
| 7       | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    | 1  |    |    |    |
| 8       | 1  | 1  |    |    |    |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |
| 9       | 1  | 1  |    |    | 1  |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |
| 10      | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |
| 11      | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |
| 12      | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |
| 13      | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    | 1  |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |
| 14      | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    | 1  |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |
| 15      | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    | 1  |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |
| 16      | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    | 1  |       |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    |    | 1  | 1  |    |    |
| 17      | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 18      | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 19      | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 20      | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 21      | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 22      | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 23      | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1  | 1  |    |    |
| 24      | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1     |    |    |    |    |    |    | 1  | 1  | 1  |    | 1  | 1  | 1  |    |    |

| CPU  | CPU 1  |                |                |                |      |                | CPU            | CPU 2  |                |   |   |   |   |
|------|--|----------------|----------------|----------------|------|----------------|----------------|--|----------------|---|---|---|---|
|      | Ch.  | A              | B              | D              | C    | Ch.            | E              | F  | H              | G |   |   |   |
| DIMM | 1A<br>2A<br>3A   | 1B<br>2B<br>3B | 1D<br>2D<br>3D | 1C<br>2C<br>3C | DIMM | 1E<br>2E<br>3E | 1F<br>2F<br>3F | 1H<br>2H<br>3H   | 1G<br>2G<br>3G |   |   |   |   |
| #    | Dual CPU configuration<br>(if modules are of different capacities) |                |                |                |      |                | #              | Dual CPU configuration<br>(if modules are of different capacities) |                |   |   |   |   |
| 1    | 1  |                |                |                |      |                | 1              | 2  |                |   |   |   |   |
| 2    | 1  | 1              |                |                |      |                | 2              | 2  | 2              |   |   |   |   |
| 3    | 1  | 1              |                |                |      | 1              | 3              | 2  | 2              |   |   |   | 2 |
| 4    | 1  | 1              |                |                |      | 1              | 1              | 4  | 2              | 2 |   |   | 2 |
| 5    | 1  | 1              |                | 1              |      | 1              | 1              | 5  | 2              | 2 | 2 |   | 2 |
| 6    | 1  | 1              |                | 1              | 1    |                | 1              | 6  | 2              | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 7    | 1  | 1              |                | 1              | 1    | 1              | 1              | 7  | 2              | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 8    | 1  | 1              |                | 1              | 1    | 1              | 1              | 8  | 2              | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 9    | 1  | 1              | 1              | 1              | 1    | 1              | 1              | 9  | 2              | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 10   | 1  | 1              | 1              | 1              | 1    | 1              | 1              | 10   | 2              | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 11   | 1  | 1              | 1              | 1              | 1    | 1              | 1              | 11   | 2              | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 12   | 1  | 1              | 1              | 1              | 1    | 1              | 1              | 12   | 2              | 2 | 2 | 2 | 2 |

### ランクスペアリングモードの注意事項

- 同じ番号は、同じモジュール（容量、ランク）です。
- シングル / デュアルランクメモリ構成の場合、少なくとも 1R または 2R モジュールを各チャネルに取り付ける必要があります。
- クアッドランクメモリモジュールの場合は、次の点にご注意ください。パフォーマンス上の理由から、必ず新しいチャネルを取り付けてから、チャネルの 3 つ目のメモリスロット取り付けてください。
- 1 つの CPU に対して 1 つのメモリモジュール容量のみ有効です。

2 つの異なるメモリモジュール容量をランクスペアリングモード用に注文した場合は、各 CPU が 1 つの容量のモジュールで構成されるように、別々の CPU に取り付けます。

例:

12 モジュール（8 x 4 GB および 4 x 8 GB）を注文したとします。  
この場合、次の手順に従います。

- ▶ CPU 1 に複数のメモリモジュールの容量グループを使用し、モノ CPU 構成の取り付け順序に従って、それらを取り付けます。
- ▶ 1 つの CPU 構成の取り付け規則に従って、CPU 2 にもう 1 つの容量グループを取り付けます。

## メインメモリ

- 冷却要件を満たすために、プロセッサの左右交互にメモリを搭載します。

| 順序 | CPU 1  | CPU 2  |
|----|--------|--------|
| 1  | チャネル A | チャネル E |
| 2  | チャネル C | チャネル G |
| 3  | チャネル B | チャネル F |
| 4  | チャネル D | チャネル H |

## 10.2 メモリモジュールの取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要

### 10.2.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」。
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」

## 10.2.2 メモリモジュールを取り付ける

- ▶ 350 ページの「メモリの取り付け順序」の項に記載されている取り付け順序に従って、正しいメモリスロットを識別します。

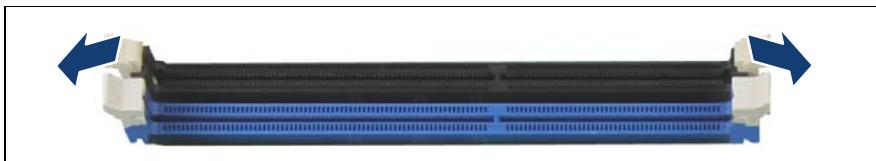


図 256: メモリモジュールの取り付け (A)

- ▶ メモリスロットの両端の固定クリップを押します。

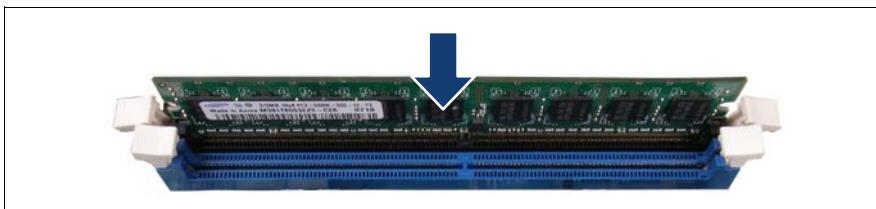


図 257: メモリモジュールの取り付け (B)

- ▶ モジュールの下部のノッチをスロットのクロスバーにそろえます。
- ▶ 固定クリップがモジュールの両端の切れ込みにカチッと音がして留まるまで、メモリモジュールを押し下げます。

## 10.2.3 終了手順

- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 該当する場合、115 ページの「システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ」
- ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」

## メインメモリ

- ▶ 該当する場合、128 ページ の「メモリモードの確認」
- ▶ 132 ページ の「BitLocker 機能の再開」

### 10.3 メモリモジュールの取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要

#### 10.3.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」

#### 10.3.2 メモリモジュールの取り外し

- ▶ 目的のメモリスロットを特定します（350 ページ の「メモリの取り付け順序」の項を参照）。
- ▶ 必要に応じて90ページの「ファンホルダの取り外し」を実施してください。



注意！

メモリモジュールを取り外す場合は、動作可能な構成を保持してください。詳細は、350 ページ の「基本情報」の項を参照してください。

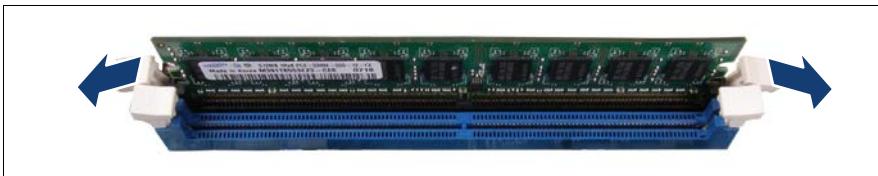


図 258: メモリモジュールの取り外し (A)

- ▶ メモリモスロットの両端の固定クリップを押して、目的のメモリモジュールをイジェクトします。

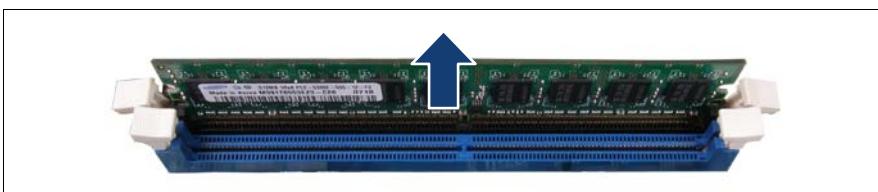


図 259: メモリモジュールの取り外し (B)

- ▶ イジェクトしたメモリモジュールを取り外します。

### 10.3.3 終了手順

- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 該当する場合、115 ページ の「システムボード BIOS と iRMC のアップデータまたはリカバリ」
- ▶ 127 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページ の「BitLocker 機能の再開」

## 10.4 メモリモジュールの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具 : 工具不要

### 10.4.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は : サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 55 ページ の「故障した部品の特定」

#### 10.4.2 故障したメモリモジュールの取り外し

- ▶ 360 ページ の「メモリモジュールの取り外し」

#### 10.4.3 新しいメモリモジュールの取り付け

- ▶ 358 ページ の「メモリモジュールの取り付け」

#### 10.4.4 終了手順

- ▶ 必要に応じて91ページの「ファンホルダの取り付け」を実施してください。
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 128 ページ の「メモリモードの確認」
- ▶ 127 ページ の「交換した部品のシステム BIOS での有効化」
- ▶ 該当する場合、115 ページ の「システムボード BIOS と iRMC のアップデータートまたはリカバリ」
- ▶ 122 ページ の「メモリモジュールまたはプロセッサの交換後のエラーステータスのリセット」
- ▶ 127 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページ の「BitLocker 機能の再開」



---

# 11 プロセッサ (CPU)

## 安全上の注意事項



### 注意！

- サポートしていないプロセッサは取り付けないでください。サポートしているプロセッサの詳細は、[366 ページ の「基本情報」](#)の項を参照してください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス(ESD)を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、金属部分またはふちを持つようにしてください。
- プロセッサの取り外しまたは取り付け時には、プロセッサ・ソケットのスプリングコンタクトに触れたり曲げたりしないように注意してください。
- プロセッサの下側には絶対に触れないでください。指の油分などのわずかな汚れでも、プロセッサの動作に悪影響を及ぼしたり、プロセッサを破損させる可能性があります。
- 詳細は、[41 ページ の「注意事項」](#)の章を参照してください。

## 11.1 基本情報

システムボード D3289 は、インテル Xeon プロセッサのために 2 つのソケットを提供します。

### 11.1.1 サポートするプロセッサ

- インテル Xeon E5-26nnV4 プロセッサシリーズ CPU
- ソケットタイプ : LGA 2011 パッケージ
- 热設計電力 (TDP) クラス : 最大 145 W

### 11.1.2 プロセッサ位置

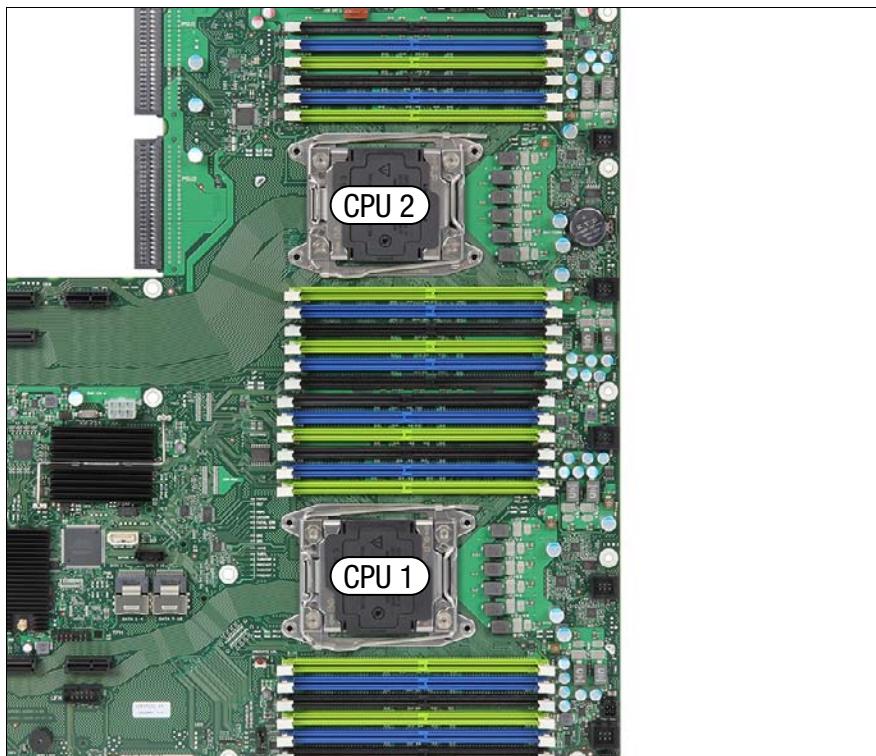


図 260: システムボード 上の CPU の位置

## 11.2 プロセッサの取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 20 分

- 工具:
- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
  - ナットドライバのサイズは 6mm



### 注意！

プロセッサは静電気に非常に弱いため、慎重に扱う必要があります。プロセッサを保護スリーブまたはソケットから取り外した後は、導電性がなく帯電を防止できる場所に上下逆さに置いてください。プロセッサを押し付けないようにしてください。

### 11.2.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」

### 11.2.2 システム送風ダクトの準備



この説明は、次の手順にのみ当てはまります。

- モノプロセッサ(CPU)構成への2つ目のCPUの取り付け

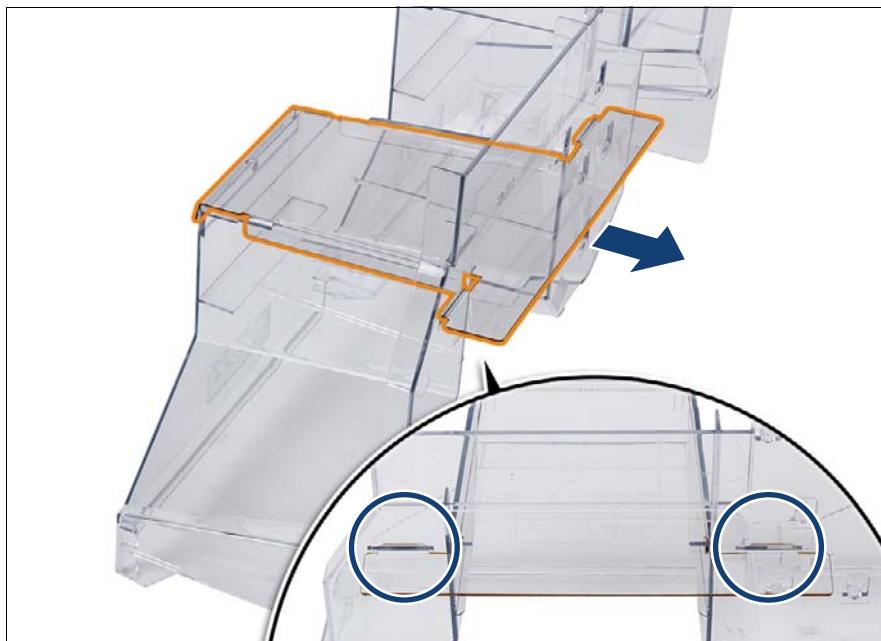


図 261: エアシールドの取り外し (A)

- ▶ エアシールドを、外れるまで矢印の方向に押します（丸で囲んだ部分）。



図 262: エアシールドの取り外し (B)

- ▶ エアシールドを少し傾けて外します。

### 11.2.3 プロセッサの取り付け



この説明は、次の手順に当てはまります。

- モノプロセッサ構成への2つ目のCPUの取り付け
- システムボード交換後のCPUの移動

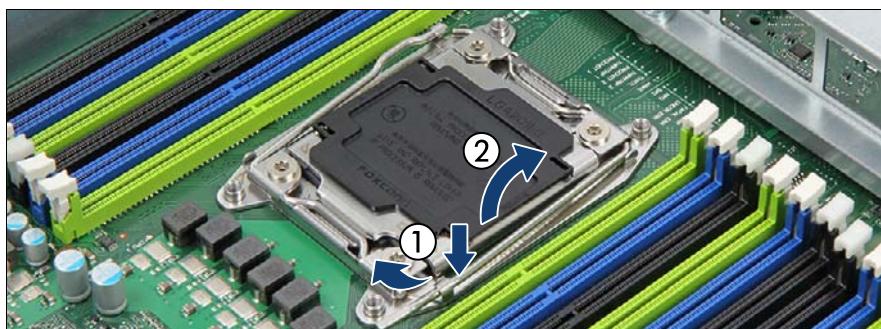


図 263: ソケットリリースレバーを開く（「Open 1st」の印付き）

- ▶ *Open 1st* と印の付いたソケットリリースレバーをソケット側に押し下げて、ラッチを外します（1）。
- ▶ ソケットリリースレバーが少し持ち上がります（2）。

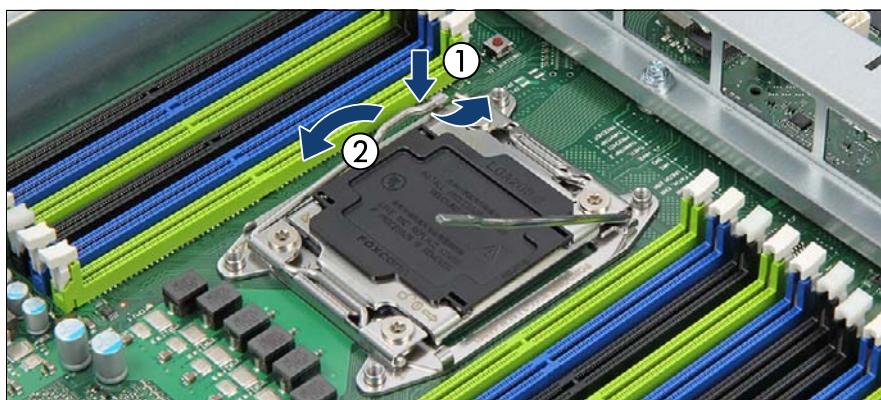


図 264: ソケットリリースレバーを開く（「Close 1st」の印付き）

- ▶ *Close 1st* と印の付いたソケットリリースレバーをソケット側に押し下げて、ラッチを外します（1）。
- ▶ ソケットリリースレバーが少し持ち上がります（2）。

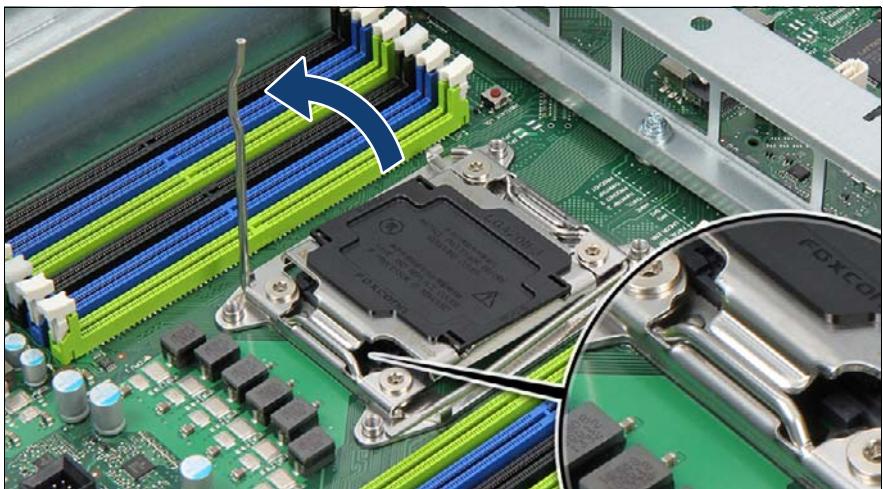


図 265: ロードプレートの解除

- ▶ *Close 1st* と印の付いたソケットリリースレバーを後ろに倒して、ロードプレートを外します（拡大された部分を参照）。
- ▶ ソケットリリースレバーを元の位置に戻します。

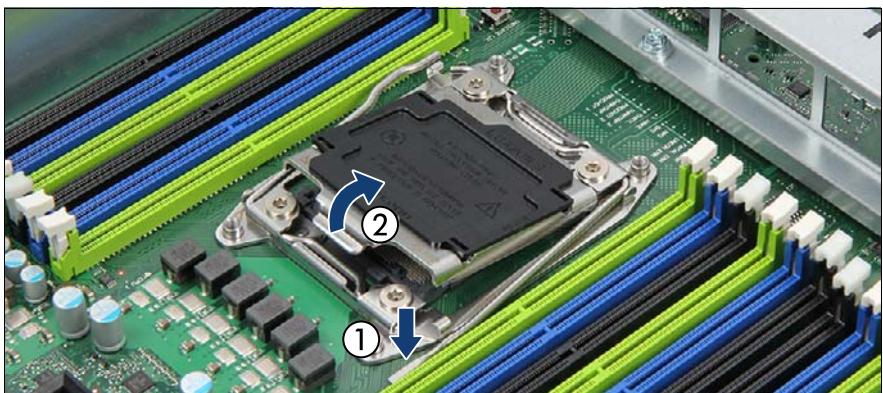


図 266: ロードプレートを開く (A)

- ▶ *Open 1st* と印の付いたソケットリリースレバーを押し下げる (1)、ロードプレートをソケットから持ち上げます (2)。



図 267: ロードプレートを開く (B)

- ▶ ロードプレートを完全に開く



**注意！**

プロセッサ・ソケットのスプリングコンタクトに触れたり曲げたりしないように注意してください！

- ▶ ロードプレートが完全に開いた位置にあるか確認します。

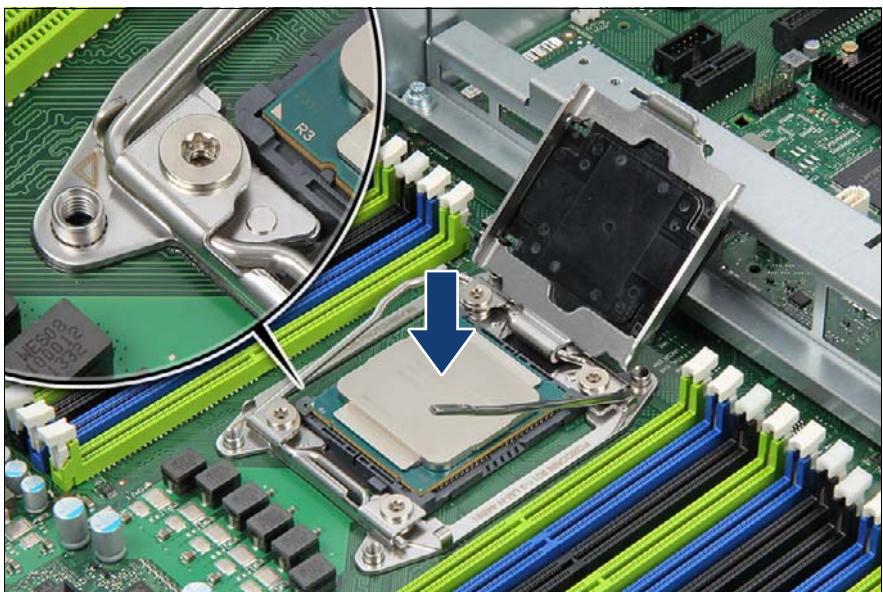


図 268: プロセッサを取り付ける

- ▶ プロセッサを指ではさんで持ちます。  
プロセッサの左下の端にある矢印に、CPU ソケットに刻印された登録マーク（小さな三角形）を揃えます（拡大された部分を参照）。
- ▶ 傾けたりずらしたりせずに、プロセッサを真っすぐにソケットに降ろします。



#### 注意！

- プロセッサがソケットに水平に取り付けられているかどうか確認します。
- プロセッサがソケットのピンに触れたり曲げないように注意してください。
- プロセッサの下側には絶対に触れないでください。指の油分などのわずかな汚れでも、プロセッサの動作に悪影響を及ぼしたり、プロセッサを破損させる可能性があります。
- プロセッサの縁を傷つけたり、へこませたりしないように注意してください。

## プロセッサ(CPU)



図 269: ロードプレートを閉じる (A)

- ▶ ロードプレートを慎重にプロセッサの上に降ろします。

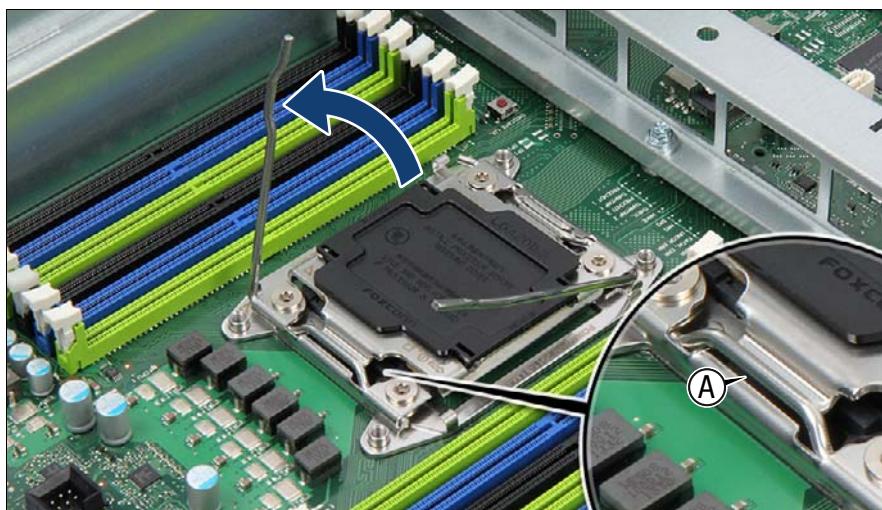


図 270: ロードプレートを閉じる (B)

- ▶ *Close 1st* と印の付いたソケットリリースレバーを後ろに倒して、レバー (A) のハンドルをロードプレートのラッチに引っかけます (拡大された部分を参照)。

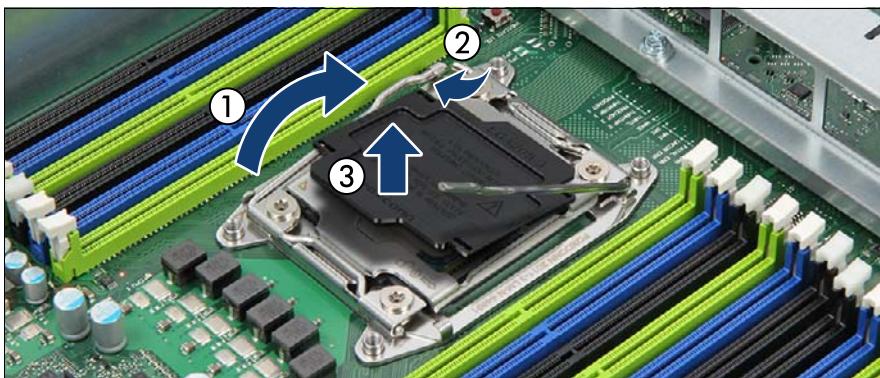


図 271: ソケットリリースレバーを閉じてソケット保護カバーを取り外す

- ▶ *Close 1st* と印の付いたソケットリリースレバーを閉じて (1) ロードプレート保持タブの下に掛け、ロードプレートをロックします (2)。
- ▶ ロードプレートを閉じると、ソケット保護カバーが自動的に外れます (3)。
- ▶ ソケットカバーを取り外し、今後使うかもしれないで、保管しておいてください。



### 注意！

プロセッサをソケットから取り外す場合は、必ずソケットカバーを取り外してください。

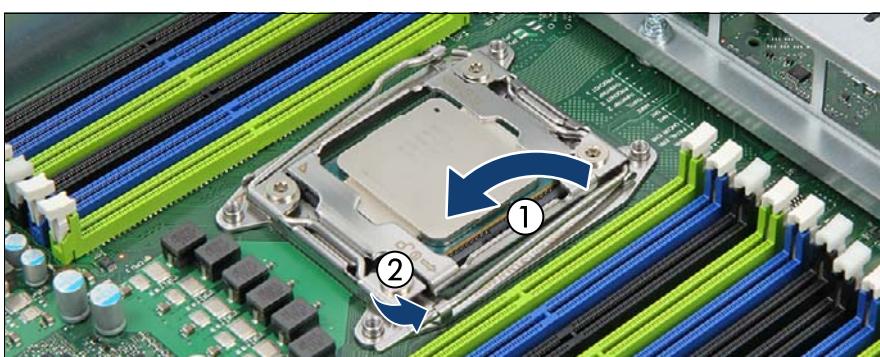


図 272: ソケットリリースレバーを閉じる（「Open 1st」の印付き）

- ▶ *Open 1st* と印の付いたソケットリリースレバーを閉じ (1)、ロードプレート保持タブの下に掛けます (2)。
- ▶ 必要に応じて、同様の手順で 2 つ目のプロセッサを取り付けます。

### 11.2.4 終了手順

- ▶ 385 ページの「プロセッサヒートシンクの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 外部のケーブルをすべて再び接続します。
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 必要に応じて、115 ページの「システムボード BIOS と iRMC のアップデータまたはリカバリ」
- ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」

## 11.3 プロセッサの取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 20 分

|             |   |
|-------------|---|
| <b>工具 :</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ</li><li>- ナットドライバのサイズは 6mm</li></ul> |
|-------------|---|



#### 注意 !

プロセッサは静電気に非常に弱いため、慎重に扱う必要があります。  
プロセッサを保護スリーブまたはソケットから取り外した後は、導電性がなく帯電を防止できる場所に上下逆さまに置いてください。プロセッサを押し付けないようにしてください。

### 11.3.1 準備手順

- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」

- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 387 ページ の「プロセッサヒートシンクの取り外し」

### 11.3.2 プロセッサの取り外し



この説明は、次の手順に当てはまります。

- デュアルプロセッサ構成から CPU 2 の取り外し
- CPU の故障したシステムボードからの取り外し
- ▶ 387 ページ の「プロセッサヒートシンクの取り外し」の項に記載されているように、目的のプロセッサヒートシンクを取り外します。

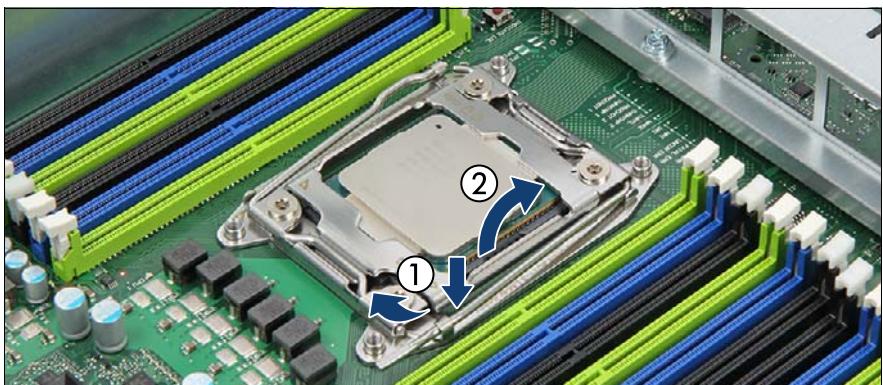


図 273: ソケットリリースレバーを開く（「Open 1st」の印付き）

- ▶ *Open 1st* と印の付いたソケットリリースレバーをソケット側に押し下げて、ラッチを外します（1）。
- ▶ ソケットリリースレバーが少し持ち上がります（2）。

## プロセッサ(CPU)

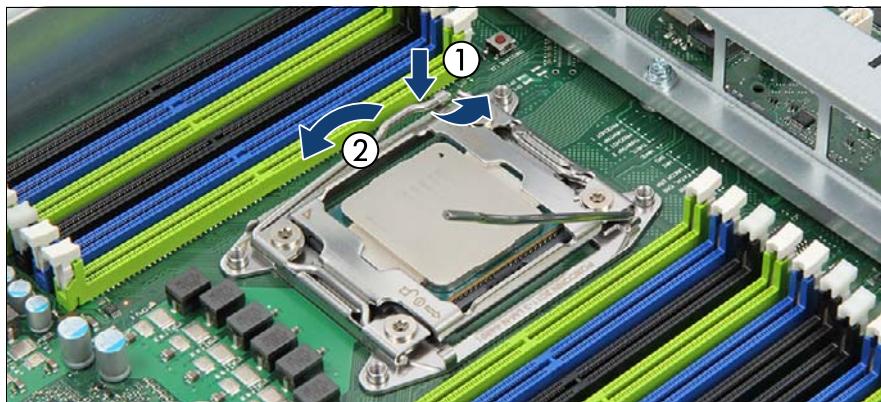


図 274: ソケットリリースレバーを開く（「Close 1st」の印付き）

- ▶ Close 1st と印の付いたソケットリリースレバーをソケット側に押し下げて、ラッチを外します（1）。
- ▶ ソケットリリースレバーが少し持ち上がります（2）。

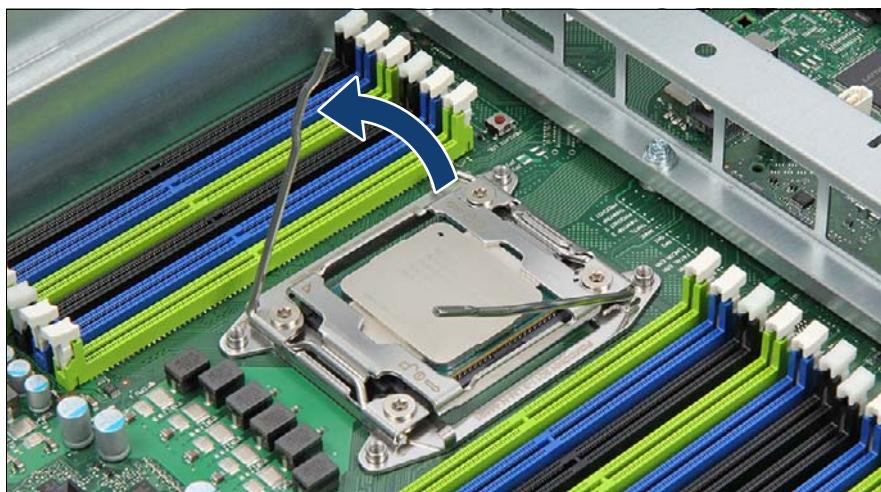


図 275: ロードプレートの解除

- ▶ Close 1st と印の付いたソケットリリースレバーを後ろに倒して、ロードプレートを外します。
- ▶ ソケットリリースレバーを元の位置に戻します。

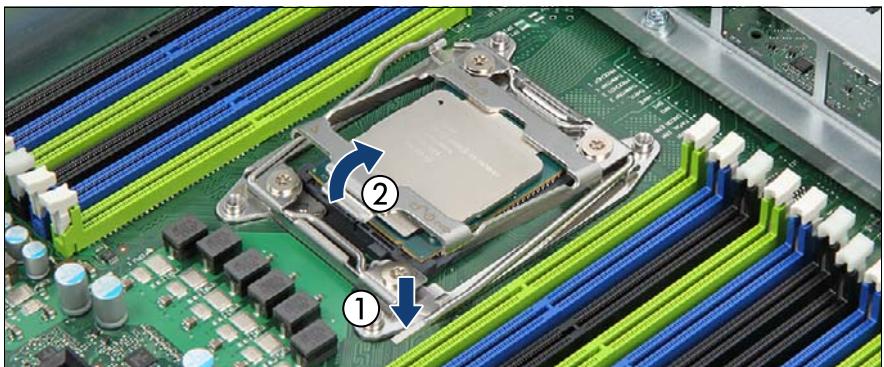


図 276: ロードプレートを開く

- ▶ *Open 1st* と印の付いたソケットリリースレバーを押し下げて（1）、ロードプレートをソケットから持ち上げます（2）。

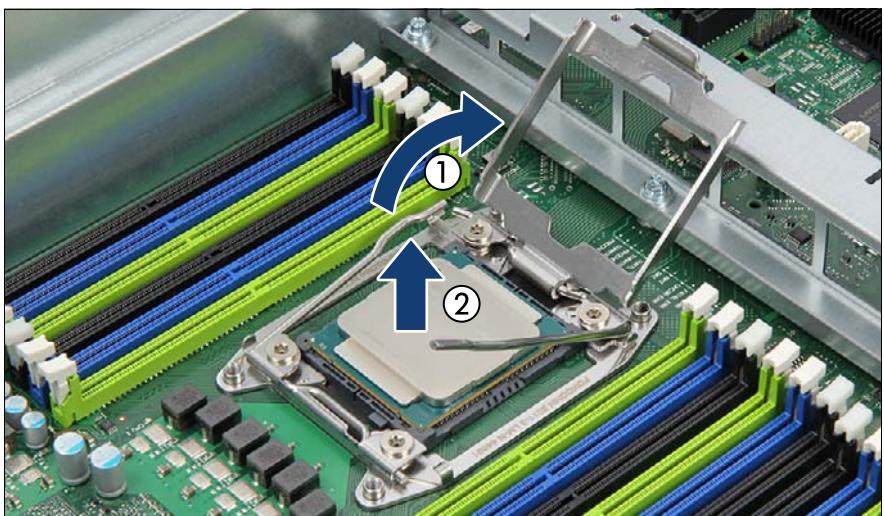


図 277: プロセッサの取り外し

- ▶ ロードプレートを完全に開きます（1）。ロードプレートが完全に開いた位置にあるか確認します。



**注意！**

プロセッサ・ソケットのスプリングコンタクトに触れたり曲げたりしないように注意してください！

- ▶ 故障したプロセッサをそのソケット（2）からゆっくりと垂直に取り外します。



### 注意！

プロセッサ・ソケットのスプリングコンタクトに触れたり曲げたりしないように注意してください。

- ▶ 糸くずの出ない布を使用して、プロセッサの表面に残っているサーマルペーストを完全に取り除きます。
- ▶ 後で使えるように、プロセッサを安全な場所に保管しておきます。



### 注意！

プロセッサは静電気に非常に弱いため、慎重に扱う必要があります。プロセッサを保護スリーブまたはソケットから取り外した後は、導電性がなく帯電を防止できる場所に上下逆さに置いてください。プロセッサを押し付けないようにしてください。

### 11.3.3 ソケットの保護カーバの取り付け

- ▶ ロードプレートを慎重にプロセッサソケットの上に降ろします（図 269 を参照）。
- ▶ *Close 1st* と印の付いたソケットリリースレバーを後ろに倒して、レバーのハンドルをロードプレートのラッチに引っかけます（図 270 を参照）。
- ▶ *Close 1st* と印の付いたソケットリリースレバーを閉じ、ロードプレート保持タブの下に掛けます（図 271 を参照）。
- ▶ *Open 1st* と印の付いたソケットリリースレバーを閉じ、ロードプレート保持タブの下に掛けます（図 272 を参照）。

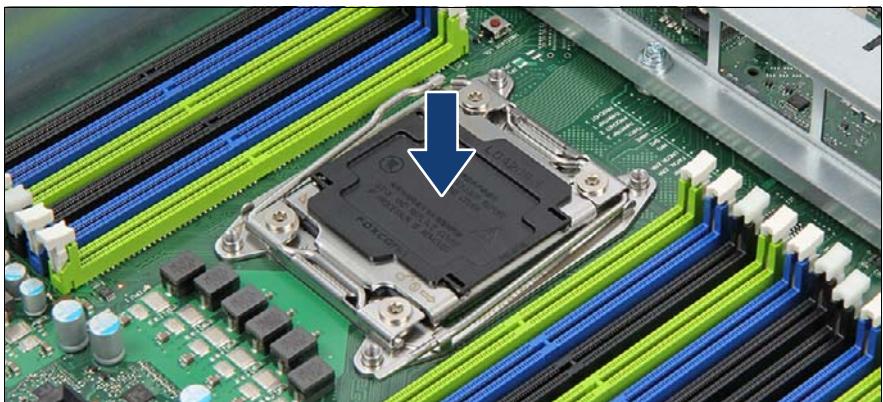


図 278: ソケットの保護カバーの取り付け

- ▶ ソケット保護カバーをロードプレートにはめ込みます。

#### 11.3.4 終了手順

- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 必要に応じて、115 ページ の「システムボード BIOS と iRMC のアップ  
デートまたはリカバリ」
- ▶ 127 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページ の「BitLocker 機能の再開」

## 11.4 プロセッサのアップグレードまたは交換



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間：20 分

- 工具：**
- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
  - ナットドライバのサイズは 6mm



### 注意！

プロセッサは静電気に非常に弱いため、慎重に扱う必要があります。プロセッサを保護スリーブまたはソケットから取り外した後は、導電性がなく帯電を防止できる場所に上下逆さに置いてください。プロセッサを押し付けないようにしてください。

### 11.4.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」(該当する場合)
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 387 ページ の「プロセッサヒートシンクの取り外し」

## 11.4.2 プロセッサのアップグレードまたは交換

### 11.4.2.1 プロセッサの取り外し

- ▶ 377 ページ の「プロセッサの取り外し」の項に記載されているように、プロセッサを取り外します。

### 11.4.2.2 プロセッサを取り付ける

- ▶ 370 ページ の「プロセッサの取り付け」の項に記載されているように、プロセッサを取り付けます。

## 11.4.3 終了手順

- ▶ 385 ページ の「プロセッサヒートシンクの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」



CPU の交換またはアップグレードの後にシステムの電源を入れると、保守ランプが点滅し、エラーメッセージ 「CPU has been changed」 が表示されます。これは、CPU 構成が変更されたことを示すだけで、技術的な問題はありません。

保守ランプをオフにするには、次の手順に従います。

- ▶ システムを再起動して、画面に出力が表示されるまで待ちます。
- ▶ [F2] ファンクションキーを押して BIOS に移行します。  
割り当てられている場合は、BIOS のパスワードを入力して [Enter] キーを押します。
- ▶ 「Save & Exit」メニューで、「Save Changes and Exit」または「Save Changes and Reset」を選択します。
- ▶ 保守ランプの点滅が停止したことを確認します。この情報は、CPU 構成が変更されたことを示すだけで、技術的な問題はありません。

## プロセッサ(CPU)

- ▶ 127 ページ の「交換した部品のシステム BIOS での有効化」
- ▶ 115 ページ の「システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ」
- ▶ 122 ページ の「メモリモジュールまたはプロセッサの交換後のエラーステータスのリセット」
- ▶ 127 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページ の「BitLocker 機能の再開」

## 11.5 プロセッサヒートシンクの取り扱い



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 15 分



フィールド交換可能ユニット  
(FRU) サーマルペーストが必要な場合

|             |   |
|-------------|---|
| <b>工具 :</b> | <ul style="list-style-type: none"><li>- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ</li><li>- ナットドライバのサイズは 6mm</li></ul> |
|-------------|---|

### 11.5.1 準備手順

- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は : サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」

## 11.5.2 プロセッサヒートシンクの取り付け

### 11.5.2.1 ヒートシンクとプロセッサの準備

新しいヒートシンクの取り付け時

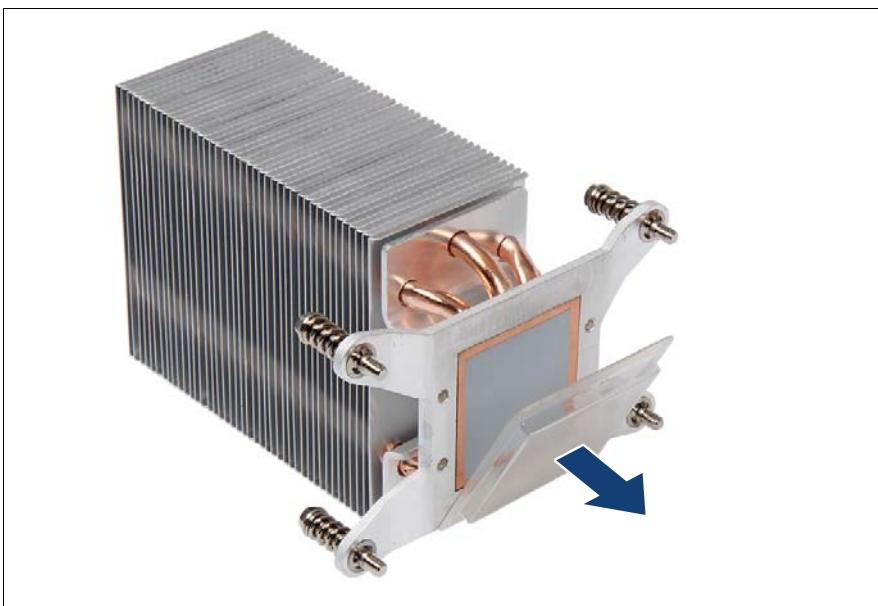


図 279: ヒートシンク保護カバーの取り外し

- ▶ ヒートシンクから、保護カバーを取り外します。



**注意！**

ヒートシンクの下側にあるサーマルペーストには触れないでください。

**ヒートシンクの再利用時**

- ▶ ヒートシンクの銅表面からサーマルペーストの残留物が完全に除去されていることを確認します。
- ▶ [389 ページ の「サーマルペーストの塗布」](#)の項に記載されるように、サーマルペーストをプロセッサの表面に塗布します。

### 11.5.2.2 ヒートシンクの取り付け

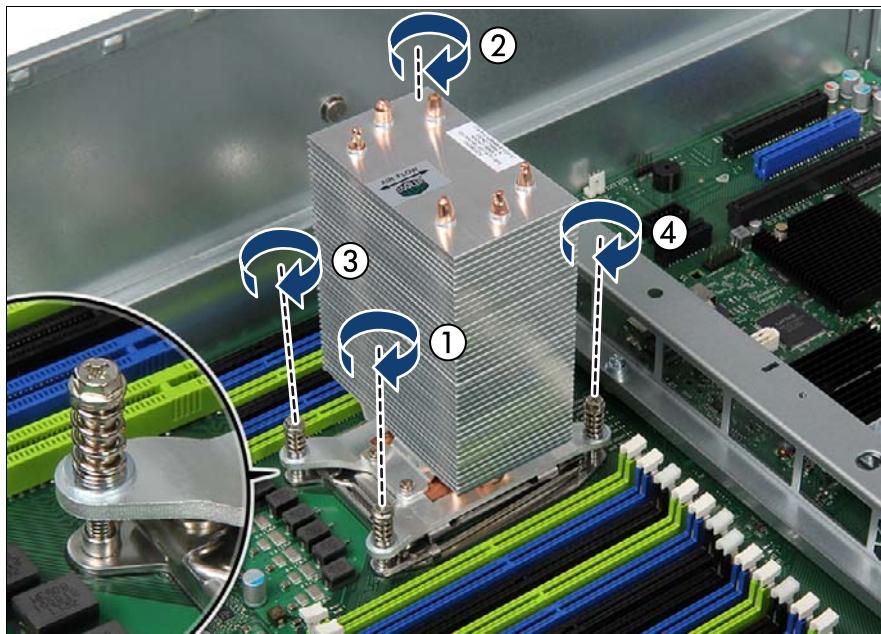


図 280: ヒートシンクの取り付け

- ▶ 図のように、ヒートシンクを 4 本のネジ穴に慎重に取り付けます（拡大された部分を参照）。
- 注意！**
  - ヒートシンクのネジがネジ穴に正しく取り付けられているかどうか確認します。
  - ヒートシンクの冷却フィンがエアフローの方向と一致しているかどうか確認します。
- ▶ ヒートシンクの 4 本のネジ（ナットドライバのサイズ : 6 mm、ネジのトルク : 1.0 Nm、日本市場には適用されない）を、対角線の順で締めます（1 ~ 4）。

### 11.5.3 プロセッサヒートシンクの取り外し

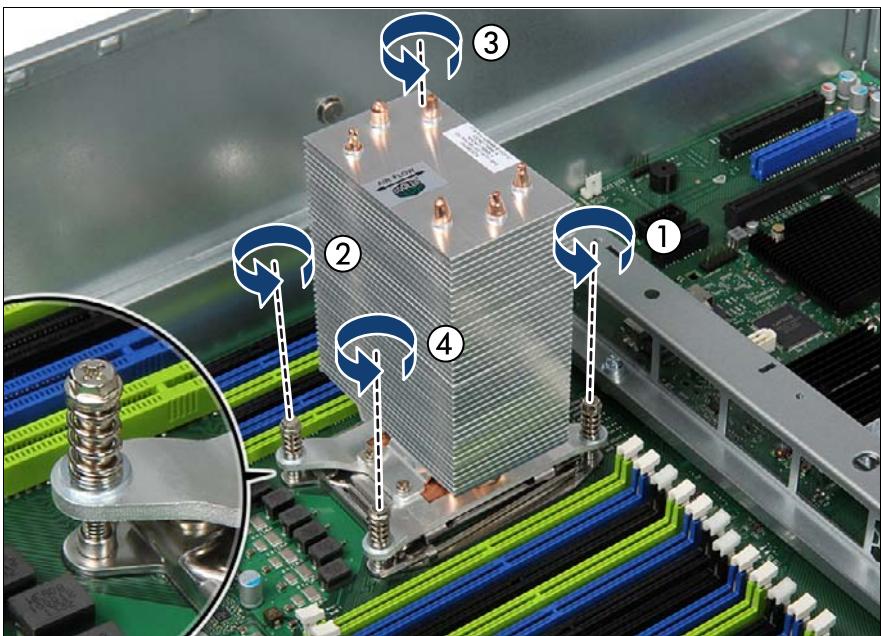


図 281: プロセッサヒートシンクの取り外し

- ▶ ヒートシンクの 4 本のネジを、対角線の順で緩めます (1-4)。
  - ▶ ヒートシンクをそっと左右にひねり、プロセッサから取り外します。
- i** この手順は、ヒートシンクとプロセッサとの間のサーマルペーストに粘着特性があるため必要です。
- 注意!**
- !** プロセッサソケット周辺のシステムボードのコンポーネントを破損しないように、特別な注意を払ってください。
- ▶ ヒートシンクをシャーシから持ち上げます。
  - ▶ 糸くずの出ない布を使用して、ヒートシンクおよびプロセッサの表面に残っているサーマルペーストを完全に取り除きます。

### 11.5.4 プロセッサヒートシンクの交換

#### 11.5.4.1 プロセッサヒートシンクの取り外し

- ▶ [387 ページ](#) の「プロセッサヒートシンクの取り外し」の項に記載されているように、プロセッサヒートシンクを取り外します。

#### 11.5.4.2 サーマルペーストの塗布

- ▶ [389 ページ](#) の「サーマルペーストの塗布」の項に記載されるように、サーマルペーストをプロセッサの表面に塗布します。

**i** プロセッサのアップグレードまたは交換キットに新しい CPU ヒートシンクが付属している場合はその下部の表面に、サーマルペーストがあらかじめ薄く塗布されています。この場合は、[388 ページ](#) の「プロセッサヒートシンクの取り付け」の項に進みます。

#### 11.5.4.3 プロセッサヒートシンクの取り付け

- ▶ [385 ページ](#) の「ヒートシンクとプロセッサの準備」および [386 ページ](#) の「ヒートシンクの取り付け」の項に記載されているように、プロセッサヒートシンクを取り付けます。

### 11.5.5 終了手順

- ▶ [89 ページ](#) の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ [71 ページ](#) の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [83 ページ](#) の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ [84 ページ](#) の「電源コードの接続」

## 11.6 サーマルペーストの塗布



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間：5 分

工具：工具不要



- 日本市場では、サービスエンジニアは別途指定する手順に従ってください。
- プロセッサのアップグレードまたは交換キットに新しいCPUヒートシンクが付属している場合はその下部の表面に、サーマルペーストがあらかじめ薄く塗布されています。この場合は、[385 ページ](#)の「プロセッサヒートシンクの取り付け」の項に進みます。

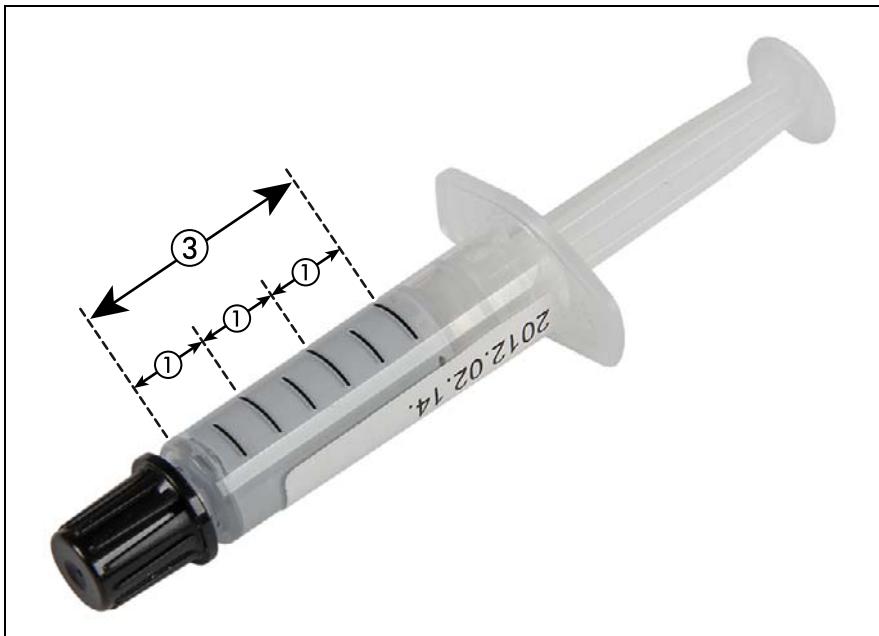


図 282: サーマルペーストの注射器 TC-5026

1 本のサーマルペーストの注射器 (A3C40142460 / 34035576) に、プロセッサ 3 個分のサーマルペーストが入っています。



図 283: サーマルペーストの塗布

- ▶ 図のように、少量のサーマルペーストをプロセッサの表面に塗布します。
  - i 注射器の 2 つの目盛り線が、プロセッサ 1 個分のサーマルペーストの適量と等しくなっています。
  - ! 注意！
    - タイプの異なるサーマルペーストを混ぜないでください。

---

# 12 アクセス可能なドライブ

## 安全上の注意事項



### 注意！

- アクセス可能なドライブを取り付ける前に、ドライブのユーザマニュアルを熟読してください。
- アクセス可能なドライブをサーバに挿入する際は、接続されているケーブルをはさんだり、引っ張ったりしないように注意してください。
- アクセス可能なドライブを取り付けるときは、ドライブの端を持ってください。ケースの上部に力を加えると、故障する場合があります。
- バックアップドライブを廃棄、輸送、返却する場合は、すべてのバックアップメディアがドライブから取り外されていることを確認してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、金属部分またはふちを持つようにしてください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス(ESD)を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- 安全上の注意事項に関する詳細は、41 ページの「注意事項」の章を参照してください。

## 12.1 基本情報

### アクセス可能なドライブペイ

PRIMERGY TX2560 M2 / RX2560 M2 サーバには、光ディスクドライブおよびバックアップドライブ用の 5.25 インチアクセス可能なドライブペイが 3 つあります。



図 284: アクセス可能なドライブの取り付け順序（タワーサーバ）



図 285: アクセス可能なドライブの取り付け順序（ラックサーバ）

## アクセス可能なドライブの取り付け順序

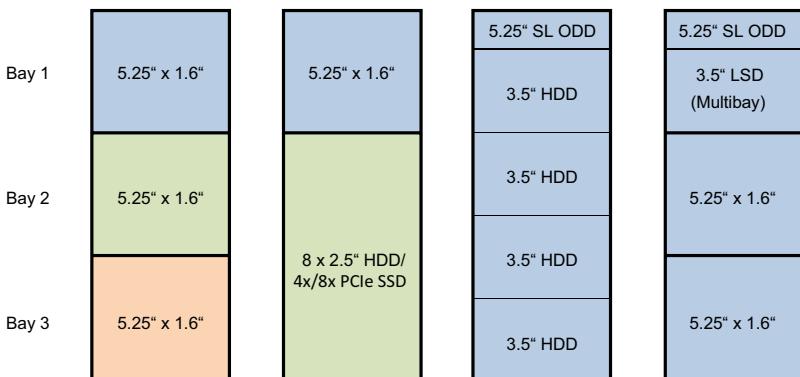


図 286: アクセス可能な設定

| 順序 | アクセス可能なドライブ                     | ドライブベイ                     | 最大 | 占有           | インターフェース             |
|----|---------------------------------|----------------------------|----|--------------|----------------------|
| 1  | 光ディスクドライブ<br>(フルハイト)            | ベイ 1                       | 1  | 1.6" x 5.25" | SATA                 |
| 1  | マルチベイの LSD                      |                            |    |              | I <sup>2</sup> C bus |
|    | マルチベイの<br>薄型 ODD                |                            | 1  | 1.6" x 5.25" | SATA                 |
| 2  | バックアップドライブ<br>LTO3 HH Ultrium   | ベイ 3<br>使用済みの場合はベイ 2 または 1 | 1  | 1.6" x 5.25" | SAS                  |
| 2  | バックアップドライブ<br>LTO4 HH SAS (BM)  |                            | 1  | 1.6" x 5.25" | SAS                  |
| 2  | バックアップドライブ<br>LTO5 HH Ultrium   |                            | 1  | 1.6" x 5.25" | SAS                  |
| 2  | バックアップドライブ<br>LTO6 HH SAS (BM)  |                            | 1  | 1.6" x 5.25" | SAS                  |
| 2  | バックアップドライブ<br>DDS Gen 6         |                            | 2  | 1.6" x 5.25" | USB 2.0              |
| 3  | バックアップドライブ<br>DDS Gen 5 / Gen 6 | ベイ 3<br>使用済みの場合はベイ 2 または 1 | 2  | 1.6" x 5.25" | USB 2.0              |

表 4: アクセス可能なドライブの取り付け順序

## アクセス可能なドライブ

| 順序 | アクセス可能なドライブ                       | ドライブベイ                     | 最大 | 占有           | インターフェース |
|----|-----------------------------------|----------------------------|----|--------------|----------|
| 4  | RDX バックアップドライブ                    | ベイ 3<br>使用済みの場合はベイ 2 または 1 | 1  | 1.6" x 5.25" | USB 2.0  |
|    |                                   |                            |    |              | USB 3.0  |
| 5  | 8 x 2.5 インチ HDD 拡張ボックス            | ベイ 2 + 3                   | 1  | 3.2" x 5.25" | SAS      |
| 5  | 8 x 2.5 インチ PCIe SSD 拡張ボックス       | ベイ 2 + 3                   | 1  | 3.2" x 5.25" | PCIe     |
| 5  | 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックス             | ベイ 1+2+3                   | 1  | 4.8" x 5.25" | SAS      |
|    | 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスのウルトラスリム ODD |                            |    |              | SATA     |

表 4: アクセス可能なドライブの取り付け順序

## 12.2 アクセス可能なドライブの取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具: マイナスドライバ (アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため)

### 12.2.1 準備手順

- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
  - ▶ **i** フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外す際にのみ、取り外す必要があります。
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」
- ▶ 該当する場合、95 ページ の「ライザーモジュールの取り外し」
- ▶ 該当する場合は、298 ページ の「標準スロットからの拡張カードの取り外し」の項に記載されているようにスロット 1 の拡張カードを取り外します。

### 12.2.2 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し

- ▶ 101 ページ の「アクセス可能なドライブのフィラーカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブフィラーカバーを必要なベイから取り外します。
- ▶ 103 ページ の「アクセス可能なドライブのカバー」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブカバーを取り外します。

### 12.2.3 RDX および DAT72 バックアップドライブへの取り付け 付けブラケットの取り付け

この項は、日本市場の場合は該当しません。

バックアップドライブの取り付けブラケットは、取り付けキット S26361-F3753-E1 (バックアップドライブとは別途注文) に付属しています。

**i** 修理中のバックアップドライブの交換時に使用できる新しい取り付け  
ブラケットはありません。

- ▶ 必要に応じて、既存の取り付けブラケットをバックアップドライブから取  
り外してください。



図 287: バックアップドライブの取り付けブラケット

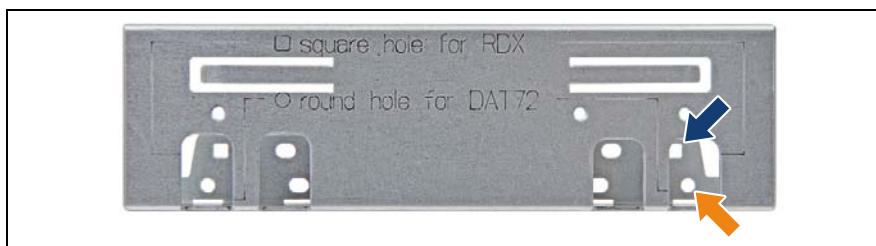


図 288: バックアップドライブの取り付けブラケットのネジ穴

- ▶ 右側の穴の取り付けブラケットに刻印されたネジ穴の説明を確認してくだ  
さい。
  - ▶ RDX バックアップドライブには、角形のネジ穴を使用します（青色の  
矢印を参照）。
  - ▶ DAT72 バックアップドライブには、丸形のネジ穴を使用します（オレ  
ンジ色の矢印を参照）。



図 289: 取り付けブラケットの RDX バックアップドライブへの固定

- ▶ 図に示すように、バックアップドライブの取り付けブラケットを RDX バックアップドライブに、ブラケット 1 枚を 2 本のネジで固定します。



図 290: 取り付けブラケットの DAT72 バックアップドライブへの固定

- ▶ 図に示すように、バックアップドライブの取り付けブラケットを DAT72 バックアップドライブに、ブラケット 1 枚を 2 本のネジで固定します。

### 12.2.4 アクセス可能なドライブの取り付け



図 291: 右側の取り付けブラケット

- ▶ HDD 拡張ボックスを取り付けるため、目的のアクセス可能なドライブベイにある 4 つの取り付けブラケットが曲がっていないことを確認します。必要に応じて、取り付けブラケットを元の位置に曲げます（拡大された部分を参照）。
- ▶ [97 ページの「アクセス可能なドライブのロックを開く」](#) の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。



図 292: アクセス可能なドライブの取り付け

- ▶ アクセス可能なドライブを取り付けベイに差し込み、フロントパネルに挿すまでゆっくり押し込みます。

**注意！**

LTO ドライブを取り付ける場合、LTO ドライブをベイに押し込むときに、アクセス可能なドライブケージの背後で配線される電源ケーブルが引っ張られていないことを確認してください。

- ▶ [99 ページ の「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」](#) の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

## アクセス可能なドライブ

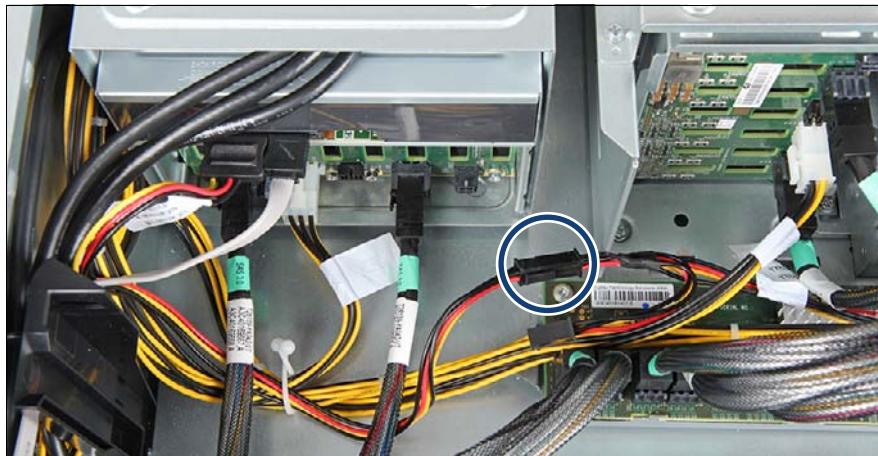


図 293: 例 : ODD 電源ケーブルの接続

- ▶ 電源ケーブル C25 を電源ケーブル C8 の空いているコネクタに接続します。

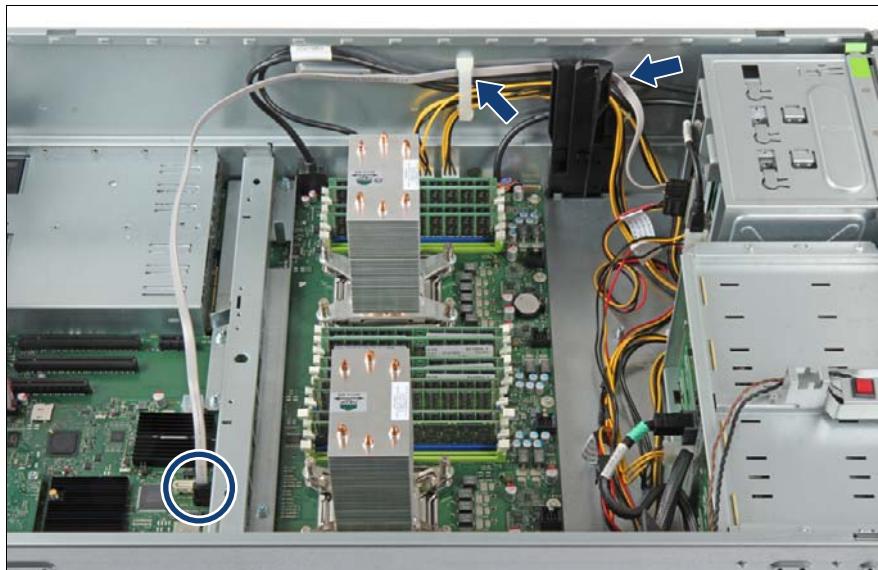


図 294: ODD SATA ケーブルの配線例

- ▶ システムボードコネクタ SATA 5 に SATA ケーブル C3 を接続します  
(512 ページの「ケーブル図」の項を参照)。

### 12.2.5 終了手順

- ▶ 該当する場合は、293 ページの「標準スロットの拡張カードの取り付け」の項に記載されているようにスロット 1 に拡張カードを取り付けます。
- ▶ 該当する場合、92 ページの「ライザーモジュールの取り付け」
- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合、120 ページの「バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定」

## 12.3 アクセス可能なドライブの取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具： 工具不要

### 12.3.1 準備手順

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 110 ページの「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 111 ページの「バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 59 ページの「サーバをラックから引き出す」

## アクセス可能なドライブ

### ▶ 62 ページの「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り付け際にのみ、取り外す必要があります。アクセス可能なドライブを取り外した後に交換する場合は、フロントカバーは取り付けたままにしてください。

### ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」

### ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

## 12.3.2 アクセス可能なドライブの取り外し

### ▶ アクセス可能なドライブからすべてのケーブルを取り外します。

### ▶ 97 ページの「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。



図 295: アクセス可能なドライブの取り外し

### ▶ アクセス可能なドライブを慎重に取り付けベイから取り外します。

### ▶ 99 ページの「アクセス可能なドライブのロックを閉じる」の項に記載されているように、ロックを取り付けます。

## 12.3.3 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け

### ▶ 該当する場合は、101 ページの「アクセス可能なドライブのフィラーカバー」の項に記載されているようにアクセス可能なドライブフィラーカバーを取り付けます。

- ▶ 該当する場合は、103 ページの「アクセス可能なドライブのカバー」の項に記載されているようにアクセス可能なドライブカバーを取り付けます。

#### 12.3.4 終了手順

- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合、120 ページの「バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定」

### 12.4 アクセス可能なドライブの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 15 分

**工具:** マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため）

#### 12.4.1 準備手順

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 110 ページの「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 111 ページの「バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」

## アクセス可能なドライブ

---

- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
  - ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- i** フロントカバーの取り外しは、アクセス可能なドライブを交換する際には不要です。
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
  - ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

### 12.4.2 故障のあるアクセス可能なドライブの取り外し

- ▶ アクセス可能なドライブからすべてのケーブルを取り外します。
- ▶ 402 ページの「アクセス可能なドライブの取り外し」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブを取り外します。

### 12.4.3 新しいアクセス可能なドライブの取り付け

- ▶ 398 ページの「アクセス可能なドライブの取り付け」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブを取り付けます。
- ▶ 509 ページの「ケーブル配線」の項に記載されているように、すべてのケーブルを元のアクセス可能なドライブのコネクタに再び取り付けます。

### 12.4.4 終了手順

- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」 ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合、120 ページの「バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定」

## 12.5 マルチベイボックスの薄型 ODD と LSD

### 12.5.1 薄型 ODD または LSD の取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：10 分

- 工具：**
- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
  - マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用プラケットを曲げるため）

#### 12.5.1.1 準備手順

- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外す際にのみ、取り外す必要があります。マルチベイボックスがサーバに取り付け済みで、薄型 ODD または LSD モジュールを取り付けるために取り外される予定の場合は、この手順を省略します。

- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」
- ▶ 95 ページ の「ライザーモジュールの取り外し」（該当する場合）
- ▶ 411 ページ の「マルチベイボックスの取り外し」（該当する場合）

#### 12.5.1.2 薄型 ODD のマルチベイボックスへの取り付け

- ▶ ロックレバーを押し上げて、薄型 ODD ダミーモジュールを外します（図 305 を参照）。
- ▶ マルチベイモジュールの内側から、ODD ダミーモジュールを押してベイから引き出します。

## アクセス可能なドライブ

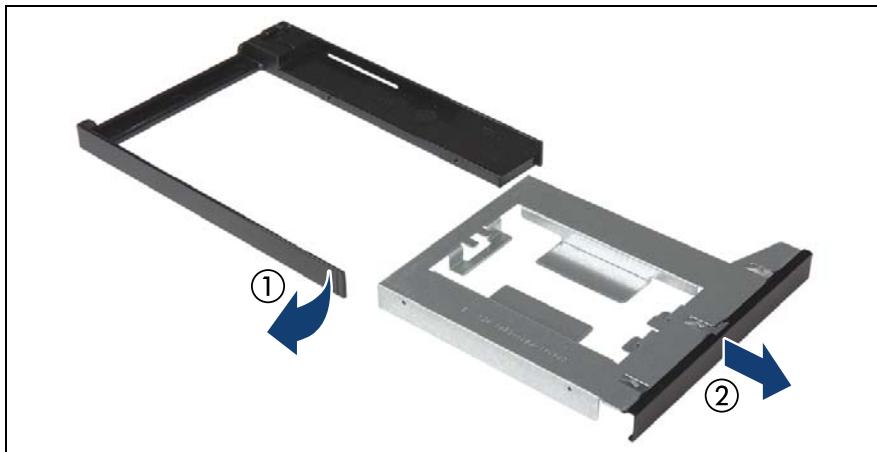


図 296: 薄型 ODD ダミーモジュールの分解

- ▶ 薄型 ODD ダミーを薄型 ODD 取り付けフレームから切り離し（1）、取り外します（2）。



図 297: 薄型 ODD の取り付けフレームへの取り付け

- ▶ 薄型 ODD を薄型 ODD 取り付けフレームに合わせます。
- ▶ フレームの 4 本のピン（丸で囲んだ部分）がドライブのネジ穴にはまっていることを確認します。
- ▶ ODD が取り付けフレームに図のように正しく取り付けられていることを確認します。



図 298: 薄型 ODD モジュールのマルチベイボックスへの取り付け

- ▶ 薄型 ODD モジュールをマルチベイボックスに挿入して (1)、ロックレバー (2) が固定されるまで押し込みます。



図 299: 薄型 ODD の取り付けフレームへの取り付け (B)

- ▶ SATA 電源ケーブル (1) と SATA ケーブル (2) を薄型 ODD に接続します。

## アクセス可能なドライブ

### 12.5.1.3 LSD モジュールのマルチベイボックスへの取り付け

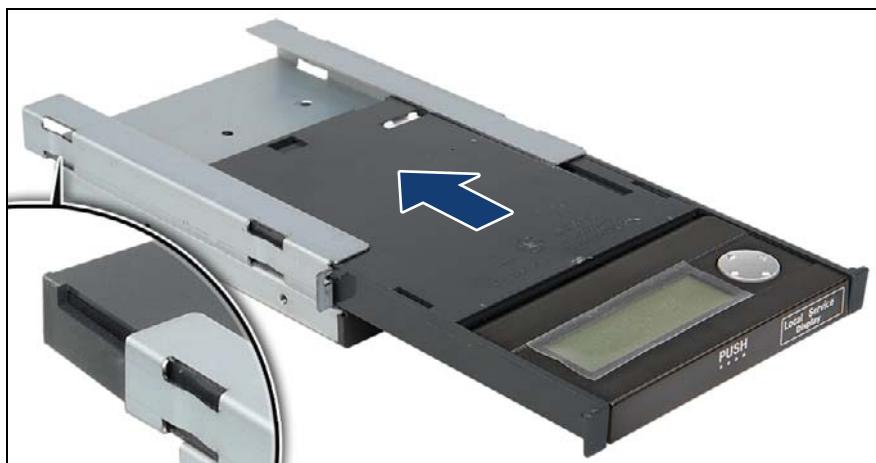


図 300: LSD モジュールの 3.5 インチ取り付けフレームへの挿入

- ▶ 前面から、LSD モジュールを 3.5 インチ取り付けフレームにロックイング ラッチがはまるまでスライドさせます（拡大部分を参照）。

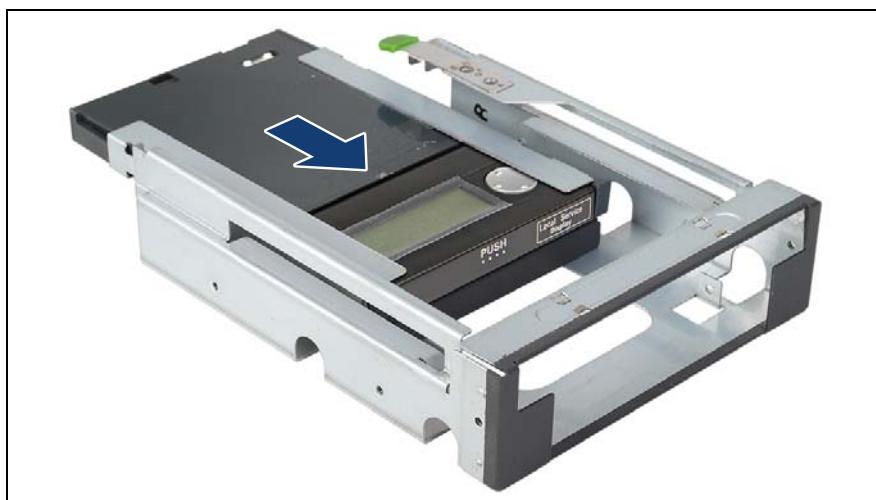


図 301: 3.5 インチ取り付けフレームのマルチベイボックスへの取り付け (A)

- ▶ 背面から、3.5 インチ取り付けフレームをマルチベイボックスにスライド させます。



図 302: 3.5 インチ取り付けフレームのマルチベイボックスへの取り付け (B)

- ▶ 取り付けフレームをマルチベイボックスの両側に 2 本のネジ (M3 x 6 mm) で固定します。
- ▶ マルチベイボックスをシャーシに取り付ける前に、LSD ケーブルを LSD モジュールに接続します。

#### 12.5.1.4 アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り外し

- ▶ 必要に応じて、[101 ページ の「アクセス可能なドライブのフィラーカバー」](#) の項に記載されているように、アクセス可能なドライブフィラーカバーを取り付けベイ 1 から取り外します。
- ▶ 必要に応じて、[103 ページ の「アクセス可能なドライブのカバー」](#) の項に記載されているように、アクセス可能なドライブカバーを取り付けベイ 1 から取り外します。

#### 12.5.1.5 マルチベイボックスの取り付け

- ▶ 取り付けベイの 4 つの取り付けブラケットが曲がっていないことを確認します (図 291 を参照)。
- ▶ [97 ページ の「アクセス可能なドライブのロックを開く」](#) の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。

## アクセス可能なドライブ



図 303: マルチベイボックスの挿入

- ▶ マルチベイボックスを取り付けベイ 1 に差し込み、フロントパネルに揃うまでゆっくり押し込みます (1)。
- ▶ ロッキングバー (2) を閉じてロックします (3)。
- ▶ LSD、SATA、電源ケーブルを接続します ([512 ページ の「ケーブル図」](#)の項を参照)。

### 12.5.1.6 終了手順

- ▶ [91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」](#)
- ▶ [89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」](#)
- ▶ [92 ページ の「ライザーモジュールの取り付け」](#) (該当する場合)
- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[83 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#) ▶ [87 ページ の「サーバの電源投入」](#)

## 12.5.2 薄型 ODD または LSD の取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 12.5.2.1 準備手順

- ▶ 110 ページ の「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外すまたは取り付け際にのみ、取り外す必要があります。薄型 ODD または LSD モジュールを取り外した後にマルチベイを再び取り付ける場合は、フロントカバーを取り付けたままにできます。

- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

### 12.5.2.2 マルチベイボックスの取り外し

- ▶ すべてのケーブルを薄型 ODD から取り外します。
- ▶ LSD ケーブルをシステムボードコネクタ SMB 1 から取り外します。
- ▶ 97 ページ の「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項に記載されているように、アクセス可能なドライブロックを取り外します。

## アクセス可能なドライブ

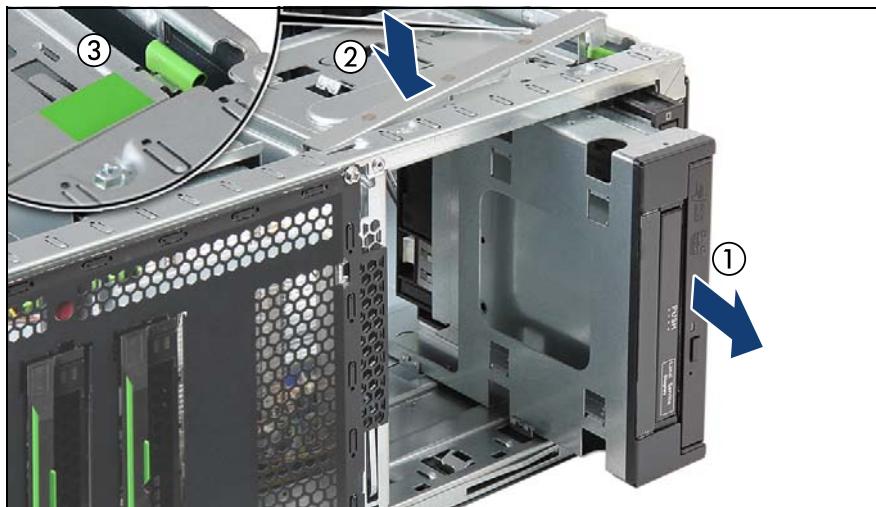


図 304: マルチベイボックスの取り外し

- ▶ マルチベイボックスを慎重に取り付けベイから取り外します。
- ▶ ロッキングバー（2）を閉じてロックします（3）。

### 12.5.2.3 薄型 ODD のマルチベイボックスからの取り外し

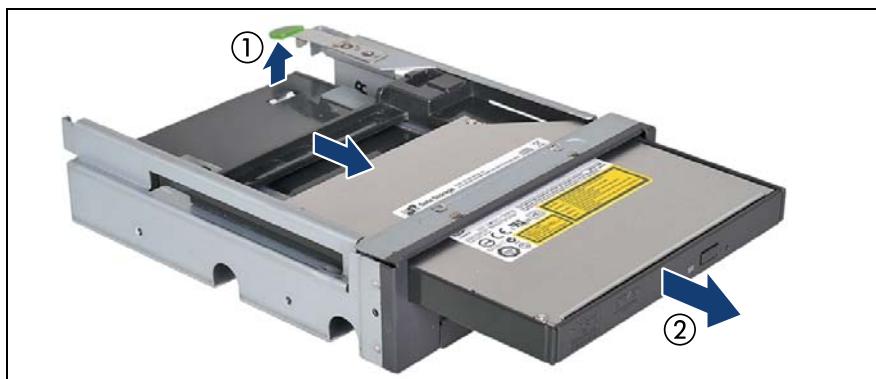


図 305: 薄型 ODD のマルチベイボックスからの取り外し

- ▶ ロッキングタブを押し上げて、薄型 ODD モジュールを外します（1）。
- ▶ マルチベイモジュールの内側から、薄型 ODD モジュールを押してベイから引き出します（2）。



図 306: 薄型 ODD を取り付けフレームから取り外します。

- ▶ 薄型 ODD を取り付けフレームから切り離して（1）、取り外します（2）。

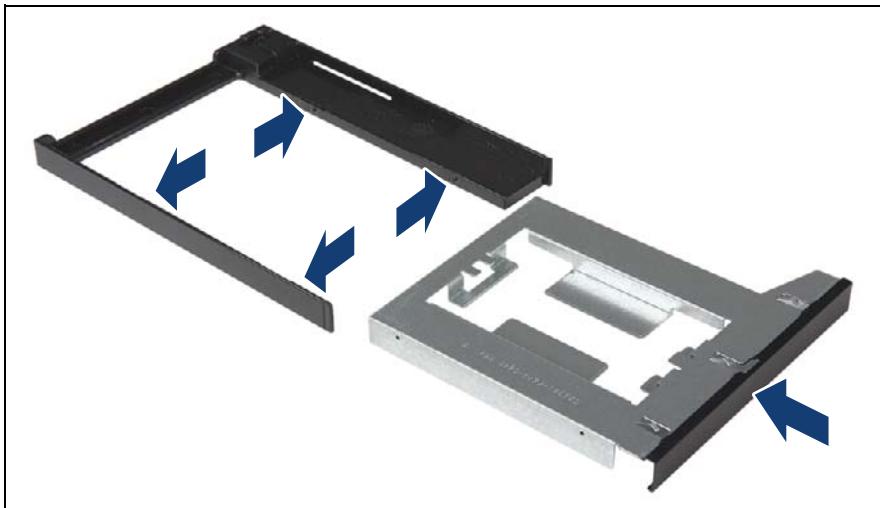


図 307: 薄型 ODD ダミーインサートの取り付けフレームへの取り付け

- ▶ 薄型 ODD ダミーインサートを薄型 ODD 取り付けフレームに合わせます。
- ▶ フレームの 4 本のピン（矢印を参照）がダミーインサートの側面の穴にはまっていることを確認します。

## アクセス可能なドライブ

- ▶ 薄型ODDダミーモジュールをマルチベイボックスに挿入して、ロックバーが固定されるまで押し込みます（図298を参照）。

### 12.5.2.4 LSDモジュールのマルチベイボックスからの取り外し

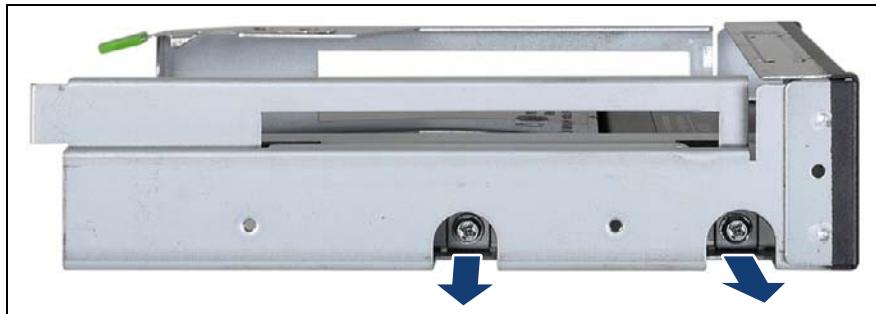


図308: 3.5インチ取り付けフレームのマルチベイボックスからの取り外し (A)

- ▶ マルチベイボックスの両側の2本のネジを取り外して、3.5インチ取り付けベイを切り離します。

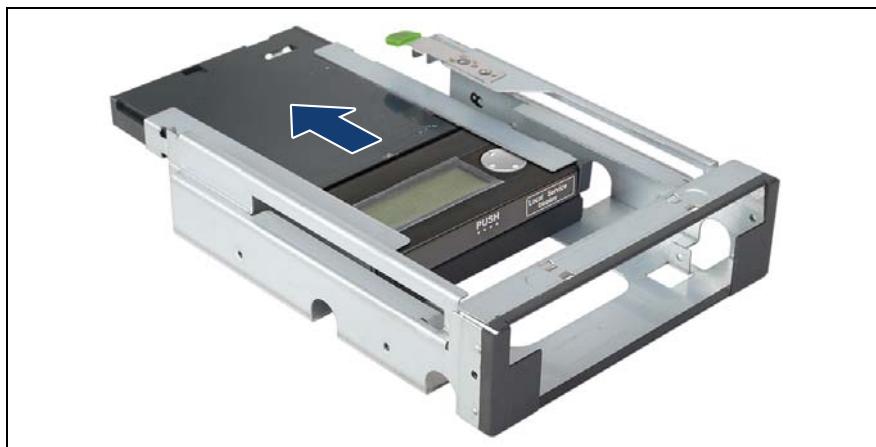


図309: 3.5インチ取り付けフレームのマルチベイボックスからの取り外し (B)

- ▶ 図のように、3.5インチ取り付けフレームをマルチベイボックスからスライドさせて取り外します。

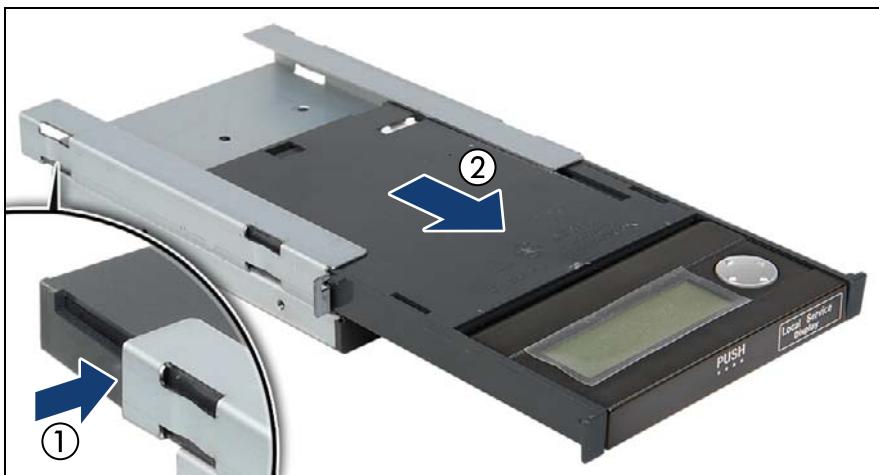


図 310: LSD モジュールの 3.5 インチ取り付けフレームからの取り外し

- ▶ ロッキングラッチを押して（拡大された部分を参照）、LSD モジュールを切り離します（1）。
- ▶ LSD モジュールを 3.5 インチ取り付けフレームから引き出します（2）。
- ▶ 取り外した LSD モジュールを新しいモジュールと交換しない場合は、LSD ダミーカバーを再び取り付けます。

#### 12.5.2.5 マルチベイボックスの取り付け

- ▶ [409 ページ の「マルチベイボックスの取り付け」](#) の項に記載されているように、マルチベイボックスを取り付けます。

#### 12.5.2.6 終了手順

- ▶ [91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」](#)
- ▶ [89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」](#)
- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[83 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#) ▶ [87 ページ の「サーバの電源投入」](#)

### 12.5.3 薄型 ODD または LSD の交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

- 工具 :**
- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
  - マイナスドライバ (アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため)

#### 12.5.3.1 準備手順

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
  - ▶ 110 ページの「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
  - ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
  - ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
  - ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
  - ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- i** フロントカバーの取り外しは、マルチベイボックスの薄型 ODD または LSD を交換する際には不要です。
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
  - ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」
  - ▶ 411 ページの「マルチベイボックスの取り外し」

#### 12.5.3.2 故障した薄型 ODD の取り外し

- ▶ 412 ページの「薄型 ODD のマルチベイボックスからの取り外し」の項に記載されているように、薄型 ODD をマルチベイボックスから取り外します。

#### 12.5.3.3 故障した LSD モジュールの取り外し

- ▶ 414 ページの「LSD モジュールのマルチベイボックスからの取り外し」の項に記載されているように、マルチベイボックスから LSD モジュールを取り外します。

#### 12.5.3.4 新しい薄型 ODD の取り付け

- ▶ 405 ページの「薄型 ODD のマルチベイボックスへの取り付け」の項に記載されているように、薄型 ODD をマルチベイボックスに取り付けます。

#### 12.5.3.5 新しいLSD モジュールの取り付け

- ▶ 408 ページの「LSD モジュールのマルチベイボックスへの取り付け」の項に記載されているように、マルチベイボックスに LSD モジュールを取り付けます。

#### 12.5.3.6 終了手順

- ▶ 409 ページの「マルチベイボックスの取り付け」
- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 該当する場合、120 ページの「バックアップソフトウェアソリューションの検証と設定」

## 12.6 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスのウルトラスリム ODD

### 12.6.1 ウルトラスリム ODD の取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

- 工具 :**
- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
  - マイナスドライバ (アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため)

#### 12.6.1.1 準備手順

- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[59 ページの「サーバをラックから引き出す」](#)
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外す際にのみ、取り外す必要があります。HDD 拡張ボックスがサーバに取り付け済みで、ウルトラスリム ODD を取り付けるために取り外される予定の場合は、この手順を省略します。

- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」
- ▶ 95 ページの「ライザーモジュールの取り外し」(該当する場合)
- ▶ 250 ページの「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し」(該当する場合)

### 12.6.1.2 ウルトラスリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け



図 311: ウルトラスリム ODD ダミーカバーの取り外し

- ▶ ウルトラスリム ODD ダミーカバーを取り外します。



**注意！**  
ダミーカバーは今後使うかもしれないで、保管しておいてください。  
ウルトラスリム ODD を取り外して、すぐに新しい電源モジュールに  
交換しない場合、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、  
ウルトラスリム ODD ダミーカバーをスロットに取り付けてください。

## アクセス可能なドライブ

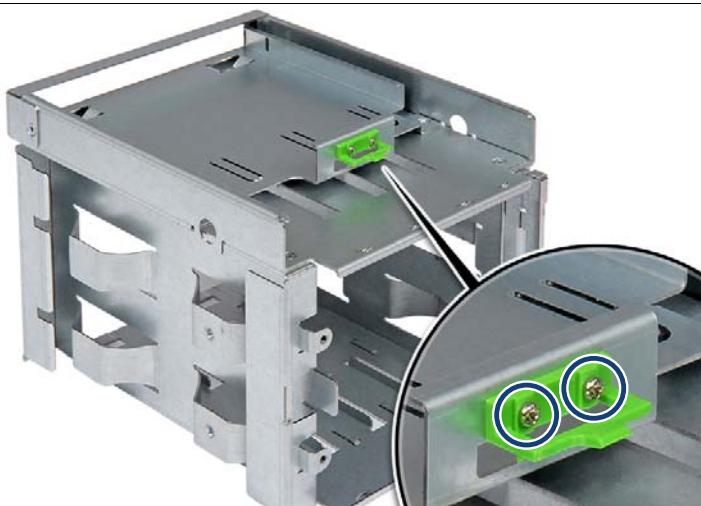


図 312: ウルトラスリム ODD ロッキングラッチの取り外し

- ▶ ロッキングラッチから 2 本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ ロッキングラッチを取り外します。



図 313: ウルトラスリム ODD へのロッキングラッチの取り付け

- ▶ 元の 2 本のネジでロッキングラッチをウルトラスリム ODD に固定します（拡大された部分を参照）。

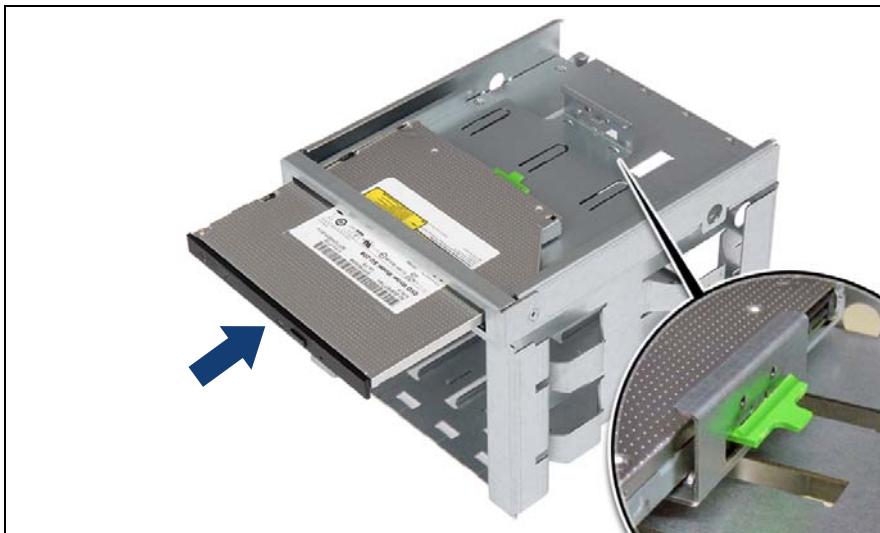


図 314: ウルトラスリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け

- ▶ ウルトラスリム ODD をベイに差し込み、所定の位置にはまるまでスライドさせます（拡大された部分を参照）。



図 315: ウルトラスリム ODD へのケーブルの接続

- ▶ 電源ケーブル C23 (1) と SATA ケーブル C11 (2) をウルトラスリム ODD に接続します。

### 12.6.1.3 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け

- ▶ 246 ページの「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け」の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けます。
- ▶ ウルトラスリム ODD の電源ケーブル C23 を電源ケーブル C8 の空いているコネクタに接続します（512 ページの「ケーブル図」の項を参照）。
- ▶ 必要に応じて、ウルトラスリム ODD の SATA ケーブル C11 をシステムボードコネクタ SATA 5 に接続します。配線は標準 ODD と同じです（図 294 と 512 ページの「ケーブル図」の項を参照）。

### 12.6.1.4 終了手順

- ▶ 92 ページの「ライザーモジュールの取り付け」（該当する場合）
- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

## 12.6.2 ウルトラスリム ODD の取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具: プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 12.6.2.1 準備手順

- ▶ 110 ページ の「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」



フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外すまたは取り付け際にのみ、取り外す必要があります。ウルトラスリム ODD を取り外した後に HDD 拡張ボックスを再び取り付ける場合は、フロントカバーを取り付けたままにできます。

- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

### 12.6.2.2 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し

- ▶ 250 ページ の「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し」の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り外します。

### 12.6.2.3 ウルトラスリム ODD の拡張ボックスからの取り外し

- ▶ 電源ケーブルと SATA ケーブルをウルトラスリム ODD から取り外します (図 315 を参照)。

## アクセス可能なドライブ

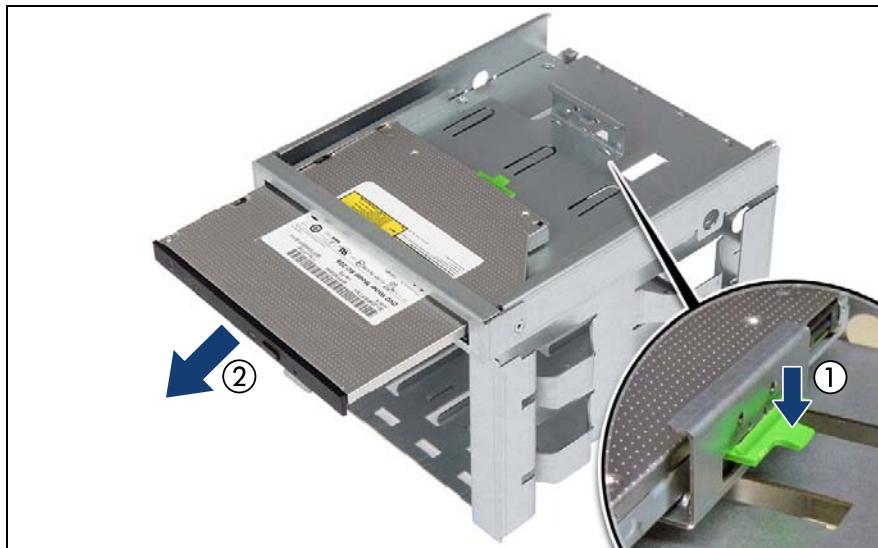


図 316: ウルトラスリム ODD の拡張ボックスからの取り外し

- ▶ ロッキングラッチを降ろします (1)。
- ▶ ウルトラスリム ODD を取り出します (2)。



図 317: ウルトラスリム ODD からのロッキングラッチの取り出し

- ▶ 2 本のネジを取り外します (1)。
- ▶ ロッキングラッチを取り外します (2)。

- ▶ 取り外したウルトラスリム ODD を新しいドライブで交換しない場合は、次の手順に従います。
  - ▶ HDD ケージへの元の 2 本のネジで、ロッキングラッチをウルトラスリム ODD に固定します（図 312 を参照）。
  - ▶ ウルトラスリム ODD ダミーカバーを挿入します（図 311 を参照）。

#### 12.6.2.4 4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け

- ▶ 246 ページ の「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け」の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けます。

#### 12.6.2.5 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」

### 12.6.3 ウルトラスリム ODD の交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

**工具:** - プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

- マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため）

#### 12.6.3.1 準備手順

- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 110 ページ の「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」

- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」



フロントカバーの取り外しは、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスのウルトラスリム ODD を交換する際には不要です。

- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

### 12.6.3.2 故障したウルトラスリム ODD の取り外し

- ▶ 250 ページの「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り外し」の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り外します。
- ▶ 423 ページの「ウルトラスリム ODD の拡張ボックスからの取り外し」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD を取り外します。

### 12.6.3.3 新しいウルトラスリム ODD の取り付け

- ▶ 419 ページの「ウルトラスリム ODD の HDD 拡張ボックスへの取り付け」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD を取り付けます。
- ▶ 246 ページの「4x 3.5 インチの HDD 拡張ボックスの取り付け」の項に記載されているように、4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックスを取り付けます。

### 12.6.3.4 終了手順

- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」 ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

## 12.7 ウルトラスリム ODD アダプタの中のウルトラスリム ODD

### 12.7.1 ウルトラスリム ODD の取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

|     |  |
|-----|--|
| 工具: | - プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ<br>-マイナスドライバ (アクセス可能なドライブの取り付け用ブラケットを曲げるため) |
|-----|--|

#### 12.7.1.1 準備手順

- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
  - ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
  - ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
  - ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- i** フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外す際にのみ、取り外す必要があります。
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
  - ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」
  - ▶ 95 ページ の「ライザーモジュールの取り外し」(該当する場合)

## アクセス可能なドライブ

### 12.7.1.2 ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタへの取り付け



図 318: ウルトラスリム ODD ダミーカバーの取り外し - ウルトラスリム ODD アダプタ

- ▶ ウルトラスリム ODD ダミーカバーを取り外します。



#### 注意！

ダミーカバーは今後使うかもしれないで、保管しておいてください。ウルトラスリム ODD を取り外して、すぐに新しい電源モジュールに交換しない場合、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、ウルトラスリム ODD ダミーカバーをスロットに取り付けてください。



図 319: ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタへの取り付け (A)

- ▶ ウルトラスリム ODD をベイに挿入します。



図 320: ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタへの取り付け (B)

- ▶ ウルトラスリム ODD を 2 本のネジでウルトラスリム ODD アダプタに固定します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ 電源ケーブル C23 と SATA ケーブル C11 をウルトラスリム ODD に接続します（図 315 を参照）。

#### 12.7.1.3 ウルトラスリム ODD アダプタの取り付け

- ▶ 398 ページの「アクセス可能なドライブの取り付け」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD アダプタを取り付けます。
- ▶ ウルトラスリム ODD の電源ケーブル C23 を電源ケーブル C8 の空いているコネクタに接続します（512 ページの「ケーブル図」の項を参照）。
- ▶ 必要に応じて、ウルトラスリム ODD の SATA ケーブル C11 をシステムボードコネクタ SATA 5 に接続します。配線は標準 ODD と同じです（図 294 と 512 ページの「ケーブル図」の項を参照）。

#### 12.7.1.4 終了手順

- ▶ 92 ページの「ライザーモジュールの取り付け」（該当する場合）
- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」

## アクセス可能なドライブ

- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

### 12.7.2 ウルトラストリム ODD の取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：10 分

工具： プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ

#### 12.7.2.1 準備手順

- ▶ 110 ページの「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
  - フロントカバーは、アクセス可能なドライブのダミーカバーを取り外すまたは取り付け際にのみ、取り外す必要があります。
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

#### 12.7.2.2 ウルトラストリム ODD アダプタの取り外し

- ▶ 402 ページの「アクセス可能なドライブの取り外し」の項に記載されて  
いるように、ウルトラストリム ODD アダプタを取り外します。

### 12.7.2.3 ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタからの取り外し

- ▶ 電源ケーブルと SATA ケーブルをウルトラスリム ODD から取り外します（図 315 を参照）。

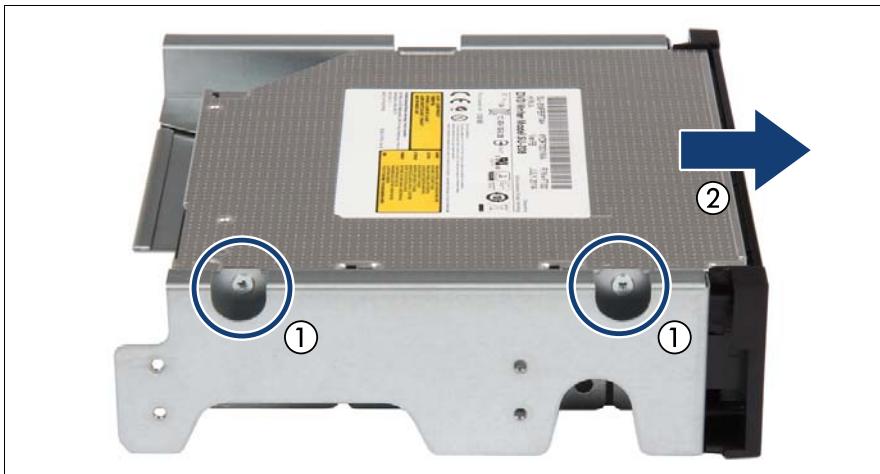


図 321: ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタからの取り外し

- ▶ 2 本のネジを取り外します（1）。
- ▶ ウルトラスリム ODD を取り出します（2）。
- ▶ 取り外したウルトラスリム ODD を新しいドライブで交換しない場合は、次の手順に従います。
  - ▶ ウルトラスリム ODD ダミーカバーを挿入します（図 318 を参照）。

### 12.7.2.4 ウルトラスリム ODD アダプタの取り付け

- ▶ 398 ページ の「アクセス可能なドライブの取り付け」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD アダプタを取り付けます。

### 12.7.2.5 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」

## アクセス可能なドライブ

- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」

### 12.7.3 ウルトラストリム ODD の交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

|      |   |
|------|---|
| 工具 : | <ul style="list-style-type: none"><li>- プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ</li><li>- マイナスドライバ（アクセス可能なドライブの取り付け用プラケットを曲げるため）</li></ul> |
|------|---|

#### 12.7.3.1 準備手順

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
  - ▶ 110 ページの「バックアップおよび光ディスクメディアの取り出し」
  - ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
  - ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
  - ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
  - ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- i** フロントカバーの取り外しは、ウルトラストリム ODD を交換する際には不要です。
- ▶ 88 ページの「システム送風ダクトの取り外し」
  - ▶ 90 ページの「システムファンホルダーの取り外し」

#### 12.7.3.2 故障したウルトラストリム ODD の取り外し

- ▶ 402 ページの「アクセス可能なドライブの取り外し」の項に記載されているように、ウルトラストリム ODD アダプタを取り外します。

- ▶ 431 ページ の「ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタからの取り外し」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD を取り外します。

#### 12.7.3.3 新しいウルトラスリム ODD の取り付け

- ▶ 428 ページ の「ウルトラスリム ODD のウルトラスリム ODD アダプタへの取り付け」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD を取り付けます。
- ▶ 398 ページ の「アクセス可能なドライブの取り付け」の項に記載されているように、ウルトラスリム ODD アダプタを取り付けます。

#### 12.7.3.4 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」 ▶ 87  
ページ の「サーバの電源投入」

## アクセス可能なドライブ

---

# 13 フロントパネルと外部コネクタ

## 安全上の注意事項



### 注意！

- フロントパネルモジュールをサーバに挿入する際は、接続されているケーブルをはさんだり、引っ張ったりしないように注意してください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス(ESD)を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、金属部分またはふちを持つようにしてください。
- 詳細は、[41 ページ の「注意事項」の章](#)を参照してください。

## 13.1 フロントパネルモジュールの交換



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間：15 分

- 工具：**
- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
  - プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ（前面 VGA コネクタが取り付けられている場合）
  - サイドカッター（リリースタイプ用）

### システム情報のバックアップ / 復元に関する注意事項



フロントパネルモジュールには、サーバ名やモデル、サーバ本体のタイプ、シリアル番号、製造データなどのシステム情報が格納されているシャーシ ID EEPROM が装着されています。

システムボードの交換時にデフォルト以外の設定が損失しないように、重要なシステム構成データのバックアップコピーがシステムボード NVRAM からシャーシ ID EEPROM に自動的に保存されます。システムボードを交換した後、バックアップデータはシャーシ ID ボードから新しいシステムボードに復元されます。

#### 注意！

このような理由から、フロントパネルモジュールとシステムボードは同時に交換しないでください！同時に交換すると、システムボードへのシステム構成データの復元が失敗します。

### 13.1.1 準備手順

- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。

- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

### 13.1.2 フロントパネルモジュールの取り外し

システムボードからのフロントパネルケーブルの取り外し

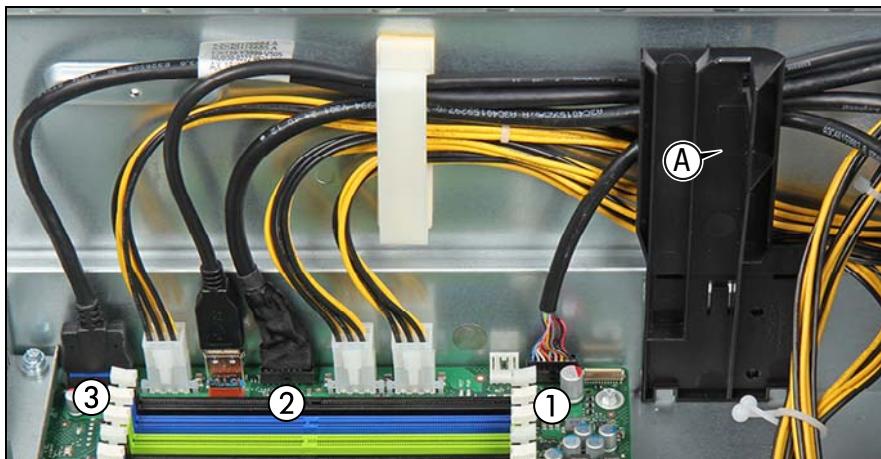


図 322: フロントパネルモジュールのケーブルの取り外し

- ▶ システムボードからフロントパネルケーブルを取り外します (1)。
- ▶ 前面 VGA ケーブルがある場合は、システムボードから取り外します (2)。
- ▶ システムボードからフロント USB ケーブルを取り外します (3)。
- ▶ フロントパネルケーブルをケーブルガイドから取り外します (A)。

#### フロントパネルモジュールの取り外し

**i** フロントパネルをロック解除および固定する方法を、ラックサーバを例にして示します。タワーサーバの場合、アクセス可能なドライブのロックはドライブベイの上面にあります。詳細は、97 ページ の「アクセス可能なドライブのロックを開く」の項を参照してください。

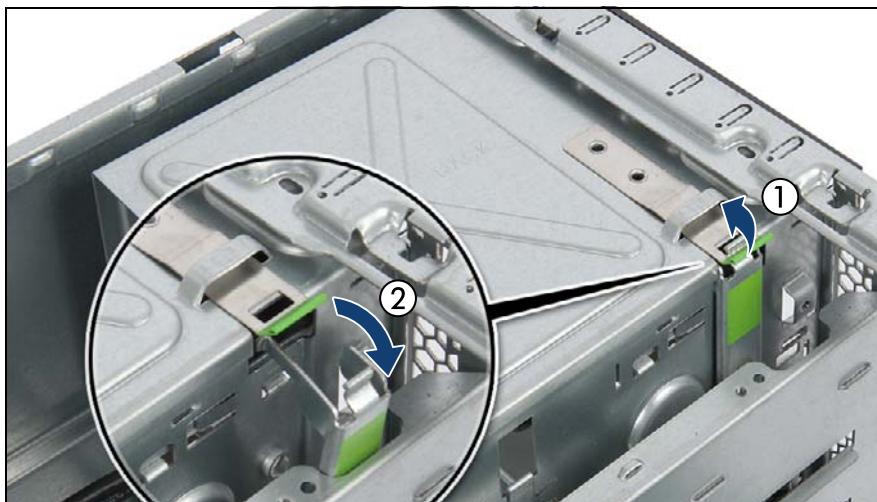


図 323: アクセス可能なドライブのロックを開く

**i** フロントパネルモジュールを交換するために、フロントカバー（タワーサーバ）/ラック取り付けフレームを取り外す必要はありません。図では、フロントカバー/ラック取り付けフレームは、図示の目的のためにのみに取り外されています。

- ▶ ロッキングラッチを引き上げて、アクセス可能なドライブのロックを外します（1）。
- ▶ アクセス可能なドライブのロックを開きます（2）。

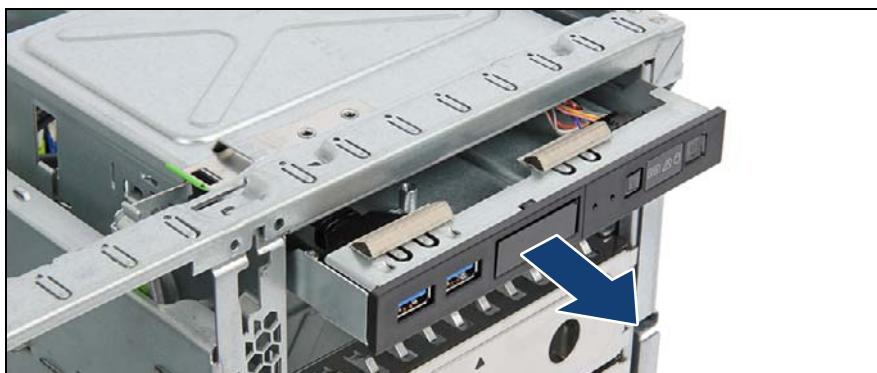


図 324: フロントパネルモジュールの取り外し

- ▶ フロントパネルモジュールを引き出します。

### 13.1.3 フロントパネルモジュールからのケーブルの取り外し

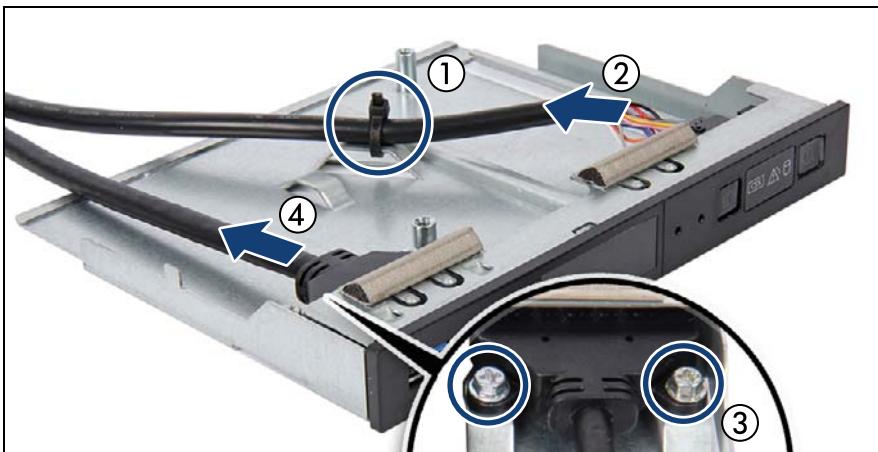


図 325: フロントパネルケーブルの取り外し

- ▶ リリースタイ (1) を開いて、フロントパネルケーブルを取り外します (2)。
- ▶ 2 本のネジを外し (2) 、前面 USB ケーブルを取り外します (4)。
- ▶ フロントパネルモジュールに前面 VGA コネクタが取り付けられている場合は、[446 ページの「前面 VGA コネクタの取り外し」](#) の項に記載されているように、ケーブルを取り外します。

### 13.1.4 フロントパネルモジュールへのケーブルの接続

- ▶ 前面 VGA コネクタを新しいフロントパネルモジュールに取り付ける場合は、[442 ページの「前面 VGA コネクタの取り付け」](#) の項に記載されているように、前面 VGA ケーブルを取り付けます。
- ▶ フロントパネルケーブルを新しいフロントパネルモジュールに接続して、新しいリリースタイで突起に固定します (図 325 を参照)。
- ▶ フロント USB ケーブルを新しいフロントパネルモジュールに接続して、2 本のネジで固定します (図 325 を参照)。

### 13.1.5 フロントパネルモジュールの取り付け

#### フロントパネルモジュールの取り付け

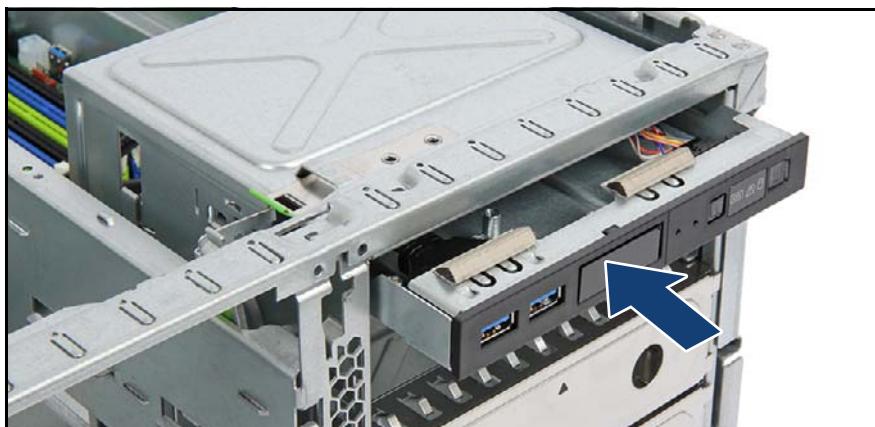


図 326: フロントパネルモジュールの取り付け

- ▶ フロントパネルモジュールを取り付けベイに挿入し、フロントパネルフレームにある前面のネジ穴がロックバーのセンタリングピンに合うまで、ゆっくりと押し込みます。

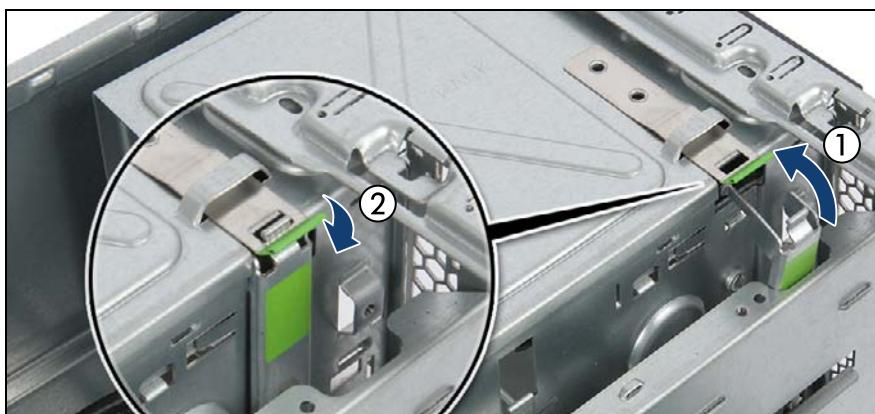


図 327: アクセス可能なドライブのロックを閉じる（ラックサーバ）

- ▶ 所定の位置にはまるまで、ロック（1）を押し込みます（2）（拡大された部分を参照）。

### システムボードへのフロントパネルケーブルの接続

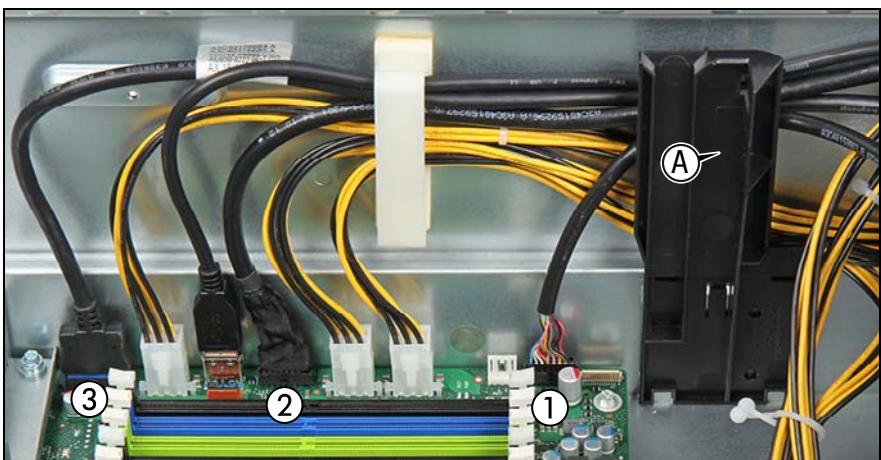


図 328: システムボードへのフロントパネルケーブルの接続

- ▶ フロントパネルケーブルをケーブルガイドへ通します (A)。
- ▶ システムボードにフロントパネルケーブルを接続します (1)。
- ▶ 該当する場合は、前面 VGA ケーブルをシステムボードに接続します (2)。
- ▶ システムボードに前面 USB ケーブルを接続します (3)。

### 13.1.6 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」
- ▶ 117 ページ の「システム情報のバックアップ / 復元の確認」

- ▶ フロントパネルボードに取り付けられていシャーシ ID EEPROM に、サーバのシステム情報を格納します。[136 ページ の「シャーシ ID Prom Tool の使用」](#)
- ▶ 127 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページ の「BitLocker 機能の再開」

## 13.2 前面 VGA コネクタ

### 13.2.1 前面 VGA コネクタの取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

**工具 :** – 前面 VGA ダミーカバーを取り外すためのマイナスドライバー  
– プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバー

#### 13.2.1.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[59 ページ の「サーバをラックから引き出す」](#)
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は : サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」
- ▶ 437 ページ の「フロントパネルモジュールの取り外し」

### 13.2.1.2 前面 VGA ダミーカバーの取り外し

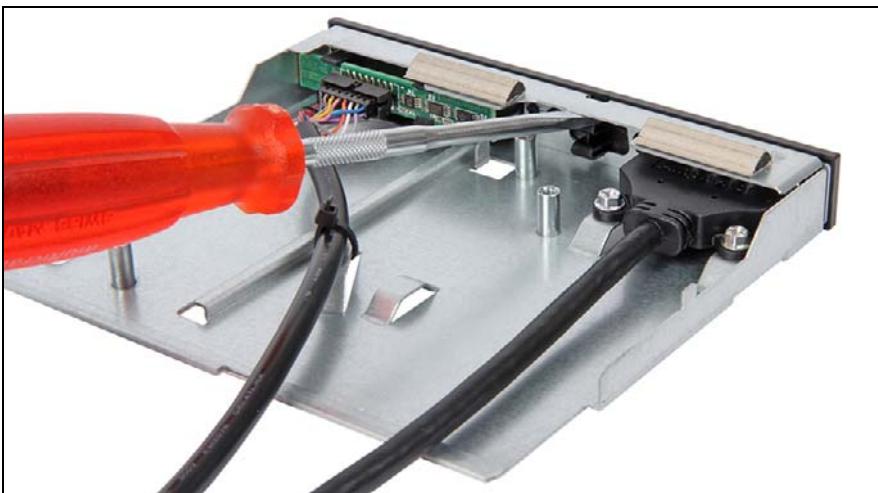


図 329: 前面 VGA ダミーカバーの取り外し (A)

- ▶ 細いマイナスドライバを使用して、フロント VGA ダミーカバーのロッキングラッチを押します。



図 330: 前面 VGA ダミーカバーの取り外し (B)

- ▶ 前面 VGA ダミーカバーを取り外します。



#### 注意！

ダミーカバーは今後使うかもしれないで、保管しておいてください。前面 VGA コネクタを取り外して、すぐに新しいコネクタに交換しない場合、該当する EMC 指令に準拠し、かつ冷却要件を満たすために、前面 VGA ダミーカバーをスロットに取り付けてください。

### 13.2.1.3 前面 VGA コネクタの取り付け



図 331: 前面 VGA ボードへの前面 VGA ケーブルの接続

- ▶ 前面 VGA ボードに前面 VGA ケーブルを接続します。

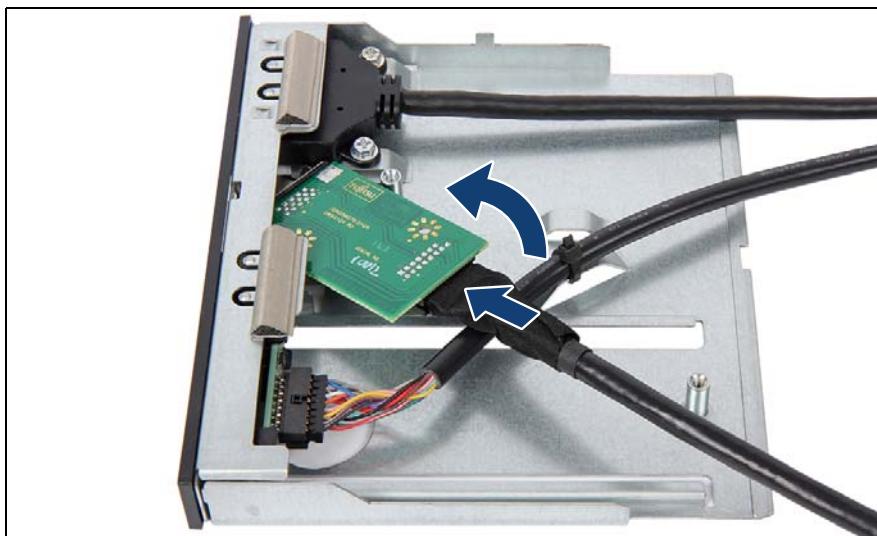


図 332: 前面 VGA コネクタの取り付け (A)

- ▶ 図のように、前面 VGA ボードをフロントパネルモジュールに接続します。
- ▶ 前面 VGA ボードが正しくはめ込まれるまで、反時計回りに回転させます。

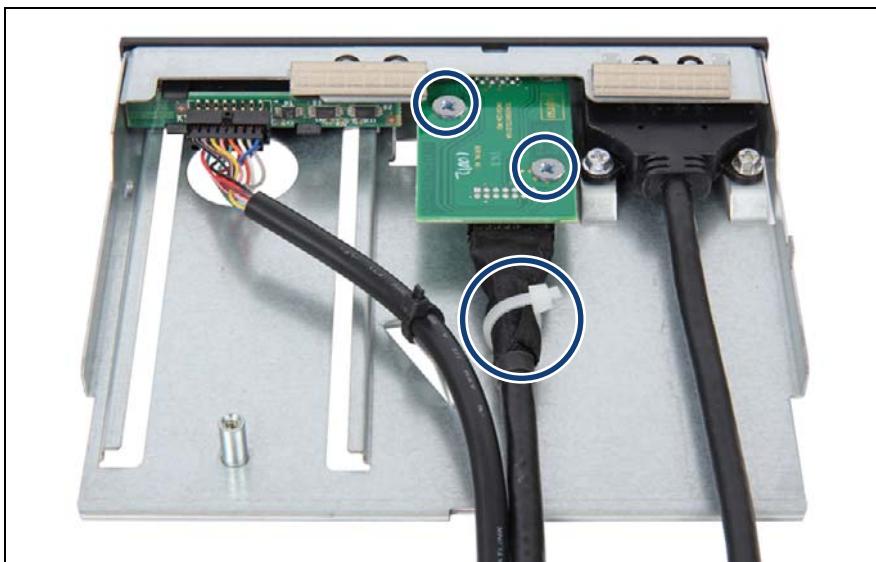


図 333: 前面 VGA コネクタの取り付け (B)

- ▶ 前面 VGA ボードを 2 本のネジで固定します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ 前面 VGA ケーブルをリリースタイで突起で固定します（丸で囲んだ部分）。

#### 13.2.1.4 終了手順

- ▶ 440 ページ の「フロントパネルモジュールの取り付け」
- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」 ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」
- ▶ 132 ページ の「BitLocker 機能の再開」

### 13.2.2 前面 VGA コネクタの取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：10 分

**工具：** - プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ  
- サイドカッター（リリースタイ用）

#### 13.2.2.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」
- ▶ 437 ページ の「フロントパネルモジュールの取り外し」

### 13.2.2.2 VGA コネクタの取り外し

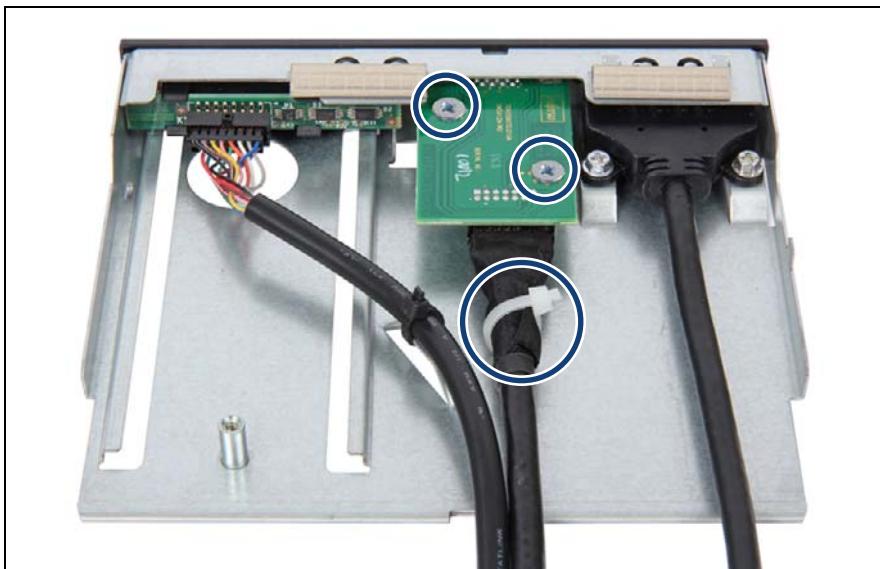


図 334: 前面 VGA コネクタの取り外し (A)

- ▶ 2 本のネジ（丸で囲んだ部分）を取り外します。
- ▶ リリースタイを開きます（丸で囲んだ部分）。

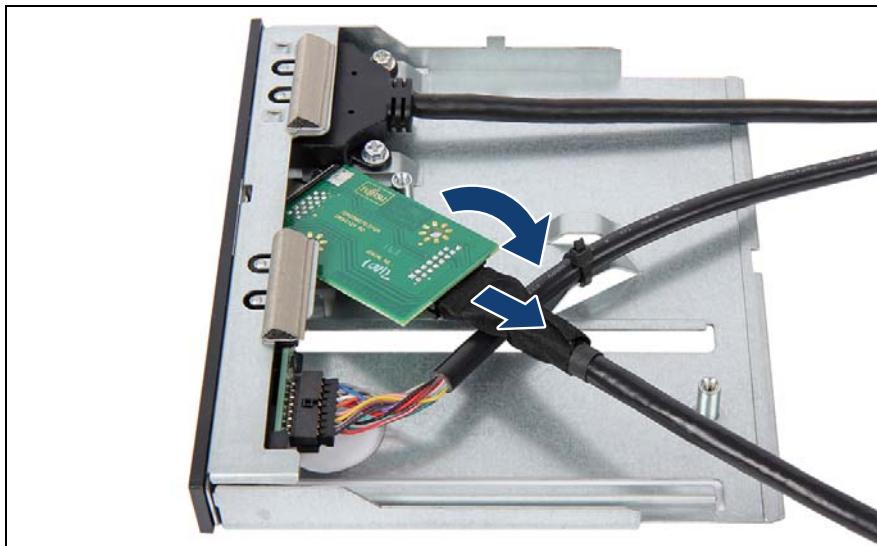


図 335: 前面 VGA コネクタの取り外し (B)

- ▶ 前面 VGA ボードを時計回りに回転させます。
- ▶ 前面 VGA ボードを取り外します。

#### 13.2.2.3 前面 VGA ダミーカバーの取り付け



図 336: 前面 VGA ダミーカバーの取り付け

- ▶ 前面 VGA ダミーカバーを挿入して、所定の位置にしっかりと固定されるまで押し込みます。

### 13.2.2.4 終了手順

- ▶ 440 ページ の「フロントパネルモジュールの取り付け」
- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」 ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」
- ▶ 132 ページ の「BitLocker 機能の再開」

### 13.2.3 前面 VGA コネクタの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 15 分

工具 : - プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ  
- サイドカッター (リリースタイ用)

### 13.2.3.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は : サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

- ▶ 437 ページ の「フロントパネルモジュールの取り外し」

### 13.2.3.2 故障した前面 VGA コネクタの取り外し

- ▶ 446 ページ の「前面 VGA コネクタの取り外し」の項に記載されているように、前面 VGA コネクタを取り外します。

### 13.2.3.3 新しい前面 VGA コネクタの取り付け

- ▶ 442 ページ の「前面 VGA コネクタの取り付け」の項に記載されているように、前面 VGA コネクタを取り付けます。

### 13.2.3.4 終了手順

- ▶ 440 ページ の「フロントパネルモジュールの取り付け」
- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」 ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」
- ▶ 132 ページ の「BitLocker 機能の再開」

# 14 システムボードとコンポーネント

## 安全上の注意事項



### 注意！

- サーバ内のデバイスおよびコンポーネントは、シャットダウン後もしばらくは高温の状態が続きます。サーバのシャットダウン後、高温になっているコンポーネントが冷却されるのを待ってから内部オプションの取り付けや取り外しを行ってください。
- 内部オプションの回路とはんだ付け部品は露出しているため、静電気の影響を受けやすくなっています。静電気に敏感なデバイス(ESD)を取り扱う際は、まず、接地された物（アース）に触れるなどして静電気の帯電を必ず放電してください。
- ボードやはんだ付け部品の電気回路に触れないでください。回路ボードを持つ際は、金属部分またはふちを持つようにしてください。
- 詳細は、[41 ページ の「注意事項」の章](#)を参照してください。

## 14.1 基本情報

この項では、システムボードと以下のコンポーネントについて説明します。

- CMOS メモリ（揮発性 BIOS メモリ）およびリアルタイムクロックは、コイン型リチウム電池（CMOS バッテリー）で動きます。この電池の寿命は最大 10 年間で、周辺温度および使用状況によって異なります。  
CMOS バッテリーが枯渇したり、最小電圧レベルを下回った場合は、直ちに交換する必要があります。
- UFM（USB Flash モジュール）  
サーバには、USB Flash モジュール（UFM）を搭載できます。
- TPM（セキュリティチップ）  
システムボードには、オプションで TPM（セキュリティチップ）が搭載されます。このモジュールは、他メーカーのプログラムによるキー情報の保存を可能にします（Windows Bitlocker Drive Encryption を使用したドライブの暗号化など）。

- SATA DOM(SATA Flash モジュール)

Innodisk の SATADOM (Serial ATA Disk on Module) を使用すると内部 SSD が提供されます。この SSD は、データストレージデバイスのブートデバイスとして設定できます。

- iRMC microSD カード(ライフサイクルマネジメントライセンス&モジュール)  
iRMC の embedded Lifecycle Management (eLCM) 機能を使用するには、iRMC microSD カードが必要です。

## 14.2 CMOS バッテリー

### 14.2.1 CMOS バッテリーの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要（推奨：ようじを使用）

#### 安全上の注意事項



注意！

- CMOS バッテリー (CR2032) は、まったく同じバッテリーか、メーカーが推奨する型のバッテリーと交換する必要があります。
- リチウムバッテリーは、子どもの手の届かない場所に置いてください。
- バッテリーはゴミ箱に捨てないでくださいリチウムバッテリーは、特別廃棄物についての自治体の規制に従って、廃棄する必要があります。
- 安全情報の詳細は、対応するオペレーティングマニュアルの「環境保護」の項を参照してください。
- CMOS バッテリーは、必ずプラス極を上に向けて挿入してください。

#### 14.2.1.1 準備手順

- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」

#### 14.2.1.2 故障した CMOS バッテリーの交換

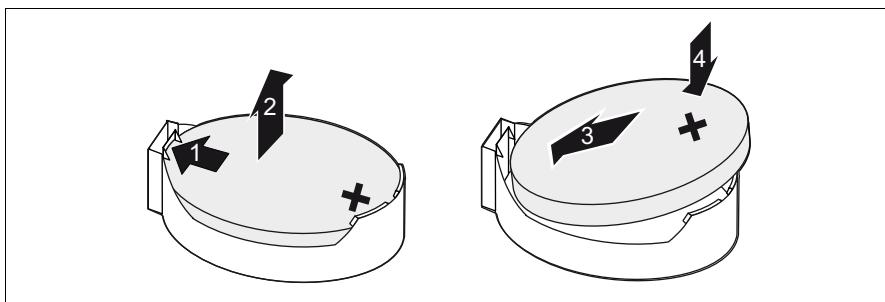


図 337: CMOS バッテリーの交換

- ▶ ロックしているバネを矢印 (1) の方向に押すと、CMOS バッテリーがソケットの外に飛び出します。

- ▶ CMOS バッテリーを取り外します (2)。



##### 注意！

ドライバなどの先の尖った物は、滑らせる場合にシステムボードのコンポーネントを破損することがあります。

工具を使用しないと CMOS バッテリーを取り出せない場合は、ようじをお使いください。

- ▶ 同じ型の CMOS バッテリーをソケットに挿入します (3 と 4)。

### 14.2.1.3 終了手順

- ▶ CMOS バッテリーは、特別廃棄物についての自治体の規制に従って、廃棄する必要があります。
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 117 ページの「システム情報のバックアップ / 復元の確認」
- ▶ 129 ページの「システム時刻設定の確認」

## 14.3 USB Flash モジュール (UFM)

### 14.3.1 UFM の取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 10 分

工具： 工具不要

#### 14.3.1.1 準備手順

- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 59 ページの「サーバをラックから引き出す」

- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、298 ページの「標準スロットからの拡張カードの取り外し」の項に記載されているようにスロット 1 の拡張カードを取り外します。

#### 14.3.1.2 UFM の取り付け

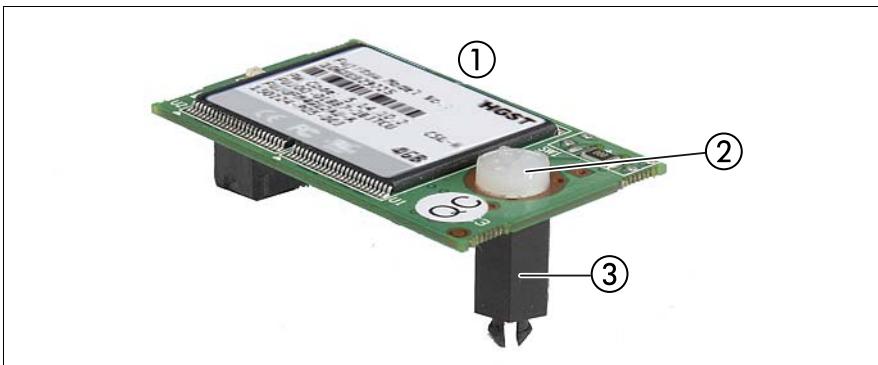


図 338: UFM 取り付けキット

事前に組み立てられている UFM フラッシュモジュールキット：

|   |                        |   |           |
|---|------------------------|---|-----------|
| 1 | USB Flash Module (UFM) | 3 | UFM スペーサー |
| 2 | UFM 用ナイロン製ネジ           |   |           |

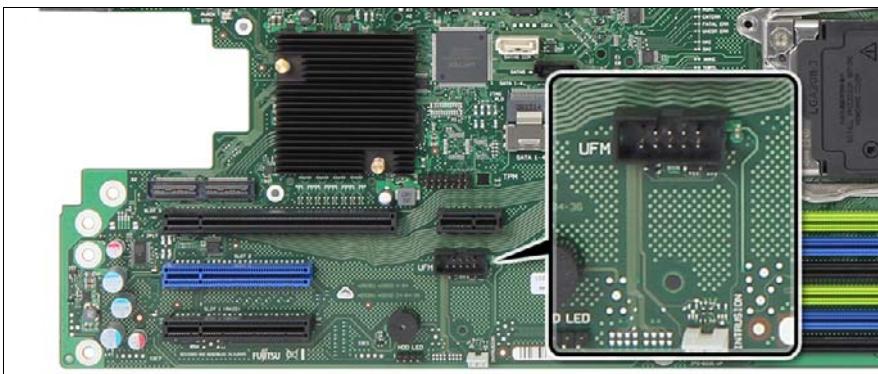


図 339: UFM の搭載位置



図 340: UFM の取り付け

- ▶ システムボードに UFM を取り付けます。UFM スペーサーが、システムボード上の穴にカチッとはまる必要があります。

### 14.3.1.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[293 ページの「標準スロットの拡張カードの取り付け」](#)の項に記載されているようにスロット 1 に拡張カードを取り付けます。
- ▶ [71 ページの「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は [83 ページの「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [84 ページの「電源コードの接続」](#)
- ▶ [87 ページの「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」](#)
- ▶ [132 ページの「BitLocker 機能の再開」](#)

### 14.3.1.4 ソフトウェアの構成

ESXi 構成を設定するには、VMware ESXi Recovery Tools CD が必要です。次の https アドレスの Fujitsu のサービスパートナーポータルから CD の ISO イメージをダウンロードできます。

<https://globalpartners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/Servers/PRIMERGY/>

*Pages/default.aspx.* (世界市場の場合)

<http://support.ts.fujitsu.com/Download/> (日本市場)

- ▶ サインインしてご利用の PRIMERGY サーバを選択します。

- ▶ 「Software & Tools Documentation」というカテゴリを選択します。
- ▶ 「Tools」のリストから必要な ESXi Recovery CD ISO イメージをダウンロードします。
- ▶ 解凍してイメージを CD に焼きます。
- ▶ 他の USB ストレージデバイスが、UFM の他にサーバに接続されていないことを確認します。
- ▶ Recovery Tools CD を CD/DVD ドライブに挿入してサーバをリブートします。  
サーバが Recovery Tools CD からブートします。
- ▶ 画面の指示に従ってインストールを開始します。  
フラッシュプロセスが完了すると、システムをリブートするように指示されます。

### 14.3.2 UFM の取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 5 分

|             |  |
|-------------|--|
| <b>工具 :</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>- プラス PH1 / (+) No. 1 ドライバ</li> <li>- ロングノーズプライヤー</li> <li>- コンビネーションプライヤー</li> </ul> |
|-------------|--|

#### 14.3.2.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、298 ページ の「標準スロットからの拡張カードの取り外し」の項に記載されているようにスロット 1 の拡張カードを取り外します。

### 14.3.2.2 UFM の取り外し

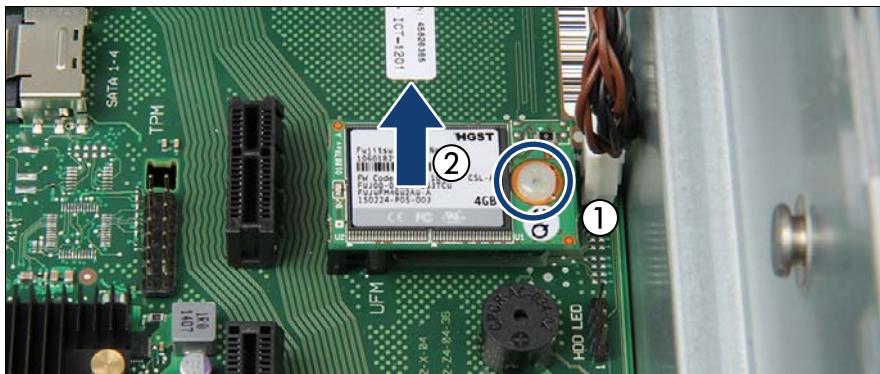


図 341: UFM の取り外し

- ▶ UFM のナイロン製ネジを取り外します (1)。
- ▶ UFM を外し、取り外します (2)。

UFM スペーサーはシステムボードに残ります。

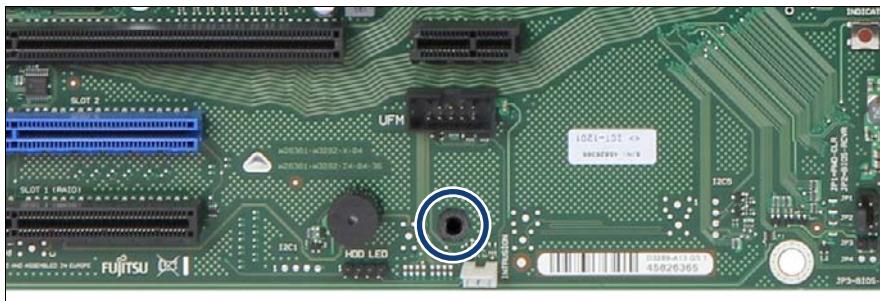


図 342: システムボードに残った UFM スペーサー



#### 注意！

UFM には、ユーザ情報（IP アドレス、ライセンスなど）が含まれます。UFM を交換したら、故障した UFM をユーザに返却し、破棄するように伝えます。ユーザから故障した UFM の破棄を依頼された場合、次の手順に従って UFM を割って破棄してください。



図 343: 工具



図 344: 割り方

- ▶ ロングノーズプライヤーとコンビネーションプライヤーを使用して、写真のように UFM を半分に割ります。

#### 14.3.2.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[293 ページ の「標準スロットの拡張カードの取り付け」](#)の項に記載されているようにスロット 1 に拡張カードを取り付けます。
- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は[83 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#) ▶ [87 ページ の「サーバの電源投入」](#)
- ▶ [132 ページ の「BitLocker 機能の再開」](#)

### 14.3.3 UFM の交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：15 分

**工具：** - コンビネーションプライヤーおよびフラットノーズプライヤー  
- プラス PH1 / (+) No. 1 ドライバ

#### 14.3.3.1 準備手順

- ▶ 107 ページの「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 108 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」
- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、298 ページの「標準スロットからの拡張カードの取り外し」の項に記載されているようにスロット 1 の拡張カードを取り外します。

#### 14.3.3.2 故障した UFM の取り外し

- ▶ 457 ページの「UFM の取り外し」の項に記載されているように、UFM を取り外します。
- ▶ UFM スペーサーはシステムボードに残ります。

### 14.3.3.3 新しいUFMの取り付け

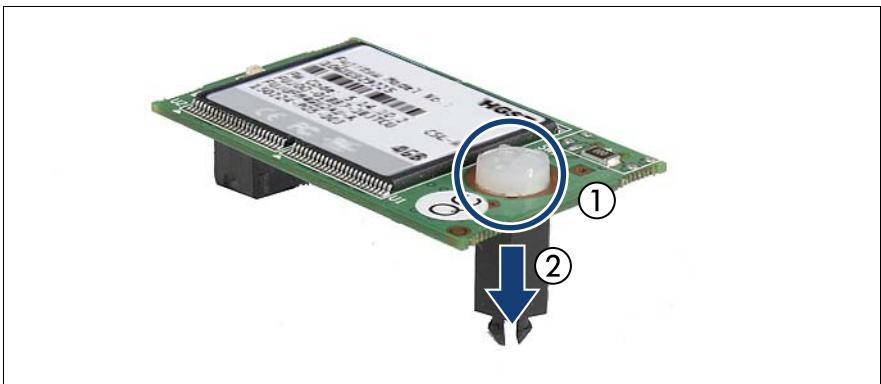


図 345: UFM スペーサーの取り外し

- ▶ UFM からナイロン製ネジを取り外します (1)。
- ▶ UFM スペーサーを取り外します (2)。



図 346: UFM の取り付け

- ▶ UFM をシステムボードと残っている UFM スペーサーに接続します (1)。
- ▶ UFM をナイロン製ネジで UFM スペーサーに固定します (2)。

### 14.3.3.4 終了手順

- ▶ 該当する場合は、293 ページの「標準スロットの拡張カードの取り付け」の項に記載されているようにスロット 1 に拡張カードを取り付けます。
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」

### 14.3.3.5 ソフトウェアの構成

ESXi 構成を設定するには、VMware ESXi Recovery Tools CD が必要です。次の https アドレスの Fujitsu のサービスパートナーポータルから CD の ISO イメージをダウンロードできます。

<https://globalpartners.ts.fujitsu.com/com/service/ps/SERVERS/PRIMERGY/Pages/default.aspx>. (世界市場の場合)  
<http://support.ts.fujitsu.com/Download/> (日本市場)

- ▶ サインインしてご利用の PRIMERGY サーバを選択します。
- ▶ 「Software & Tools Documentation」というカテゴリを選択します。
- ▶ 「Tools」のリストから必要な ESXi Recovery CD ISO イメージをダウンロードします。
- ▶ 解凍してイメージを CD に焼きます。
- ▶ 他の USB ストレージデバイスが、UFM の他にサーバに接続されていないことを確認します。
- ▶ Recovery Tools CD を CD/DVD ドライブに挿入してサーバをリブートします。  
サーバが Recovery Tools CD からブートします。
- ▶ 画面の指示に従ってインストールを開始します。  
フラッシュプロセスが完了すると、システムをリブートするように指示されます。

## 14.4 TPM(セキュリティチップ)

### 14.4.1 TPM の取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：10 分

- 工具：
- ビットドライバ
  - TPM ビットインサート (\*)

(\*) 日本市場の場合：

- TPM モジュール取付工具 (S26361-F3552-L909)

#### 14.4.1.1 準備手順

- ▶ 107 ページ の「BitLocker 機能の中断」
- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、95 ページ の「ライザーモジュールの取り外し」の項に  
記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り外します。

### 14.4.1.2 TPM の取り付け

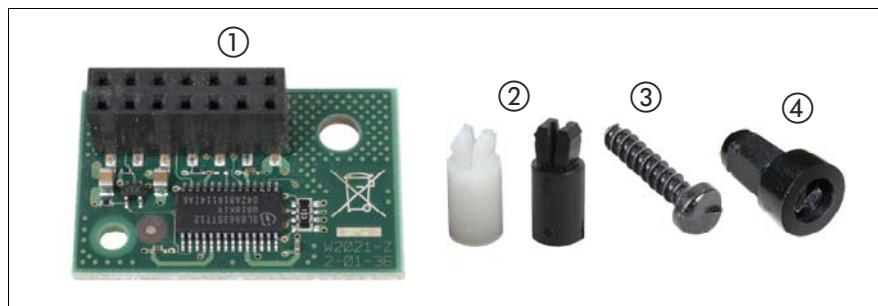


図 347: TPM 取り付けキット

|   |  |   |                                |
|---|--|---|--------------------------------|
| 1 | TPM (Trusted Platform Module)                            | 3 | TPM 専用ネジ                       |
| 2 | TPM スペーサー<br><br>i 黒色の TPM スペーサーは<br>このサーバには使用され<br>ません。 | 4 | TPM 用特殊ネジで使用する TPM<br>ビットインサート |

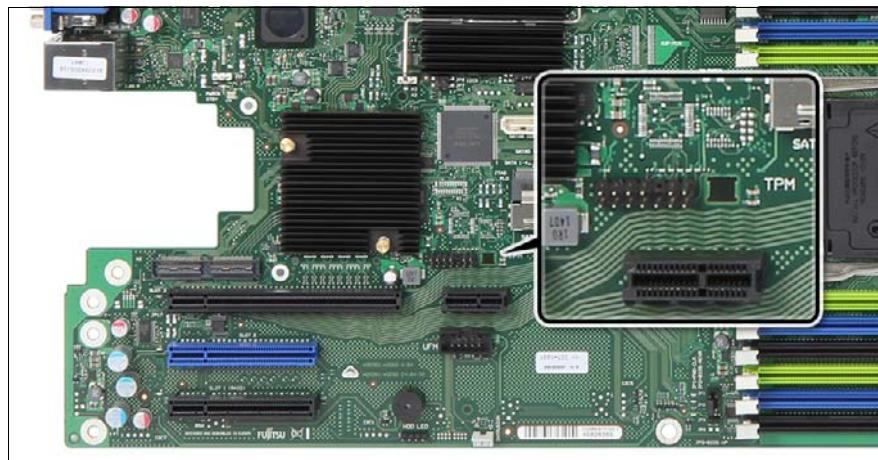


図 348: TPM の取り付け位置

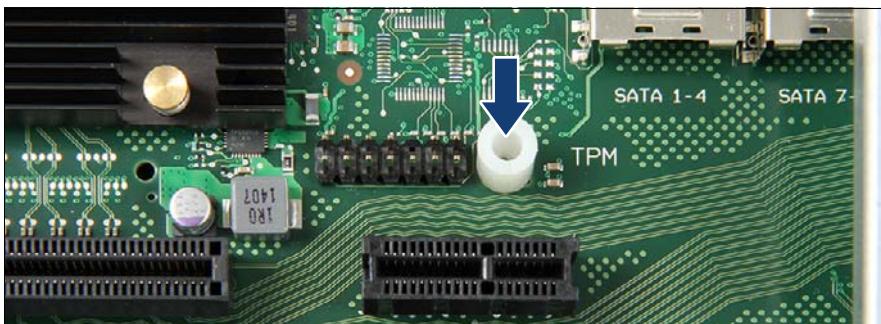


図 349: TPM スペーサーの取り付け

- ▶ TPM スペーサーをシステムボードの穴にはめ込みます。



図 350: TPM ビットインサート

- ▶ TPM ビットインサートまたは TPM モジュール取付工具（日本市場向け）にビットドライバを取り付けます。

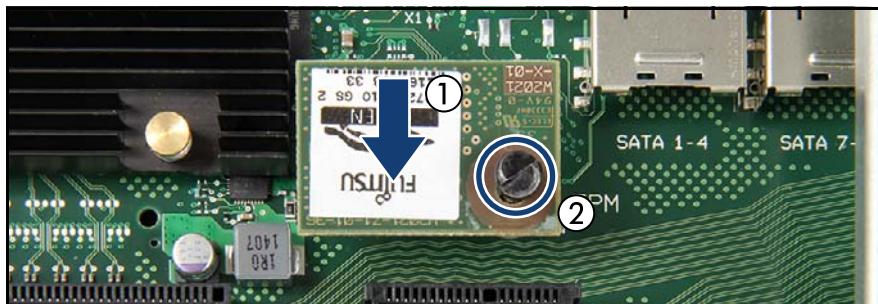


図 351: TPM の取り付け

- ▶ TPM をシステムボードに接続します（1）。
- ▶ TPM ビットインサーまたは TPM モジュール取付工具（日本市場向け）を使用して、TPM 用の特殊なネジで TPM を固定します（2）。



### 注意！

ネジをきつく締めすぎないでください。ネジ頭が TPM に軽く触れたら締めるのをやめます（トルク値 0.6 Nm）。

#### 14.4.1.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[92 ページ の「ライザーモジュールの取り付け」](#) の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り付けます。
- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[83 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#)
- ▶ [87 ページ の「サーバの電源投入」](#)
- ▶ TPM をシステムボード BIOS で有効にします。次の手順に従います。
  - ▶ サーバの電源を入れるか、再起動します。
  - ▶ スタートアップ画面が表示されたらすぐに [\[F2\] ファンクションキー](#) を押して、BIOS へ移動します。
  - ▶ 「Advanced」メニューを選択します。
  - ▶ 「Trusted Computing」サブメニューを選択します。
  - ▶ 「TPM Support」と「TPM State」の設定を「Enabled」に設定します。

- ▶ 「Pending TPM operation」で目的の TPM の動作モードを選択します。
  - ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。
- i** BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」

#### 14.4.2 TPM の取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 30 分

**工具 :** システムボードの取り外し :

- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

TPM の取り外し :

- ビットドライバ
- フラットノーズプライヤー
- TPM ビットインサート (\*)

(\*) 日本市場の場合 :

- TPM モジュール取付工具 (S26361-F3552-L909)



**注意 !**

TPM のバックアップコピーを提供するように、お客様に依頼してください。セキュリティ上の理由から、TPM はお客様によって復元 / 再保存する必要があります。新しいシステムボードを取り付けたら、TPM を有効にする必要があります。TPM データをクリアすることはできません。

お客様のもとにバックアップコピーがない場合は、TPM ボードを交換すると、すべてのデータが失われることを知らせてください。

### 14.4.2.1 準備手順

- ▶ TPM ボードを取り外す前に、コンピュータの BitLocker 保護を解除し、ボリュームを復号化する必要があります。
- ▶ システム管理者に連絡して、コントロールパネルまたは Windows エクスプローラーから BitLocker セットアップウィザードを使用して BitLocker 保護を無効にします。
- ▶ 「スタート」ボタンをクリックして、「コントロールパネル」から「セキュリティ」を選択し、「BitLocker ドライブ暗号化」をクリックして、BitLocker ドライブ暗号化を開きます。

**i** 管理者権限が必要です。管理者パスワードまたは確認を求められた場合は、パスワードを入力するか、確認します。

- ▶ BitLocker を無効にしてボリュームを復号化するには、「Turn Off BitLocker」をクリックし、次に「Decrypt the volume」をクリックします。

**i** ボリュームの復号化には時間がかかることがあります。ボリュームを復号化すると、コンピュータに保存されたすべての情報が復号化されます。

BitLocker ドライブ暗号化を無効にする方法については、Microsoft のサポート技術情報を参照してください。

Fujitsu Web ページで詳細情報をご確認ください（日本語版もあります）。

- ▶ システムボード BIOS で TPM を無効にします。次の手順に従います。
  - ▶ サーバの電源を入れるか、再起動します。
  - ▶ スタートアップ画面が表示されたらすぐに **[F2]** ファンクションキーを押して、BIOS へ移動します。
  - ▶ 「Advanced」メニューを選択します。
  - ▶ 「Trusted Computing」サブメニューを選択します。
  - ▶ 「TPM Support」と「TPM State」の設定を「Disabled」に設定します。
  - ▶ 変更を保存して BIOS を終了します。

**i** BIOS にアクセスして設定を変更する方法については、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」

- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、95 ページ の「ライザーモジュールの取り外し」の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り外します。
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

#### 14.4.2.2 TPM ボードの取り外し

- ▶ 486 ページ の「故障したシステムボードの取り外し」の項に記載されているように、システムボードを取り外します。
- ▶ 帯電を防止できる柔らかい場所にシステムボードを、コンポーネント側を下向きにして置きます。

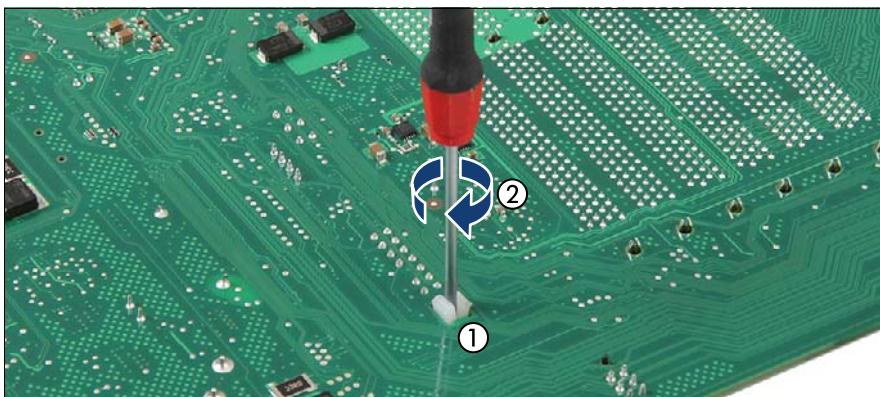


図 352: TPM 用ネジの取り外し

- ▶ TPM 用ネジの溝入りの下端を探します (1)。
- ▶ 細いマイナスドライバー（時計屋用のドライバーなど）または TPM 用精密マイナスドライバ（日本市場向け）を使用して TPM 用ネジを慎重に緩めます (2)。



**注意！**

取り外しには、ネジを必ず時計回りで回してください。

ネジが回り始めるまで、ゆっくりと慎重にネジへの圧力を上げます。ネジを緩めるときの力はできるだけ小さくしてください。逆に回した場合、金属の細い縦溝が破損し、ネジを外すことができなくなる可能性があります。

- ▶ TPM 用ネジを取り外します。
- ▶ システムボードの上面にある、TPM を取り外します。

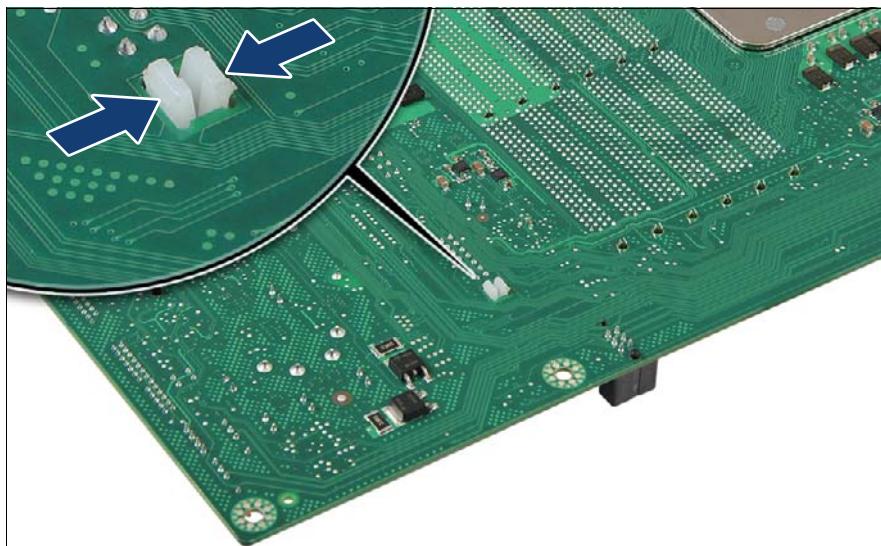


図 353: TPM スペーサーの取り外し

- ▶ フラットノーズプライヤーを使用して、TPM スペーサーのフックを両側から押し（拡大された部分を参照）、システムボードから取り外します。
- i** TPM を交換する場合、TPM スペーサーをシステムボードに残したままにできます。

### 14.4.2.3 終了手順

- ▶ 489 ページの「新しいシステムボードの取り付け」
- ▶ 91 ページの「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページの「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 該当する場合は、92 ページの「ライザーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り付けます。

- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
- ▶ [ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#)
- ▶ [87 ページ の「サーバの電源投入」](#)

### 14.4.3 TPM の交換



**フィールド交換可能ユニット  
(FRU)**



**平均作業時間 : 40 分**

**工具 :** システムボードの取り外し :

- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

**TPM の交換 :**

- ビットドライバ
- TPM ビットインサート (\*)
- フラットノーズプライヤー
- 細いマイナスドライバー (2 x 0.4 mm) (\*)

(\*) 日本市場の場合 :

- TPM 用精密マイナスドライバ (CWZ8291A)
- TPM モジュール取付工具 (S26361-F3552-L909)



**注意 !**

TPM の回復キーを提供するように、お客様に依頼してください。セキュリティ上の理由から、TPM はお客様によって復元 / 再保存する必要があります。新しいシステムボードを取り付けたら、TPM を有効にする必要があります。TPM データをクリアすることはできません。

お客様のもとに回復キーがない場合は、TPM ボードを交換すると、すべてのデータが失われることを知らせてください。

#### 14.4.3.1 準備手順

- ▶ [107 ページ の「BitLocker 機能の中断」](#)

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、95 ページの「ライザーモジュールの取り外し」の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り外します。

### 14.4.3.2 故障した TPM の取り外し

- ▶ 467 ページの「TPM の取り外し」の項に記載されているように、TPM を取り外します。
- ▶ 故障している TPM を取り外す場合は、システムボードに TPM スペーサーを残します。

### 14.4.3.3 新しい TPM の取り付け

-  TPM スペーサーは、システムボード上にすでにあります。
- ▶ 463 ページの「TPM の取り付け」の項に記載されているように、TPM を取り付けます。

### 14.4.3.4 終了手順

- ▶ 該当する場合は、92 ページの「ライザーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り付けます。
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」

## 14.5 SATA DOM(SATA Flash モジュール)

### 14.5.1 SATA DOM の取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要

#### 14.5.1.1 準備手順

- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、95 ページ の「ライザーモジュールの取り外し」の項に  
記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り外します。

#### 14.5.1.2 SATA DOM の取り付け



図 354: SATA DOM

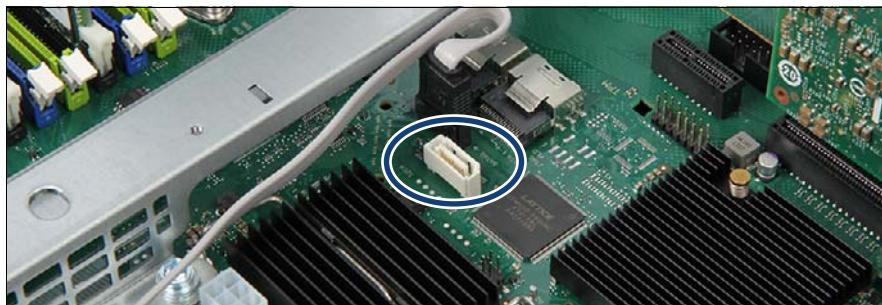


図 355: SATA DOM の位置



図 356: SATA DOM の取り付け

- SATA DOM を、システムボードのコネクタ SATA6 DOM に接続します。

### 14.5.1.3 終了手順

- 該当する場合は、92 ページ の「ライザーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り付けます。

**i** ライザーモジュールを挿入する場合は、ODD ケーブルに注意してください (ODD ケーブルの配線は、400 ページ の図 294 を参照)。

- 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- 84 ページ の「電源コードの接続」
- 87 ページ の「サーバの電源投入」
- 117 ページ の「システム情報のバックアップ / 復元の確認」

## 14.5.2 SATA DOM の取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間：5 分

工具： 工具不要

### 14.5.2.1 準備手順

- ▶ [56 ページ の「サーバのシャットダウン」](#)
- ▶ [57 ページ の「電源コードの取り外し」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[59 ページ の「サーバをラックから引き出す」](#)
- ▶ [62 ページ の「サーバを開ける」](#)
- ▶ 該当する場合は、[95 ページ の「ライザーモジュールの取り外し」](#) の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り外します。

### 14.5.2.2 SATA DOM の取り外し



図 357: SATA DOM の取り外し

- ▶ SATA DOM をコネクタから取り外します。

### 14.5.2.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、[92 ページ の「ライザーモジュールの取り付け」](#) の項に記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り付けます。
- ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)

- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 117 ページの「システム情報のバックアップ / 復元の確認」

### 14.5.3 SATA DOM の交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 5 分

工具 : 工具不要

#### 14.5.3.1 準備手順

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」。
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」。
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、95 ページの「ライザーモジュールの取り外し」の項に  
記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り外します。

#### 14.5.3.2 SATA DOM の交換

- ▶ 475 ページの「SATA DOM の取り外し」
- ▶ 473 ページの「SATA DOM の取り付け」

#### 14.5.3.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、92 ページの「ライザーモジュールの取り付け」の項に  
記載されているように、ライザーモジュール 1 を取り付けます。
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」

- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」
- ▶ 117 ページ の「システム情報のバックアップ / 復元の確認」

## 14.6 iRMC microSD カード (ライフサイクルマネジメントライセンス & モジュール)

**i** iRMC の embedded Lifecycle Management (eLCM) 機能を使用するには、iRMC microSD カードが必要です。iRMC microSD カードと共に必ず購入され、iRMC Web フロントエンドでアクティビ化された有効な eLCM ライセンスキーが必要です。詳細は、『ServerView embedded Lifecycle Management (eLCM)』ユーザガイドを参照してください。

### 14.6.1 iRMC microSD カードの取り付け



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 5 分

工具： 工具不要

#### 14.6.1.1 準備手順

- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、95 ページ の「ライザーモジュールの取り外し」の項に記載されているように、ライザーモジュール 2 を取り外します。

### 14.6.1.2 iRMC microSD カードの取り付け



図 358: iRMC microSD カード



図 359: iRMC microSD カードの取り付け

- ▶ ラベルを上に向けて iRMC microSD カードを最後まで microSD カードのスロットに挿入します。

#### 14.6.1.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、92 ページの「ライザーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、ライザーモジュール 2 を取り付けます。
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」
- ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 117 ページの「システム情報のバックアップ / 復元の確認」

#### 14.6.2 iRMC microSD カードの取り外し



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 5 分

工具：サイドカッティングプライヤー

#### 14.6.2.1 準備手順

- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、95 ページの「ライザーモジュールの取り外し」の項に記載されているように、ライザーモジュール 2 を取り外します。

### 14.6.2.2 iRMC microSD カードの取り外し

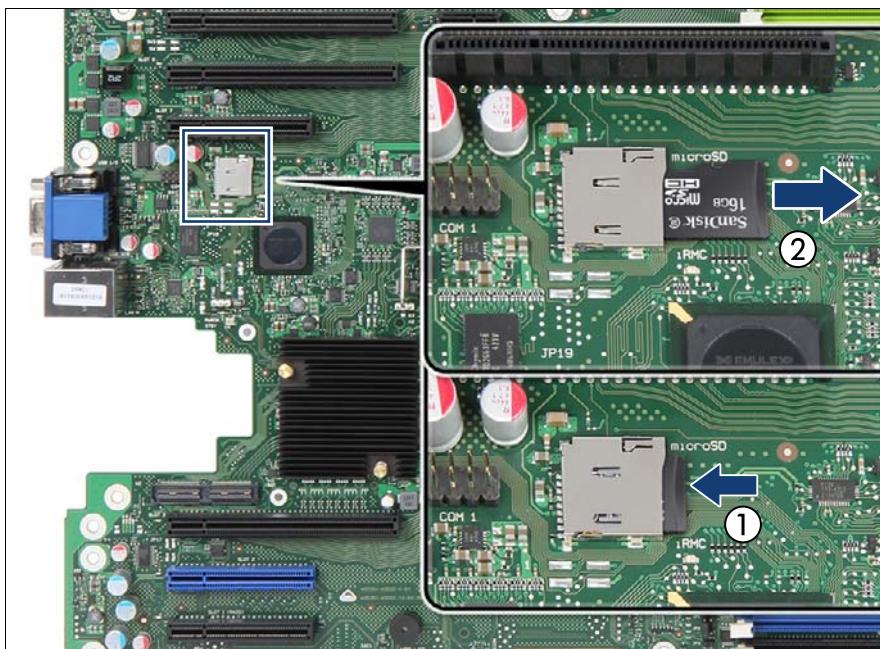


図 360: iRMC microSD カードの取り外し

- ▶ iRMC microSD カードを取り出すために、ゆっくり押し込んで、離します (1)。
- ▶ iRMC microSD カードをまっすぐスロットから引き出します (2)。

#### 故障した iRMC microSD カードの破壊



**注意！**

iRMC microSD カードには、ユーザ情報が含まれています。iRMC microSD カードを交換したら、故障したカードをユーザに返却してください。故障した iRMC microSD カードの廃棄をユーザに依頼された場合は、次の手順に従います。

- ▶ サイドカッティングプライヤーを使用して、iRMC microSD カードを 2 つに割ります。

### 14.6.2.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、92 ページの「ライザーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、ライザーモジュール 2 を取り付けます。
- ▶ 71 ページの「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページの「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページの「電源コードの接続」 ▶ 87 ページの「サーバの電源投入」
- ▶ 117 ページの「システム情報のバックアップ / 復元の確認」

### 14.6.3 iRMC microSD カードの交換



ユニットのアップグレード  
および修理 (URU)



平均作業時間 : 5 分

工具: サイドカッティングプライヤー

#### 14.6.3.1 準備手順

- ▶ 53 ページの「故障したサーバの特定」。
- ▶ 56 ページの「サーバのシャットダウン」。
- ▶ 57 ページの「電源コードの取り外し」。
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 59 ページの「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページの「サーバを開ける」
- ▶ 該当する場合は、95 ページの「ライザーモジュールの取り外し」の項に記載されているように、ライザーモジュール 2 を取り外します。

#### 14.6.3.2 iRMC microSD カードの交換

- ▶ 480 ページの「iRMC microSD カードの取り外し」
- ▶ 478 ページの「iRMC microSD カードの取り付け」

### 14.6.3.3 終了手順

- ▶ 該当する場合は、92 ページ の「ライザーモジュールの取り付け」の項に記載されているように、ライザーモジュール 2 を取り付けます。
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は 83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」 ▶ 87 ページ の「サーバの電源投入」
- ▶ 117 ページ の「システム情報のバックアップ / 復元の確認」

## 14.7 システムボード

### 14.7.1 システムボードの交換



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間：60 分

工具： システムボードの交換：

- プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ
- プロセッサソケットのスプリングを検査するための拡大鏡（推奨）

TPM の交換：

- ビットドライバ
- フラットノーズプライヤー
- TPM ビットインサート (\*)
- 細いマイナスドライバー (2 x 0.4 mm) (\*)

(\*) 日本市場の場合：

- TPM 用精密マイナスドライバ (CWZ8291A)
- TPM モジュール取付工具 (S26361-F3552-L909)

UFM が取り付けられている場合：

- プラス PH1 / (+) No. 1 ドライバ

DynamicLoM モジュールが取り付けられている場合：

- プラス PH0 / (+) No. 0 ドライバ
- 六角ドライバー 5mm

### TPM に関する注意事項



システムボードには、オプションで TPM (Trusted Platform Module) を搭載できます。このモジュールは、他メーカーのプログラムによるキー情報の保存を可能にします（たとえば、Windows Bitlocker Drive Encryption を使用したドライブの暗号化）。

TPM 機能を使用している場合は、故障したシステムボードから TPM を取り外して新しいシステムボードに接続する必要があります。詳細は、[471 ページ の「TPM の交換」の項](#)を参照してください。

TPM はシステム BIOS でアクティブ化されます。

#### 注意！

- システムボードを交換する前に、お客様に TPM 機能を使用しているかどうか確認してください。
  - TPM 機能を使用している場合は、古いシステムボードから TPM を取り外して新しいシステムボードに取り付ける必要があります。
- TPM のバックアップコピーを提供するように、お客様に依頼してください。セキュリティ上の理由から、TPM はお客様によって復元 / 再保存する必要があります。新しいシステムボードを取り付けたら、TPM を有効にする必要があります。TPM データをクリアすることはできません。
- お客様のもとにバックアップコピーがない場合は、TPM ボードを交換すると、すべてのデータが失われることを知らせてください。

### システム情報のバックアップ / 復元に関する注意事項



フロントパネルモジュールには、サーバ名やモデル、サーバ本体のタイプ、シリアル番号、製造データなどのシステム情報が格納されているシャーシ ID EEPROM が装着されています。

システムボードの交換時にデフォルト以外の設定が損失しないように、重要なシステム構成データのバックアップコピーがシステムボード NVRAM からシャーシ ID EEPROM に自動的に保存されます。システムボードを交換した後、バックアップデータはシャーシ ID ボードから新しいシステムボードに復元されます。

#### 注意！

このような理由から、フロントパネルモジュールとシステムボードは同時に交換しないでください！同時に交換すると、システムボードへのシステム構成データの復元が失敗します。

## ネットワーク設定のリカバリに関する注記



ネットワークコントローラまたはシステムボードを交換すると、オペレーティングシステムのネットワーク構成設定は失われ、デフォルト値に置き換えられます。これは全ての静的 IP アドレスと LAN チーミング設定に適用されます。

コントローラやシステムボードを交換する前に、現在のネットワーク設定を書き留めておきます。

### 14.7.1.1 準備手順

- ▶ [53 ページ の「故障したサーバの特定」](#)
- ▶ [485 ページ の「ネットワーク設定のリカバリに関する注記」](#)
- ▶ [107 ページ の「BitLocker 機能の中断」](#)
- ▶ [108 ページ の「SVOM Boot Watchdog 機能の無効化」](#)
- ▶ [56 ページ の「サーバのシャットダウン」](#)
- ▶ [57 ページ の「電源コードの取り外し」](#)
- ▶ 外部のケーブルをすべて取り外します。
- ▶ [147 ページ の「PSU モジュールの取り外し」](#)
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[59 ページ の「サーバをラックから引き出す」](#)
- ▶ タワーサーバを取り扱う場合は：サーバを横向きにします。
- ▶ [62 ページ の「サーバを開ける」](#)
- ▶ [88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」](#)
- ▶ [90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」](#)

## システムボードとコンポーネント

---

- ▶ 関連する項に示すように、以下のコンポーネントをシステムボードから取り外します。
  - ヒートシンク : [387 ページ の「プロセッサヒートシンクの取り外し」](#)  
 この時点では、プロセッサを故障したボードに取り付けたままにします。
  - メモリモジュール : [360 ページ の「メモリモジュールの取り外し」](#)  
 再組み立てのときのために、メモリモジュールの取り付け位置を必ずメモしておいてください。
  - 拡張カード :
    - [95 ページ の「ライザーモジュールの取り外し」](#)
    - [298 ページ の「標準スロットからの拡張カードの取り外し」](#)
    -  再組み立てのときのために、コントローラの取り付け位置とケーブル接続を必ずメモしておいてください。
  - UFM: [457 ページ の「UFM の取り外し」](#)  
 UFM ボードスペーサーを故障したシステムボードから取り外し、UFM ネジで UFM に固定します。
  - SATA DOM: [475 ページ の「SATA DOM の取り外し」](#)
  - iRMC microSD カード : [479 ページ の「iRMC microSD カードの取り外し」](#)
  - DynamicLoM モジュール : [340 ページ の「DynamicLoM モジュールの取り外し」](#)

### 14.7.1.2 故障したシステムボードの取り外し

- ▶ すべてのケーブルをシステムボードから取り外します。



図 361: クロスバーの取り外し

- ▶ クロスバーの 5 本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。
- ▶ クロスバーを取り外します。

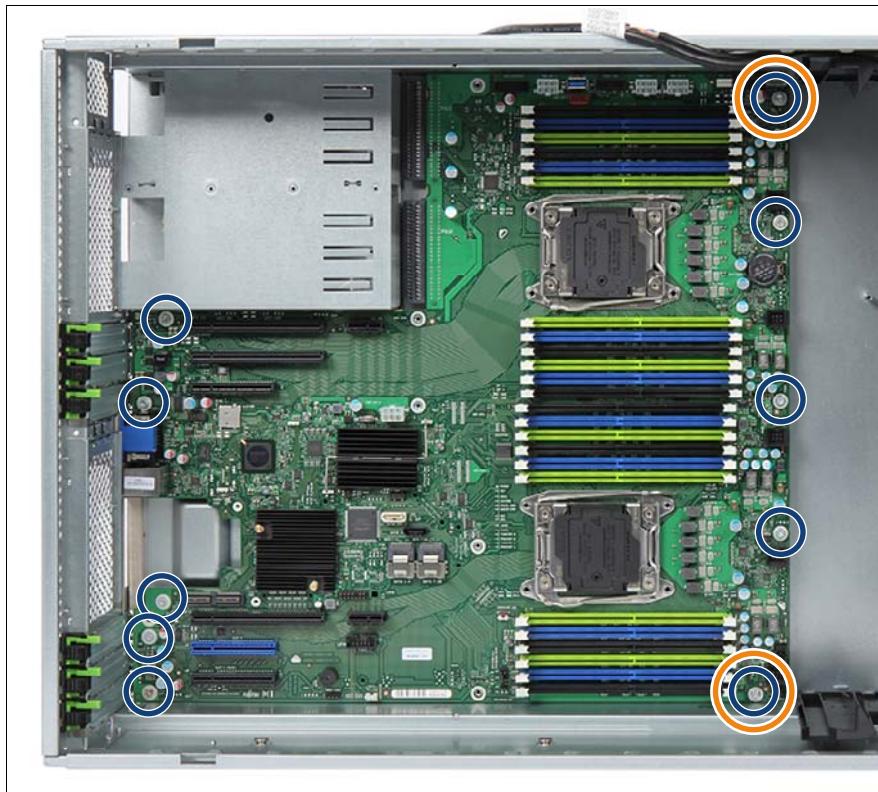


図 362: ネジの位置

- ▶ システムボードから 10 本 (DynamicLoM モジュール用ネジ 1 個を含む) のネジを取り外します（青色の丸で囲んだ部分、オレンジ色の丸はセンターリングボルトの位置を示します）。

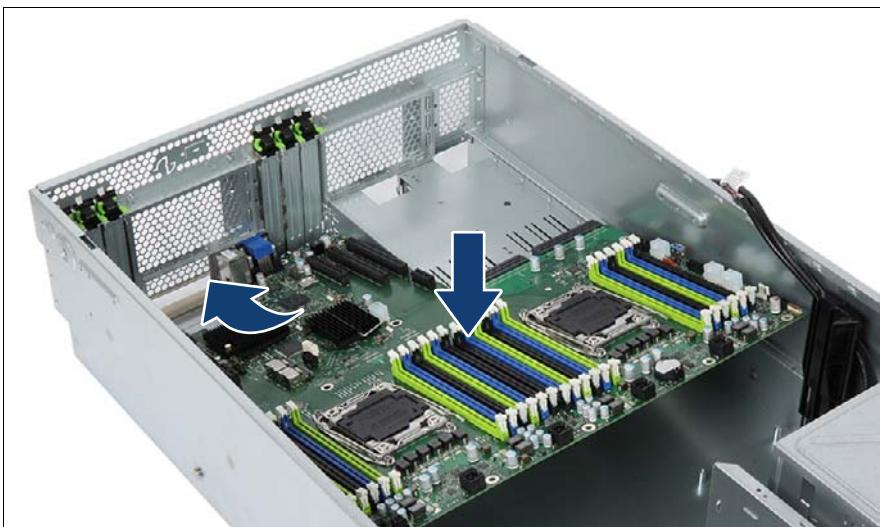


図 363: システムボードの取り外し

- 両手でシステムボードを少し傾けながら持ち上げて、シャーシから取り出します。これにより、コネクタパネルからコネクタを引き出します。



### 注意！

システムボードは必ず両手で持ってください。

システムボードを片側だけ持ち上げたり、ヒートシンクから持ち上げたりしないでください。ソケットとシステムボードの間にあるはんだ結合部が引っ張られ、破損や不具合が発生する可能性が高くなります。

EMC 指令への準拠、および冷却の要件と防火対策のために不可欠な EMI スプリングを破損しないでください。

- 取り外したシステムボードと新しいシステムボードを、帯電を防止できる場所に置きます。
- [467 ページ の「TPM の取り外し」](#) の項に記載されているように、TPM を取り外します。

#### 14.7.1.3 新しいシステムボードの取り付け

- 新しいシステムボードの設定を確認します（詳細は [565 ページ の「ジャンパ設定](#)」を参照）。

- ▶ システムボードをわずかに傾けて持ちながら挿入します。コネクタをコネクタパネルにスライドさせます ([489 ページ の図 363](#) を参照)。
- ▶ システムボードを慎重にシャーシに降ろします。
- ▶ システムボードを調節します ([488 ページ の図 362](#) のオレンジ色の丸はセンタリングボルトを示します)。
- ▶ システムボードを 10 本(DynamicLoM モジュール用ネジ 1 個を含む)のネジで固定します ([488 ページ の図 362](#) を参照)。
- ▶ クロスバーを挿入して 5 本のネジで固定します ([487 ページ の図 361](#) を参照)。
- ▶ [383 ページ の「プロセッサの取り外し」](#) の項に記載されているように、故障したシステムボードからプロセッサを取り外します。
- ▶ 新しいシステムボードのプロセッサ・ソケットからプラスチック製保護カバーを取り外し、故障しているシステムボードのソケットに取り付けます。故障しているシステムボードは予備部品庫に戻されます。



返却されたシステムボードにこのカバーがない場合、廃棄の対象になる可能性があります。

- ▶ [383 ページ の「プロセッサを取り付ける」](#) の項に記載されているように、新しいシステムボードにプロセッサを取り付けます。
- ▶ すべてのケーブルをシステムボードに再び接続します。

- フロントパネルケーブル
- 前面 USB ケーブル
- HDD バックプレーン用電源ケーブル
- HDD バックプレーン用 SATA ケーブル
- ODD 用 SATA ケーブル（該当する場合）



[400 ページ の図 294](#) のように、SATA ODD ケーブルをループバックして、クロスバーに沿って配線します。

- ODD 用電源ケーブル（該当する場合）
- 前面 VGA ケーブル（該当する場合）
- OOB ケーブル（該当する場合）
- I<sup>2</sup>C バスケーブル（該当する場合）

配線は [512 ページ の「ケーブル図」](#) の項を参照してください。

#### 14.7.1.4 終了手順

- ▶ 関連する項に示すように、残りすべてのシステムボードのコンポーネントを再び取り付けます。
  -  すべてのコンポーネントを元のスロットに取り付けます。
    - ヒートシンク : [385 ページ の「プロセッサヒートシンクの取り付け」](#)
    - メモリモジュール : [359 ページ の「メモリモジュールを取り付ける」](#)
    - DynamicLoM モジュール : [335 ページ の「DynamicLoM モジュールの取り付け」](#)
    - 拡張カード :
      - [293 ページ の「標準スロットの拡張カードの取り付け」](#)
      - [92 ページ の「ライザーモジュールの取り付け」](#)
    - UFM（該当する場合） : [454 ページ の「UFM の取り付け」](#)
    - TPM（該当する場合） : [463 ページ の「TPM の取り付け」](#)
    - SATA DOM（該当する場合） : [473 ページ の「SATA DOM の取り付け」](#)
    - iRMC microSD カード（該当する場合） : [477 ページ の「iRMC microSD カードの取り付け」](#)
  - ▶ [91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」](#)
  - ▶ [89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」](#)
  - ▶ [145 ページ の「PSU モジュールの取り付け」](#)
  - ▶ [71 ページ の「サーバを閉じる」](#)
  - ▶ 該当する場合は、システム BIOS の「Security」>「TPM (Security Chip) Setting」>「Security Chip」で TPM 機能をアクティビ化します。詳細は、『BIOS セットアップユーティリティ』リファレンスマニュアルを参照してください。
  - ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
[83 ページ の「ラックにサーバを格納する」](#)
  - ▶ 外部のケーブルをすべて再び接続します。
  - ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#) ▶ [87 ページ の「サーバの電源投入」](#)

- ▶ 115 ページの「システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ」
- ▶ 117 ページの「システム情報のバックアップ / 復元の確認」
- ▶ 129 ページの「システム時刻設定の確認」
- ▶ 134 ページの「変更された MAC/WWN アドレスの検索」
- ▶ 131 ページの「Linux/VMware 環境での NIC 構成ファイルのアップデート」
- ▶ 127 ページの「SVOM Boot Watchdog 機能の有効化」
- ▶ 132 ページの「BitLocker 機能の再開」
- ▶ 交換したコントローラ（拡張カードまたはオンボード）の元の構成に従って、オペレーティングシステムのネットワーク設定を再構成します。  
 ネットワーク設定の構成は、お客様が行います。詳細は、485 ページの「ネットワーク設定のリカバリに関する注記」項および 339 ページの「ソフトウェアの構成」の項を参照してください。
- ▶ 該当する場合は、137 ページの「システムボードの交換後」の項に記載されているように、LAN チーミング構成を復元します。

# 15 タワーモデルをラックモデルに変換する



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間：20 分

- 工具： - プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバー  
- マイナスドライバー

## 安全上の注意事項

詳細は、[41 ページの「注意事項」](#) の章を参照してください。

### 15.1 準備手順

- ▶ [56 ページ の「サーバのシャットダウン」](#)
- ▶ [57 ページ の「電源コードの取り外し」](#) ▶ 外部のケーブルをすべて取り外します。
- ▶ [62 ページ の「サーバを開ける」](#)
  - i フロントカバーは不要になります。
- ▶ [106 ページ の「フットスタンドの取り外し」](#)

## 15.2 タワーモデルをラックモデルに変換する

右側のサイドカバーの取り外し



図 364: ポルトの取り外し

- ▶ 必要に応じて、ボルトを取り外します（丸で囲んだ部分）。



図 365: 右側のサイドカバーの取り外し (A)

- ▶ サーバの背面の 3 本のネジを取り外します（丸で囲んだ部分）。

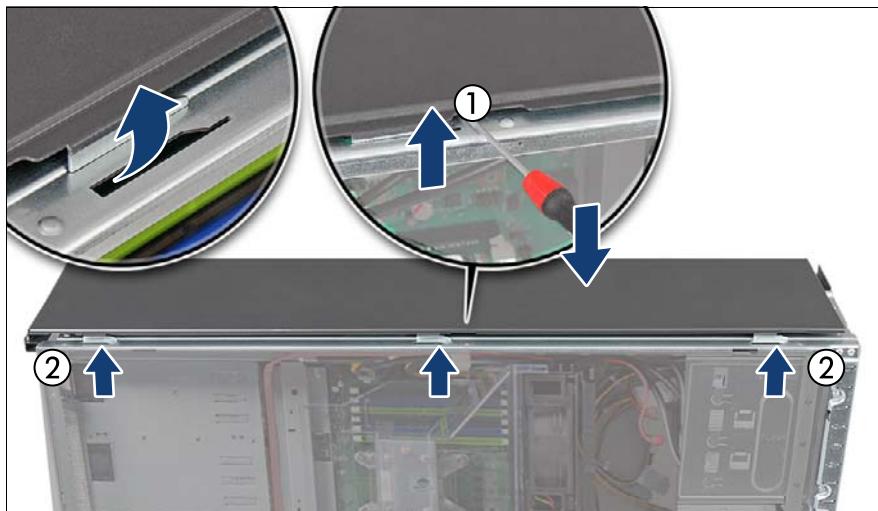


図 366: 右側のサイドカバーの取り外し (B)

- ▶ 右側のカバーをサーバ背面方向に最後までスライドさせます。
  - ▶ 右側の 3 つのフックがシャーシの上端のスロットの幅の広い方の終点に固定されていることを確認します（拡大部分を参照）。
  - ▶ 右側のサイドカバーの 3 つのフックをシャーシの上端のスロットから外します。
    - ▶ マイナスドライバーをてことして使用して、外れるまでロックングタブを持ち上げます (1)。
    - ▶ 右側のサイドカバーの両端を引き上げて、左右のフックをシャーシの上端のスロットから外します (2)。
  - ▶ すべてのケーブルとコンポーネントがサーバ内部に正しく固定され、緩んだ部分がないことを確認します。
  - ▶ サーバをゆっくりと裏返します。
- i** 最大構成のサーバを裏返すには、最低 2 人必要です。作業しやすくするために、ハードディスクドライブと電源モジュールを取り外します。

- ▶ 右側のサイドカバーを持ち上げて取り外します。



右側のサイドカバーは不要になります。

- ▶ サーバは上下逆のままにします。

### グライダー脚の取り外し

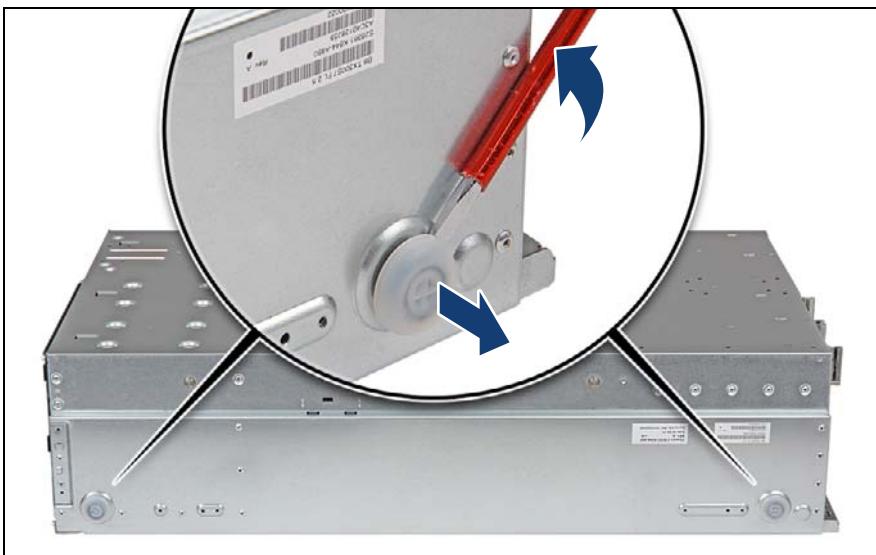


図 367: グライダー脚の取り外し

- ▶ マイナスドライバーをてことして使用して、外れるまで各グライダー脚を少し持ち上げます。
- ▶ サーバを横向きに置きます。



最大構成のサーバを裏返すには、最低 2 人必要です。作業しやすくするために、ハードディスクドライブと電源モジュールを取り外します。

### アクセス可能なドライブケージの取り外し

- ▶ [437 ページ の「フロントパネルモジュールの取り外し」](#) の項に記載されているように、フロントパネルモジュールを取り外します。
- ▶ 該当する場合は、[402 ページ の「アクセス可能なドライブの取り外し」](#) の項に記載されているように、アクセス可能なドライブをすべて取り外します。
- ▶ 該当する場合は、[236 ページ の「HDD 拡張ボックス」](#) の項に記載されているように、HDD 拡張ボックスを取り外します。



図 368: アクセス可能なドライブケージを取り外す (A)

- ▶ 2 本のネジ（丸で囲んだ部分）をサーバの底面から取り外します。
  - ▶ サーバを横向きに置きます。
- i** 最大構成のサーバを裏返すには、最低 2 人必要です。作業しやすくするために、ハードディスク ドライブと電源モジュールを取り外します。



図 369: アクセス可能なドライブケージを取り外す (B)

- ▶ シャーシの右端から 2 本のネジを取り外します (1)。
- ▶ シャーシの上端の 2 本のネジを取り外します (2)。

## タワーモデルをラックモデルに変換する

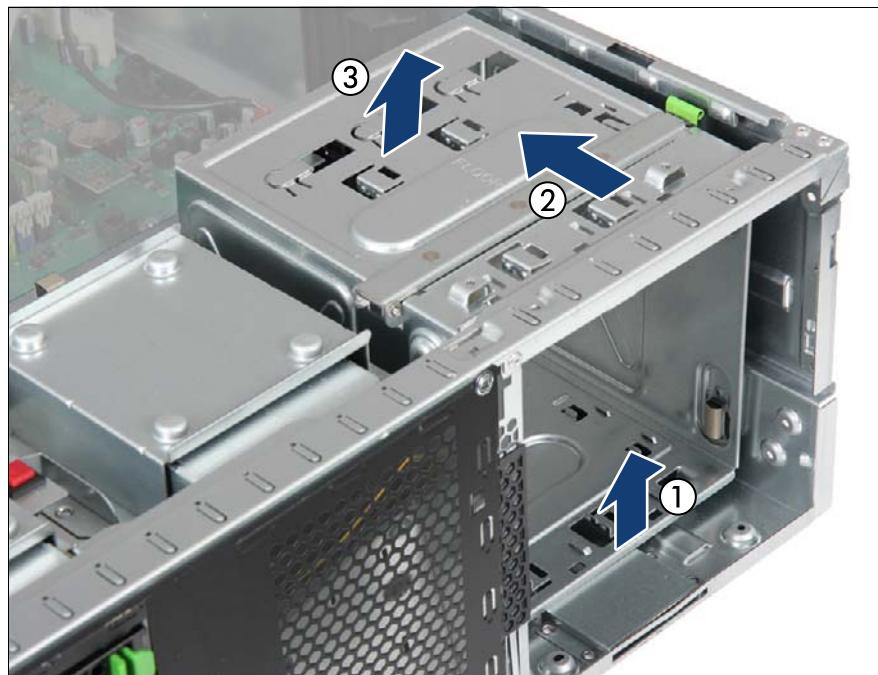


図 370: アクセス可能なドライブケージの取り外し

- ▶ アクセス可能なドライブケージを少し持ち上げ、その前面の下端をシャーシフロアのスロットから取り外します（1）。
- ▶ 図のように、アクセス可能なドライブカバーをシャーシフレームの下からスライドさせます（2）。
- ▶ アクセス可能なドライブケージをシャーシから持ち上げます（3）。

ネジ穴付きボルトの位置の変更

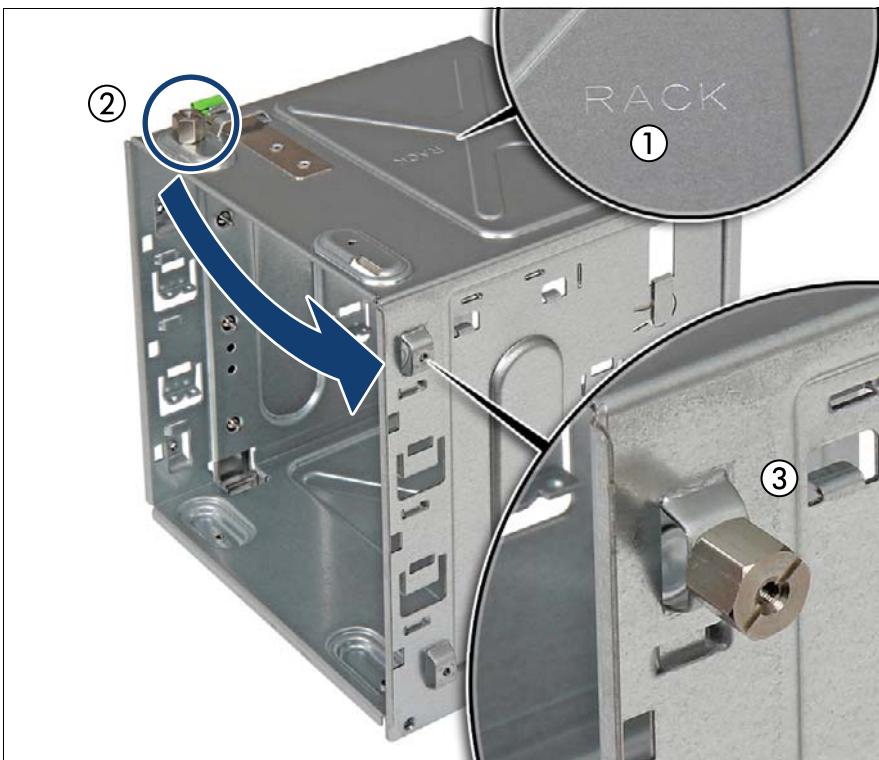


図 371: ネジ穴付きボルトの位置の変更

- ▶ 「RACK」というマークが上を向くように、アクセス可能なドライブケージを回転させます（1、拡大された部分を参照）。
- ▶ ネジ穴付きボルトをアクセス可能なドライブケージの上端から取り外します（2）。
- ▶ 図のように、アクセス可能なドライブケージの端にネジ穴付きボルトを再び取り付けます（3、拡大された部分を参照）。

## タワーモデルをラックモデルに変換する

### アクセス可能なドライブの再取り付け

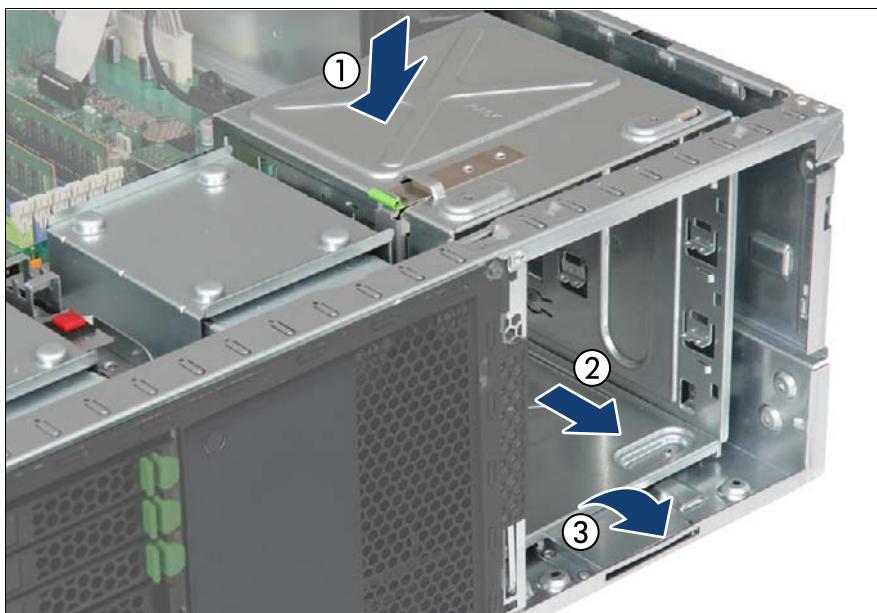


図 372: アクセス可能なドライブケージの取り付け

- ▶ 「RACK」というマークが上を向くように、アクセス可能なドライブケージをシャーシに降ろします (1)。
- ▶ アクセス可能なドライブケージをサーバ前面方向に最後までスライドさせます (2)。
- ▶ アクセス可能なドライブケージの前面の下端が、シャーシフロアのスロットに正しく固定されていることを確認します (3)。



図 373: アクセス可能なドライブケージを固定する (A)

- ▶ アクセス可能なドライブケージを 2 本のネジでシャーシの右端に固定します (1)。
- ▶ アクセス可能なドライブケージを 2 本のネジでシャーシの上端に固定します (2)。
- ▶ すべてのケーブルとコンポーネントがサーバ内部に正しく固定され、緩んだ部分がないことを確認します。



図 374: アクセス可能なドライブケージを固定する (B)

- ▶ サーバをゆっくりと裏返します。
- i** 最大構成のサーバを裏返すには、最低 2 人必要です。作業しやすくするために、ハードディスクドライブと電源モジュールを取り外します。
- ▶ アクセス可能なドライブケージを 2 本のネジでシャーシの底面に固定します（丸で囲んだ部分）。
- i** 正しいネジの位置に注意してください。タワー構成で使用される右側のネジ穴は、空いたままになります。
- ▶ [440 ページ の「フロントパネルモジュールの取り付け」](#) の項に記載されているように、フロントパネルモジュールを取り付けます。
- ▶ 該当する場合は、[398 ページ の「アクセス可能なドライブの取り付け」](#) の項に記載されているように、アクセス可能なドライブをすべて取り付けます。
- ▶ 該当する場合は、[236 ページ の「HDD 拡張ボックス」](#) の項に記載されているように、HDD 拡張ボックスを取り付けます。

### イントリュージョンスイッチの準備

- ▶ [537 ページ の「イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し」](#) の項に記載されているように、イントリュージョンスイッチを取り外します。
- ▶ [539 ページ の「イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し」](#) の項に記載されるように、ゴム製のバンパー (C26192-Y26-C43) を前面のイントリュージョンスイッチに取り付けて、イントリュージョンスイッチモジュールを再び取り付けます。

### ラックフロントカバーの組み立て



図 375: クイックリリースレバー付きラック取り付け用ブラケット

**i** ラックフロントカバーは、プラスチック製フレームと、2つのクイックリリースレバー付きラック取り付け用ブラケットで構成されます。

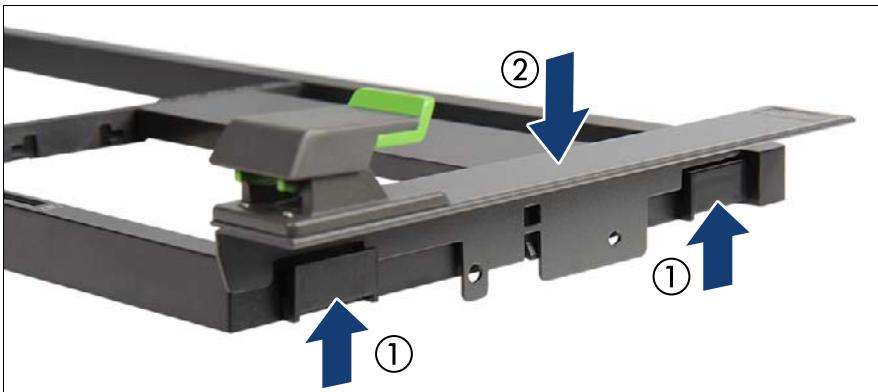


図 376: ラック取り付け用ブラケットを取り付ける

- ▶ FUJITSU ロゴ付きのラック取り付け用ブラケットを、ラックの前面ベゼルの右側にある2つのフックに合わせます(1)。
- ▶ ラック取り付け用ブラケットがラックの前面ベゼルに完全に固定されるまで、しっかりと押し下げます(2)。
- ▶ 2つ目のラック取り付け用ブラケットを、ラックの前面ベゼルの左側に同様にして取り付けます。

## タワーモデルをラックモデルに変換する



図 377: アクセス可能なドライブのダミーカバーの取り付け

- ▶ 該当する場合は、すべてのアクセス可能なドライブのダミーカバーを元のペイにすべて再び取り付けます（90度回転）。
  - ▶ アクセス可能なドライブフィラーカバーが空いている各ドライブペイに取り付けられていることを確認します。
  - ▶ フロントカバーを裏返します。
  - ▶ アクセス可能なドライブカバーの片方の端にある2つの突起を、フロントカバーの右内側の端に結合します（1）。
  - ▶ 所定の位置にはまるまで、アクセス可能なドライブカバーを倒します（2）。
- ▶ **i** 準備手順のときにフロントカバーから取り外したダミーカバーを使用します。
- ▶ [71ページの「ラックの取り付けフレームの取り付け」](#)の項に記載されているように、ラックフロントカバーを取り付けます。

## 15.3 終了手順

- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ 『Rack Mounting Kit - RMK-F2 Drop-In』の取り付け手順に記載されているように、サポートブラケットとラック取り付けレールをラックに取り付けます。
-  ドキュメントは、オンラインで入手できます  
(<http://manuals.ts.fujitsu.com> (日本市場向け :  
<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>)。ラック取り付けキットに、印刷されたポスターが付属しています。
- ▶ 81 ページ の「ラックへサーバを取り付ける」
- ▶ 外部のケーブルをすべて再び接続します。
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」
- ▶ フロントパネルボードに取り付けられているシャーシ ID EEPROM 上のサーバのシャーシ情報をアップデートします。*ChassisId\_Prom Tool* の取得および使用方法の詳細は、136 ページ の「シャーシ ID Prom Tool の使用」の項を参照してください。
- ▶ 138 ページ の「シャーシモデルの指定」の項に記載されているように、シャーシモデルの設定を「ラックサーバ」に変更します。

## タワーモデルをラックモデルに変換する

---

# 16 ケーブル配線

## 安全上の注意事項



### 注意！

- ケーブルを取り外す際は、必ずコネクタを持って取り外してください。ケーブル部分を引っ張って取り外さないでください。
- システムコンポーネントの交換時に、ケーブルが擦りむけたり、歪んでいたり、破損していないことを確認してください。
- シールドが破損しているケーブルは、直ちに交換してください。
- 必ずシールドケーブルを使用してください。

## 16.1 使用ケーブルのリスト



ケーブルリストの番号は、配線図に示される番号に対応します。

| 番号                 | 名称                    | 番号                | 配線  |
|--------------------|-----------------------|-------------------|---|
| <b>基本</b>          |                       |                   |   |
| C1                 | CBL_FRONTPANEL        | T26139-Y4015-V301 | フロントパネルモジュールからシステムボード   |
| C2                 | CBL_USB_30_650        | T26139-Y3999-V505 | USB 3.0 バックアップドライブから前面 USB 3.0                                |
| C3                 | CBL_SATA_780          | T26139-Y4028-V303 | ODD - システムボード   |
| C4                 | CBL_INTRUSION_SW      | T26139-Y3922-V121 | サーバサイドおよび前面からシステムボード  |
| C5                 | CBL_PWR_2x4P          | T26139-Y3959-V305 | パワーバックプレーンから 2.5 インチ HDD バックプレーン /HDD 拡張ボックス /PCIe SSD 拡張ボックス |
| C6                 | CBL_PWR_6P_6P         | T26139-Y3959-V306 | パワーバックプレーンから 3.5 インチ HDD バックプレーン /HDD 拡張ボックス                  |
| C8                 | CBL_PWR_4P_2x4P       | T26139-Y3959-V307 | パワーバックプレーンから HDD バックプレーン /HDD 拡張ボックス                          |
| C9                 | CBL SAS MINI HD_620   | T26139-Y4040-V1   | パワーバックプレーンからシステムボードの SATA                                     |
| C10                | CBL HOST-BP 620       | T26139-Y4040-V10  | SAS バックプレーンから HDD 拡張ボックスまたはシステムボード                            |
| C11                | CBL_SAS3.0_320        | T26139-Y4040-V7   | SAS バックプレーンから SAS 3.0 エクスパンダボード                               |
| <b>アクセス可能なドライブ</b> |                       |                   |   |
| C20                | CBL_USB30_Dev         | T26139-Y4039-A80  | USB 3.0 バックアップドライブから USB 3.0 INT                              |
| C21                | CBL_SAS_Dev_PwSig     | T26139-Y4044-V2   | SAS バックアップドライブからシステムボード SAS 3.0 スロット 2/3                      |
| C23                | CBL_SATA_Slim_Pow_400 | T26139-Y3986-V302 | 薄型 ODD から CBL PWR (C8)  |

表 5: 使用ケーブルのリスト

| 番号               | 名称                   | 番号                | 配線   |
|------------------|----------------------|-------------------|--|
| C24              | CBL_PATA_Dev_Pow_410 | T26139-Y4029-V1   | バックアップドライブから<br>CBL PWR (C8)                 |
| C25              | CBL_SATA_FULL_Pow    | T26139-Y3930-V601 | ODD to CBL PWR (C8)                          |
| C26              | CBL_SAS_Exp_Pow      | T26139-Y3959-V354 | SAS エキスパンダボードから<br>SAS バックプレーン               |
| C27              | CBL_HOST_BPL_800     | T26139-Y4040-V46  | PCIe SSD バックプレーンから<br>PCIe スイッチ              |
| <b>その他のオプション</b> |                      |                   |  |
| C30              | CBL_Front_VGA        | T26139-Y3994-V301 | サーバ前面からシステムボード                               |
| C31              | CBL_COM_300          | T26139-Y3589-V651 | ケース背面からシステムボードコネクタ COM 1                     |
| C32              | CBL TPM_FBU02        | T26139-Y4031-V102 | FBU - TFM                                    |
| C35              | CBL_HDD_non_hplg     | T26139-Y4040-V29  | SAS 3.0 拡張ボードからホットプラグではない 2x 2.5 インチ HDD/SSD |
| C36              | CBL_OOB_4BPL         | T26139-Y4015-V607 | システムボード - バックプレーン                            |
| C37              | CBL_OOB_6BPL         | T26139-Y4015-V606 | システムボード - バックプレーン                            |
| C40              | CBL_LVP_700          | T26139-Y3718-V301 | LSD- システムボード                                 |
| C41              | CBL_ODD_Pwr          | T26139-Y3986-V305 | 薄型 ODD から CBL PWR (C8) - マルチベイボックス           |

表 5: 使用ケーブルのリスト

## 16.2 ケーブル図

### 配線図の概要

#### 基本的なケーブル配線

- 514 ページ の「基本ケーブル配線 : フロントパネルとイントリュージョンスイッチ」

#### 電源ケーブル配線

- 514 ページ の「電源ケーブル配線 : 4 x / 8 x 3.5 インチ HDD およびアクセス可能なドライブ」
- 515 ページ の「電源ケーブル配線 : 8 x 2.5 インチ HDD およびアクセス可能なドライブ」
- 515 ページ の「電源ケーブル配線 : 8x/16x/24x 2.5 インチ HDD、アクセス可能なドライブ、SAS 3.0 拡張ボード A3C40181407」
- 516 ページ の「電源ケーブル配線 : 4 x / 8 x / 12 x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40181407」
- 517 ページ の「電源ケーブル配線 : 24 x / 32 x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40176099」
- 518 ページ の「電源ケーブル配線 : 8x 2.5 インチ PCIe SSD SSF」
- 519 ページ の「電源ケーブル : LTO」

#### SAS ケーブル配線

- 520 ページ の「SAS ケーブル配線 : 4x/8x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 コントローラ」
- 520 ページ の「SAS ケーブル配線 : 8x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 コントローラ」
- 521 ページ の「SAS ケーブル配線 : 8 x / 12 x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40181407」
- 522 ページ の「SAS ケーブル配線 : 2x 2.5 インチホットプラグ非対応 HDD/SSD/12x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 エキスパンダボード A3C40181407」
- 523 ページ の「SAS ケーブル配線 : 16 x / 24 x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40181407」
- 524 ページ の「SAS ケーブル配線 : 32 x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40176099」

- 525 ページ の「SAS ケーブル配線 : 16x 2.5 インチおよび 4x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40181407」
- 525 ページ の「SAS ケーブル配線 : 8x 3.5 インチおよび 8x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40181407」
- 526 ページ の「SAS ケーブル配線 : 24x 2.5 インチおよび 4x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40176099」
- 527 ページ の「SAS ケーブル配線 : 24x 2.5 インチおよび アクセス可能な ドライブ および SAS 3.0 拡張ボード A3C40176099」

#### PCIe ケーブル配線

- 528 ページ の「PCIe ケーブル配線 : 8x 3.5 インチ HDD、4x/8x 2.5 インチ PCIe SSD」
- 529 ページ の「PCIe ケーブル配線 : 16x 2.5 インチ HDD、4x/8x 2.5 インチ PCIe SSD および SAS 3.0 エキスパンダボード A3C40181407」
- 530 ページ の「PCIe ケーブル配線 : 24x 2.5 インチ HDD、4x/8x 2.5 インチ PCIe SSD および SAS 3.0 エキスパンダボード A3C40176099」

#### Options

- 531 ページ の「オプション : シリアルインタフェース」
- 531 ページ の「オプション : SAS 3.0 FBU ケーブル配線」
- 532 ページ の「オプション : 3 台の HDD バックプレーンおよび PSAS HBA 用 OOB」
- 532 ページ の「オプション : 6 台の HDD バックプレーンおよび PSAS HBA 用 OOB」
- 533 ページ の「オプション : 2 台の SSD バックプレーン用 OOB」
- 534 ページ の「マルチベイボックスと薄型 ODD および LSD のケーブル 接続」

#### SATA ケーブル配線

- 534 ページ の「SATA ケーブル配線 : 4 x / 8 x 3.5 インチ SATA HDD およ びアクセス可能なドライブ」
- 535 ページ の「SATA ケーブル配線 : 8 x 2.5 インチ SATA HDD およびア クセス可能なドライブ」

## ケーブル配線

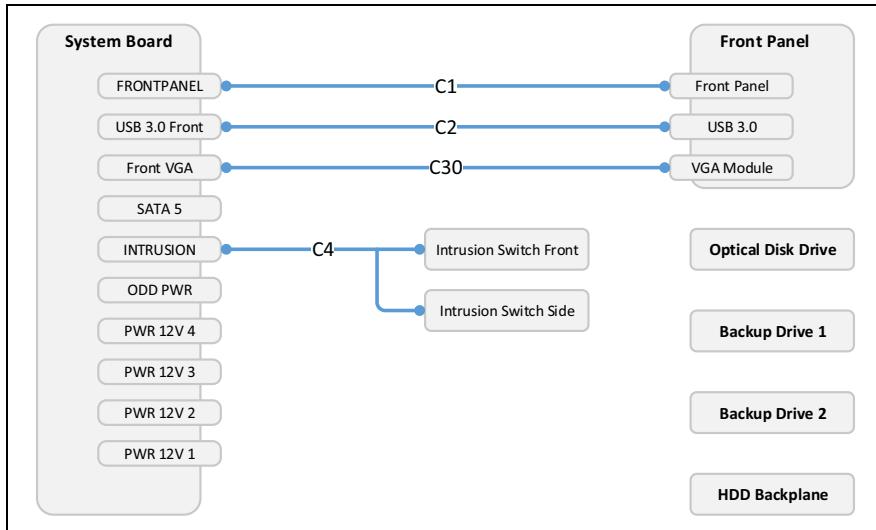


図 378: 基本ケーブル配線：フロントパネルとイントリュージョンスイッチ

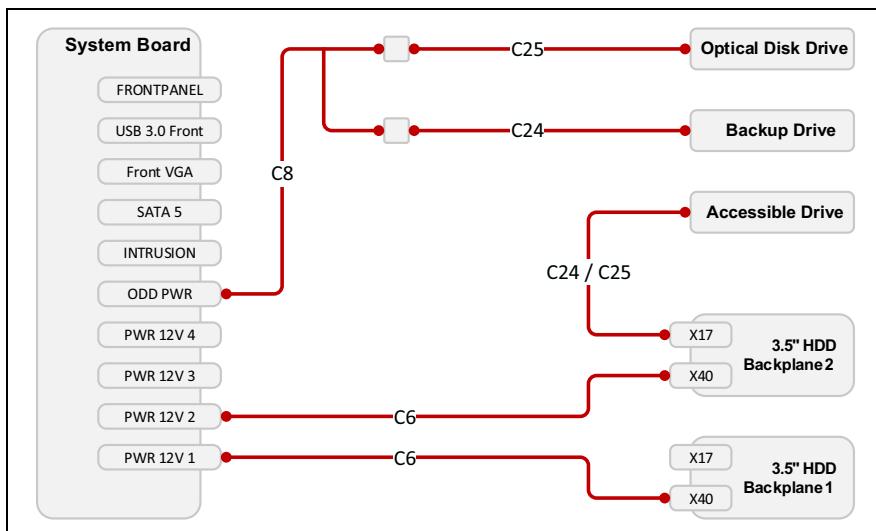


図 379: 電源ケーブル配線：4 x / 8 x 3.5 インチ HDD およびアクセス可能なドライブ

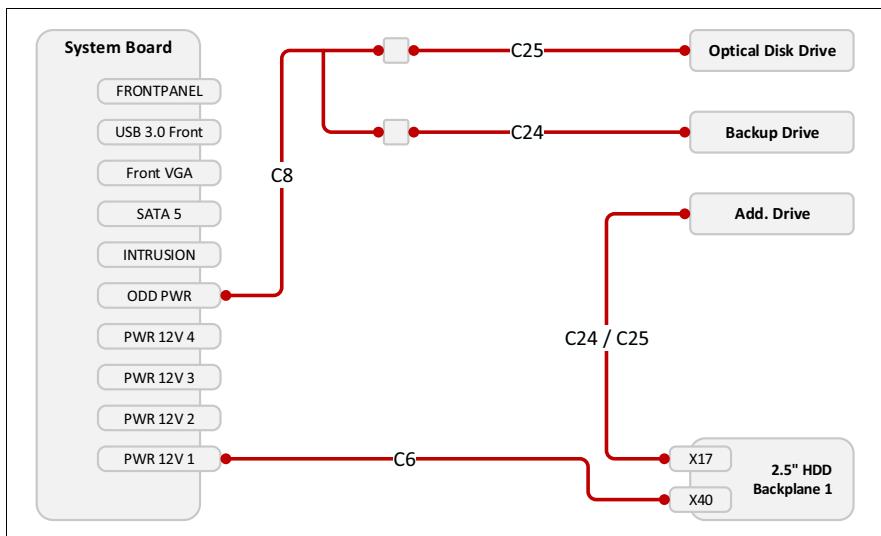


図 380: 電源ケーブル配線 : 8 x 2.5 インチ HDD およびアクセス可能なドライブ

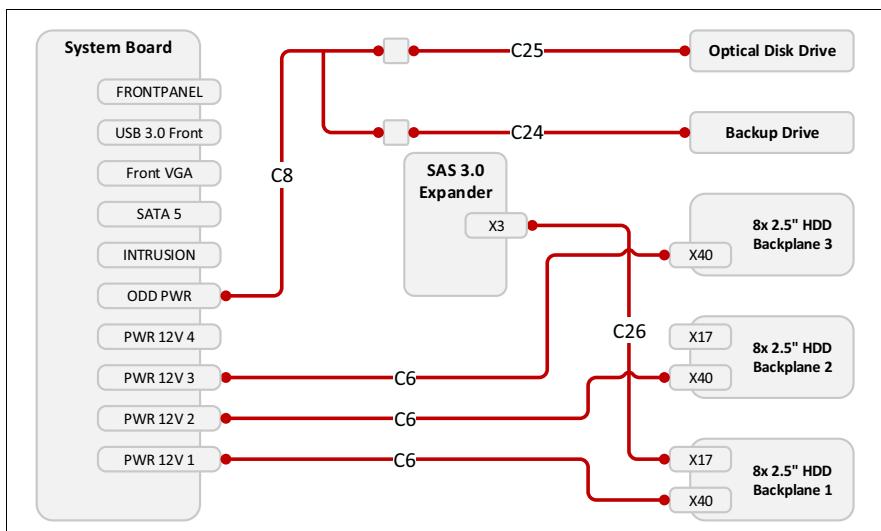


図 381: 電源ケーブル配線 : 8x/16x/24x 2.5 インチ HDD、アクセス可能なドライブ、SAS 3.0 拡張ボード A3C40181407

## ケーブル配線

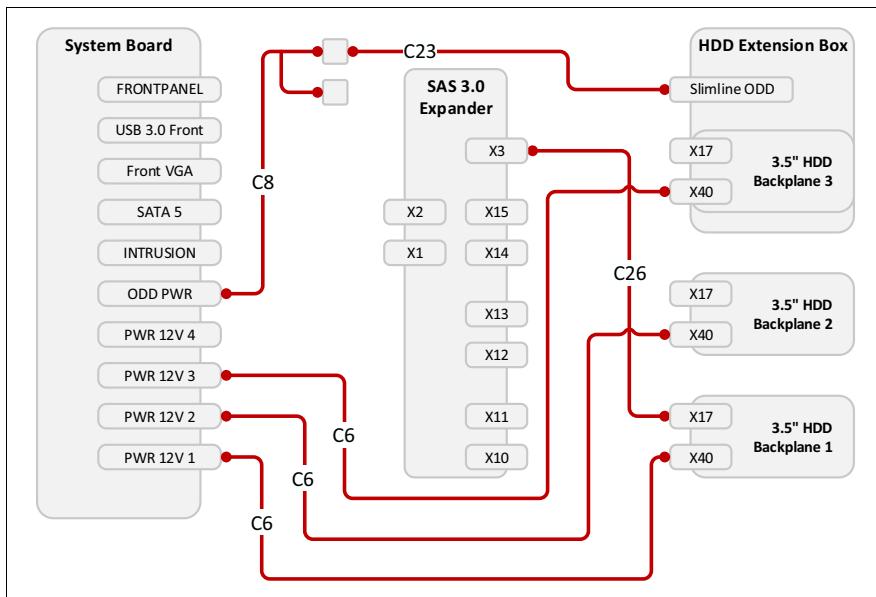


図 382: 電源ケーブル配線 : 4 x / 8 x / 12 x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード  
A3C40181407

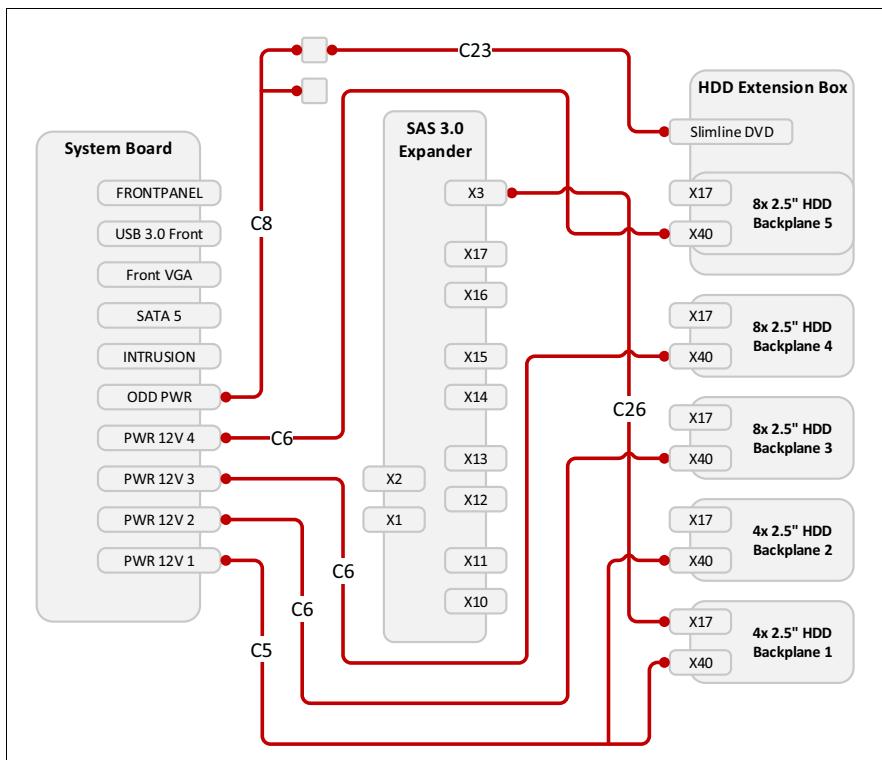


図 383: 電源ケーブル配線 : 24 x / 32 x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード  
A3C40176099

## ケーブル配線

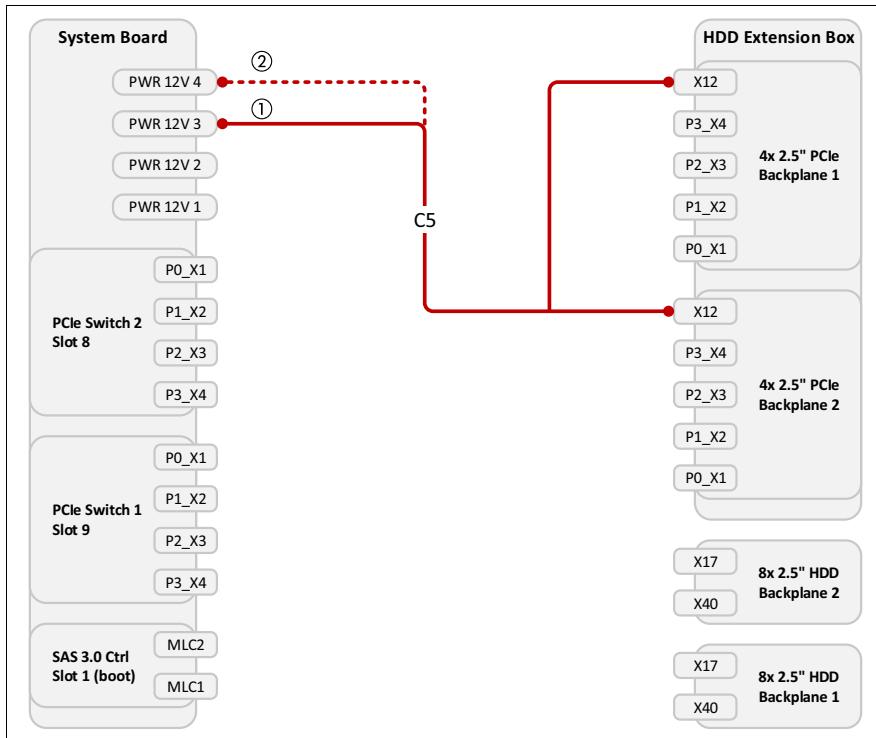


図 384: 電源ケーブル配線 : 8x 2.5 インチ PCIe SSD SSF

| 位置 | 接続（点線はその他の接続を示します）   |
|----|--|
| 1  | 最大 8x/16x HDD/SSD モジュールおよび最大 8 台の PCIe SSD の構成で PWR 12V3 に接続 |
| 2  | 最大 24x HDD/SSD モジュールおよび最大 8 台の PCIe SSD の構成で PWR 12V4 に接続    |

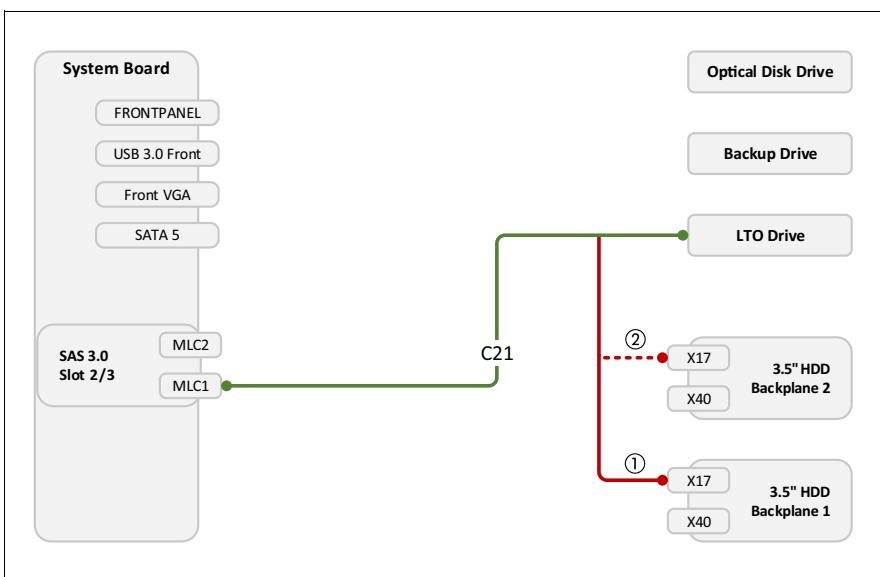


図 385: 電源ケーブル : LTO

| 位置 | 接続（点線はその他の接続を示します）   |
|----|--|
| 1  | 拡張ボードを使用しない構成で HDD バックプレーン 1 に接続                           |
| 2  | 拡張ボードを使用する構成で HDD バックプレーン 2 に接続（点線は、以前と同じプラグへのその他の接続を示します） |

## ケーブル配線

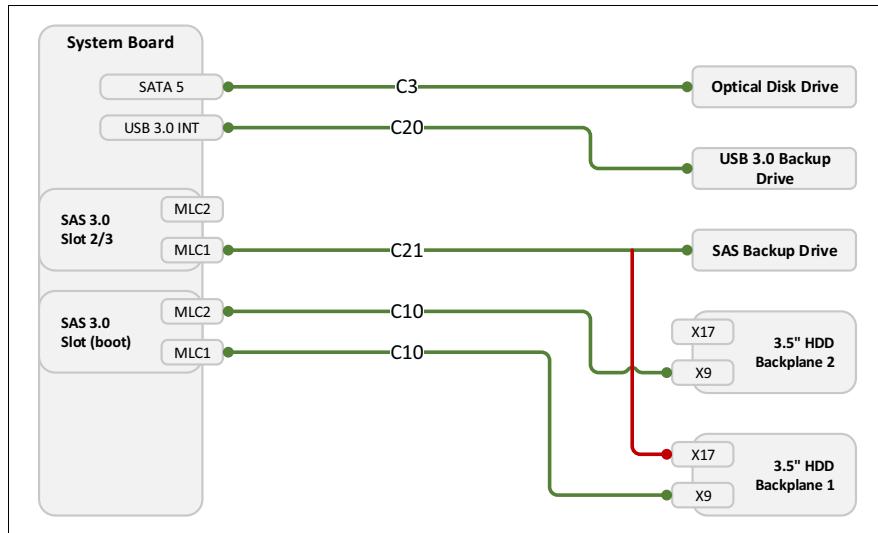


図 386: SAS ケーブル配線 : 4x/8x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 コントローラ

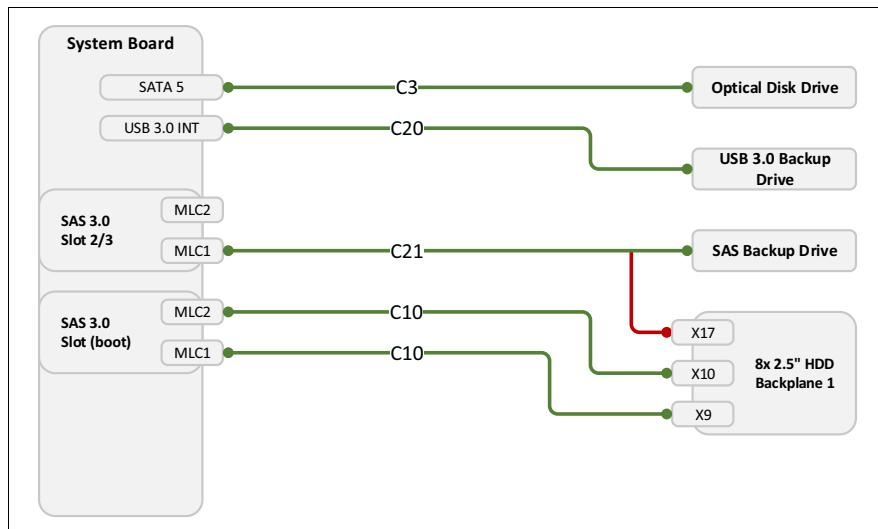


図 387: SAS ケーブル配線 : 8x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 コントローラ

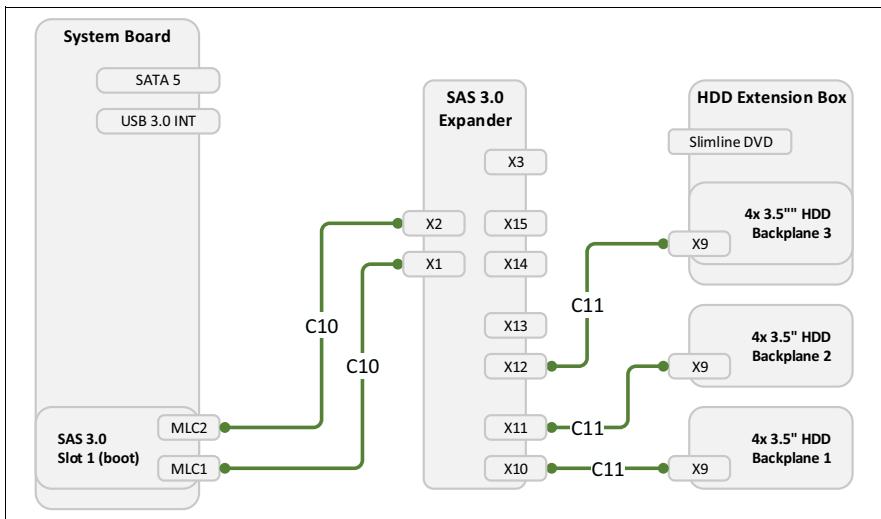


図 388: SAS ケーブル配線 : 8 x / 12 x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード  
A3C40181407

## ケーブル配線

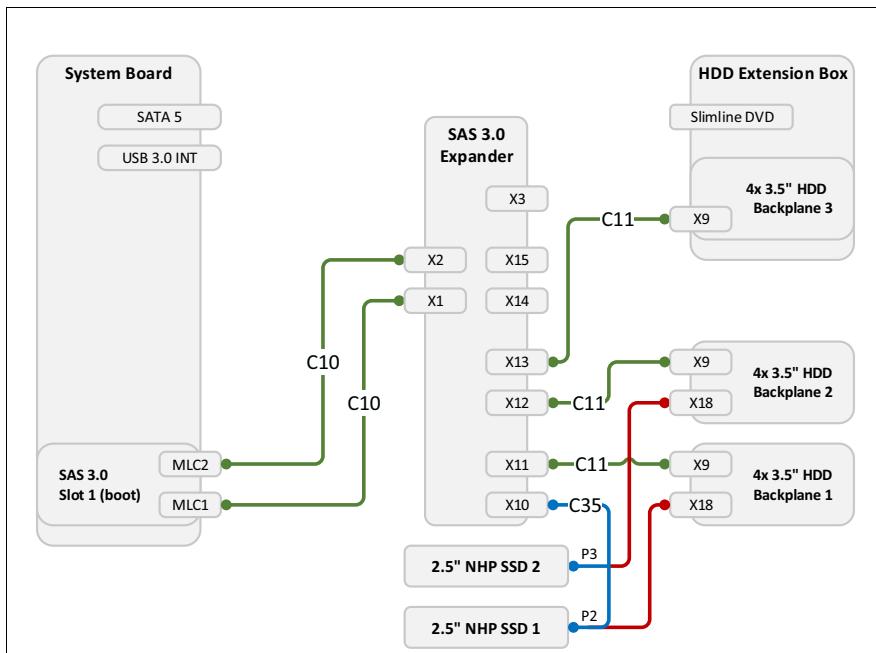


図 389: SAS ケーブル配線 : 2x 2.5 インチホットプラグ非対応 HDD/SSD/12x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 エキスパンダボード A3C40181407

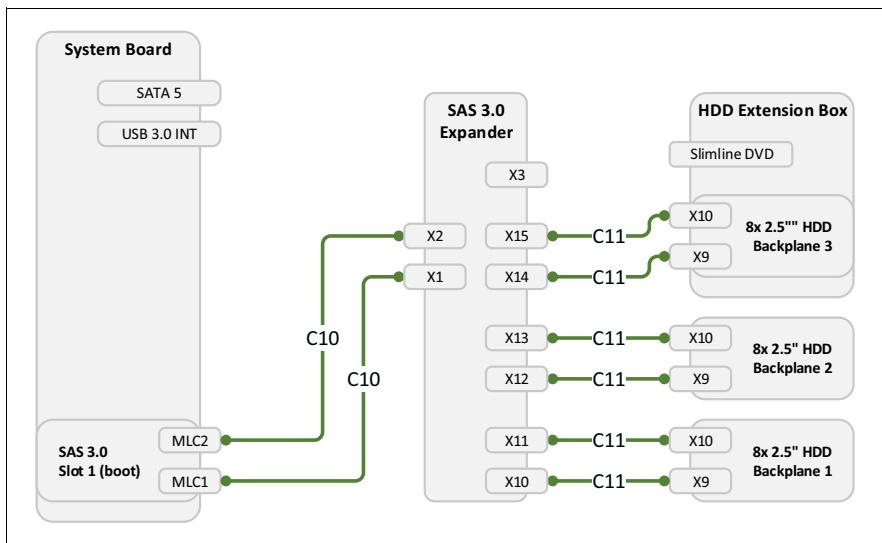


図 390: SAS ケーブル配線 : 16 x / 24 x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード  
A3C40181407

## ケーブル配線

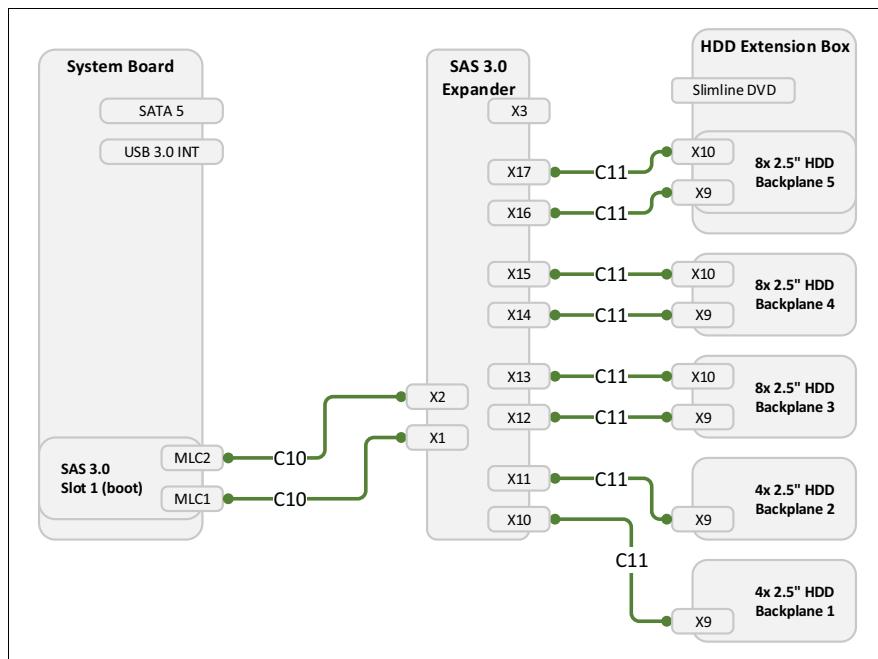


図 391: SAS ケーブル配線 : 32 x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40176099

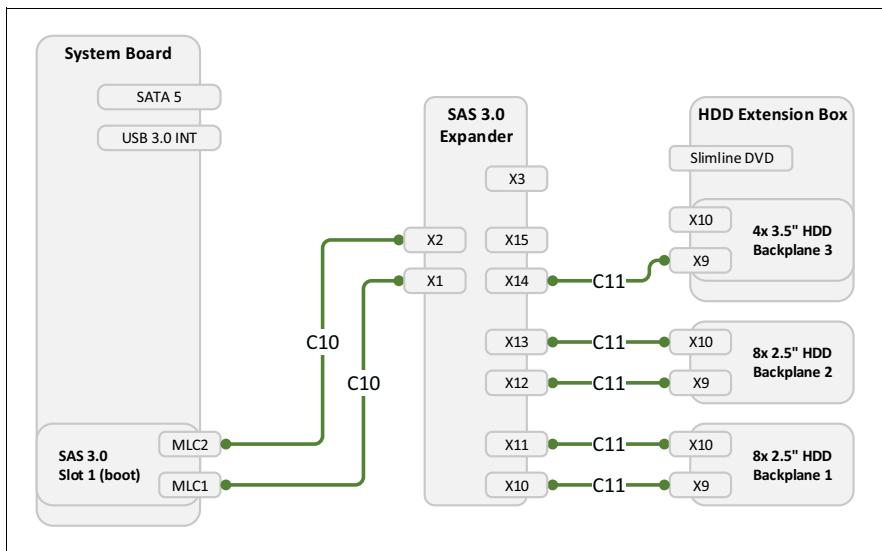


図 392: SAS ケーブル配線 : 16x 2.5 インチおよび 4x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40181407

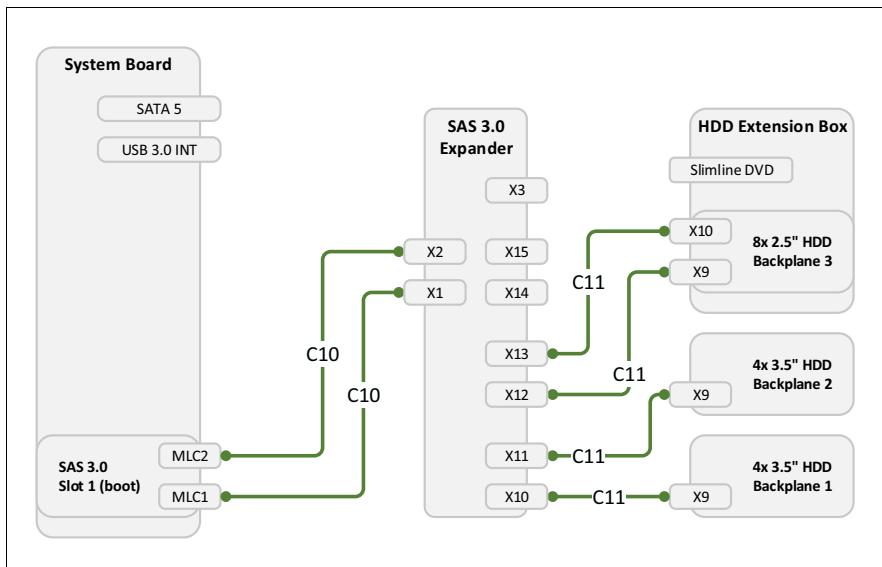


図 393: SAS ケーブル配線 : 8x 3.5 インチおよび 8x 2.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張ボード A3C40181407

## ケーブル配線

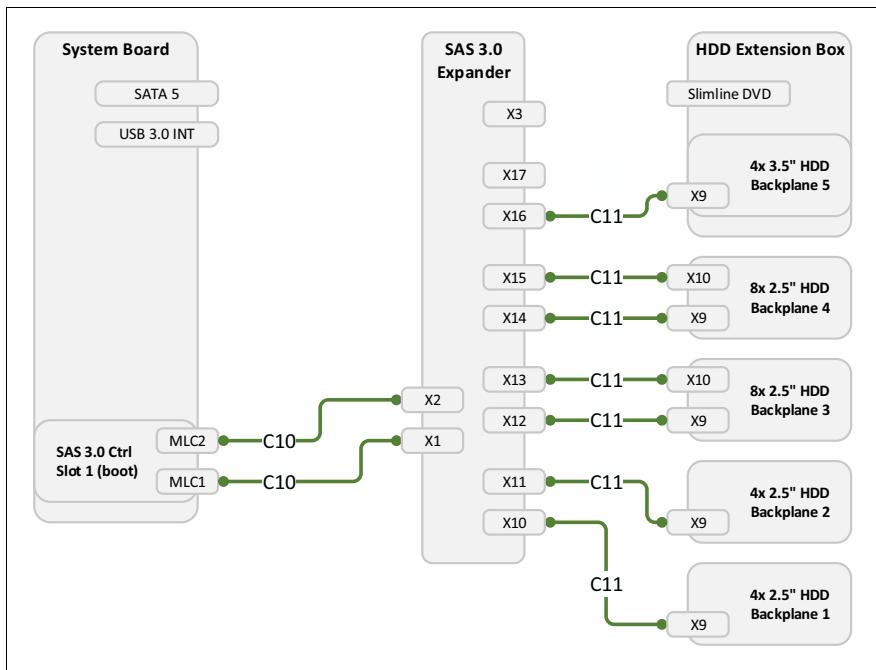


図 394: SAS ケーブル配線 : 24x 2.5 インチおよび 4x 3.5 インチ HDD および SAS 3.0 拡張  
ボード A3C40176099

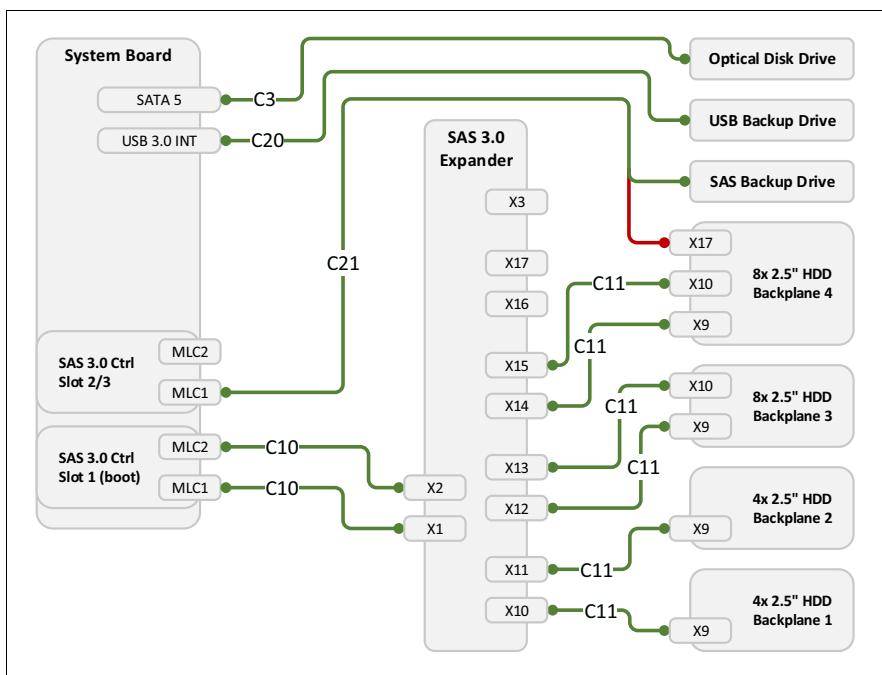


図 395: SAS ケーブル配線 : 24x 2.5 インチおよび アクセス可能なドライブ および SAS 3.0 拡張ボード A3C40176099

## ケーブル配線

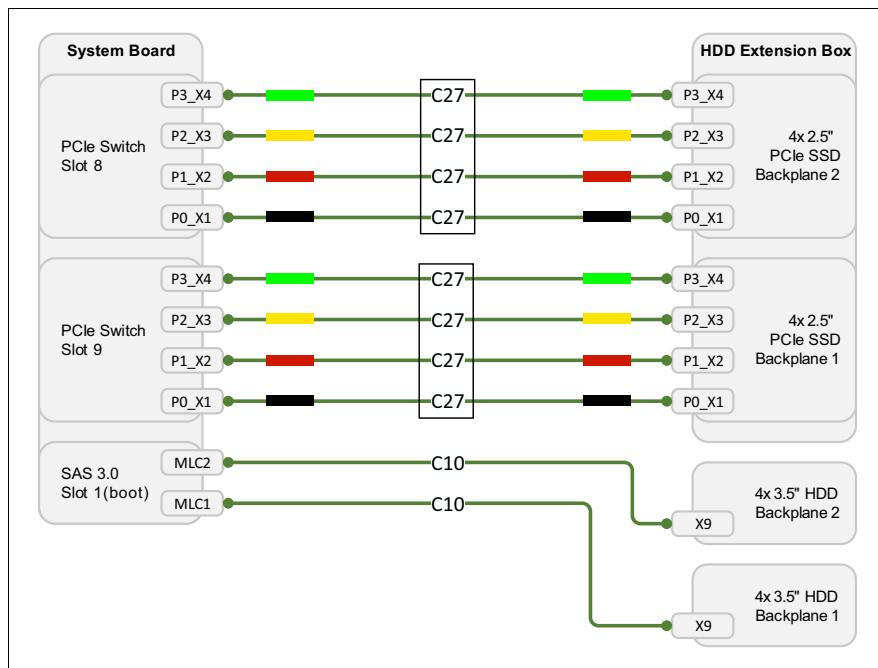


図 396: PCIe ケーブル配線 : 8x 3.5 インチ HDD、4x/8x 2.5 インチ PCIe SSD

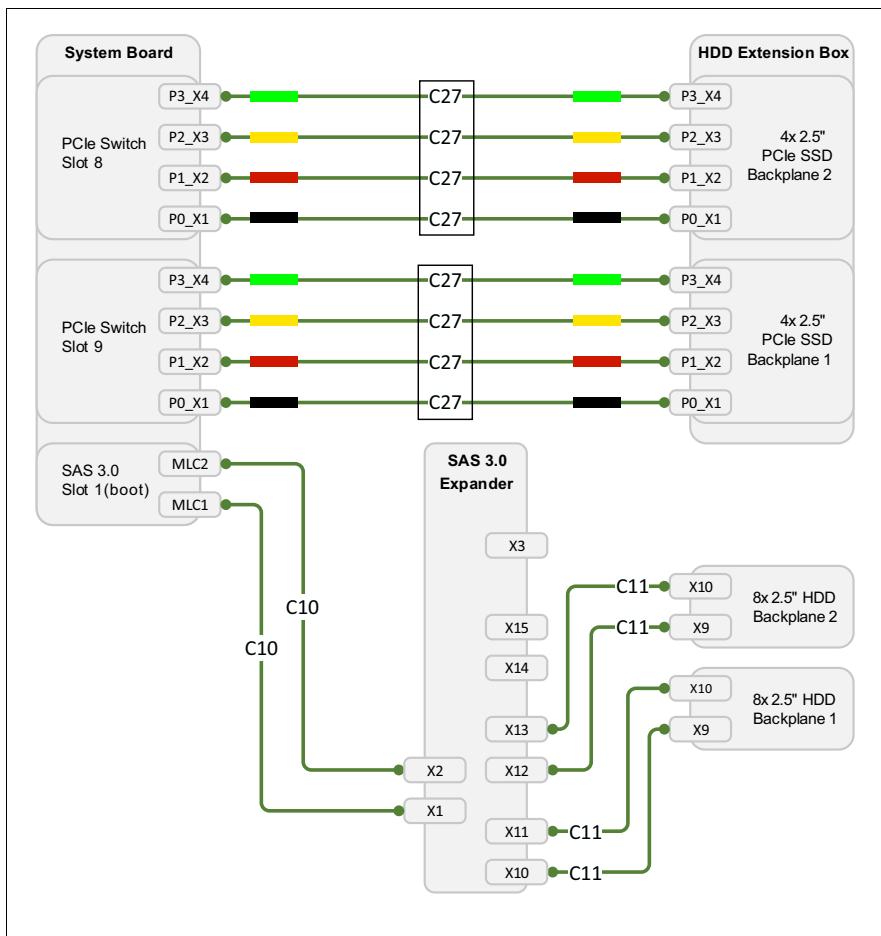


図 397: PCIe ケーブル配線 : 16x 2.5 インチ HDD、4x/8x 2.5 インチ PCIe SSD および SAS 3.0 エキスパンダーボード A3C40181407

## ケーブル配線

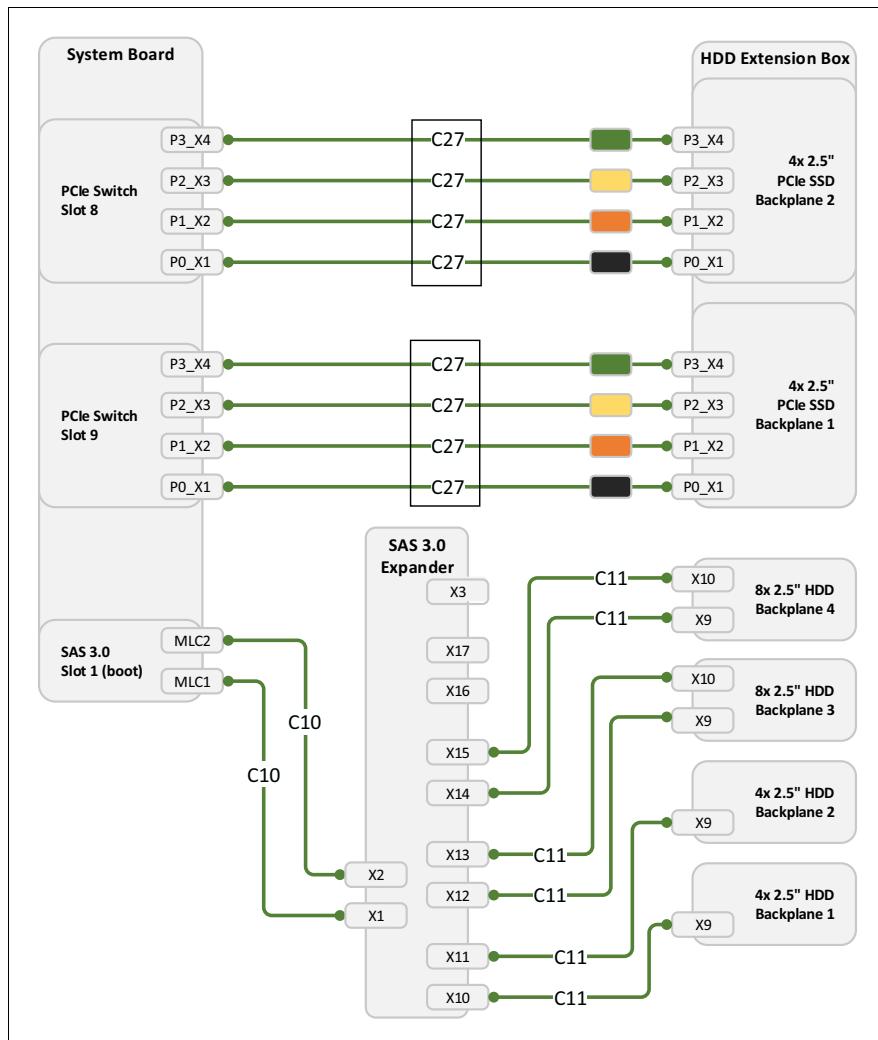


図 398: PCIe ケーブル配線 : 24x 2.5 インチ HDD、4x/8x 2.5 インチ PCIe SSD および SAS 3.0 エキスパンダーボード A3C40176099

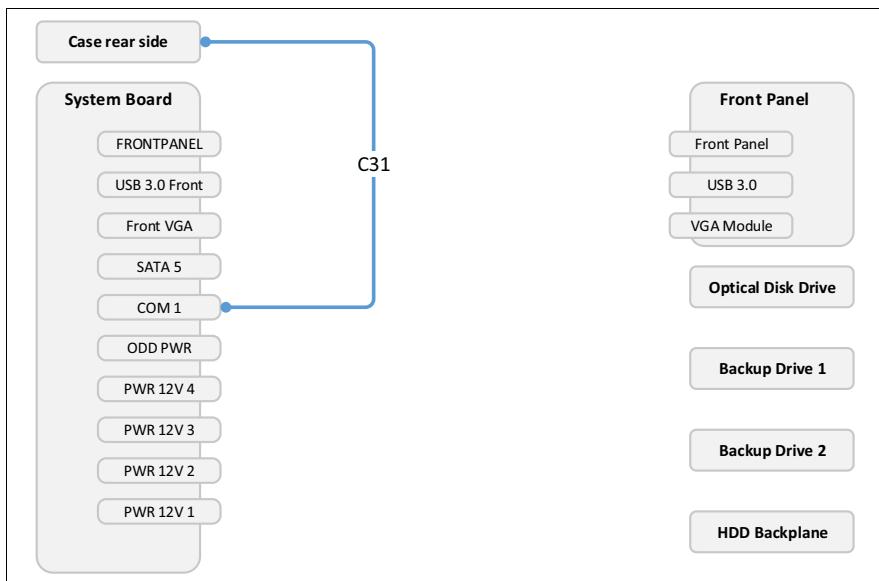


図 399: オプション：シリアルインターフェース

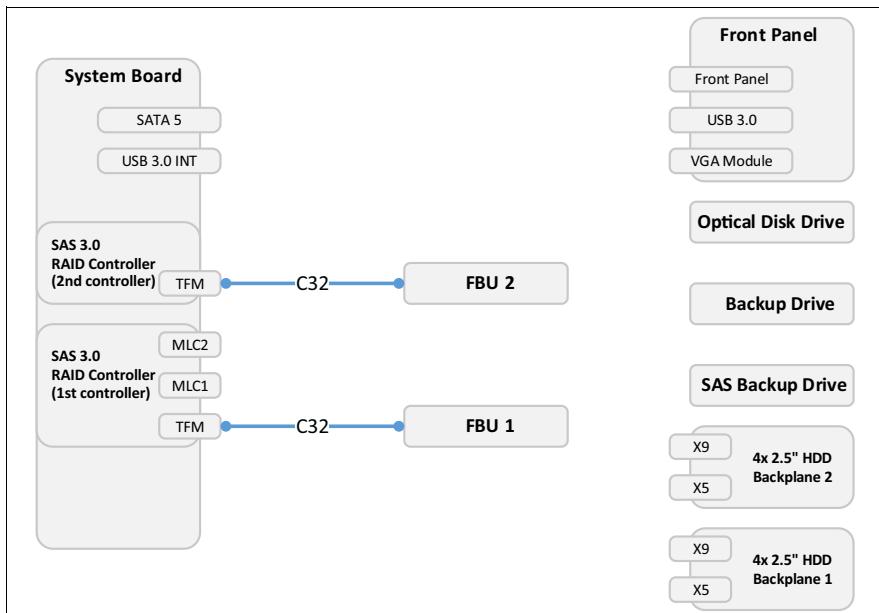


図 400: オプション : SAS 3.0 FBU ケーブル配線

## ケーブル配線

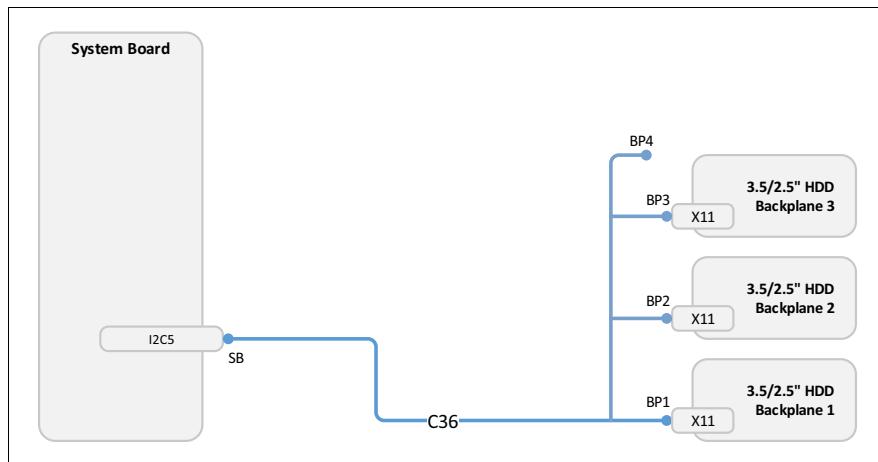


図 401: オプション : 3 台の HDD バックプレーンおよび PSAS HBA 用 OOB

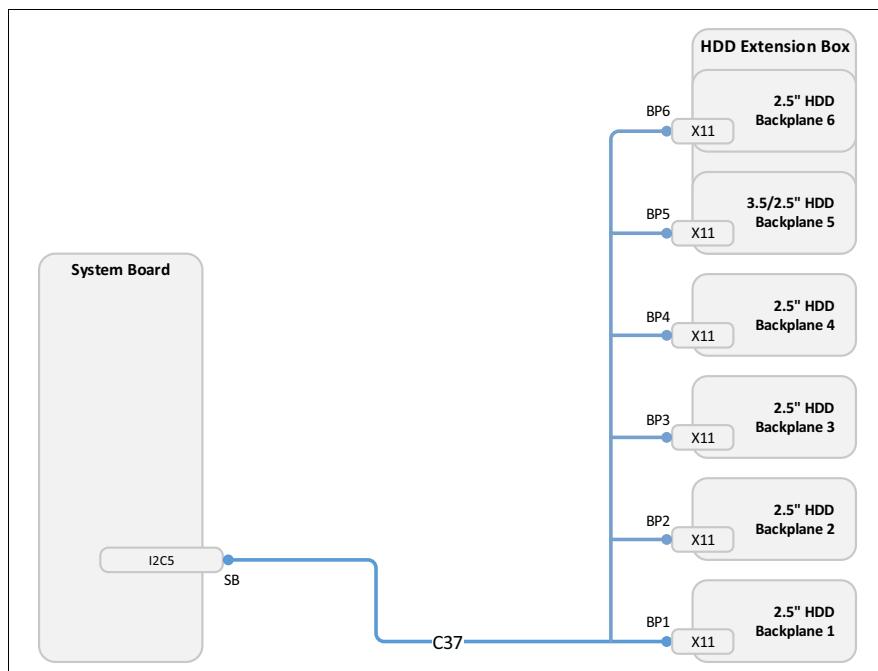


図 402: オプション : 6 台の HDD バックプレーンおよび PSAS HBA 用 OOB

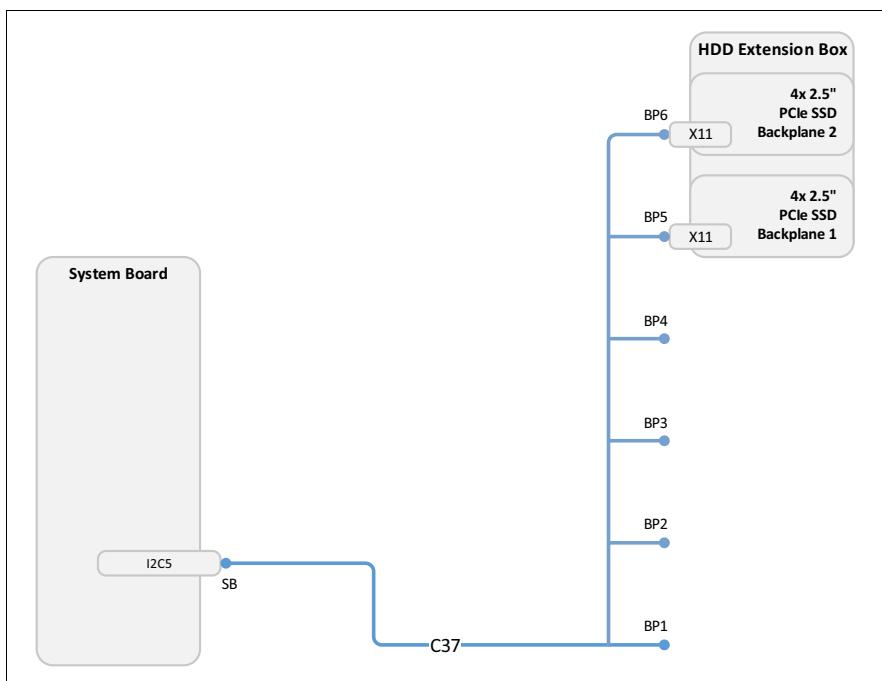


図 403: オプション: 2 台の SSD バックプレーン用 OOB

## ケーブル配線

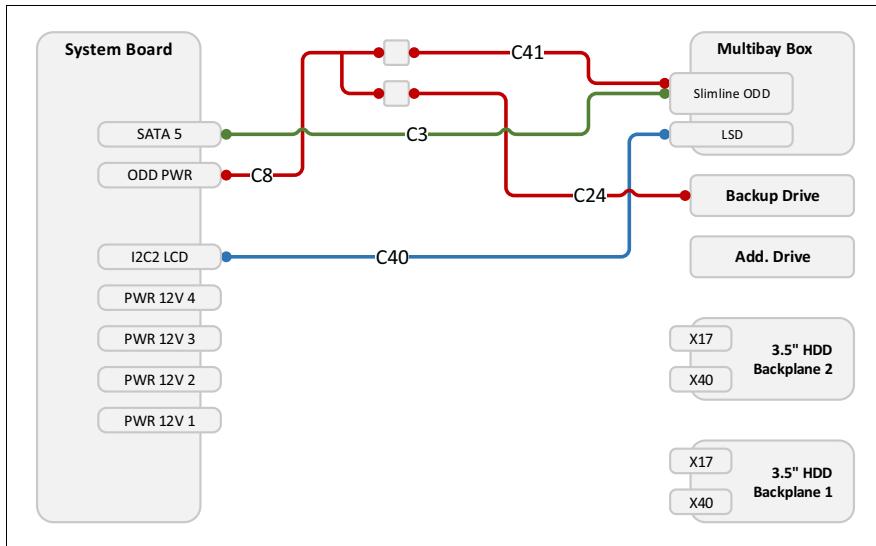


図 404: マルチベイボックスと薄型 ODD および LSD のケーブル接続

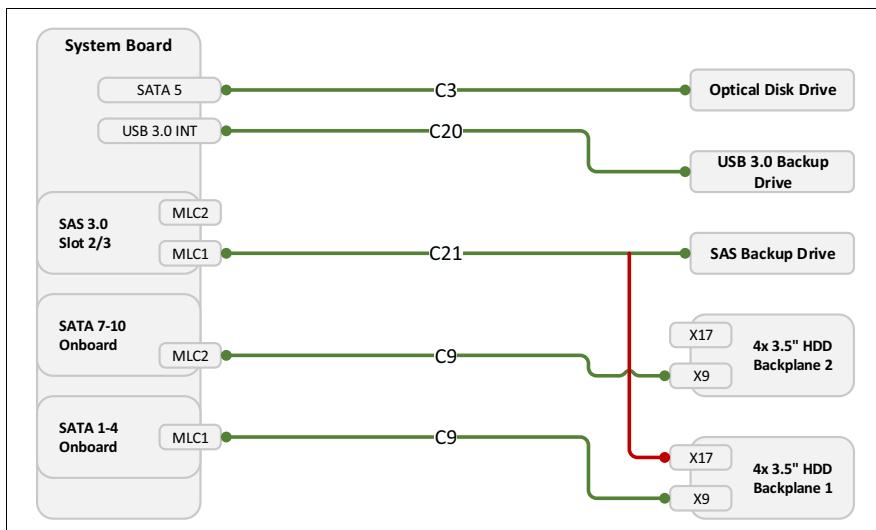


図 405: SATA ケーブル配線 : 4 x / 8 x 3.5 インチ SATA HDD およびアクセス可能なドライブ

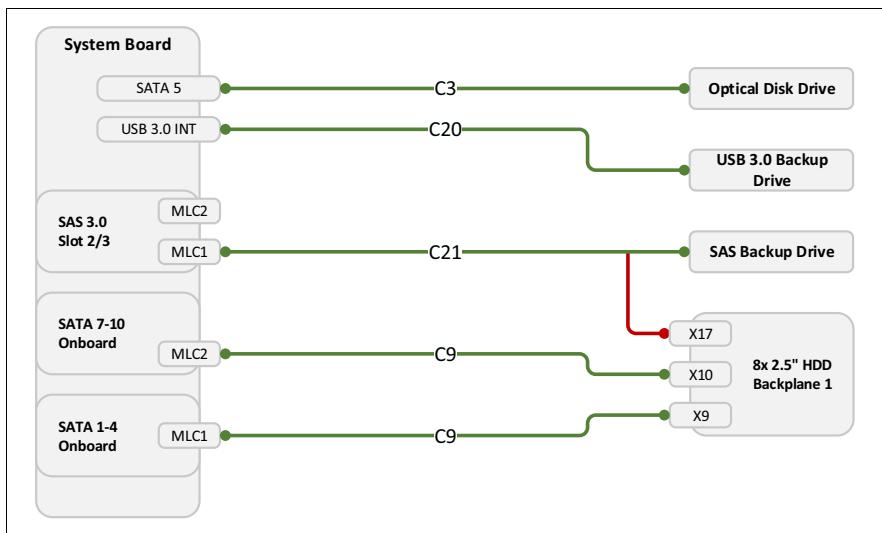


図 406: SATA ケーブル配線 : 8 x 2.5 インチ SATA HDD およびアクセス可能なドライブ

## 16.3 イントリュージョンスイッチケーブルの交換



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間：10 分

工具： プラス PH2 / (+) No. 2 ドライバ

### 16.3.1 準備手順

- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

### 16.3.2 イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し

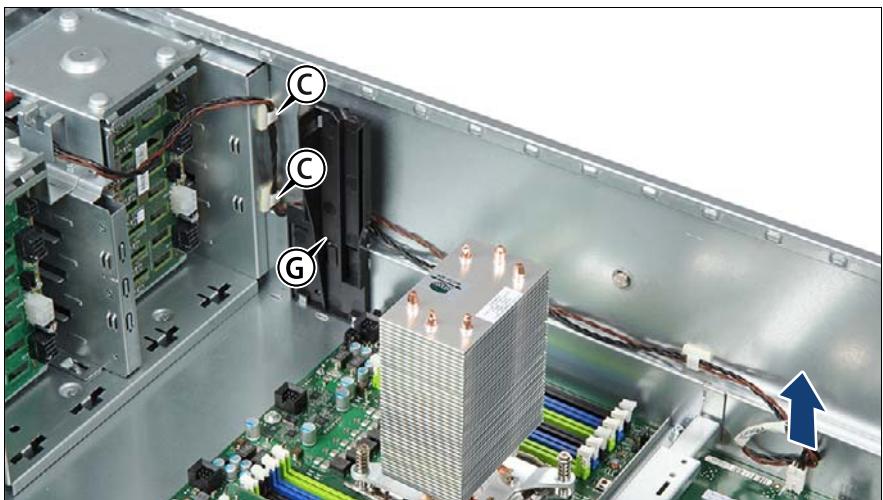


図 407: イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し

- ▶ イントリュージョンスイッチケーブルをシステムボードから取り外します。
- ▶ ケーブルガイド (G) および HDD ケージの 2 つのケーブルクランプ (C) から、イントリュージョンスイッチケーブルを取り外します。

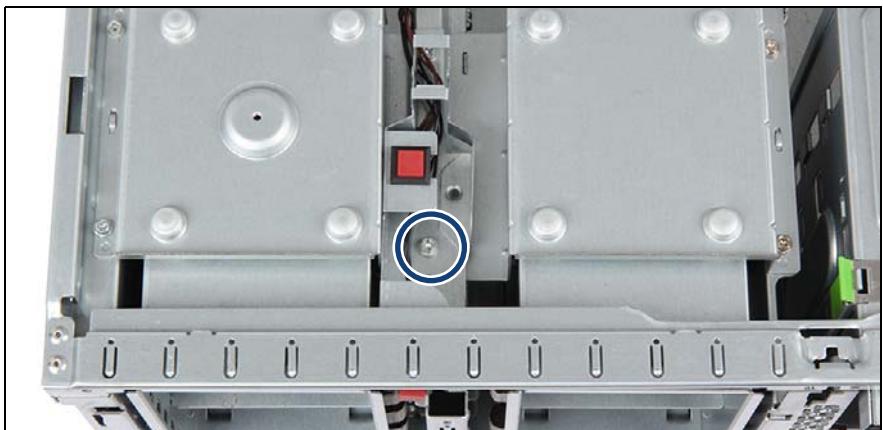


図 408: イントリュージョンスイッチホルダーの取り外し (A)

## ケーブル配線

- 図のように、イントリュージョンスイッチホルダーから 1 本のネジを取り外します。

**i** イントリュージョンスイッチケーブルの交換については、2.5 インチ HDD モデルの例で説明されています。3.5 インチ HDD モデルの場合、HDD ベイのトップカバーが少し違いますが、手順は同じです。

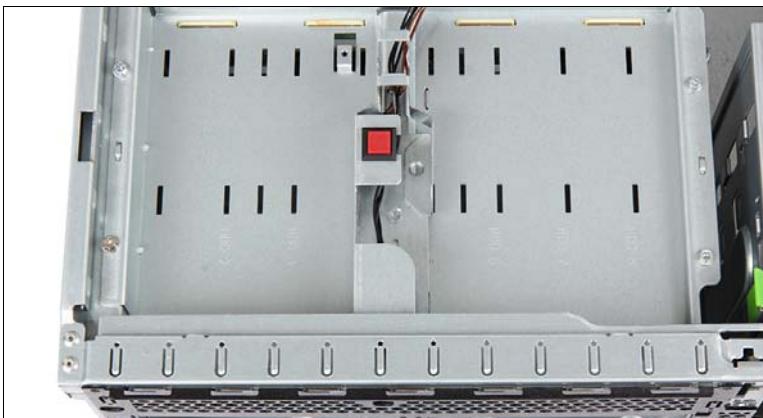


図 409: 3.5 インチ HDD 構成の HDD ベイトップカバー

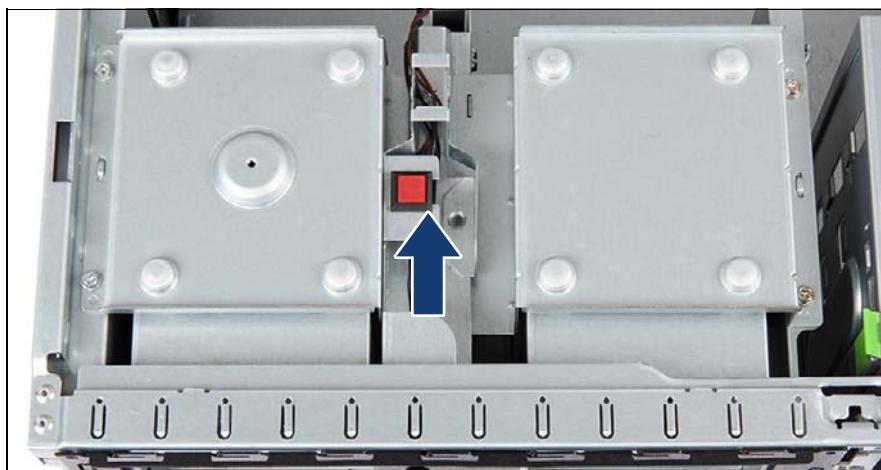


図 410: イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し (B)

- イントリュージョンスイッチホルダーが HDD ベイのトップカバーから外れるまで、後ろにスライドさせます。

- ▶ 故障したイントリュージョンスイッチホルダーを取り外します。

### 16.3.3 イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し



ゴム製のバンパーは、ラックサーバ構成の場合にのみ必要です。

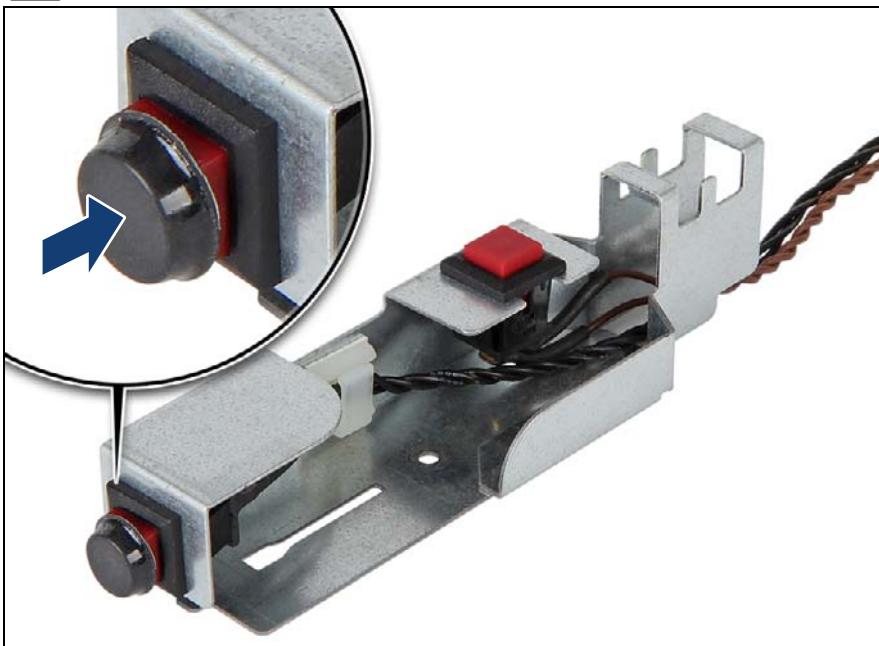


図 411: ゴム製のバンパーの前面イントリュージョンスイッチへの取り付け



ラックサーバ構成の場合、次の説明のように、ゴム製のバンパーを前面イントリュージョンスイッチへ取り付ける必要があります。タワーサーバを使用する場合は、この手順はスキップしてください。

- ▶ 図のように、ゴム製のバンパー（C26192-Y26-C43）を前面イントリュージョンスイッチへ取り付けます。

## ケーブル配線

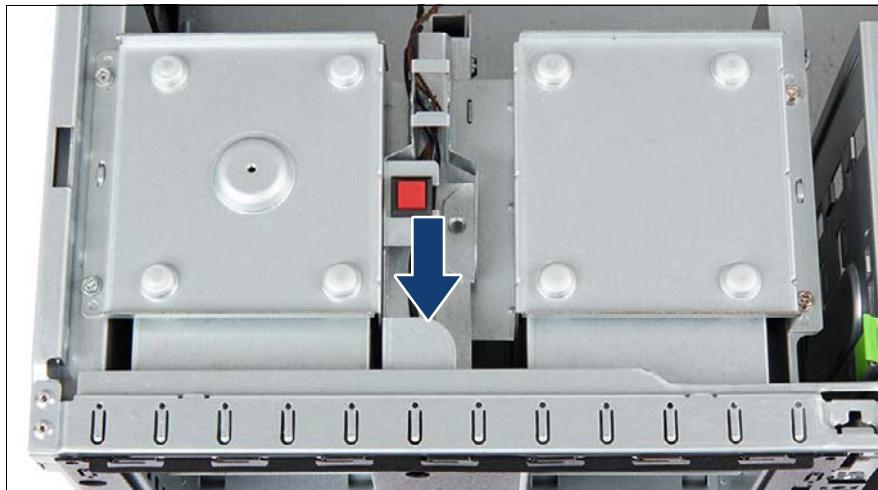


図 412: イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し (A)

- ▶ 新しいイントリュージョンスイッチホルダーを HDD ベイのトップカバーへ置きます。
- ▶ イントリュージョンスイッチホルダーを、最後までシャーシ前面の縁の下にスライドさせます。

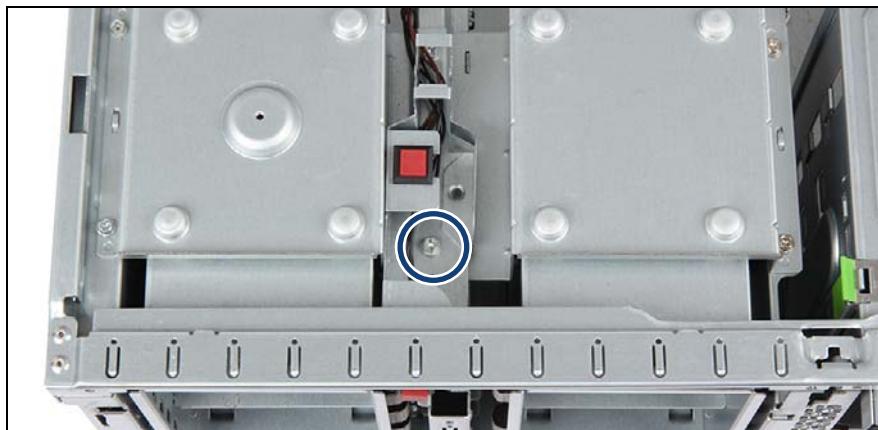


図 413: イントリュージョンスイッチケーブルの取り外し (B)

- ▶ ネジ 1 本で、イントリュージョンスイッチホルダーを HDD ベイのトップカバーに固定します。

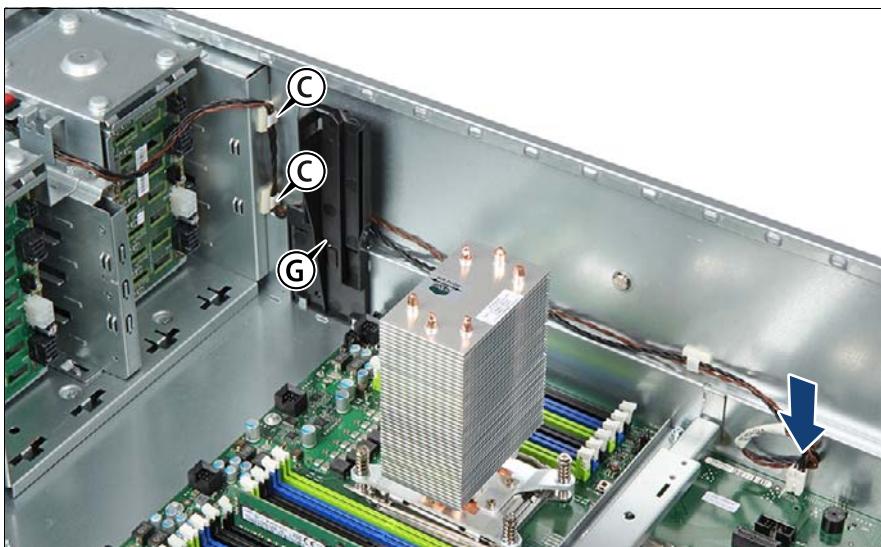


図 414: イントリュージョンスイッチケーブルの接続

- ▶ HDD ケージの 2 つのケーブルクランプ (C)、およびケーブルガイド (G) に、イントリュージョンスイッチケーブルを通します。
- ▶ システムボードにイントリュージョンスイッチを接続します。

#### 16.3.4 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」

## 16.4 OOB ケーブルの交換



フィールド交換可能ユニット  
(FRU)



平均作業時間：10 分

工具： 工具不要



OOB ケーブルは OOB 構成によって 異なります。

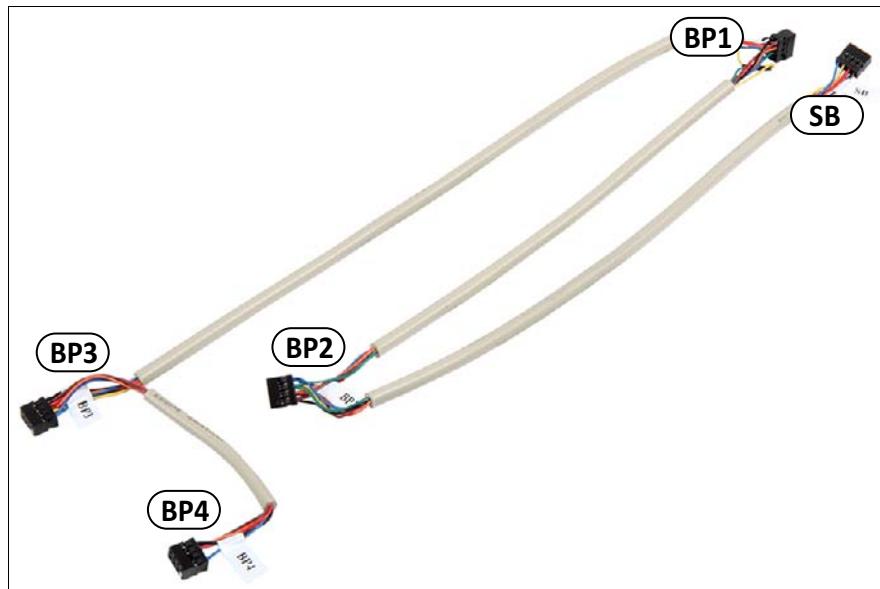


図 415: OOB ケーブル C36

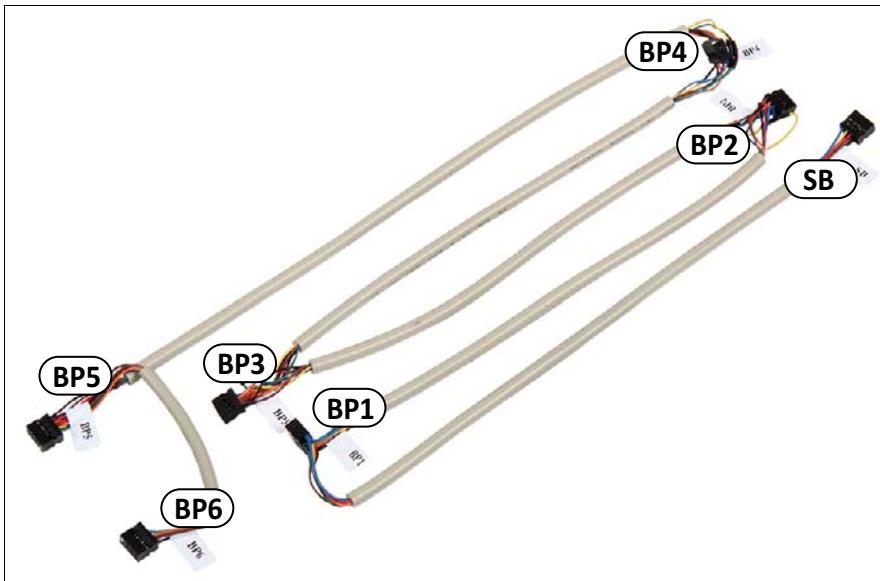


図 416: OOB ケーブル C37

### 16.4.1 準備手順

- ▶ 53 ページ の「故障したサーバの特定」
- ▶ 56 ページ の「サーバのシャットダウン」
- ▶ 57 ページ の「電源コードの取り外し」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
59 ページ の「サーバをラックから引き出す」
- ▶ 62 ページ の「サーバを開ける」
- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」
- ▶ 90 ページ の「システムファンホルダーの取り外し」

### 16.4.2 OOB ケーブル の交換

- ▶ すべてのコネクタから故障した OOB ケーブルを取り外します。

## ケーブル配線

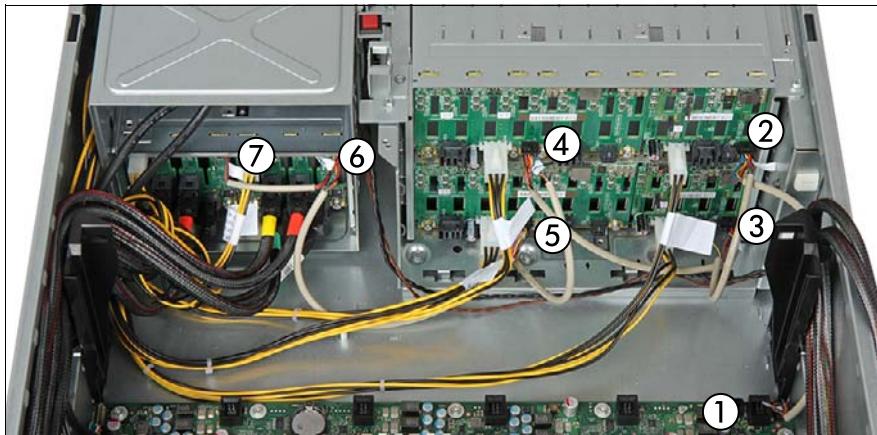


図 417: OOB ケーブルの接続 - 6 × HDD バックプレーン用ケーブル C37 の例

- ▶ 構成に応じた OOB ケーブルを接続します。

| 位置 | プラグ OOB ケーブル | コネクタ            |
|----|--------------|-----------------|
| 1  | SB           | システムボードの I2C    |
| 2  | BP1          | バックプレーン 1 の X11 |
| 3  | BP2          | バックプレーン 2 の X11 |
| 4  | BP3          | バックプレーン 3 の X11 |
| 5  | BP4          | バックプレーン 4 の X11 |
| 6  | BP5          | バックプレーン 5 の X11 |
| 7  | BP6          | バックプレーン 6 の X11 |



他の構成については、配線図を参照してください。

- 532 ページ の「オプション : 3 台の HDD バックプレーンおよび PSAS HBA 用 OOB」
- 532 ページ の「オプション : 6 台の HDD バックプレーンおよび PSAS HBA 用 OOB」
- 533 ページ の「オプション : 2 台の SSD バックプレーン用 OOB」

### 16.4.3 終了手順

- ▶ 91 ページ の「システムファンホルダーの取り付け」
- ▶ 89 ページ の「システム送風ダクトの取り付け」
- ▶ 71 ページ の「サーバを閉じる」
- ▶ ラックに取り付けられているサーバを取り扱う場合は  
83 ページ の「ラックにサーバを格納する」
- ▶ 84 ページ の「電源コードの接続」



# 17 付録

## 17.1 装置概観

### 17.1.1 サーバ前面

#### 2.5 インチ HDD/SSD モデル

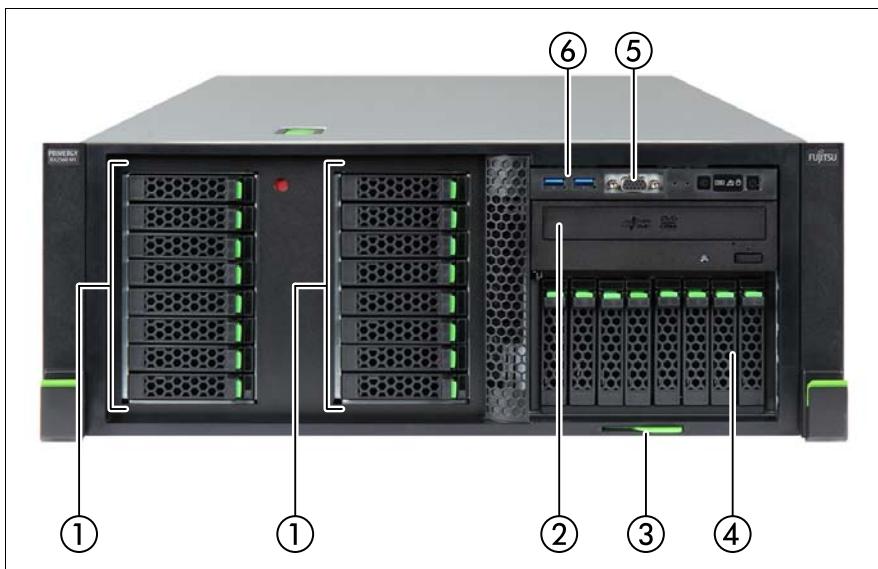


図 418: サーバ前面 2.5 インチ HDD/SSD モデル - RX2560 M2 の例

| 位置 | コンポーネント   |
|----|---|
| 1  | 2.5 インチハードディスクドライブ /Solid State Drive/ ダミーモジュール   |
| 2  | 光ディスクドライブ / 5.25 インチダミーモジュール                      |
| 3  | ID カード  |
| 4  | 8x 2.5 インチ HDD 拡張ボックス /8x 2.5 インチ PCIe SSD 拡張ボックス |
| 5  | フロントパネルモジュール : 前面 VGA コネクタ (オプション)                |
| 6  | フロントパネルモジュール : 2 x USB 3.0 コネクタ                   |

### 3.5 インチ HDD モデル

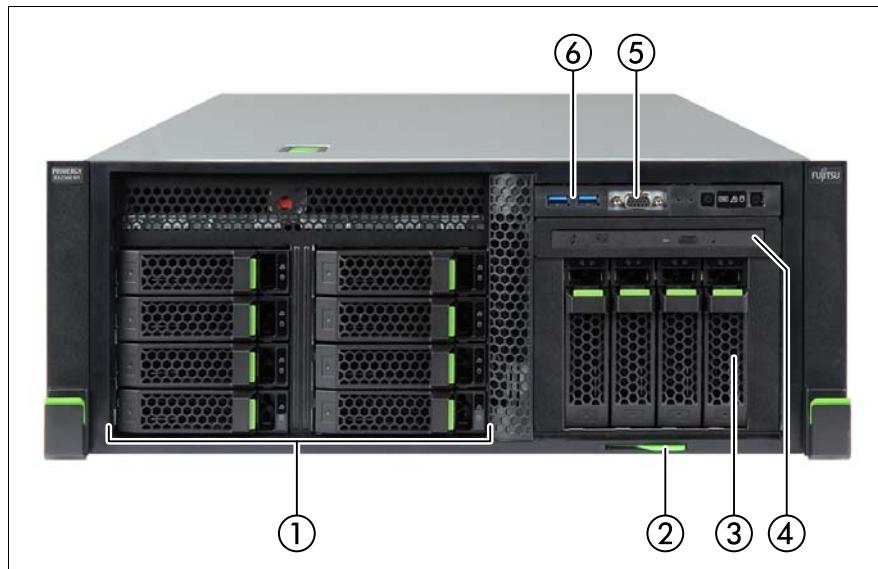


図 419: サーバ前面 3.5 インチ HDD モデル - RX2560 M2 の例

| 位置 | コンポーネント                            |
|----|------------------------------------|
| 1  | 3.5 インチハードディスクドライブ / ダミーモジュール      |
| 2  | ID カード                             |
| 3  | 4x 3.5 インチ HDD 拡張ボックス              |
| 4  | 光ディスクドライブ                          |
| 5  | フロントパネルモジュール : 前面 VGA コネクタ (オプション) |
| 6  | フロントパネルモジュール : 2 x USB 3.0 コネクタ    |

### 17.1.2 サーバ背面

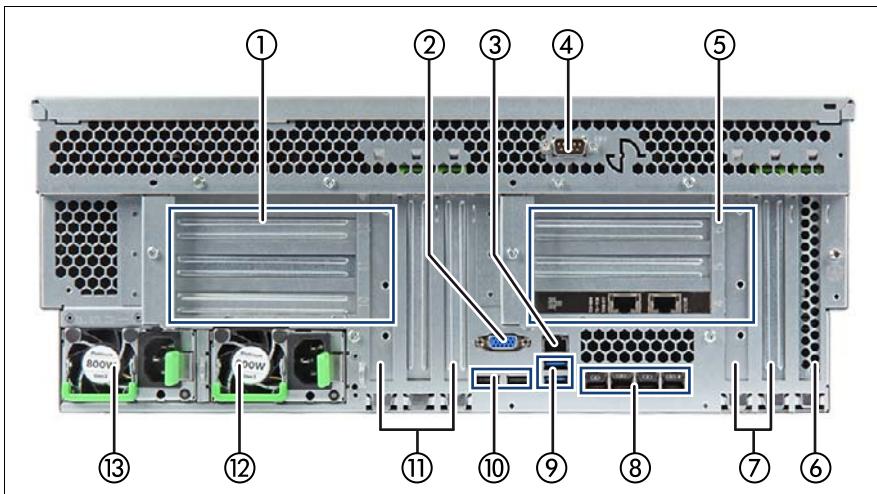


図 420: サーバ背面 - RX2560 M2 の例

| 位置 | コンポーネント                    |
|----|----------------------------|
| 1  | ライザーモジュール 2 の取り付け位置（オプション） |
| 2  | ビデオコネクタ                    |
| 3  | Management LAN コネクタ        |
| 4  | COM1 コネクタ（オプション）           |
| 5  | ライザーモジュール 1 の取り付け位置（オプション） |
| 6  | RAID コントローラ（スロット 1）        |
| 7  | オプションの拡張カード（スロット 2～3）      |
| 8  | DynamicLoM コネクタ            |
| 9  | USB3.0                     |
| 10 | USB2.0                     |
| 11 | オプションの拡張カード（スロット 7～9）      |
| 12 | 電源ユニット 2                   |
| 13 | 電源ユニット 1                   |

### 17.1.3 サーバ内部

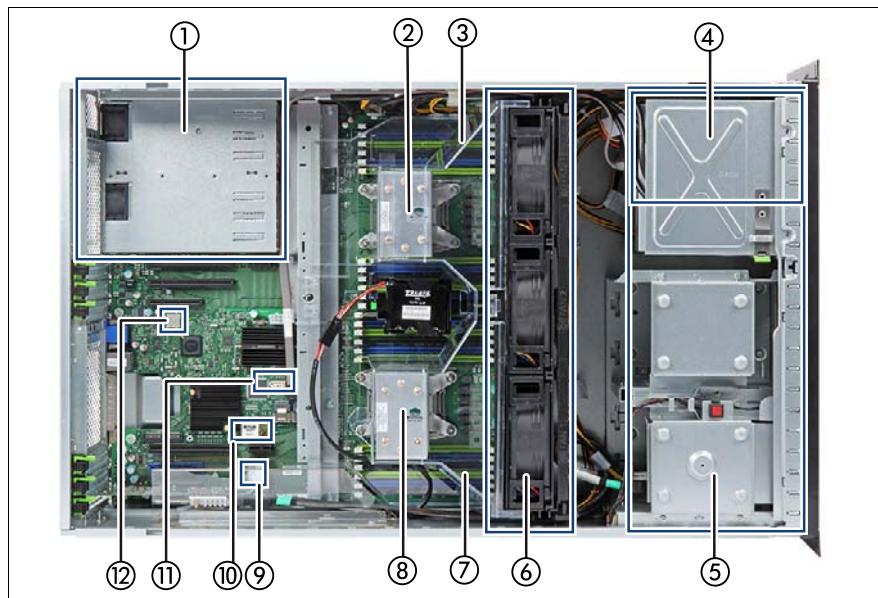


図 421: PRIMERGY TX2560 M2/RX2560 M2 の内部（2.5 インチ HDD の例）

| 位置 | コンポーネント             |
|----|---------------------|
| 1  | 電源ユニット              |
| 2  | プロセッサ 2/ CPU ヒートシンク |
| 3  | メモリスロット CPU2        |
| 4  | フロントパネルモジュールベイ      |
| 5  | HDD/SSD ドライブベイ      |
| 6  | ファン                 |
| 7  | メモリスロット CPU1        |
| 8  | プロセッサ 1/ CPU ヒートシンク |
| 9  | UFM                 |
| 10 | TPM                 |
| 11 | SATA DOM            |
| 12 | iRMC microSD カード    |

## 17.2 コネクタと表示ランプ

### 17.2.1 システムボードのコネクタと表示ランプ

#### 17.2.1.1 オンボードのコネクタ

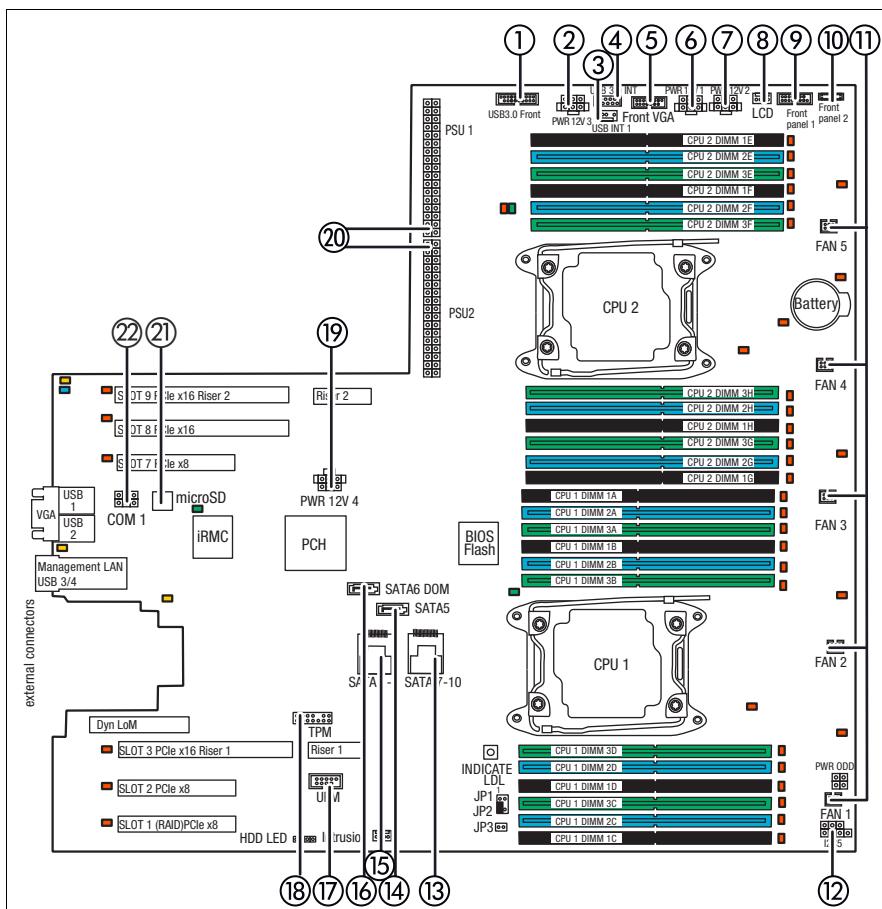


図 422: システムボード D3289 の内部コネクタ

## 付録

---

| 番号 | 印字          | 説明                                  |
|----|-------------|-------------------------------------|
| 1  | Front USB   | 前面 USB3.0                           |
| 2  | PWR 12V 3   | +12 V 電源レール #3/ 複数使用                |
| 3  | USB INT 1   |                                     |
| 4  | USB3.0 int  |                                     |
| 5  | Front VGA   | フロントパネル VGA コネクタ                    |
| 6  | PWR 12V 1   | +12 V 電源レール #1/HDD バックプレーン 1        |
| 7  | PWR 12V 2   | +12 V 電源レール #2/HDD バックプレーン 2        |
| 8  | LCD         |                                     |
| 9  | フロントパネル 1   | フロントパネルコネクタ                         |
| 10 | フロントパネル 2   | フロントパネルコネクタ (フラットケーブル)              |
| 11 | FAN1 - FAN5 | FAN コネクタ                            |
| 12 | OOB         |                                     |
| 13 | SATA 7-10   |                                     |
| 14 | SATA 5      |                                     |
| 15 | SATA 1-4    |                                     |
| 16 | SATA 6 DOM  | SATA DOM モジュール用のコネクタ                |
| 17 | UFM         | USB Flash Module (UFM) 用コネクタ        |
| 18 | TPM         | Trusted Platform Module (TPM) 用コネクタ |
| 19 | PWR 12V 4   | +12 V 電源レール #4                      |
| 20 | PWR         | 電源ユニット 1 + 2                        |
| 21 | microSD     | iRMC microSD カード                    |
| 22 | COM1        | シリアルインターフェース                        |

### 17.2.1.2 オンボード表示ランプおよびコントロール

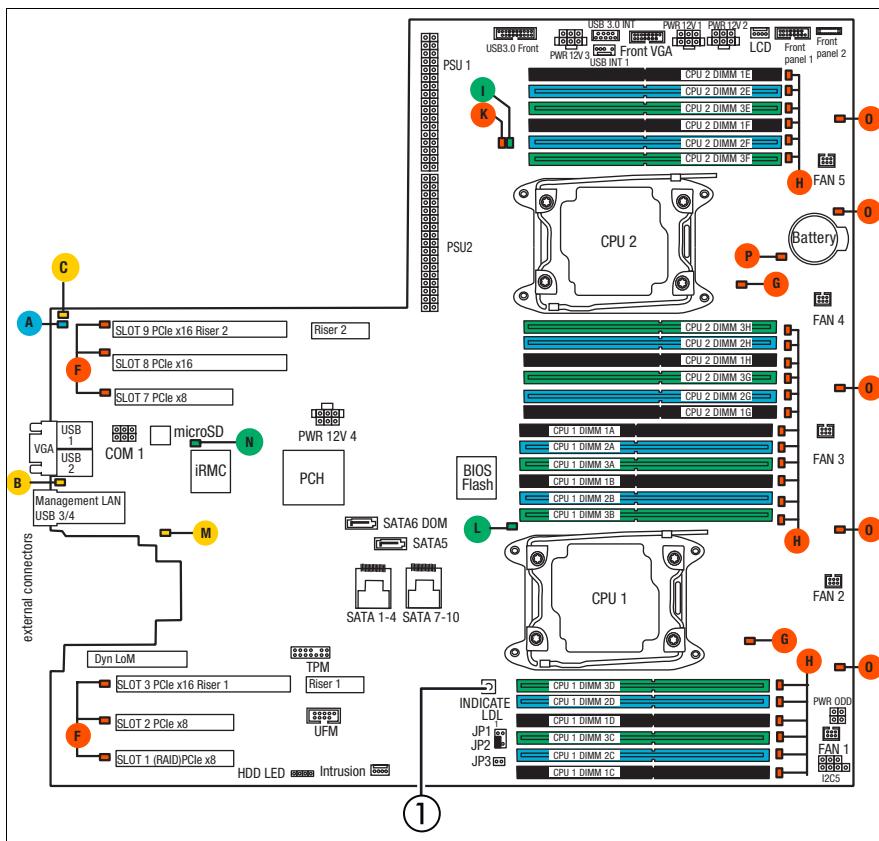


図 423: オンボードの表示ランプ

#### LDL 表示ボタンの使用

▶ サーバをシャットダウンして電源を切ります。

▶ システムから AC 電源コードを抜きます。



LDL 表示ボタンの機能を使用するには、電源コードを抜いておく必要があります。

- ▶ 88 ページ の「システム送風ダクトの取り外し」の項に記載されているように、送風ダクトを取り外します。
- ▶ LDL 表示ボタンを押して (1)、故障した部品を強調表示します。

## コンポーネント LED

**i** LED A、B、C はサーバ背面の外側から確認できます。その他の LED は、トップカバーを開けないと確認できません。

| 表示ランプ    |                                | ステータス    | 説明  |
|----------|--------------------------------|----------|---|
| <b>A</b> | Identification                 | 青色の点灯    | 簡単に識別できるように、フロントパネルの ID ボタンを使用してサーバが強調表示される   |
|          |                                | 青色の点滅    | 簡単に識別できるように、ローカル VGA がオフのときに IRMC (AVR) を使用してサーバが強調表示される                            |
| <b>B</b> | CSS<br>(Customer Self Service) | オフ       | 重大なイベントなし (CSS コンポーネント)   |
|          |                                | オレンジ色の点灯 | 故障前に予兆を検出した (CSS コンポーネント)   |
|          |                                | オレンジ色の点滅 | CSS コンポーネントの故障  |
| <b>C</b> | GEL<br>(保守ランプ)                 | オフ       | 重大なイベントなし (CSS コンポーネント以外)   |
|          |                                | オレンジ色の点灯 | 故障前に予兆を検出した (CSS コンポーネント以外)   |
|          |                                | オレンジ色の点滅 | CSS コンポーネント以外の故障<br>考えられる原因：<br>– センサーの過熱<br>– センサーの故障<br>– CPU エラー<br>– ソフトウェアのエラー |
| <b>F</b> | コントローラ                         | オレンジ色の点灯 | コントローラの故障   |
| <b>G</b> | CPU                            | オレンジ色の点灯 | CPU 故障  |
| <b>H</b> | メモリ                            | オレンジ色の点灯 | メモリ障害   |
| <b>I</b> | MBC PWR OK                     | 緑色の点灯    | 電源ユニット OK   |
| <b>K</b> | MBC ERROR                      | オレンジ色の点灯 | 電源ユニットエラー   |

| 表示ランプ | ステータス | 説明                       |
|-------|-------|--------------------------|
| L     | 主電源   | 緑色の点灯<br>PWROK           |
| M     | 待機電力  | 黄色の点灯<br>PWROK STBY      |
| N     | iRMC  | 緑色の点滅<br>iRMC S4 が正常     |
| O     | ファン   | オレンジ色<br>の点灯<br>ファンの故障   |
| P     | バッテリー | オレンジ色<br>の点灯<br>バッテリーの故障 |

## 17.2.1.3 I/O パネルコネクタ

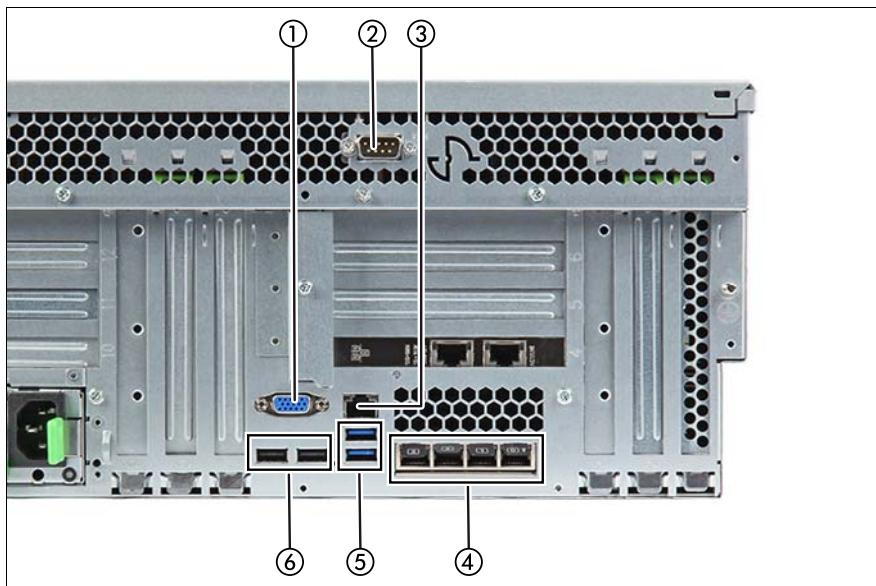


図 424: 背面の接続パネル

|   |                     |   |  |
|---|---------------------|---|--|
| 1 | ビデオコネクタ（青色）         | 4 | DynamicLoM (optional, different variants)* |
| 2 | COM1 コネクタ（オプション）**  | 5 | 2 前面 USB コネクタ (USB 3.0)                    |
| 3 | Management LAN コネクタ | 6 | 2 前面 USB コネクタ (USB 2.0)                    |

\* dynamicLoM モジュールの LAN コネクタには右から左に、「0」から始めて昇順で番号が付けられています。右端のコネクタ（LAN 0）は Shared LAN コネクタです。

\*\* シリアルインターフェース COM1 は標準インターフェースとして、または iRMC との通信に使用できます。

**i** 接続できる一部のデバイスには、特殊なソフトウェア（ドライバなど）のインストールとセットアップが必要です（接続するデバイスについてはドキュメントを参照）。

BIOS 設定によっては、Shared LAN コネクタも Management LAN コネクタとして使用されることがあります。詳細は、対応する BIOS セットアップユーティリティリファレンスマニュアルを参照してください。

### 17.2.1.4 I/O パネルの表示ランプ

#### 保守ランプ、ID ランプ、CSS ランプ

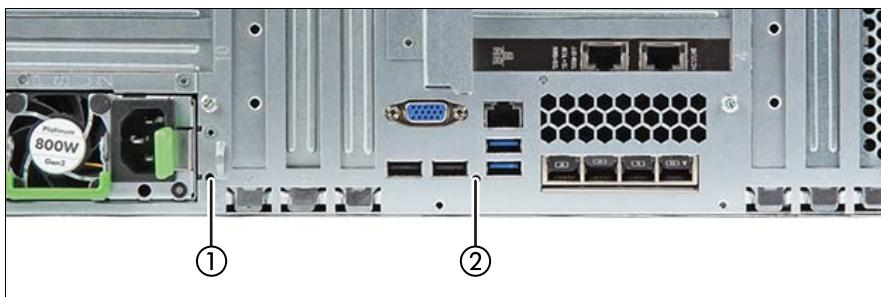


図 425: 保守ランプ、ID ランプ、CSS ランプ

|   |  |
|---|--|
| 1 | <p>システムボード上の保守ランプ（オレンジ色）、シャーシの穴から確認可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 故障の予兆を検出（予防的な）したとき、オレンジ色に点滅します。</li> <li>- 故障・異常を検出したとき、オレンジ色に点滅します。</li> <li>- 重大イベントが発生していない場合は点灯しません。</li> </ul> <p>電源を入れ直した後に重大なイベントがまだ残っている場合、表示ランプは再起動後にアクティブ化されます。</p> <p>表示ランプはスタンバイモードのときも点灯します。</p> <p>システムイベントログ（SEL）に表示されるエラーについての詳細は、ServerView Operations Manager または iRMC S4 の Web インタフェースで確認できます。</p> <p>システムボード上の ID ランプ（青）、シャーシの穴から確認可能。</p> <p>ID ボタンを押してシステムが選択されると、青色に点灯します。消灯にするにはもう一度ボタンを押します。</p> <p>システム ID ランプは、ServerView Operations Manager および iRMC S4 Web インタフェースを介してアクティブにすることもでき、このシステム ID ランプのステータスは ServerView Operations Manager および iRMC S4 に報告されます。</p> |
|---|--|

|   |  |
|---|--|
| 2 | <p><b>CSS 表示ランプ（オレンジ色）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- CSS コンセプトでお客様による修理が可能な CSS コンポーネントに故障の予兆を検出（予防のために）したときに、オレンジ色に点灯します。</li> <li>- CSS コンセプトでお客様による修理が可能な故障・異常を検出したときに、オレンジ色に点滅します。</li> <li>- システムに問題がない場合は点灯しません。</li> </ul> <p>電源を入れ直した後に重大なイベントがまだ残っている場合、表示ランプは再起動後にアクティブ化されます。</p> |
|---|--|

### LAN 表示ランプ

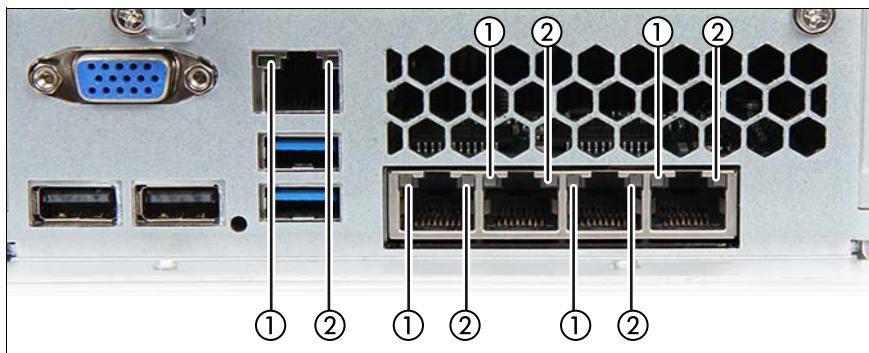


図 426: 接続パネルの表示ランプ : LAN 表示ランプ (D3255 の例)

|   |              |   |
|---|--------------|---|
| 1 | LAN リンク / 転送 | <p>緑色で点灯 : LAN 接続がある場合。<br/>消灯 : LAN 接続がない場合。<br/>緑色で点滅 : LAN 転送の実行中</p>                                      |
| 2 | LAN 速度       | <p>黄色で点灯 : LAN 転送速度が 1 Gbit/s の場合<br/>緑色で点灯 : LAN 転送速度が 100 Mbit/s の場合<br/>消 灯 : LAN 転送速度が 10 Mbit/s の場合。</p> |

## DynamicLoM モジュール D3265 に関する注記：

このモジュールには、LAN 速度用に 2 つのランプがあります。

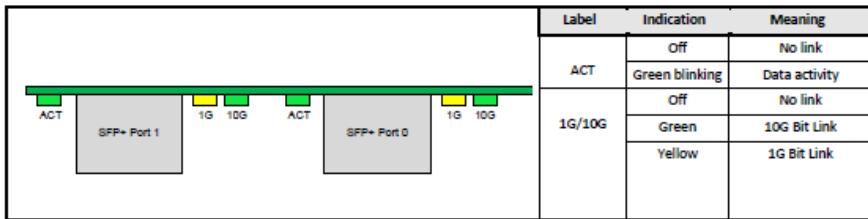


図 427: LAN 表示ランプ D3265

### 17.2.1.5 PSU 表示ランプ

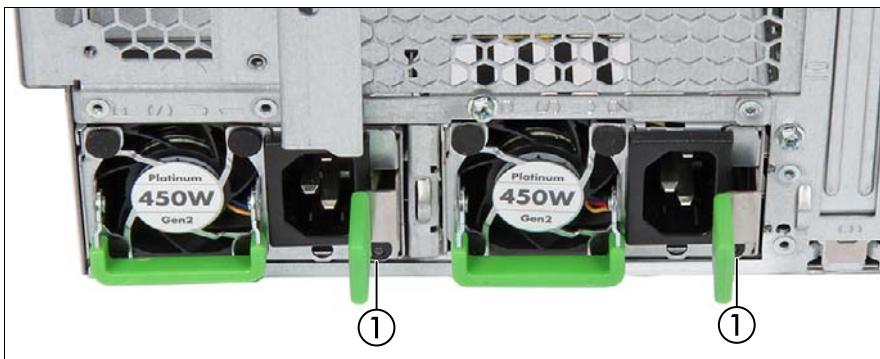


図 428: PSU 表示ランプ

| 表示ランプ          | ステータス    | 説明                                 |
|----------------|----------|------------------------------------|
| 1<br>PSU の動作状況 | 緑色の点灯    | サーバの電源が入り、正常に動作している                |
|                | 緑色の点滅    | サーバの電源は切れているが、主電源電圧は存在する（スタンバイモード） |
|                | オレンジ色の点灯 | PSU 異常（過電圧または不足電圧、過熱、ファンの異常）       |
|                | オレンジ色の点滅 | 過負荷警告                              |

### 17.2.2 フロントパネルのコネクタと表示ランプ

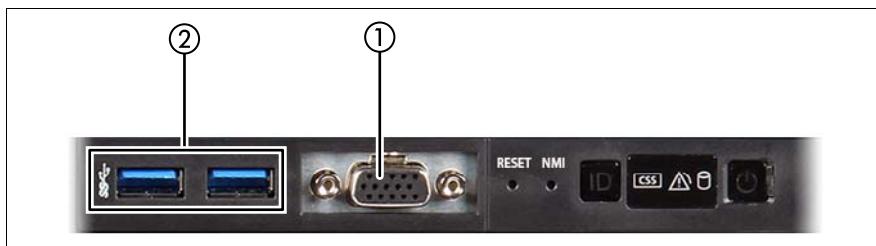


図 429: 前面コネクタ

|   |                |   |         |
|---|----------------|---|---------|
| 1 | 前面 VGA (オプション) | 2 | USB 3.0 |
|---|----------------|---|---------|

#### 17.2.2.1 フロントパネルのコントロールと表示ランプ

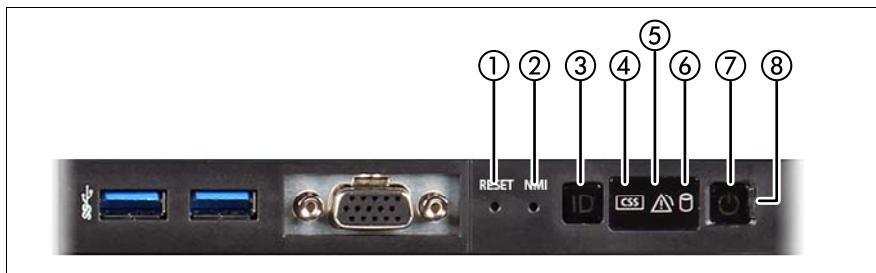


図 430: フロントパネルモジュールの表示ランプ

|   |                 |   |                   |
|---|-----------------|---|-------------------|
| 1 | リセットボタン         | 5 | 保守ランプ             |
| 2 | NMI ボタン         | 6 | HDD/SSD アクセス表示ランプ |
| 3 | ID ボタン / ID ランプ | 7 | 電源ボタン / 電源表示ランプ   |
| 4 | CSS 表示ランプ       | 8 | AC 接続表示ランプ        |

**i** ボタンの意味は、対応するオペレーションマニュアルに記載されています。

## 保守ランプ

| 位置 | マーク | 表示ランプ             | ステータス    | 説明  |
|----|-----|-------------------|----------|---|
| 3  | ID  | ID ランプ            | 青色の点灯    | 簡単に識別できるように、ServerView Operations Manager、iRMC Web フロントエンドまたはフロントパネルの ID ボタンを使用してサーバが強調表示される              |
|    |     |                   | 青色の点滅    | iRMC (AVR) を使用してローカル VGA がオフの時に、そのサーバを簡単に識別できるよう青色点滅で強調表示します。   |
| 4  | CSS | CSS 表示ランプ         | オフ       | 重大なイベントなし (CSS コンポーネント)   |
|    |     |                   | オレンジ色の点灯 | 故障前に予兆を検出した (CSS コンポーネント)   |
|    |     |                   | オレンジ色の点滅 | CSS コンポーネントの故障  |
| 5  | !   | 保守ランプ             | オフ       | 重大なイベントなし (CSS コンポーネント以外)   |
|    |     |                   | オレンジ色の点灯 | 故障前に予兆を検出した (CSS コンポーネント以外)   |
|    |     |                   | オレンジ色の点滅 | CSS コンポーネント以外の故障<br>故障の考えられる原因：<br>- センサーの 1 つで温度異常が検知された<br>- センサーの故障<br>- CPU エラー<br>- ソフトウェアでエラーが検出された |
| 6  |     | HDD/SSD アクセス表示ランプ | 緑色の点灯    | データアクセス中  |

| 位置 | マーク   | 表示ランプ      | ステータス              | 説明  |
|----|---|------------|--------------------|---|
| 7  |  | 電源表示ランプ    | オフ                 | 以下の場合はオフ：<br>– システムの電源がオフで、電源に接続されている(AC 接続)  |
|    |   |            | 緑色の点灯              | 以下の場合はオン：<br>– システムの電源が投入されていてパワーオンディレーになっている<br>– システムの電源が投入され、通常動作中(S0)   |
|    |   |            | ゆっくり点滅<br>(1/2 Hz) | iRMC S4 の準備が完了していない   |
| 8  |   | AC 接続表示ランプ | 緑色の点灯              | 以下の場合はオン：<br>– システムの電源がオフで、電源に接続されている(AC 接続)<br>– システムの電源が投入されていてパワーオンディレーになっている<br> サーバを主電源に接続した後、サーバがスタンバイモードになるまで約 60 秒かかります。 |
|    |   |            | オフ                 | 以下の場合はオフ：<br>– システムが電源に接続されていない<br>– システムの電源が投入され、通常動作中(S0)   |

## iRMC 関連のステータス信号

| ID ランプ | 保守ランプ    | 説明   |
|--------|----------|--|
| 青色の点滅  | オフ       | iRMC (AVR) によるリモート接続が確立されました。リモートセッション中にローカル VGA 出力が無効にされています。             |
| 青色の点滅  | オレンジ色の点滅 | iRMC フームウェアの緊急フラッシュが進行中です。 <a href="#">115ページの「iRMC のアップデートまたはリカバリ」を参照</a> |

## 17.2.3 アクセス可能なドライブの表示ランプ/コンポーネント

## ODD アクセス表示ランプ



図 431: 光ディスクドライブのランプ

| 位置 | 表示ランプ     | ステータス       | 説明                                 |
|----|-----------|-------------|------------------------------------|
| 1  | アクセス表示ランプ | オフ<br>緑色の点灯 | 光ディスクドライブ非アクティブ<br>ストレージメディアにアクセス中 |



システム構成によって異なり、アクセス表示ランプ、インストールされない場合があります。

## ホットプラグ HDD/SSD モジュールの表示ランプ

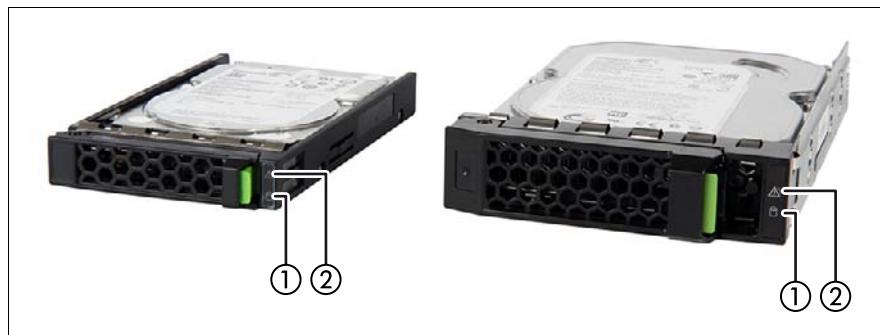


図 432: ホットプラグ HDD/SSD モジュールの表示ランプ

| 位置 | 表示ランプ            | ステータス                | 説明   |
|----|------------------|----------------------|--|
| 1  | HDD/SSD<br>BUSY  | オフ                   | HDD/SSD が非アクティブ  |
|    |                  | 緑色の点灯                | 点灯 : HDD / SSD がアクティブ（ドライブがアクティブ、ドライブにアクセス中）   |
| 2  | HDD/SSD<br>FAULT | オフ                   | HDD/SSD エラーなし  |
|    |                  | オレンジ色<br>の点灯         | HDD/SSD 故障またはリビルドの停止<br>(ドライブ不良のため交換が必要、リビルドプロセスが停止した、または HDD/SSD モジュールが正しく取り付けられていない) |
|    |                  | オレンジ色<br>のゆっくり<br>点滅 | HDD / SSD リビルド (ドライブ変更後にデータをリストア中)   |

## 17.3 ジャンパ設定

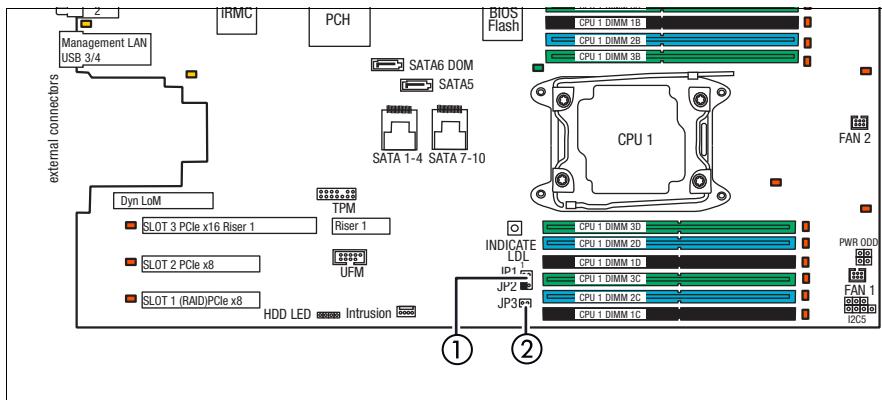


図 433: システムボード D3289 のジャンパ設定

|   | 設定      |                     | ステータス | 説明                                |
|---|---------|---------------------|-------|-----------------------------------|
| 1 | Default |                     |       | パスワード照会が有効、リカバリ BIOS オプションが無効     |
|   | JP1     | PWD CLR             |       | パスワードの省略が有効<br>パスワード照会は完全に省略されます。 |
|   | JP2     | BIOS-RCVR           |       | リカバリ BIOS が有効                     |
| 2 | JP3     | Default             |       | Default                           |
|   |         | BIOS Flash Write 保護 |       | BIOS フラッシュ書き込み保護が有効               |

## 17.4 最小起動構成



### フィールド交換可能ユニット (FRU)

サーバが起動しなかったり、その他の問題が発生する場合は、故障しているコンポーネントを切り離すために、システムを最も基本的な構成にする必要があります。

最小起動構成は、次のコンポーネントとケーブルから構成されます。

| 部品                   | 注記  |
|----------------------|---|
| システムボード              | TPM、UFM、拡張カード、DynamicLoM モジュールが取り付けられていない |
| CPU ヒートシンク付き CPU x 1 | CPU 1 ソケットに取り付けられている                      |
| メモリモジュール x1          | DIMM スロット 1A に取り付けられている                   |
| フロントパネルモジュール         | 接続された USB 3.0 および前面 VGA はない               |
| 電源モジュール x 1          | PSU ベイ 1 に取り付けられている                       |

表 6: 最小起動構成 - コンポーネント

| ケーブル        | 注記              |
|-------------|-----------------|
| フロントパネルケーブル | システムボードに接続されている |
| 電源ケーブル      |                 |

表 7: 最小起動構成 - ケーブル

- ▶ [56 ページ の「サーバのシャットダウン」](#) の項に記載されているように、サーバをシャットダウンします。
- ▶ [57 ページ の「電源コードの取り外し」](#) の項に記載されているように、AC 電源ケーブルを PSU ケーブルブラケットから取り外して、システムから抜きます。
- ▶ システムを最小起動構成にします。
- ▶ [84 ページ の「電源コードの接続」](#) の項に記載されているように、AC 電源コードを電源ユニットに再び接続し、PSU ケーブルブラケットで固定します。

- ▶ キーボード、マウス、ディスプレイをサーバに接続します。
- ▶ [87 ページ の「サーバの電源投入」](#) の項に記載されているように、サーバの電源を入れます。



### 注意！

ファンモジュールが最小起動構成に含まれていないため、診断プロセスの完了後、直ちにサーバをシャットダウンする必要があります（POST フェーズは通過済み）。

最小起動構成は、保守担当者が診断目的のみに使用するものであり、日々の運用では使用しないでください。

## 付録